

茨城県教育財団文化財調査報告第248集

いぬ だ じん じゃ まえ
犬田神社前遺跡 2

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書 X

上 卷

平成 17 年 3 月

日 本 道 路 公 団
財団法人 茨城県教育財団



犬田神社前遺跡遠景（北方向から）



第4・5号掘立柱建物跡完掘状況

序

茨城県は、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めております。北関東自動車道建設事業も、その目的に添って計画されたものであります。

このたび、日本道路公団は、岩瀬町犬田地区において、北関東自動車道（協和～友部）建設事業を計画いたしました。この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である犬田神社前遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、日本道路公団から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成15年4月から平成15年12月まで発掘調査を実施しました。

本書は、犬田神社前遺跡の調査成果を収録したものです。本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である日本道路公団から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、岩瀬町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成17年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

- 1 本書は、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成15年度に発掘調査を実施した、西茨城郡岩瀬町大字犬田字根ノ下341番地ほかに所在する犬田神社前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
調査 平成15年4月1日～平成15年12月31日
整理 平成16年4月1日～平成17年3月31日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼調査課第3班長 村上 和彦 平成15年4月1日～平成15年12月31日
首席調査員 山口 厚 平成15年5月1日～平成15年9月30日
主任調査員 島田 和宏 平成15年4月1日～平成15年4月30日
平成15年7月1日～平成15年11月30日
主任調査員 鴨志田祐一 平成15年5月1日～平成15年12月31日
主任調査員 石川 義信 平成15年4月1日～平成15年5月31日
主任調査員 荒蒔克一郎 平成15年4月1日～平成15年4月30日
調査員 早川 麗司 平成15年4月1日～平成15年4月30日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長鶴見貞雄のもと、主任調査員鴨志田祐一、調査員早川麗司が担当した。執筆分担は、以下の通りである。
鴨志田 第2章、第3章第1節～第2節、第3節3～5・6（1・3～9）、第4節2・3
早川 第1章、第3章第3節1・2・6（1・2・9）、第4節1
- 5 銅鏡の分析は株式会社吉田生物研究所に依頼した。成果は付章として巻末に掲載した。
- 6 本書を作成するにあたり、陶磁器の生産地分類及び生産年代の鑑定は株式会社日本窯業史研究所主任研究員河野一也氏に、須恵器の胎土分析及び石器・石製品の石材鑑定はミュージアムパーク茨城県自然博物館副主任学芸員小池渉氏に、犬田村の名主については下館市立養蚕小学校教頭仙波亨氏に御指導いただいた。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X軸=+38,880m、Y軸=+24,080mの交点を基準点(A 1a1)とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらにこの大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1区」、「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠し「A 1a1区」、「B 2b2区」のように呼称した。

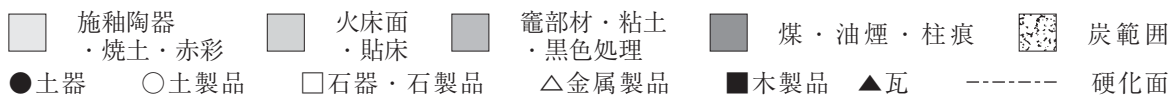
2 抄録の北緯および東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を()を付して併記した。

3 本文・全測図・実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 S I—住居跡 S B—掘立柱建物跡 S H—方形竪穴遺構 U P—地下式坑 S E—井戸跡
S K—土坑・墓墳 S D—溝跡 S F—道路跡 S A—柵跡 S X—不明遺構 P G—ピット群
P—柱穴 K—攪乱
遺物 P—土器 T P—拓本記録土器 D P—土製品 Q—石器・石製品 M—金属製品・古銭・鉄滓
T—瓦 W—木製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構及び遺物の実測図中の表示は次の通りである。



6 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は300分の1、遺構は30分の1、40分の1、60分の1、80分の1に縮尺して掲載した。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、その場合は個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 文字資料のうち、焼成前に線刻されたものを「ヘラ書き」、焼成後に線刻されたものを「刻書」と分けて記述した。

7 「主軸方向」は、竪穴住居跡については炉または竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸と見なした。「主軸・長径方向」は、主軸・長径が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例 N-10°-E)

8 遺物観察表の表記は次のとおりである。

(1) 現存値は()で、推定値は[]を付して示した。計測値の単位はm、cm、gで示した。

(2) 遺物観察表の備考欄は、残存率や写真図版番号等、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器・拓本のみ掲載の土器片、土製品、石製品、金属製品、木製品ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号は同一とした。

9 整理時に遺構名称・番号を変更した場合、旧遺構名称・番号を()を付して併記した。

抄 録

| | | | | | | | | |
|-------------------------|---|--------------------|--|--|----------------|---|------------------------|---------------------------|
| ふりがな | いぬだじんじゃまえいせきに | | | | | | | |
| 書名 | 犬田神社前遺跡2 | | | | | | | |
| 副書名 | 北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| 巻次 | X | | | | | | | |
| シリーズ名 | 茨城県教育財団文化財調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第248集 | | | | | | | |
| 著者名 | 鴨志田祐一 早川 麗司 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 茨城県教育財団 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029-(225)-6587 | | | | | | | |
| 発行機関 | 財団法人 茨城県教育財団 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029-(225)-6587 | | | | | | | |
| 発行日 | 2005（平成17）年3月25日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | 北緯 | 東経 | 標高 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| いぬだじんじゃまえいせき 犬田神社前遺跡 | いぼらきけんにいぼらきぐん 茨城県西茨城郡 いわせまちおおあざいぬだ 岩瀬町大字犬田 あざねのしたばんち 字根ノ下341番地の1 ほか | 08324 - 086 | 36度20 分58秒 (36度 21分 09秒) | 140度06 分11秒 (140度 06分 11秒) | 48 ～ 55m | 20030401 ～ 20031231 | 6,449.03m ² | 北関東自動車道（協和～友部）建設事業に伴う事前調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 犬田神社前遺跡 | 集落跡 墓地跡 | 弥生 | 竪穴住居跡 | 9軒 | 弥生土器（高坏・壺） | 弥生時代後期から近世にかけての複合遺跡である。古墳時代後期では、銅鏡が出土したり、多量の須恵器と土師器が投棄された住居跡が確認されている。奈良時代の住居跡からは帯金具の一部である鉸具が出土している。中世では、多数の方形竪穴遺構が確認されている。近世前半では、断面形が箱葉研状の溝跡6条の内側に数棟の掘立柱建物跡が確認された。また、多くの土坑が確認されている。 | | |
| | | 古墳 | 竪穴住居跡 | 32軒 | 土師器（坏・椀・器台・ | | | |
| | 奈良 | 方形竪穴遺構 | 9基 | 埴・高坏・鉢・甕・甑） | | | | |
| | | 土坑 | 1基 | 須恵器（坏） | | | | |
| | 平安 | 溝跡 | 1条 | 金属製品（銅鏡） | | | | |
| | | 竪穴住居跡 | 11軒 | 土師器（坏・甕・甑） | | | | |
| 中世・近世 | 奈良 | 須恵器（坏・高台付坏・蓋・甕） | 金属製品（刀子・鉸具） | | | | | |
| | | 土師器（小皿・坏・高台付椀・甕・甑） | | | | | | |
| | 平安 | 須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・甕） | 土師器（小皿・坏・高台付椀・甕・甑） | | | | | |
| | | 土師器（小皿・坏・高台付椀・甕・甑） | | | | | | |
| | 中世・近世 | 掘立柱建物跡 | 13棟 | 土器質土器（小皿・内耳鍋・焙烙） | | | | |
| | | 方形竪穴遺構 | 16基 | 瓦質土器（香炉・火舎・播鉢） | | | | |
| | | 地下式坑 | 1基 | 陶器（丸碗・天目茶碗・丸皿・輪禿皿・端反皿・折縁皿・菊皿・卸皿・直縁大皿・播鉢・片口鉢） | | | | |
| | | 火葬土坑 | 5基 | 磁器（猪口） | | | | |
| | | 土壙墓 | 5基 | 青磁（輪花小鉢・折縁鉢） | | | | |
| | | 井戸跡 | 11基 | 白磁（碗） | | | | |
| その他 | 土坑 | 20基 | | | | | | |
| | 土坑群 | 1か所 | | | | | | |
| | 溝跡 | 12条 | | | | | | |
| | 道路跡 | 1条 | | | | | | |
| | 不明遺構 | 1基 | | | | | | |
| | その他 | 竪穴住居跡 | 11棟 | 土師器（坏・甕・甑・鉢） | | | | |
| 方形竪穴遺構 | 3基 | 須恵器（高台付坏・蓋） | | | | | | |
| 土壙墓 | 3基 | 土器質土器（小皿・内耳鍋） | | | | | | |
| 井戸跡 | 10基 | 陶器（丸碗・灰落し） | | | | | | |
| 土坑 | 495基 | | | | | | | |
| 溝跡 | 1条 | | | | | | | |
| 柵跡 | 1列 | | | | | | | |
| ピット群 | 8か所 | | | | | | | |

目 次

— 上 卷 —

序
例言
凡例
抄録
目次

| | |
|--------------|-----|
| 第1章 調査経緯 | 1 |
| 第1節 調査に至る経過 | 1 |
| 第2節 調査経過 | 1 |
| 第2章 位置と環境 | 3 |
| 第1節 地理的環境 | 3 |
| 第2節 歴史的環境 | 3 |
| 第3章 調査の成果 | 9 |
| 第1節 調査の概要 | 9 |
| 第2節 基本層序 | 9 |
| 第3節 遺構と遺物 | 11 |
| 1 弥生時代の遺構と遺物 | 11 |
| (1) 竪穴住居跡 | 11 |
| (2) 土坑 | 44 |
| 2 古墳時代の遺構と遺物 | 47 |
| (1) 竪穴住居跡 | 47 |
| (2) 方形竪穴遺構 | 148 |
| (3) 土坑 | 157 |
| 3 奈良時代の遺構と遺物 | 161 |
| 竪穴住居跡 | 161 |
| 4 平安時代の遺構と遺物 | 190 |
| (1) 竪穴住居跡 | 190 |
| (2) 井戸跡 | 266 |
| (3) 土坑 | 267 |
| 5 中・近世の遺構と遺物 | 275 |
| (1) 掘立柱建物跡 | 275 |
| (2) 方形竪穴遺構 | 294 |
| (3) 地下式坑 | 312 |
| (4) 火葬土坑 | 313 |
| (5) 土壙墓 | 318 |
| (6) 井戸跡 | 323 |

— 下 卷 —

| | |
|---------------------------|-----|
| (7) 土坑 | 335 |
| (8) 土坑群 | 358 |
| (9) 溝跡 | 372 |
| (10) 道路跡 | 403 |
| (11) 不明遺構 | 405 |
| 6 その他の遺構と遺物 | 407 |
| (1) 竪穴住居跡 | 407 |
| (2) 方形竪穴遺構 | 418 |
| (3) 土壙墓 | 423 |
| (4) 井戸跡 | 425 |
| (5) 土坑 | 430 |
| (6) 溝跡 | 474 |
| (7) 柵跡 | 475 |
| (8) ビット群 | 475 |
| (9) 遺構外出土遺物 | 493 |
| 第4節 まとめ | 502 |
| 付章 犬田神社前遺跡出土銅鏡の保存処理及び分析結果 | 545 |
| 写真図版 | |
| 付図 | |

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

日本道路公団は、常陸那珂港と北関東の各主要都市を結ぶ北関東自動車道の早期開通をめざしている。

平成10年11月4日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、北関東自動車道建設地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成10年12月15日～18日に現地踏査を、平成12年12月14、15日に試掘調査を実施し、犬田神社前遺跡の所在を確認した。平成13年1月17日、茨城県教育委員会教育長は日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに事業地内に犬田神社前遺跡が所在する旨回答した。

平成13年3月26日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成13年3月27日、日本道路公団あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

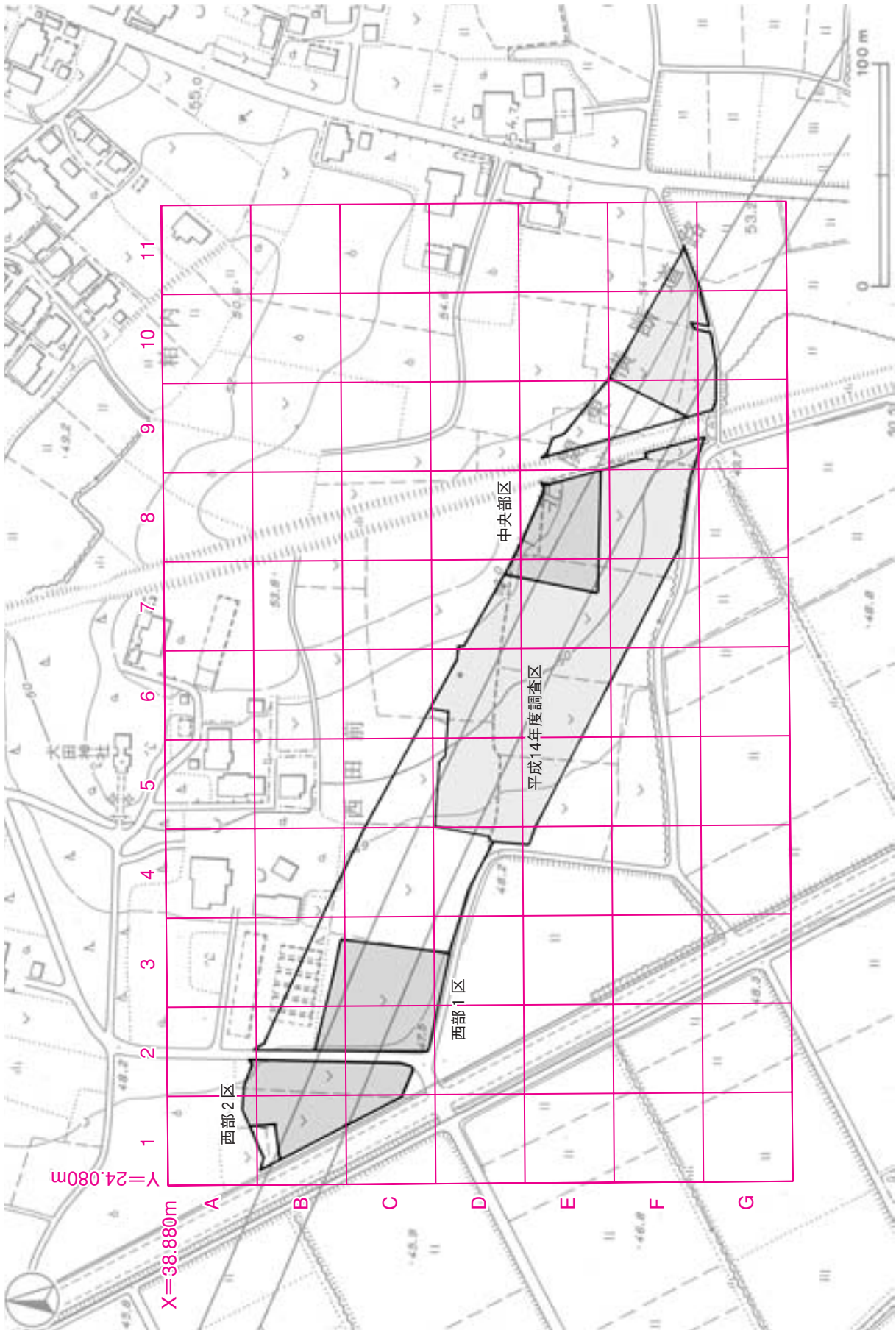
平成13年3月28日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、北関東自動車道建設に関わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成13年3月28日、茨城県教育委員会委員長は、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに、犬田神社前遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、日本道路公団から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成14年4月1日から犬田神社前遺跡の発掘調査を開始し、そのうち今回報告する分は平成15年4月1日から平成15年12月31日まで発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

調査は、平成15年4月1日から平成15年12月31日まで実施した。その概要を表で記載する。

| 期 間 工程 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 調査準備 表土除去 遺構確認 | ■ | ■ | | | | | | | |
| 遺構調査 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 遺物洗浄 注記作業 写真整理 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 補足調査 撤収 | | | | | | | | | ■ |



第1図 犬田神社前遺跡調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

犬田神社前遺跡は、茨城県西茨城郡岩瀬町大字犬田字中根ノ下341番地の1ほかに所在している。

岩瀬町は茨城県の西部に位置し、北に富谷山、雨巻山、高峰山、東に羽黒山、南に加波山、雨引山があり、三方を丘陵性の山地で取り囲まれた盆地をなしている。また、町の北東部に位置する鋤柄峠の山間、鏡ヶ池に源を發する桜川は町の中央部を東西に貫流し、その支流域を含め平地となっている。

当町を取り囲んでいる八溝山系は、八溝山塊、鷲の子山塊、鶏足山塊、筑波山塊から成り立っている。これらの山塊の地質は、古・中生代の地向斜に堆積した地層とこれを貫く花崗岩類からできている。台地の大部分は関東ローム層に厚くおおわれており、上層は赤土と呼ばれる鹿沼軽石を含む火山灰が堆積したものである。また、水田に利用されている桜川流域一帯などは、河川の浸食・堆積作用による沖積地である¹⁾。

犬田神社前遺跡は岩瀬町南部の犬田地区にあり、盆地の外縁部で低地に低く張り出した標高48~54mの台地上に立地している。調査前の現況は畑地である。

第2節 歴史的環境

岩瀬町内では、現在までに90遺跡が確認されている²⁾。当遺跡周辺の桜川及びその支流域の台地上には縄文時代から中世にかけての遺跡が多く分布し、低地を南西に臨む丘陵上には古墳が数多く存在している。

犬田神社前遺跡では、縄文時代から近世にかけての遺構が確認されている³⁾。ここでは、当遺跡と同時代の遺跡分布の概要と歴史的環境を述べることにする。

縄文時代には、桜川流域の沖積地から入り込む支谷に面した台地の縁辺部に、集落が形成されるようになる。遺跡は町東部に多く、長辺寺遺跡〈24〉、防人遺跡〈8〉、裏山遺跡⁴⁾〈28〉などが知られている。当遺跡からも、住居跡6軒、土抗10基が確認されている⁵⁾。

弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡と同じ台地上に多く分布している。これまでに盆地北部の大泉地区から中期の特徴を持つ細頸壺形土器と筒形土器が出土している⁶⁾。また、調査により、町城南東部では高幡遺跡⁷⁾〈3〉、松田古墳群⁸⁾〈5〉、町域西部では辰海道遺跡⁹⁾〈11〉、当向遺跡¹⁰⁾〈16〉などから後期の住居跡が確認されており、当遺跡とともに弥生時代の集落分布が明らかになりつつある。

古墳時代になると、遺跡数は古墳を中心に増加の傾向を見せるようになる。現在までの分布調査によると古墳群は46か所となり、古墳の総数は170基を超えている¹¹⁾。また、隣接する大和村では、桜川流域に沿って7か所の古墳群と4基の古墳が確認されている¹²⁾。これらの古墳群や古墳は、桜川流域の沖積地に臨む丘陵上に位置している。狐塚古墳¹³⁾〈22〉は当遺跡の北北東約2kmの長辺寺山西裾に所在する前方後円墳¹³⁾で、昭和42年に工場建設のために緊急調査が実施された。また、標高130mの長辺寺山山頂には、長辺寺山古墳¹⁴⁾〈25〉が所在している。この古墳は未調査であるが、全長約120mで前方部を南東に向けて築造された旧新治国東部地方における最大規模の前方後円墳である。さらに、採集された埴輪片の検討から、古墳時代初期の様相を示すとされている¹⁴⁾。この二つの古墳は、岩瀬盆地のほぼ中央の独立丘陵上に築造されている。松田古墳群の第1号墳（前方後円墳）からは銅釧や銅鏡が出土し¹⁵⁾、花園古墳群の第3号墳（方墳）からは彩色壁画を有する横穴

式石室が発見されている¹⁶⁾。

古墳時代の集落遺跡は、14か所¹⁷⁾で古墳群の数と比べると少ない。当遺跡をはじめ、辰海道遺跡¹⁸⁾、金谷遺跡¹⁹⁾〈17〉、当向遺跡²⁰⁾は、調査によって古墳時代から平安時代まで続く比較的大きな集落であったことが確認されている。特に、辰海道遺跡においては、長さ南北70m以上、東西50m以上の濠が確認されており、古墳時代の豪族居館に関わるものと考えられている²¹⁾。

大化改新後、律令国家の成立と地方の国郡制の整備に伴い、岩瀬地区は新治評に編入されることとなる。さらに、白雉4年(653)、新治評は新治、白壁の二評に分けられ、当地は白壁評(真壁郡に改称は延暦3年(784))に編入されることとなる。真壁郡については郡衙の所在地が不明であるが、郡寺関連遺跡として真壁町の山尾権現山廃寺、下谷貝長者池遺跡、源法寺廃寺などが確認されている²²⁾。また、隣接する新治郡の関連遺跡としては、協和町古郡地区に新治郡衙跡〈13〉や新治廃寺〈14〉があり、さらに、上野原瓦窯跡〈12〉、本郷瓦塚遺跡〈15〉、近接する下野国の益子町西山・本沼窯跡²³⁾〈20〉などと共に多くの須恵器を供給している堀の内古窯跡群〈19〉が確認されている。奈良・平安時代の周知の集落遺跡は5か所と少ないが²⁴⁾、近年の発掘調査により該期の集落分布が明らかになりつつある。当向遺跡からは、腰帶具や硯など官衙関連の遺物や多くの掘立柱建物跡及び住居跡が確認されている²⁵⁾。当遺跡からも住居跡は多く確認されている²⁶⁾。

律令体制が衰退すると各地で荘園が形成され、岩瀬地域でも、天慶2年(939)の平将門の乱後、その討伐に功労のあった平貞盛の子孫が筑波山西南麓を拠点に真壁、筑波、新治の三郡を勢力下に置くようになる。このような状況の中で、岩瀬地方は「中郡」と呼ばれ、摂関藤原氏を本宗とする大中臣氏姓中郡氏が台頭してくる。平安時代末期になると、在地領主となった中郡氏は後白河法皇によって創建された京都の蓮華王院へその所領である中郡を寄進し、中郡荘(庄)と呼ばれるようになる。中郡氏はその下司職となり、在地領主として確固たる地位を確保し発展していった²⁷⁾。しかし、中郡氏の居館跡には諸説があり、明らかにされていない。

鎌倉時代以降、当地域の領主は目まぐるしく代わる。鎌倉時代に中郡氏は中郡庄の地頭となるが、その後地頭職を没収され、鎌倉幕府の有力御家人である安達義景が地頭職を継いでいる。さらに、霜月騒動(1285年)後、安達氏の中郡領有は、北条得宗家にとって代わられるようになる。北条氏滅亡後は、足利幕府の幕府御料所(直轄領)となっている。中郡城は、足利方の小山氏の代官が守備していたが、延元3年(1338)、南朝方の北畠顕時(顕国)によって陥落され、興国4年(1343)まで南朝方が支配していたこともある。その後、幕府の財政を主管している伊勢氏が預かり、総代官として太田五郎左衛門を派遣していた。さらに応永27年(1420)には、中郡荘(庄)犬田郷は鎌倉法花堂領となっている。当遺跡の東に位置している橋本城〈7〉は、伊勢氏の城で、応永12年(1405)に居を構えたのが最初とされている。また、応永年間(1394~1427)には、芳賀氏の流れをくむ小宅高国によって、坂戸山(海拔219m)に坂戸城〈18〉が築かれている。応永29年(1422)には坂戸合戦があり、鎌倉公方方の宍戸城主宍戸持朝との間に戦いがあった。嘉吉元年(1441)には結城合戦があり、その後も当地域には、佐竹氏、宍戸氏、芳賀氏、多賀谷氏、小田氏、小山氏、結城氏、真壁氏、笠間氏、宇都宮氏などの諸氏が勢力拡大のために盛んに進出を繰り返している。応仁の乱後、当地域は結城氏の統治下となり、結城氏の代官である水谷氏が中郡地方を禁裡御料所としている。それらの動乱により、上記の城跡の他に、南北朝時代の中郡城といわれている羽黒山城、結城氏の家臣加藤大隅守が築いた富谷城〈21〉をはじめ、富岡城〈10〉、岩瀬城〈23〉、門毛城〈26〉などの多くの城館が築かれることになる。

中世から近世にかけての集落跡は確認されていなかったが、近年の発掘調査により中世から近世にかけての集落の様相も明らかになりつつある。当遺跡からは、中世から近世初頭に比定されている溝が18条も確認されており²⁸⁾、それらの動乱から館を防御する役割を担っていたものと考えられる。また、本遺跡から南南東に約

0.5kmの位置にある犬田山神古墳〈9〉でも、中世に比定される上幅約4mの溝が確認されている²⁹⁾。金谷遺跡からは、中世に比定されている鋳造関連遺構が確認されている³⁰⁾。

戦国末期、当地域は宇都宮藩に支配されていたが、慶長6年(1601)に笠間藩の支配下に入った。笠間藩草創期の領主は頻繁に代わったが、延享4年(1747)に牧野貞通が入封すると、廃藩まで牧野氏が藩主として治めた。元和6年(1620)の犬田の検地帳によれば、主作地及び分付地をもった有力農民である八家(藤兵衛、五兵衛、新太郎、五郎兵衛、九兵衛、惣左衛門、左京之助、主水)が村内農地の80%を保有していたことになっている。また、当時の岩瀬の村々には受領名、官途名、名字をもった農民が多数存在している³¹⁾。

※文中の〈 〉内の番号は、第2図及び周辺遺跡一覧表の該当番号と同じである。

註

- 1) 本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名表編)(地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 榊雅彦・石川武志「犬田神社前遺跡1 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団調査報告』第229集 茨城県教育財団 2004年3月
- 4) 黒沢秀雄「一般道路西小埜真岡線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 裏山遺跡」『茨城県教育財団調査報告』第73集 茨城県教育財団 1992年3月
- 5) 註3) に同じ
- 6) 茨城県史編集会『茨城県資料 考古資料編 弥生時代』茨城県 1991年3月
- 7) 横倉要次・早川麗司・越田真太郎「高幡遺跡, 加茂東遺跡, 犬田山神古墳 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団調査報告』第228集 茨城県教育財団 2004年3月
- 8) 横倉要次「松田古墳群 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団調査報告』第226集 茨城県教育財団 2004年3月
- 9) 仲村浩一郎・後藤一成・宮田和男・芳賀 友博・鴨志田祐一「辰海道遺跡1 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団調査報告』第222集 茨城県教育財団 2004年3月
- 10) 小澤重雄・小野克敏「当向遺跡1 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団調査報告』第224集 茨城県教育財団 2004年3月
- 11) 註2) に同じ
- 12) 瓦吹 堅「岩瀬盆地考古学点描」『領域の研究-阿久津久先生還暦記念論集-』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年4月
- 13) 西宮一男『常陸狐塚古墳調査報告書』岩瀬町教育委員会 1969年4月
- 14) 大橋康夫・萩 悦久・水沼良浩「常陸長辺寺山古墳の円筒埴輪」『古代』第77号 早稲田大学考古学会 1984年6月
- 15) 註8) に同じ
- 16) 伊藤重敏・川崎純徳「花園壁画古墳(第3号墳)調査報告書」『岩瀬町文化財調査報告』第7集 岩瀬町教育委員会 1985年3月
- 17) 註2) に同じ
- 18) a註9) に同じ
b越田真太郎「辰海道遺跡2 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団調査報告』第223集 茨城県教育財団 2004年3月

- 19) 大塚雅昭・小松崎和治「金谷遺跡1 北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団調査報告』第225集 茨城県教育財団 2004年3月
- 20) 註3) に同じ
- 21) 註9) に同じ
- 22) 茨城県史編集委員会『茨城県史 原始古代編』茨城県 1986年3月
- 23) 栃木県教育委員会「栃木県生産遺跡分布調査報告書」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第89集 1988年3月
- 24) 寺門義範『岩瀬・間中 - 茨城県西茨城郡岩瀬・間中遺跡の発掘調査報告 - 』岩瀬町教育委員会 1976年5月
- 25) 註2) に同じ
- 26) 註10) に同じ
- 27) 註3) に同じ
- 28) 岩瀬町史編さん委員会『岩瀬町史 通史編』岩瀬町 1987年3月
- 29) 註3) に同じ
- 30) 註7) に同じ
- 31) 註19) に同じ
- 32) a註27) に同じ
b茨城地方史研究会編『茨城の歴史 県西編』茨城新聞社 2002年5月



第2図 犬田神社前遺跡周辺遺跡位置図（国土地理院「岩瀬・羽黒」） 1：25000使用

表1 犬田神社前遺跡周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 時代 | | | | | | | 番号 | 遺跡名 | 時代 | | | | | | |
|----|---------|-----|----|----|----|-------|----|----|----|----------|-----|----|----|----|-------|----|----|
| | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 中世 | 近世 | | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 中世 | 近世 |
| 1 | 犬田神社前遺跡 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 16 | 当向遺跡 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 加茂遺跡 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 17 | 金谷遺跡 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 高幡遺跡 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | 18 | 坂戸城跡 | | | | | | ○ | |
| 4 | 松田城跡 | | | | | | ○ | | 19 | 堀の内古窯跡群 | | | | | ○ | | |
| 5 | 松田古墳群 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | 20 | 西山・本沼窯跡群 | | | | | ○ | | |
| 6 | 花園古墳群 | | | | ○ | | | | 21 | 富谷城跡 | | | | | | ○ | |
| 7 | 橋本城跡 | | | | | | ○ | | 22 | 狐塚古墳 | | | | ○ | | | |
| 8 | 防人遺跡 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 23 | 岩瀬城跡 | | | | | | ○ | |
| 9 | 犬田山神古墳 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | 24 | 長辺寺遺跡 | | ○ | ○ | | | | |
| 10 | 富岡城跡 | | | | | | ○ | | 25 | 長辺寺山古墳 | | | | ○ | | | |
| 11 | 辰海道遺跡 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 26 | 門毛城跡 | | | | | | ○ | |
| 12 | 上野原瓦窯跡 | | | | | ○ | | | 27 | 間中遺跡 | | | | | ○ | | |
| 13 | 新治郡衙跡 | | | | | ○ | | | 28 | 裏山遺跡 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 14 | 新治廃寺 | | | | | ○ | | | 29 | 磯部遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 15 | 本郷瓦塚遺跡 | | | | | ○ | | | 30 | 磯部城跡 | | | | | | ○ | |

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

調査区を便宜上西部1・2区、中央部1～5区、東部区に分けた(第2図)。平成14年度の調査区は中央部1～4区、東部区とし、平成15年度の調査区は西部1・2区、中央部5区である。今回報告するのは、平成15年度に調査した西部1・2区と中央部5区の併せて6,449.03m²である。調査の結果、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明した。

今回の調査で確認された遺構は、弥生時代の竪穴住居跡9軒、土坑1基、古墳時代の竪穴住居跡32軒、方形竪穴遺構9基、土坑1基、溝跡1条、奈良の住居跡11軒、平安時代の住居跡45軒、井戸跡1基、土坑6基、中・近世の掘立柱建物跡13棟、方形竪穴遺構16基、地下式坑1基、火葬施設5基、土壙墓5基、井戸跡11基、土坑20基、土坑群1か所、溝跡12条、道路跡1条、不明遺構1基、時期不明の竪穴住居跡11軒、方形竪穴遺構3基、土壙墓3基、井戸跡10基、土坑364基、溝跡1条、柵跡1列、ピット群9か所である。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に140箱出土している。主な遺物としては、縄文土器(深鉢)、弥生土器(高坏・壺)、土師器(小皿・坏・高台付椀・器台・埴・高坏・甕・甑)、須恵器(坏・高台付坏・蓋・盤・高盤・甕)、灰釉陶器(皿・瓶)、緑釉陶器(碗)、土師質土器(小皿・内耳鍋)、瓦質土器(香炉・火舎・播鉢)、陶磁器(丸碗、天目茶碗・丸皿・輪禿皿・菊皿・卸皿・播鉢・片口鉢)、土製品(小玉球状土錘・紡錘車・勾玉・支脚・置き竈)、石器・石製品(石斧・敲石・砥石・白玉・模造品・紡錘車・五輪塔)、金属製品(銅鏡・刀子・釘・鉸具・古銭・煙管)などである。古墳時代の竪穴住居跡から出土した銅鏡は特筆される。

第2節 基本層序

調査区西部2区の北部(B 2 a2)と調査区中央部5区の北部(E 8 c4)にテストピットを設定し、基本層序の観察を行った(第3図)。

[調査区西部2区]

第1層は耕作土である。層厚は22～28cmである。

第2層は黒褐色土層である。ロームブロックを少量含み、粘性・締まりとも普通である。層厚は12～16cmである。

第3層は暗褐色のソフトローム層への漸移層である。赤色スコリアを微量含み、粘性は普通だが、締まりはやや強い。層厚は6～14cmである。

第4層は褐色のソフトローム層である。赤色スコリア、黒色スコリアを微量含み、粘性・締まりともやや強い。層厚は20～32cmである。

第5層は褐色のハードローム層への漸移層である。ガラス質粒子をわずかに含んでいるため、始良丹沢火山灰(AT)を含む層と考えられる。赤色スコリア・白色スコリアも微量含み、粘性・締まりとも強い。層厚は26～34cmである。

第6層は褐色のハードローム層である。第Ⅱ黒色帯に相当するものと考えられるが、分層はできなかつた。赤色スコリアを微量含み、粘性・縮まりとも強い。層厚は14～20cmである。

第7層は黄褐色のハードローム層である。鹿沼パミス（以下KPと略す）ブロックを中量含んでおり、KP層への漸移層と考えられる。粘性は普通だが、縮まりは強い。層厚は6～16cmである。

第8層は黄橙色のKP層である。赤色スコリアを微量含み、粘性は弱く、縮まりは強い。層厚は13～22cmである。

第9層は明黄褐色のKP層である。極めて粘性は弱く、縮まりは強い。層厚は30cm以上あるが、下層が未掘のため本来の厚さは不明である。

遺構は、第4層上面で確認できた。

[調査区中央部5区]

第1層は耕作土である。層厚は32～40cmである。

第2層は黄橙色のKP層である。粘性・縮まりとも普通である。層厚は16～22cmである。

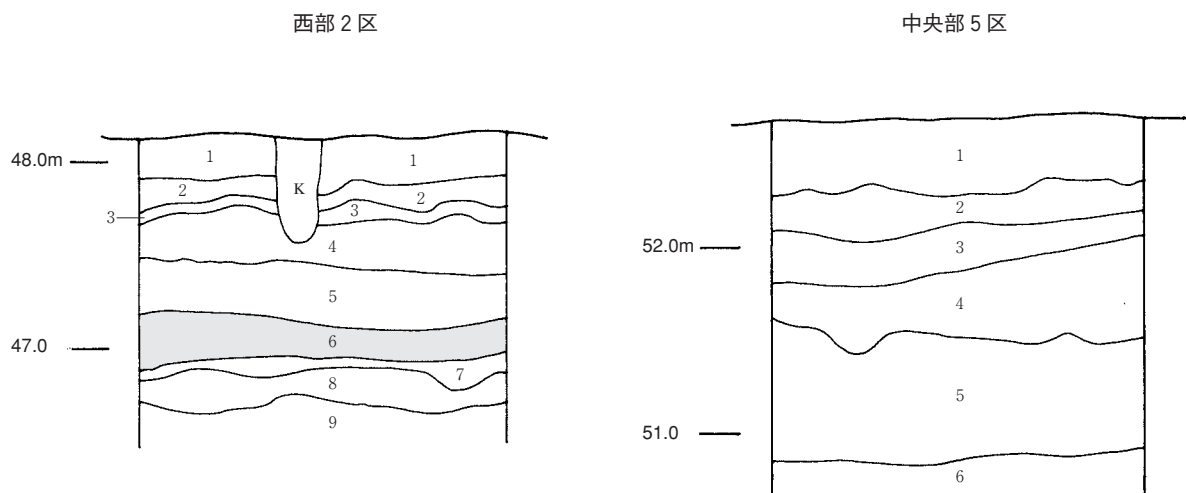
第3層は橙色のKP層である。赤色スコリアを微量含み、粘性・縮まりとも普通である。層厚は14～26cmである。

第4層は褐色のハードローム層である。赤色スコリアを微量含み、粘性・縮まりとも普通である。層厚は34～50cmである。

第5層は褐色のハードローム層である。粘性は普通で、縮まりは強い。層厚は58～62cmである。

第6層はにぶい褐色をした粘土層である。粘性は極めて強く、縮まりは普通である。層厚は10cm以上あるが、下層が未掘のため本来の厚さは不明である。

遺構は、第2層上面で確認できた。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 弥生時代の遺構と遺物

竪穴住居跡9軒と土坑1基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第134号住居跡 (第4・5図)

位置 西部1区北部のB2i0区で、平坦な台地上に位置している。

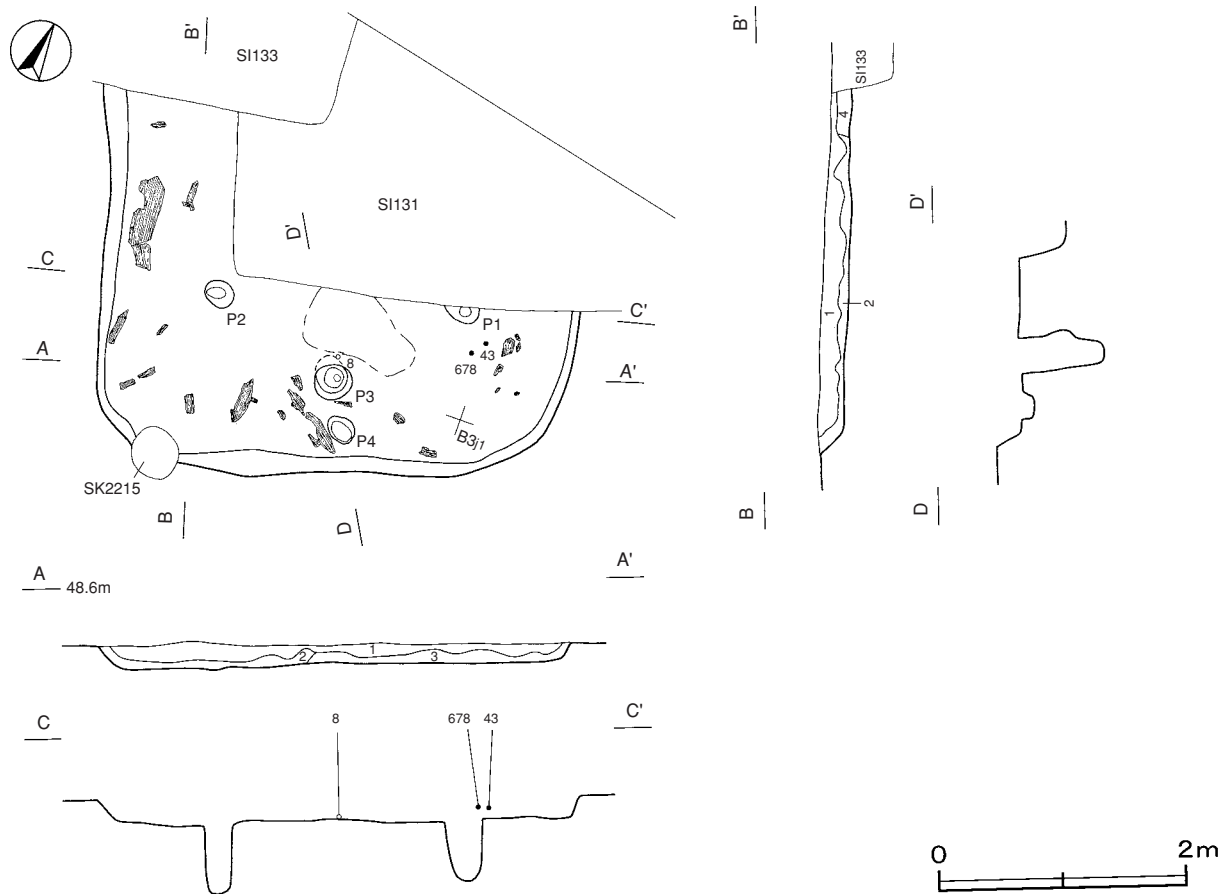
重複関係 第131・133号住居と第2215号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は3.87m、北壁側に遺構が重複しているため南北軸は2.90mだけが確認され、隅丸長方形または隅丸方形と推測される。P3を通る南北軸を主軸とすると、主軸方向はN-16°-Wと考えられる。壁高は10~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、P3の北側が踏み固められている。

ピット 4か所。P1・P2は深さが50~58cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P3・P4は深さ68cm・10cmで、南壁際の中央部で対になることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分層される。第2・3・4層はロームブロックを含んでいることやブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。その後、第1層が自然堆積したと考えられる。



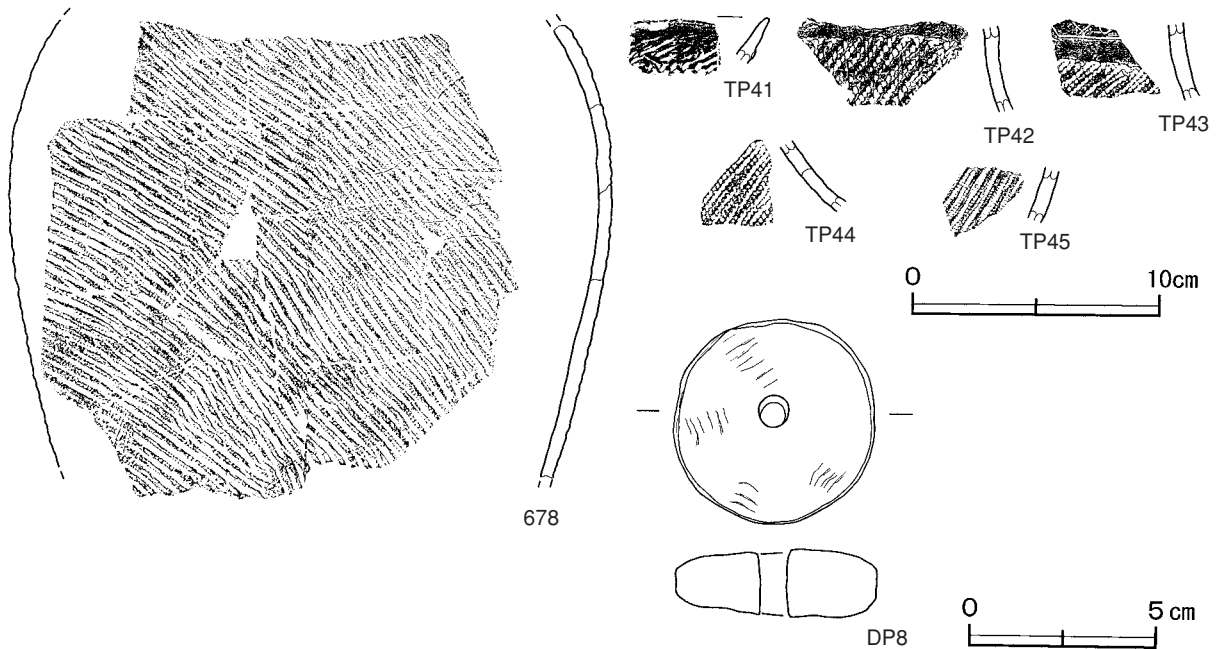
第4図 第134号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子多量

遺物出土状況 弥生土器片22点（口縁部片1，胴部片21），土製品1点（紡錘車），粘土塊が出土している。土器の大半は小破片であり，覆土下層を中心に出土している。678とTP43は東壁側の覆土下層から出土している。DP8は南壁側の床面から出土している。また，壁際の床面から炭化材が出土している。

所見 炭化材は丸棒状を呈しており，壁側から中央部に向かって放射状に50cm前後の間隔で並んでいることから，垂木の一部と考えられる。本跡は遺棄された遺物がないことから，住居廃絶時に意図的に燃やし，埋め戻したと推測される。床面から出土したDP8も火熱痕がないことから，廃棄されたものと思われる。廃絶時期は，出土土器から弥生時代後期と考えられる。



第5図 第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表（第5図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|----|--------|----|------------|------|----|-------------------|------|-----|
| 678 | 弥生土器 | 壺 | — | (18.2) | — | 石英・雲母少量・小礫 | におい橙 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土下層 | 15% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|----|----------|----|----|-------------------------------------|------|------|
| TP41 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 暗褐 | 普通 | 口縁部付加条一種（付加2条）縄文施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | PL85 |
| TP42 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 暗褐 | 普通 | 胴部付加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | PL85 |
| TP43 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 暗褐 | 普通 | 頸部単沈線による区画後斜格子文施文，胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土下層 | PL85 |
| TP44 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 暗褐 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP45 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 暗褐 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|------|-------|----|----|--------------------------------------|------|------|
| DP8 | 紡錘車 | 5.4 | 1.8 | 63.0 | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 孔径0.9cmで，孔周辺に最大厚を持つ円盤形孔から放射状に4条の爪形刺突 | 床面 | PL87 |

第142号住居跡 (第6・7図)

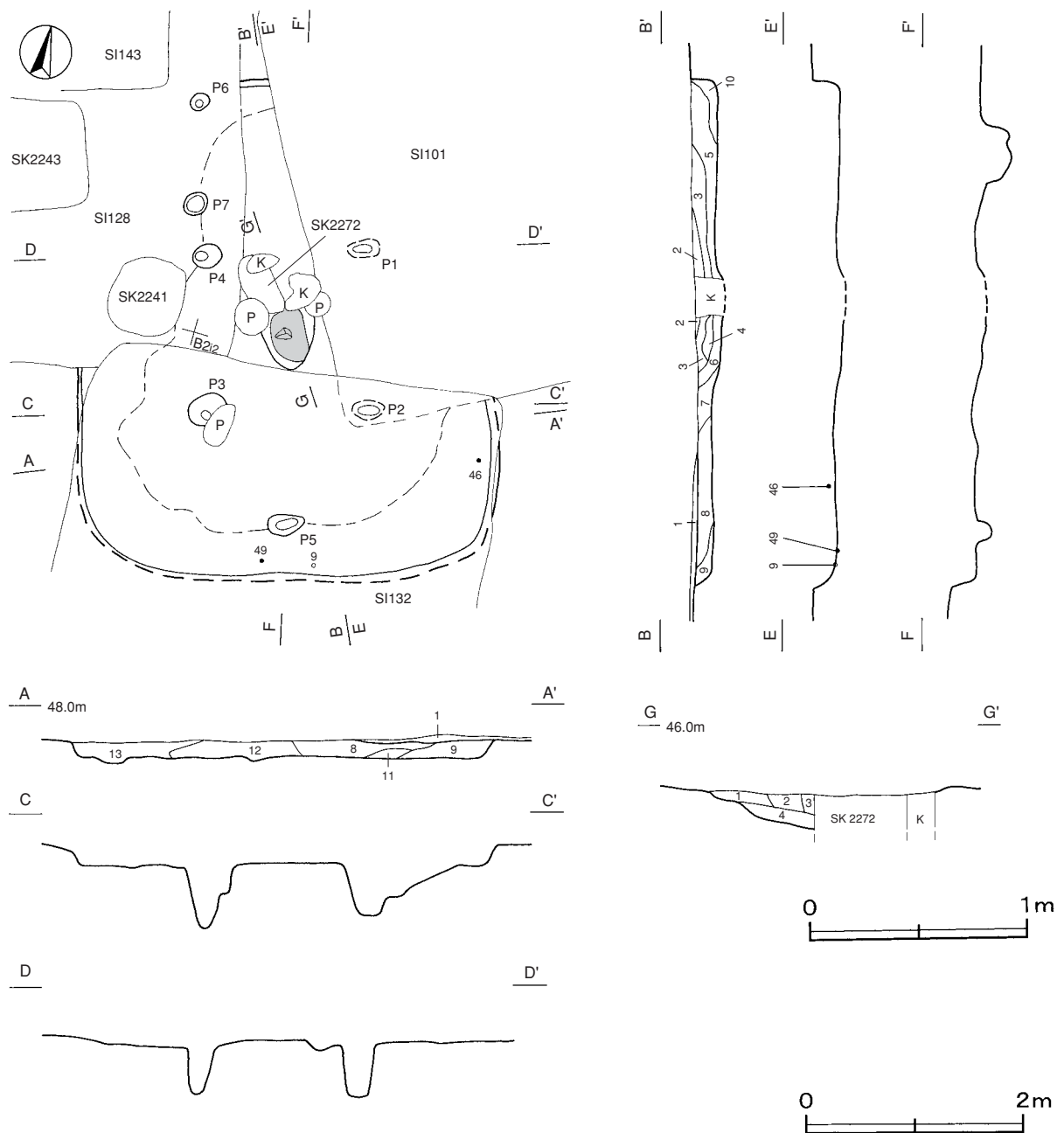
位置 西部2区東部のB 2 i2区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第101・128・132・143号住居と第2241・2243・2272号土坑とピット (3か所) に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.60m、短軸3.85mの隅丸長方形と考えられ、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は19~21cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められていたと推測される。

炉 中央部に付設されている。ピットや攪乱に壊されているため長径は55cmだけが確認され、短径は50cmの楕円形と推測される。床面を7~20cm掘りくぼめた地床炉である。炉石は住居の主軸方向に直交して炉床面に置かれており、炉床面が赤変硬化している。



第6図 第142号住居跡実測図

炉土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------|--------|-------------------|
| 1 におい褐色 | ローム粒子多量 | 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |

ピット 7か所。P 1～P 4は深さが10～56cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P 5は深さが13cmで、南壁際の中央部にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7は深さが10～24cmで、性格は不明である。

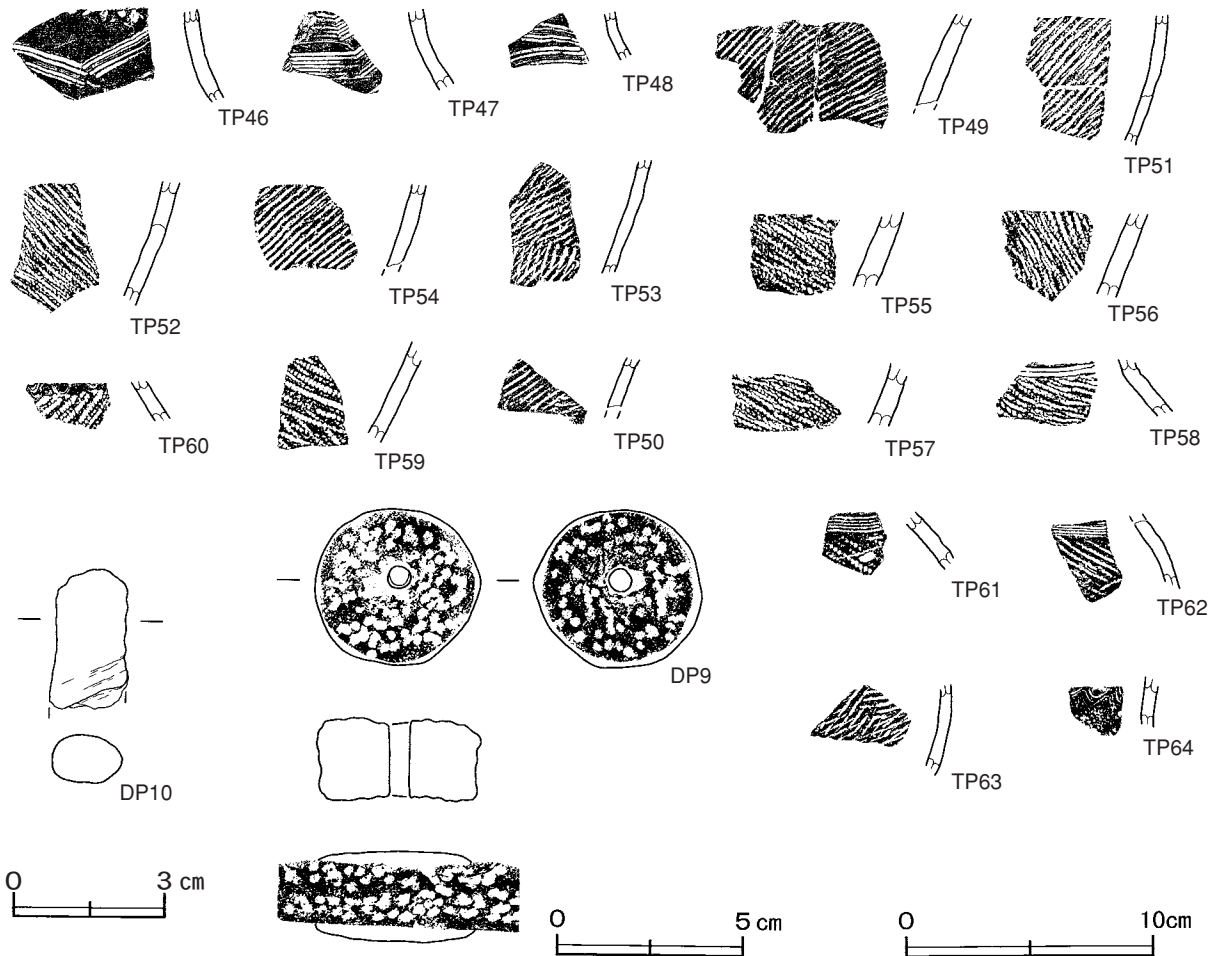
覆土 13層に分層される。各層ともロームブロックを含んでいることやブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。なお、土層断面の第1層は硬化しており、第132号住居の床面である。

土層解説

- | | | | | | |
|-------|---|---------------------|--------|---|---------------------|
| 1 黒褐色 | 色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | 色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | 色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 色 | 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | 色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 11 褐色 | 色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 13 黒褐色 | 色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 弥生土器片98点（頸部片3，胴部片95），土製品2点（紡錘車，不明）が出土している。土器の大半は小破片であり、覆土下層を中心に出土している。TP46は東壁際覆土下層から、TP49とDP9は南壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。



第7図 第142号住居跡出土遺物実測図

第142号住居跡出土遺物観察表（第7図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|----|-----------------|-------|----|--|------|---------------|
| TP46 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 頸部縄文原体縄文押圧，櫛歯状工具（5本櫛歯）による山形文施文 | 覆土下層 | PL84 |
| TP47 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（7本櫛歯）による重層山形文施文 | 覆土中 | PL85 |
| TP48 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（5本櫛歯）による山形文施文，頸部下端を櫛歯状工具による横走文で区画 | 覆土中 | PL85 |
| TP49 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母少量 | にぶい橙 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 床面 | |
| TP50 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母少量 | にぶい橙 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP51 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母少量 | 灰褐 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP52 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP53 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP54 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP55 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母少量 | 明褐 | 普通 | 胴部単節R L縄文施文 | 覆土中 | |
| TP56 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母少量 | 橙 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP57 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP58 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具による横走文で区画，胴部単節R L縄文施文 | 覆土中 | |
| TP59 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母少量 | 灰褐 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP60 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具による波状文で区画，胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | 種子圧痕か PL85 |
| TP61 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母少量 | 明赤褐 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具（5本櫛歯）による横走文で区画，胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | PL85 |
| TP62 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母少量・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具（6本櫛歯）による横走文で区画，胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | PL85 |
| TP63 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部付加条一種（付加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP64 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 櫛歯状工具による波状文 | 覆土中 | |

| 番号 | 種別 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|------|---------|----|----|------------------------------|------|------|
| DP9 | 紡錘車 | 4.4 | 2.3 | 49.9 | 雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 孔径0.6cm，両面にストロー状工具による不規則な刺突文 | 床面 | PL87 |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-------|-------|------|------|----|------------|------|----|
| DP10 | 不明 | (2.8) | (1.6) | (4.8) | 雲母少量 | にぶい褐 | 普通 | 外面ナデ | 覆土中 | |

第147号住居跡（第8～11図）

位置 西部1区北部のB 2j8区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第129・136号住居と第46号方形竪穴遺構と第2239・2334・2335・2357号土坑とピット（4か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.98m，短軸4.03mの隅丸長方形と考えられ，主軸方向はN-15°-Wである。壁高は10～12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で，炉を囲むように踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。長径70cm，短径60cmの楕円形で，床面を5～9cm掘りくぼめた地床炉である。炉石が住居の主軸方向に直交して炉床面から若干上で確認され，炉床面が赤変している。

炉土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さが57～64cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。P5は深さが68cmで、中央部に向かって斜めに掘り込まれており、位置と硬化面の範囲から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |

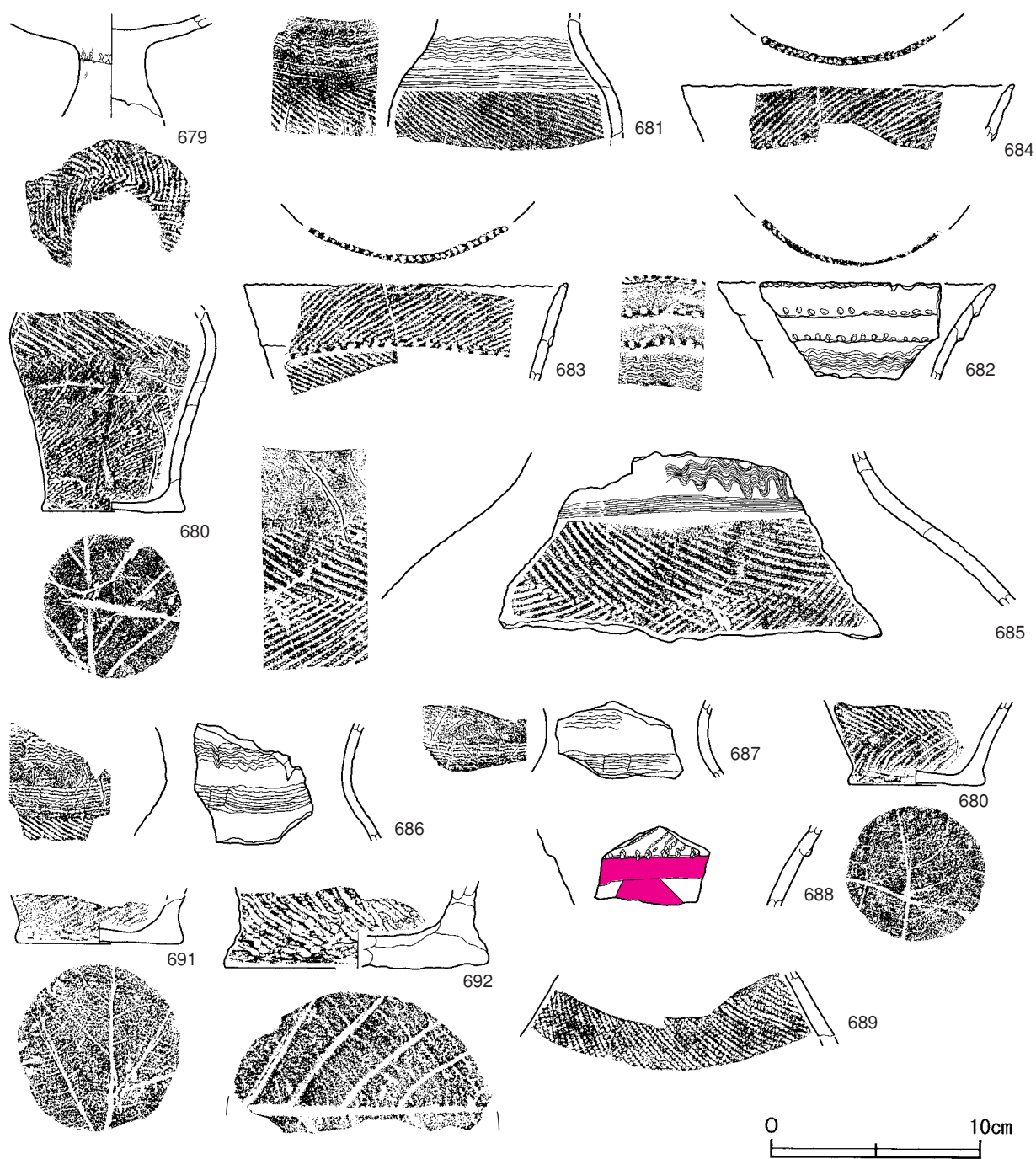
遺物出土状況 弥生土器片297点（口縁部片34，頸部片19，胴部片228，底部片16），高坏1点，土製品1点（紡錘車）が出土している。炉周辺から北壁寄りの覆土下層に集中している。686・687・690・TP68・TP77・TP119・TP131・TP140は北壁寄りの覆土下層から，TP105は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。679・682・684・685・692・694・695・697，TP65～TP67・TP73・TP75・TP81・TP90・TP



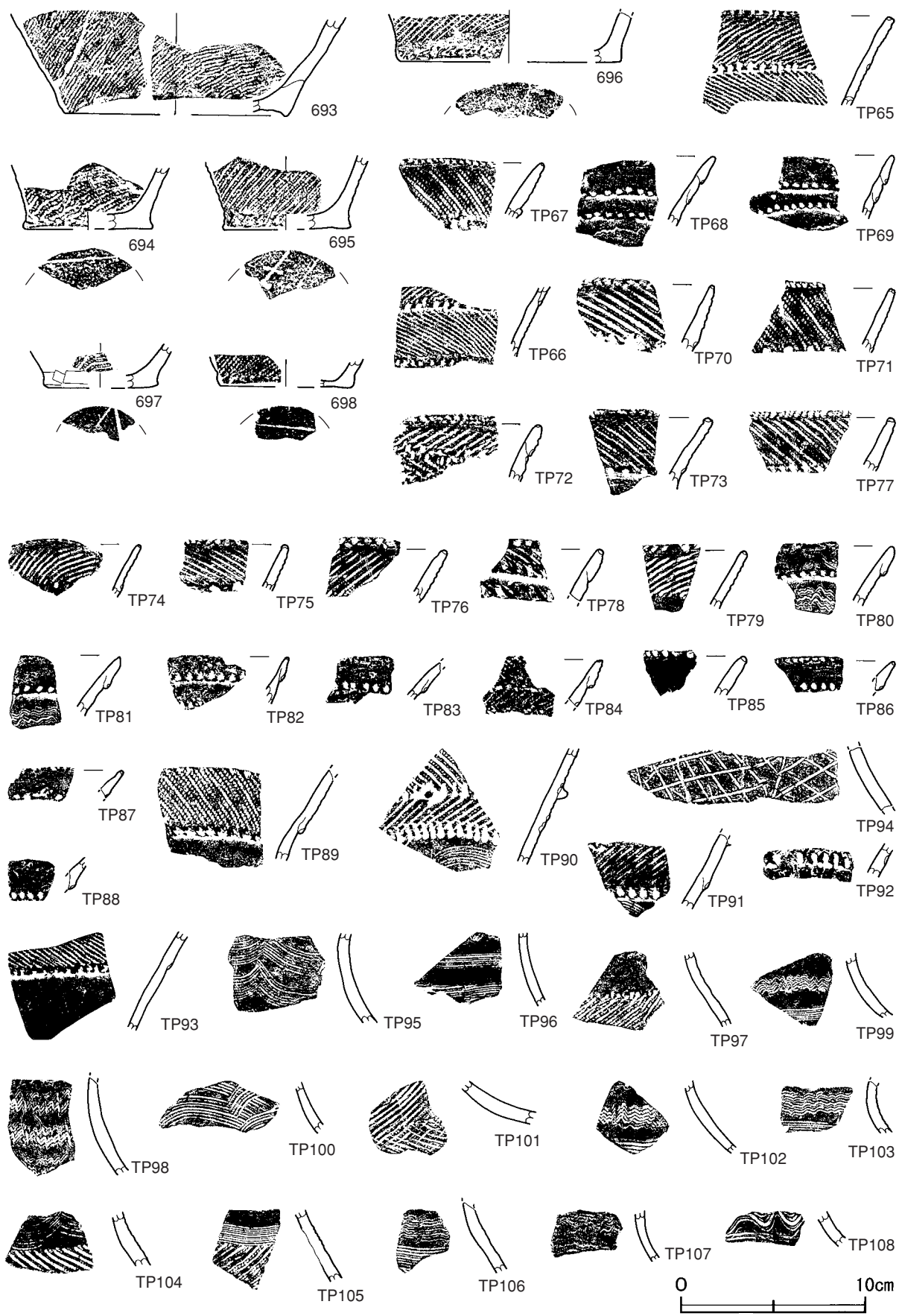
第8図 第147号住居跡実測図

91・TP93・TP111～TP113・TP115～TP117・TP123・TP129・TP132・TP134は炉周辺の覆土下層からそれぞれ出土している。680は炉周辺の床面と北壁寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。681は炉周辺の覆土下層の離れた位置から出土した破片が接合したものである。TP94・TP95・TP98は西壁寄りの、693は炉周辺の床面からそれぞれ出土している。土器の大半は小破片で破断面が新しく、離れた位置の破片が接合していることから、住居廃絶後のくぼ地に廃棄されたものと考えられる。DP11は西壁際の床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたと考えられる。また、M71が覆土中から出土している。出土位置は不明であり、本跡より新しい遺構が重複しているため混入の可能性がある。

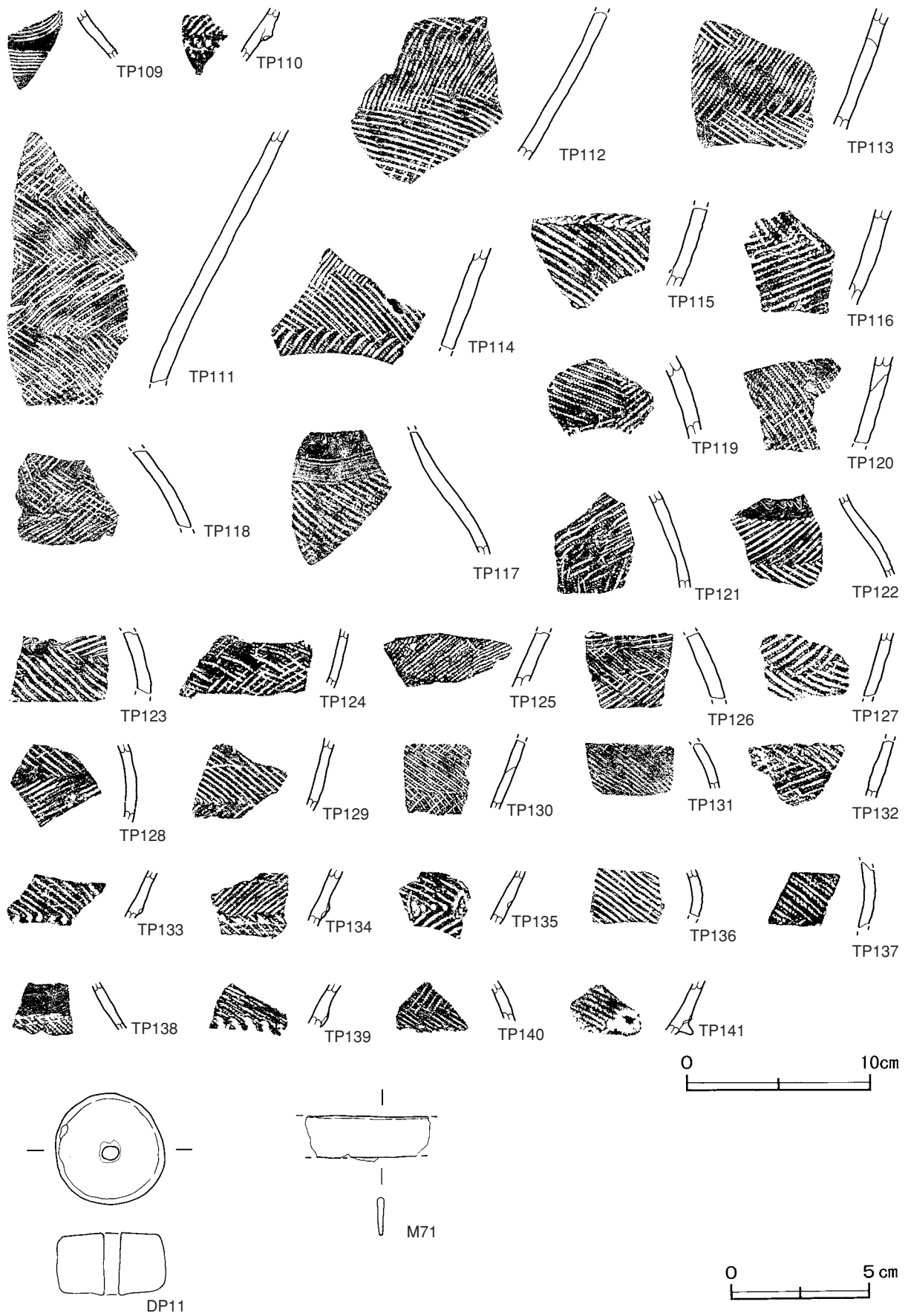
所見 廃絶時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。



第9図 第147号住居跡出土遺物実測図(1)



第10图 第147号住居跡出土遺物実測図(2)



第11图 第147号住居跡出土遺物実測図(3)

第147号住居跡出土遺物観察表（第9～11図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|-------|--------|----------|----|----|--|---------|-------------|
| 679 | 弥生土器 | 高坏 | - | (4.9) | - | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 坏部胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，坏部下端の接合部押圧 | 覆土下層 | 30% PL81 |
| 680 | 弥生土器 | 壺 | - | (9.6) | 6.7 | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 胴部中位附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，胴部下位附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | 床面，覆土下層 | 50% PL81 |
| 681 | 弥生土器 | 壺 | - | (5.6) | - | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 頸部歯状工具（8本歯）による波状文施文，頸部下端歯状工具（8本歯）による横走文で区画，胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | 10% PL79 |
| 682 | 弥生土器 | 壺 | [13.2] | (4.6) | - | 石英・長石 | 黒褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部二段に縄文原体押圧，頸部歯状工具（8本歯）による波状文 | 覆土下層 | 15% PL84 |
| 683 | 弥生土器 | 壺 | [15.4] | (4.5) | - | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，羽状の中心に結節部押圧 | 覆土中 | 10% |
| 684 | 弥生土器 | 壺 | [15.7] | (2.7) | - | 長石・雲母 | 褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | 10% |
| 685 | 弥生土器 | 壺 | - | (7.4) | - | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 頸部歯状工具（13本歯）による波状文施文，頸部下端歯状工具（13本歯）による横走文で区画，胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | 10% PL79 |
| 686 | 弥生土器 | 壺 | - | (5.5) | - | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 頸部歯状工具（8本歯）による波状文施文，頸部下端歯状工具（8本歯）による麻状文で区画，胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | 10% PL86 |
| 687 | 弥生土器 | 壺 | - | (3.7) | - | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 頸部歯状工具による波状文施文，頸部下端歯状工具による麻状文で区画 | 覆土下層 | 10% PL84 |
| 688 | 弥生土器 | 壺 | - | (3.9) | - | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後，縄文原体押圧，頸部未で横走文と山形文を描いている（山形文→横走文） | 覆土中 | 10% PL84 |
| 689 | 弥生土器 | 壺 | - | (3.1) | - | 石英・長石 | 黒褐 | 普通 | 胴部単節R L縄文施文 | 覆土中 | 10% |
| 690 | 弥生土器 | 壺 | - | (4.0) | 6.6 | 長石・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | 15% PL82 |
| 691 | 弥生土器 | 壺 | - | (2.3) | 8.2 | 長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土中 | 10% PL82 |
| 692 | 弥生土器 | 壺 | - | (4.1) | [12.6] | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | 10% PL82 |
| 693 | 弥生土器 | 壺 | - | (5.5) | [12.0] | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 床面 | 10% |
| 694 | 弥生土器 | 壺 | - | (3.4) | [7.6] | 長石・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部単節L R縄文施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | 10% |
| 695 | 弥生土器 | 壺 | - | (4.0) | [7.0] | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | 10% |
| 696 | 弥生土器 | 壺 | - | (2.8) | [12.2] | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部無文 | 覆土中 | 10% |
| 697 | 弥生土器 | 壺 | - | (2.4) | [6.2] | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | 10% |
| 698 | 弥生土器 | 壺 | - | (1.6) | [7.2] | 石英・長石 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|----|--------------------|------|----|---|------|-------------------|
| TP65 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子・黒色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成，羽状構成の中心部に結節部押圧 | 覆土下層 | TP66と同一個体 PL86 |
| TP66 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成，羽状構成の中心部に結節部押圧，口縁部下端を縄文原体押圧で区画 | 覆土下層 | TP65と同一個体 |
| TP67 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文後縄文原体押圧 | 覆土下層 | |
| TP68 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 二段の複合口縁，上・下段とも縄文原体押圧，頸部歯状工具による波状文施文 | 覆土下層 | PL86 TP69と同一個体 |
| TP69 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 二段の複合口縁，上・下段とも縄文原体押圧，頸部歯状工具による波状文施文 | 覆土中 | PL84 TP68と同一個体 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|-----------------|-------|----|--|------|--------------|
| TP70 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（附加2条）施文後原体押圧 | 覆土中 | |
| TP71 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子・黒色粒子 | 褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（附加2条）施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP72 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子・黒色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，羽状構成の中心部に結節部押圧 | 覆土中 | |
| TP73 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（附加2条）施文後縄文原体押圧 | 覆土下層 | |
| TP74 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母・白色粒子 | 明褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（附加2条）施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP75 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（附加2条）施文後縄文原体押圧 | 覆土下層 | |
| TP76 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（附加2条）施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP77 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 灰黄褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（附加2条）施文後縄文原体押圧 | 覆土下層 | |
| TP78 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（附加2条）施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP79 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）施文 | 覆土中 | |
| TP80 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 褐 | 普通 | 口縁部無文，頸部櫛歯状工具（7本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | PL84 |
| TP81 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部無文，頸部櫛歯状工具（7本櫛歯）による波状文施文 | 覆土下層 | PL86 |
| TP82 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部無文，下端原体刺突 | 覆土中 | PL84 |
| TP83 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文施文 | 覆土中 | TP86・88と同一個体 |
| TP84 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成，羽状構成の中心部に結節部押圧 | 覆土中 | |
| TP85 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP86 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部縄文原体押圧 | 覆土中 | TP83・88と同一個体 |
| TP87 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP88 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口縁部下端縄文原体押圧 | 覆土中 | TP83・88と同一個体 |
| TP89 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文，下端縄文原体押圧 | 覆土中 | PL84 |
| TP90 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成，羽状構成の中心部に結節部押圧，瘤貼付，口縁部下端縄文原体による押圧で区画，頸部櫛歯状工具（7本櫛歯）による上向き連弧文 | 覆土下層 | PL86 |
| TP91 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（附加2条）施文，口縁部下端縄文原体押圧で区画，頸部櫛歯状工具による櫛描文施文 | 覆土下層 | |
| TP92 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明褐 | 普通 | 口縁部下端縄文原体押圧で区画 | | |
| TP93 | 弥生土器 | 壺 | 雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文，口縁部下端縄文原体押圧で区画，頸部無文 | 覆土下層 | |
| TP94 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明褐 | 普通 | 頸部単沈線による縦区画後斜格子文充填 | 覆土下層 | |
| TP95 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 櫛歯状工具（9本櫛歯）による下向き連弧文を二段に施文 | 覆土下層 | PL84 |
| TP96 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 頸部櫛描波状文と櫛歯状工具（6本櫛歯）による横走文施文，頸部下端櫛歯状工具（6本櫛歯）による横走文で区画 | 覆土中 | PL86 |
| TP97 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 頸部無文，胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP98 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（6本櫛歯）による波状文施文 | 覆土下層 | PL84 |
| TP99 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（7本櫛歯）による波状文施文，頸部下端櫛歯状工具による横走文で区画 | 覆土中 | PL83 |
| TP100 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 櫛歯状工具（6本櫛歯）による上向き重層連弧文施文 | 覆土中 | PL83 |
| TP101 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|--------------|-------|----|---|------|------|
| TP102 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 櫛歯状工具(7本櫛歯)による下向きの逆弧文施文, 頸部下端櫛歯状工具による横走文で区画 | 覆土中 | PL83 |
| TP103 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 黒褐 | 普通 | 櫛歯状工具(8本櫛歯)による波状文施文, 頸部下端櫛歯状工具による横走文で区画 | 覆土中 | PL83 |
| TP104 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 櫛歯状工具(9本櫛歯)による下向きの連弧文施文, 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土中 | PL84 |
| TP105 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子 | 黒褐 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具(9本櫛歯)による横走文で区画, 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土下層 | PL85 |
| TP106 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母少量・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具(9本櫛歯)による波状文施文, 頸部下端櫛歯状工具(9本)櫛歯による横走文で区画 | 覆土中 | PL86 |
| TP107 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 櫛歯状工具による波状文施文, 頸部下端櫛歯状工具による横走文で区画 | 覆土中 | |
| TP108 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 櫛歯状工具による波状文施文, 頸部下端櫛歯状工具による廉状文で区画 | 覆土中 | PL83 |
| TP109 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文施文, 頸部下端櫛歯状工具による廉状文で区画 | 覆土中 | PL83 |
| TP110 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成, 羽状構成の中心に結節部押圧 | 覆土中 | |
| TP111 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP112 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP113 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・純粋 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP114 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP115 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP116 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP117 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・純粋 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文 | 覆土下層 | |
| TP118 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・純粋 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP119 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・純粋 | にぶい褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP120 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP121 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP122 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具による波状文施文, 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | PL83 |
| TP123 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP124 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文後単節R L縄文押圧 | 覆土中 | |
| TP125 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・純粋 | 橙 | 普通 | 胴部単節L R縄文施文 | 覆土中 | |
| TP126 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具(6本櫛歯)による廉状文で区画, 胴部附加条一種(附加2条)を羽状構成 | 覆土中 | PL83 |
| TP127 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP128 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・純粋 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP129 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP130 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP131 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP132 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP133 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成, 羽状構成の中心に結節部押圧 | 覆土中 | |
| TP134 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 口縁部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成, 羽状構成の中心に結節部押圧 | 覆土下層 | |
| TP135 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)を羽状に構成, 羽状構成の中心に円形刺突文 | 覆土中 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|----------|-------|----|-------------------------------|------|----|
| TP136 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP137 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP138 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部単節R L縄文施文 | 覆土中 | |
| TP139 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部附加条一種（附加2条）口縁部下端縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP140 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP141 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文後縄文原体押圧，瘤貼付 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|------|----|--------|----|-----------------------------|------|------|
| DP11 | 紡錘車 | 4.0 | 2.3 | 45.4 | 雲母 | にぶい黄橙色 | 普通 | 孔径0.5~0.7cmで，断面形は均等な厚さの隅丸方形 | 床面 | PL87 |

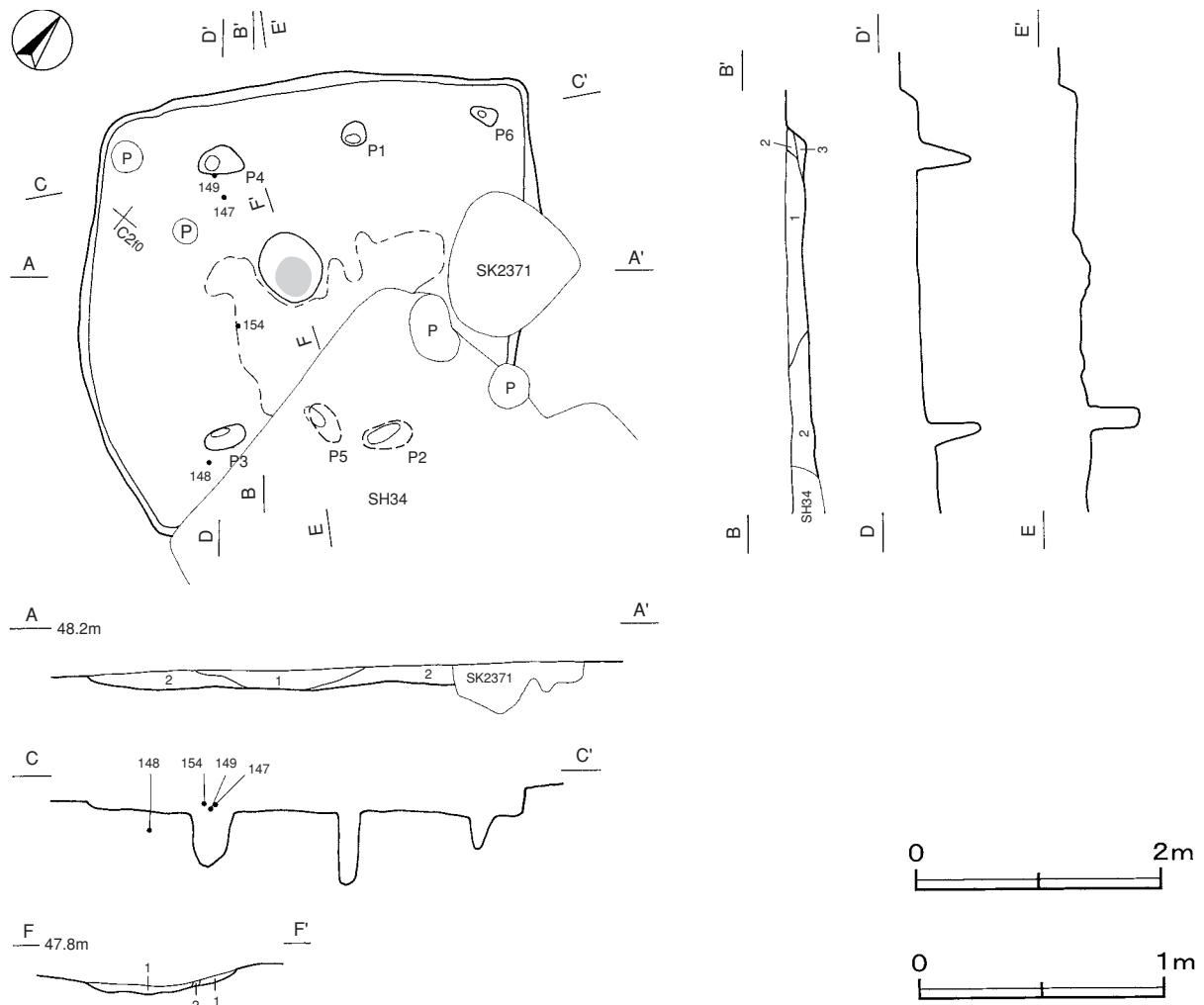
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|-------|----|----------|------|------|
| M71 | 刀子 | (4.5) | 1.4 | 0.2 | (6.6) | 鉄 | 刀身の断面は方形 | 覆土中 | PL87 |

第168号住居跡（第12・13図）

位置 西部1区中央部のC 2 e0区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第34号方形竪穴遺構と第2371号土坑とピット（4か所）に掘り込まれている。

規模と形状 確認された3か所のコーナー部から長軸3.70m，短軸3.43mの隅丸方形と推測される。主軸方向



第12図 第168号住居跡実測図

をN-40°-Wと考えられる。壁高は7~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉とP5の間が踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。長径60cm、短径50cmの楕円形で、床面を3cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

2 赤褐色 焼土ブロック多量

ピット 6か所。P1~P4は深さが45~60cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。P5は深さが39cmで、中央部に向かって斜めに掘り込まれており、位置と硬化面の範囲から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さが28cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

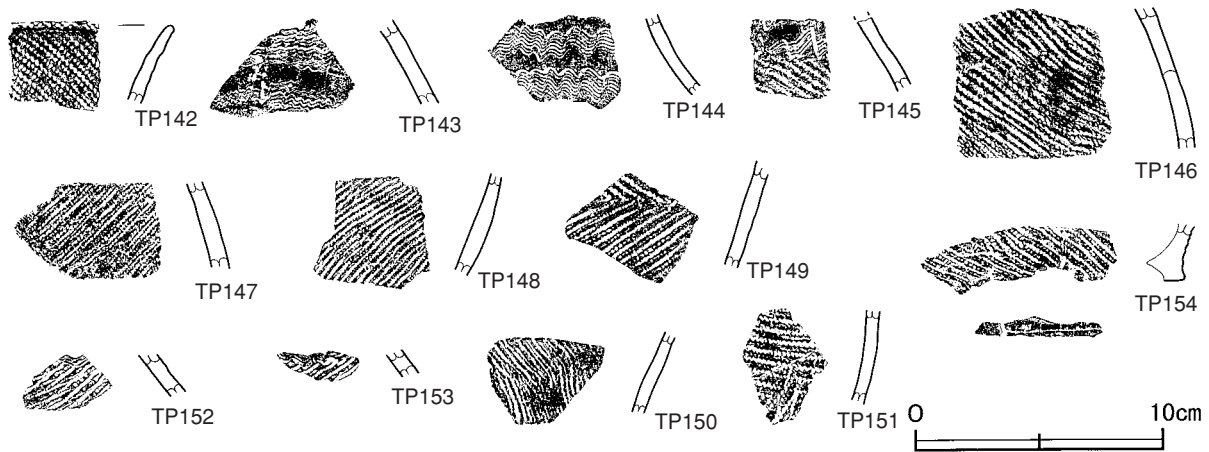
1 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片37点（頸部片2，胴部片34，底部片1）が出土している。覆土下層を中心に出土しており、土器の大半は小破片である。TP148は南西コーナー部の床面から、TP147・TP149はP4付近の覆土下層から、TP154は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。



第13図 第168号住居跡出土遺物実測図

第168号住居跡出土遺物観察表（第13図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|-----------------|-------|----|---|------|----|
| TP142 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧、口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP143 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（5本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP144 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（7本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP145 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（5本櫛歯）による波状文施文、胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP146 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP147 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土下層 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|----------|-------|----|------------------------------------|------|------------|
| TP148 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP149 | 弥生土器 | 壺 | 雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状構成 | 覆土下層 | |
| TP150 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP151 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文羽状構成 | 覆土中 | |
| TP152 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文で区画，胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | TP153と同一個体 |
| TP153 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文で区画，胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | TP152と同一個体 |
| TP154 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | |

第175号住居跡（第14～16図）

位置 西部1区西部のC 2 b6区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第150・162号住居と第2286号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認された3か所のコーナー部から，長軸5.30m，短軸5.02mの隅丸方形と推測される。主軸方向はN-38°-Wと考えられる。壁高は4～12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，P 5の北側と炉の北側を囲むように踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。長径70cm，短径50cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変している。

炉土層解説

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子多量，ローム粒子少量 | 3 褐色 焼土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | |

ピット 7か所。P 1～P 4は位置と規模から支柱穴と考えられ，深さは41～56cmである。P 5・P 6は深さ35cm・16cmで，南壁際中央部で対になることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P 7は長径70cm，短径54cm，深さ51cmで，位置と規模などから貯蔵穴の可能性はある。

ピット7土層解説

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量 |
|---------------------|-----------------|

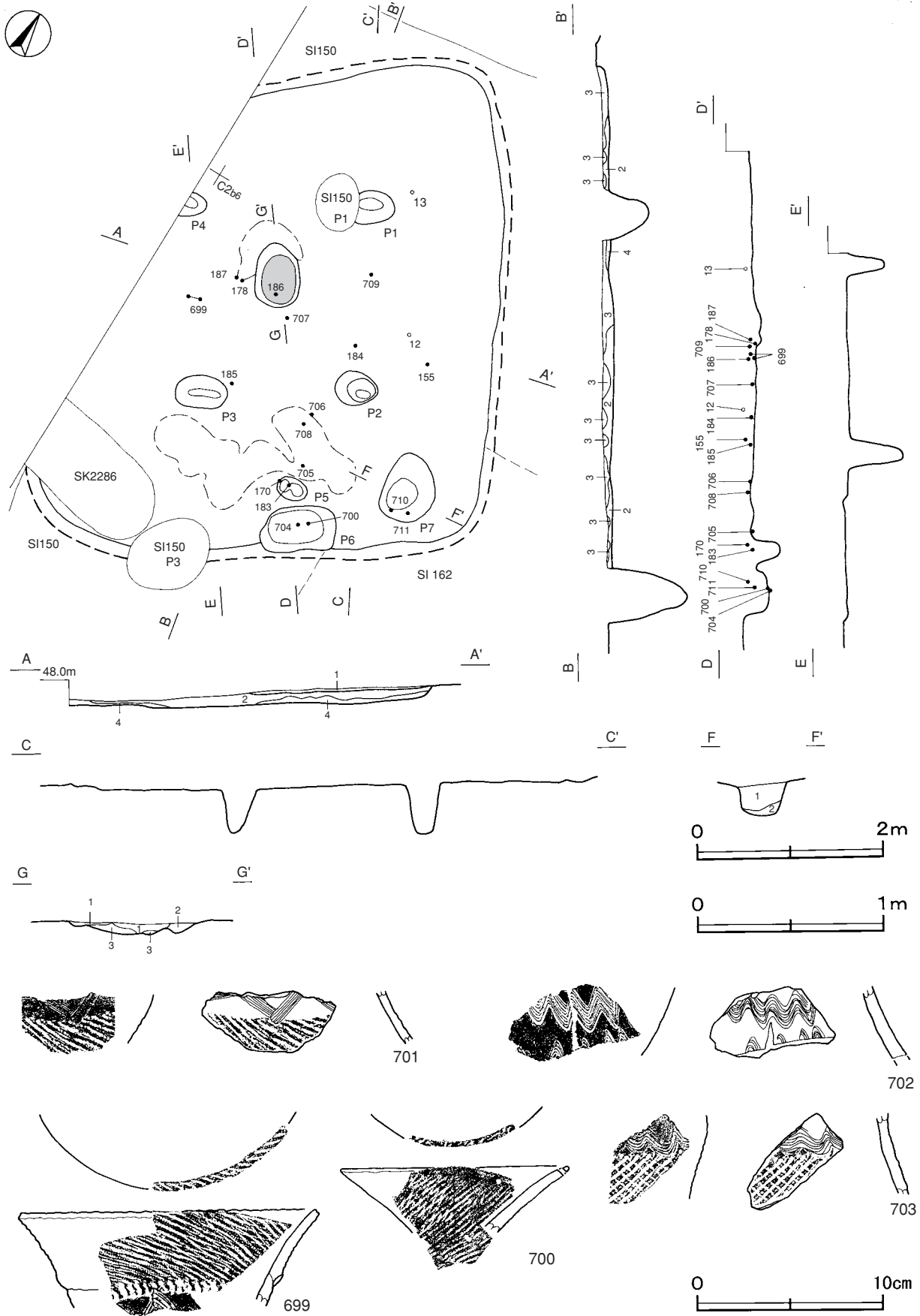
覆土 4層に分層される。各層ともロームブロックを含んでいることやブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。なお，土層断面の第1層は硬化しており，第150号住居跡の床面である。

土層解説

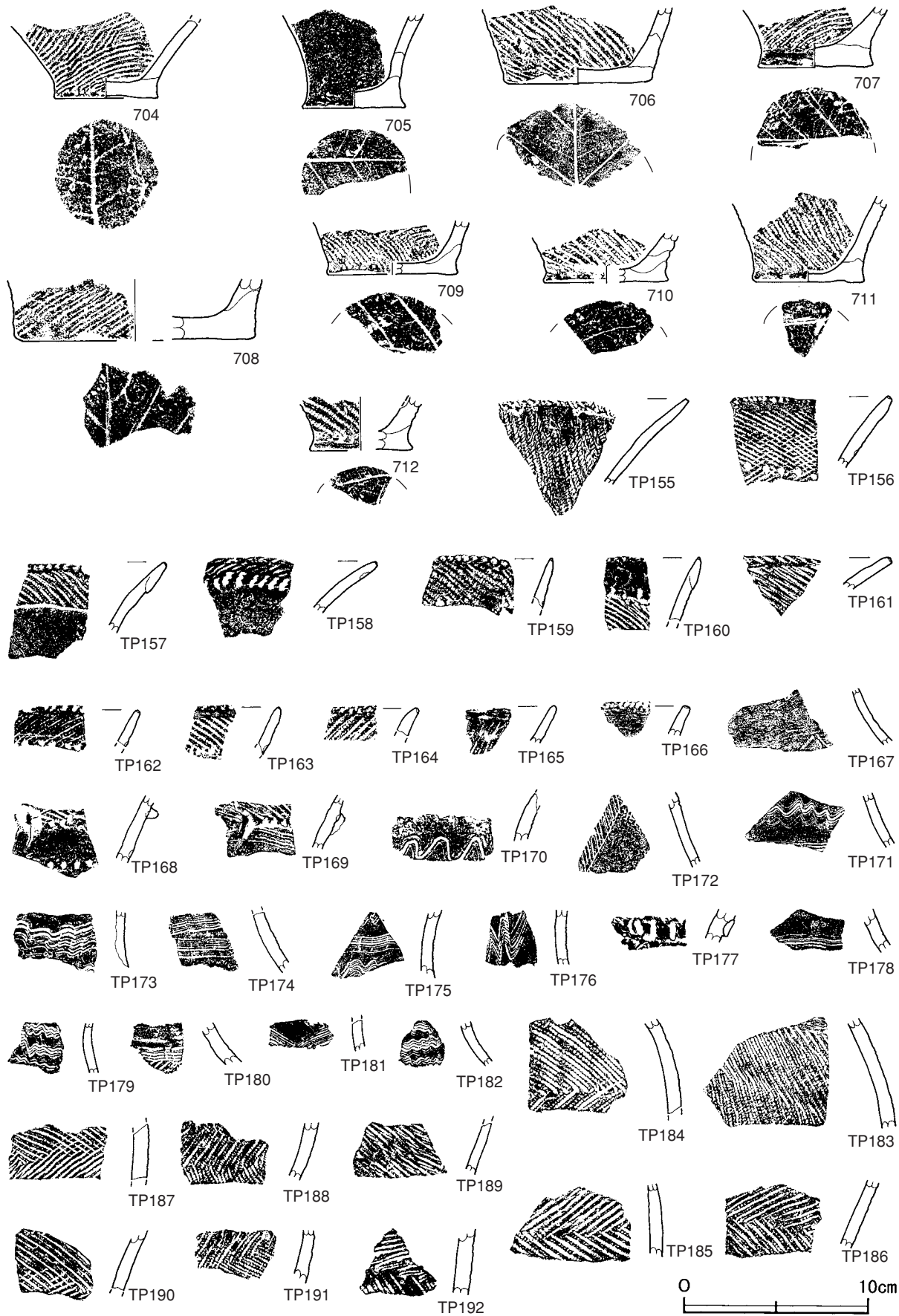
- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 ロームブロック多量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 弥生土器片169点（口縁部片22，頸部片22，胴部片116，底部片9），土製品2点（紡錘車）が出土している。土器の大半は小破片であり，中央部と南東コーナー部に集中している。TP 155・DP 12は東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。708は南壁寄りの覆土下層からTP 170・TP 183はP 5の，710・711はP 7の覆土上層からそれぞれ出土している。DP 13は北東コーナー部寄りの覆土下層から出土している。TP 184・TP 185は中央部の，707・709・TP 178・TP 186・TP 187は炉周辺の覆土下層からそれぞれ出土している。699は炉周辺の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。700・704はP 6の底面から，705・706は南壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

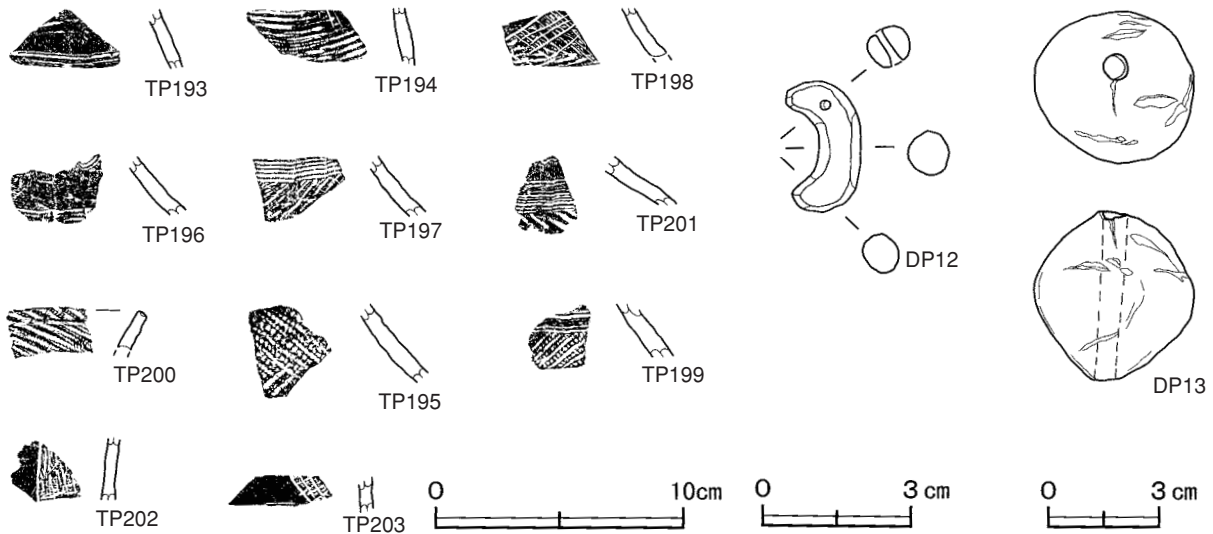
所見 廃絶時期は，出土土器から弥生時代後期と考えられる。



第14图 第175号住居跡・出土遺物実測図



第15图 第175号住居跡出土遺物実測図(1)



第16図 第175号住居跡出土遺物実測図（2）

第175号住居跡出土遺物観察表（第14～16図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|-------|--------|-------|----|----|---|------------|-------------|
| 699 | 弥生土器 | 壺 | [15.8] | (5.2) | — | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後縄文原体押圧，頸部櫛歯状工具による山形文 | 床面 覆土下層 | 10% PL85 |
| 700 | 弥生土器 | 高坏 | [12.1] | (3.5) | — | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，坏部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，二個一對の焼成前穿孔 | P 6 底面 | 10% PL86 |
| 701 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.6) | — | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（7本櫛歯）による山形文，胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | 10% |
| 702 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.9) | — | 石英 | 赤褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（9本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | 10% |
| 703 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.5) | — | 石英 | 黒褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（8本櫛歯）による波状文施文，胴部附加条二種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | 10% |
| 704 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.3) | 5.6 | 石英・雲母 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | P 6 底面 | 10% |
| 705 | 弥生土器 | 壺 | — | (5.0) | [5.6] | 長石 | 褐 | 普通 | 胴部無文，底部木葉痕 | 床面 | 10% |
| 706 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.1) | [8.0] | 石英・雲母 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | 床面 | 10% |
| 707 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.2) | [6.2] | 長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | 10% |
| 708 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.3) | [13.0] | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | 10% |
| 709 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.0) | [7.1] | 石英 | 褐 | 普通 | 単節LRと単節RL縄文を羽状に構成，底部木葉痕 | 覆土下層 | 10% |
| 710 | 弥生土器 | 壺 | — | (2.6) | [6.8] | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | P 7 覆土上層 | 10% |
| 711 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.7) | [6.0] | 長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | P 7 覆土上層 | 10% |
| 712 | 弥生土器 | 壺 | — | (2.8) | [5.6] | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|------------|------|----|---|------|----|
| TP155 | 弥生土器 | 高坏 | 石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文施文，坏部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP156 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，頸部とめ境に原体指突 | 覆土中 | |
| TP157 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文，頸部無文 | 覆土中 | |
| TP158 | 弥生土器 | 高坏 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，頸部無文 | 覆土中 | |
| TP159 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|--------------------|-------|----|---|---------|------|
| TP160 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧, 口縁部附加条一種(軸縄不明)縄文施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP161 | 弥生土器 | 高坏 | 石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文施文, 坏部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP162 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧, 口縁部附加条一種(軸縄不明)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP163 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文施文, 口縁部附加条一種(附加2条)施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP164 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧, 口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP165 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 灰黄褐 | 普通 | 口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP166 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP167 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による横走文施文後山形文施文 | 覆土中 | |
| TP168 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文後瘤貼付, 二段の円形刺突文で無文部区画 | 覆土中 | PL84 |
| TP169 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部附加条一種(軸縄不明)縄文施文後縄文原体押圧, 瘤貼付, 頸部櫛歯状工具(5本櫛歯)による横走文施文 | 覆土中 | |
| TP170 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 頸部単沈線による波状文 | P5 覆土上層 | PL83 |
| TP171 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 黒褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具(5本櫛歯)による波状文施文, 頸部下端櫛歯状工具による横走文で区画 | 覆土中 | PL83 |
| TP172 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 単沈線による鋸歯状の区画内に斜方向の沈線充填 | 覆土中 | |
| TP173 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具(8本櫛歯)による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP174 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による横走文施文, 頸部下端櫛歯状工具(8本櫛歯)による廉状文横走文で区画 | 覆土中 | |
| TP175 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具(9本櫛歯)による横走文の上下に櫛歯状工具による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP176 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具(6本櫛歯)による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP177 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口縁部附加条一種(軸縄不明)縄文施文後縄文原体押圧, 頸部櫛歯状工具による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP178 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具(5本櫛歯)による横走文施文 | 覆土下層 | |
| TP179 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 灰褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具(6本櫛歯)による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP180 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 頸部無文, 頸部下端櫛歯状工具(5本櫛歯)による廉状文で区画, 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP181 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による山形文施文 | 覆土中 | |
| TP182 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具(4本櫛歯)による山形文施文 | 覆土中 | |
| TP183 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 灰黄 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | P5 覆土上層 | |
| TP184 | 弥生土器 | 壺 | 雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP185 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP186 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP187 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP188 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP189 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP190 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP191 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | オリーブ褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP192 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP193 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 頸部縦位の沈線と櫛歯状工具による横走文 | 覆土中 | |
| TP194 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP195 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・赤色粒子 | 褐灰 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP196 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文施文, 頸部下端櫛歯状工具による廉状文横走文で区画 | 覆土中 | |
| TP197 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具(5本櫛歯)による廉状文で区画, 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土中 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|---------|-------|----|---|------|----|
| TP198 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・赤色粒子 | 灰黄褐 | 普通 | 頸部下端単沈線による斜格子文施文 | 覆土中 | |
| TP199 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 頸部下端櫛歯状工具による横走文で区画、胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP200 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口唇部胴部附加条一種（附加2条）縄文施文、口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP201 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文施文、頸部下端櫛歯状工具（6本櫛歯）による重層廉状文横走文で区画、胴部附加条一種（軸縄不明）縄文不明 | 覆土中 | |
| TP202 | 弥生土器 | 壺 | 石英・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 頸部単沈線による縦区画内に不規則な沈線施文 | 覆土中 | |
| TP203 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 頸部単沈線による斜格子文と横位の単沈線施文 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|-----|-------|----|----|------------------------|------|------|
| DP12 | 勾玉 | 2.6 | 0.9 | 2.6 | 石英・雲母 | 橙 | 普通 | 片面穿孔で、孔径0.2～0.3cm、外面ナデ | 覆土下層 | PL87 |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|------|----------|----|----|------------|------|------|
| DP13 | 紡錘車 | 4.3 | 4.5 | 61.4 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 断面算盤形、外面ナデ | 覆土下層 | PL87 |

第193号住居跡（第17～20図）

位置 西部1区南部のC 2 h9区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2443・2488号土坑とピット（2か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.75m、短軸3.60mの隅丸長方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は15～33cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、炉を囲むように踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。径60cmの円形で、床面を7cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変している。

炉土層解説

1 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さが15～33cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。P 5・P 6は深さが41cm・9cmで、南壁際中央部で対になることから、両方とも出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

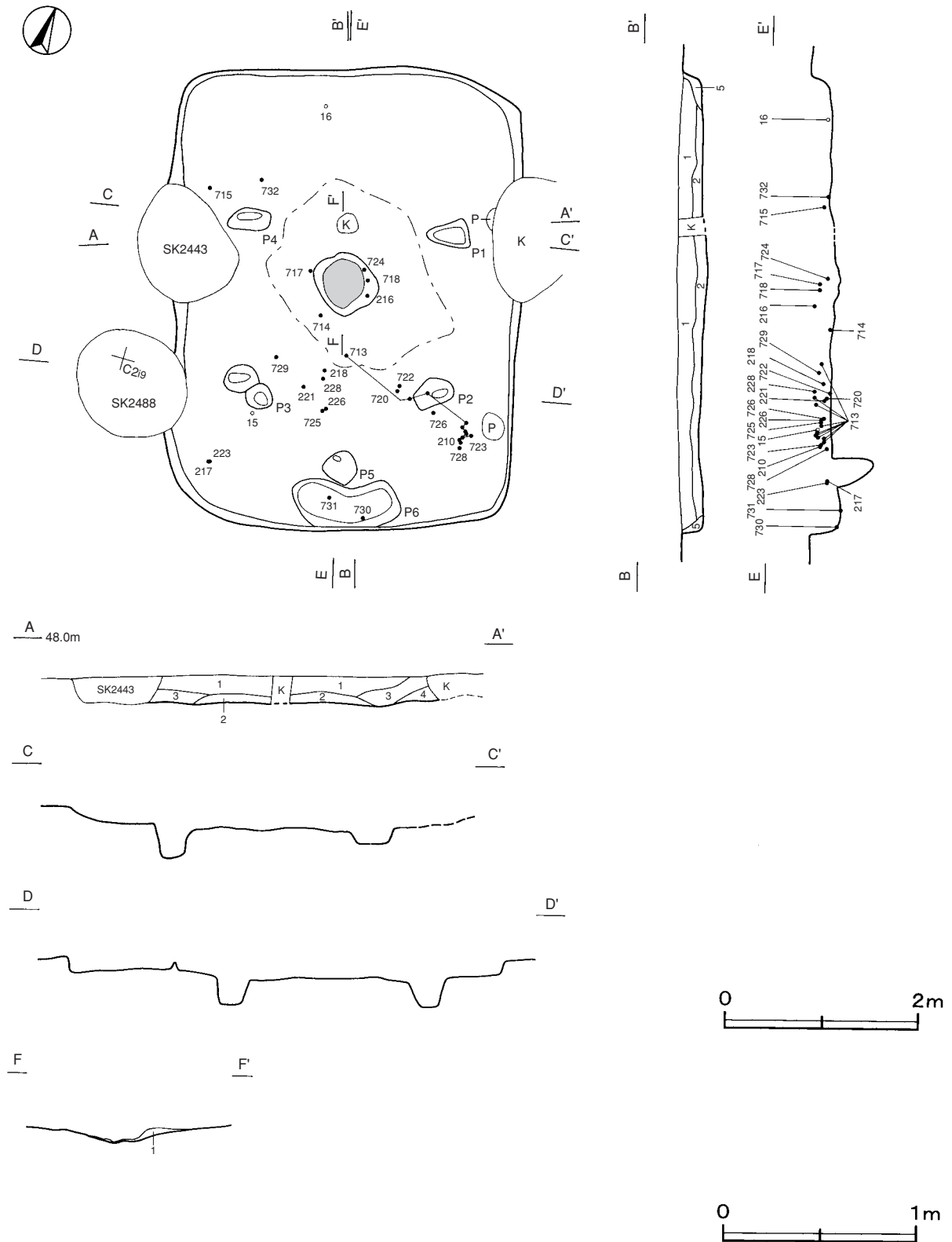
3 暗褐色 ローム粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック微量

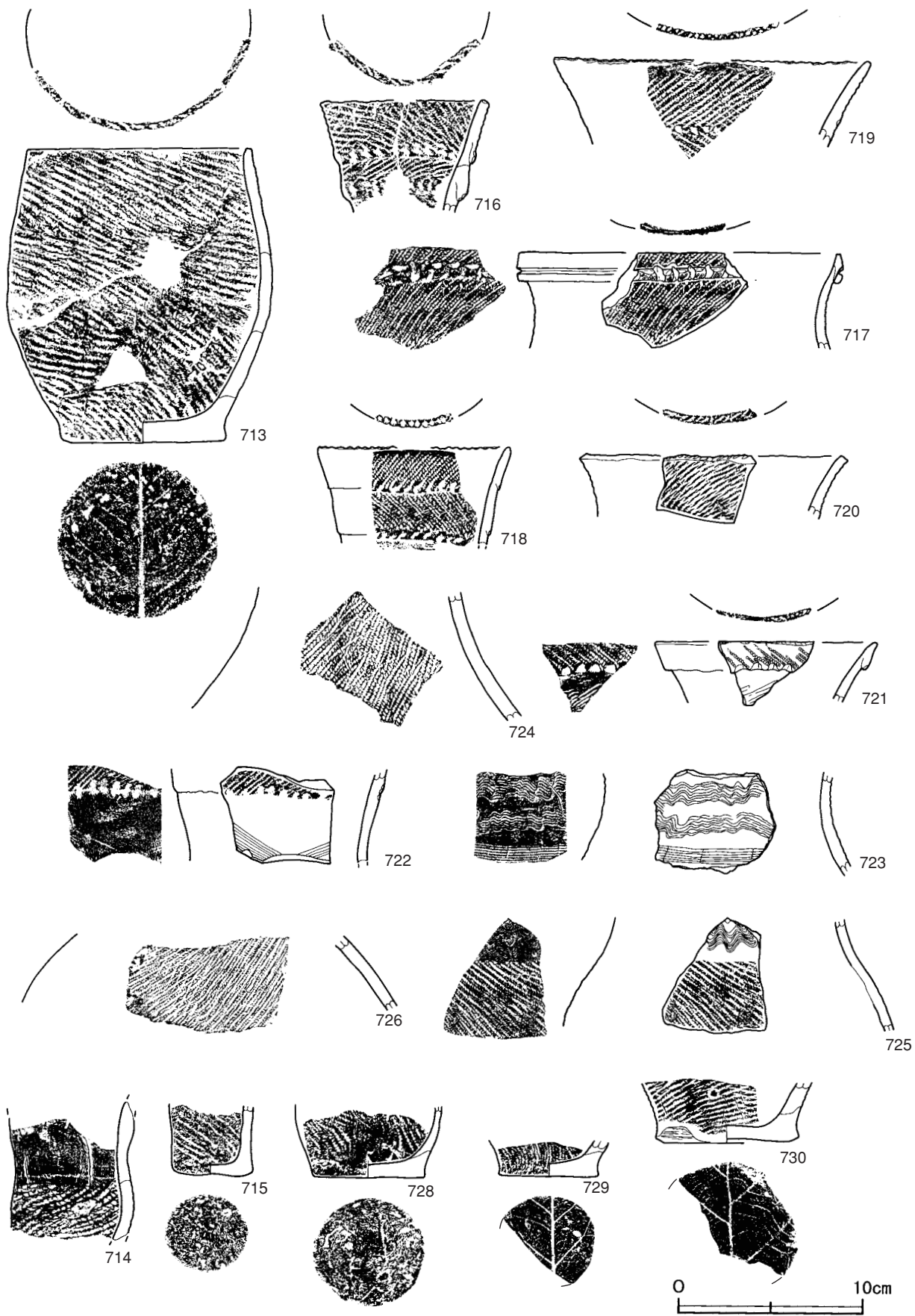
5 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生土器片127点（口縁部片13、頸部片14、胴部片91、底部片9）、小形壺1点、甕1点、ミニチュア土器1点、土製品3点（紡錘車2、勾玉1）が出土している。土器の大半は小破片であり、中央部と南東コーナー部の覆土下層に集中している。715・732は西壁寄りの、723・726・728・TP 210は南東コーナー部の、TP 217・TP 223は南西部の、DP 16は北壁際の、720・725・729・DP 15・TP 218・TP 221・TP 226・TP 228は中央部の、714・717・718・724・TP 216は炉周辺の覆土下層からそれぞれ出土している。713は中央部と南東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。722は中央部の床面から、730・731はP 6の底面からそれぞれ出土している。

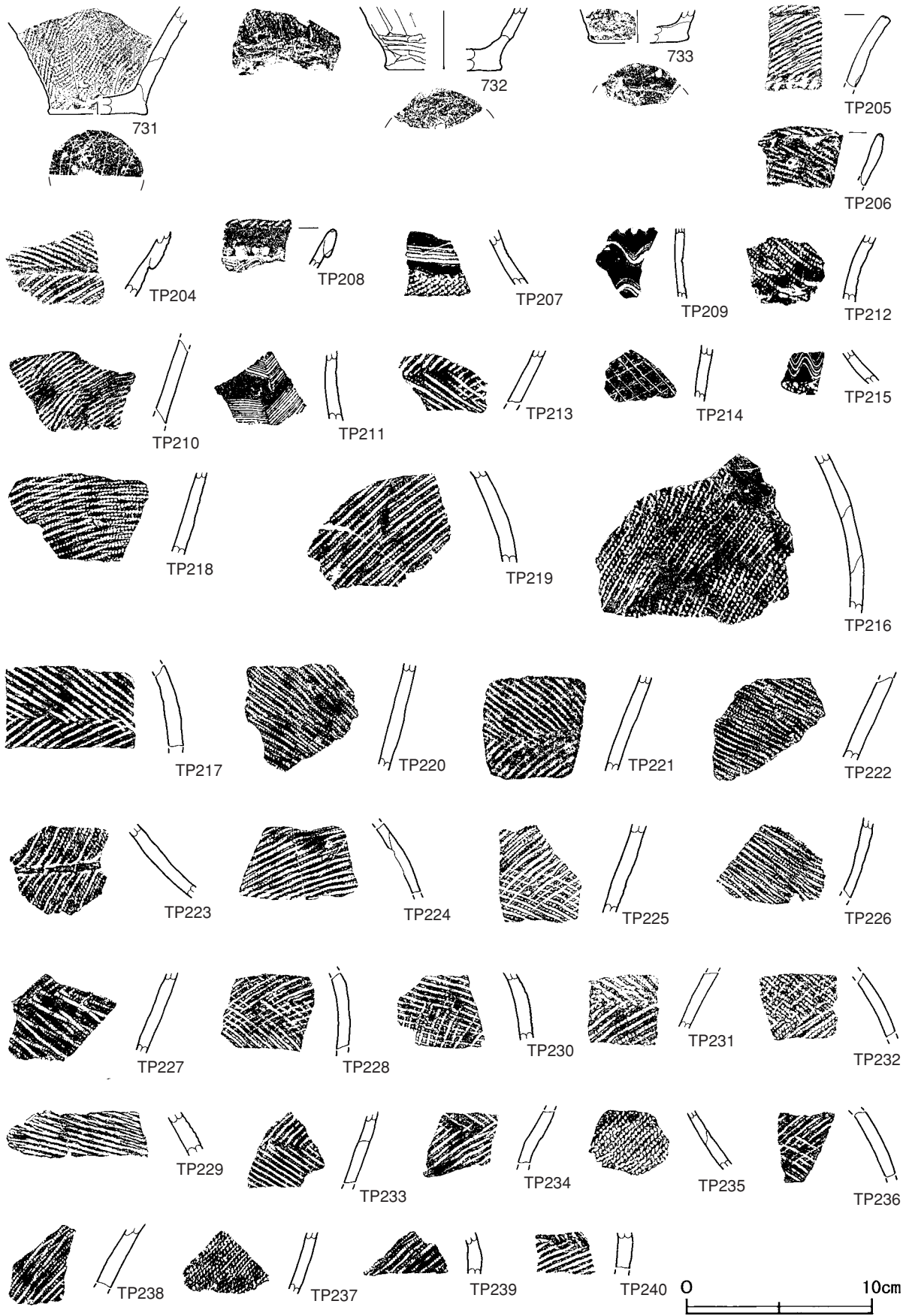
所見 主柱穴が不整形な形状であるのは、住居廃絶時に柱を抜き取ったためと推測される。廃絶時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。



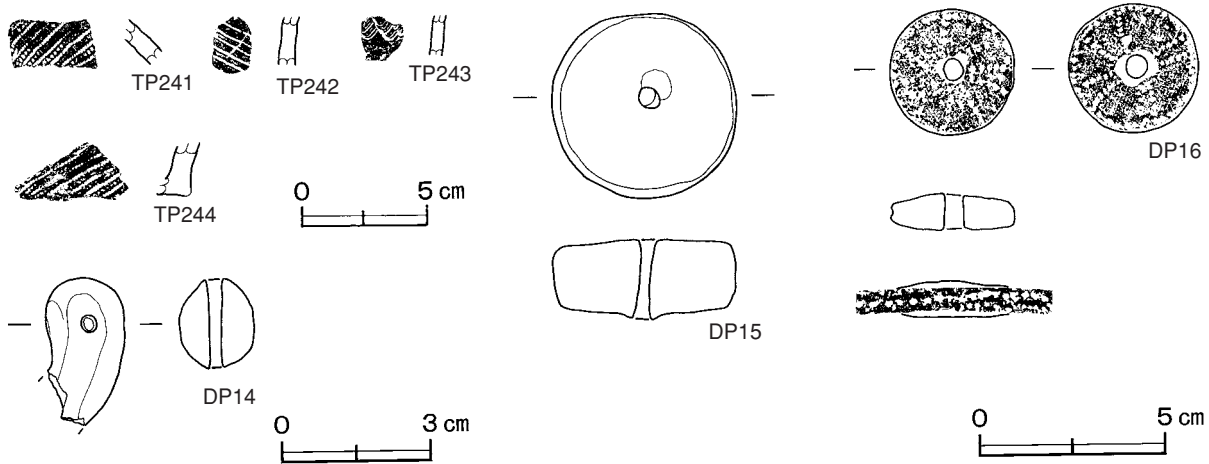
第17図 第193号住居跡実測図



第18图 第193号住居跡出土遺物実測図（1）



第19图 第193号住居跡出土遺物実測図(2)



第20図 第193号住居跡出土遺物実測図（3）

第193号住居跡出土遺物観察表（第18～20図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|-------|-------|----------|----|----|---|------|-------------|
| 713 | 弥生土器 | 甕 | 12.1 | 15.8 | 8.9 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，胴部単節LR縄文施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | 65% PL79 |
| 714 | 弥生土器 | 壺 | 12.5 | (7.5) | — | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部無文，胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | 25% PL80 |
| 715 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.8) | 3.9 | 長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部無文 | 覆土下層 | 50% PL80 |
| 716 | 弥生土器 | 壺 | [9.0] | (6.0) | — | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，2段の複合口縁，口縁部附加条一種（軸縄不明），口縁部下端に縄文原体押圧 | 覆土中 | 10% PL84 |
| 717 | 弥生土器 | 壺 | [17.3] | (5.2) | — | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 口唇部単沈線施文，口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文後ヘラ状工具による隆帯作出 | 覆土下層 | 10% PL85 |
| 718 | 弥生土器 | 壺 | [10.3] | (5.3) | — | 石英 | 黒褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，2段の複合口縁，口縁部附加条一種（軸縄不明）口縁部下端に縄文原体 | 覆土下層 | 10% PL86 |
| 719 | 弥生土器 | 壺 | [17.0] | (4.6) | — | 石英・長石 | 黒褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，口縁部下端に縄文原体刺突 | 覆土中 | 10% |
| 720 | 弥生土器 | 壺 | [14.4] | (3.3) | — | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | 10% |
| 721 | 弥生土器 | 壺 | [12.0] | (3.3) | — | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後指頭押圧，頸部櫛歯状工具による山形文施文 | 覆土中 | 10% |
| 722 | 弥生土器 | 壺 | — | (5.0) | — | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（軸縄不明）口縁部下端縄文原体押圧，頸部櫛歯状工具による山形文施文 | 床面 | 10% PL86 |
| 723 | 弥生土器 | 壺 | — | (5.6) | — | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（8本櫛歯）による波状文施文，頸部下端櫛歯状工具による廉状文で区画 | 覆土下層 | 10% PL86 |
| 724 | 弥生土器 | 壺 | — | (6.8) | — | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | 10% |
| 725 | 弥生土器 | 壺 | — | (6.0) | — | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文，胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | 10% |
| 726 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.0) | — | 石英・長石 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | 10% |
| 728 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.9) | 6.0 | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部無文，底部種子圧痕 | 覆土下層 | 20% PL82 |
| 729 | 弥生土器 | 壺 | — | (2.0) | 5.5 | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土下層 | 15% |
| 730 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.2) | 7.2 | 長石 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | P6底面 | 10% PL82 |
| 731 | 弥生土器 | 壺 | — | (5.7) | [5.2] | 長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | P6底面 | 20% |
| 732 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.3) | [5.9] | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部無文，外面ヘラケズリ | 覆土下層 | 10% |
| 733 | 弥生土器 | 壺 | — | (1.8) | [5.4] | 長石 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部無文 | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|---------------|-------|----|-----------------------------------|------|------|
| TP204 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 橙 | 普通 | 複合口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP205 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後下端原体押圧 | 覆土中 | |
| TP206 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP207 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 頸部4本櫛歯状工具による横走文，胴部単節縄文施文 | 覆土中 | PL83 |
| TP208 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部指頭押圧，頸部櫛歯状工具による波状文 | 覆土中 | |
| TP209 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 櫛歯状工具（5本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP210 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP211 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 櫛歯状工具による多段の山形文 | 覆土中 | |
| TP212 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部単節R L縄文施文 | 覆土中 | |
| TP213 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP214 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 頸部単沈線による斜格子文 | 覆土中 | PL83 |
| TP215 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（7本櫛歯）による波状文施文，胴部単節R L縄文施文 | 覆土中 | |
| TP216 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP217 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP218 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP219 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP220 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP221 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP222 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP223 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文後帯状の磨り消し | 覆土下層 | PL83 |
| TP224 | 弥生土器 | 壺 | 石英 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP225 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP226 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP227 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP228 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP229 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP230 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP231 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP232 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 灰黄 | 普通 | 胴部単節L R縄文施文 | 覆土中 | |
| TP233 | 弥生土器 | 壺 | 雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP234 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP235 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP236 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP237 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP238 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP239 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP240 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 暗褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP241 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP242 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 暗褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（5本櫛歯）による山形文 | 覆土中 | |
| TP243 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・赤色粒子 | 暗赤褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文 | 覆土中 | |
| TP244 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・赤色粒子 | 暗赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-------|-------|----|----|------------|------|------|
| DP14 | 勾玉 | (3.0) | 1.6 | (8.8) | 石英・雲母 | 橙 | 普通 | 外面ナデ | 覆土中 | PL87 |

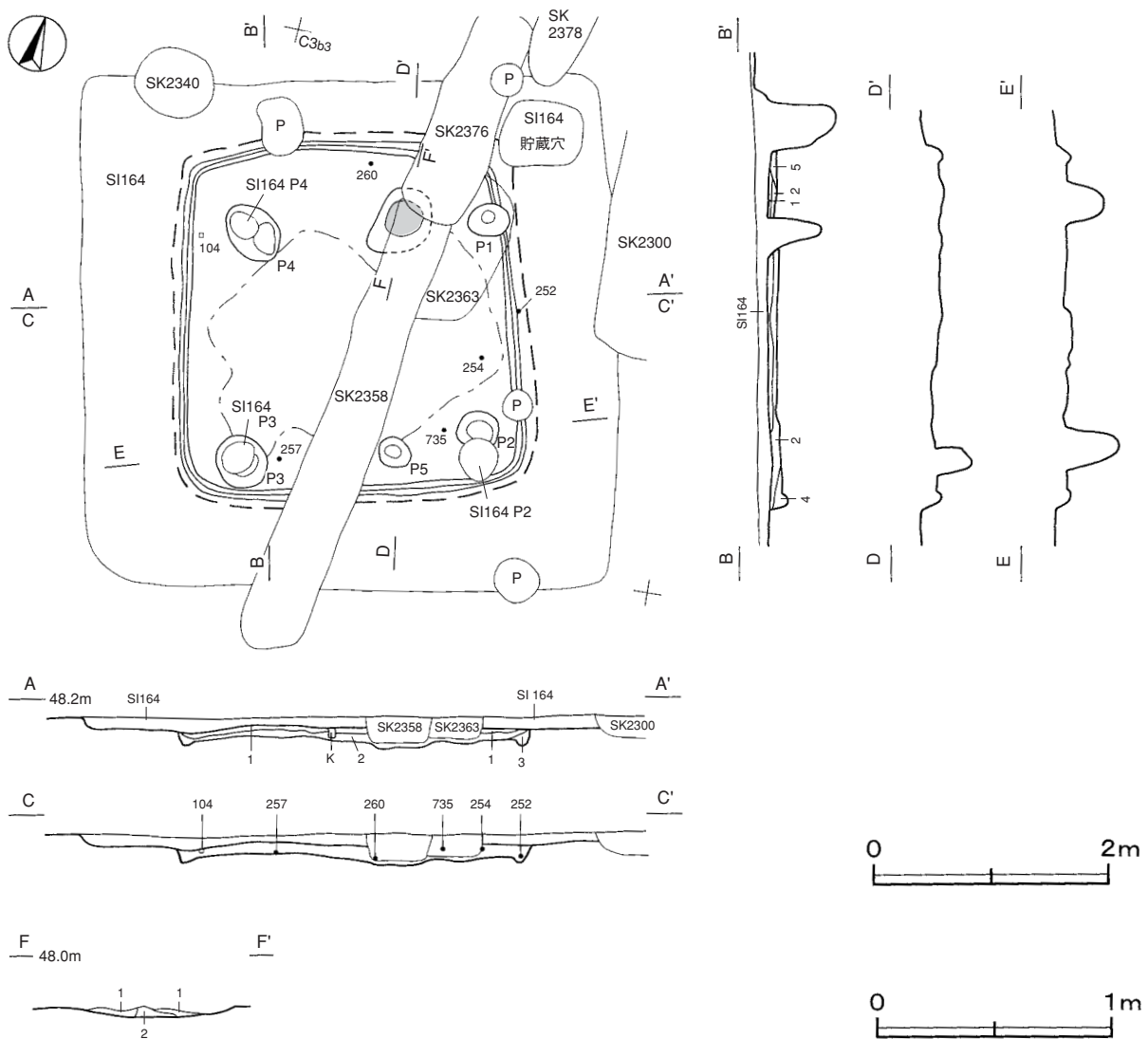
| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|------|------|----------|----|----|----------------------|------|------|
| DP15 | 紡錘車 | 5.0 | 2.1 | 59.1 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 外面ナデ，無文 | 覆土下層 | PL87 |
| DP16 | 紡錘車 | 3.3 | 0.95 | 12.3 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 両面にストロー状工具による放射状の刺突文 | 覆土下層 | PL87 |

第195号住居跡（第21・22図）

位置 西部1区南部のC 3 b3区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第164号住居と第2358・2363・2376号土坑とピット（2か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸・短軸とも3.10mの隅丸方形で，主軸方向はN-16°-Wと考えられる。壁高は4～11cmで，外傾して立ち上がっている。



第21図 第195号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が壁下を全周している。

炉 中央部よりやや北壁寄りに付設されている。長径60cm、短径50cmの楕円形である。床面を6cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変している。

炉土層解説

1 極暗褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

2 赤褐色 焼土ブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は深さが15～30cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P2～P4は第164号住居のP2～P4と重複している。P5は深さが15cmで、南壁際の中央部にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。各層ともロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。なお、土層断面の第1層は硬化しており、第164号住居跡の床面として使用されたと考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

4 黒褐色 ロームブロック少量

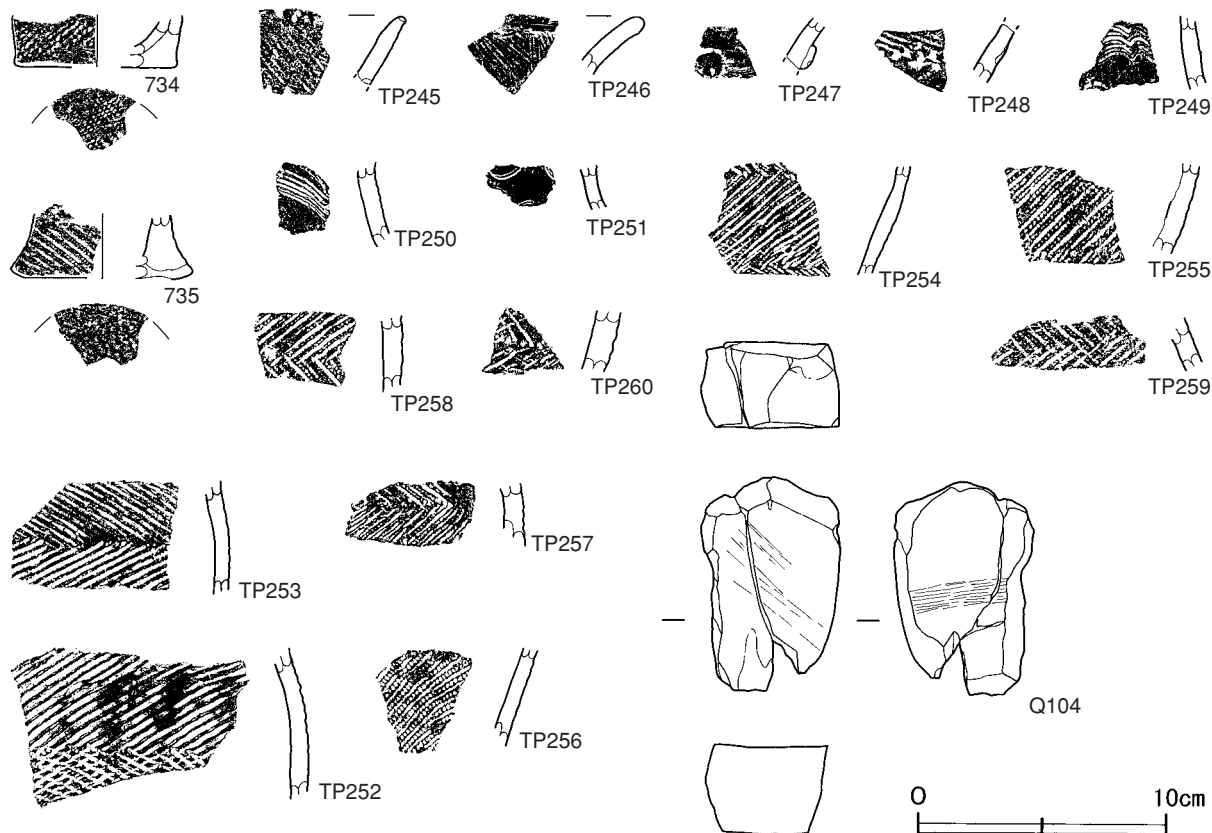
2 黒褐色 ロームブロック微量

5 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 弥生土器片43点（口縁部片3，頸部片3，胴部片35，底部片2），石製品1点（砥石）が出土している。土器の大半は小破片であり、各壁際の覆土下層から出土している。TP252・TP254は東壁際の覆土下層から、735は南東コーナー部から、TP257は南西コーナー部の覆土下層から、Q104は北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。TP260は北壁際の床面から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。古墳時代前期の第164号住居跡は本跡と主軸方向が一致し、規模を大きくして構築している。



第22図 第195号住居跡出土遺物実測図

第195号住居跡出土遺物観察表（第22図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|----|-------|-------|-------|----|----|-------------------------|------|-------------|
| 734 | 弥生土器 | 壺 | — | (2.1) | [6.6] | 石英・長石 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部布目痕 | 覆土中 | 10% PL82 |
| 735 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.0) | [7.3] | 長石・雲母 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部無文 | 覆土下層 | 10% |

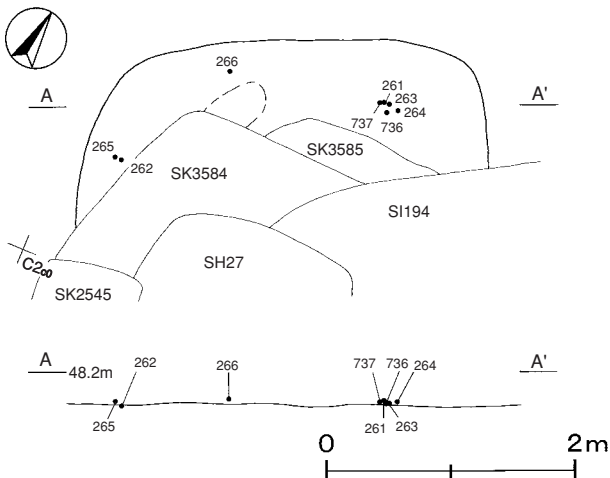
| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|--------------------|-------|----|------------------------------|------|----|
| TP245 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，器表面摩滅により縄文原体不明 | 覆土中 | |
| TP246 | 弥生土器 | 高坏 | 石英・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 坏部外面ハケ目調整 | 覆土中 | |
| TP247 | 弥生土器 | 壺 | 石英・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部瘤貼付，頸部櫛歯状工具による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP248 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後口縁部下端原体押圧 | 覆土中 | |
| TP249 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP250 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（6本櫛歯）による下向きの連弧文施文 | 覆土中 | |
| TP251 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP252 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP253 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP254 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP255 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP256 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP257 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP258 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP259 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 明褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP260 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）を羽状に構成 | 覆土下層 | |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|-----|-----|----|------------------|------|------|
| Q104 | 砥石 | 8.6 | 5.6 | 3.6 | 256 | 頁岩 | 3面が砥面，そのうち2面に線条痕 | 覆土下層 | PL87 |

第208号住居跡（第23・24図）

位置 西部1区南部のC 2 b0区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第194号住居と第27号方形竪穴遺構と第2545・3584・3585号土坑に掘り込まれている。



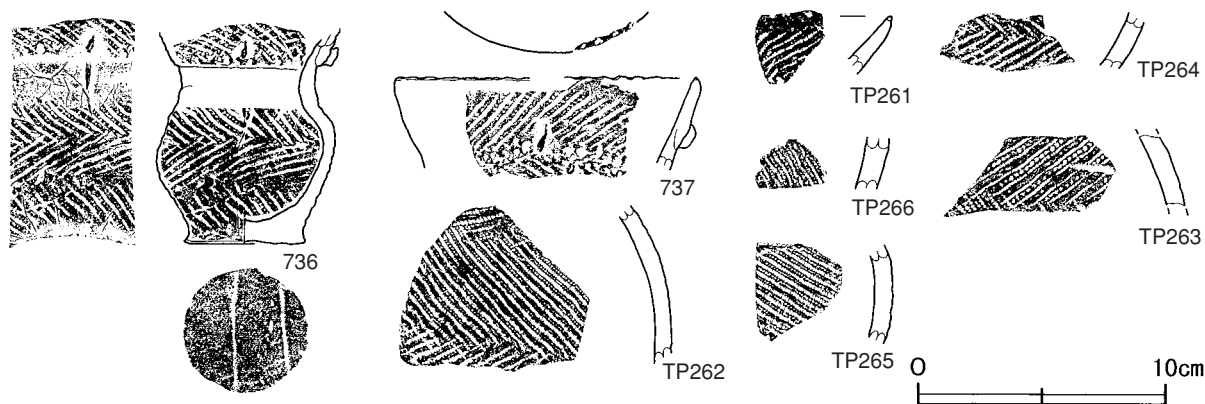
第23図 第208号住居跡実測図

規模と形状 耕作等の攪乱もあり，ほとんど覆土がない状態で確認された。暗褐色を呈した床面が東西長3.29m，南北長0.99mだけが確認されている。形状と主軸方向は不明である。

床 覆土が薄く残っていたところは，平坦で硬化面が確認された。

遺物出土状況 弥生土器片8点（口縁部片1，胴部片6，底部片1）が出土している。

所見 廃絶時期は，出土土器から弥生時代後期と推測される。



第24図 第208号住居跡出土遺物実測図

第208号住居跡出土遺物観察表（第24図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|-------|-----|----------|----|----|--|------|-------------|
| 736 | 弥生土器 | 壺 | — | (8.6) | 4.9 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後縄文原体押圧，瘤貼付，胴部無文，胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，底部木葉痕 | 床面 | 70% PL81 |
| 737 | 弥生土器 | 壺 | [12.0] | (3.7) | — | 長石・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，羽状の中心に結節部押圧，瘤貼付 | 床面 | 10% PL85 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|---------------|----|----|------------------------------------|------|------------|
| TP261 | 弥生土器 | 高坏 | 石英 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，坏部附加条一種（附加2条）縄文施文後縄文原体押圧 | 覆土下層 | |
| TP262 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 床面 | TP265と同一個体 |
| TP263 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 床面 | |
| TP264 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP265 | 弥生土器 | 壺 | 石英 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土下層 | TP262と同一個体 |
| TP266 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土下層 | |

第236号住居跡（第25～27図）

位置 西部1区南部のC 2 f 7区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第166・171・172・226号住居と第2645号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は3.96mで，南北軸は遺構が重複しているため，南北長3.84mだけが確認されており，隅丸長方形と推測される。P 2・P 5間とP 3・P 4間の中心を結ぶラインを主軸とすると，主軸方向はN-42°-Wと考えられる。壁高は10～30cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，P 3・P 4と南壁との間および炉1の周囲が踏み固められている。

炉 中央部に炉が2基付設されている。炉1は長径46cm，短径37cmの楕円形で，床面を5cm掘りくぼめた地床炉である。炉石が住居の主軸方向に直交して炉床面から若干上で確認され，炉床面は赤変している。炉2は長径43cm，短径31cmの楕円形で，床面を8cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変している。2基の炉の覆土上面は硬化していないことから，同時に付設されていたと考えられる。なお，土層断面の第1層に炭化材が出土している。

炉1土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

炉2土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量

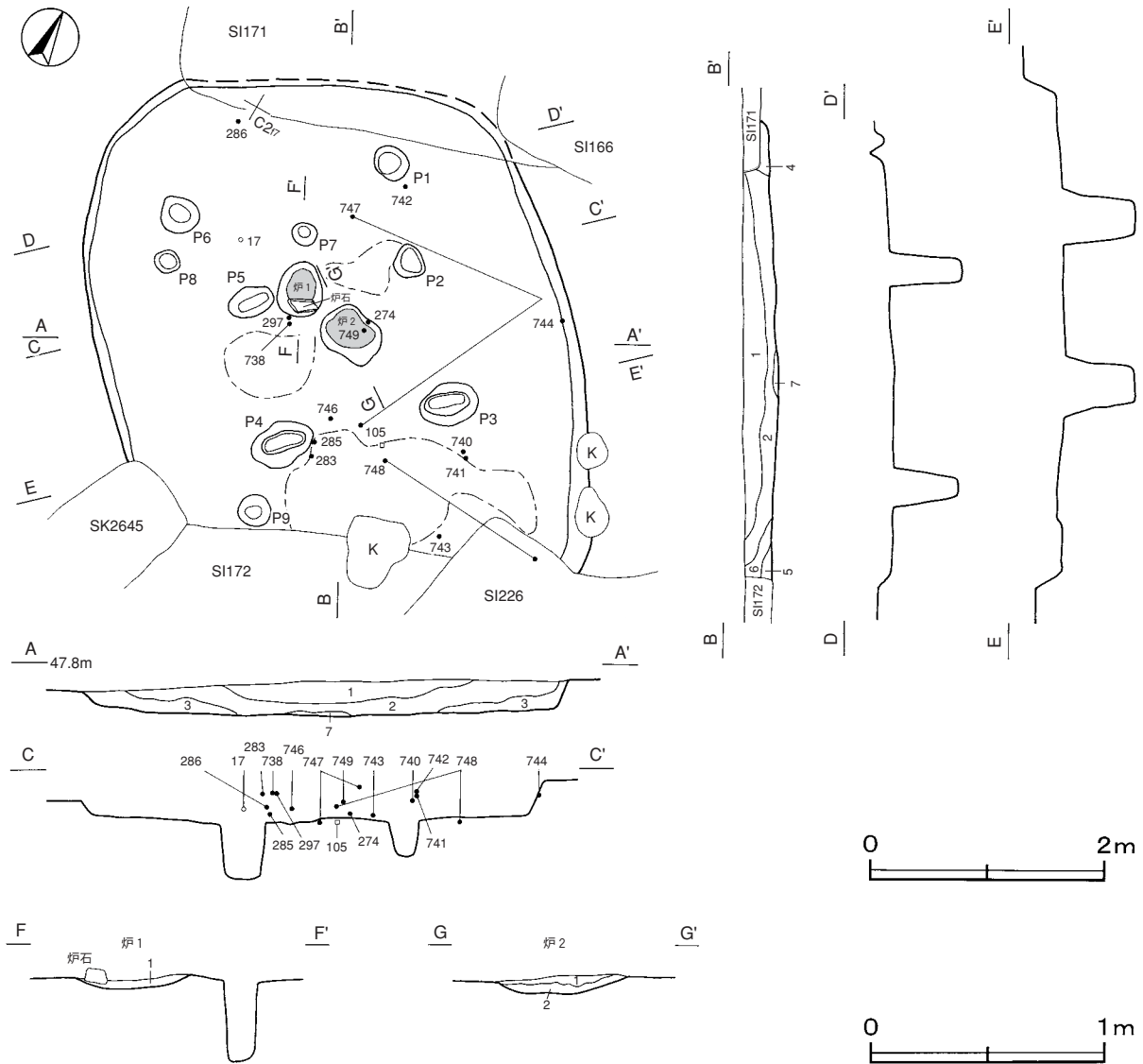
ピット 9か所。P1～P6は深さが55～62cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P8・P9は深さが30cm・81cmで、P4・P6の補助柱穴の可能性が考えられる。P7は深さが30～57cmで、支柱穴の間にあり、炉に近接していることから、炉に関わる補助柱穴の可能性が考えられる。

覆土 7層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒色 | 炭化物少量, ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |

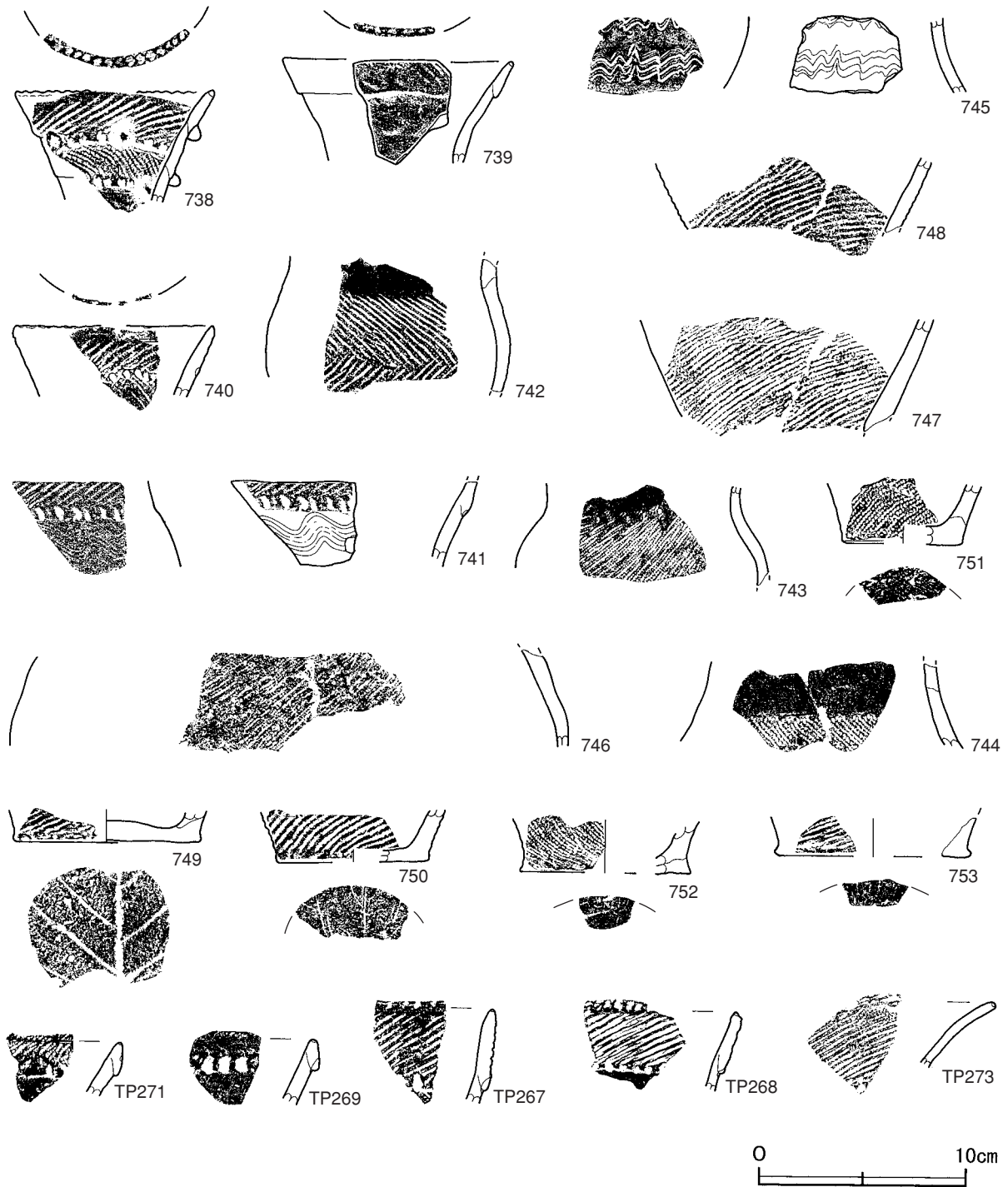
遺物出土状況 弥生土器片143点（口縁部片22, 頸部片14, 胴部片99, 底部片8）, 砥石1点, 不明土製品1点が出土している。土器の大半は小破片であり、全域に散在している。744は東壁際の, 742はP1付近の, 738は炉1周辺の, TP283・TP297は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。746は中央部の, 749は炉2周辺の覆土中層から, TP285は中央部の, TP274は炉2周辺の覆土下層からそれぞれ出土している。740・



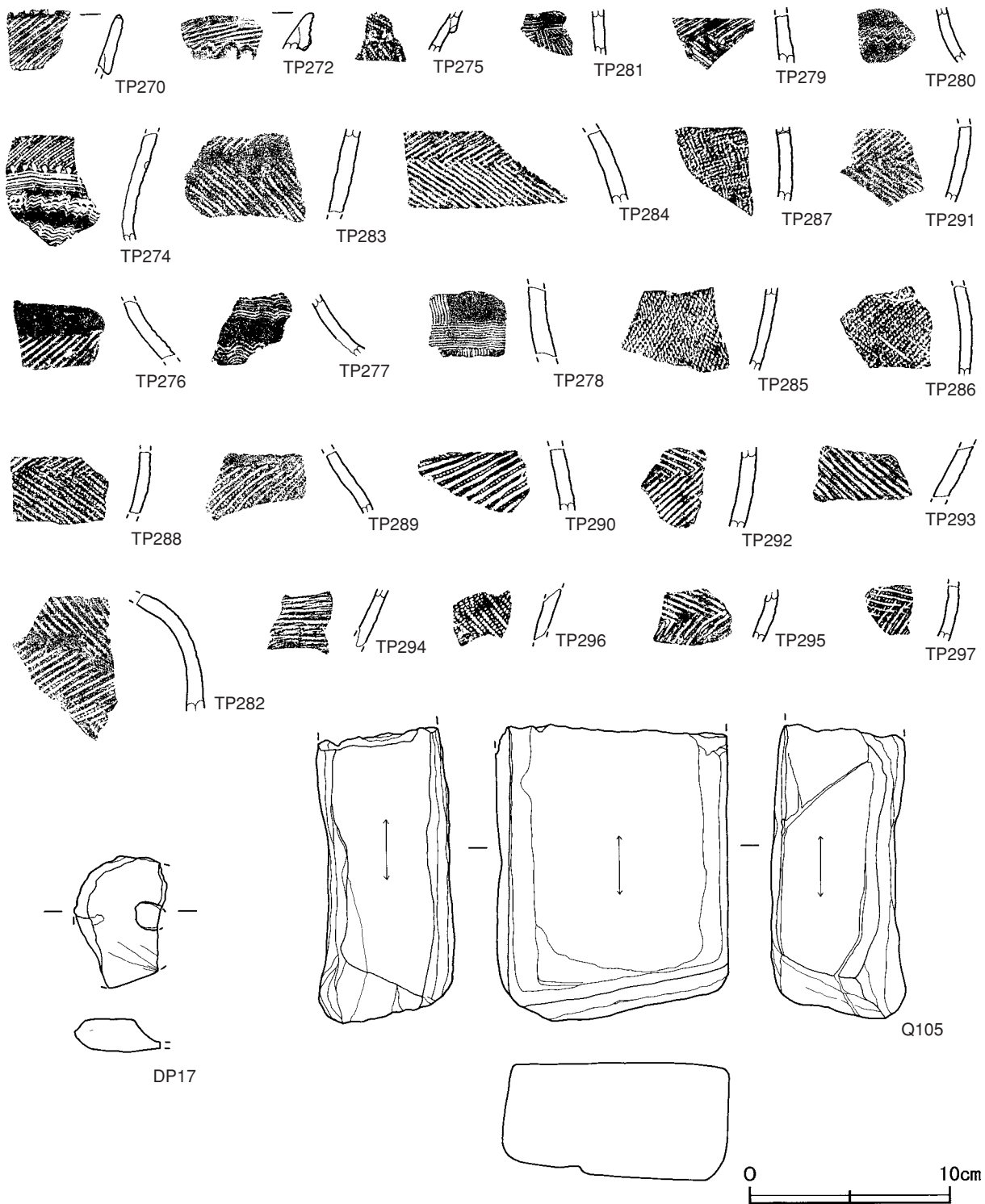
第25図 第236号住居跡実測図

741・743は南壁際の覆土上層と覆土下層から， TP 286は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。747は中央部の覆土上層と床面から出土した破片が， 748は南壁側の覆土中層および南東コーナー部の床面から出土した破片がそれぞれ接合している。これらは覆土上層から覆土下層で出土しており， 離れた位置の破片が接合していることから， 廃絶後のくぼ地に廃棄されたものと考えられる。Q105は中央部の床面から， DP 17は北部覆土中層からそれぞれ出土している。土器の出土状況から， 廃棄されたものと推測される。

所見 廃絶時期は， 出土土器から弥生時代後期と考えられる。



第26図 第236号住居跡出土遺物実測図（1）



第27図 第236号住居跡出土遺物実測図（2）

第236号住居跡出土遺物観察表（第26・27図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|-------|-------|----|----------|----|----|---|------|----------|
| 738 | 弥生土器 | 壺 | [9.7] | (5.4) | — | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，2段の複合口縁で口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，瘤貼付，口縁部下端に縄文原体押圧 | 覆土上層 | 10% PL86 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|-------|-------|-------|----|----|---|---------|-------------|
| 739 | 弥生土器 | 壺 | [11.0] | (4.9) | — | 石英・長石 | 橙 | 普通 | 口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，頸部無文 | 覆土中 | 10% |
| 740 | 弥生土器 | 壺 | [9.6] | (3.4) | — | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成，口縁部下端に原体刺突 | 覆土上層 | 10% |
| 741 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.1) | — | 雲母 | 橙 | 普通 | 口縁部附加条一種縄文施文，頸部櫛歯状工具による波状文 | 覆土上層 | 10% |
| 742 | 弥生土器 | 壺 | — | (6.4) | — | 長石 | 褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文，頸部無文 | 覆土上層 | 10% |
| 743 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.8) | — | 長石・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土下層 | 10% |
| 744 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.1) | — | 長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 頸部無文，胴部単節R L縄文施文 | 覆土上層 | 10% PL84 |
| 745 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.7) | — | 長石 | 褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（4本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | 10% PL85 |
| 746 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.7) | — | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中層 | 10% |
| 747 | 弥生土器 | 壺 | — | (5.5) | — | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土上層，床面 | 10% |
| 748 | 弥生土器 | 壺 | — | (3.6) | — | 長石・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中層，床面 | 10% |
| 749 | 弥生土器 | 壺 | — | 1.5 | [9.0] | 長石 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土中層 | 10% |
| 750 | 弥生土器 | 壺 | — | (2.5) | [7.4] | 雲母 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土中 | 10% |
| 751 | 弥生土器 | 壺 | — | (2.9) | [5.7] | 長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種縄文施文，底部無文 | 覆土中 | 10% |
| 752 | 弥生土器 | 壺 | — | (2.6) | [8.4] | 長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土中 | 10% |
| 753 | 弥生土器 | 壺 | — | (1.9) | [9.0] | 長石 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文，底部無文 | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|------------|-------|----|--|------|------|
| TP267 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後口縁部下端縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP268 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 褐灰 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後口縁部下端縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP269 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部下端棒状工具による押圧 | 覆土中 | |
| TP270 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 褐灰 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧，口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP271 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP272 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後指頭押圧 | 覆土中 | |
| TP273 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・長石 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部縄文施文，口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP274 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部附加条一種（附加2条）縄文施文後口縁部下端原体押圧，口縁部下端櫛歯状工具（5本櫛歯）による横走文で区画，頸部櫛歯状工具（5本櫛歯）による波状文施文 | 覆土下層 | PL83 |
| TP275 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部附加条一種（軸縄不明）縄文施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP276 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・黒色粒子 | 橙 | 普通 | 頸部無文，胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP277 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 明黄褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP278 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（10本櫛歯）の縦走文施文後同一工具による横走文施文 | 覆土中 | |
| TP279 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP280 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（4本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP281 | 弥生土器 | 壺 | 石英 | にぶい褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（3本櫛歯）による区画内にハケメ調整 | 覆土中 | |
| TP282 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP283 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土上層 | |
| TP284 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP285 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部単節L R縄文施文 | 覆土下層 | |
| TP286 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文後単節R L縄文押圧 | 覆土下層 | |
| TP287 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 黒褐 | 普通 | 胴部単節L R縄文を斜方向に施文後単節R L縄文を斜方向に施文 | 覆土中 | |
| TP288 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|----------|-------|----|-----------------------|------|----|
| TP289 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP290 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP291 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP292 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP293 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP294 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）を横位に施文 | 覆土中 | |
| TP295 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土中 | |
| TP296 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加1条）縄文施文 | 覆土中 | |
| TP297 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文を羽状に構成 | 覆土上層 | |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|------|-----|---------|----|---------|------|------|
| Q105 | 砥石 | (14.7) | 11.9 | 6.0 | (2,180) | 砂岩 | 砥面3面,欠損 | 床面 | PL87 |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-------|-----|--------|------------|----|----|-------------|------|------|
| DP17 | 不明土製品 | (5.0) | 2.1 | (59.1) | 石英, 長石, 雲母 | 橙 | 普通 | 孔未貫通, 外面未調整 | 覆土中層 | PL87 |

表2 弥生時代住居跡一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内部施設 | | | | | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) | |
|-----|------|---------|-----------|-------------------|------------|----|------|-----|-----|-----|---|----|-------|---------------------|-----|
| | | | | | | | 壁溝 | 主柱穴 | 出入口 | ピット | 炉 | | | | 貯蔵穴 |
| 134 | B2i0 | N-16°-W | [隅丸方・長方形] | 3.87 × (2.90) | 10~18 | 平坦 | - | 2 | 2 | - | 1 | - | 自然・人為 | 壺形土器, 紡錘車 | 後期 |
| 142 | B2i2 | N-17°-W | [隅丸長方形] | 4.60 × 3.85 | 19~21 | 平坦 | - | 4 | 1 | 2 | 1 | - | 人為 | 壺形土器, 紡錘車, 不明土製品 | 後期 |
| 147 | B2j8 | N-15°-W | 隅丸長方形 | 4.98 × 4.03 | 10~12 | 平坦 | - | 4 | 1 | - | 1 | - | 自然 | 壺形土器, 高坏, 紡錘車 | 後期 |
| 168 | C2e0 | N-40°-W | [隅丸方形] | 3.70 × 3.43 | 7~22 | 平坦 | - | 4 | 1 | 1 | 1 | - | 自然 | 壺形土器 | 後期 |
| 175 | C2b6 | N-38°-W | [隅丸方形] | 5.30 × 5.02 | 4~12 | 平坦 | - | 4 | 2 | - | 1 | 1カ | 人為 | 壺形土器, 紡錘車 | 後期 |
| 193 | C2h9 | N-16°-W | 隅丸長方形 | 4.75 × 3.60 | 15~33 | 平坦 | - | 4 | 2 | - | 1 | - | 自然 | 壺形土器, 甕形土器, 紡錘車, 勾玉 | 後期 |
| 195 | C3b3 | N-16°-W | 隅丸方形 | 3.10 × 3.10 | 4~11 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | - | 1 | - | 人為 | 壺形土器, 砥石 | 後期 |
| 208 | C2b0 | - | - | (3.29) × (0.99) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 壺形土器 | 後期 |
| 236 | C2f7 | N-42°-W | [隅丸長方形] | 3.96 × (3.84) | 10~30 | 平坦 | - | 6 | - | 3 | 2 | - | 自然 | 壺形土器, 砥石, 不明土製品 | 後期 |

(2) 土坑

第2346号土坑 (第28図)

位置 西部1区北部のC 2 a0区で, 平坦な台地上に位置している。近辺には弥生時代の第134・147・175・195・208号住居跡がある。

重複関係 第2295号土坑に掘り込まれている。

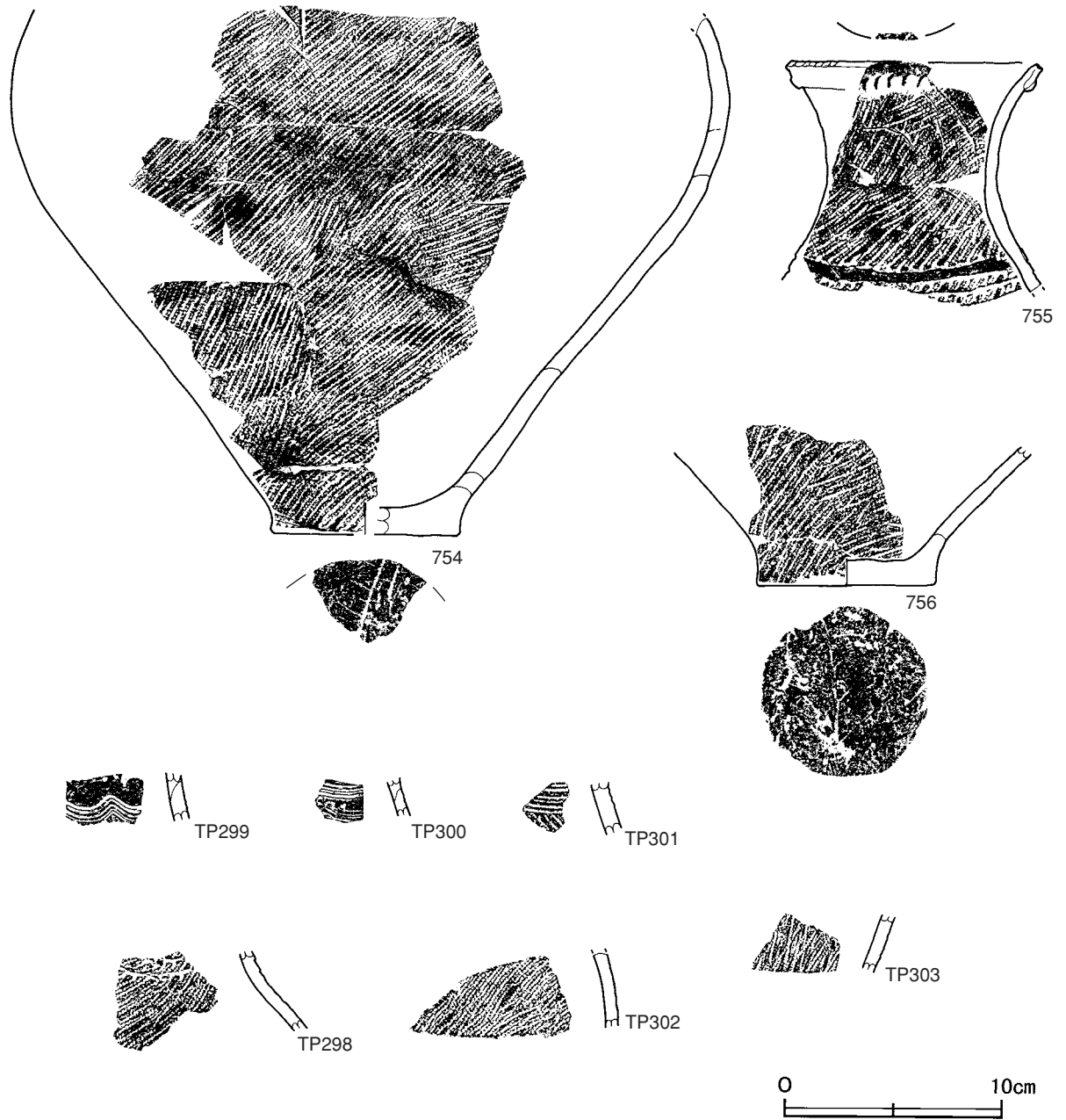
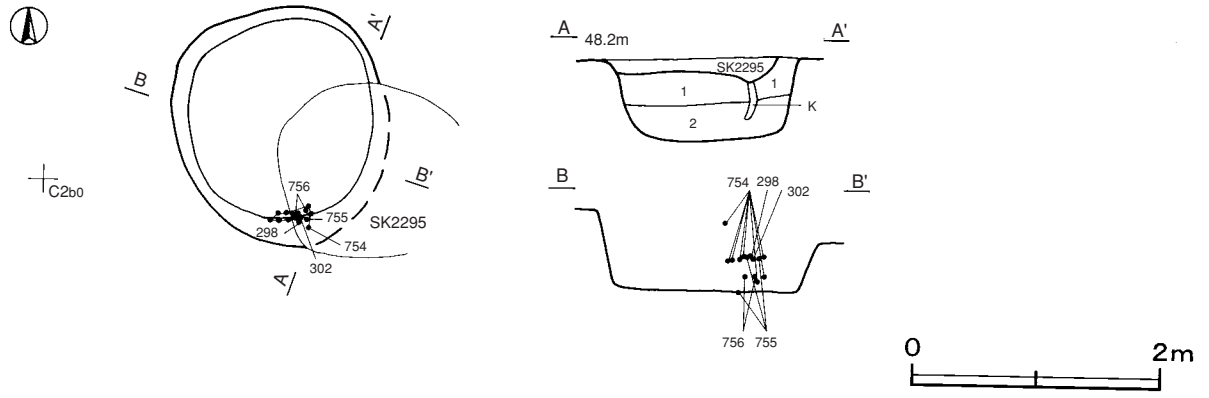
規模と形状 長径1.92m, 短径1.67mの楕円形で, 長径方向はN-12°-Wである。深さは65cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 2層に分層される。各層ともロームブロックを含んでいることや堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片40点 (頸部片5, 胴部片32, 底部片3) が南壁際に集中して出土している。TP



第28图 第2346号土坑·出土遺物实测图

298・TP302は覆土中層から、756は覆土下層からそれぞれ出土している。754は覆土上層から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。755は覆土中層と底面から出土した破片が接合したものである。大半が小破片であることや離れた位置の破片が接合していることから、廃絶時の埋め戻す際に廃棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。周囲に該期の住居跡があり、それらとの関連が考えられるが性格は不明である。

第2346号土坑出土遺物観察表（第28図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|--------|-------|-------|----|----|--|-------------|-------------|
| 754 | 弥生土器 | 壺 | — | (24.0) | [8.5] | 石英・雲母 | 赤褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部木葉痕 | 覆土上層～下層 | 20% |
| 755 | 弥生土器 | 壺 | [11.2] | (10.5) | — | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部下端指頭押圧，頸部附加条一種（附加2条）縄文施文後帯状の横位に磨り消し | 覆土中層， 底面 | 20% PL80 |
| 756 | 弥生土器 | 壺 | — | (6.3) | 8.2 | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文，底部無文 | 覆土下層 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 文様および手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|----------|------|----|-------------------------------|------|----|
| TP298 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中層 | |
| TP299 | 弥生土器 | 壺 | 長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 口縁部縄文原体押圧，櫛歯状工具（5本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP300 | 弥生土器 | 壺 | 石英・雲母 | 黒褐 | 普通 | 櫛歯状工具（4本櫛歯）による横走文と廉状文施文 | 覆土中 | |
| TP301 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 櫛歯状工具（6本櫛歯）による横走文と斜走文施文 | 覆土中 | |
| TP302 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 胴部附加条一種（附加2条）縄文施文 | 覆土中層 | |
| TP303 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 胴部附加条一種（軸縄不明）縄文施文 | 覆土中 | |

表3 弥生時代土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|------|------|---------|-----|----------------|--------|----|----|----|------|------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸)(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| 2346 | C2a0 | N-12°-W | 楕円形 | 1.92×1.67 | 65 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 壺形土器 | 後期 |

2 古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居跡32軒，方形竪穴遺構9基，土坑1基，溝跡1条を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第101号住居跡（第29～31図）

位置 西部2区中央部のB2h2区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第125・142号住居跡を掘り込み，第132号住居と第2133号土坑とピット（1か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.97m，短軸3.85mの方形で，主軸方向はN-26°-Wである。壁高は26～31cmで，直立している。

床 ほほ平坦で，中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が壁下を全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までが130cm，袖部幅が95cm，火床部幅が52cmである。袖部は床面上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで，火床面が火熱で赤変している。煙道部は壁外へ42cm掘り込んだあと砂質粘土を貼り付けて構築されており，急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | |
|---------|--------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量，粘土ブロック微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子中量，粘土粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量 | 10 暗褐色 | 粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 11 黒褐色 | 粘土粒子中量，焼土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 12 灰褐色 | 粘土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 6 灰褐色 | 粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 | 13 褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さが35～48cmで，位置と規模から主柱穴と考えられる。主柱穴については断ち割り調査を行い，土層を観察した。土層断面の第1層は柱痕跡で，締まりが弱い。P4の柱のあたり痕から推定される柱の径は10cmである。第2層は埋土で，強く突き固められている。P5は深さが12cmで，南壁際の中央部にあることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

P1～P4土層解説（各柱穴共通）

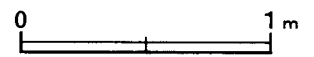
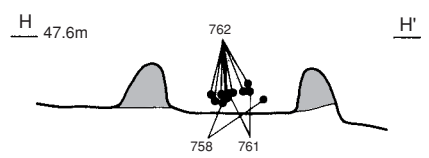
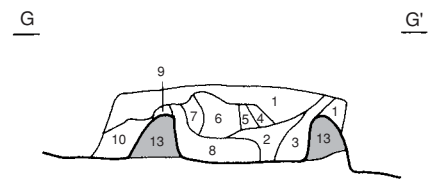
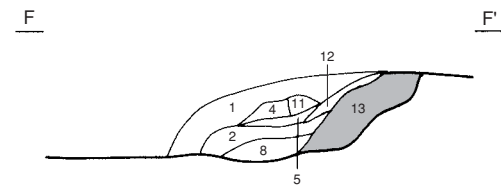
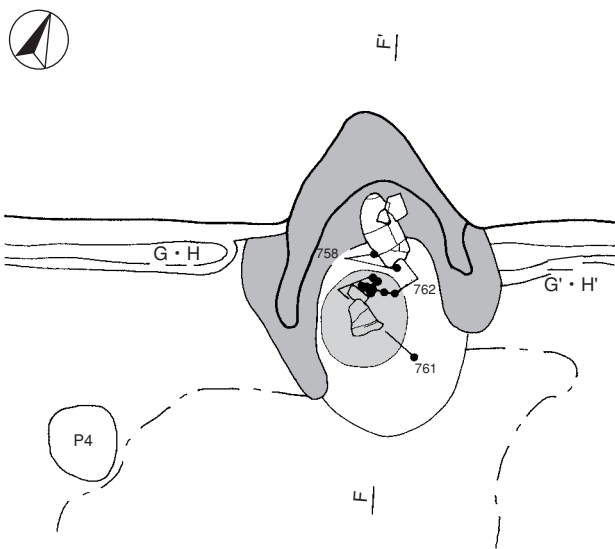
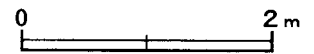
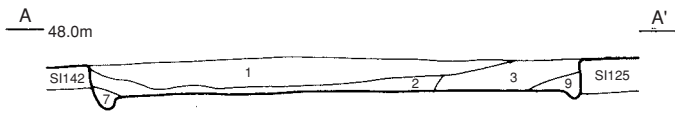
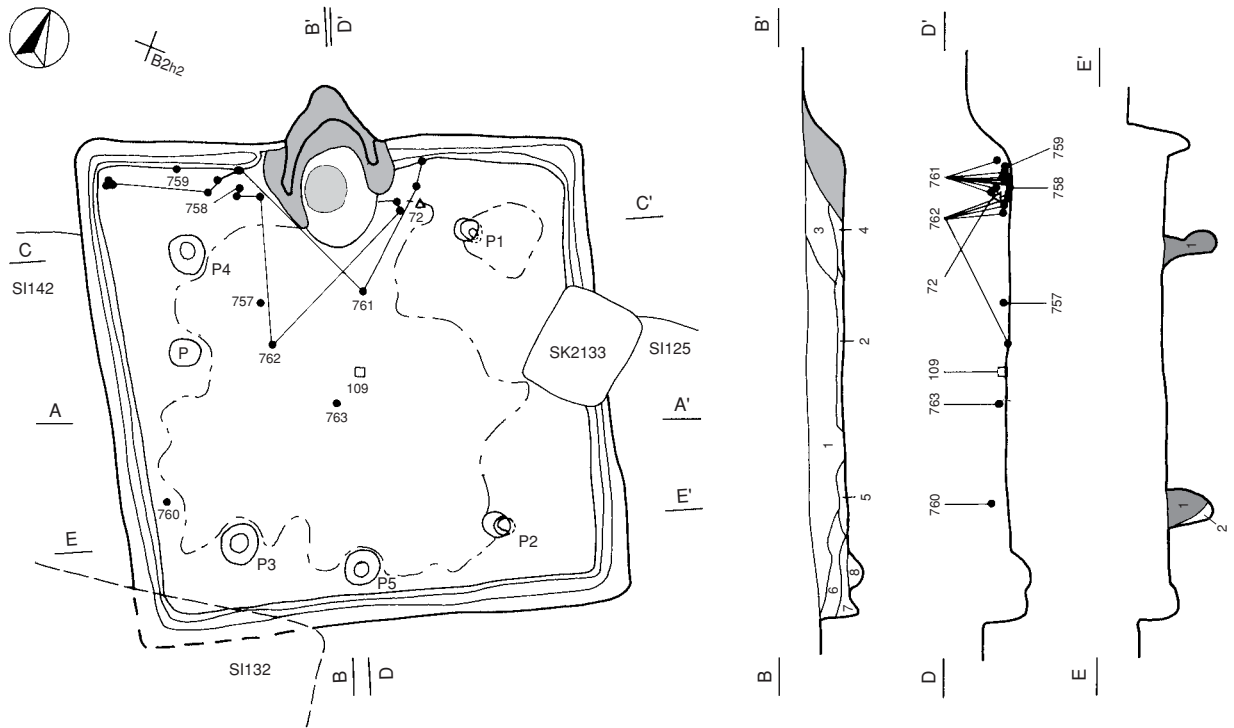
| | | | |
|------|---------|-------|-----------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック多量 |
|------|---------|-------|-----------|

覆土 9層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから，自然堆積と考えられる。

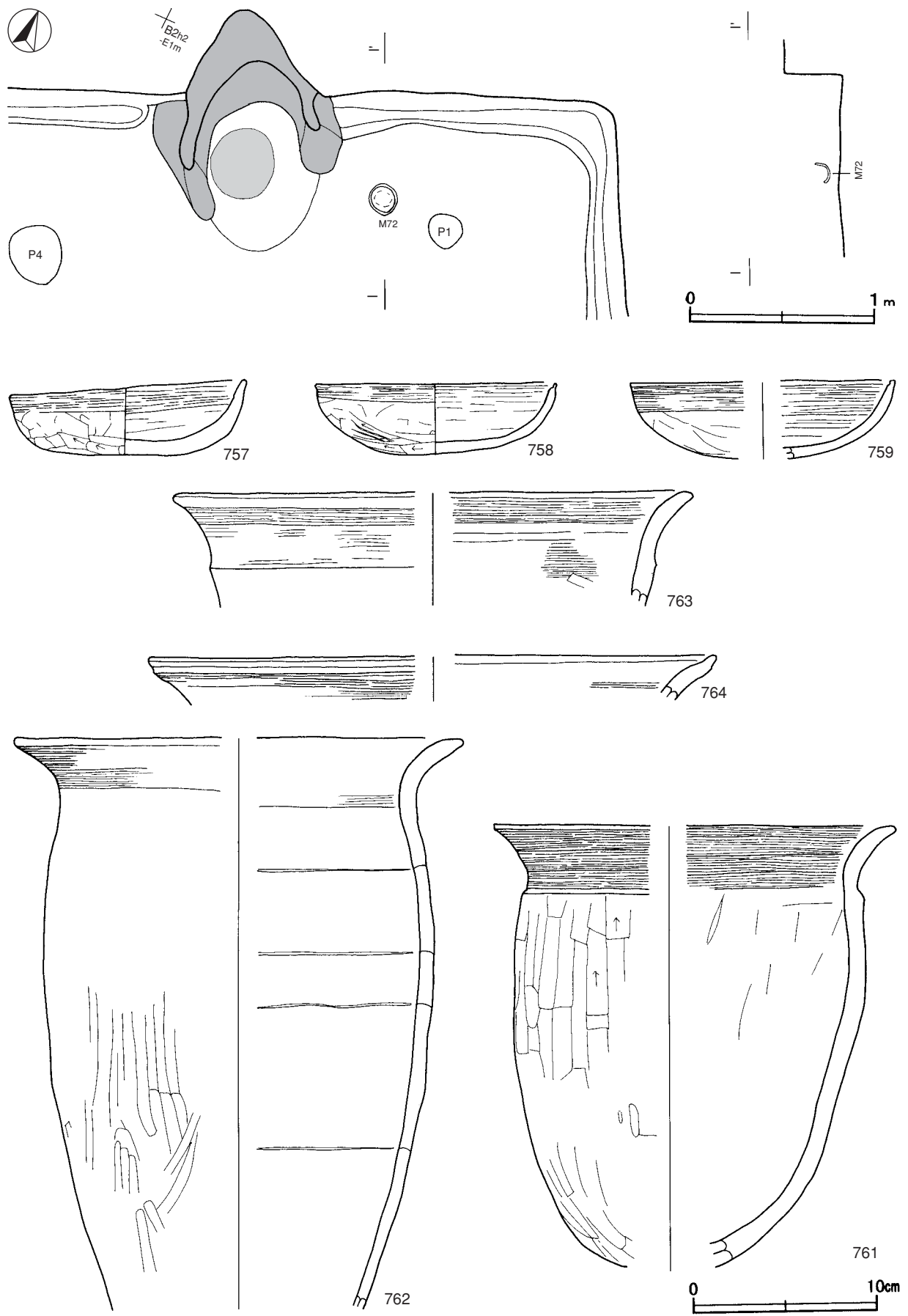
土層解説

| | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片652点（坏133，高坏2，碗1，甕516），手捏土器1点，石器1点（敲石），石製品5点（砥石），銅製品1点（銅鏡）が出土している。土器は中央部および北壁際に集中している。758は竈内と竈左袖部横の覆土下層から出土した破片が接合したものである。761は竈内と竈右袖部および左袖部の脇と北西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。762は竈内の破損品と竈前および中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。759は北西コーナー部の覆土下層から，757・763は中央部の覆土下層から，760は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。これらは破片や破損品であり，覆



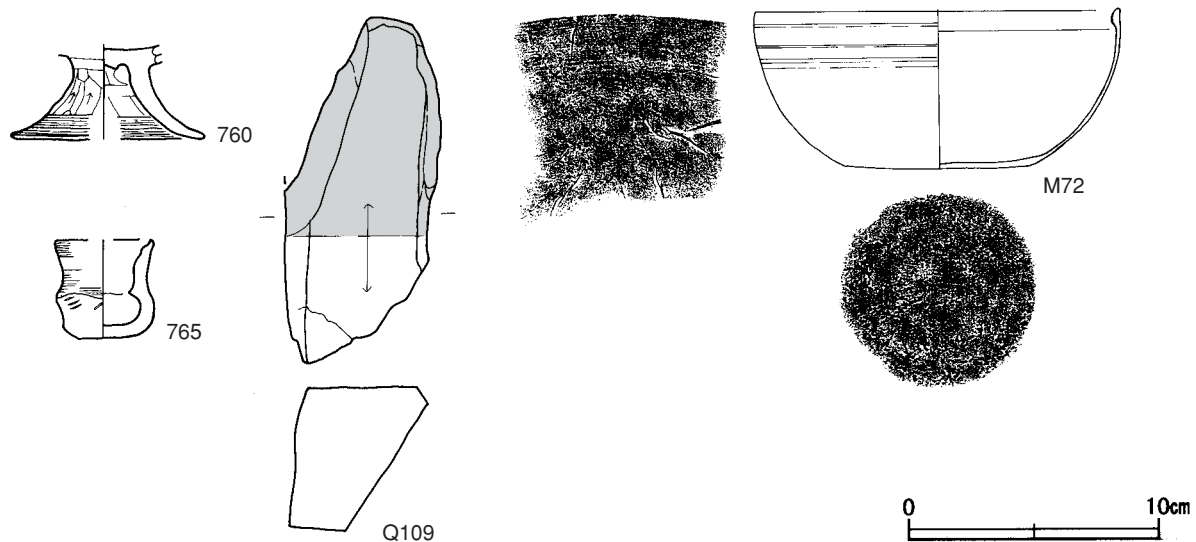
第29图 第101号住居跡実測図



第30图 第101号住居跡・出土遺物実測図

土中層および覆土下層から出土していることや、離れた位置から出土した破片が接合関係にあることから、廃絶後のくぼ地に廃棄されたと考えられる。竈内から出土したのも、天井部の崩落土層より上の自然堆積層から出土しており、廃棄されたものと考えられる。Q109は中央部の床面から出土している。M72はほぼ完形であり、竈右袖部の脇の床面より5cmほど上で、斜位で出土している。Q109・M72も土器の出土状況から、廃棄されたものと推測される。Q109は火熱による赤変が3分の1ほど認められる。赤変していない部分が地中に埋められ、支脚として使用されていたと推測される。また、その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は、757～762から7世紀前半ないしそれ以前と考えられる。主に後期・終末期古墳および横穴墓に副葬される銅鏡が出土している。



第31図 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表（第30・31図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|--------|-------|---------------|-------|----|--|----------------|-------------|
| 757 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 4.1 | 5.6 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，底部不定方向ヘラケズリ | 覆土下層 | 75%，PL88 |
| 758 | 土師器 | 坏 | 12.9 | 3.9 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，底部不定方向ヘラケズリ | 覆土下層 | 70% |
| 759 | 土師器 | 坏 | [14.2] | (4.1) | — | 長石・雲母少量 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 覆土下層 | 40% |
| 760 | 土師器 | 高坏 | — | (3.7) | [7.5] | 雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 脚部外面ヘラケズリ，裾部内・外面横ナデ | 覆土中層 | 20% |
| 761 | 土師器 | 甕 | [21.4] | (24.0) | — | 石英・長石・雲母・小礫 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 竈内，竈右袖部脇覆土下層 | 45% PL88 |
| 762 | 土師器 | 甕 | [23.8] | (30.9) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後体部下半ヘラミガキ，内面ナデ，輪積み痕残存 | 竈内，竈前覆土下層，覆土下層 | 30% |
| 763 | 土師器 | 甕 | [27.2] | (6.2) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 764 | 土師器 | 甕カ | [30.6] | (2.4) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ | 覆土中 | 10% |
| 765 | 手捏土器 | — | [3.8] | 3.9 | 2.0 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 指頭による整形，口縁部外面横ナデ，底部ヘラケズリ | 覆土中 | 70% PL95 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 重量 | 材質 | 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|------|----|--------|-------|--------|----|---------------------|------|-------|
| Q109 | 砥石 | (13.7) | (6.1) | (58.6) | 砂岩 | 砥面1面, 火熱により3分の1ほど赤変 | 床面 | PL102 |

| 番号 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|-----|----|------|-----|-----|-------------------|--|------|--------------|
| M72 | 銅鏡 | 14.4 | 6.3 | 7.2 | 緑青による薄緑で, 元の色調は不明 | 底部は平底で無台であり, 底部から体部へは緩やかに立ち上がって, 口縁部はやや内湾みである。口縁部内面は肥高して稜をなす。口縁部外面には二本一對の細線が, 体部中段には二本一對と三本一對の細線が二段でそれぞれ周回している。底部外面には范キズ状の痕跡がある。 | 覆土下層 | 98% PL122 |

第102号住居跡 (第32~34図)

位置 西部2区北部のB 2 a1区で, 平坦な台地上に位置している。

重複関係 第103号住居に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱が激しく, 残存している壁から長軸5.09m, 短軸5.00mの方形と考えられ, 主軸方向はN-47°-Eである。壁高は18~26cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が東・西・南壁下に部分的に確認されている。

竈 北東壁の右寄りに付設されている。焚口部から煙道部までが99cm, 袖部幅が78cm, 火床部幅が45cmである。火床部は床面を皿状に9cm掘りくぼめ, ロームブロックを含んだ暗褐色土で埋め戻して構築されている。火床面は火熱で赤変硬化しており, 中央部に角礫状の砂岩製支脚が若干埋め込まれ, 直立した状態で出土している。支脚は火熱で赤変し, ひび割れている。袖部は床面上に砂質粘土で構築されており, 右袖部先端には, 補強材である板状の砂岩が深さ10cmのピット状の掘り込みに埋め込まれ, 直立した状態で出土している。煙道部は壁外へ12cm掘り込んでおり, 急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 10 灰黄色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |

ピット 5か所。P 1~P 4は深さが52~67cmで, 位置と規模から主柱穴と考えられる。P 5は深さが10cmで, 西壁際のやや北寄りにあり, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 竈右袖部の右側に位置している。径58cmの円形で, 深さは40cmである。底面は平坦で, 壁は直立している。

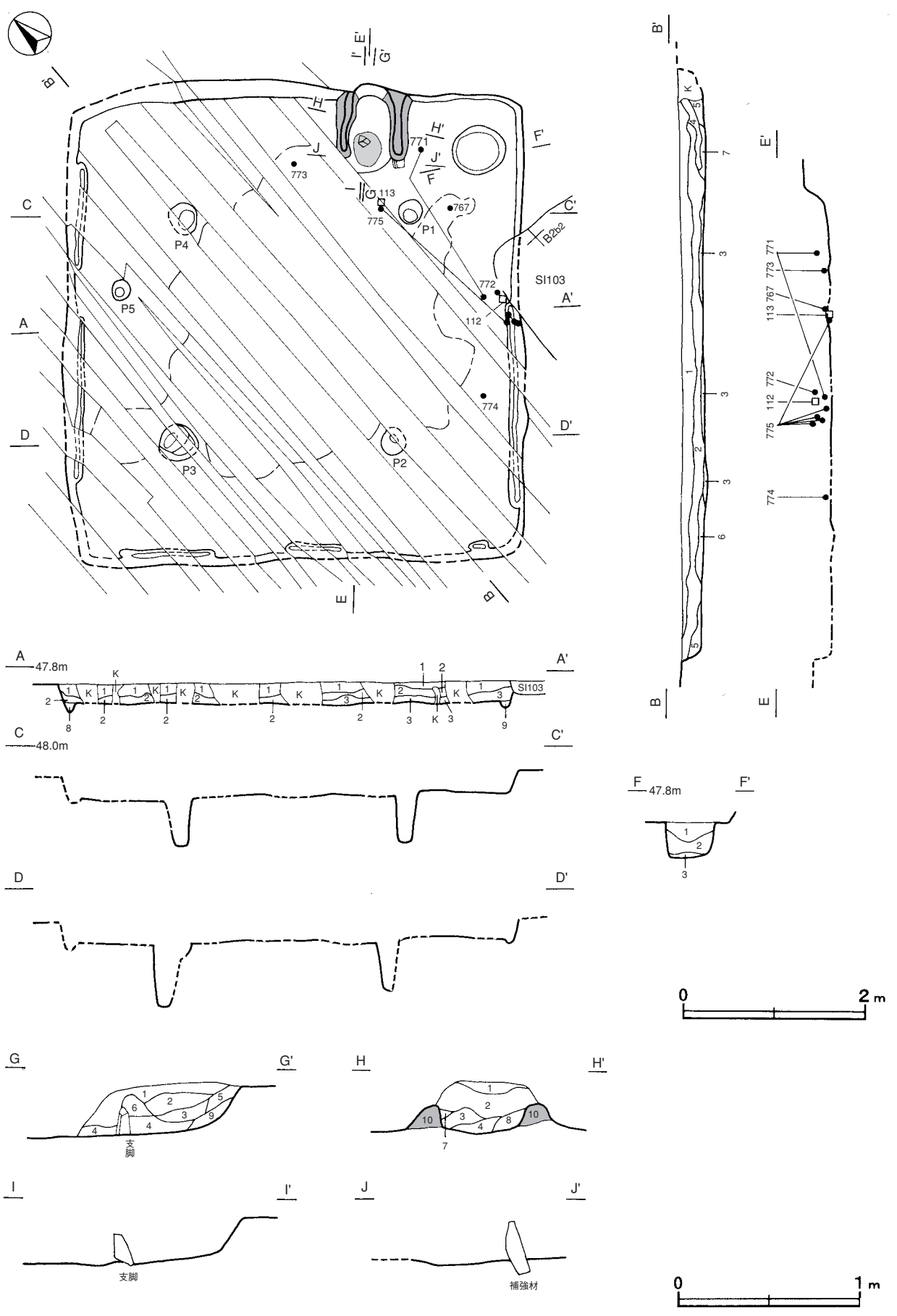
貯蔵穴土層解説

| | | | |
|-------|----------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 灰褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 9層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

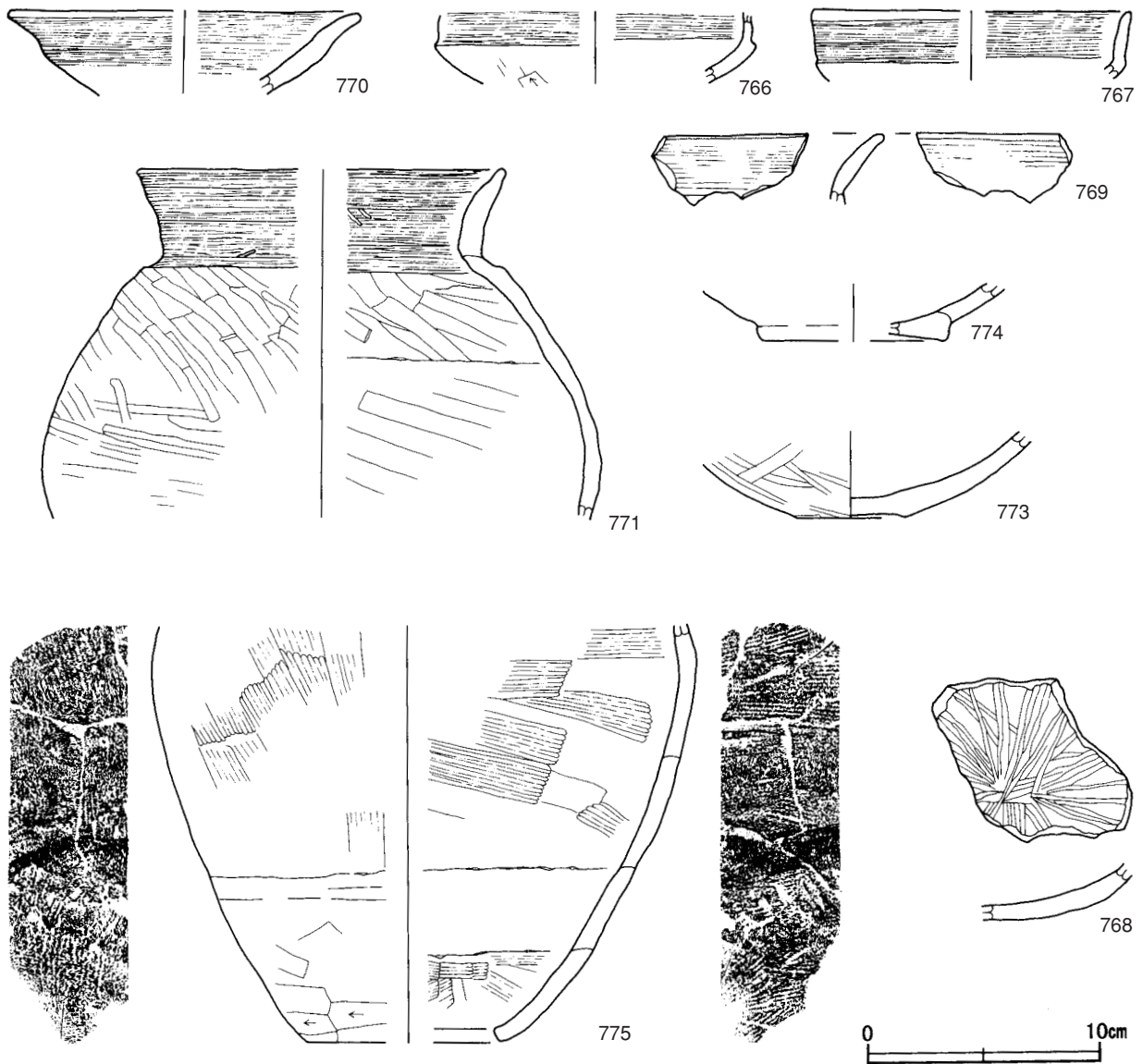
| | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |



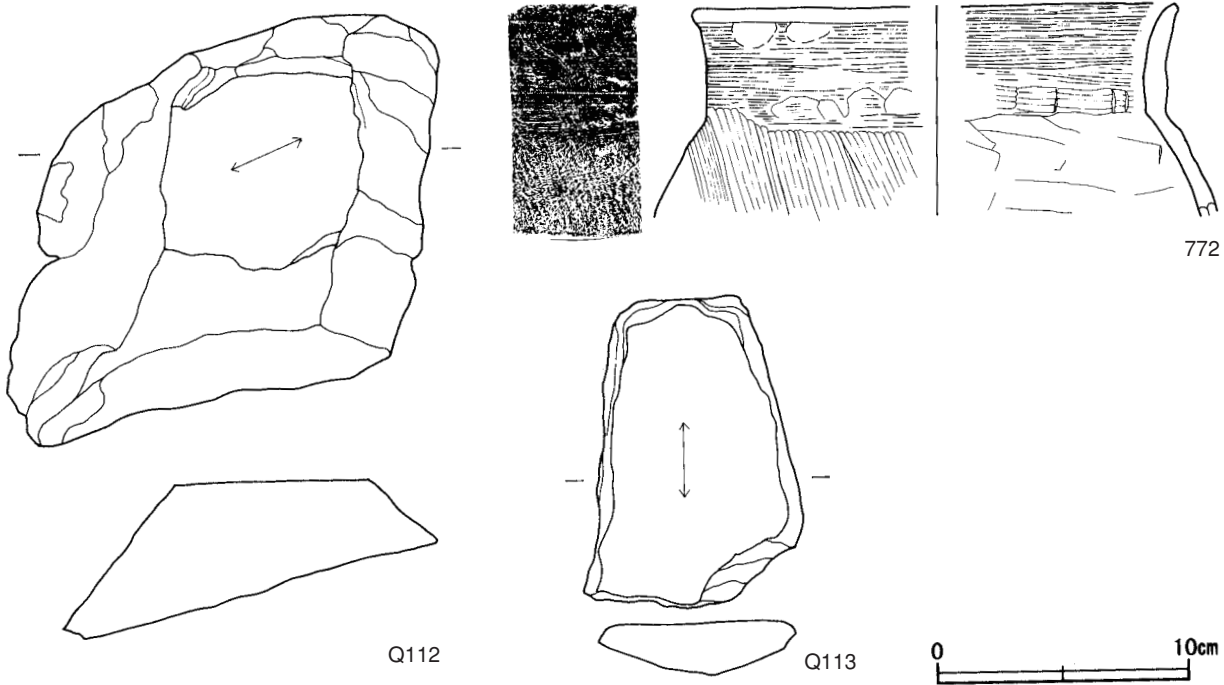
第32图 第102号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片608点（坏102，高坏3，椀2，甕500，甑1），石製品6点（砥石），不明鉄製品1点，粘土塊が出土している。土器は竈右袖部の脇および東壁際に集中している。773は竈左袖部の脇の覆土下層から，767は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。771は北東コーナー部と東壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。774は東壁際の覆土下層から，772は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。775は東壁際の覆土中層と，覆土下層から出土した破片が接合したものである。これらは破片や破損品であり，覆土中層および覆土下層から出土していることや，離れた位置から出土した破片が接合関係にあることから，廃絶後のくぼ地に廃棄されたと考えられる。Q112は東壁際の覆土中層から割れた状態で，Q113は竈の前の覆土下層からそれぞれ出土している。Q112・113は破損品であり，これらも廃絶後くぼ地に廃棄されたと考えられる。766・768・769・770は覆土中から出土している。また，その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は，766・767・769～771から5世紀末～6世紀前半ないしそれ以前と考えられる。支脚が火床面の中央部にあり，燃烧部幅とこの時期の甕の胴部径から類推すると，一掛け竈と推測される。



第33図 第102号住居跡出土遺物実測図（1）



772

第34図 第102号住居跡出土遺物実測図（2）

第102号住居跡出土遺物観察表（第33・34図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|-------|--------------------|-------|----|---|------|-------------------------|
| 766 | 土師器 | 坏 | — | (3.0) | — | 石英・雲母少量・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 覆土中 | 10% |
| 767 | 土師器 | 坏 | [13.4] | (2.9) | — | 雲母・白色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 768 | 土師器 | 椀カ | — | (2.4) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 赤褐 | 普通 | 底部外面ヘラケズリ，内面放射状のヘラミガキ | 覆土中 | 10% |
| 769 | 土師器 | 坏 | — | (2.9) | — | 雲母・白色粒子・小礫 | 褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ | 覆土中 | 20% |
| 770 | 土師器 | 高坏 | [14.8] | (3.6) | — | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 坏部内・外面横ナデ | 覆土中 | 10% |
| 771 | 土師器 | 甕 | [15.4] | (15.0) | — | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ヘラナデ，体部内面輪積み痕残存 | 覆土下層 | 20% |
| 772 | 土師器 | 甕 | [19.0] | (8.4) | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面指頭押圧ぎみの横ナデ，体部外面ハケ目調整後ナデ，内面ナデ | 覆土中層 | 20% |
| 773 | 土師器 | 甕 | — | (3.7) | 4.6 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面下半・底部内面ナデ，底部ヘラケズリ | 覆土下層 | 10% |
| 774 | 土師器 | 甕 | — | (2.4) | [8.0] | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 底部周縁・底部内面ナデ，底部ヘラケズリ後ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 775 | 土師器 | 甕 | — | (17.8) | [8.2] | 石英・長石・雲母・小礫 | にぶい褐 | 普通 | 体部内・外面条線が太いハケ目調整 | 覆土中層 | 50% 底部から7.5cmほど上に帯状の摩滅痕 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|--------|-------|----------|----|------------|------|-------|
| Q112 | 砥石 | (17.0) | (17.4) | (6.1) | (1820.0) | 砂岩 | 砥面1面，置き砥石カ | 覆土中層 | PL102 |
| Q113 | 砥石 | (12.4) | (8.6) | (2.4) | (331.0) | 砂岩 | 砥面1面 | 覆土下層 | PL102 |

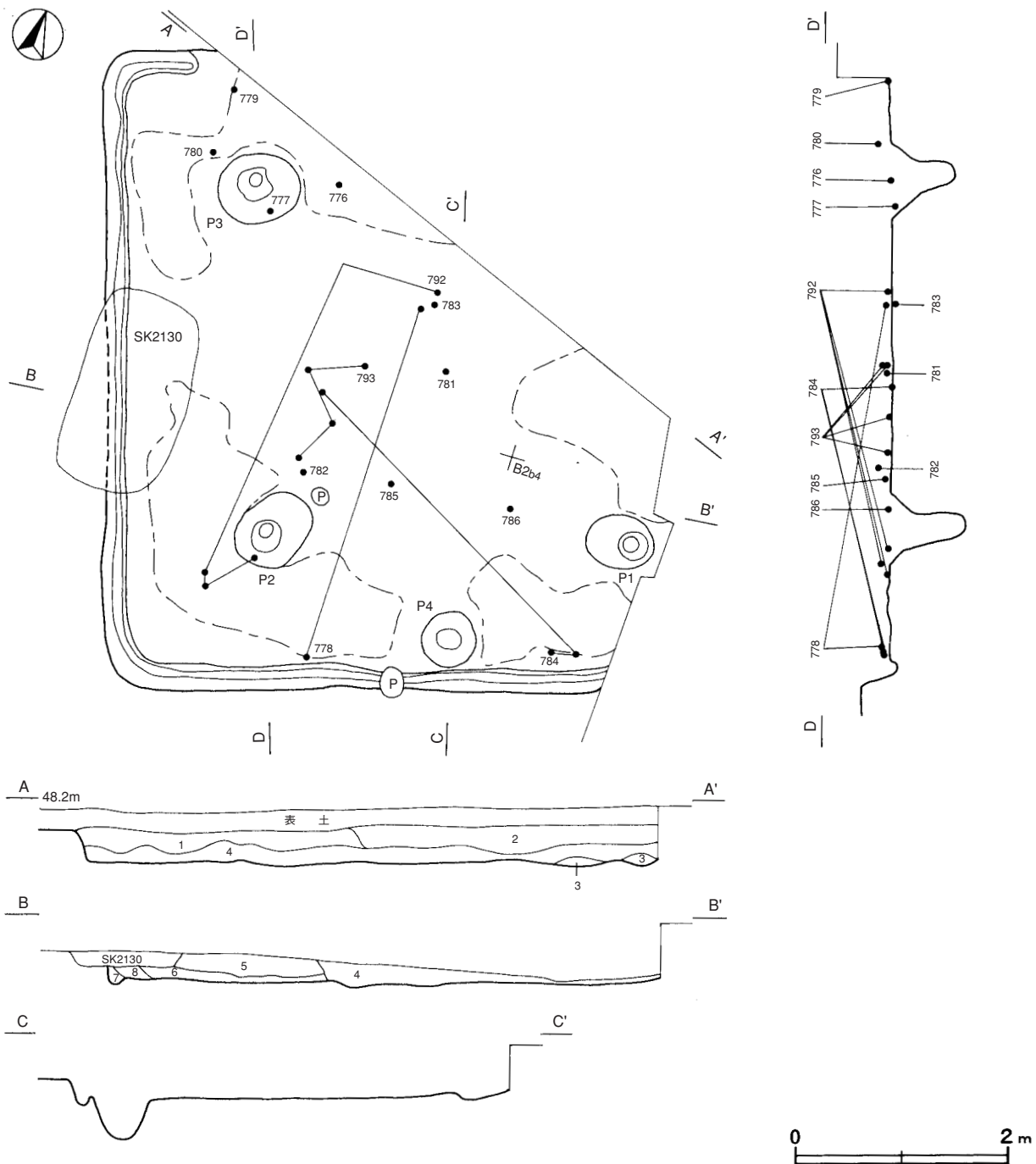
第104号住居跡 (第35・36図)

位置 西部2区北部のB 2 b3区で、平坦な台地上に位置している。

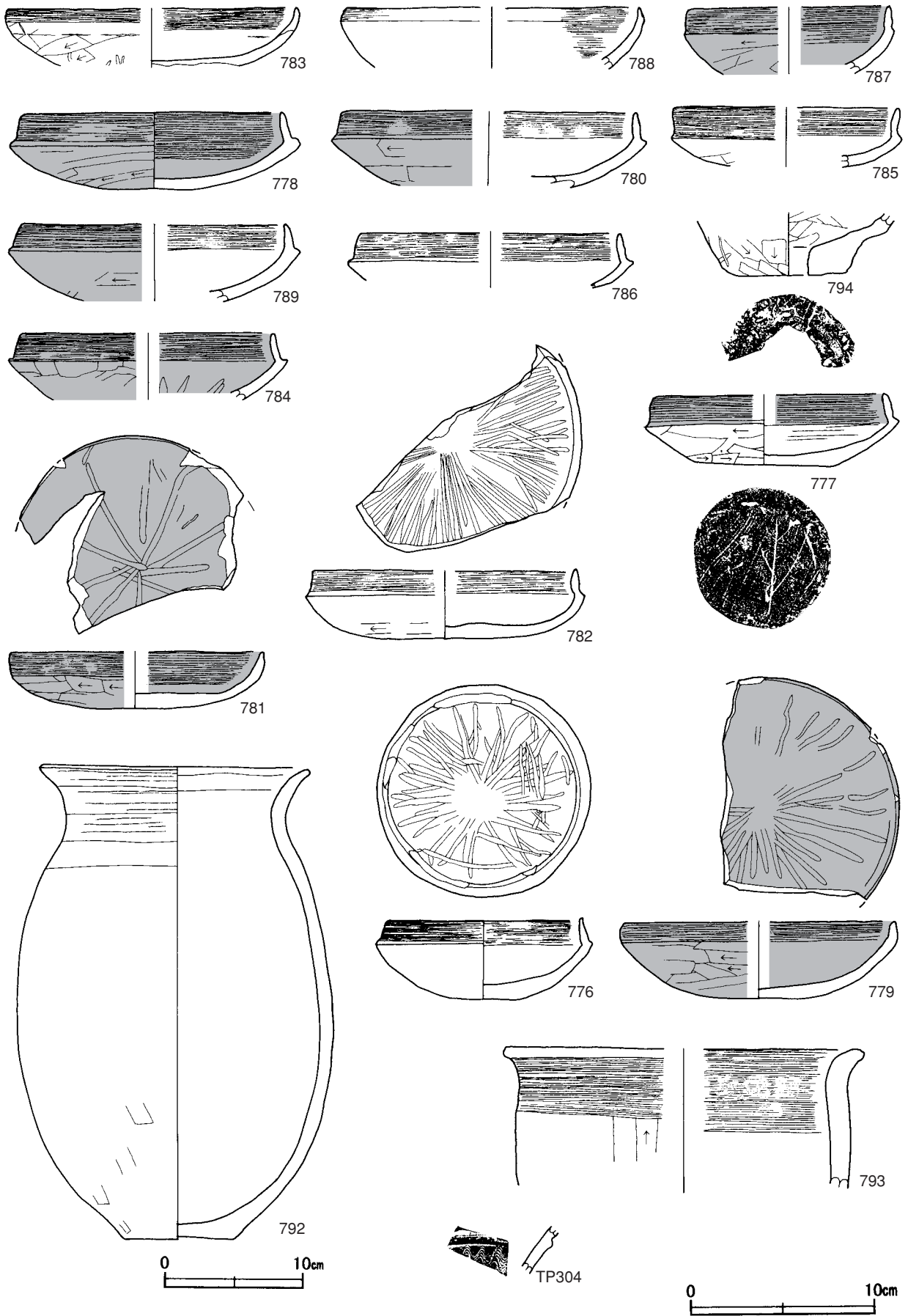
重複関係 第2130号土坑とピット (2か所) に掘り込まれている。

規模と形状 北壁の一部と東壁側が調査区域外に延びており、東西軸5.25m、南北軸5.98mだけが確認され、方形と推測される。P 4を通る南北軸を主軸とすると、主軸方向はN-16°-Wと考えられる。壁高は土層断面で45cm確認され、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁に沿った主柱穴の外側が踏み固められている。断面U字状の壁溝が北壁下の一部を除いて壁下に巡っている。



第35図 第104号住居跡実測図



第36图 第104号住居跡出土遺物実測図

ピット 4か所。P1～P3は深さが60～67cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。P4は深さが40cmで、南壁際の中央部にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 5 黒色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片819点（坏225，高坏5，碗1，甕587，甑1），須恵器片4点（甕3，壺1），石製品1点（砥石）が出土している。土器は中央部および南壁際に集中している。776・783は中央部の，779は北壁際のそれぞれ床面から出土している。これらは住居廃絶時に遺棄されたと考えられる。778は中央部と南壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。784は中央部の床面と南壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。792は中央部の床面と南西コーナー部の覆土下層から出土した破損品が接合したものである。793は中央部の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。781・782・785・786は中央部の覆土下層から，780は北西コーナー部の覆土下層から，777はP3内の覆土上面に食い込んだ状態で出土している。これらは破片や破損品であり，覆土下層から出土していることや，離れた位置から出土した破片が接合関係にあることから，廃絶後の埋め戻す際に廃棄されたと考えられる。また，その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は，遺棄された776・779・783から7世紀前半と考えられる。出入り口に伴うピットから壁に沿って踏み固められ，床面の中央部が軟弱であり，屋内空間の使用状況が特異である。

第104号住居跡出土遺物観察表（第36図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|-------|-----|--------------------|-------|----|--|---------|-------------|
| 776 | 土師器 | 坏 | 10.5 | 4.3 | 3.5 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ後放射状のヘラミガキ | 床面 | 95% PL88 |
| 777 | 土師器 | 坏 | [12.4] | 3.9 | 7.4 | 石英・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，底部外面ヘラケズリ | P3覆土上面 | 70% |
| 778 | 土師器 | 坏 | 13.8 | 4.2 | 4.5 | 雲母・白色粒子・小礫 | 褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後ヘラミガキ，体部外面ヘラケズリ後ナデ | 覆土中 | 60% |
| 779 | 土師器 | 坏 | [14.6] | 4.1 | 5.0 | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ後放射状のヘラミガキ，底部外面ヘラケズリ | 床面 | 40% |
| 780 | 土師器 | 坏 | [15.8] | (4.0) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 覆土下層 | 25% |
| 781 | 土師器 | 坏 | [13.6] | 3.0 | 4.4 | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 底部周縁・底部内面ナデ，底部ヘラケズリ後ナデ | 覆土下層 | 40% |
| 782 | 土師器 | 坏 | [14.2] | 3.7 | 6.5 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面放射状のヘラミガキ | 覆土下層 | 30% |
| 783 | 土師器 | 坏 | [15.5] | (3.1) | — | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 床面 | 30% |
| 784 | 土師器 | 坏 | [13.6] | (3.6) | — | 石英・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ後ヘラミガキ | 床面，覆土下層 | 25% |
| 785 | 土師器 | 坏 | [12.0] | (3.2) | — | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 786 | 土師器 | 坏 | [14.0] | (2.9) | — | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|-------|-----|---------------|-------|----|--------------------------------|----------|----------|
| 787 | 土師器 | 坏 | [10.8] | (3.5) | — | 石英・雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | 覆土中 | 10% |
| 788 | 土師器 | 坏 | [15.7] | (3.3) | — | 長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ | 覆土中 | 10% |
| 789 | 土師器 | 坏 | [14.1] | (4.2) | — | 雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | 覆土中 | 10% |
| 792 | 土師器 | 甕 | 19.2 | 34.2 | 7.9 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ | 床面, 覆土下層 | 70% PL88 |
| 793 | 土師器 | 甕 | [19.1] | (7.0) | — | 石英・長石・雲母・小礫 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ | 床面, 覆土下層 | 10% |
| 794 | 土師器 | 甌 | — | (3.4) | 6.3 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ヘラナデ, 内面ヘラナデ | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|----------|----|----|-----------------------|------|----|
| TP304 | 須恵器 | 甕 | 石英・長石・雲母 | 灰 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（7本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | |

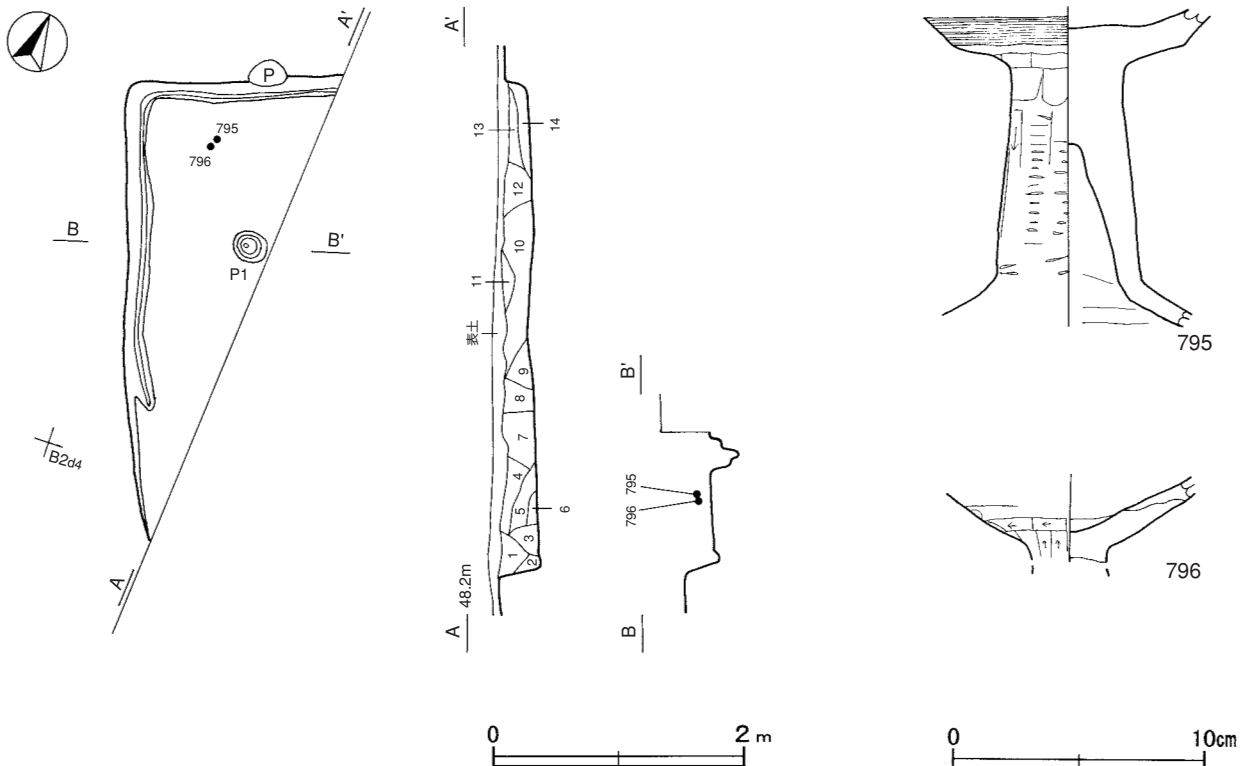
第106号住居跡（第37図）

位置 西部2区北部のB2c4区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 ピット（1か所）に掘り込まれている。

規模と形状 北部の一部と東壁が調査区域外に延びており、長軸3.65m、短軸1.70mだけが確認され、方形または長方形と推測される。P1を通る南北軸を主軸とすると、主軸方向はN-18°-Wと考えられる。壁高は土層断面で35cm確認され、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、確認された北・西壁際は踏み固められておらず、中央部に硬化面が広がっていたと推測される。断面U字状の壁溝が西壁下の一部を除いて巡っている。



第37図 第106号住居跡・出土遺物実測図

ピット 1か所。深さは22cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。

覆土 14層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|---------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 14 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片51点（坏8，高坏2，椀2，甕39），粘土塊が出土している。大半が細片で、795・796は北西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 796は6世紀後半の土器で破断面が摩滅しており、本跡を埋め戻す際の埋土に混入していたものと考えられる。第104号住居跡との位置関係や主軸方向から、第104号住居跡と同時期に集落を構成していた可能性が考えられ、7世紀前半に廃絶されたものと推測される。

第106号住居跡出土遺物観察表（第37図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|----|--------|----|------------|-------|----|--|------|-----|
| 795 | 土師器 | 高坏 | — | (12.1) | — | 石英・雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 坏部内・外面横ナデ, 脚部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ, 裾部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 30% |
| 796 | 土師器 | 高坏 | — | (3.5) | — | 石英・雲母・小礫 | 明赤褐 | 普通 | 坏部外面ヘラケズリ, 内面ナデ | 覆土下層 | 10% |

第107号住居跡（第38～41図）

位置 西部2区中央部のB2f3区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2101・2103号土坑とピット（3か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.70m，短軸5.52mの方形で、主軸方向はN-34°-Wである。壁高は13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 北東・南東壁側がL字形に踏み固められており、若干高くなっている。断面U字状の壁溝がP5周辺を除いて北・東・西壁際にコの字形に、壁溝と断面形態の同じ溝が貯蔵穴を囲むように巡っている。

炉 中央部のやや北壁寄りに付設されている。長径82cm，短径49cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火熱で赤変硬化している。

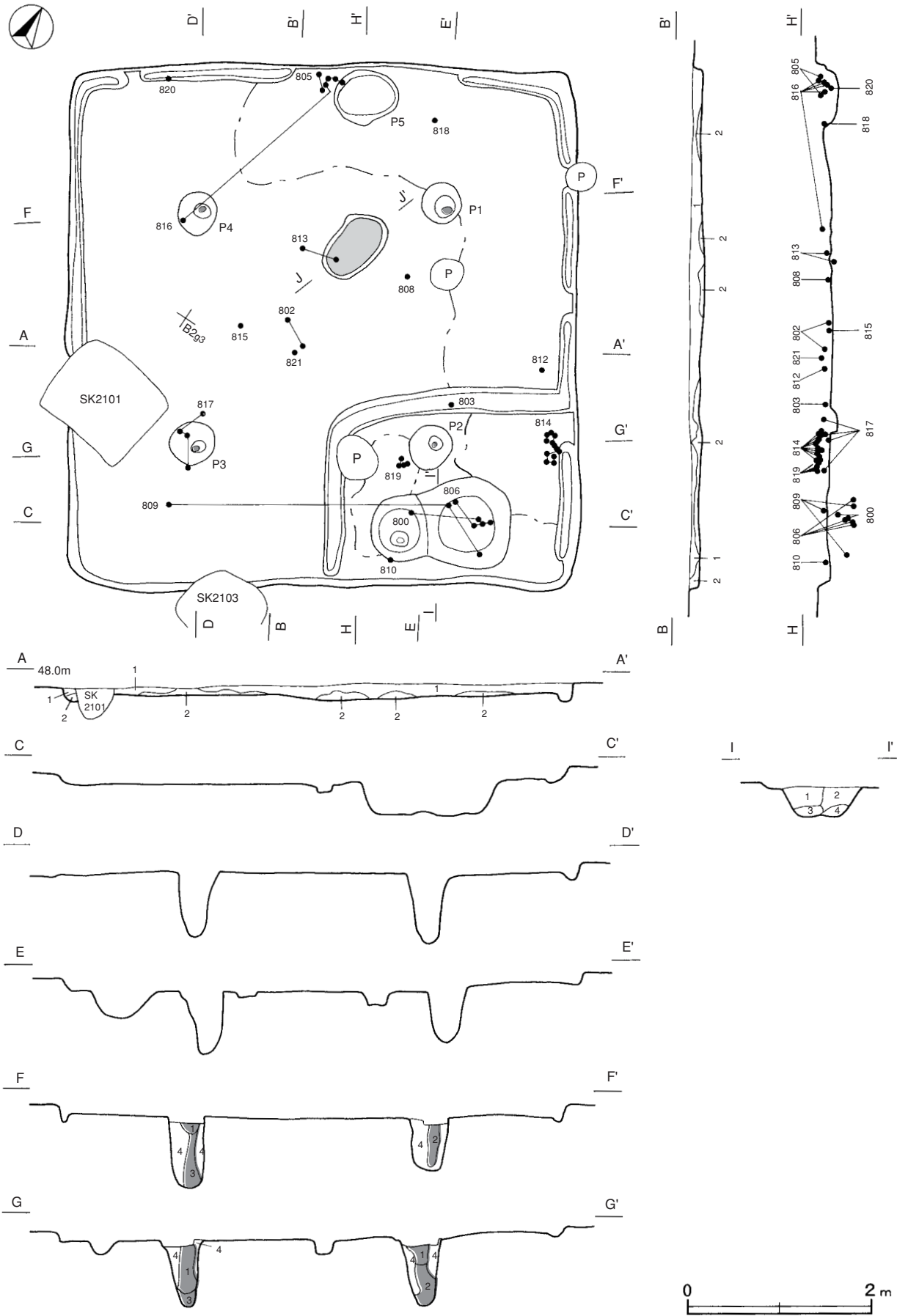
炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量

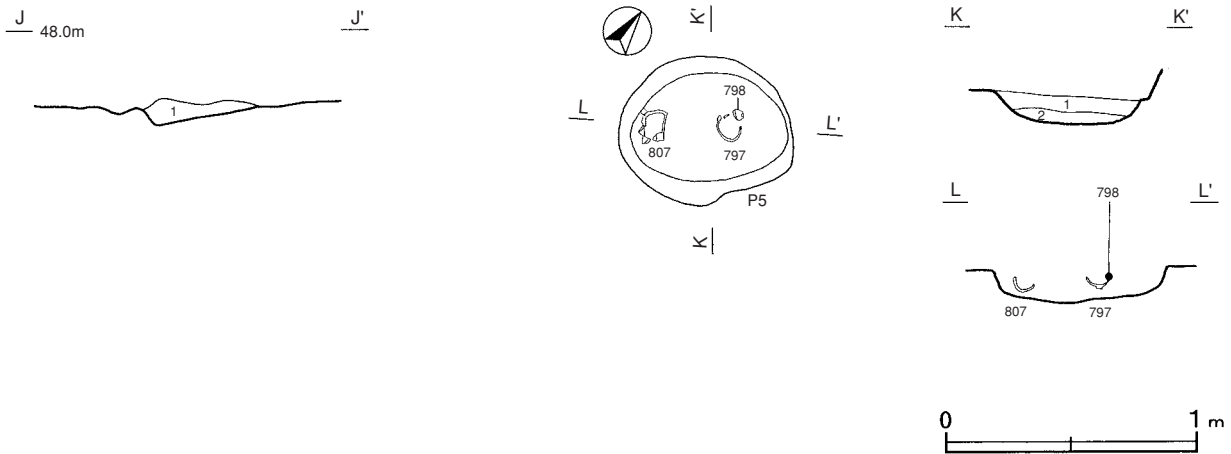
ピット 5か所。P1～P4は深さが58～69cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。支柱穴については断ち割り調査を行い、土層を観察した。土層断面の第1～第3層は柱痕跡であり、しまりが弱い。柱のあたりから推定される柱の径は10cmである。第4層は埋土であり、強く突き固められている。P5は北西壁際の中央部に掘り込まれており、長径70cm，短径60cmの楕円形で、深さは13cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。性格は不明である。

P1～P4土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量 | 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |



第38图 第107号住居跡実測图(1)



第39図 第107号住居跡実測図（2）

P 5 土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量 | 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
|-------------------------|------------------------|

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径149cm, 短径69~101cmの達磨形で, 深さは36~39cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。周囲は踏み固められ, 若干高くなっている。なお, 貯蔵穴を囲っている溝の覆土と住居跡の覆土第2層は同じであり, この溝は本跡に伴うものと考えられる。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |

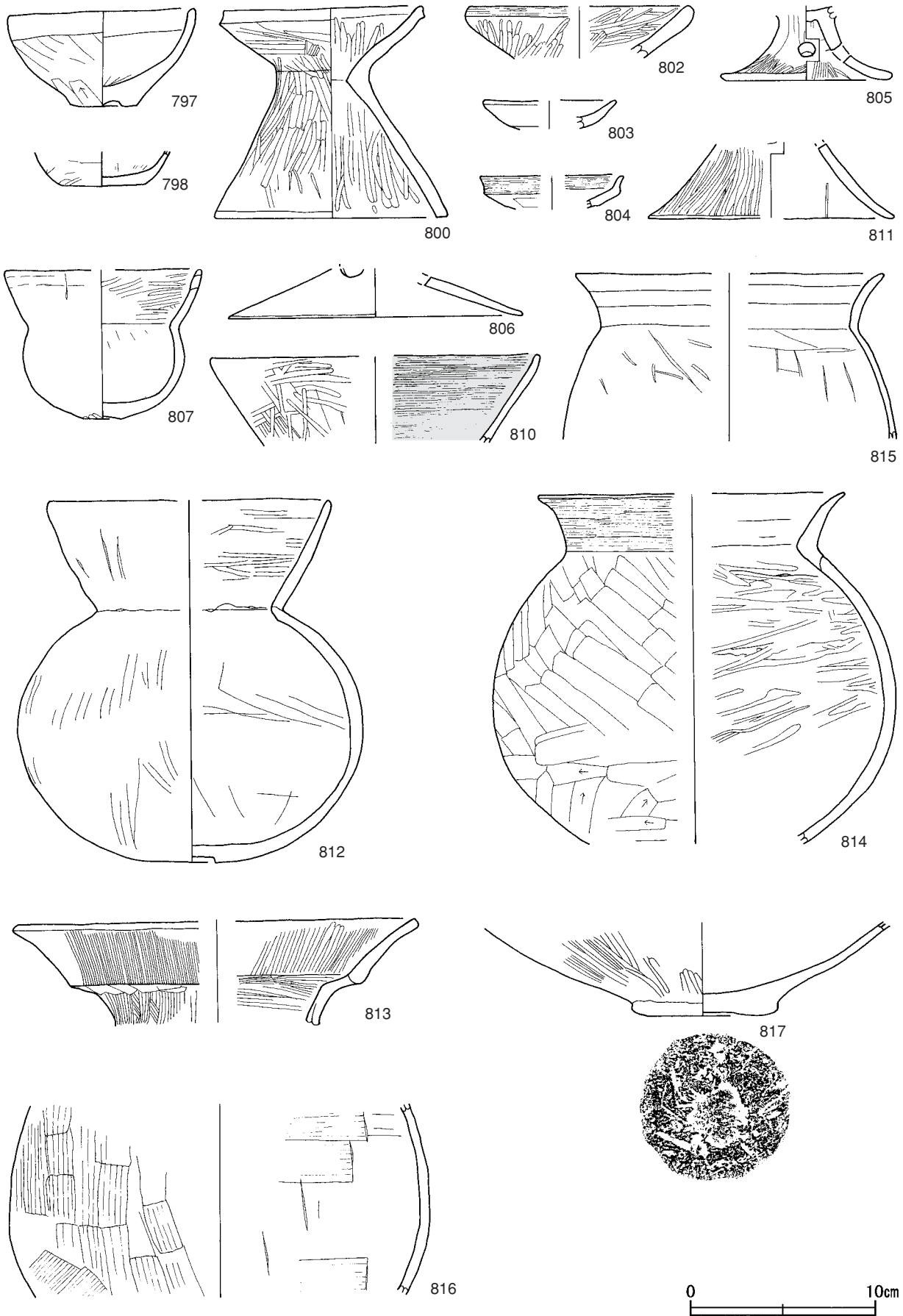
覆土 2層に分層される。第1層はロームブロックを含んでおり, 第2層はローム土を主体とした褐色土であることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

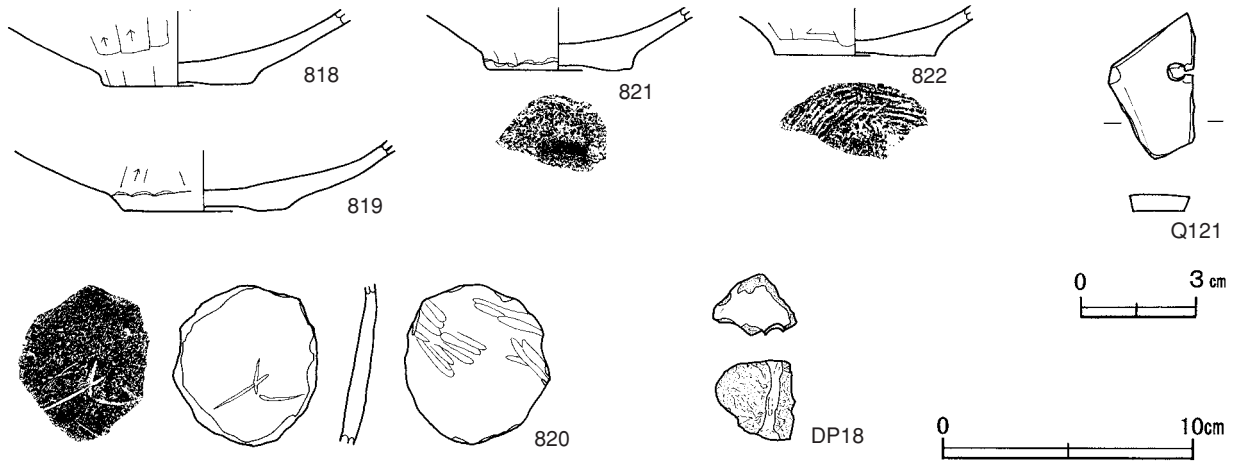
- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 褐色 ロームブロック多量 |
|------------------------------|----------------|

遺物出土状況 土師器片759点（高坏51, 壺30, 小形埴・埴53, 器台38, 甕587）, 石製模造品1点（剣形カ）, 不明土製品1点が出土している。土器はP 5と貯蔵穴周辺に集中している。818はP 5の脇の, 820は北西コーナー部のそれぞれ床面から出土している。813は炉周辺の覆土下層から出土した破片が接合したものである。802は中央部の床面と床面より若干上から出土した破片が接合したものである。817は中央部の覆土下層の離れた位置から出土した破片が接合したものである。803・815・821は中央部の覆土下層から出土している。797・798・807はP 5の底面より若干上から, 斜位で出土している。805・816はP 5の脇から出土し, 816は覆土下層の離れた位置から出土した破片が接合したものであり, 805は覆土下層から出土している。812は東壁際の床面より若干上から, 斜位で出土している。800・806は貯蔵穴の覆土上層の離れた位置から出土した破片が接合したものである。810・814は貯蔵穴の脇の覆土下層からそれぞれ出土している。819は貯蔵穴から離れた位置の覆土下層から出土した破片が接合したものである。これらは破片や破損品であり, 覆土下層から出土していることや, 離れた位置から出土した破片が接合関係にあることから, 廃棄されたと考えられる。

所見 土器は廃絶時に一括廃棄されたものと考えられる。廃絶時期はこれらの土器群から, 4世紀末~5世紀初頭と考えられる。本跡のP 5と同じような位置にピットを持つ例として, 水戸市ニガサワ古墳群の第5号竪穴住居跡（4世紀後半）・第39号竪穴住居跡（4世紀後半）がある。また, 床面中央部に硬化面がなく北・東壁側にL字形に広がっており, 屋内空間の使用状況が特異である。



第40图 第107号住居跡出土遺物実測図(1)



第41図 第107号住居跡出土遺物実測図(2)

第107号住居跡出土遺物観察表(第40・41図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|--------|--------------------|-------|----|---|-------------|-------------|
| 797 | 土師器 | 鉢 | 9.8 | 5.3 | 3.5 | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | P 5 底面 | 95% PL88 |
| 798 | 土師器 | 埴 | — | (1.9) | [4.6] | 石英・長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部内・外面ナデ・ヘラミガキ | P 5 底面 | 20% |
| 800 | 土師器 | 器台 | 10.5 | 11.4 | 12.4 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 受部口唇部横ナデ, 外面ヘラミガキ, 内面放射状のヘラミガキ, 台部内・外面縦方向のヘラミガキ | 覆土上層 | 60% PL88 |
| 802 | 土師器 | 器台 | [11.6] | (2.8) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 褐 | 普通 | 受部口唇部横ナデ, 内・外面不定方向のヘラミガキ | 覆土下層 ・床面 | 10% |
| 803 | 土師器 | 器台 | [7.0] | (1.5) | — | 石英・長石 | 明赤褐 | 普通 | 受部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 804 | 土師器 | 器台 | [7.5] | (1.8) | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 受部口唇部つまみあげ, 内・外面横ナデ | 覆土中 | 10% |
| 805 | 土師器 | 器台 | — | (4.0) | 8.7 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 台部4孔, 台部内・外面ナデ, ヘラミガキ | 覆土下層 | 50% PL88 |
| 806 | 土師器 | 高坏 | — | (2.7) | 15.7 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 裾部3孔カ, 器面磨耗のため調整不明 | 覆土上層 | 30% |
| 807 | 土師器 | 埴 | [10.5] | 8.0 | 2.1 | 石英・長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部から体部外面ヘラケズリ後ナデ, 口縁部外面輪積み痕, 口縁部内面不定方向のヘラミガキ, 内面ヘラナデ | P 5 底面 | 55% PL88 |
| 810 | 土師器 | 埴 | [17.4] | (4.8) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部外面不定方向のヘラミガキ, 内面赤彩 | 覆土下層 | 10% |
| 811 | 土師器 | 器台 | — | (4.0) | [13.0] | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 台部1孔確認, 外面縦方向のヘラミガキ, 内面ナデ, 端部横ナデ | 覆土中 | 10% |
| 812 | 土師器 | 埴 | [15.0] | 19.5 | [2.4] | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部から体部外面ナデ・ヘラナデ, 口縁部内面横方向のヘラミガキ, 体部内面ナデ・ヘラナデ | 覆土下層 | 40% |
| 813 | 土師器 | 壺 | [21.2] | (5.5) | — | 石英・雲母 | 灰褐 | 普通 | 口縁部外面ヘラケズリ後縦方向のヘラミガキ, 内面縦・横方向のヘラミガキ | 覆土下層 | 10% |
| 814 | 土師器 | 甕 | [16.3] | (18.9) | — | 石英・長石・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面上半ヘラナデ, 下半ヘラケズリ, 内面ヘラナデ | 覆土下層 | 30% |
| 815 | 土師器 | 甕 | [16.4] | (8.9) | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ヘラナデ | 覆土下層 | 20% |
| 816 | 土師器 | 甕 | — | (10.3) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面条線の太いハケ目調整, 内面ヘラナデ・ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 817 | 土師器 | 甕カ | — | (5.0) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面縦方向のヘラミガキ, 内面ナデ, 底部外面の中央部がくぼんでいる。 | 覆土下層 | 10% |
| 818 | 土師器 | 甕カ | — | (2.9) | 6.0 | 石英・長石・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ヘラナデ・ナデ | 床面 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|----|-------|-------|-----------------|------|----|-------------------------------|-------------|-----|
| 819 | 土師器 | 甕カ | — | (2.7) | 6.4 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | 貯蔵穴 覆土下層 | 10% |
| 820 | 土師器 | 甕カ | — | (6.3) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面植物繊維の圧痕 | 床面 | 10% |
| 821 | 土師器 | 甕カ | — | (2.5) | [5.6] | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 底部外面の中央部がくぼんでいる | 覆土下層 | 10% |
| 822 | 土師器 | 甕カ | — | (2.0) | [6.4] | 石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ, 底部外面ハケ目調整 | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-----------------|------|-------|
| Q121 | 双孔円板カ | (3.8) | (2.2) | (5.5) | (3.9) | 頁岩 | 欠損品, 外面研磨, 1孔確認 | 覆土中 | PL101 |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-------|-----|--------|-------|-------|----|------------|------|----------|
| DP18 | 紡錘車 | (3.2) | 3.1 | (14.3) | 石英・長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 孔確認, 断面算盤形 | 覆土中 | 弥生時代の混入カ |

第108号住居跡 (第42・43図)

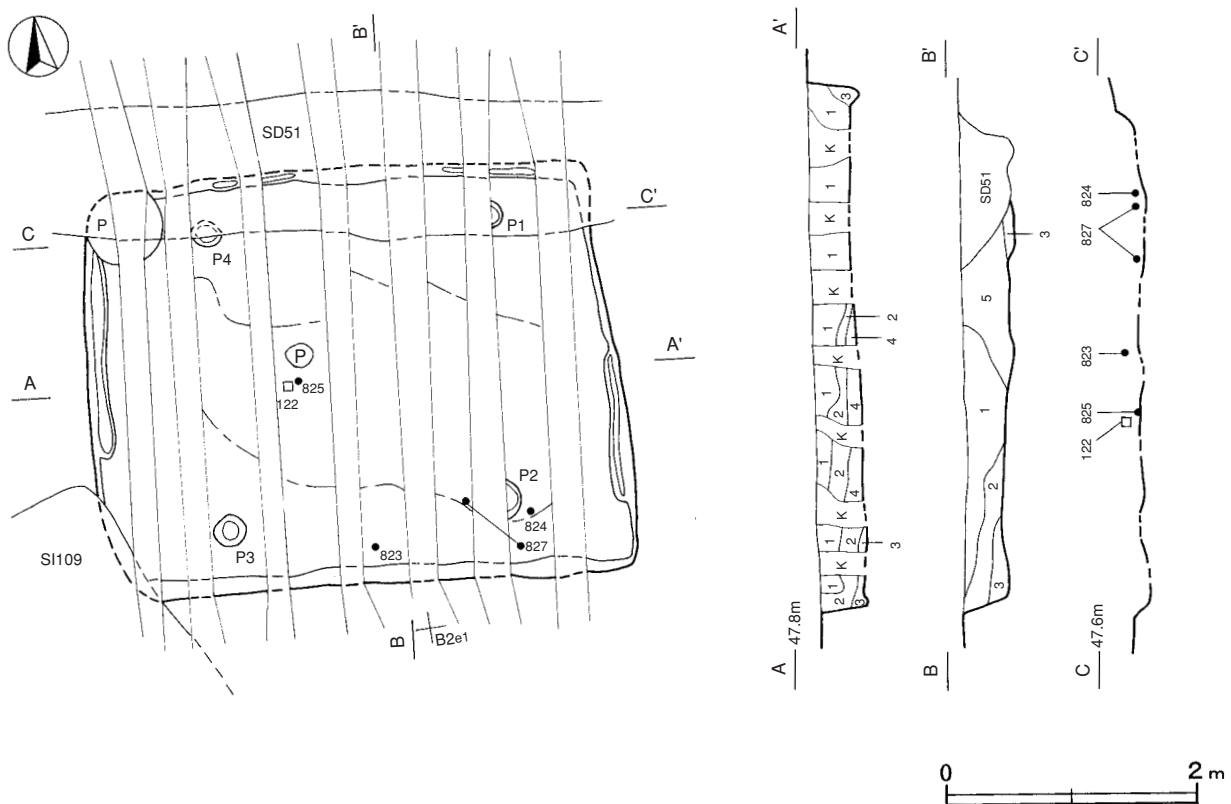
位置 西部2区北部のB1d0区で, 平坦な台地上に位置している。

重複関係 第109号住居と第51号溝とピット (2か所) に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱が激しく, 残存している壁から長軸4.25m, 短軸3.31mの長方形で, 主軸方向がN-2°-Eと推測される。壁高は17~33cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が南壁下を除く壁下に, 部分的に巡っている。

ピット 4か所。P1~P4は深さが3~10cmと浅いが, 位置から支柱穴と考えられる。



第42図 第108号住居跡実測図

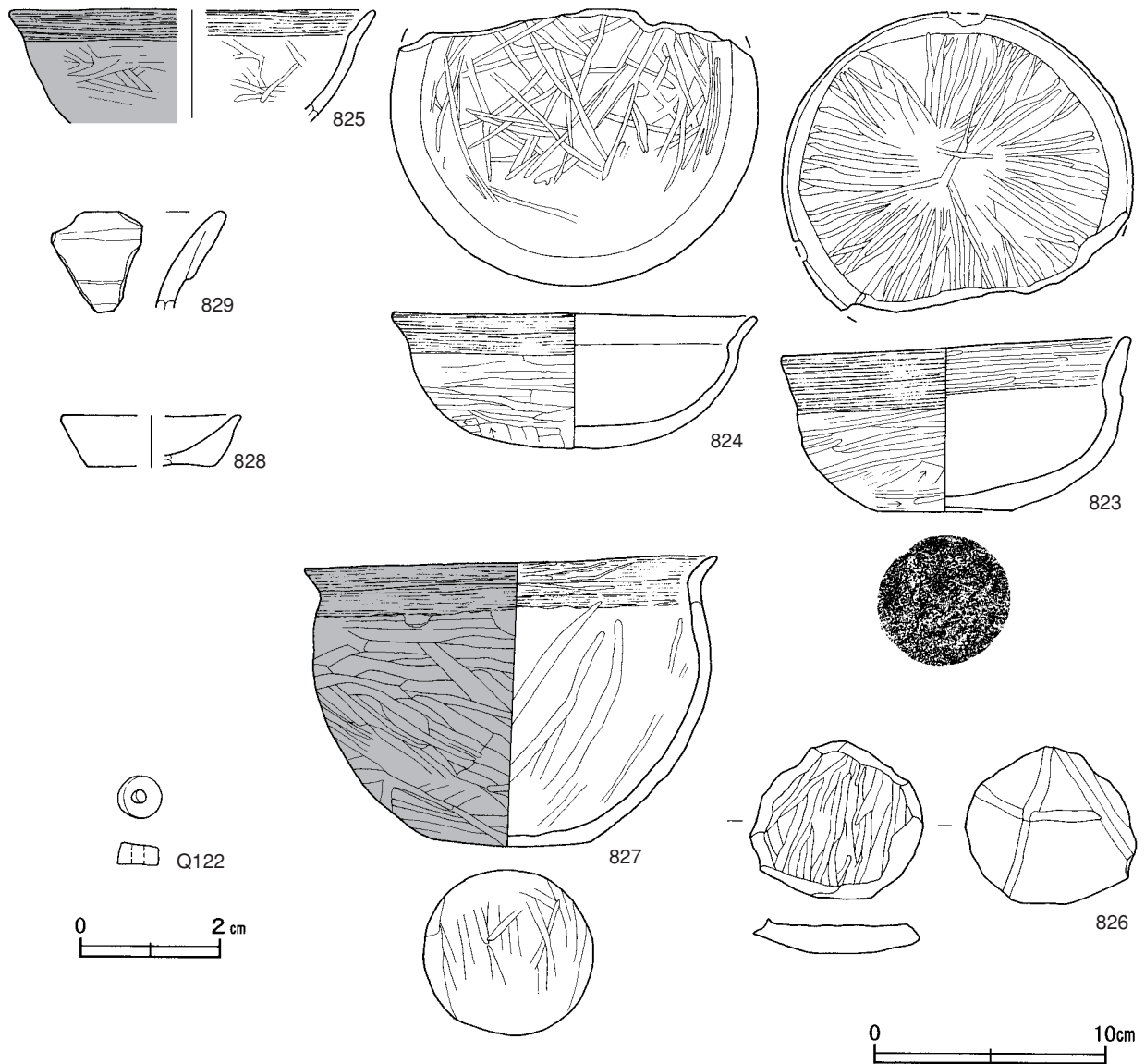
覆土 5層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片547点（坏55，高坏2，碗48，壺1，柑4，甕437），手捏土器1点，石製品（白玉）出土している。攪乱が床面まで達しているため，土器のほとんどが細片である。攪乱を受けていない部分から出土した遺物で，ある程度形を留めているものは，823～825・827・Q122である。825は中央部の床面から出土しており，廃絶時に遺棄されたと考えられる。823は南壁際の覆土下層から斜位で出土している。824・827は南壁際の床面より若干上で，斜位で出土している。これらは破損品や破片であり，覆土下層から出土していることから，廃絶後埋め戻す際に廃棄されたと考えられる。Q122は中央部の覆土下層から出土している。また，その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 遺棄された825と廃棄された土器群は同じ5世紀後半の土器であり，土器は廃絶時に一括廃棄されたものと考えられる。廃絶時期は，823～827から5世紀後半と考えられる。



第43図 第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表（第43図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|-------|-------|--------------------|-------|----|---|------|-------------|
| 823 | 土師器 | 坏 | 14.7 | 7.5 | 5.7 | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後内面横方向のヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・ヘラミガキ, 内面ナデ・放射状のヘラミガキ, 底部回転ヘラケズリ | 覆土下層 | 70% PL89 |
| 824 | 土師器 | 坏 | 15.3 | 5.8 | — | 石英・雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・ヘラミガキ, 内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 覆土下層 | 60% |
| 825 | 土師器 | 坏 | [15.5] | (4.9) | — | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 暗赤灰 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ナデ, 不定方向のヘラミガキ | 床面 | 10% |
| 826 | 土師器 | 椀カ | — | (1.4) | — | 石英・雲母・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 内・外面ヘラミガキ | 覆土中 | 10% |
| 827 | 土師器 | 鉢 | 17.5 | 13.2 | 7.3 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 内面横方向のヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・斜め方向のヘラミガキ | 覆土下層 | 70% PL89 |
| 828 | 手捏土器 | — | [7.6] | 2.2 | [5.4] | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 内・外面ナデ | 覆土中 | 40% |
| 829 | 土師器 | 壺 | — | (4.2) | — | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部ナデ・ヘラナデ | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|-----|-----|-----------------------------|------|----|
| Q122 | 白玉 | 0.6 | 0.4 | 0.2 | 蛇紋岩 | 両面平坦, 研磨あり, 常陸太田市付近の里川流域の石材 | 覆土下層 | |

第109号住居跡（第44図）

位置 西部2区北部のB1e0区で, 平坦な台地上に位置している。

重複関係 第108号住居跡を掘り込み, 第2179号土坑とピット（6か所）に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱が激しく, 残存している壁から長軸4.09m, 短軸3.75mの方形と考えられ, 主軸方向はN-25°-Wである。壁高は12~18cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が南壁下と東・西壁下の一部に巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。煙道部の壁外への掘り込みと右袖部の一部のみが残存している。右袖部はロームブロックを含んでいる黒褐色土の上に, 砂質粘土を貼り付けて構築されている。

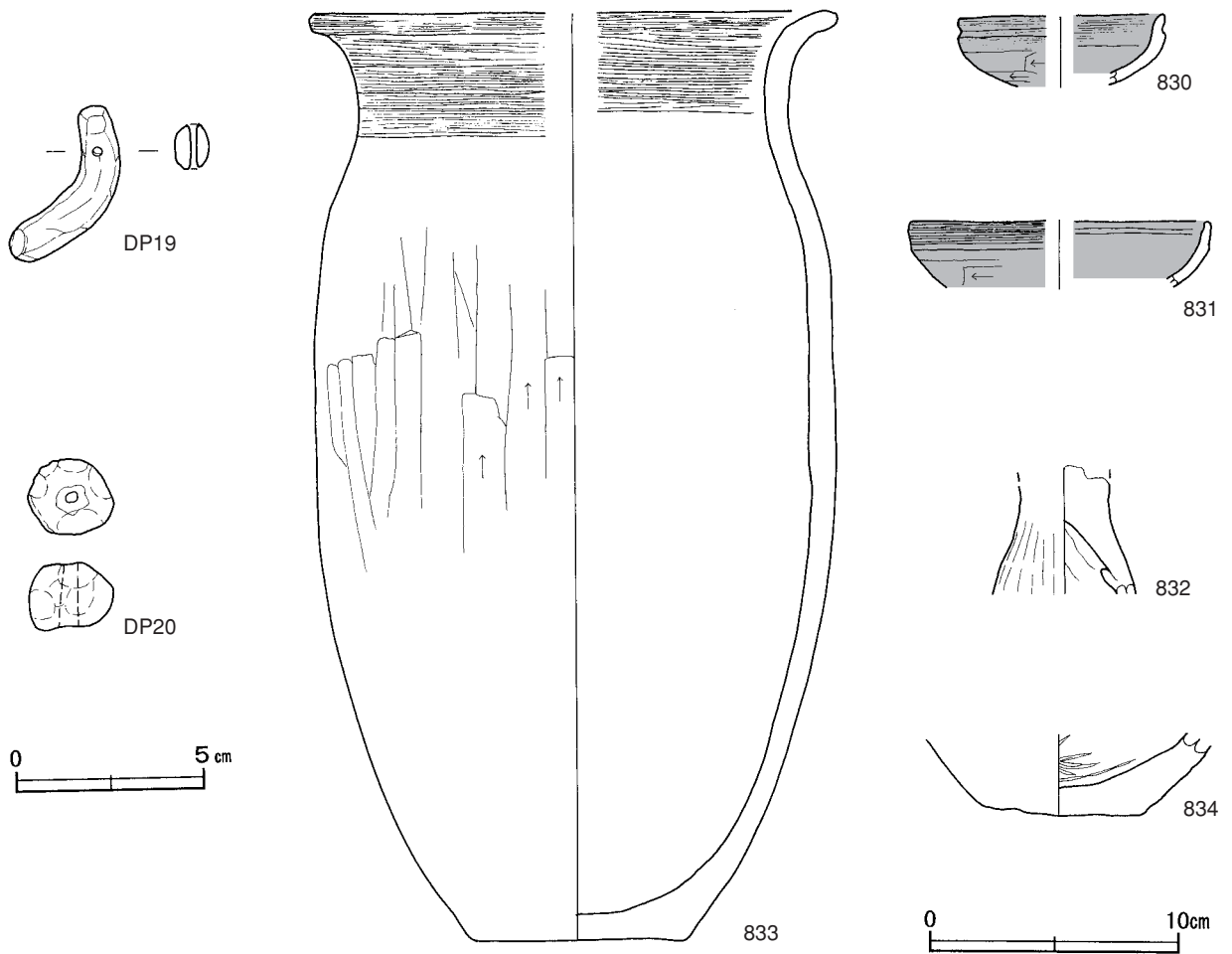
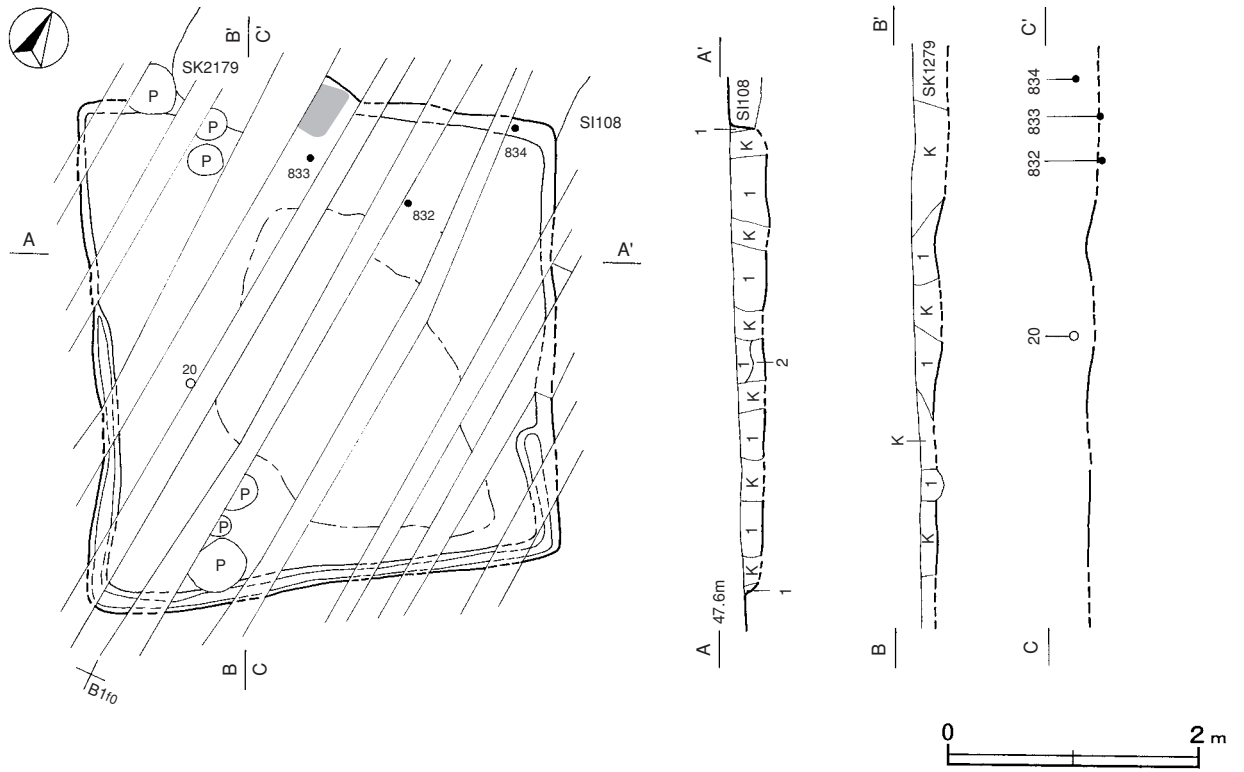
覆土 2層に分層される。攪乱のため, 堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片562点（坏79, 高坏2, 甕481）, 土製品2点（勾玉, 土玉）, 粘土塊が出土している。攪乱が床面まで達しているため, 土器のほとんどが細片である。攪乱を受けていない部分から出土した遺物で, ある程度形を留めているのは832~834である。833は竈の火床面から逆位で出土しており, 廃絶時に遺棄されたと考えられる。832は中央部の床面から, 834は北東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。これらは破片であり, 破断面の摩滅が少ないことから, 廃絶後に廃棄されたと考えられる。DP20は中央部の覆土中層から出土している。また, その他に混入した縄文土器片, 弥生土器片, 陶器片, 黒曜石の剥片が出土している。

所見 遺棄された833と廃棄された831は同じ7世紀後半の土器であり, 土器は廃絶時に一括廃棄されたものと考えられる。廃絶時期は, 831・833から7世紀後半と考えられる。



第44図 第109号住居跡・出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表（第44図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|-----|---------------|-----|----|------------------------------|------|-------------|
| 830 | 土師器 | 坏 | [8.0] | (2.7) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 覆土中 | 10% |
| 831 | 土師器 | 坏 | [11.8] | (2.6) | — | 石英・長石・雲母 | 黄灰 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 覆土中 | 10% |
| 832 | 土師器 | 高坏 | — | (5.1) | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 脚部外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ヘラナデ，裾部折り返し | 床面 | 10% |
| 833 | 土師器 | 甕 | [20.0] | 36.9 | 8.5 | 石英・雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 竈火床面 | 80% PL89 |
| 834 | 土師器 | 甕 | — | (3.3) | 6.2 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 内面ヘラナデ | 覆土中層 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|-----|---------|----|----|-------------------------------|------|-------|
| DP19 | 勾玉 | 4.5 | 2.3 | 1.2 | 雲母・白色粒子 | 黄褐 | 普通 | 片面穿孔，孔径0.3～0.4cm，ナデ調整，指頭押圧痕残存 | 覆土中 | PL101 |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-----|---------|-------|----|-------------------------|------|-------------------|
| DP20 | 土玉 | 19~22 | 1.8 | 5.6 | 雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 孔径0.3～0.6cmでゆがんでいる。ナデ調整 | 覆土中層 | 弥生時代の混入カ PL101 |

第110号住居跡（第45～48図）

位置 西部2区中央部のC 2 a1で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2141・2142・2166・2192号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.30m，短軸5.81mの方形で，主軸方向はN－8°－Wである。壁高は5～13cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部から壁際まで踏み固められている。断面U字状の壁溝が北・南・東壁下にコの字形に巡っている。

炉 中央部に2基，北壁寄りに2基の合わせて4基の地床炉が確認された。炉1は長径87cm，短径55cmの楕円形で，床面を5～10cm掘りくぼめ，炉床面が赤変硬化している。炉2の長径は61cmだけが確認され，短径は45cmで楕円形と推測される。床面を5cm掘りくぼめ，炉石は住居の主軸方向に直交して炉床面に置かれており，炉床面が赤変硬化している。炉3は径30cmの円形で，床面を9cm掘りくぼめ，炉床面が赤変している。炉4は長径64cm，短径39cmの楕円形で，床面を5～12cm掘りくぼめ，炉床面は赤変硬化している。

炉1 土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子微量

炉2 土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

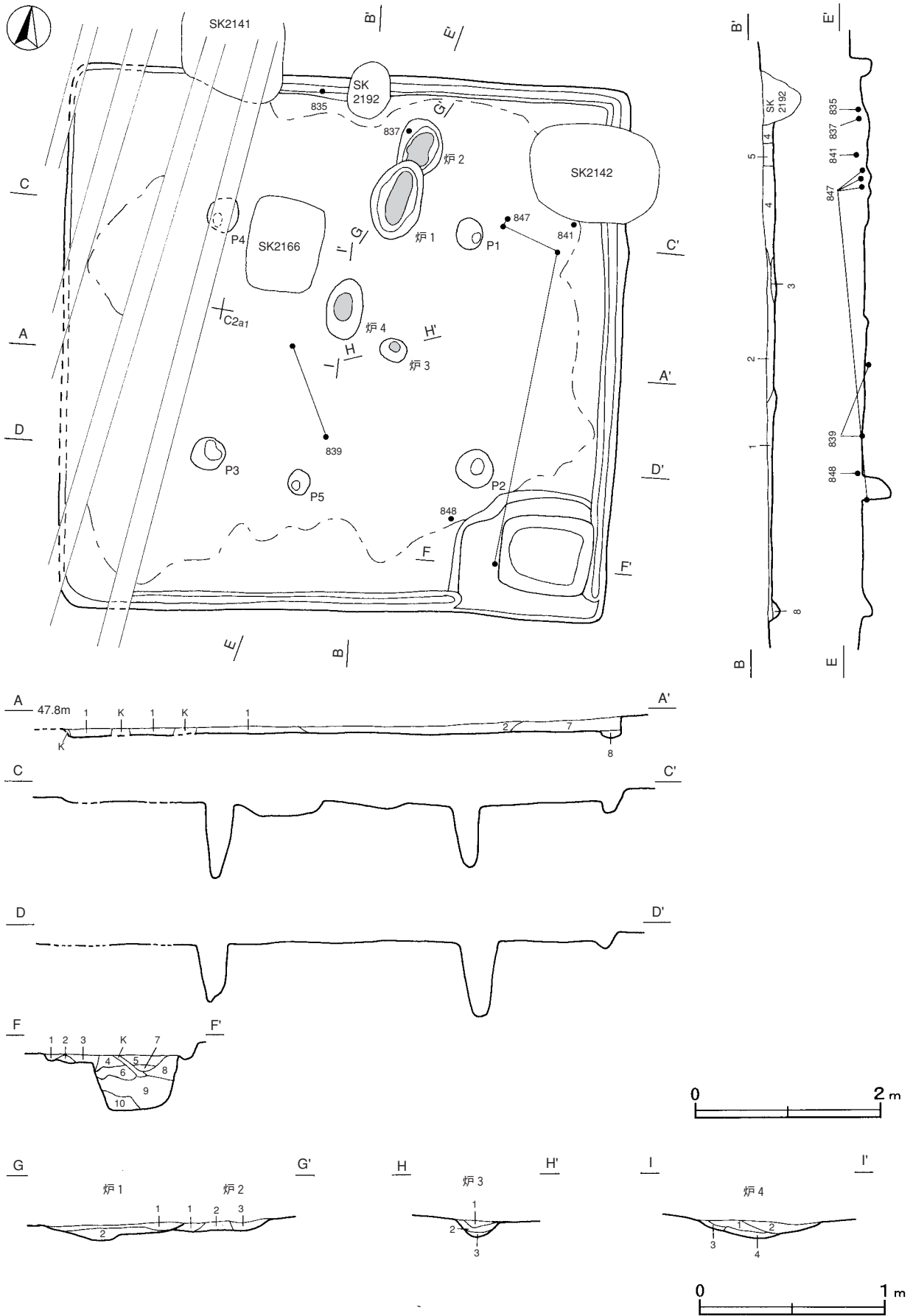
炉3 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量

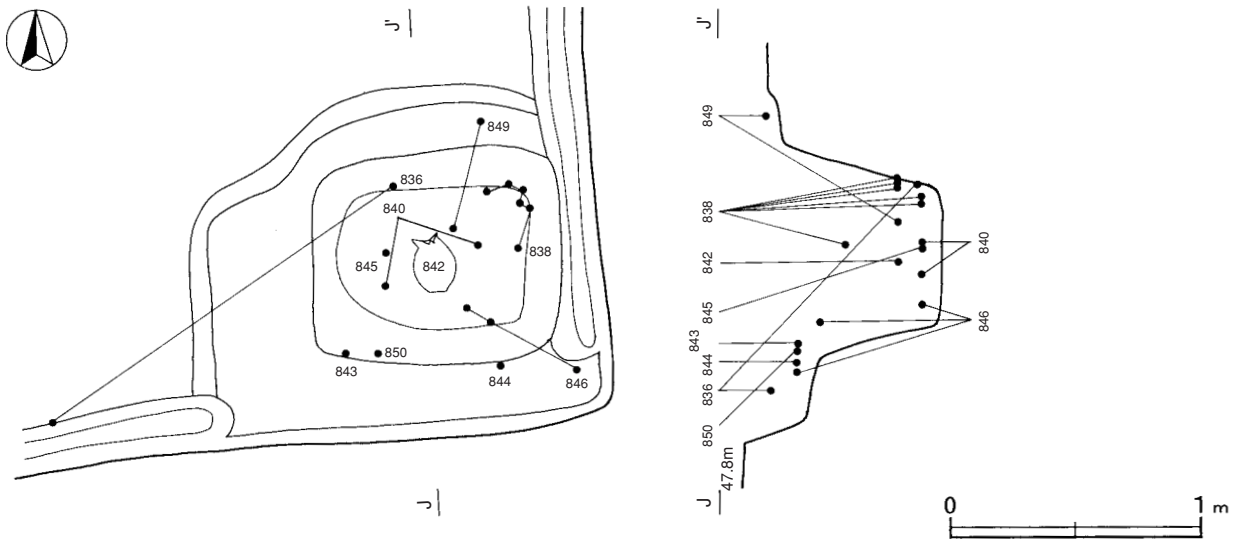
炉4 土層解説

- 1 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 4 赤褐色 焼土粒子多量

ピット 5か所。P 1～P 4は位置と規模から支柱穴と考えられ，深さは62～77cmである。P 5は深さが40cmで，南壁からやや中央部寄りにあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第45图 第110号住居跡実測图(1)



第46図 第110号住居跡実測図（2）

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長軸1.60m，短軸1.41mの隅丸方形で2段に掘り込まれており，深さは60cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がって上方で平坦面を有し，さらに外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

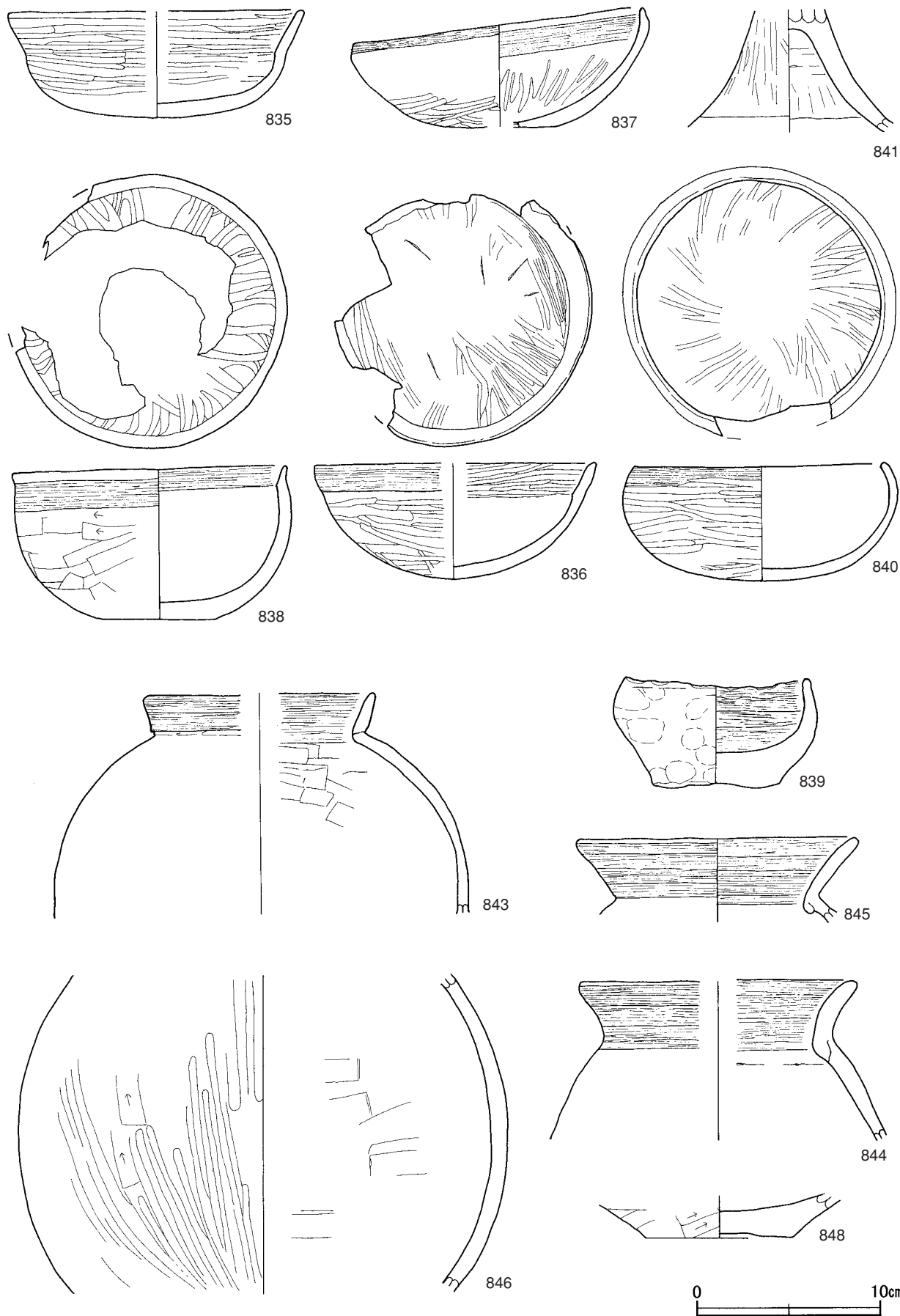
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |

覆土 8層に分層される。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。また，床面に焼土の広がり確認されており，埋め戻す際に投げ込まれたものと考えられる。

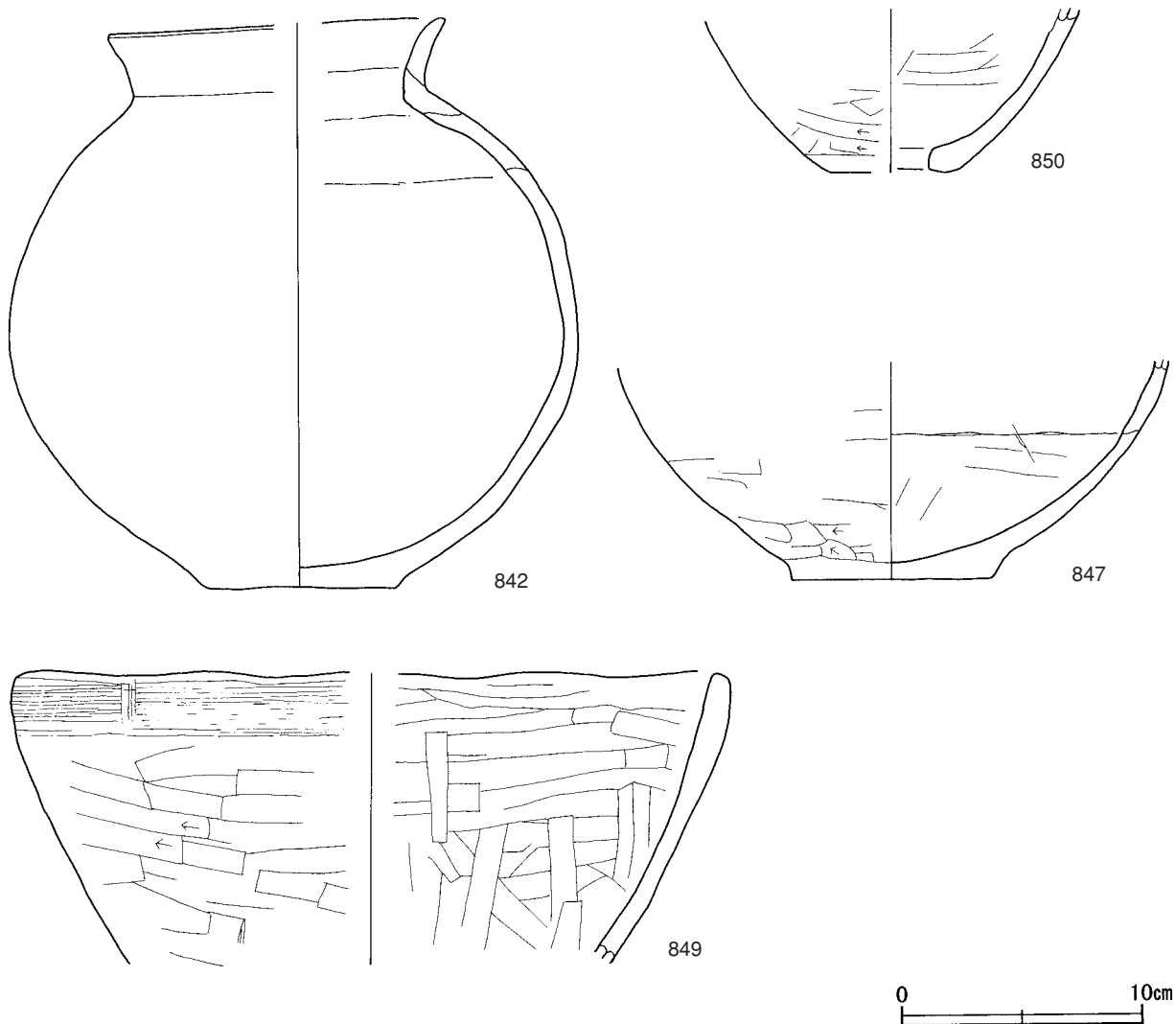
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片618点（坏133，高坏5，椀11，甕462，甑7），敲石1点，粘土塊が出土している。土器は北東コーナー部と貯蔵穴付近，および貯蔵穴内部に集中している。839は中央部の床面の離れた位置から出土した破片が接合したものである。847は北東コーナー部の覆土下層と貯蔵穴の覆土上面から出土した破片が接合したものである。835・837は北壁際の床面より若干上から出土している。841は東壁際の床面より若干上から出土している。848は貯蔵穴脇の床面より若干上から出土している。849は貯蔵穴脇の覆土下層から出土した破片と貯蔵穴の覆土下層の破片が接合したものである。843・844・850は貯蔵穴の覆土上層から出土している。836は貯蔵穴の覆土下層と南壁際の覆土下層から出土した破片が，846は貯蔵穴の覆土上層と覆土下層から出土した破片が，838は貯蔵穴の覆土中層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。845は貯蔵穴の覆土下層から出土している。840は貯蔵穴の覆土下層の離れた位置から出土した破片が接合したものである。これらは離れた位置から出土した破片や破損品が接合関係にあることから，廃絶後に廃棄されたと考えられる。842は一部破損しているだけで，貯蔵穴の覆土下層から横位で出土している。また，その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。



第47图 第110号住居跡出土遺物実測図(1)



第48図 第110号住居跡出土遺物実測図（2）

所見 廃棄された土器は廃絶時に一括廃棄されたものと考えられ、廃絶時期は835～838・840・842から5世紀後半と考えられる。炉3・炉4の上面には硬化面が確認されている。このことから、中央部の炉3・炉4が同時もしくはいずれかが最初に付設され、それらが廃絶された後、北壁寄りに炉1・炉2が付設されたと考えられる。炉2は炉石が据え置かれたままであり、炉1・炉2のいずれも覆土上面が硬化していないことから、用途を使い分け、同時に使用されていたものと考えられる。

第110号住居跡出土遺物観察表（第47・48図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|-----|-------|-------------|-------|----|---|---------------|-----|
| 835 | 土師器 | 坏 | [15.8] | 5.7 | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ, 内面ナデ・横方向のヘラミガキ, 底部内外面不定方向のヘラミガキ | 床面より若干上位 | 60% |
| 836 | 土師器 | 坏 | [15.0] | 6.1 | — | 石英・長石・雲母・小礫 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後内面横方向のヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面放射状のヘラミガキ, 底部外面ヘラケズリ後ナデ | 貯蔵穴覆土下層, 覆土下層 | 60% |
| 837 | 土師器 | 坏 | 15.5 | 6.4 | [6.0] | 石英・長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ, 内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 床面より若干上位 | 40% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------------|--------|-------|--------------------|-------|----|--|--------------|-------------|
| 838 | 土師器 | 坏 | 14.6 | 8.2 | 6.0 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のナデ・放射状のヘラミガキ | 貯蔵穴覆土中層，覆土下層 | 70% PL89 |
| 839 | 手捏土器 | — | 9.7~ 10.5 | 6.0 | 6.9 | 雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面指頭押圧気味の横ナデ，体部外面指頭押圧・ナデ，内面指頭押圧ぎみのナデ | 床面 | 90% PL89 |
| 840 | 土師器 | 坏 | 13.3 | 6.4 | — | 赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ，内面ナデ後放射状のヘラミガキ，ヘラミガキで丁寧に器面を整えている | 貯蔵穴覆土下層 | 90% PL89 |
| 841 | 土師器 | 高坏 | — | (6.6) | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 脚部外面ナデ・縦方向のヘラミガキ，内面ヘラナデ，裾部内外面横ナデ | 床面より若干上位 | 30% |
| 842 | 土師器 | 甕 | [13.7] | 23.5 | 7.7 | 石英・長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部から体部外面ヘラケズリ後ナデ，口縁部内・外面輪積み痕残存，内面ナデ | 貯蔵穴覆土下層 | 95% PL89 |
| 843 | 土師器 | 甕 | [12.4] | (11.9) | — | 石英・長石・雲母・小礫 | 灰褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ヘラナデ | 貯蔵穴覆土上層 | 10% |
| 844 | 土師器 | 甕 | [14.6] | (8.6) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面荒れのため調整不明 | 貯蔵穴覆土上層 | 10% |
| 845 | 土師器 | 甕 | 14.8 | (4.5) | — | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 灰黄褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ | 貯蔵穴覆土下層 | 10% |
| 846 | 土師器 | 甕 | — | (17.1) | — | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後縦方向のヘラミガキ | 覆土下層，貯蔵穴覆土上層 | 10% |
| 847 | 土師器 | 甕 | — | (8.9) | 8.3 | 石英・長石・赤色粒子 | 灰褐 | 普通 | 体部下半ヘラケズリ後ナデ，内面ヘラナデ，輪積み痕残存 | 覆土下層，貯蔵穴覆土下層 | 30% |
| 848 | 土師器 | 甕 | — | (2.3) | 8.0 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ，底部内外面ナデ | 床面より若干上位 | 10% |
| 849 | 土師器 | 甗カ | [29.2] | (12.0) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後内面ヘラナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ヘラナデ | 覆土下層，貯蔵穴覆土下層 | 10% |
| 850 | 土師器 | 甗 | — | (6.7) | [5.5] | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 貯蔵穴覆土上層 | 10% |

第114号住居跡（第49～52図）

位置 西部2区南部のC2f1区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第115号住居とピット（1か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.06m，短軸5.03mの方形で，主軸方向はN-53°-Wである。壁高は10～24cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が全周している。

竈 北東壁の右寄りに地山を凹凸に掘り込んだ後，焼土混じりのローム土を充填して付設されている。焚口部から煙道部までが124cm，袖部幅が139cm，火床部幅が52cmである。火床面は浅い皿状を呈し，赤変硬化している。袖部は充填された土の上に砂質粘土で構築され，土器片と砂岩の角礫が補強材として埋め込まれている。煙道部は壁外へ6cm掘り込んでおり，急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | | | | | |
|---|----|---|----------------|----|----|---|----------------|
| 1 | 灰褐 | 色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | 6 | 赤褐 | 色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 |
| 2 | 暗褐 | 色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 | 赤褐 | 色 | 焼土粒子多量 |
| 3 | 黒褐 | 色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 8 | 褐 | 色 | ローム粒子中量 |
| 4 | 灰褐 | 色 | ローム粒子微量 | 9 | 暗褐 | 色 | ローム粒子少量 |
| 5 | 褐 | 色 | ローム粒子多量 | 10 | 赤褐 | 色 | ローム粒子中量 |

- | | | | |
|----------|----------------------|--------|----------------------|
| 11 明 褐 色 | ローム粒子多量, 鹿沼バミス少量 | 14 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 12 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 灰 色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 13 明 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

炉 中央部に付設されている。長径66cm, 短径43cmの楕円形で, 床面を5~10cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火熱で赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|---------|-----------|---------|----------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 3 暗 褐 色 | 焼土ブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | 焼土ブロック中量 | 4 赤 褐 色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さが54~90cmで, 位置と規模から主柱穴と考えられる。P5は深さが15cmで, 南西壁の中央部にあり, 出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 竈右袖部の右側に位置している。長径85cm, 短径76cmの楕円形で, 2段に掘り込まれており, 深さは49cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 上方の平坦面から, さらに外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------|---------|---------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・鹿沼バミス微量 | | |

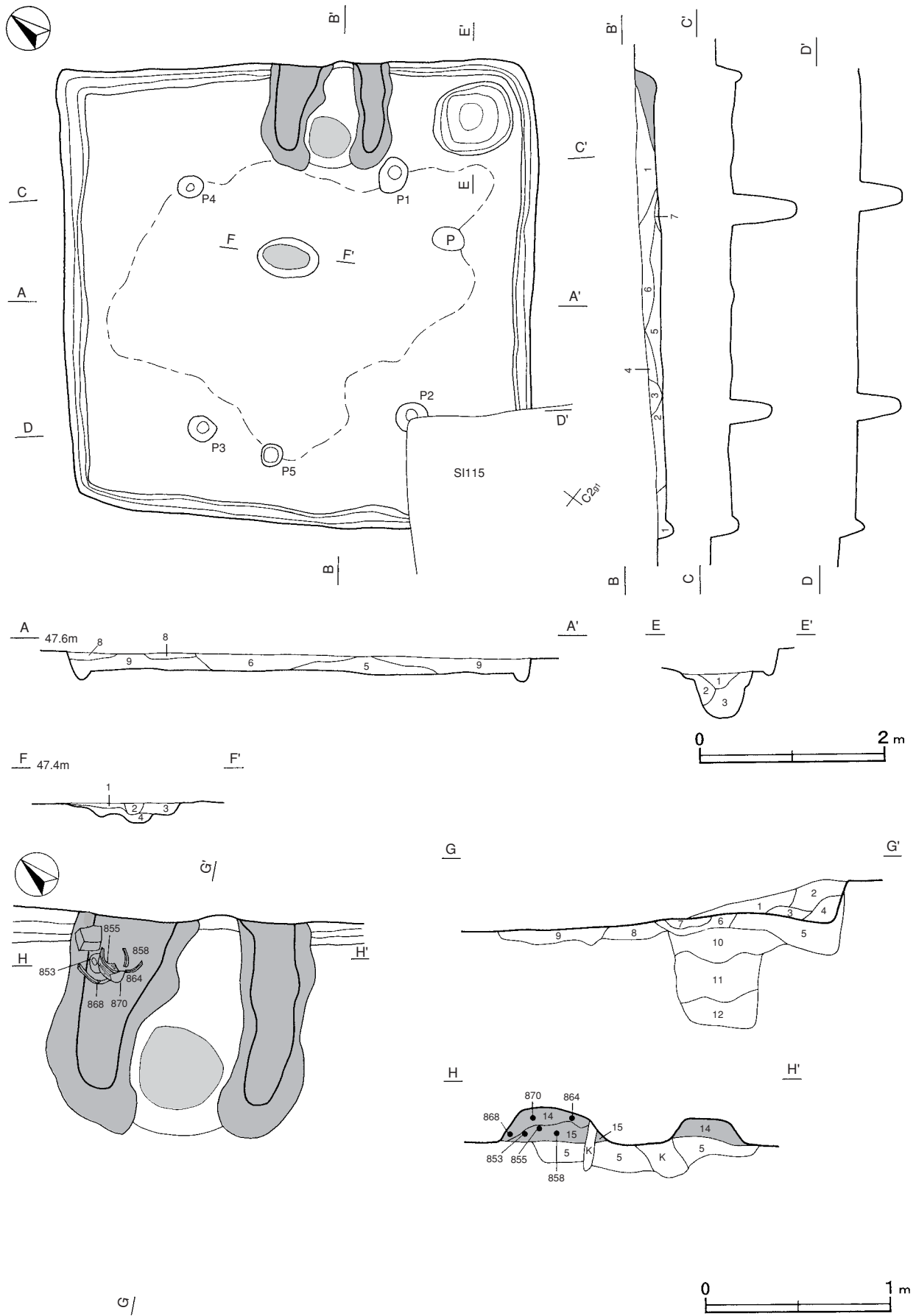
覆土 9層に分層される。ブロック状に堆積していることから, 人為堆積と考えられる。また, 床面より若干上位に, 焼土の広がり確認されており, 埋め戻す際に投げ込まれたものと考えられる。

土層解説

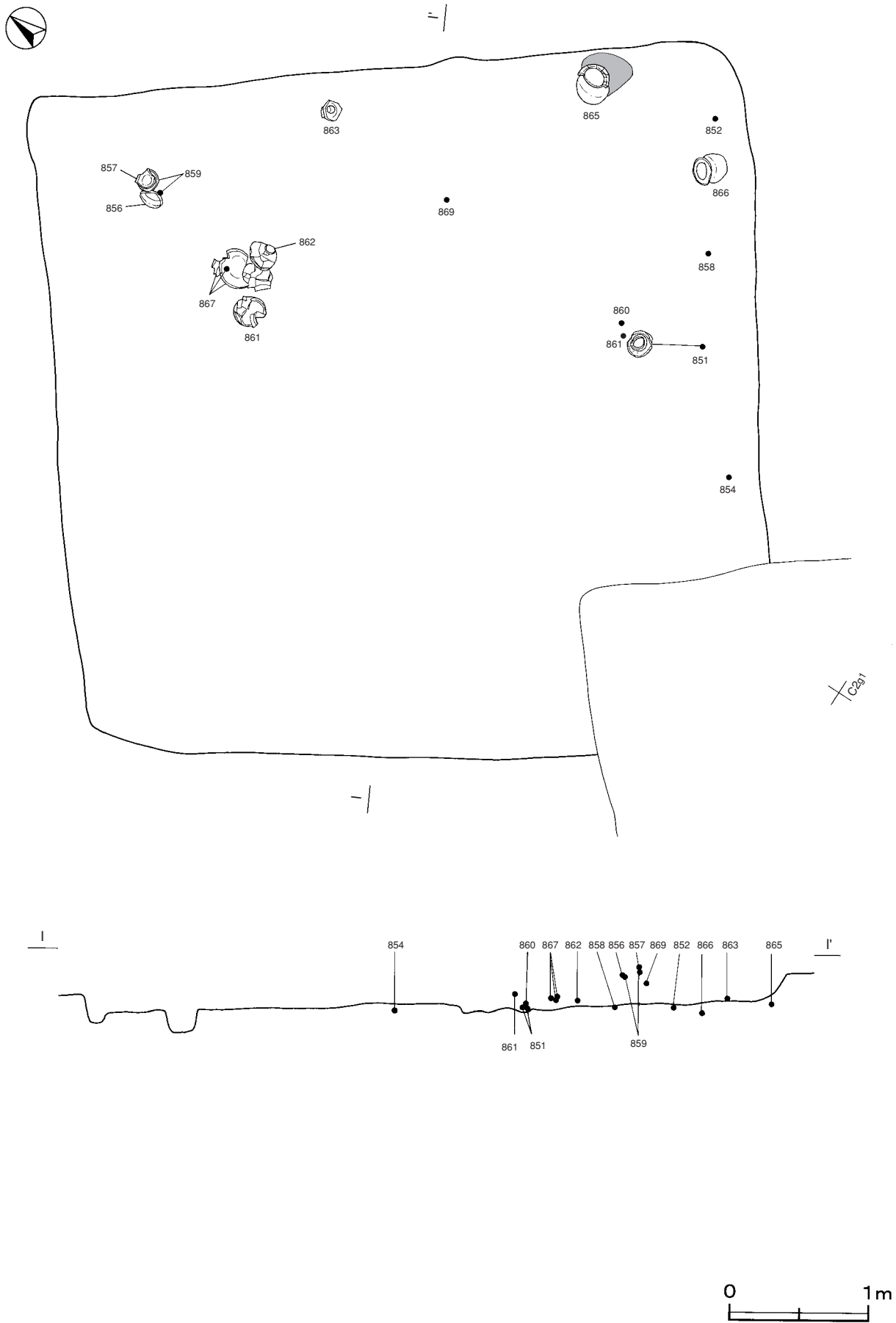
- | | | | |
|---------|---------------------|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック微量 | 6 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗 褐 色 | ローム粒子中量・焼土ブロック少量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック・鹿沼バミス微量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 9 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 鹿沼バミス微量 |
| 5 暗 褐 色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片481点(坏175, 碗27, 壺37, 甕237, 甌5), 須恵器片3点(坏), 砥石1点, 粘土塊が出土している。851・852・854・858・860・865・866はほぼ完形品で, 貯蔵穴脇および南東壁際の床面から出土しており, 遺棄されたと考えられる。851と860は860を下にして, 正位で重なった状態で出土している。852は逆位の状態で, 854・858は横位の状態で出土している。865は正位で粘土の塊に寄り掛かった状態で出土している。866は斜位の状態で出土している。853・855・864・868・870は竈左袖部内から出土しており, 補強材に転用されたものと考えられる。869は竈内の覆土上層から, 863は竈左袖部の横の覆土下層から, 861・862は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。867は中央部の覆土下層の離れた位置から出土した破片が接合したものである。856・857・859は北コーナー部の覆土上層から出土している。これらは破片や破損品であり, 覆土下層から焼土ともに出土していることや, 離れた位置から出土した破片が接合関係にあることから, 廃絶後に廃棄されたと考えられる。また, その他混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

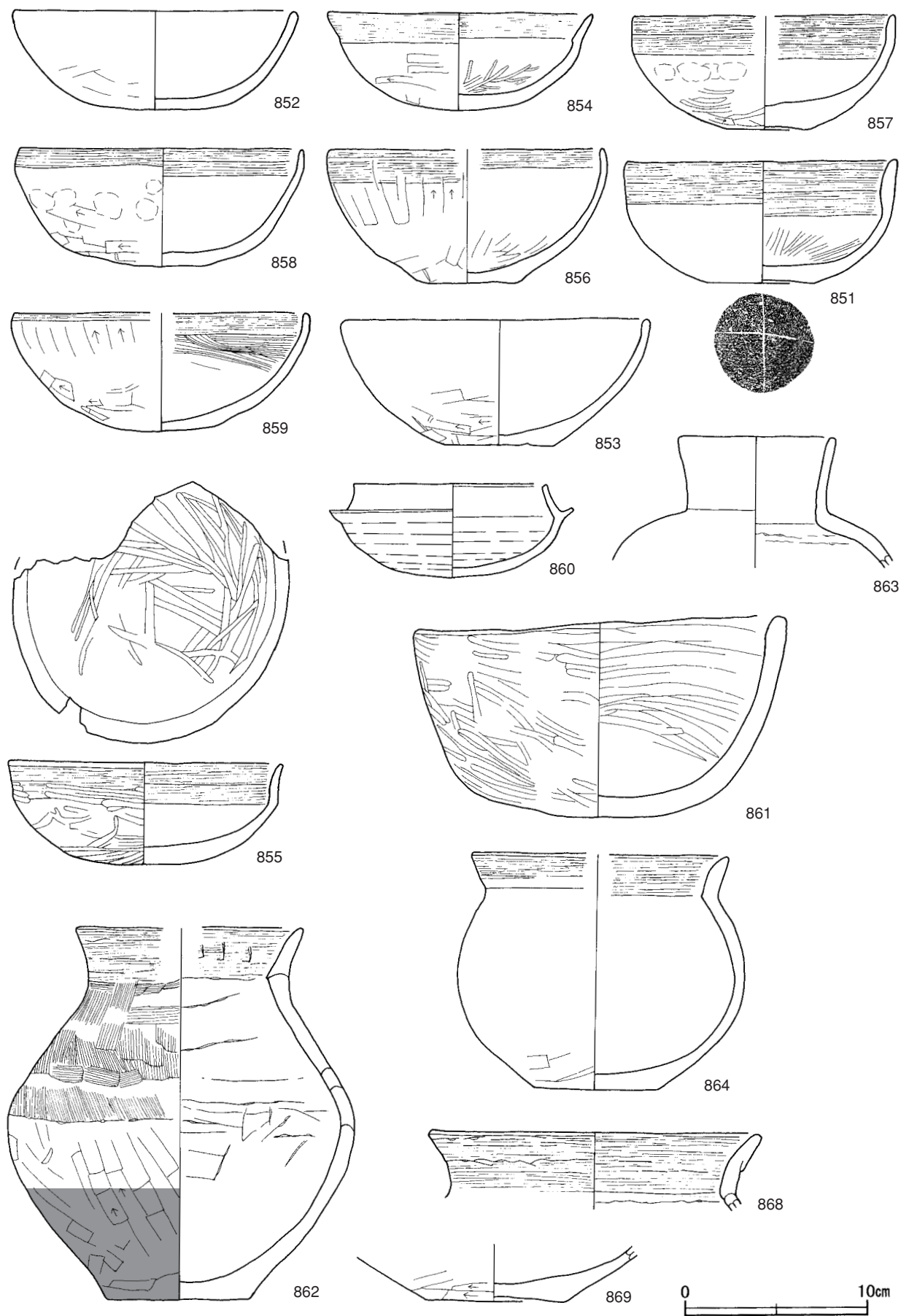
所見 遺棄された851・852・854・858・860・865・866は5世紀後半の土器群であるが, 第108・110号住居跡出土土器より後出の土器である。廃絶時期は, 第108・110号住居跡より新しいと考えられる。これらの土器群の出土状況は, 屋内における土器類の置き場所をうかがえるものである。865の底部径は小さく不安定であり, 粘土は土器が倒れないように支えていた可能性がある。また, 炉の上面は踏み固められていないため, 炉を廃絶してから竈を構築・使用したのではなく, 炉と竈は使い分けされながら同時に使用されていたものと考えられる。



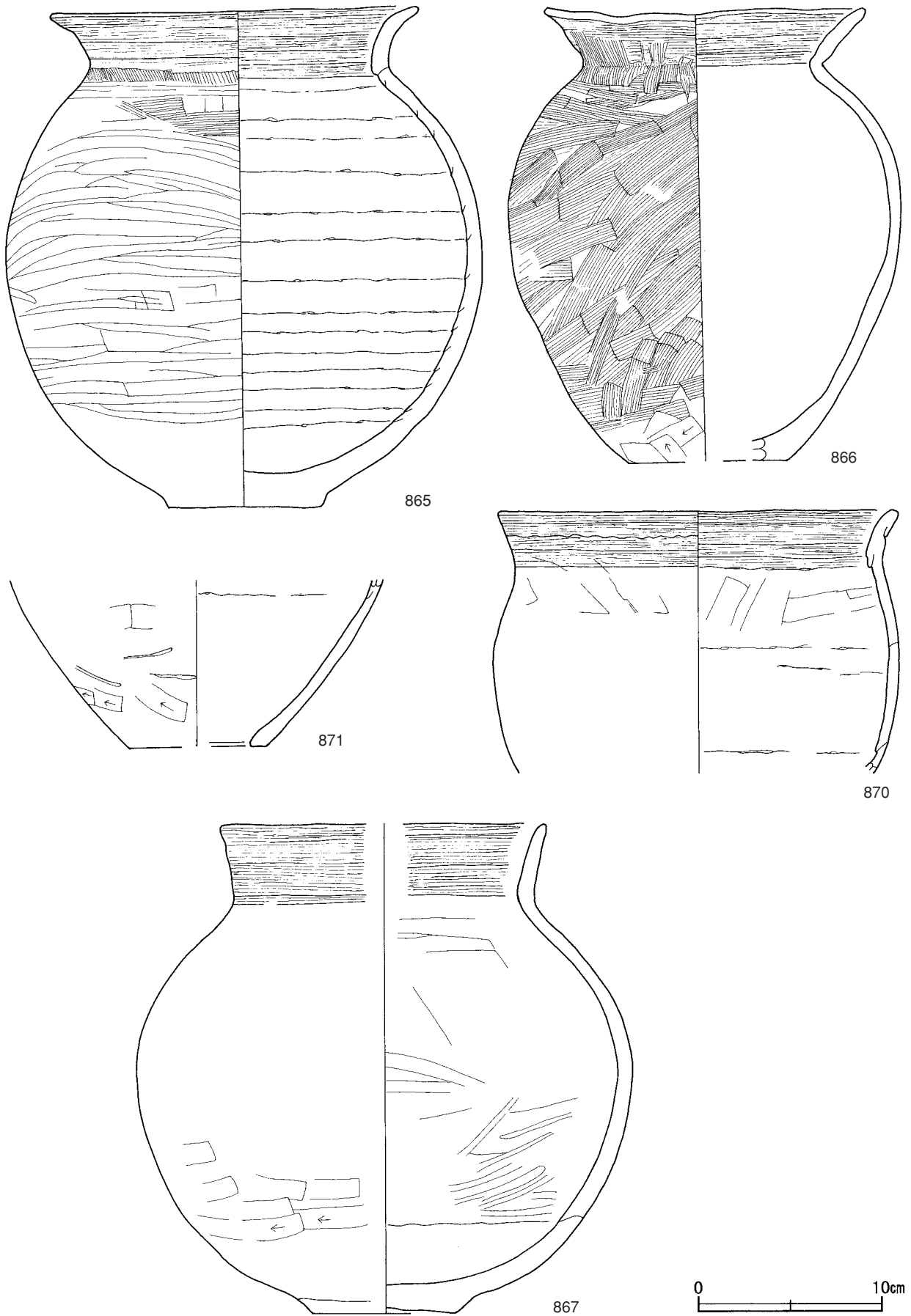
第49图 第114号住居跡実測图(1)



第50图 第114号住居跡実測图 (2)



第51图 第114号住居跡出土遺物実測図(1)



第52図 第114号住居跡出土遺物実測図（2）

第114号住居跡出土遺物観察表（第51・52図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|-------------|------|-------|--------------------|-------|----|---|----------------|-------------|
| 851 | 土師器 | 坏 | 14.5 | 6.7 | 5.7 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ，底部ヘラ記号「+」 | 860と積み重なって床面出土 | 90% PL90 |
| 852 | 土師器 | 坏 | 15.1 | 5.4 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，器面火熱により剥落している | 床面 | 90% PL90 |
| 853 | 土師器 | 坏 | 16.4 | 6.9 | 5.9 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，底部回転ぎみのヘラケズリ | 竈左袖部内 | 90% PL90 |
| 854 | 土師器 | 坏 | 14.2 | 5.2 | — | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・不定方向のヘラミガキ | 床面 | 70% PL90 |
| 855 | 土師器 | 坏 | 14.7 | 5.5 | — | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ，内面ナデ・不定方向のヘラミガキ | 竈左袖部内 | 60% PL91 |
| 856 | 土師器 | 坏 | [14.9] | 7.3 | 5.3 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，底部ヘラケズリ | 覆土上層 | 70% PL90 |
| 857 | 土師器 | 坏 | [14.0] | 6.3 | 4.4 | 石英・長石・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ，指頭押圧残存，内面ナデ | 覆土上層 | 70% PL91 |
| 858 | 土師器 | 坏 | 15.4 | 6.4 | — | 石英・長石・雲母・小礫 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，指頭押圧残存，内面ナデ | 床面 | 75% PL91 |
| 859 | 土師器 | 坏 | [15.7] | 6.5 | — | 石英・長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部内面上半横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ | 覆土上層 | 40% |
| 860 | 須恵器 | 坏 | 10.5 | 5.1 | — | 白色粒子 | 灰 | 普通 | 内そぎな口唇部，蓋受け部は薄く鋭利である。 | 851と積み重なって床面出土 | 90% PL91 |
| 861 | 土師器 | 鉢 | 19.5 | 11.0 | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・斜め方向のヘラミガキ，内面ナデ・横方向のヘラミガキ | 覆土下層 | 95% PL89 |
| 862 | 土師器 | 壺 | [12.1] | 20.2 | 7.8 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，頸部から体部上半ハケ目後ナデ，体部下半ヘラケズリ後ナデ，内面ヘラナデ・ナデ，底部から6.0cmほどの体部外面まで煤が付着 | 覆土下層 | 60% PL90 |
| 863 | 土師器 | 壺 | 8.3 (7.1) | — | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，輪積み痕残存 | 竈左袖部 覆土下層 | 10% |
| 864 | 土師器 | 甕 | [13.5] | 12.8 | 6.7 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 竈左袖部内 | 60% PL91 |
| 865 | 土師器 | 甕 | 19.5 | 27.1 | 8.1 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面上半ハケ目後ナデ，下半ヘラケズリ後ヘラナデ，内面ナデ | 粘土塊に寄り掛かって床面出土 | 90% PL90 |
| 866 | 土師器 | 甕 | 16.8 | 24.7 | [8.4] | 石英・長石・雲母・赤色粒子・小礫 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部外面ハケ目後横ナデ，体部外面ハケ目後ナデ，内面ナデ，底部周縁ヘラケズリ | 床面 | 90% PL90 |
| 867 | 土師器 | 甕 | [17.3] | 26.4 | 7.5 | 石英・長石 | 灰褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 覆土上層 | 50% PL91 |
| 868 | 土師器 | 甕 | 17.5 (4.2) | — | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 明褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，輪積み痕残存 | 竈左袖部内 | 10% |
| 869 | 土師器 | 甕 | — (3.1) | 7.5 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 底部周縁ヘラケズリ，内面ナデ・ヘラナデ | 竈内覆土上層 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|------|--------|-------|--------------------|-----|----|--------------------------------|-------|-----|
| 870 | 土師器 | 甕 | 21.2 | (14.2) | — | 石英・長石・雲母・黒色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ヘラナデ | 竈左袖部内 | 30% |
| 871 | 土師器 | 甌 | — | (9.0) | [7.2] | 石英・長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 無底式，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 覆土中 | 10% |

第117号住居跡（第53～55図）

位置 西部2区南部のC2c3区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第116・119・130号住居，第2163号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作等の攪乱もあり，ほとんど覆土がない状態で確認された。残存部から判断すると東西軸6.50m，短軸6.37mの方形で，主軸方向はN-19°-Wである。

床 竈の手前から中央部にかけて覆土が薄く残っていたため，平坦な硬化面が確認された。断面U字状の壁溝が北・東・西の3か所に巡っている。南側は第116と130号住居跡が重複しており，南東コーナー部が調査区域外に延びているため，壁高は確認されなかったが，壁溝は全周していたと推測される。

竈 北壁際中央部に付設されている。上部が削平されているため，残存するのは袖部の基部と考えられる地山の凸状の掘り残し部と火床部および火熱で赤変した火床面と煙道部の壁外への掘り込みだけである。焚口部から煙道部までが113cm，袖部幅が90cm，火床部幅が40cmである。火床部は床面を若干皿状に掘りくぼめている。煙道部は壁外へ44cm掘り込んでいるが，奥壁の立ち上がりは不明瞭である。

竈土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量

2 赤褐色 焼土粒子中量

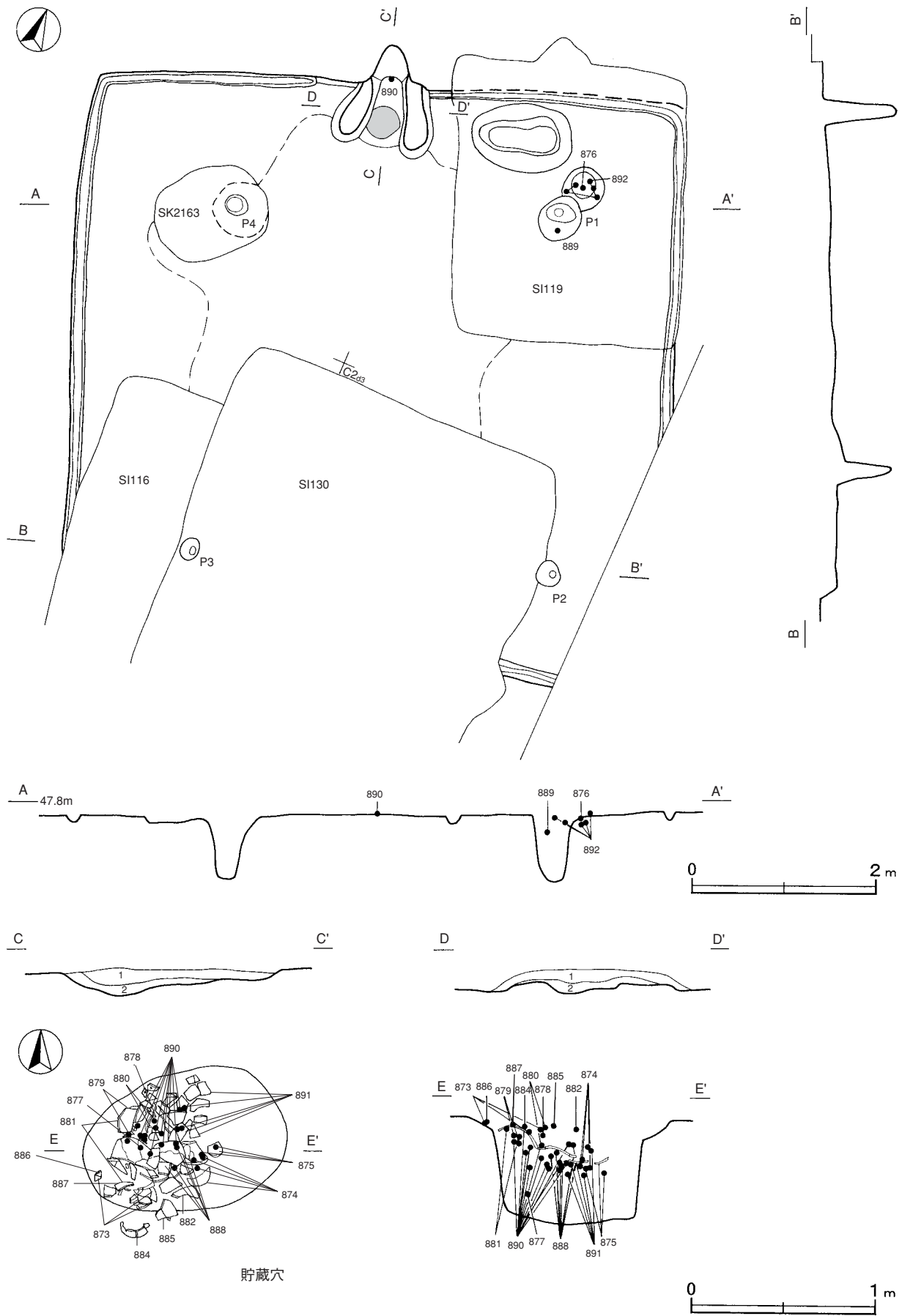
ピット 4か所。P1～P4は深さが59～79cmで，位置と規模から支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 竈右袖部の右側に位置している。長径108cm，短径75cmの楕円形で2段に掘り込まれており，深さは56cmである。底面は平坦で，壁が直立して中段で平坦面をつくり，そこから外傾して立ち上がっている。

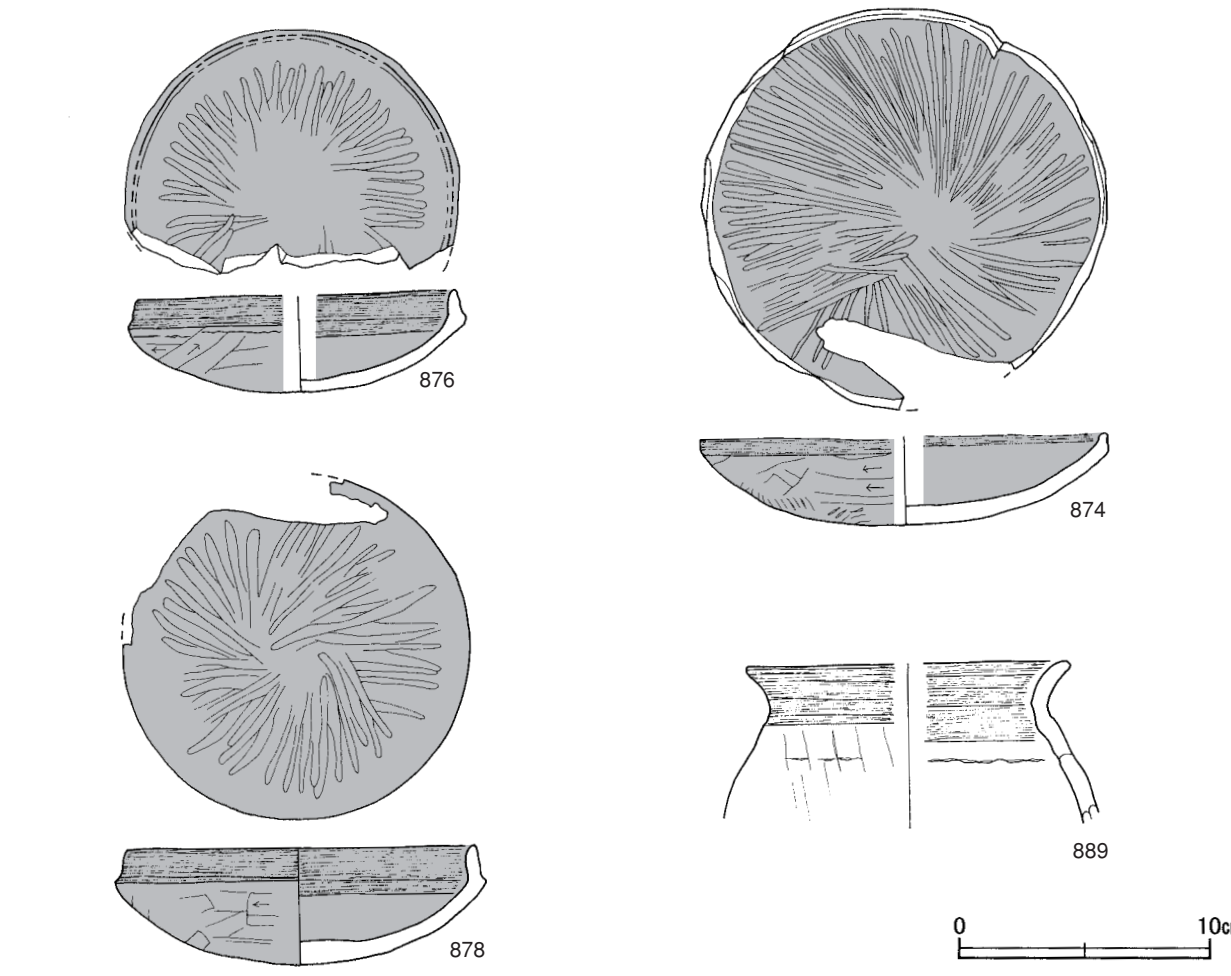
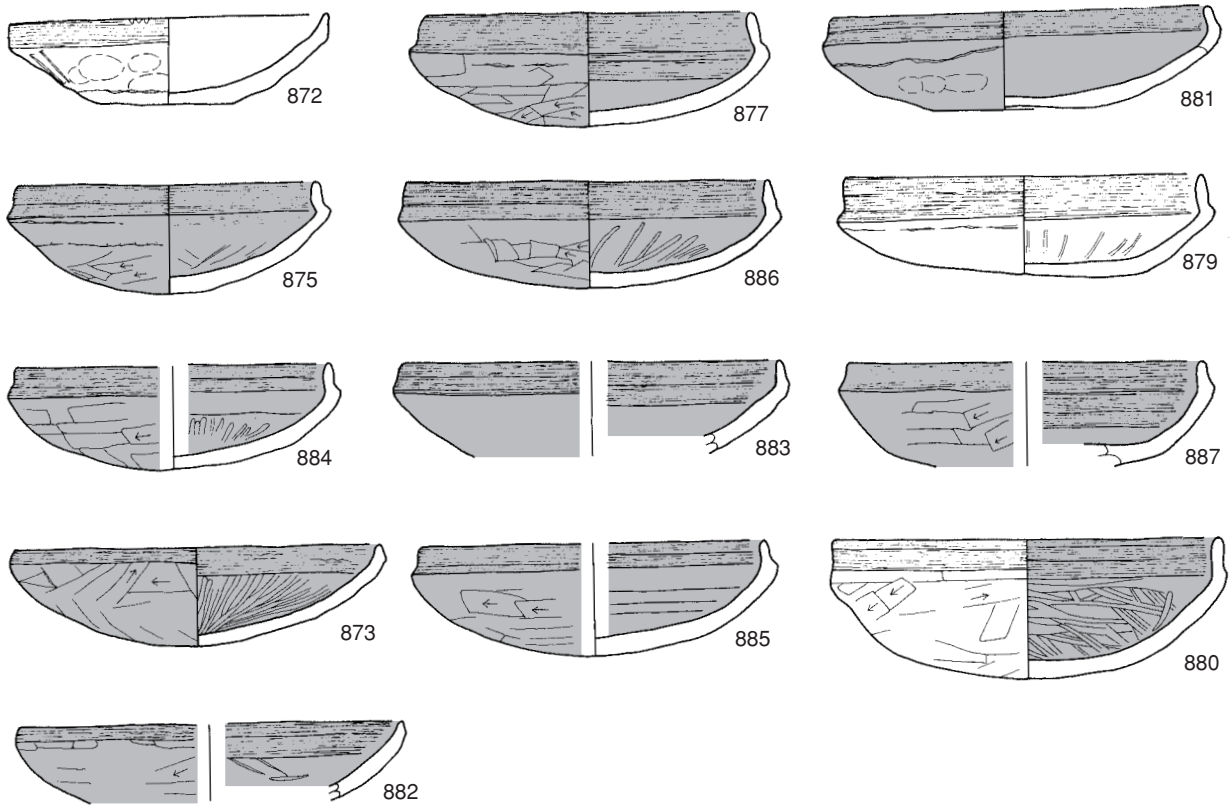
覆土 部分的に薄く黒褐色土が残っただけで，堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片497点（坏225，甕265，甌7）が出土している。貯蔵穴の覆土上層から覆土中層にかけてまとまって出土している。873・878～882・884～888・890・891は貯蔵穴の覆土上層からの出土である。874・875は貯蔵穴の覆土中層から，877は貯蔵穴の覆土下層からそれぞれ出土している。これらの土器は破片や破損品で破断面の摩滅が少なく，斜位で出土していることから貯蔵穴の埋没時に廃棄されたと考えられる。872はP4の覆土中から出土している。876・889・892はP1の覆土中から出土している。890は竈火床部底面から出土している。これらも散乱した破片が接合したものであることから，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また，弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

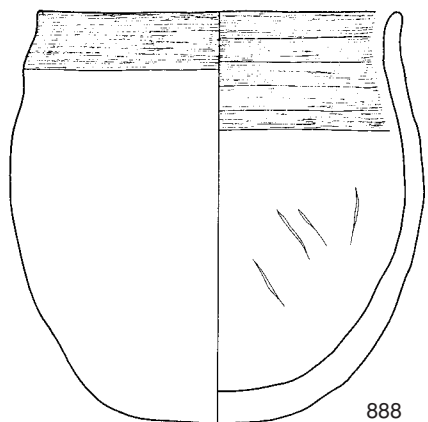
所見 貯蔵穴内から出土した土器群は完形には復元されないことから，埋没が進んでから複数個体の破損品を一括廃棄したと考えられる。廃絶時期は，873～875・877～882・884～887から7世紀前半ないしそれ以前と考えられる。



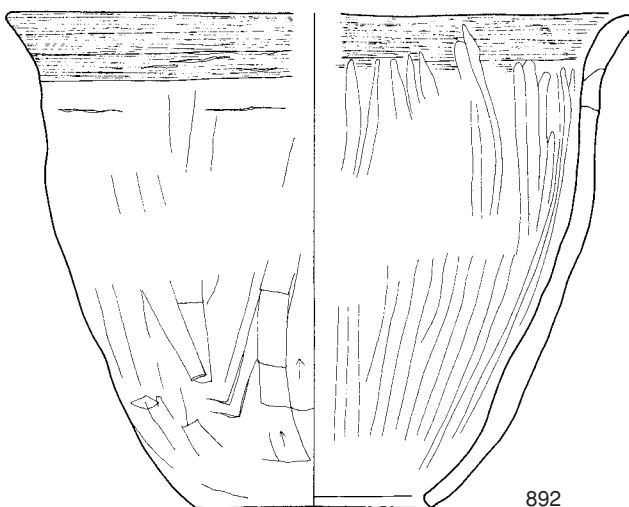
第53图 第117号住居跡実測図



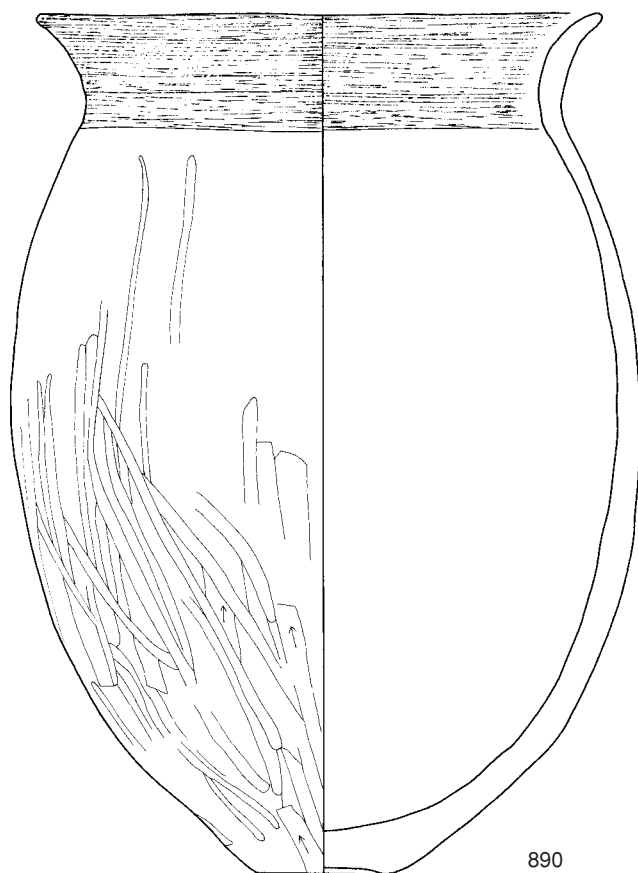
第54图 第117号住居跡出土遺物実測図 (1)



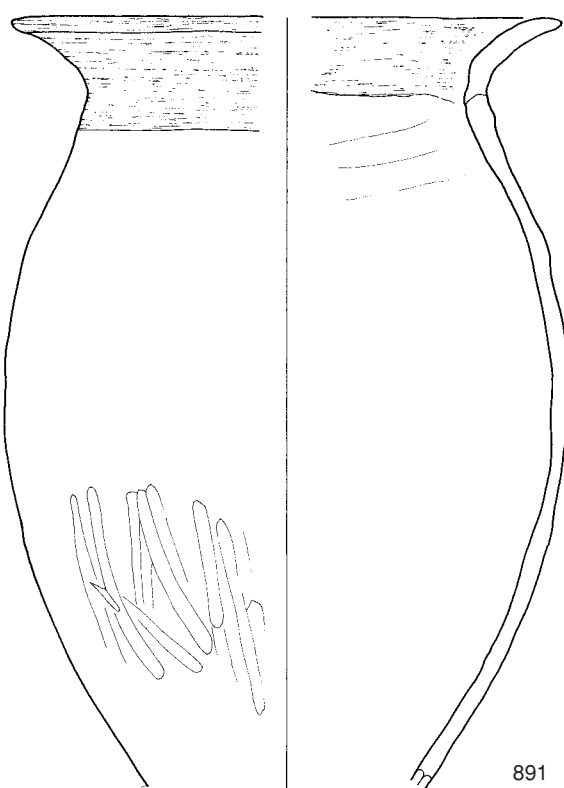
888



892



890



891



第55図 第117号住居跡出土遺物実測図（2）

第117号住居跡出土遺物観察表（第54・55図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|------|-----|-----|------------|-------|----|--|-------------|-------------|
| 872 | 土師器 | 坏 | 12.5 | 3.7 | 5.0 | 石英・長石 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後内・外面指頭押圧ぎみのナデ | 覆土中 | 60% PL92 |
| 873 | 土師器 | 坏 | 14.3 | 3.9 | — | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 貯蔵穴 覆土上層 | 90% PL92 |

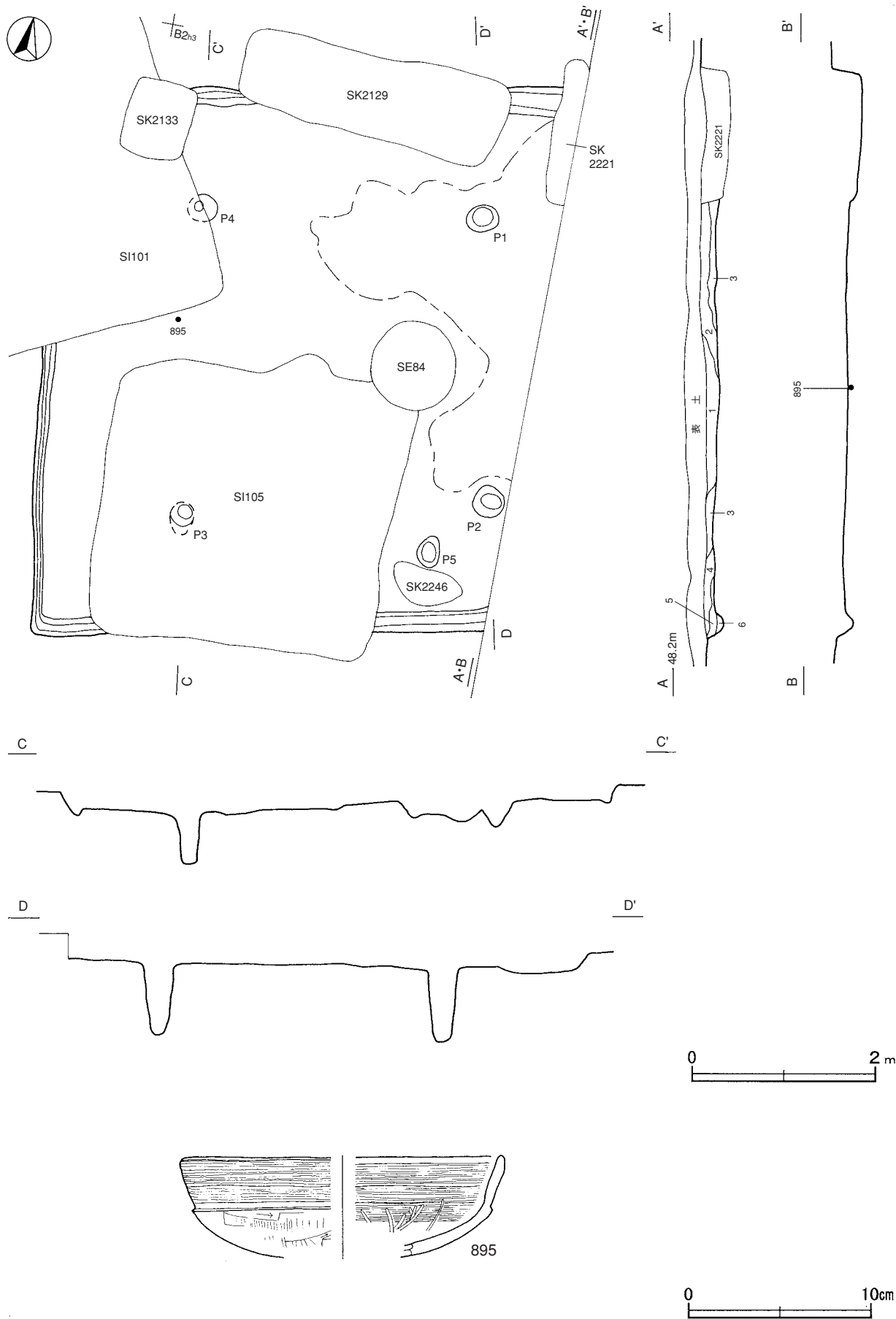
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|-----|---------------|-------|----|---|-------------|-------------|
| 874 | 土師器 | 坏 | [16.0] | 3.5 | — | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 貯蔵穴 覆土中層 | 90% PL92 |
| 875 | 土師器 | 坏 | 11.7 | 4.2 | — | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，輪積み痕残存，内面ヘラナデ | 貯蔵穴 覆土中層 | 90% PL92 |
| 876 | 土師器 | 坏 | [12.5] | 3.8 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，輪積み痕残存，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 竈左袖部内 | 60% |
| 877 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 4.5 | — | 石英・長石・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 貯蔵穴 覆土下層 | 80% PL92 |
| 878 | 土師器 | 坏 | 13.6 | 4.6 | — | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 貯蔵穴 覆土上層 | 70% PL92 |
| 879 | 土師器 | 坏 | 14.0 | 4.1 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・不定方向のヘラミガキ | 貯蔵穴 覆土上層 | 90% PL92 |
| 880 | 土師器 | 坏 | 15.1 | 5.6 | — | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，体部内面上半横ナデ | 貯蔵穴 覆土上層 | 80% PL92 |
| 881 | 土師器 | 坏 | 14.8 | 4.0 | — | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，輪積み痕・指頭圧痕残存，内面ナデ，平底ぎみ | 貯蔵穴 覆土上層 | 60% |
| 882 | 土師器 | 坏 | [15.0] | (3.0) | — | 雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・ヘラナデ | 貯蔵穴 覆土下層 | 10% |
| 883 | 土師器 | 坏 | [15.0] | (3.7) | — | 石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 覆土中層 | 10% |
| 884 | 土師器 | 坏 | [12.3] | 4.1 | — | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 貯蔵穴 覆土上層 | 60% |
| 885 | 土師器 | 坏 | [13.7] | 4.5 | — | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 貯蔵穴 覆土上層 | 60% |
| 886 | 土師器 | 坏 | 14.4 | 4.2 | — | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 貯蔵穴 覆土上層 | 70% |
| 887 | 土師器 | 坏 | [14.1] | (4.1) | — | 雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ | 貯蔵穴 覆土上層 | 25% |
| 888 | 土師器 | 甕 | 14.1 | 16.3 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 貯蔵穴 覆土上層 | 80% PL91 |
| 889 | 土師器 | 甕 | [12.5] | (6.5) | — | 石英・雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，輪積み痕残存 | P 1 内 | 10% |
| 890 | 土師器 | 甕 | 22.0 | 34.0 | 5.4 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・ヘラミガキ，内面ナデ | 竈火床面 | 70% PL91 |
| 891 | 土師器 | 甕 | [21.0] | (30.6) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・ヘラミガキ | 貯蔵穴 覆土上層 | 50% |
| 892 | 土師器 | 甕 | [24.2] | 19.6 | 9.3 | 石英・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，輪積み痕残存，内面ナデ・ヘラミガキ | P 1 内 | 50% |

第125号住居跡（第56図）

位置 西部2区中央部のB2h3区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第101・105号住居，第2129・2133・2221・2246号土坑，第84号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 重複が激しく，また東側が調査区域外に延びており，全容は不明である。残存部から一辺6mほどの方形と推測される。P1・P4間とP2・P3間の中心を結んだ線を主軸とすると，主軸方向はN—



第56図 第125号住居跡・出土遺物実測図

0°-Wと考えられる。壁高は土層断面で10~20cm確認され、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、東壁寄りに硬化面が広がっていたと推測される。断面U字状の壁溝が残存する壁下に巡っている。

ピット 5か所。P1~P4は深さが28~81cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P5は深さが15cmで、南壁際中央部のややP2寄りにあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片143点（坏40，高坏1，椀3，甕99）が出土している。大半が細片で、図示できるものは895のみである。895は中央部からやや西壁側に寄った床面から出土している。破片であり破断面の摩滅が少ないことから、廃絶時に廃棄されたと考えられる。また、その他に混入した弥生土器片が出土している。

所見 廃絶時期は、895から6世紀前半ないしそれ以前と考えられる。

第125号住居跡出土遺物観察表（第56図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|-------|----|-------|----|----|--|------|-----|
| 895 | 土師器 | 坏 | [17.2] | (5.5) | — | 石英・長石 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 床面 | 20% |

第128号住居跡（第57図）

位置 西部2区中央部のB2h1区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第142号住居跡を掘り込み、第132・143号住居、第2190・2191・2243・2244・2245号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.45m，短軸5.08mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は15~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が北東コーナー部にだけ巡っている。

炉 中央部のやや北壁寄りに3基の地床炉が確認された。炉1の長径は55cmだけが確認され、短径39cmの楕円形と推測される。床面を5cm掘りくぼめ、炉床面が火熱で赤変している。炉2は長径50cm，短径33cmの楕円形で、床面を10cm掘りくぼめ、炉床面が火熱で赤変している。炉3の長径は39cmだけが確認され、短径33cmの楕円形と推測される。床面を8cm掘りくぼめ、炉床面が火熱で赤変している。

炉1土層解説

| | | | |
|---------|--------------------|-------|----------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 | 3 赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土粒子中量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量 |

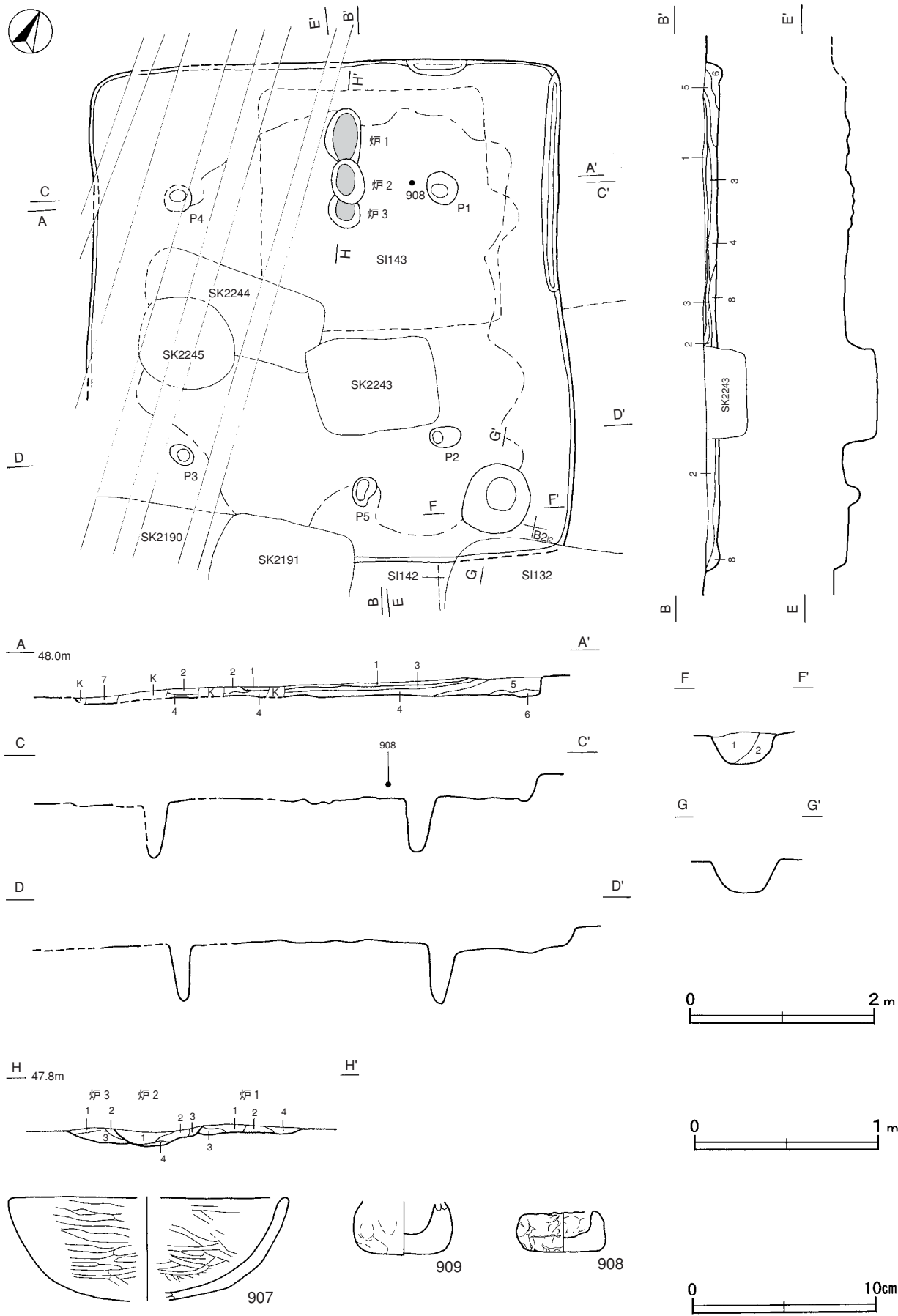
炉2土層解説

| | | | |
|-------|------------------|-------|--------|
| 1 赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子中量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック微量 | 4 赤褐色 | 焼土粒子多量 |

炉3土層解説

| | | | |
|---------|------------------|-------|--------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック微量 | 3 赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 | | |

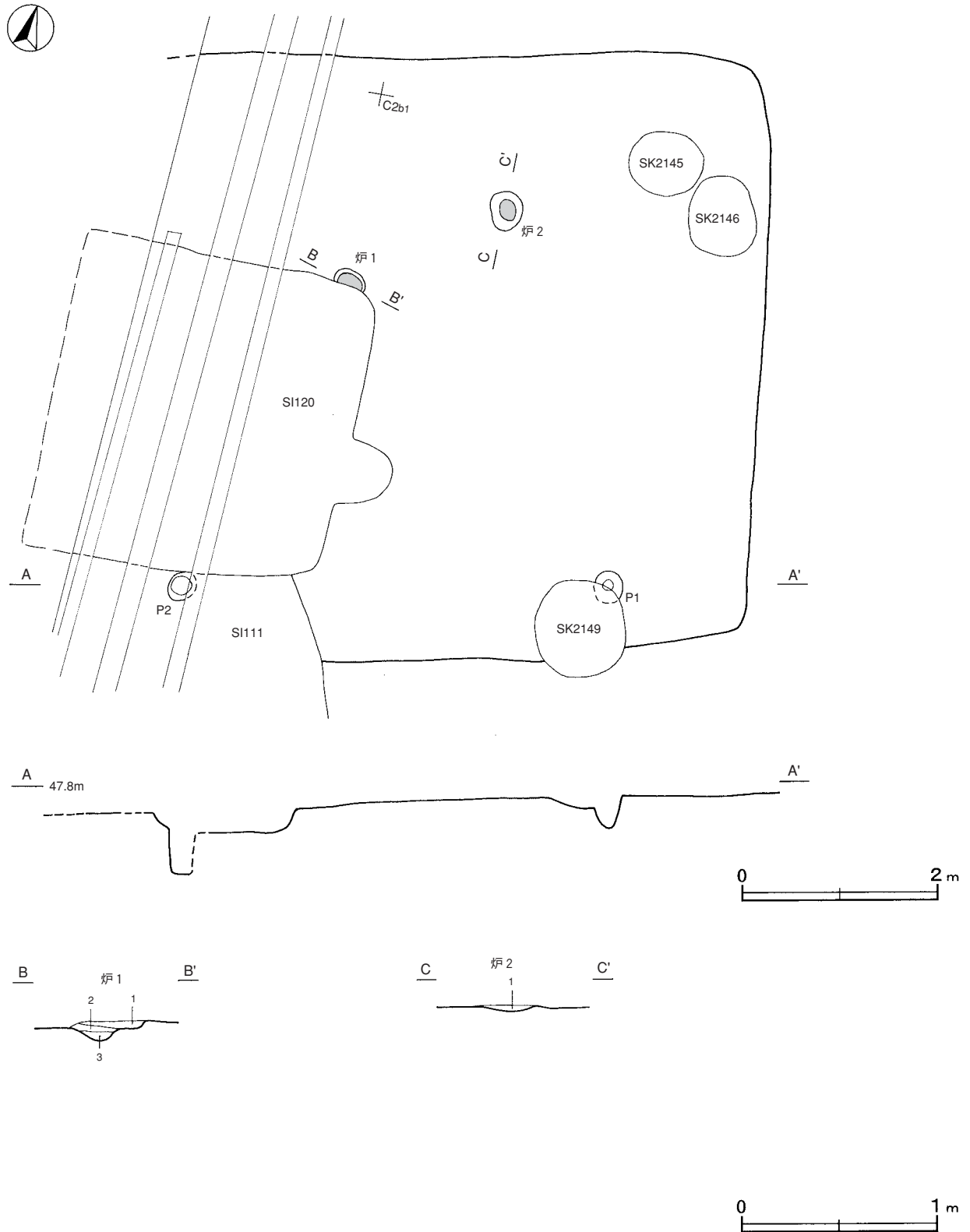
ピット 5か所。P1~P4は深さが59~64cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P5は深さが15cmで、南壁際の中央部にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第57图 第128号住居跡・出土遺物実測図

ピット 2か所。炉との位置関係およびピット間の配置から、P 1～P 2が支柱穴と考えられる。深さは35～55cmである。

所見 P 1・P 2の柱間距離が4.35mであり、推測される住居規模から古墳時代の住居跡と考えられる。炉2の上面には硬化面が確認され、炉2が廃絶された後、炉1が付設されたと考えられる。



第58図 第137号住居跡実測図

第150号住居跡（第59～61図）

位置 西部1区北部のC2b7区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第162・175号住居跡を掘り込み、第2269・2274・2286・2297・2298・2408・2411・2433号土坑、第54・55号溝と第87号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 北西側が調査区域外に延びており、全容は不明である。確認された3か所のコーナー部から長軸8.45m、短軸8.21mの方形と考えられ、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は6～12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で中央部が踏み固められている。北・東・南壁と西壁下の一部に断面U字状の壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部までが145cm、袖部幅が135cm、火床部幅が45cm、壁外の掘り込みが33cmである。火床部と左袖部は地山を皿状に5～10cm掘りくぼめられ、ロームブロックを含んだ黒褐色土が充填されている。火床面は赤変硬化している。左袖部は充填された土の上に、右袖部は床面上にそれぞれ砂質粘土で構築されている。煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

| | |
|-------------------|------------------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子多量 | 6 暗褐色 焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 3 褐色 焼土粒子多量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 5 赤褐色 焼土ブロック少量 | 10 褐色 灰 焼土粒子少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ42～84cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。P5は深さが15cmで、南壁際の中央部にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 竈右袖部の右側に位置している。長径126cm、短径103cmの楕円形で、深さは77cmである。底面は平坦で、壁は直立しており、上方で外傾する。

貯蔵穴土層解説

| | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量 |

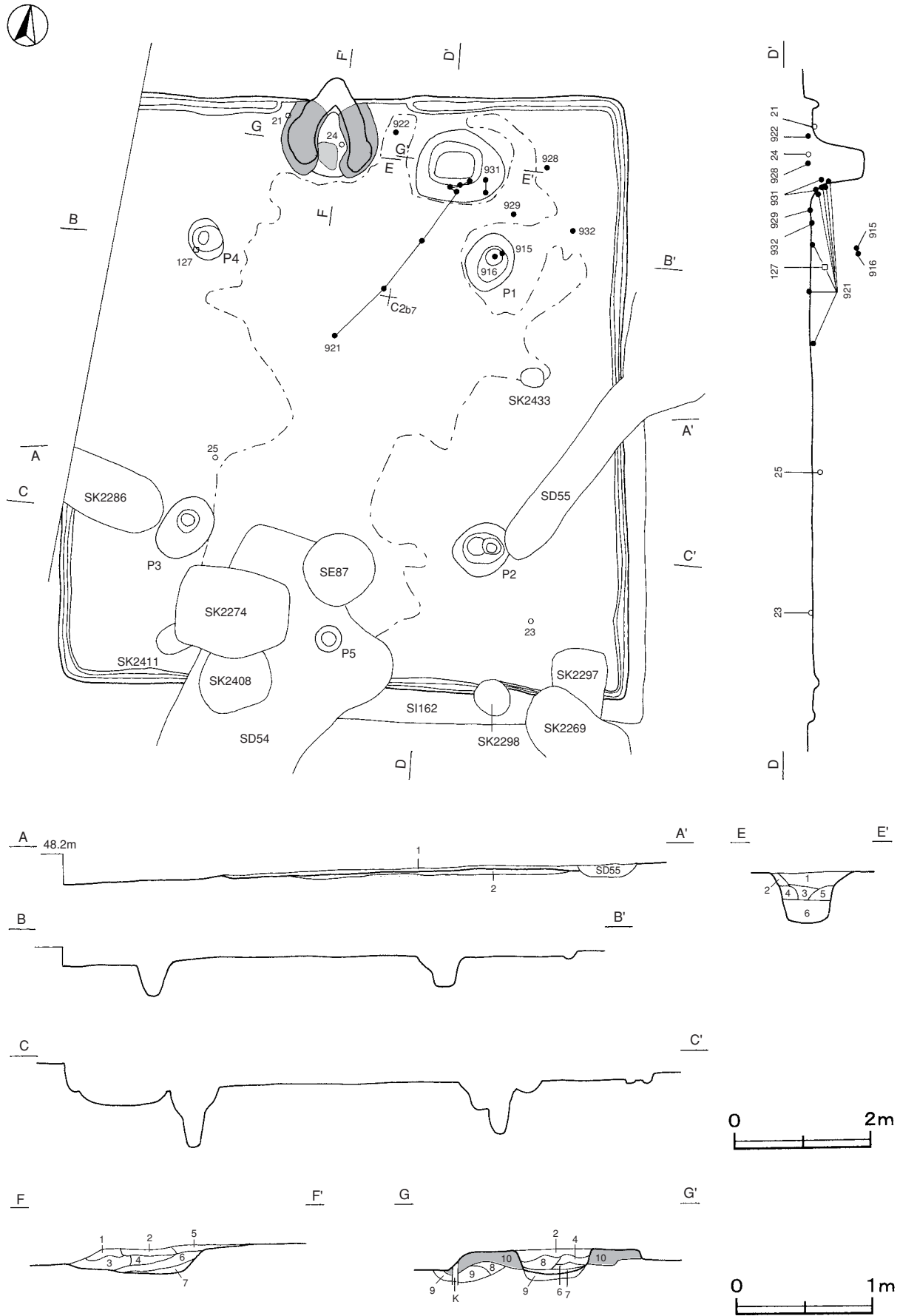
覆土 単一層であり、堆積状況は不明である。なお、土層断面図の第2層は貼床の構築土である。

土層解説

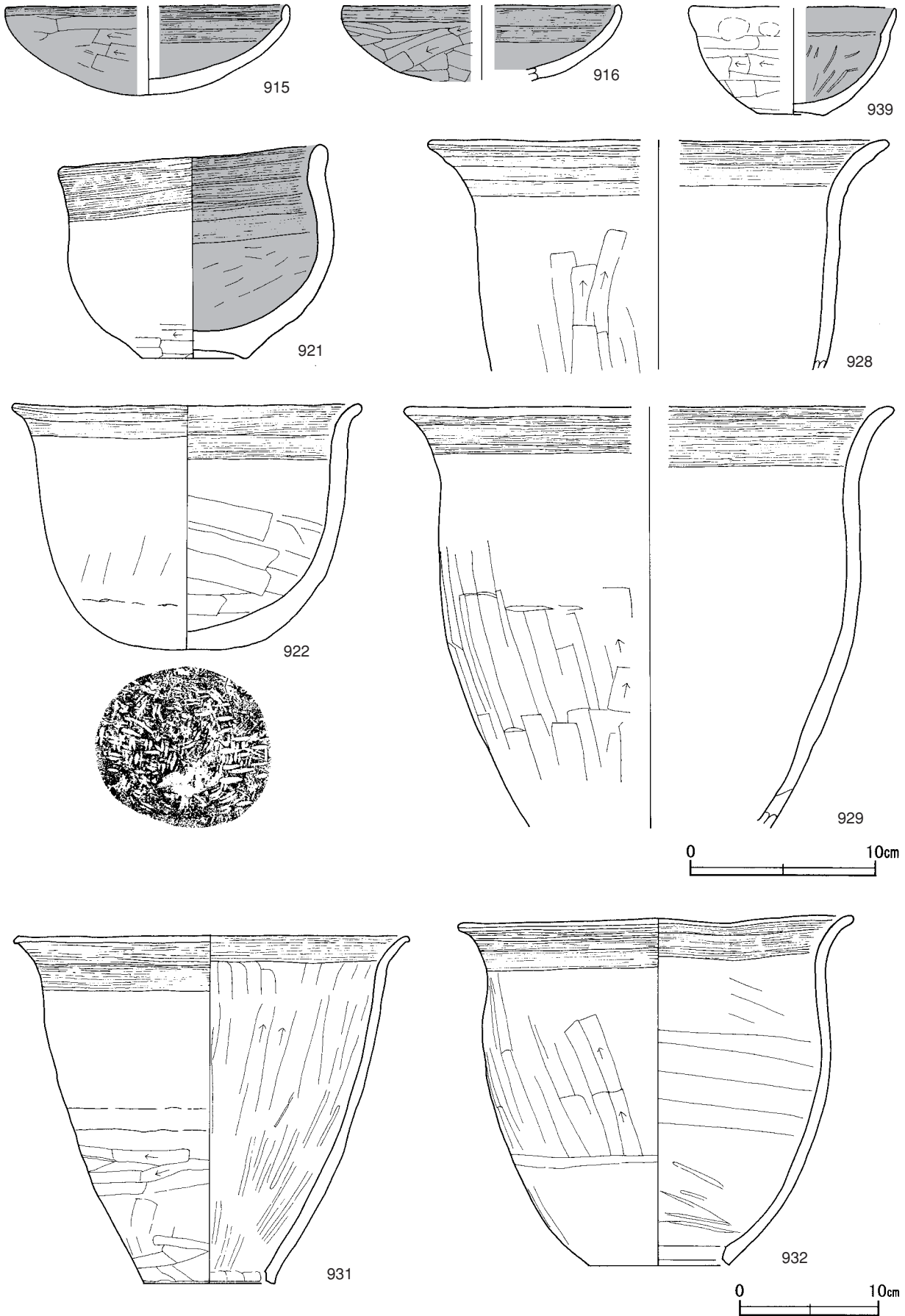
| | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量 |
|--------------------|-----------------------|

遺物出土状況 土師器片714（坏87、高坏2、椀1、埴5、甕566、甑53）、石製品1点（砥石）、土製品6点（勾玉2、小玉2、支脚1、紡錘車1）、粘土塊が出土している。これらは住居全域に散在している。土器は貯蔵穴周辺および貯蔵穴内部に集中している。922は竈右袖部の脇、929は貯蔵穴の脇、932は北東コーナー部の床面からそれぞれつぶれた状態で出土している。これらは廃絶時に遺棄されたと考えられる。921は貯蔵穴の覆土上層と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。928は貯蔵穴の脇の覆土下層から、931は貯蔵穴の覆土上層からつぶれた状態でそれぞれ出土している。915・916はP1の覆土中層から出土している。これらの土器は破片や破損品で破断面の摩滅が少なく、離れた位置の破片が接合していることから廃棄されたと考えられる。Q127はP4の覆土中から出土しており、土器の出土状況から廃棄されたと推測される。DP21は竈左袖部の脇の床面から、DP24は竈火床部内からそれぞれ出土している。DP23は南東コーナー部の床面から出土している。また、混入した弥生土器片と弥生時代の紡錘車、奈良時代以降の須恵器片、中世以降の陶器片が出土している。

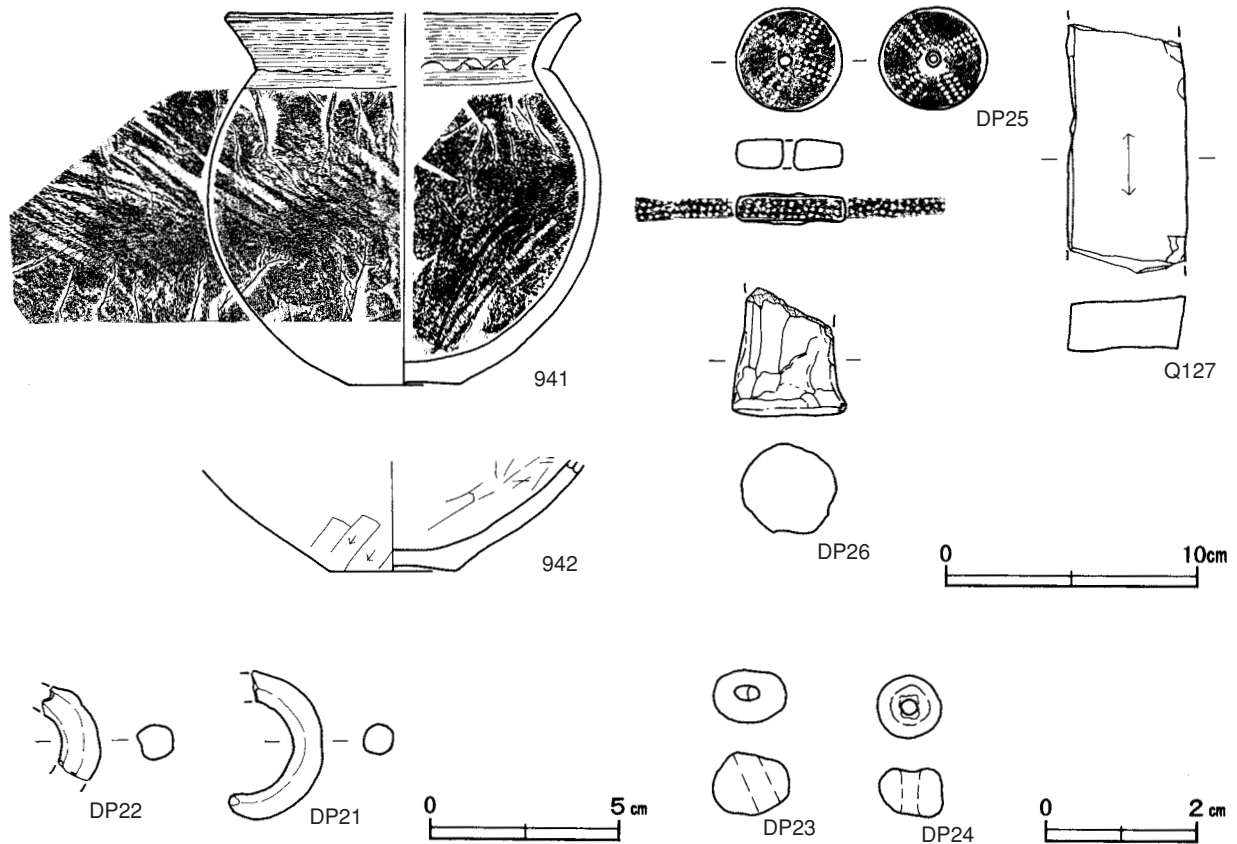
所見 廃絶時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。つくば市熊の山遺跡第1596号住居跡（7世紀前葉）にも類例があるが、竈およびその周辺からの土製品の出土は祭祀的な行為をうかがわせる。



第59图 第150号住居跡実測図



第60图 第150号住居跡出土遺物実測図（1）



第61図 第150号住居跡出土遺物実測図(2)

第150号住居跡出土遺物観察表(第60・61図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|-------|---------------|-------|----|--|-------------|-------------|
| 915 | 土師器 | 坏 | [15.0] | 4.7 | — | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | P 1 覆土中 | 30% |
| 916 | 土師器 | 坏 | [14.8] | (4.0) | — | 石英・長石 | 灰黄褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | P 1 覆土中 | 30% |
| 921 | 土師器 | 鉢 | 14.1 | 11.6 | 5.5 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ・ヘラナデ | 覆土上層 床面 | 90% PL92 |
| 922 | 土師器 | 鉢 | 18.4 | 13.3 | 7.0 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ヘラナデ, 底部網代圧痕 | 床面 | 80% PL92 |
| 928 | 土師器 | 甌 | [24.4] | (12.4) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | 竈左袖部内 | 10% |
| 929 | 土師器 | 甌カ | [26.0] | (22.7) | — | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | 床面 | 40% |
| 931 | 土師器 | 甌 | 27.8 | 25.0 | 9.2 | 石英・雲母・赤色粒子・小礫 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 輪積み痕残存, 内面ヘラケズリ後ナデ・ヘラミガキ, 底部内面周縁指頭押圧 | 貯蔵穴 覆土上層 | 90% PL93 |
| 932 | 土師器 | 甌 | 27.7 | 25.0 | 10.0 | 石英・長石・雲母・小礫 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ・ヘラナデ | 床面 | 90% PL93 |
| 939 | 土師器 | 鉢 | [10.9] | 5.7 | 3.3 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部内面上半ヨコナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 指頭押圧残存, 内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 覆土中 | 45% |
| 941 | 土師器 | 甕 | [13.8] | 14.8 | [4.4] | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 内面輪積み痕残存, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ, 体部内・外面斜め方向の溝状の線状痕 | 覆土中 | 50% PL94 |
| 942 | 土師器 | 甕 | — | (4.3) | 5.0 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特 徴 | | 出土位置 | 備 考 |
|------|----|-------|-----|-----|---------|----|-------------|--|---------|-----|
| Q127 | 砥石 | (9.8) | 4.8 | 2.2 | (185.0) | 砂岩 | 砥面 1 面, 折損品 | | P 4 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎 土 | 色調 | 焼成 | 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|------|-------|-------|-------|-----|--------|-----|-------|----|------------------|------|-------|
| DP21 | 不明土製品 | (3.9) | (2.5) | 0.8 | (4.1) | 長石 | にぶい橙 | 普通 | 半円形カ, 外面ナデ | 床面 | PL101 |
| DP22 | 不明土製品 | (2.4) | (1.5) | 0.9 | (2.6) | 雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 半円形カ, 外面ナデ | 覆土中 | |
| DP26 | 支脚 | (5.0) | 4.5 | 4.0 | (81.6) | 雲母 | にぶい褐 | 普通 | 外面ヘラケズリ後ナデ, 端部平坦 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎 土 | 色調 | 焼成 | 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|------|-----|-------------|-----|------|----------|------|----|---|-------|-------|
| DP23 | 小玉 | 0.7~ 1.0 | 0.8 | 0.5 | 長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 孔径0.2~0.3cm, 中心からはずれ, 外形ゆがみ | 床面 | PL101 |
| DP24 | 小玉 | 0.8 | 0.6 | 0.5 | 雲母 | 黒褐 | 普通 | 孔径0.2cm, 中心にあけられ, 外形ゆがみ | 竈火床部内 | PL101 |
| DP25 | 紡錘車 | 4.1 | 1.2 | 24.9 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 0.6cm, 孔周辺に最大厚を持つ円盤形, 孔から放射状に8個3条の刺突紋を4単位施文, 弥生時代の紡錘車 | 覆土中 | PL102 |

第155号住居跡（第62・63図）

位置 西部1区北部のC3b1区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第194号住居跡を掘り込み、第161号住居と第2359号土坑とピット（2か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.55m、短軸3.52mの方形で、主軸方向はN-70°-Eである。壁高は13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈を通る主軸線から南側が踏み固められており、わずかに高まっている。断面U字状の壁溝が東・南壁下に巡っている。

竈 北東壁の左寄りに付設されている。焚口部から煙道部までが93cm、袖部幅が90cm、火床部幅が42cm、壁外に13cmで、ほとんど掘り込まれていない。右袖部は地山を浅く掘りくぼめた後に暗褐色土を充填し、その上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。左袖部は床面上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面が火熱で赤変している。煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | |
|---------|------------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 8 赤 褐 色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 黒 褐 色 | 焼土ブロック少量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | 10 褐 灰 色 | 焼土粒子少量 |
| 5 暗 褐 色 | 焼土粒子中量, ローム粒子微量 | 11 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 6 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | | |

ピット 3か所。P1~P3は深さが8~13cmであるが、配置に規則性がなく、性格不明である。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長径146cm、短径118cmの不整形で、深さは37cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

| | | | |
|---------|-----------|---------|------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック微量 | 6 暗 褐 色 | 焼土粒子微量 |

覆土 5層に分層される。各層にロームブロックを含んでいることやブロック状に堆積していることから、人

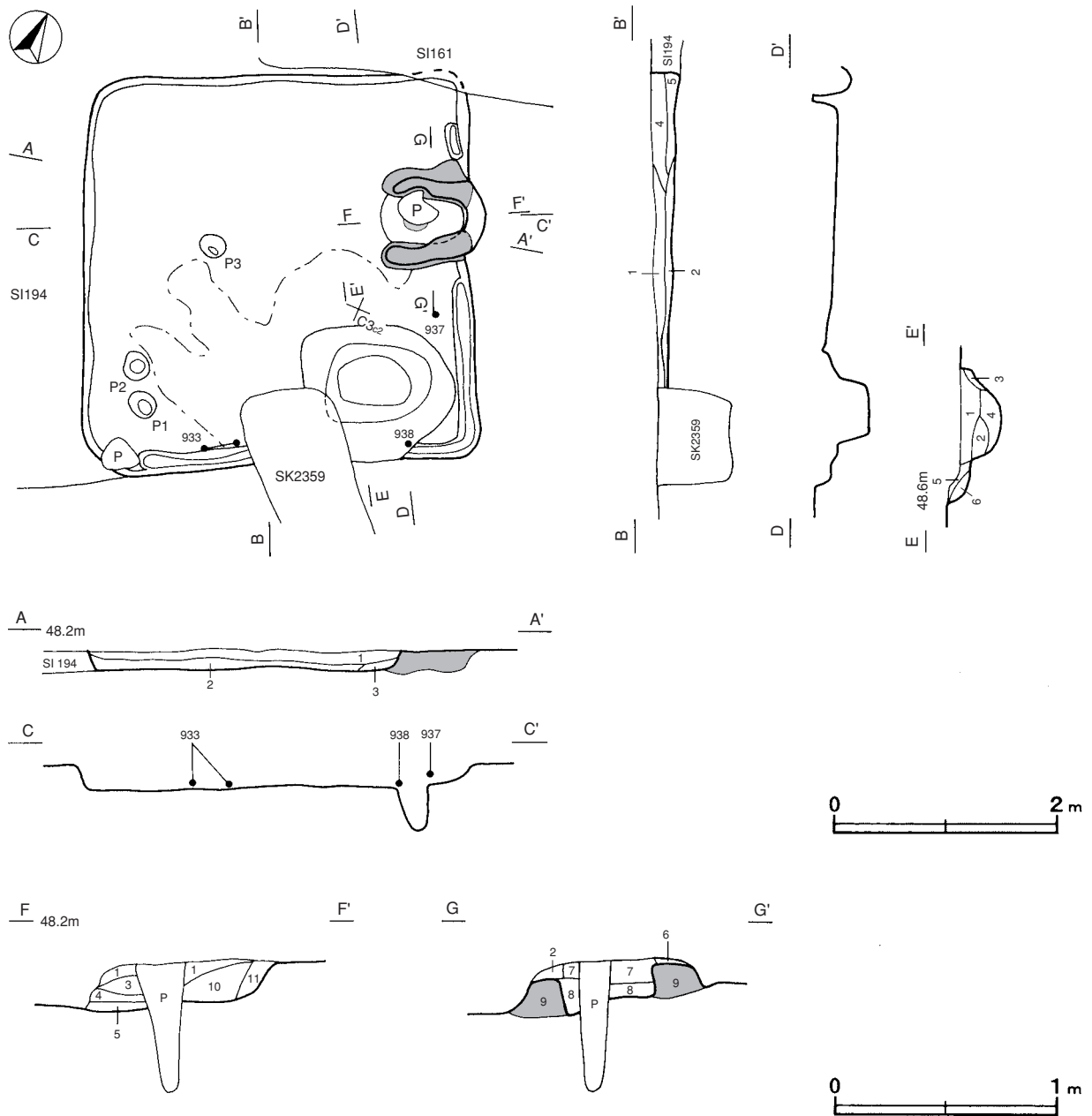
為堆積と考えられる。

土層解説

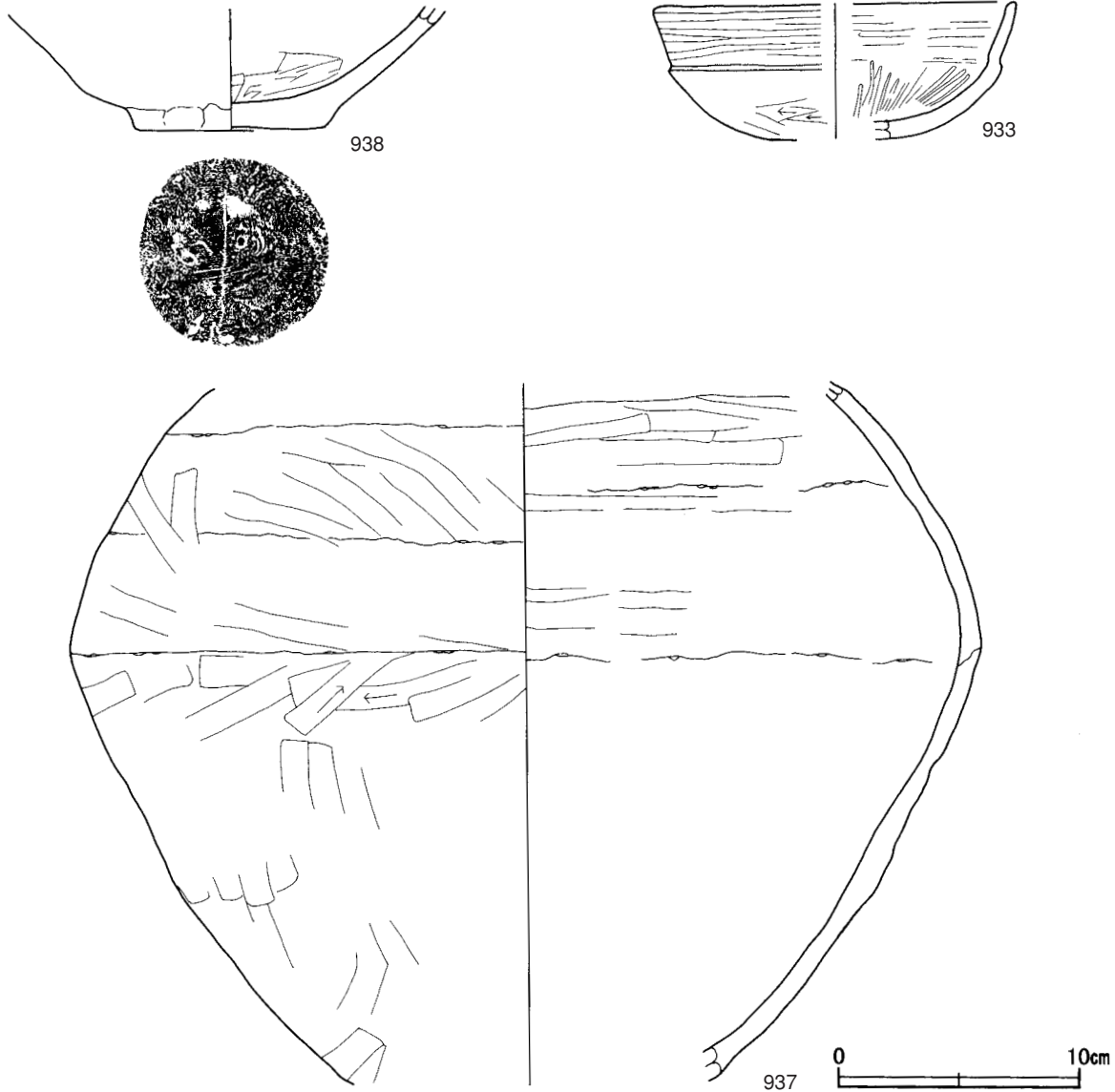
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片577点（坏152，高坏2，碗2，甕420，甑1），石製品2点（砥石），粘土塊が出土している。土器は竈内および竈付近と，西コーナー部に集中している。933は南西壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。937は竈右袖部の脇の覆土下層から潰れた状態で出土している。938は貯蔵穴の覆土上層から出土している。これらの土器は破片や破損品で破断面の摩滅が少なく，離れた位置の破片が接合していることから廃絶後のくぼ地に廃棄されたと考えられる。また，混入した弥生土器片，須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は，933から6世紀前半ないしそれ以前と考えられる。



第62図 第155号住居跡実測図



第63図 第155号住居跡出土遺物実測図

第155号住居跡出土遺物観察表（第63図）

| 番号 | 器種 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|-----|----------|-------|----|--|-------------|-----|
| 933 | 土師器 | 坏 | [14.6] | (5.6) | — | 石英・長石 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 覆土下層 | 40% |
| 937 | 土師器 | 甕 | — | (29.0) | — | 石英・長石・小礫 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ・ヘラナデ, 内面ナデ・ヘラナデ, 輪積み痕残存 | 覆土下層 | 10% |
| 938 | 土師器 | 甕 | — | (5.0) | 7.9 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内・外面ナデ・ヘラナデ, 外面輪積み痕残存, 底部周縁指頭押圧 | 貯蔵穴 覆土上層 | 10% |

第162号住居跡（第64図）

位置 西部1区北部のC2b7区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第175号住居跡を掘り込み、第150号住居と第2269・2274・2297・2298・2408・2419号土坑、第54・55号溝と第87号井戸とピット（1か所）に掘り込まれている。

規模と形状 第150号住居に掘り込まれているため、東西軸は4.38m、南北軸は4.25mだけが確認され、方形と

推測される。P1・P2間の中心を通る南北軸を主軸とすると、主軸方向はN-9°-Wと考えられる。壁高は7cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、軟弱である。確認された東・南壁下に断面U字状の壁溝が巡っている。

ピット 5か所。P1～P3は深さ26～73cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。北東部に位置する支柱穴が確認されなかったが、四本支柱穴と推測される。P4は深さが11cmで南壁際の中央部にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は補助柱穴の可能性も考えられる。

覆土 2層に分層される。堆積状況は不明である。

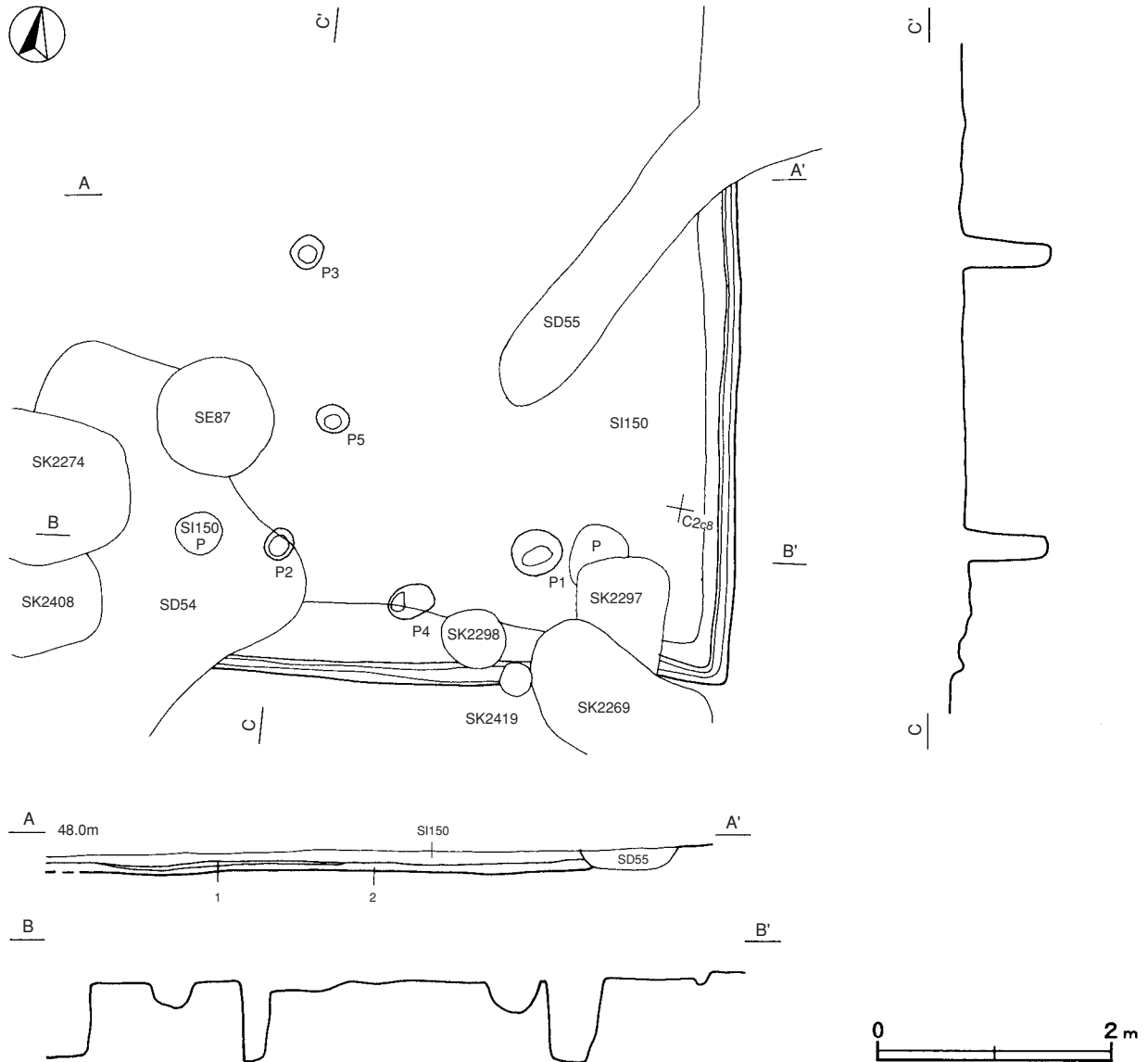
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片112点（坏10，高坏3，埴3，壺1，甕95），粘土塊が出土しているが、すべて細片で図示できるものがない。また、混入した弥生土器片が出土している。

所見 7世紀前葉の第150号住居より古く、廃絶時期は古墳時代と考えられる。



第64図 第162号住居跡実測図

第164号住居跡（第65・66図）

位置 西部1区北部のC3b3区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第195号住居跡を掘り込み、第2300・2340・2358・2363・2376・2378・2454・2455号土坑とピット（7か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.54m、短軸4.35mの方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁高は4～13cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉の南側を囲むように床面中央部が踏み固められている。

炉 床面中央部に付設されている。長径73cm、短径は28cmだけ確認され、楕円形と推測される。床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱で赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック少量 | 3 赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さが40～62cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P5は深さが30cmで、南壁際の中央部にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部と南東コーナー部に各1か所ずつ確認された。北東コーナー部に位置する貯蔵穴1は長軸68cm、短軸55cmの隅丸方形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。南東コーナー部に位置する貯蔵穴2は長径57cm、短径46cmの楕円形で、深さが31cmである。底面は凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴1土層解説

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 5 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |

貯蔵穴2土層解説

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | |

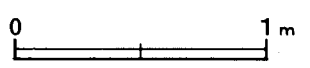
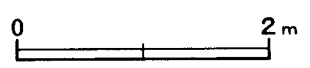
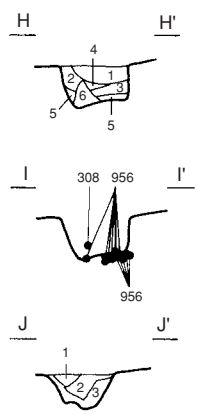
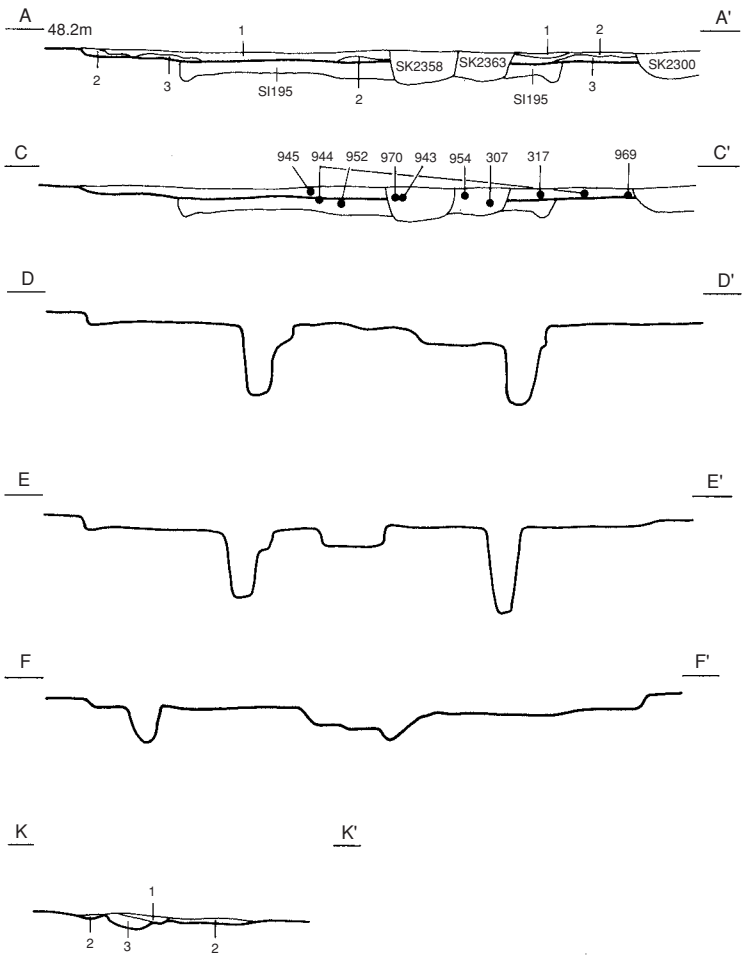
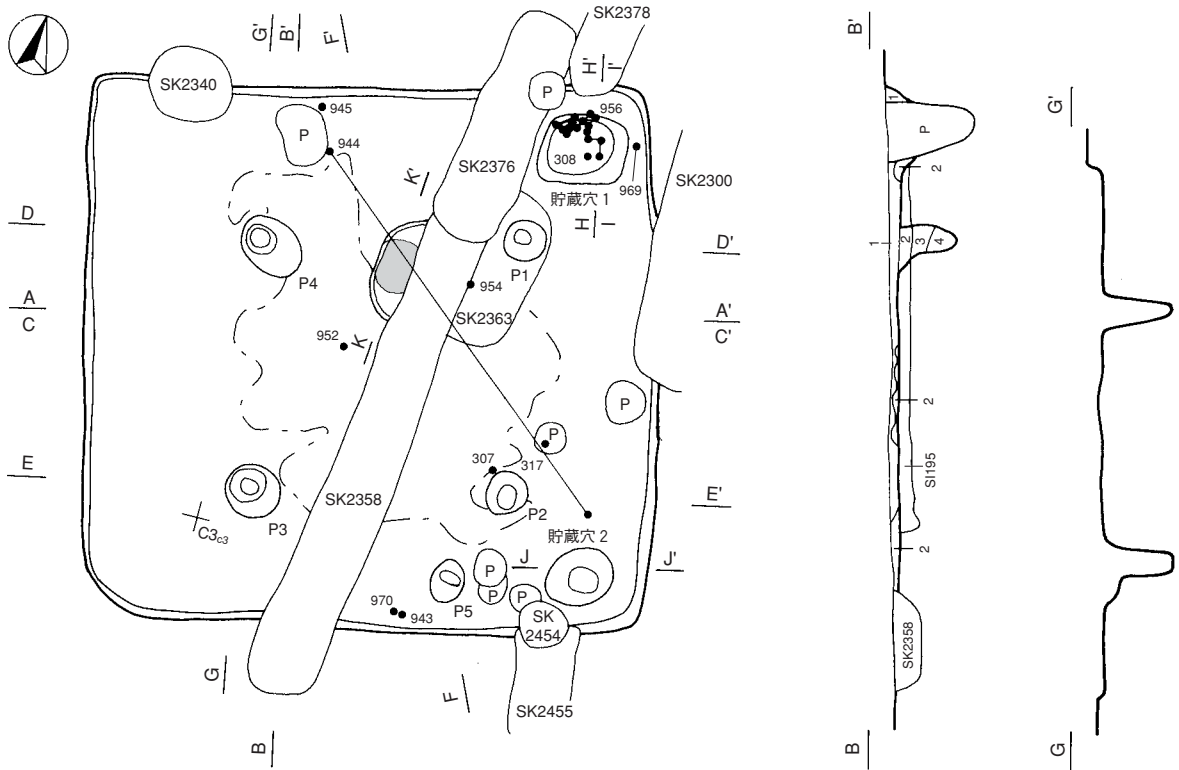
覆土 4層に分層される。堆積状況は不明である。

土層解説

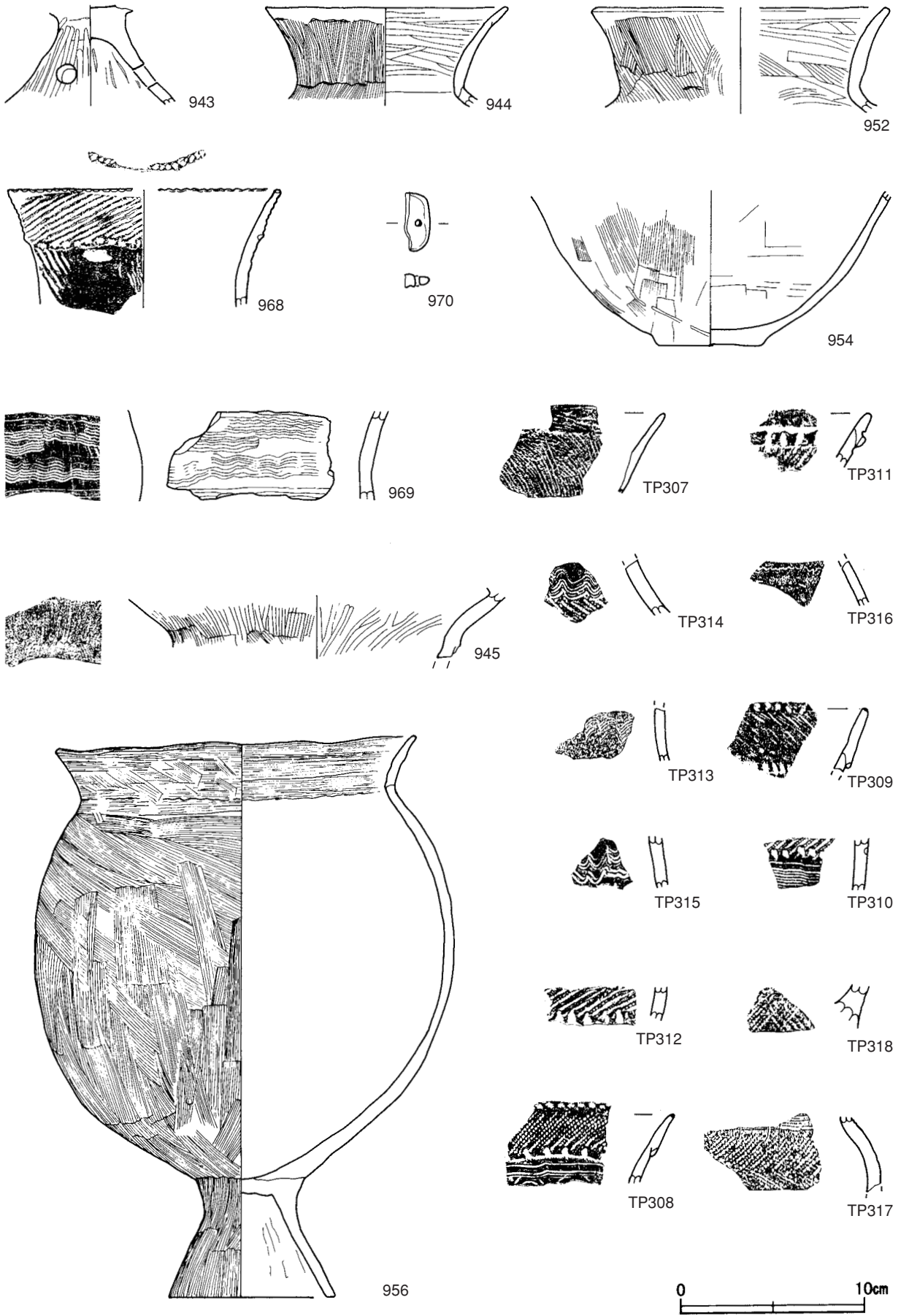
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片414点（坏1、高坏2、壺15、埴10、器台1、甕385）、弥生土器片58点（口縁部片24、胴部片34）が出土している。土器片は貯蔵穴1の内部と貯蔵穴2の周辺に集中している。943・970は南壁際の、945は北壁際の、952・954・TP307・TP317は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。944は北壁際と南東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合している。969は北東コーナー部の覆土下層から、956・TP308は貯蔵穴1の底面と覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 廃絶時期は、943と956から4世紀前半と考えられる。本跡は弥生時代後期の第195号住居跡の真上に位置している。本跡の床面精査時に第195号住居跡のプランが確認され、よく踏み固められていた。第195号住居跡の壁から本跡の壁の距離は、P5を通る主軸線上で北壁側が43cm、南壁側が70cm、P2-P3を通る線上で東壁側が62cm、西壁側が74cmである。主軸方向と住居形態が同一で、規模を大きくしている。第195号住居跡との柱穴の位置関係は、P1が同じで、P2が南側に柱穴を動かし、P3・P4が柱のあたりの位置を北西にわずかに動かしているだけである。炉の位置は第195号住居跡の炉の位置とほぼ同じである。第195号住居跡を廃絶してすぐに埋め戻し、主軸方向と形態を同じくして作られたものと考えられる。なお、弥生土器と土師器の確実な共伴は確認されていない。



第65图 第164号住居跡実測图



第66图 第164号住居跡出土遺物実測図

第164号住居跡出土遺物観察表（第66図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-----|--------|-------|-----|------------|-------|----|--|--------|-------------|
| 943 | 土師器 | 器台 | — | (5.4) | — | 石英・長石・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 台部外面ヘラケズリ後ナデ・縦方向のヘラミガキ、内面ナデ・ヘラナデ、受け部孔なし、台部3孔確認 | 覆土下層 | 10% |
| 944 | 土師器 | 壺 | 13.0 | (5.3) | — | 石英・長石 | 橙 | 普通 | 口縁部外面ハケ目調整、輪積み痕残存、内面ナデ・横方向のヘラミガキ | 覆土下層 | 10% |
| 945 | 土師器 | 壺 | — | (3.4) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部外面ハケ目、縦調整後ヘラミガキ、内面縦方向のヘラミガキ | 覆土下層 | 10% |
| 952 | 土師器 | 甕 | [15.7] | (5.7) | — | 石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内外面ハケ目調整後内面ヘラミガキ | 覆土下層 | 10% |
| 954 | 土師器 | 甕 | — | (8.4) | 5.6 | 石英・長石 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部外面ハケ目調整、内面ナデ・ヘラナデ | 覆土下層 | 10% |
| 956 | 土師器 | 台付甕 | 19.1 | 30.4 | 8.9 | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 体部・台部外面ハケ目調整、体部内面ナデ、台部内面ヘラナデ | 貯蔵穴1底面 | 70% PL93 |
| 968 | 弥生土器 | 壺 | [14.6] | (6.4) | — | 石英・長石・雲母 | 暗灰黄褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧、口縁部胴部附加条一種(軸縄不明)縄文を羽状に構成し、一部縦に磨り消し、口縁部下端原体刺突 | 覆土中 | 10% |
| 969 | 弥生土器 | 壺 | — | (4.8) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 櫛歯状工具（8本櫛歯）による波状文施文、頸部－胴部櫛歯状工具による横走文で区画 | 覆土下層 | 10% |
| 970 | 弥生土器 | 壺 | — | 3.2 | — | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 瘤側面に挟りあり焼成前穿孔 | 覆土下層 | 5% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|------|----|-----------------|-------|----|---|----------|----|
| TP307 | 土師器 | 甕 | 石英・雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 外面ハケ目調整、内面ナデ | 覆土下層 | |
| TP308 | 弥生土器 | 壺 | 雲母 | 褐 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧、口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文後縄文原体押圧、頸部連弧文施文後櫛歯状工具（5本櫛歯）による横走文施文 | 貯蔵穴1覆土下層 | |
| TP309 | 弥生土器 | 壺 | 雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口唇部縄文原体押圧、口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文後原体押圧 | 覆土中 | |
| TP310 | 弥生土器 | 壺 | 雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文後原体押圧、頸部櫛歯状工具による横走文施文 | 覆土中 | |
| TP311 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口唇部縄文施文、口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文後断面V字状の工具による沈線で隆帯作出 | 覆土中 | |
| TP312 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文後縄文原体押圧 | 覆土中 | |
| TP313 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（9本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP314 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 黒褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（6本櫛歯）による波状文施文、胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土中 | |
| TP315 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 暗赤褐 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（5本櫛歯）による波状文施文 | 覆土中 | |
| TP316 | 弥生土器 | 壺 | 雲母・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 頸部櫛歯状工具（5本櫛歯）による波状文施文 | 覆土下層 | |
| TP317 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 頸部－胴部櫛歯状工具による横走文で区画、胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成 | 覆土下層 | |
| TP318 | 弥生土器 | 壺 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文 | 覆土下層 | |

第169号住居跡（第67～69図）

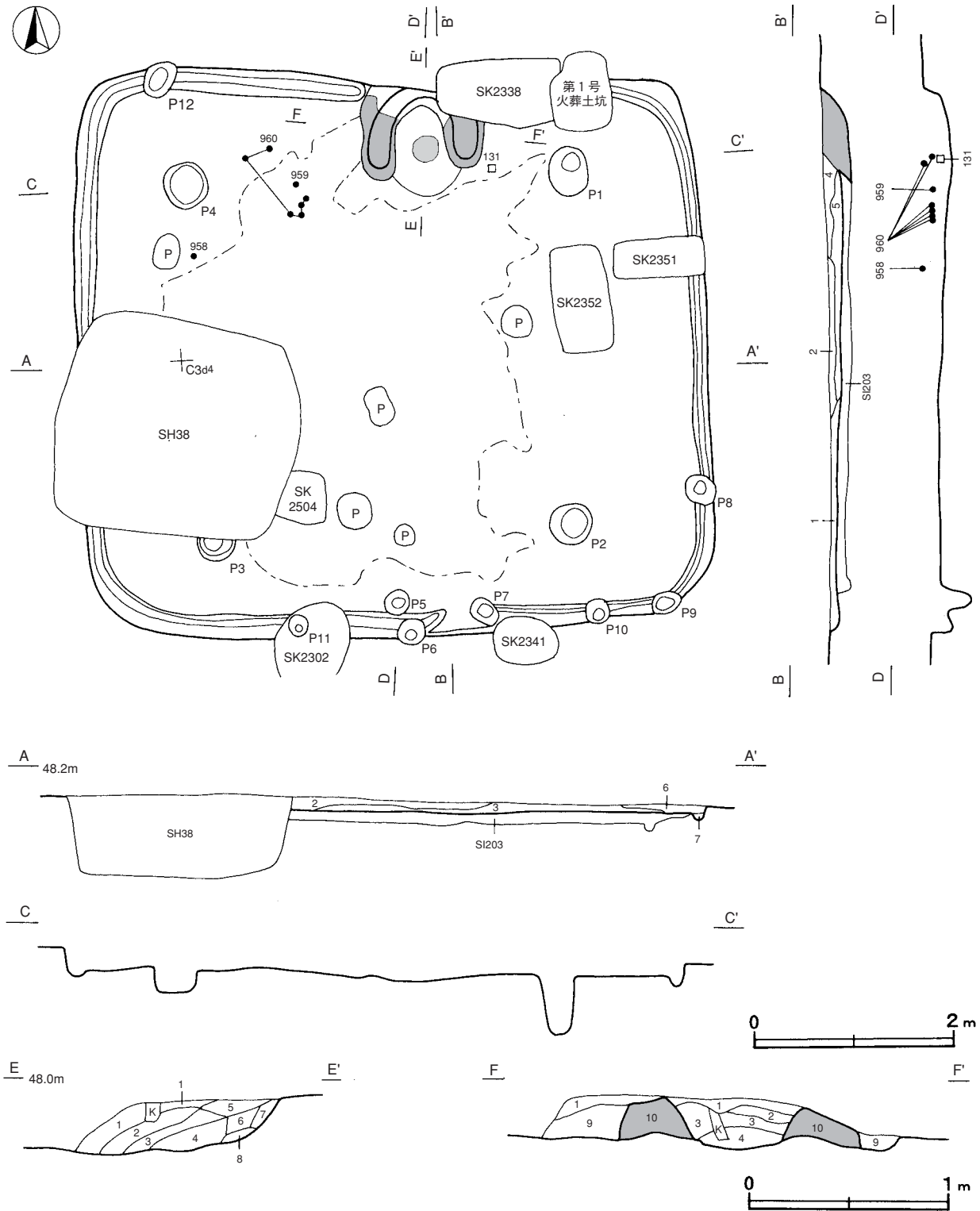
位置 西部1区北部のC3c4区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第203号住居跡を掘り込み、第38号方形竪穴遺構と第1号火葬土坑、第2302・2338・2341・2351・2352・2504号土坑とピット（5か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.23m、短軸5.65mの方形である。第203号住居跡の北壁側を25～35cm、東壁側を50～60cm、南壁側を40～45cm、西壁側を45～50cm拡張している。主軸方向は第203号住居跡と同じ主軸方向でN-5°-Eである。壁高は10～25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が壁下を全周していたと推測される。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口から煙道部までが107cm、袖部幅が60cm、燃烧部幅が50cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、その上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面が火熱で赤変している。煙道部の壁外への掘り込みはほとんどなく、緩やかな傾斜で立ち上がっている。



第67図 第169号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい黄色 | 粘土粒子多量 | 7 極暗褐色 | 焼土粒子・砂粒少量 |
| 3 灰褐色 | 焼土ブロック中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂粒中量 | 9 褐灰色 | 粘土粒子・砂粒少量 |
| 5 極暗赤褐色 | ロームブロック少量 | 10 褐灰色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

ピット 12か所。P 1～P 4は深さが26～61cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。P 5～P 7は深さが28cmで、相互の位置関係から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8～P 12は深さが15～25cmで、壁柱穴と考えられる。

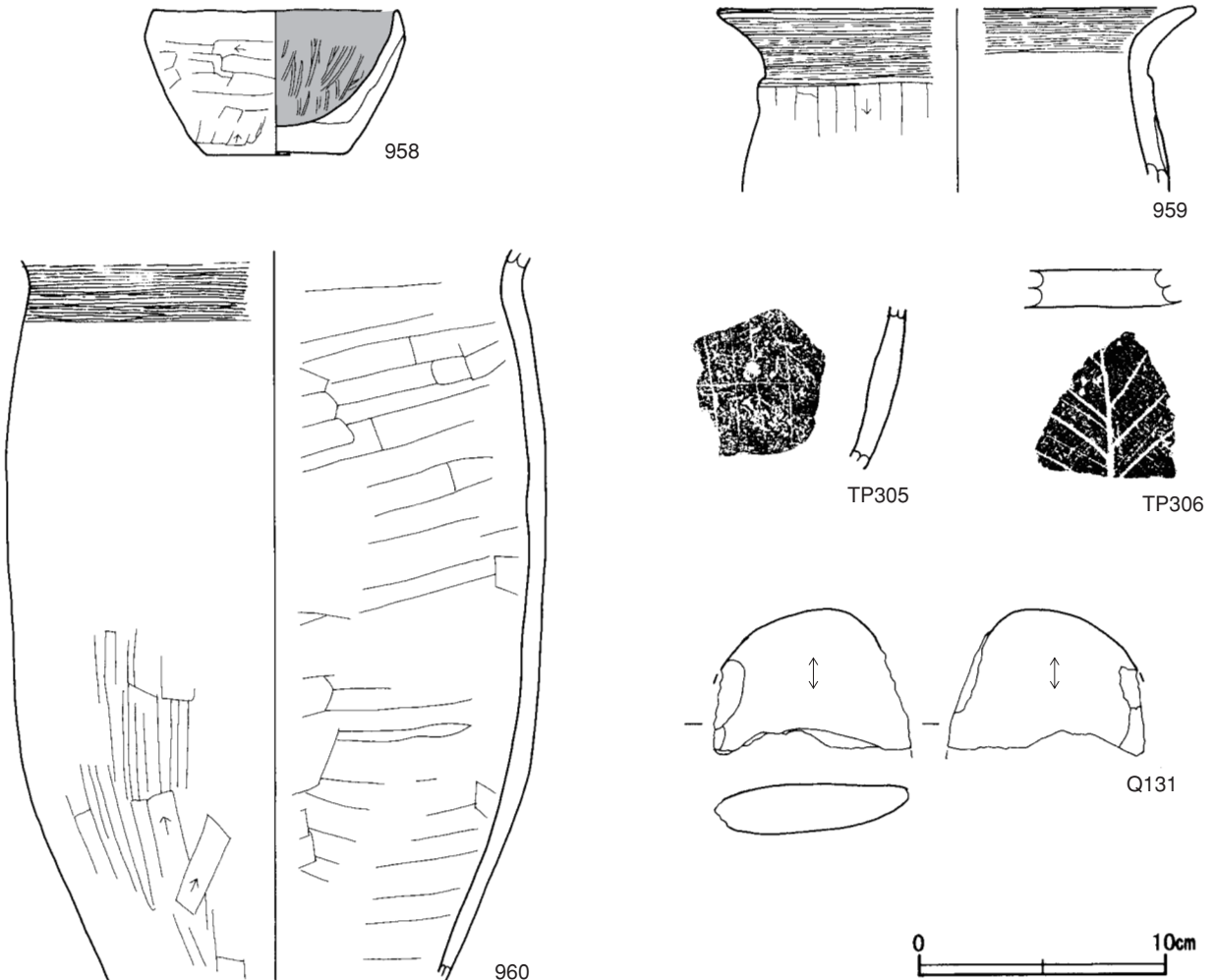
覆土 7層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片296点（坏92, 椀2, 壺1, 鉢1, 甕200）, 石器1点（砥石）が竈の周辺に集中している。958・959・960・Q131は覆土下層から出土している。また、その他に混入した弥生土器片が出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から7世紀後半である。第203号住居跡は本跡の拡張に伴う建て替え前の住居である。



第68図 第169号住居跡出土遺物実測図

第169号住居跡出土遺物観察表（第67・68図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|-----|---------------|-------|----|-------------------------------|------|-----|
| 958 | 土師器 | 鉢 | 9.8 | 5.9 | 5.6 | 長石 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 覆土下層 | 40% |
| 959 | 土師器 | 甕 | [19.0] | (7.4) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 覆土下層 | 10% |
| 960 | 土師器 | 甕 | — | (29.4) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・ヘラナデ | 覆土下層 | 20% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|---------------|------|----|----------------------|------|----|
| TP305 | 土師器 | 甕カ | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明褐 | 普通 | 体部外面に焼成後に縦・横の沈線（記号カ） | 覆土中 | |
| TP306 | 土師器 | 甕 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 底部木葉痕 | 覆土中 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-------|-----|---------|-----|----------------------|------|----|
| Q131 | 磨石 | (5.8) | (7.9) | 2.0 | (117.0) | 凝灰岩 | 平坦な2面全面使用，茂木・御前山産の石材 | 覆土下層 | |

第172号住居跡（第69・70図）

位置 西部1区南部のC2g7区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第205・226号住居と第42号方形竪穴遺構と第2428・2435・2620・2645号土坑とピット（5か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.18m，短軸7.42mで，確認された3か所のコーナー部から方形と推測され，主軸方向はN-21°-Wである。壁高は28cm～32cmで，直立している。

床 ほほ平坦で，中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が壁下を全周していると推測される。南東コーナー部の南壁とP2の間，東壁とP5の間に間仕切り溝が確認されている。

竈 北壁のやや右寄りに付設されている。焚口から煙道部までが75cm，袖部幅が85cm，燃烧部幅が35cmである。火床部は床面から10～15cmほど掘りくぼめ，ロームブロックを含んだ暗褐色土で埋め戻して構築されており，袖部はその上に砂質粘土で構築されている。火床面は火熱で赤変している。煙道部は地山を壁外へ20cm掘り込んでおり，急な傾斜で立ち上がっている。

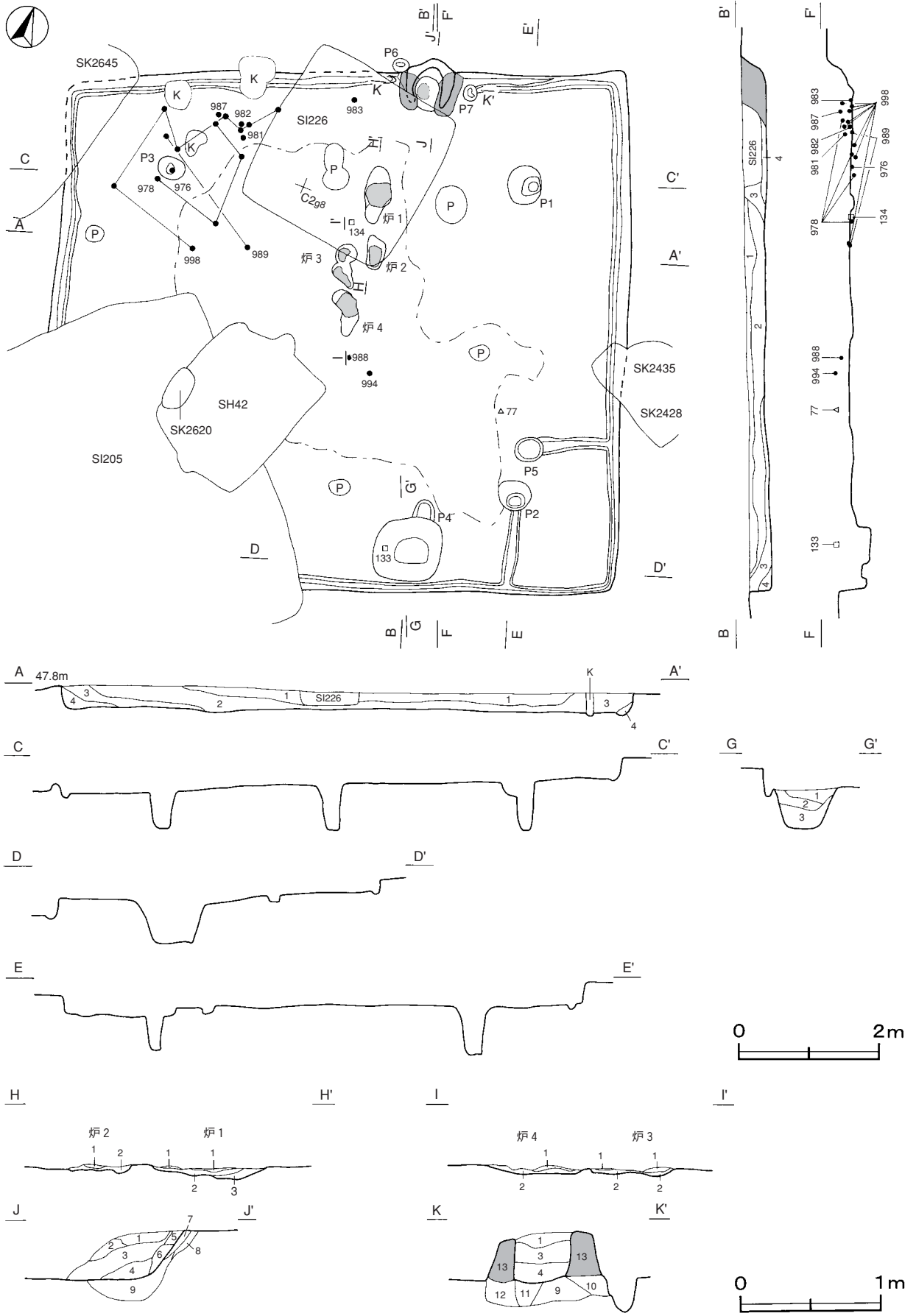
竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック少量，粘土粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量 | 11 黒色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 13 灰褐色 | 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量 |

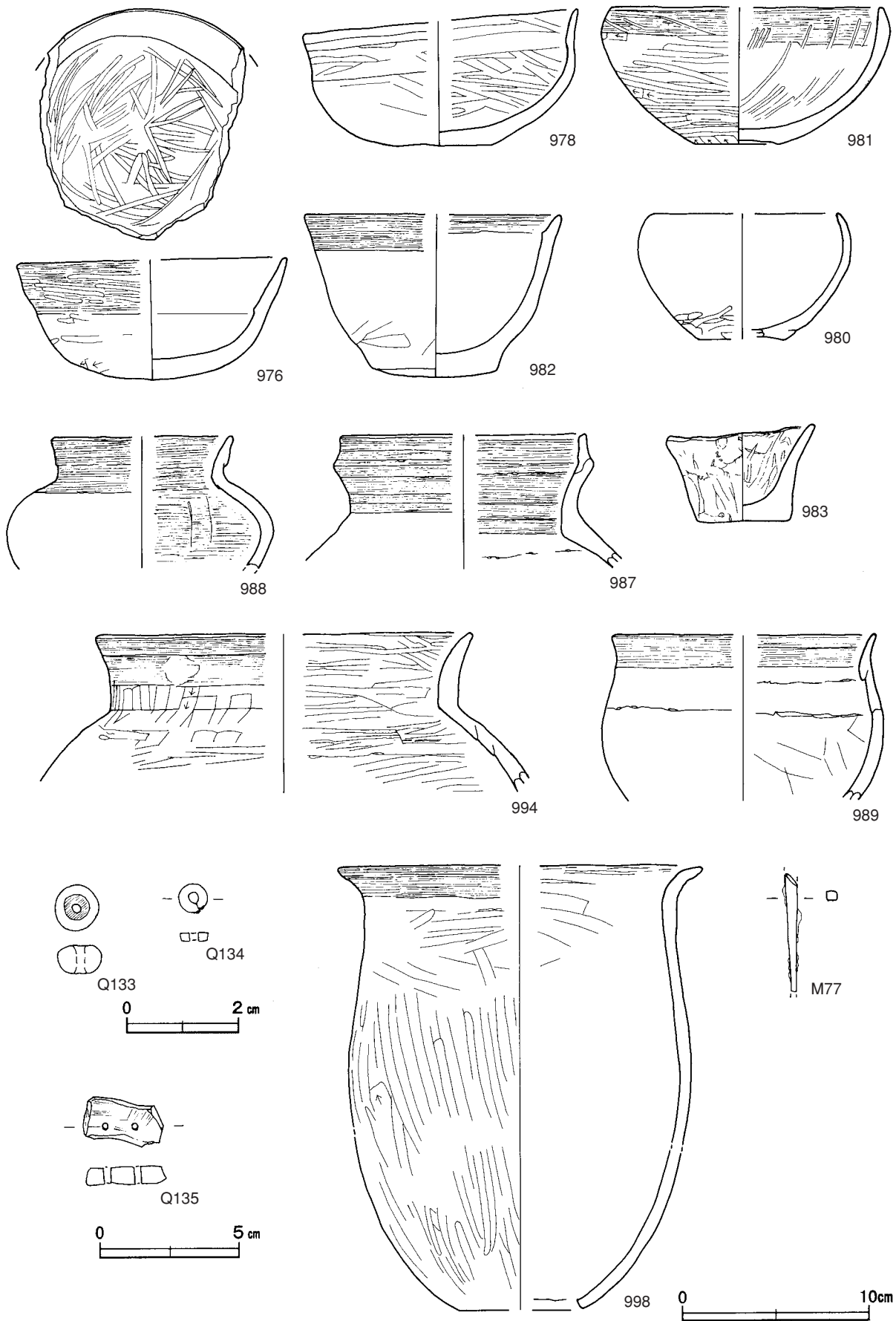
炉 中央部に4基の地床炉が確認された。炉1は長径83cm，短径39cmの不整楕円形で，床面を8cm掘りくぼめ，炉床面は赤変している。炉2は長径46cm，短径28cmの不整楕円形で，床面を6cm掘りくぼめ，炉床面が赤変している。炉3は長径62cm，短径29cmの不整楕円形で，床面を4～6cm掘りくぼめ，炉床面が赤変している。炉4は長径67cm，短径33cmの不整楕円形で，床面を6cm掘りくぼめ，炉床面が赤変している。

炉1土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|---------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量 | | |



第69图 第172号住居跡実測图



第70图 第172号住居跡出土遺物実測図

炉2土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

2 黒色 焼土粒子少量

炉3土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子微量

炉4土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 7か所。P1～P3は深さが50～70cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。P4は深さが25cmで、南壁際の中央部にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さが23cmで、P2と間仕切り溝とともに、南東コーナー部を区画したものと考えられる。P6・P7は深さがともに13cmで、竈に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 P4の南側に位置している。径95cmの円形で、深さは55cmである。底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

覆土 4層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量

4 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1984点(坏487, 高坏10, 椀27, 埴1, 甕1446, 甑13), 手捏土器1点, ガラス製品1点(小玉), 石製模造品2点(白玉, 双孔円板), 石製品6点(砥石), 鉄製品1点(鏃)が出土している。土器片が多量に出土しているが、特に北西コーナー部に集中している。これらは接合関係にあるものが少なく、破片類を廃絶後のくぼ地に廃棄されたと考えられる。976・981は北西コーナー部の覆土下層から、978は北西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。Q133は南壁際の覆土上層から、Q134・M77は中央部の床面と覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 廃絶時期は、976・978・981から5世紀後半ないしそれ以前である。4基の炉の上面にはいずれも硬化面がなく、すべての炉が竈と同時に使用されていた可能性がある。しかし、炉床面の焼土化の状態からそれほど長く使用されたものではないと考えられ、廃絶に伴う何らかの行為の可能性も否定できない。

第172号住居跡出土遺物観察表(第70図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|----|--------|-----|---------|---------------|-------|----|--|------|-------------|
| 976 | 土師器 | 坏 | [14.4] | 6.4 | — | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ, 内面ナデ・不定方向のヘラミガキ | 覆土下層 | 40% |
| 978 | 土師器 | 坏 | [14.7] | 7.3 | 5.3 | 石英・雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・不定方向のヘラミガキ, 内面ナデ・不定方向のヘラミガキ | 覆土下層 | 60% |
| 980 | 土師器 | 椀 | [9.9] | 6.8 | [4.5] | 石英・長石 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・体部下半不定方向のヘラミガキ, 内面ナデ | 覆土中 | 40% |
| 981 | 土師器 | 坏 | [14.5] | 7.3 | 4.4 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ, 内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 覆土下層 | 50% PL94 |
| 982 | 土師器 | 鉢 | [13.7] | 8.7 | 6.7 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | 覆土下層 | 60% PL95 |
| 983 | 手捏土器 | — | 7.6 | 5.2 | 4.8~5.2 | 雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 内・外面ナデ・ヘラナデ, 指頭押圧痕残存 | 覆土下層 | 70% PL94 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|----|--------|--------|-------|---------------|-------|----|---|------|-----|
| 987 | 土師器 | 壺 | [13.0] | (7.2) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 内面輪積み痕残存 | 覆土下層 | 10% |
| 988 | 土師器 | 壺 | [9.5] | (7.1) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ・ヘラナデ, 輪積み痕残存 | 覆土下層 | 50% |
| 989 | 土師器 | 甕 | [14.0] | (8.9) | — | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ・ヘラナデ, 輪積み痕残存 | 覆土下層 | 40% |
| 994 | 土師器 | 甕 | [20.0] | (8.5) | — | 石英・雲母・赤色粒子 | 灰黄褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後内面ヘラナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・ヘラナデ, 内面ナデ・ヘラナデ | 覆土中層 | 10% |
| 998 | 土師器 | 甗 | [19.3] | [23.9] | [6.7] | 長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・ヘラミガキ, 内面ナデ・ヘラナデ | 覆土下層 | 40% |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-------|-------|-----|----------------------------|------|----|
| Q133 | 小玉 | 0.8 | 0.5 | 0.6 | ガラス | ロイヤルブルーで, 両面平坦であり, 孔径0.2cm | 覆土上層 | |
| Q134 | 白玉 | 0.5 | (0.1) | (0.1) | 不明 | 表面剥落, 側面研磨, 孔径0.2cm | 床面 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------------------|------|-------|
| Q135 | 双孔円板カ | (2.8) | (1.9) | (0.6) | (3.9) | チャート | 欠損品, 両面研磨, 孔径0.2cm | 覆土中 | PL101 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-------|-------|-------|----|---------------|------|----|
| M77 | 鉄カ | (6.3) | (0.7) | (0.5) | (5.3) | 鉄 | 茎の欠損品カ, 断面略方形 | 覆土下層 | |

第173号住居跡 (第71図)

位置 西部1区北部のB3j4区で, 平坦な台地上に位置している。

重複関係 第163A・B号住居と第36・37号方形竪穴遺構と第2325・2384・2405・2429・2499号土坑とピット(1か所)に掘り込まれている。

規模と形状 耕作等の攪乱もあり, ほとんど覆土がない状態で確認された。周回している壁溝から一辺4.70mの方形と考えられ, 主軸方向はN-21°-Wである。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が壁下を全周していたと推測される。

炉 中央部に1基, 北壁寄りに1基の合わせて2基の地床炉が確認された。炉1は長径44cm, 短径30cmの不整楕円形で, 床面を3~5cm掘りくぼめ, 炉床面が火熱で赤変している。炉2は長径45cm, 短径28cmの不整楕円形で, 床面を6cm掘りくぼめ, 炉床面が火熱で赤変している。

炉1土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土ブロック多量

炉2土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土ブロック中量

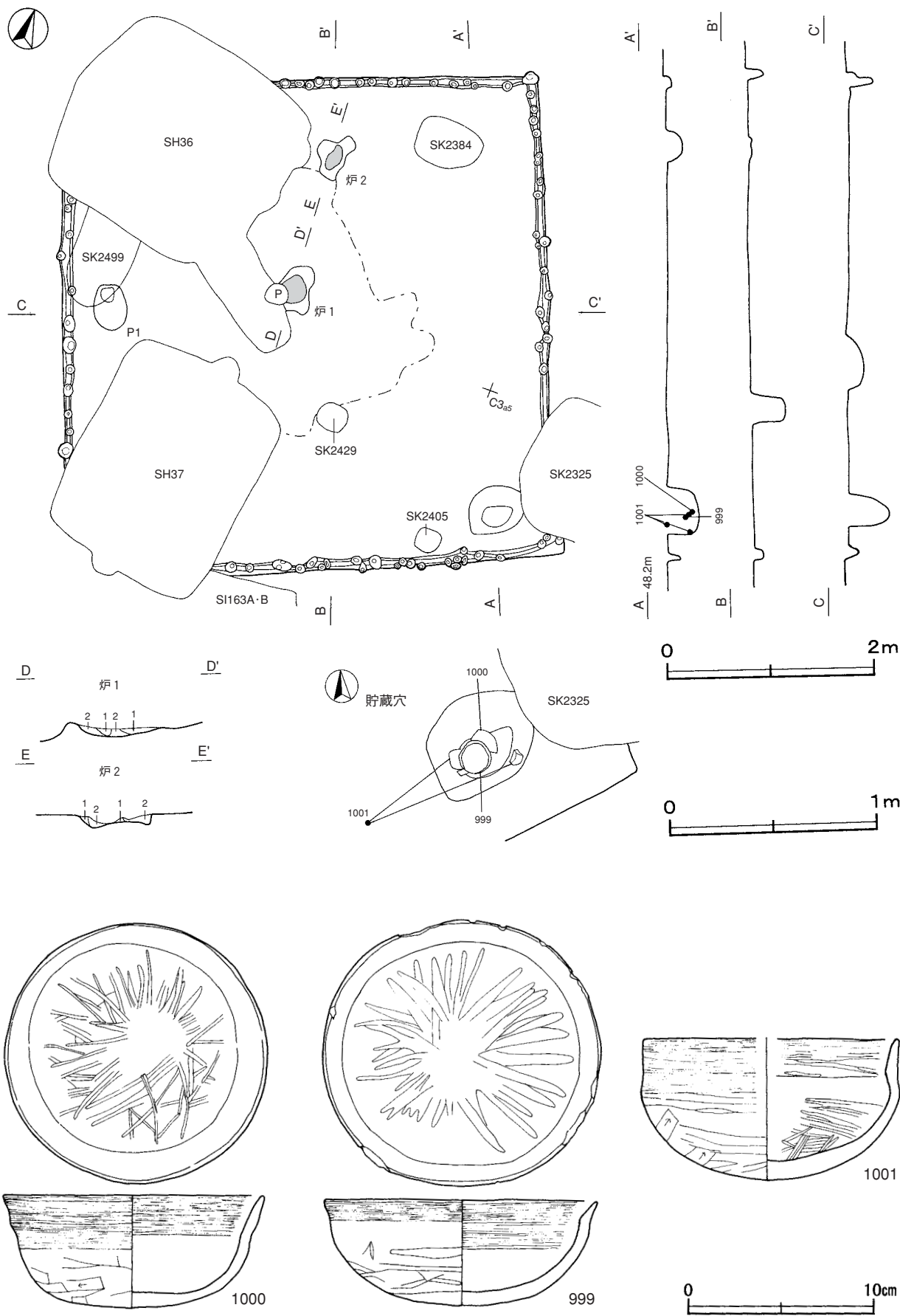
ピット 71か所。P1は深さが55cmで, 炉と正対する位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。壁に沿って70か所の小ピットが確認された。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置する。径55~60cmの不整円形で, 深さが40cmである。底面は平坦で, 壁は外傾している。

覆土 部分的に薄く黒褐色土が残っただけで, 堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片24点(坏18, 甕6)がP1の覆土中から出土している。999~1001は貯蔵穴の覆土下層からまとまって出土しており, 住居廃絶時に廃棄されたと考えられる。

所見 廃絶時期は, 999~1001から5世紀末~6世紀前半ないしそれ以前と考えられる。2基の炉の上にはいずれも硬化面がなく, 同時に使用されていた可能性がある。



第71图 第173号住居跡・出土遺物実測図

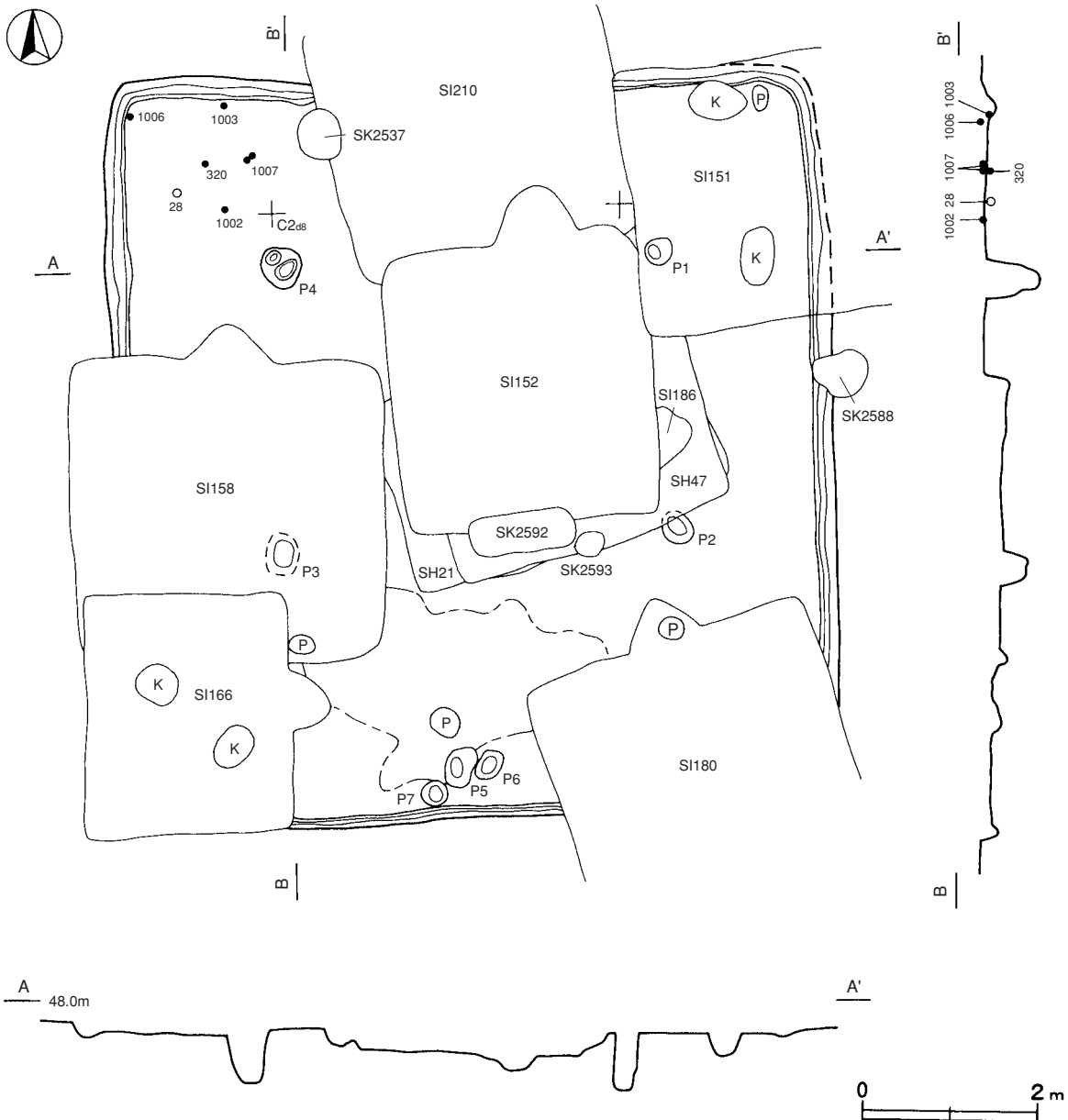
第173号住居跡出土遺物観察表（第71図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-----|----|----------|----|----|--|-------------|----------------|
| 999 | 土師器 | 坏 | 14.5 | 5.6 | — | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 貯蔵穴 覆土下層 | 95% PL94・95 |
| 1000 | 土師器 | 坏 | 14.1 | 6.1 | — | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 貯蔵穴 覆土下層 | 95% PL94 |
| 1001 | 土師器 | 坏 | [13.6] | 7.5 | — | 長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後内面横方向のヘラミガキ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ，底部内・外面不定方向のヘラミガキ | 貯蔵穴 覆土下層 | 50% |

第178号住居跡（第72・73図）

位置 西部1区中央部のC2d8区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第151・152・158・166・180・186・210号住居と第21・47号方形竪穴遺構と第2537・2588・2592・2593号土坑とピット（4か所）に掘り込まれている。



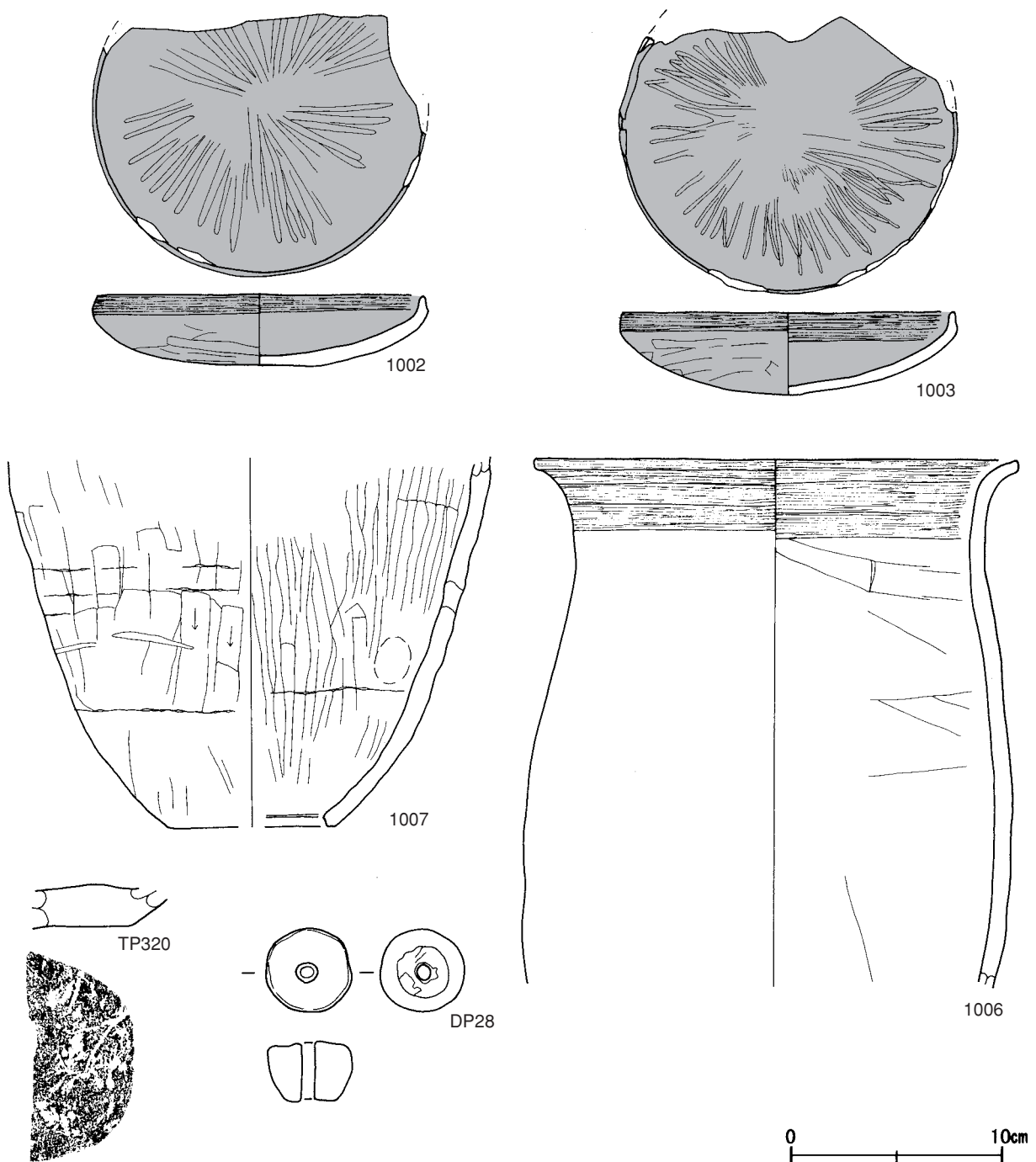
第72図 第178号住居跡実測図

規模と形状 遺構の重複が激しく、また耕作等の攪乱もあり、ほとんど覆土がない状態で確認された。部分的に確認された壁溝間の規模は長軸8.54m、短軸8.24mであり、方形と考えられる。主軸方向はN-0°である。壁高は8~13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、P5~P7の前方に硬化面が確認され、中央部が踏み固められていたと推測される。断面U字状の壁溝が確認された壁下に巡っている。

ピット 7か所。P1~P4は深さが18~62cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P5~P7は31~62cmで、南壁際の中央部にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 部分的に薄く黒褐色土が残っていただけで、堆積状況は不明である。



第73図 第178号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片35点（坏28，高坏1，甕6），土製品2点（紡錘車，支脚）が比較的覆土が残存している。北西コーナー部から出土している。1002・1003・1006・1007・TP320・DP28は床面から出土している。

所見 1002・1003は黒色処理やヘラミガキが剥げるほど器面が摩滅しており，長期間使用していたものが遺棄されたと考えられる。廃絶時期は，これらの土器から7世紀前半と考えられる。

第178号住居跡出土遺物観察表（第73図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|------|--------|-------|------------------|-------|----|--|------|-------------|
| 1002 | 土師器 | 坏 | 15.3 | 3.3 | — | 雲母・赤色粒子 白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 床面 | 75% PL94 |
| 1003 | 土師器 | 坏 | 15.5 | 3.9 | — | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 床面 | 75% PL94 |
| 1006 | 土師器 | 甕 | 22.4 | (24.7) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ | 床面 | 45% |
| 1007 | 土師器 | 甕 | — | (17.3) | [7.6] | 石英・長石・雲母 赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ，内面ナデ・ヘラミガキ | 床面 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|-------|------|----|-------------|------|----|
| TP320 | 土師器 | 甕 | 石英・長石 | にぶい橙 | 普通 | 底部外面植物の茎の圧痕 | 床面 | |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|------|----------|----|----|----------------------|------|-------|
| DP28 | 紡錘車 | 4.1 | 2.8 | 49.6 | 石英・長石・雲母 | 黄橙 | 普通 | 孔径0.6~0.7の断面逆台形，外面ナデ | 床面 | PL102 |

第184号住居跡（第74図）

位置 西部1区東部のC3e5区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第187号住居と第14号掘立柱建物と第2301・2385・2386・2420・2529・2530・2532・2533・2580号土坑とピット（39か所）に掘り込まれている。

規模と形状 耕作等の攪乱により，ほとんど覆土がない状態で確認された。2か所のコーナー部から南北長は5.26m，中央部から東側は削平されていたため，東西長は不明である。主軸方向はN-5°-Wである。壁高は6cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，炉の周辺が踏み固められている。断面U字状の壁溝が北壁下と西壁下に巡っている。

炉 中央部に付設されている。床面を掘り込まず，40cmほどの範囲で焼土粒子・炭化粒子が散布しており，部分的に火熱で赤変硬化している。

ピット 5か所。P1~P4は深さが39~75cmで，位置と規模から支柱穴と考えられる。P5は深さが50cmで，位置と規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は長径1.10m，短径1.05mの楕円形で，深さが45cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は径0.80mの円形で，深さが24cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴1土層解説

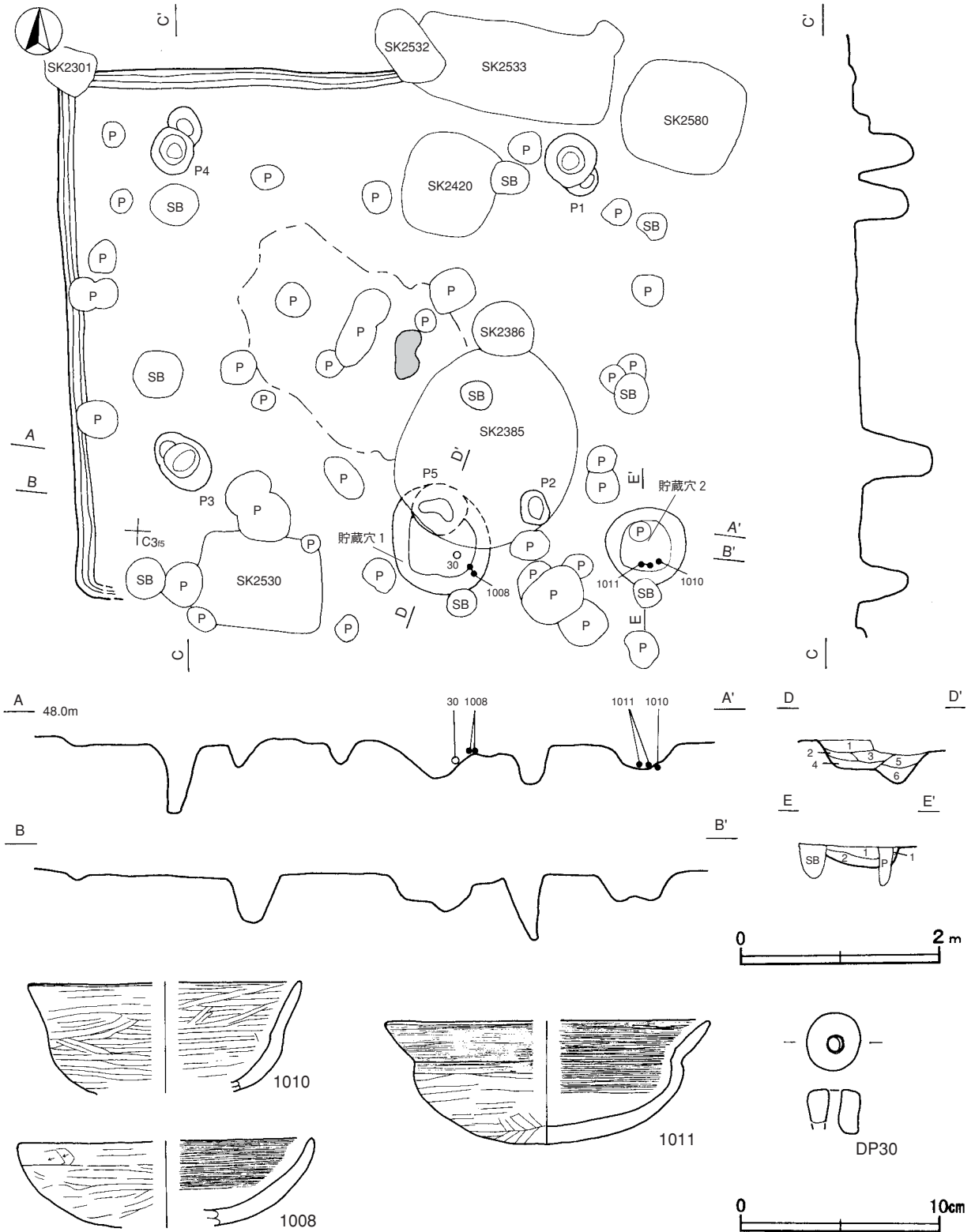
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量，炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量 |

貯蔵穴2土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 2 暗褐色 | ローム粒子微量 |
|-------|-----------|-------|---------|

覆土 部分的に薄く黒褐色土が残っていただけで、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片81点(坏23, 高坏1, 甕57)が残存している覆土中と貯蔵穴の覆土中から出土している。1008は貯蔵穴1の上面から, 1010・1011は貯蔵穴2の底面付近から出土している。DP30は貯蔵穴1の覆土上層から出土している。また, 混入した弥生土器片と弥生時代の紡錘車, 奈良時代以降の須恵器片が出土している。



第74図 第184号住居跡・出土遺物実測図

所見 廃絶時期は、1010・1011から5世紀末～6世紀前半と考えられる。同時期と考えられる第102号住居跡には竈が付設されているが、第173号住居跡と同じく本跡は炉を使用している。

第184号住居跡出土遺物観察表（第74図）

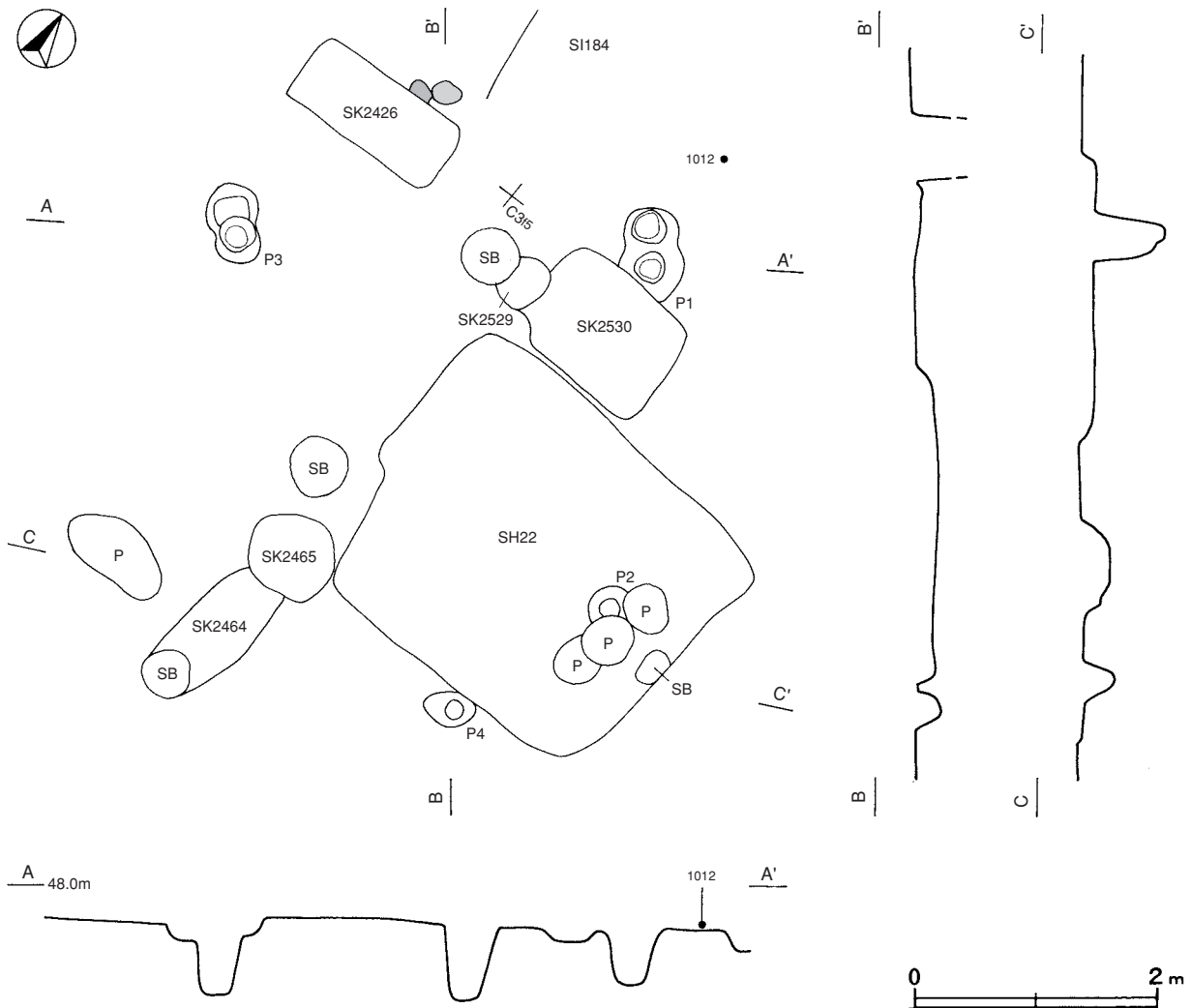
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|----|---------------|-----|----|---|--------|-------------|
| 1008 | 土師器 | 坏 | [14.8] | (4.3) | — | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ，内面横ナデ | 貯蔵穴1上面 | 30% 混入カ |
| 1010 | 土師器 | 坏 | [13.5] | (5.5) | — | 石英・長石 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後口縁部から体部内外面横方向のヘラミガキ | 貯蔵穴2底面 | 20% |
| 1011 | 土師器 | 坏 | [16.0] | 6.1 | — | 石英・長石・雲母・黒色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・ヘラナデ，内面ナデ・横ナデ | 貯蔵穴2底面 | 60% PL94 |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|---------|-----|--------|----------|-----|----|------------------------|----------|-----|
| DP30 | 紡錘車 | 2.7~2.9 | 2.2 | (15.2) | 石英・長石・雲母 | 暗灰黄 | 普通 | 孔径0.7cmで，外面ナデ調整，ゆがんでいる | 貯蔵穴1覆土上層 | 混入カ |

第187号住居跡（第75・76図）

位置 西部1区東部のC3f5区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第184号住居跡を掘り込み，第14号掘立柱建物と第22号方形竪穴遺構と第2426・2464・2465・



第75図 第187号住居跡実測図

2529・2530号土坑とピット（4か所）に掘り込まれている。

規模と形状 耕作等の攪乱もあり、覆土がほとんどない状態で確認された。竈の粘土と火床面と考えられる赤変部と支柱穴と出入り口施設にともなうピットだけが確認され、規模・形状・主軸方向は不明である。

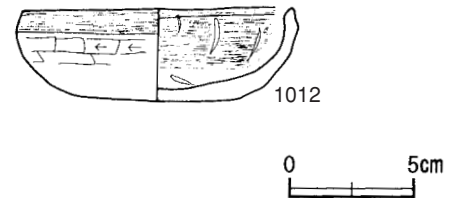
床 残存している部分はほぼ平坦で、軟弱である。

竈 位置から、火床面と思われる赤変部だけ確認された。

ピット 4か所。P1～P3は深さが44～62cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P4は深さが67cmで、規模と位置から、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 部分的に残存しているだけで、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片13点（坏3，椀5，甕5）が、覆土が残存していた北東部とピット内から出土している。1012は北東部の床面から出土している。



所見 廃絶時期は、1012から7世紀後半と考えられる。

第76図 第187号住居跡出土遺物実測図

第187号住居跡出土遺物観察表（第76図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|------|-----|-----|----|------|----|------------------------------------|------|-------------|
| 1012 | 土師器 | 坏 | 10.6 | 3.8 | 5.7 | 長石 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ・ヘラナデ | 床面 | 80% PL94 |

第194号住居跡（第77図）

位置 西部1区北部のC3c1区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3584・3585号土坑を掘り込み、第155・161号住居と第20・27・35号方形竪穴遺構と第2359・2424・2462・2524・2542・2544・2553号土坑と第13号土壙墓、ピット（5か所）に掘り込まれている。

規模と形状 遺構の重複が激しく、残存している火床面と壁間から長軸5.83m，短軸5.40mの方形と推測され、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は16～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、軟弱である。断面U字状の壁溝が西・南壁下に部分的に巡っている。

竈 火床面と推測される赤変部のみ確認され、北東壁のやや右寄りに付設されていたと推測される。

ピット 5か所。P1～P4は深さが10～32cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P5は深さが24cmで、火床面と正対する位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

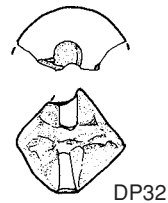
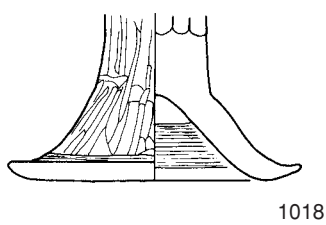
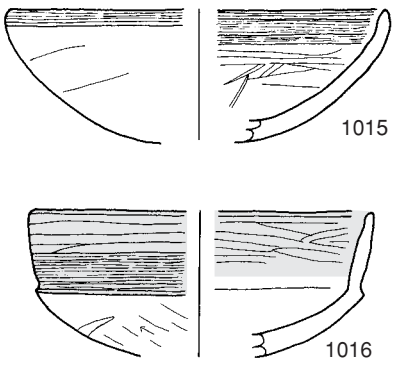
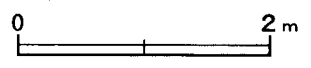
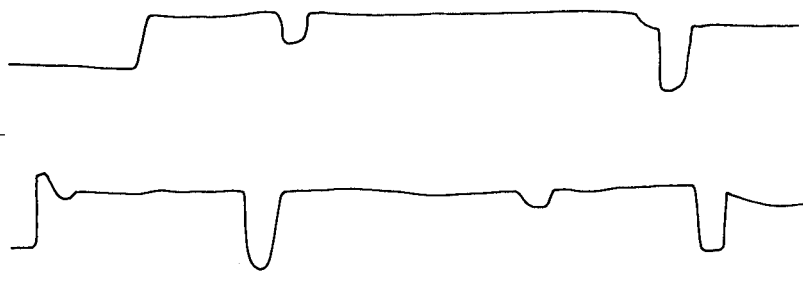
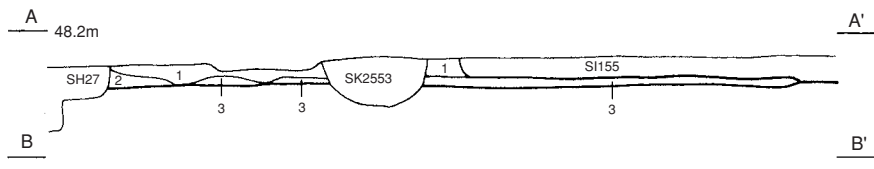
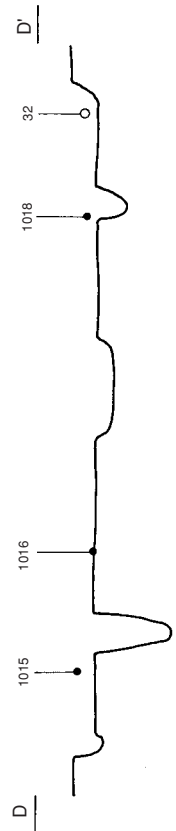
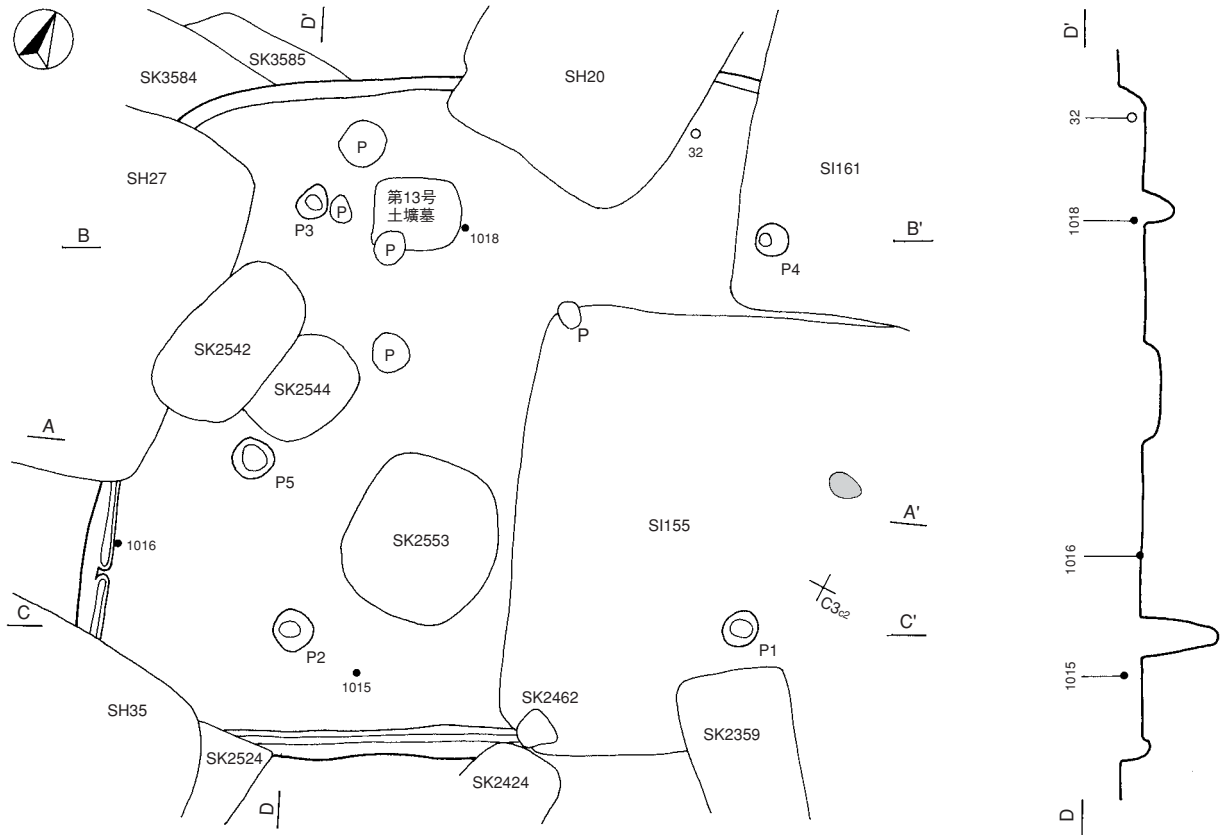
覆土 3層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|------|-------------------|-------|--------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 土師器片191点（坏78，高坏2，壺4，甕107）が出土している。土器は全域に散在しており、破片がほとんどである。1015は南壁際の、1018・DP32は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。1016は南西壁際の床面から出土している。土器全体の出土状況から、廃絶後のくぼ地に廃棄されたと考えられる。

所見 6世紀前半の第155号住居跡より古く、1015・1016から廃絶時期は、5世紀後半と考えられる。ほぼ同じ主軸方向で、形態が同じ土器が出土しているのが第114号住居跡である。第114号住居跡は炉と竈を併用しているが、遺存状況が悪いため炉が設置されていたかは不明であるが、竈のみ確認された。同時期で竈と炉の在り方に違いがある可能性がある。



第77图 第194号住居跡・出土遺物実測図

第194号住居跡出土遺物観察表（第77図）

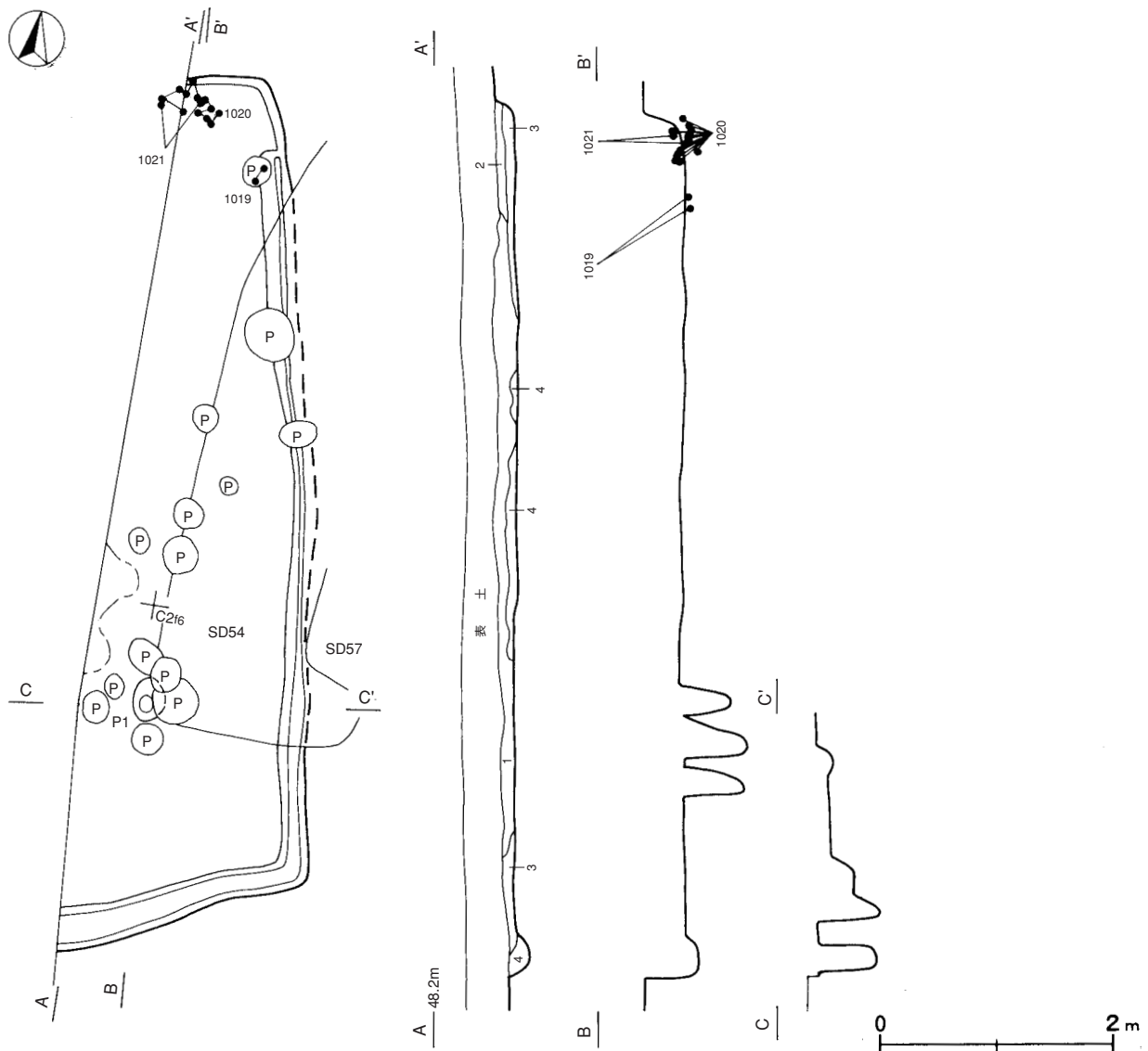
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|------|---------------|-------|----|--|------|-----|
| 1015 | 土師器 | 坏 | [14.8] | (5.3) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面摩滅のため調整不明，内面不定方向のヘラナデ | 覆土下層 | 20% |
| 1016 | 土師器 | 坏 | [13.4] | (5.8) | — | 石英・長石 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ，体部外面ヘラケズリ後ヘラナデ，内面摩滅のため調整不明，口縁部内・外面に赤彩 | 床面 | 20% |
| 1018 | 土師器 | 高坏 | — | (6.5) | 11.4 | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 脚部外面ヘラケズリ後ナデ・縦方向のヘラミガキ，裾部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 40% |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-------|-----|--------|---------|----|----|---------------|------|-----|
| DP32 | 紡錘車 | [4.3] | 4.1 | (18.4) | 雲母・白色粒子 | 褐 | 普通 | 外面ナデ調整，断面算盤玉形 | 覆土下層 | 混入カ |

第201号住居跡（第78・79図）

位置 西部1区南部のC 2e6区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第54・57号溝とピット（14か所）に掘り込まれている。



第78図 第201号住居跡実測図

規模と形状 西壁側のほとんどが調査区域外に延びており、長軸6.98m、短軸2.21mのみ確認され、方形または長方形と推測される。P 1を通る南北軸を主軸とすると、主軸方向はN-12°-Wと考えられる。壁高は土層断面で25cm確認され、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、P 1の内側に硬化面が確認され、断面U字状の壁溝が北壁下を除いて巡っている。

ピット 1か所。深さが43cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。

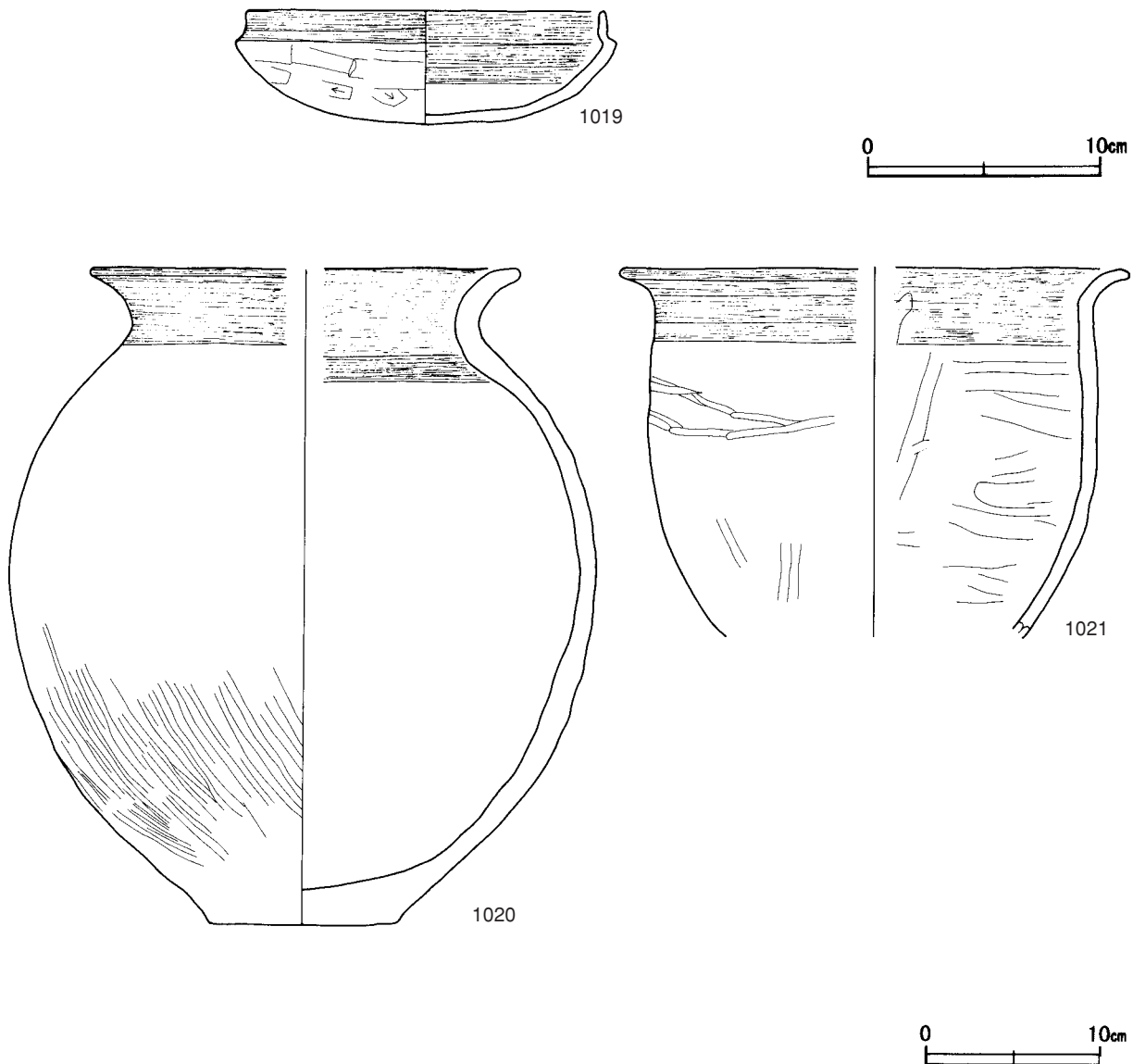
覆土 4層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 黒色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片165点（坏23，甕142）が出土している。1019～1021は北東コーナー部の床面から出土しており、離れた位置から出土した破片が接合関係にあることから、廃絶時に廃棄されたと考えられる。また、その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は、1019から7世紀前半と考えられる。



第79図 第201号住居跡出土遺物実測図

第201号住居跡出土遺物観察表（第80・81図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|--------|------|--------------|-------|----|----------------------------------|------|-------------|
| 1019 | 土師器 | 坏 | 15.0 | 4.9 | — | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・横ナデ | 覆土下層 | 80% PL95 |
| 1020 | 土師器 | 甕 | [24.0] | 37.4 | 10.6 | 石英・雲母・赤色粒子・礫 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部ヘラケズリ後ナデ・ヘラミガキ，内面ナデ | 覆土下層 | 70% |
| 1021 | 土師器 | 甌 | [27.8] | (21.0) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ヘラナデ | 覆土下層 | 20% |

第202号住居跡（第80・81図）

位置 西部1区中央部のC3f2区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第199号住居と第25・26号方形竪穴遺構と第2381・2496・2497・2505・2511・2516・2517・2518号土坑と第88号井戸とピット（26か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.99m，短軸6.30mの長方形で，主軸方向はN-19°-Wである。壁高は8～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で，中央部が踏み固められている。断面U字状壁溝が北西コーナー部を除いて壁下を巡っている。

炉 中央部に，床面をわずかに掘りくぼめた地床炉が4基付設されている。炉1は長径85cm，短径44cmの不整楕円形で，炉床が火熱で赤変している。炉2は長径29cm，短径24cmの楕円形で，炉床が火熱で赤変している。炉3は径30cmの円形で，炉床が火熱で赤変している。炉4は長径38cm，短径26cmの楕円形で，炉床が火熱で赤変している。

炉土層解説（各炉共通）

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さが47～59cmで，位置と規模から主柱穴と考えられる。P5は深さが25cmで，南壁寄りの中央部にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長軸1.16m，短軸0.98mの不整楕円形で，深さは86cmである。底面は平坦で，壁が直立して上段で平坦面をつくり，そこから外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

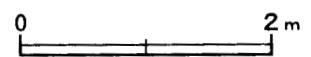
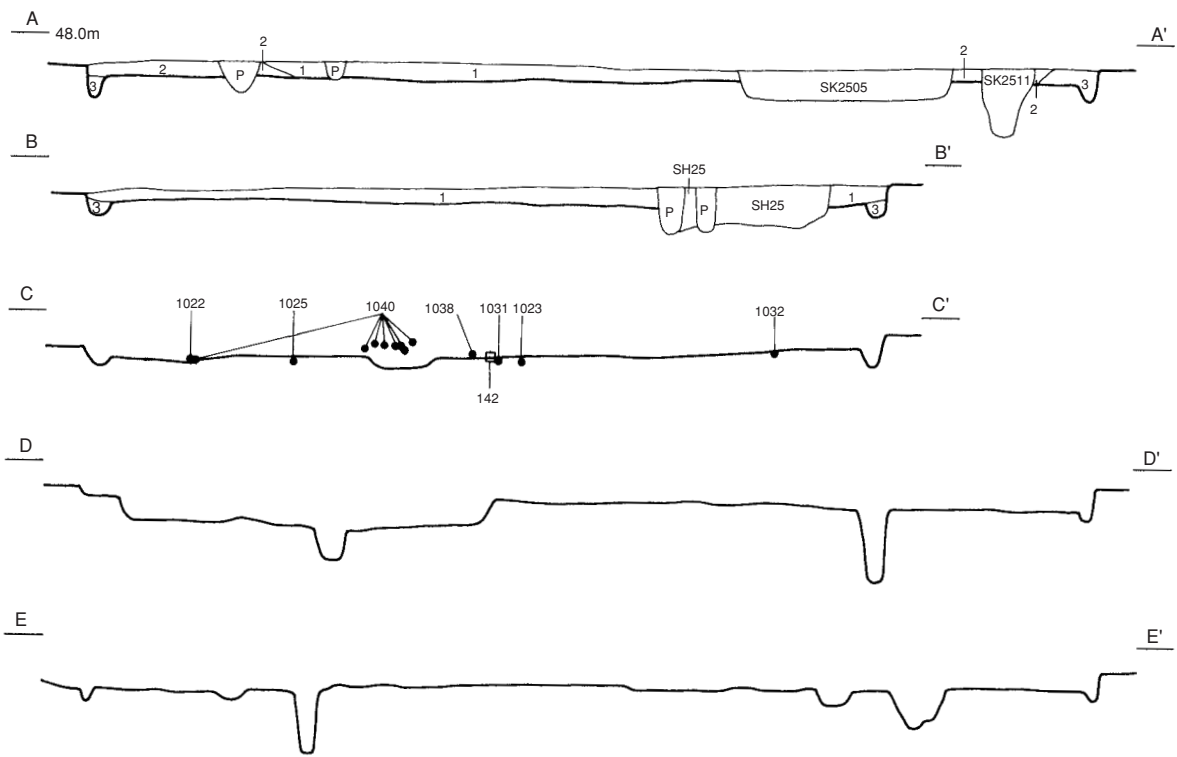
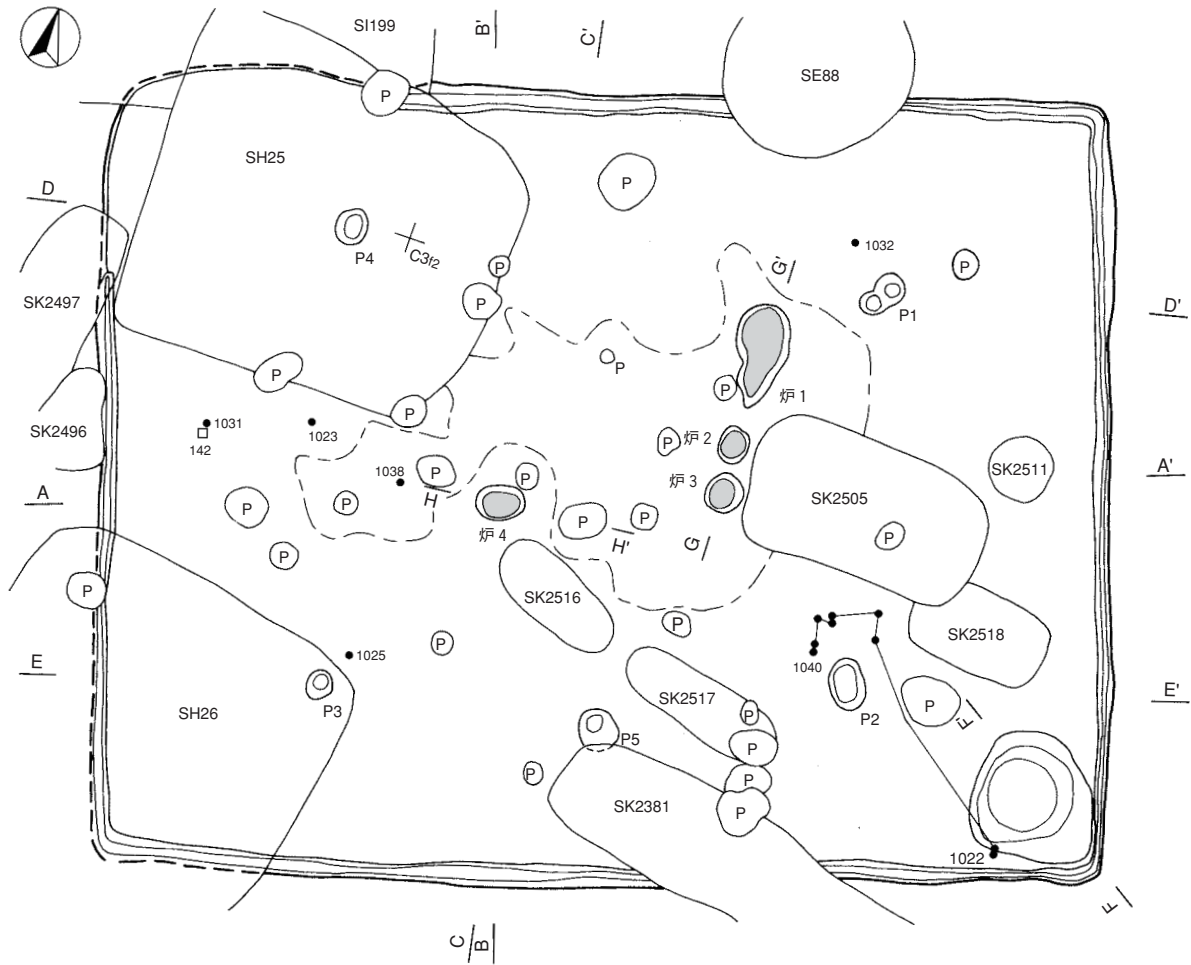
覆土 3層に分層される。堆積状況は不明である。

土層解説

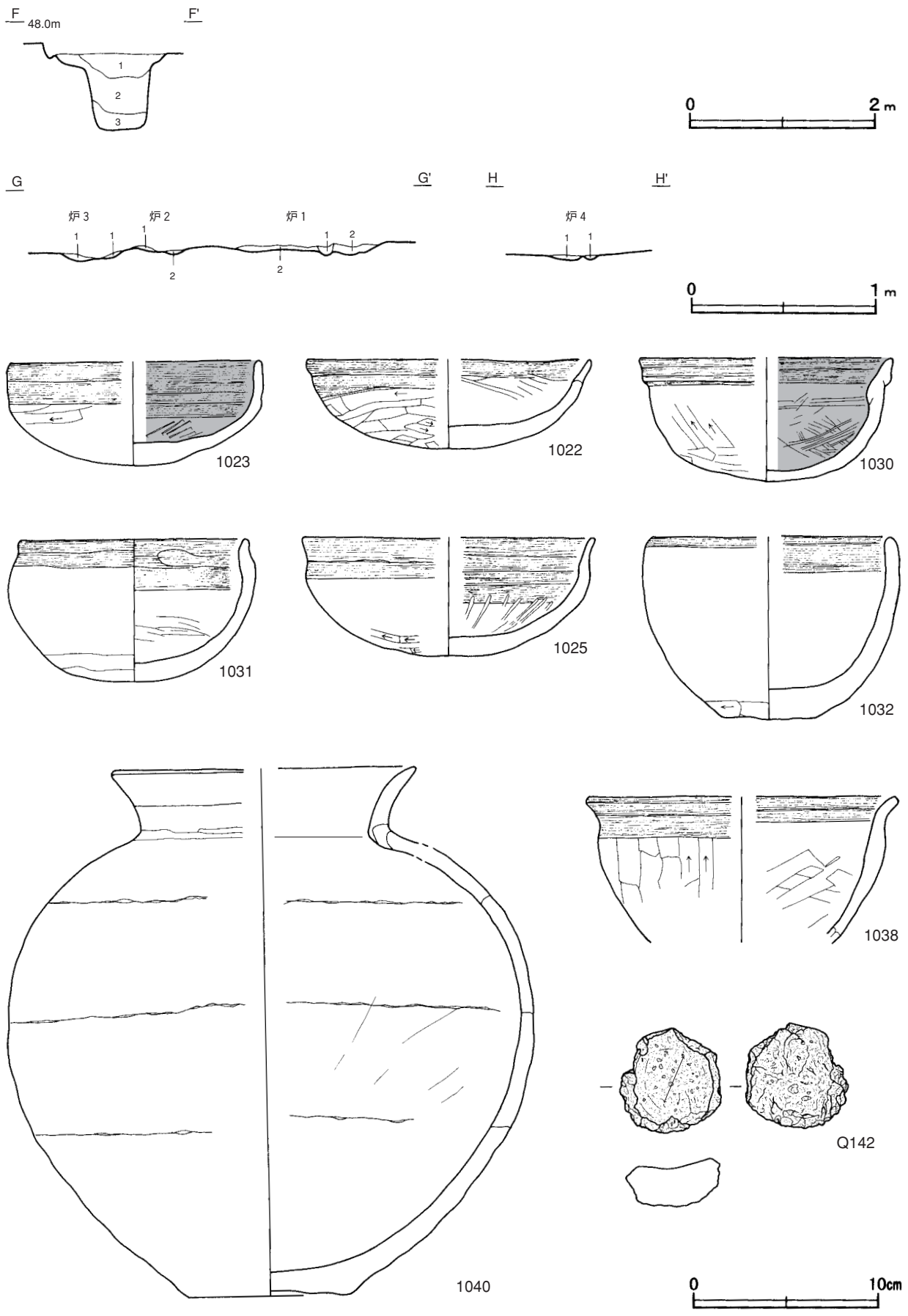
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片763点（坏274，高坏7，椀46，甕436）と砥面がある軽石が出土している。土器片は全域に散在しているが，特に南東コーナー部に集中している。1022は南東コーナー部の，1023・1025は中央部の，1031は西壁側の床面からそれぞれ出土している。これらは廃絶時に遺棄されたと考えられる。1030は貯蔵穴の覆土中から出土している。また，その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は，1022・1023・1025・1031から5世紀後半と考えられる。4基の炉の上面にはいずれも硬化面がなく，同時に使用されていた可能性がある。



第80图 第202号住居跡実測図



第81图 第202号住居跡・出土遺物実測図

第202号住居跡出土遺物観察表（第80・81図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|-----|---------------|-------|----|---|------------|-------------|
| 1022 | 土師器 | 坏 | [15.2] | 4.8 | — | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ，内面輪積み痕残存 | 床面 | 60% PL95 |
| 1023 | 土師器 | 坏 | [13.4] | 5.6 | — | 石英・長石・雲母・小礫 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 床面 | 60% |
| 1025 | 土師器 | 坏 | [15.6] | 6.4 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 床面 | 70% |
| 1030 | 土師器 | 坏 | [13.4] | 6.7 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・ヘラナデ | 貯蔵穴覆土中 | 50% |
| 1031 | 土師器 | 椀 | 12.1 | 7.7 | — | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・ヘラナデ | 床面 | 80% PL95 |
| 1032 | 土師器 | 椀 | [12.7] | 9.8 | 5.0 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ，火熱により器面荒れのため調整不明 | 床面 | 60% PL97 |
| 1038 | 土師器 | 鉢 | [16.4] | (7.9) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ヘラナデ | 覆土下層 | 10% |
| 1040 | 土師器 | 甕 | [16.1] | 28.5 | 8.7 | 石英・長石 | 褐灰 | 普通 | 口縁部外面横ナデ，内面摩滅，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，体部内・外面輪積み痕残存 | 床面 覆土下層 | 50% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-------|-------|--------|----|---------|------|----|
| Q142 | 砥石 | (5.7) | (5.4) | (2.4) | (29.6) | 軽石 | 1面に砥面あり | 床面 | |

第203号住居跡（第82図）

位置 西部1区北部のC3d4区に位置し，平坦な台地上に立地している。

重複関係 第169号住居と第38号方形竪穴遺構と第1号火葬土坑と第2338・2351・2352・2504号土坑とピット（5か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.07m，短軸4.98mの方形で，主軸方向はN-5°-Eである。壁高は7cm残存し，外傾して立ち上がっている。

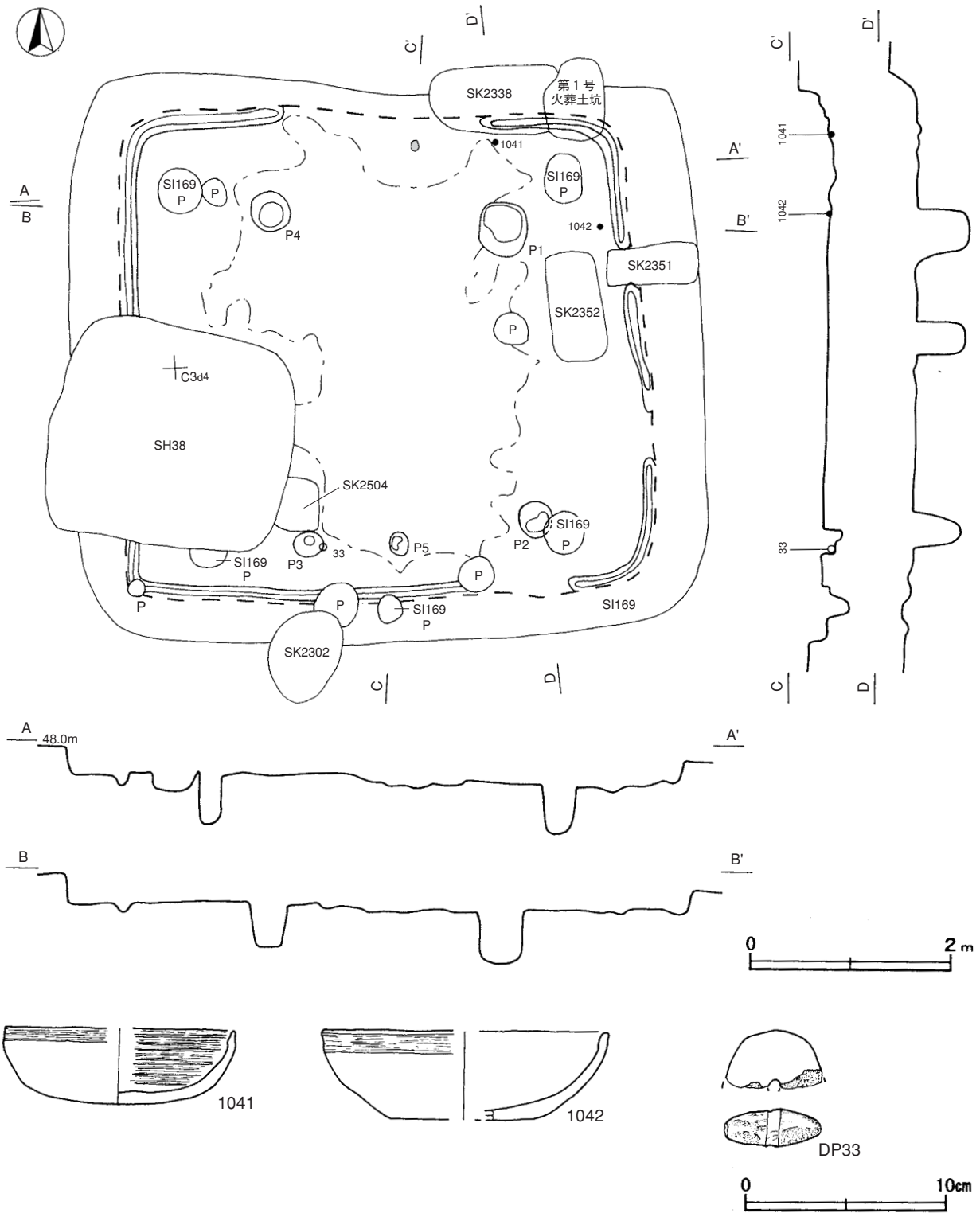
床 ほぼ平坦で，床面中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が壁下をほぼ全周していたと推測される。

竈 建て替えに際に取り壊されたと推測され，赤変した火床面がわずかに確認されただけである。位置は拡張後の第169号住居跡と同じ位置である。

ピット 5か所。P1～P4は深さが25～52cmで，位置と規模から主柱穴と考えられる。P5は深さが25cmで，南壁際の中央部にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片54点（坏17，甕36，甌1），土製品1点（紡錘車）が出土している。1041は火床部底面から，1042は竈前方の床面から，DP33はP3の底面から出土している。これらは廃絶時に遺棄されたと考えられる。

所見 廃絶時期は，1041・1042から7世紀後半である。本跡の主柱穴および出入り口施設に伴うピットの外側に第169号住居のそれらが位置している。建て替えに伴う拡張の際にピットを移動したのと考えられる。よって，本跡は第169号住居の建て替え前の住居である。



第82図 第203号住居跡・出土遺物実測図

第203号住居跡出土遺物観察表 (第82図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-----|-------|------------|-------|----|--|------|-----|
| 1041 | 土師器 | 坏 | [11.4] | 3.7 | 4.0 | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ，底部外面ヘラケズリ後ナデ | 床面 | 20% |
| 1042 | 土師器 | 坏 | [14.0] | 4.4 | [7.2] | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，底部外面ヘラケズリ後ナデ | 床面 | 20% |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|--------|----------|------|----|---------------|--------|----|
| DP33 | 紡錘車 | 4.8 | 1.9 | (23.3) | 石英・長石・雲母 | におい橙 | 普通 | 外面ナデ調整, 断面円盤形 | P 3 底面 | |

第205号住居跡 (第83～89図)

位置 西部1区南部のC2h7で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第172号住居跡を掘り込み、第42号方形竪穴遺構と第2509・2610・2611・2612・2620号土坑とピット(21か所)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.45m、短軸5.15mの方形で、主軸方向はN-46°-Wである。壁高は30～47cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が壁下を全周している。

竈 北西壁の中央部に付設されている。ピットに掘り込まれているため焚口部から煙道部は106cmだけ確認され、袖部幅が65cm、火床部幅が32cmである。袖部は左袖部が地山の上に砂質粘土を、右袖部は地山を掘り込んだあと黒色土を充填し、その上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は皿状にくぼんでおり、火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部の壁外への掘り込みは35cmだけ確認され、緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 灰白色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐灰色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック微量 |
| 5 褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

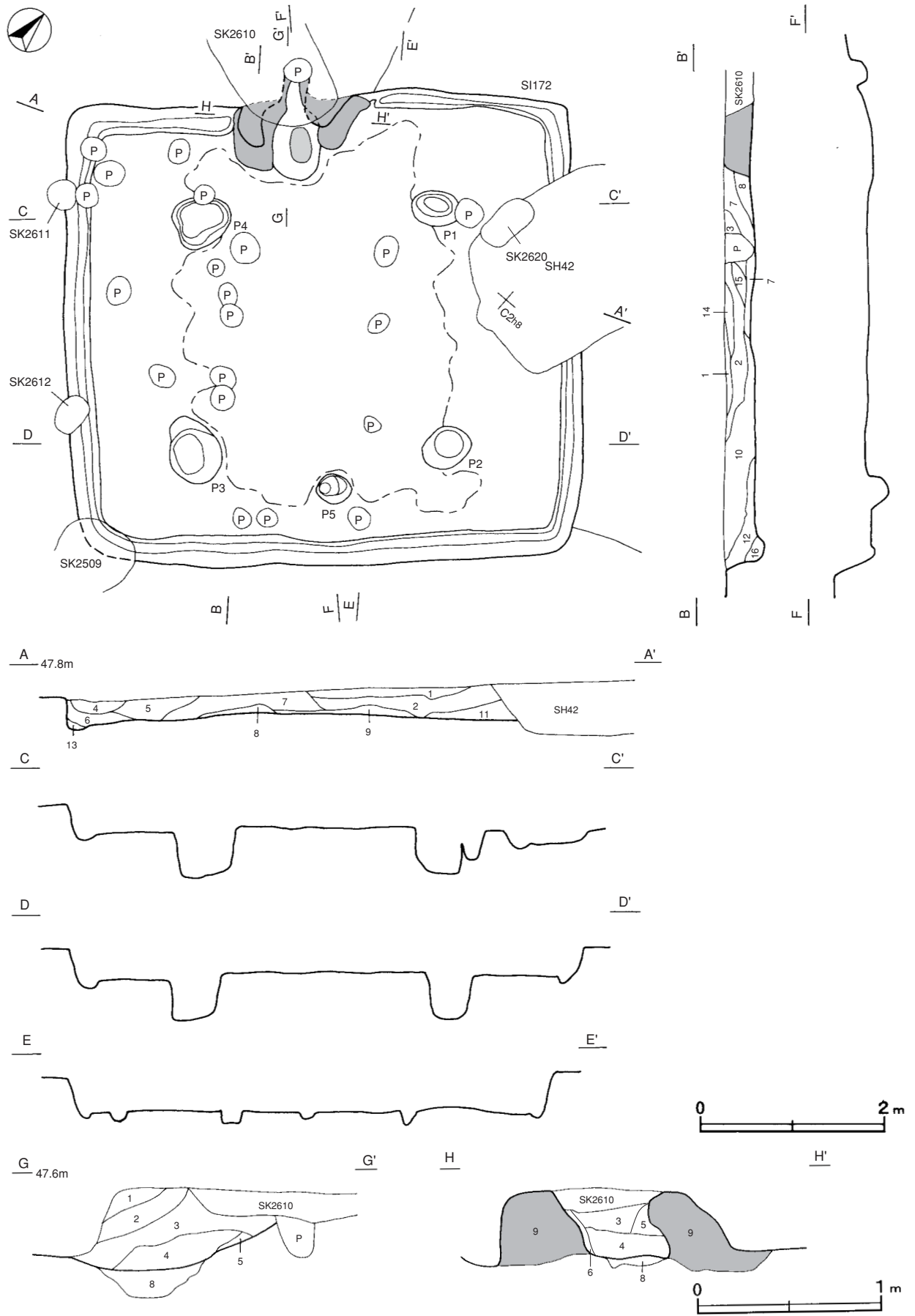
ピット 5か所。P1～P4は深さが46～50cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。P5は深さが24cmで、南壁寄りの中央部にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 16層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

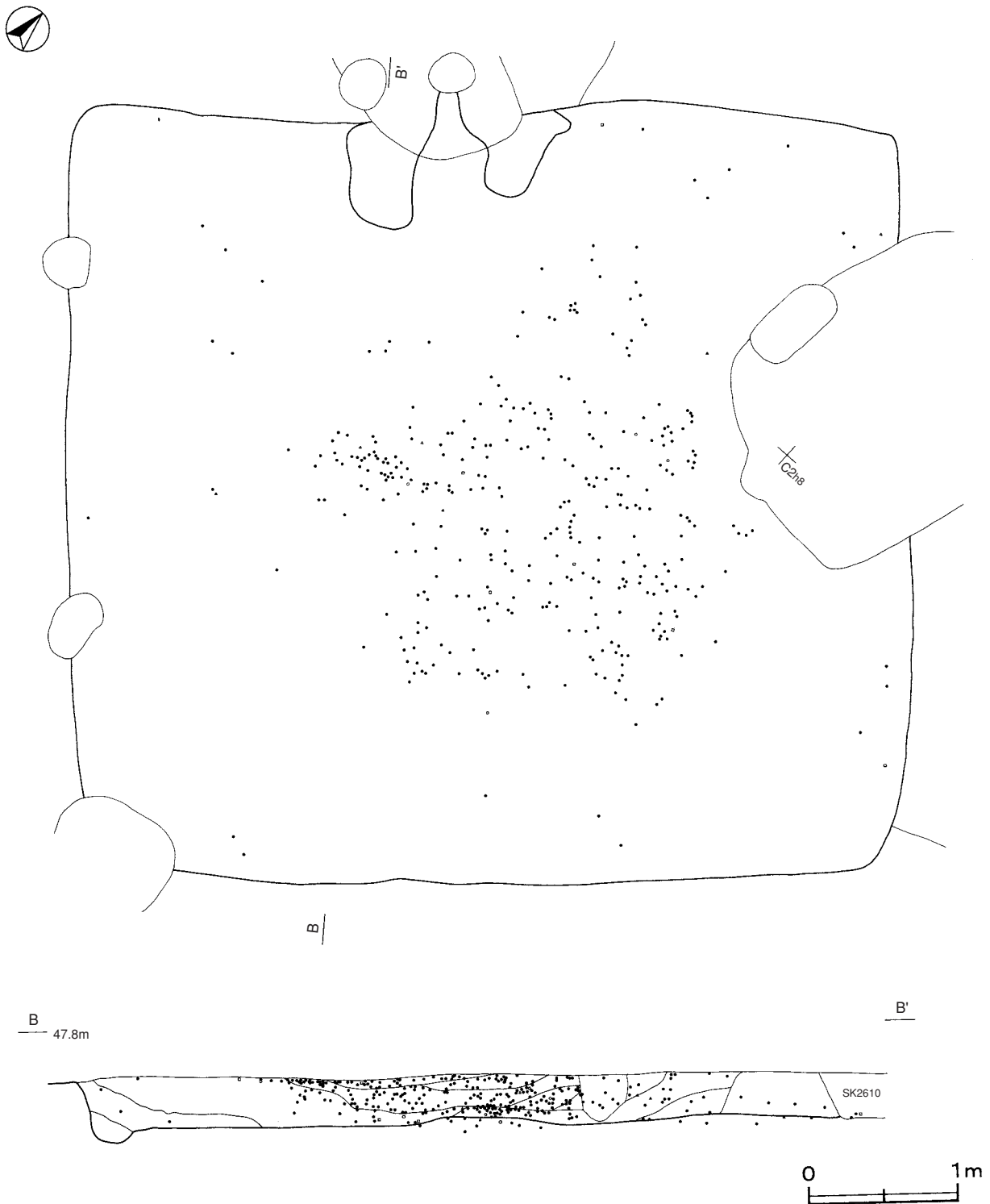
| | | | |
|-------|-------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 黒色 | 炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1551点(坏1098, 高坏17, 甕436), 須恵器片142点(坏82, 蓋38, 瓶9, 甕13), 土製品2点(支脚), 石製品3点(紡錘車1, 勾玉1, 小玉1), 鉄製品8点(鉄鏃カ4, 刀子2, 不明2)が出土している。多量の土師器片と須恵器片が、P1～P4に囲まれた区域から出土している。土師器片はこの区域に散在している様相を呈しているが、やや北壁に寄った位置と中央部に出土位置が分かれる。出土した破片数は圧倒的に中央部が多く、P3・P4の中間付近に集中がみられる。須恵器片は土師器片の中に混じって散在しているが、P2の周辺とP1・P2の中間付近に集中がみられる。土師器片と須恵器片は入り混じって散在しているが、その中におのおの集中箇所がみられる。壁際での出土数を比べると北壁側が東・西・南壁側より多く、埋没の早い段階では北壁側から多く廃棄したと考えられるが、壁際は中央部より出土数は少ない。出土数が多くなるのは8・10層が中央部まで流入しくぼ地を形成し始めた時である。8・10層の上位と8・10層と2・3・15層の層界に多量の土師器片が出土しており、その中に須恵器片が少量みられる。その後も堆積が進

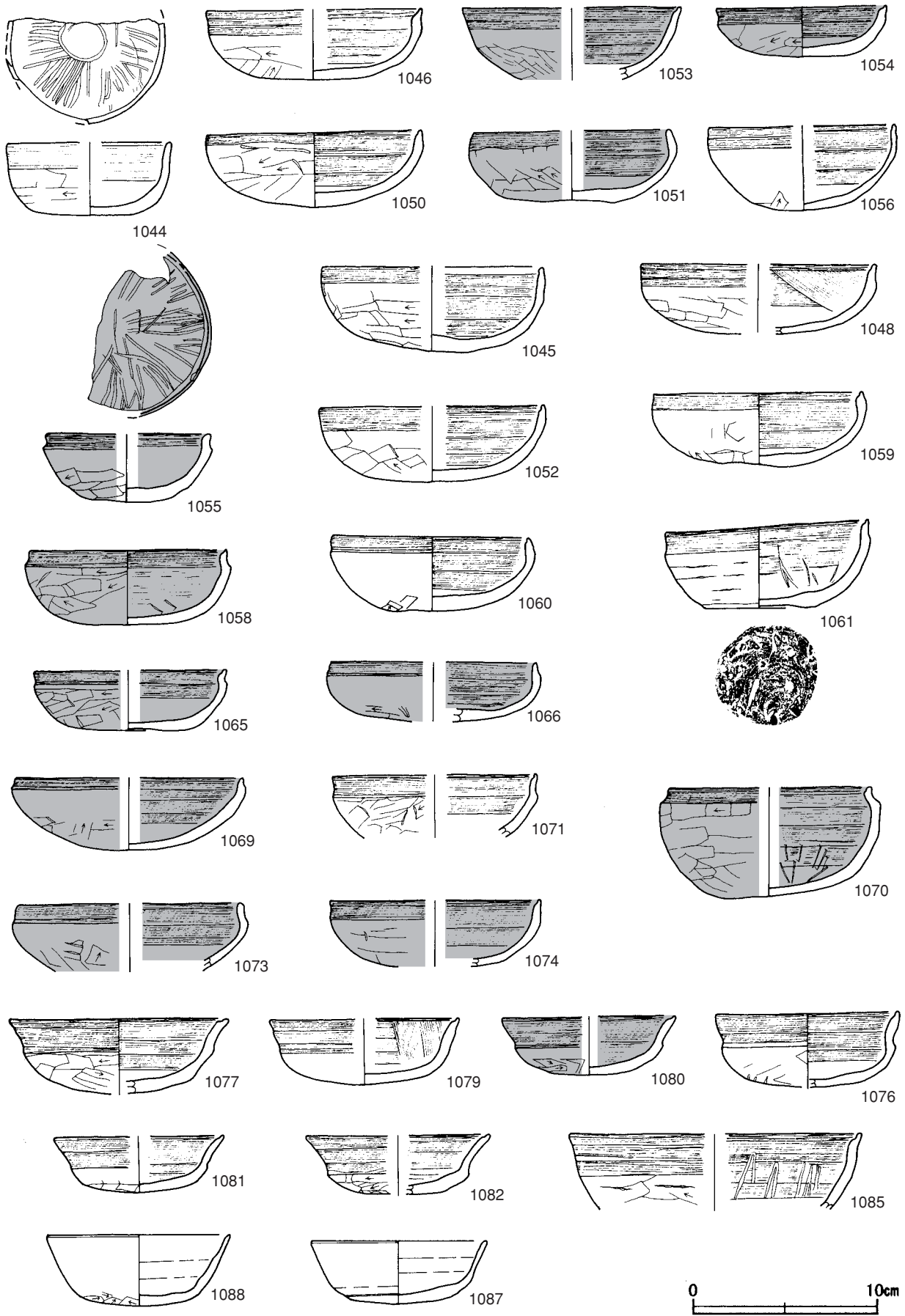


第83图 第205号住居跡実測図(1)

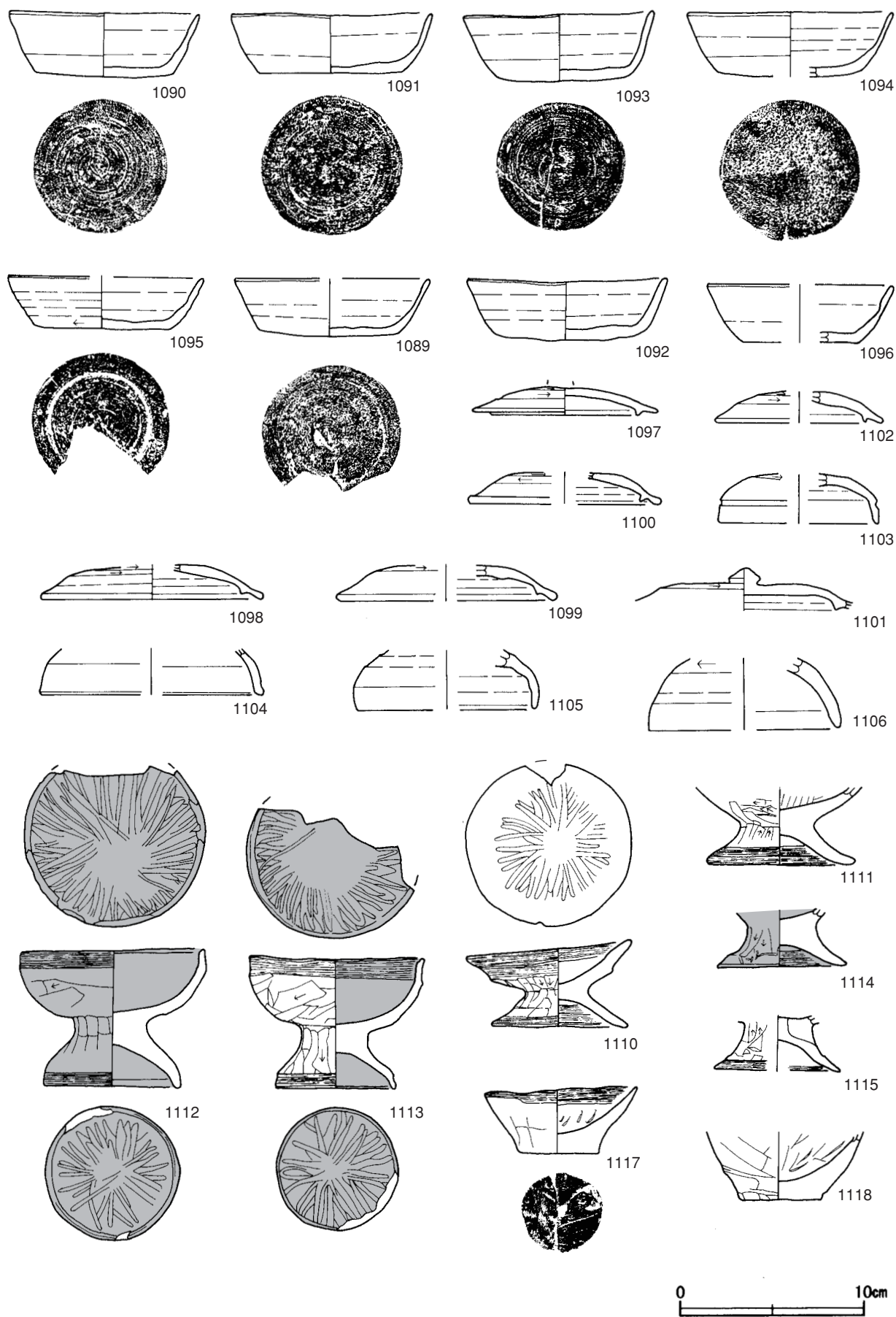
み、くぼ地から平地になるまで土師器片と須恵器片は廃棄される。接合関係は土師器片，須恵器片いずれも比較的近接した位置から出土した破片が接合しているが，離れた位置から出土した破片が接合したのもも少なくない。これらはすべて同じ層の中で接合しており，上層の破片と下層の破片が接合したものはない。また，Q143は竈右袖部の脇の床面から，Q144は東コーナー部の覆土上層から，Q145は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP34は中央部の覆土上層の離れた位置から出土した破片が接合したものである。DP35A Bは中央部の覆土上層から出土している。M78は北コーナー部の床面から出土している。M80・M82・M83は



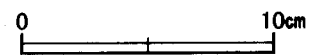
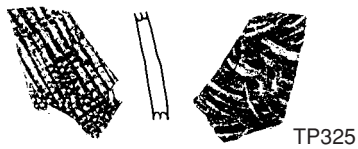
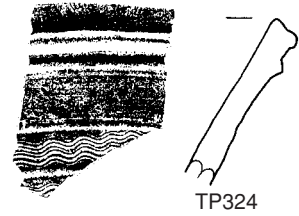
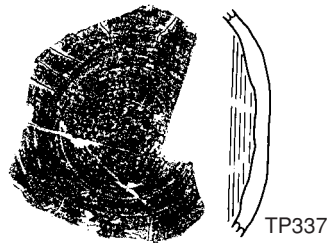
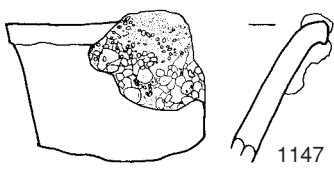
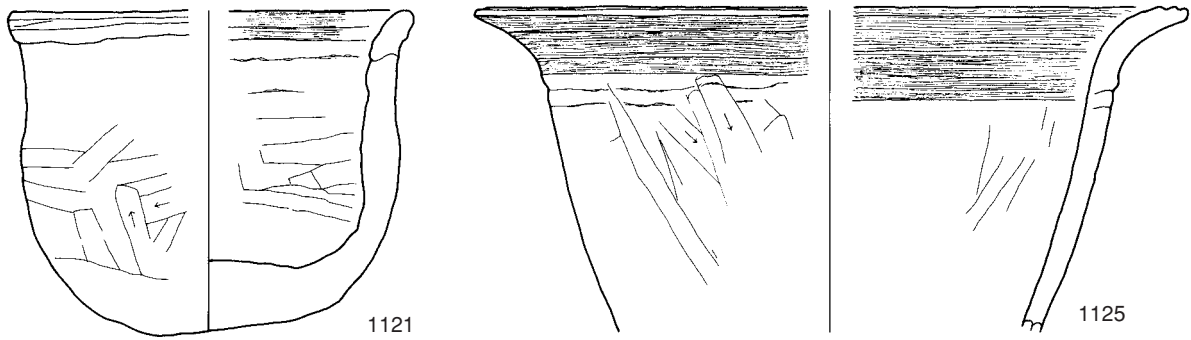
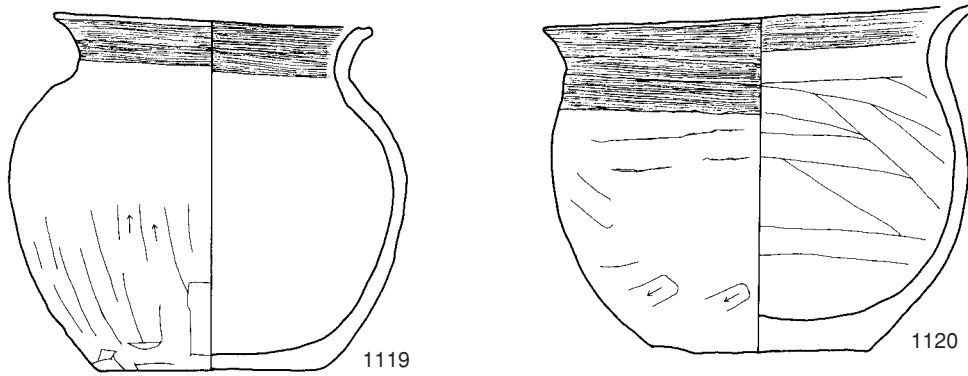
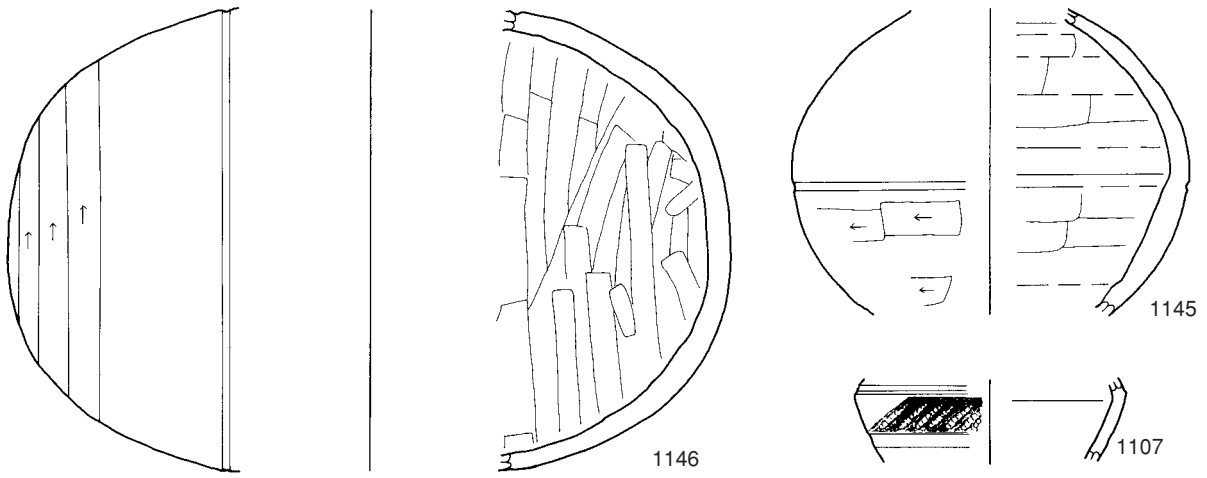
第84図 第205号住居跡実測図（2）



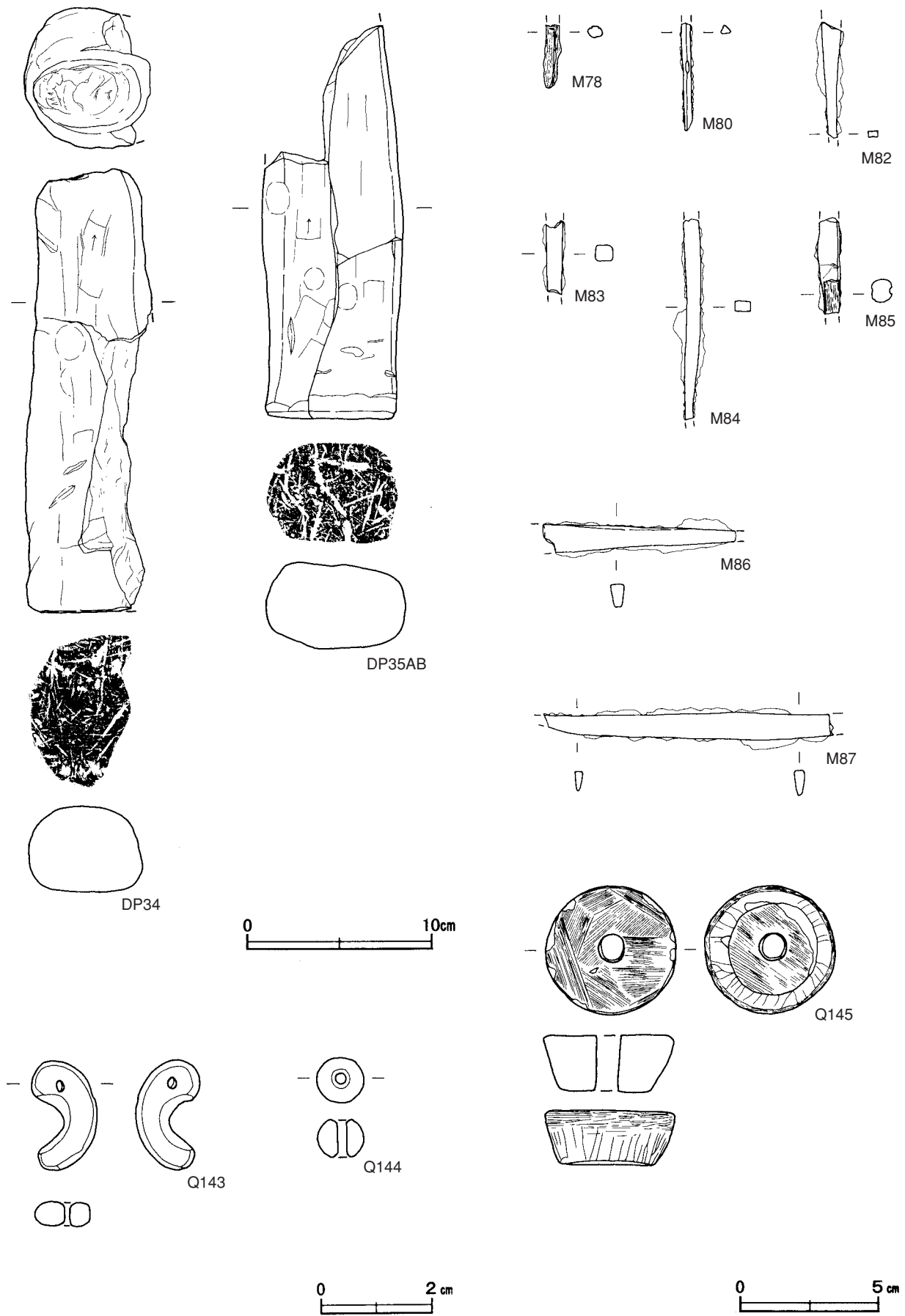
第86图 第205号住居跡出土遺物実測図(1)



第87图 第205号住居跡出土遺物実測図(2)



第88图 第205号住居跡出土遺物実測図 (3)



第89图 第205号住居跡出土遺物実測図(4)

第205号住居跡出土遺物観察表（第86～89図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|-----|-----------------|-------|----|---|------|-------------|
| 1044 | 土師器 | 坏 | [8.6] | 4.0 | 4.0 | 石英・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ・放射状のヘラミガキ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底、底部内面渦状の沈線 | 覆土上層 | 50% PL95 |
| 1045 | 土師器 | 坏 | [11.8] | 4.6 | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味の丸底 | 覆土下層 | 60% PL96 |
| 1046 | 土師器 | 坏 | [11.4] | 3.8 | — | 雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味の丸底 | 覆土下層 | 40% |
| 1048 | 土師器 | 坏 | [12.6] | 3.7 | — | 長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面横・斜め方向のナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味の丸底 | 覆土上層 | 30% |
| 1050 | 土師器 | 坏 | 11.5 | 4.1 | — | 石英・雲母 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味の丸底 | 覆土上層 | 70% PL95 |
| 1051 | 土師器 | 坏 | [10.5] | 3.9 | 3.5 | 石英・雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底 | 覆土下層 | 50% PL96 |
| 1052 | 土師器 | 坏 | [12.0] | 4.0 | — | 雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味の丸底 | 覆土上層 | 40% PL96 |
| 1053 | 土師器 | 坏 | [11.8] | (3.9) | — | 長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面横ナデ | 覆土上層 | 20% |
| 1054 | 土師器 | 坏 | 9.0 | 2.7 | 4.3 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、口縁部と体部の境の稜が明瞭、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底、須恵器蓋模倣坏カ | 覆土上層 | 95% PL96 |
| 1055 | 土師器 | 坏 | [8.8] | 3.6 | 3.5 | 石英・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、体部外面ヘラケズリ後ナデ、口縁部と体部の境の稜が明瞭、内面ナデ・放射状のヘラミガキ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底、須恵器身模倣坏カ | 覆土上層 | 60% PL96 |
| 1056 | 土師器 | 坏 | [10.0] | 4.5 | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、口縁部と体部の境の稜が明瞭、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味 | 覆土下層 | 40% |
| 1058 | 土師器 | 坏 | 10.6 | 4.0 | 4.6 | 石英・長石・雲母 | 黒褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、体部外面ヘラケズリ後ナデ、口縁部と体部の境の稜が明瞭、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底、須恵器身模倣坏カ | 覆土下層 | 80% PL96 |
| 1059 | 土師器 | 坏 | 11.1 | 4.0 | — | 雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味 | 覆土下層 | 60% PL96 |
| 1060 | 土師器 | 坏 | 10.6 | 4.0 | 4.2 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部と口縁部と体部の境にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面横ナデ | 覆土下層 | 50% |
| 1061 | 土師器 | 坏 | 10.8 | 4.7 | 5.7 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、口縁部と体部の境が明瞭、内面横ナデ後ヘラ工具による放射状の沈線、底部回転糸切りで切り離し後無調整、須恵器身模倣坏で平底 | 覆土下層 | 95% PL96 |
| 1065 | 土師器 | 坏 | [10.3] | 3.2 | 4.7 | 石英・雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、口唇部と口縁部と体部の境にナデによる沈線、体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面横ナデ、平底 | 覆土下層 | 40% |
| 1066 | 土師器 | 坏 | [11.0] | (3.2) | — | 雲母・赤色粒子・白色粒子 | 褐灰 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、体部外面ヘラケズリ後ナデ、口縁部と体部の境の稜が明瞭、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味、須恵器身模倣坏カ | 覆土下層 | 30% |
| 1069 | 土師器 | 坏 | [12.2] | 3.9 | — | 石英・雲母・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、体部外面ヘラケズリ後ナデ、口縁部と体部の境の稜が明瞭、内面横ナデ、底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味、須恵器身模倣坏カ | 覆土上層 | 40% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|-------|---------------|-------|----|--|------|--------------|
| 1070 | 土師器 | 坏 | [10.7] | 6.0 | 5.4 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，口縁部と体部の境が明瞭，内面横ナデ後ヘラ状工具による放射状の沈線，須恵器身模倣坏で平底 | 覆土下層 | 70% PL95 |
| 1071 | 土師器 | 坏 | [11.0] | (3.3) | — | 石英・雲母・白色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，口縁部と体部の境が明瞭，内面横ナデ，須恵器蓋模倣坏カ | 覆土上層 | 10% |
| 1073 | 土師器 | 坏 | [12.0] | (3.6) | — | 石英 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，口縁部と体部の境が明瞭，内面横ナデ，須恵器蓋模倣坏カ | 覆土下層 | 10% |
| 1074 | 土師器 | 坏 | [11.2] | (3.5) | — | 雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ | 覆土上層 | 20% |
| 1076 | 土師器 | 坏 | 9.7 | 4.0 | — | 石英・長石・雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ，口縁部と体部の境が明瞭，底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味，須恵器蓋模倣坏カ | 覆土下層 | 70% PL96 |
| 1077 | 土師器 | 坏 | 11.6 | 4.0 | — | 石英・長石・雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ，底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味の丸底，須恵器蓋模倣坏カ | 覆土下層 | 70% PL96 |
| 1079 | 土師器 | 坏 | [10.2] | 3.5 | — | 雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面縦・横ナデ，口縁部と体部の境が明瞭，底部外面ヘラケズリ後ナデで丸底，須恵器蓋模倣坏カ | 覆土上層 | 40% |
| 1080 | 土師器 | 坏 | [9.2] | 3.2 | — | 白色粒子 | 褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ，底部外面ヘラケズリ後ナデで丸底，須恵器蓋模倣坏カ | 覆土上層 | 40% |
| 1081 | 土師器 | 坏 | [9.0] | 3.1 | — | 石英・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ，口縁部と体部の境が明瞭，底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味，須恵器蓋模倣坏カ | 覆土下層 | 10% |
| 1082 | 土師器 | 坏 | [9.8] | 3.1 | [3.5] | 雲母・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ，口縁部と体部の境が明瞭，底部外面ヘラケズリ後ナデで平底気味，須恵器蓋模倣坏カ | 覆土上層 | 20% |
| 1085 | 土師器 | 坏 | [15.6] | (4.1) | — | 石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ後放射状のヘラミガキ | 覆土上層 | 10% |
| 1087 | 須恵器 | 坏 | 9.4 | 3.5 | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 丸底，底部回転ヘラ切り | 覆土上層 | 80% PL97 |
| 1088 | 須恵器 | 坏 | 9.8 | 3.9 | — | 石英・長石 | 灰白 | 普通 | 丸底，底部多方向の手持ちヘラ切り | 覆土上層 | 60% PL97 |
| 1089 | 須恵器 | 坏 | [10.4] | 3.1 | 7.6 | 石英・長石・黒色粒子 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 覆土下層 | 60% PL97 |
| 1090 | 須恵器 | 坏 | 10.3 | 3.5 | 7.5 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り，底部外面火襷 | 覆土下層 | 80% PL97 |
| 1091 | 須恵器 | 坏 | 10.7 | 3.2 | 7.8 | 石英・長石・黒色粒子 | 黒褐 | 普通 | 底部回転ヘラ削り，口縁部に歪みあり・底部内面に自然釉 | 覆土下層 | 100% PL97 |
| 1092 | 須恵器 | 坏 | 10.8 | 3.4 | 7.5 | 石英・長石・黒色粒子 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り，口縁部に歪みあり，底部器面荒れ | 覆土上層 | 90% PL97 |
| 1093 | 須恵器 | 坏 | 10.3 | 3.8 | 6.8 | 石英・長石・黒色粒子 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 覆土下層 | 70% PL97 |
| 1094 | 須恵器 | 坏 | 11.0 | 3.5 | [7.6] | 石英・長石・黒色粒子 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転ヘラ削り，底部・体部外面自然釉 | 覆土下層 | 60% PL97 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|----|--------|--------|-------|---------------|-------|----|--|------|-------------|
| 1095 | 須恵器 | 坏 | [10.5] | 2.8 | 7.4 | 石英・長石 | オリーブ黒 | 普通 | 底部回転ヘラ削り，体部外面自然釉 | 覆土下層 | 70% PL98 |
| 1096 | 須恵器 | 坏 | [9.8] | 3.2 | [6.3] | 石英・長石・黒色粒子 | 黄灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 覆土上層 | 40% |
| 1097 | 須恵器 | 蓋 | 10.0 | (1.6) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り，天井部外面自然釉 | 覆土下層 | 95% PL98 |
| 1098 | 須恵器 | 蓋 | 12.0 | (1.9) | — | 石英・長石・黒色粒子 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土上層 | 40% |
| 1099 | 須恵器 | 蓋 | [11.0] | (1.9) | — | 石英・長石・黒色粒子 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り，天井部外面自然釉 | 覆土下層 | 20% |
| 1100 | 須恵器 | 蓋 | [10.4] | (1.8) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土下層 | 30% |
| 1101 | 須恵器 | 蓋 | — | (2.3) | — | 石英・長石・黒色粒子 | 褐灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り，天井部外面自然釉 | 覆土下層 | 20% |
| 1102 | 須恵器 | 蓋 | [9.0] | (1.7) | — | 石英・長石 | 灰黄 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土下層 | 10% |
| 1103 | 須恵器 | 蓋 | [8.6] | (2.7) | — | 白色粒子 | 褐灰 | 良好 | 天井部回転ヘラ削り，天井部に一条の沈線，畿内産カ | 覆土下層 | 30% |
| 1104 | 須恵器 | 蓋 | [12.0] | (2.5) | — | 白色粒子 | 灰 | 普通 | 口縁部ロクロナデ | 覆土下層 | 10% 東海産 |
| 1105 | 須恵器 | 蓋 | [9.5] | (3.2) | — | 石英・長石 | 灰白 | 普通 | 口縁部ロクロナデ | 覆土上層 | 20% |
| 1106 | 須恵器 | 蓋 | [10.2] | (3.8) | — | 長石 | 灰白 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土上層 | 30% |
| 1107 | 須恵器 | 壺 | — | (3.5) | — | 長石 | 灰 | 普通 | 体部に2条の沈線とその間に縄状圧痕を連ねる | 覆土下層 | 10% |
| 1110 | 土師器 | 高坏 | 8.9 | 4.7 | 7.3 | 石英・長石・雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 坏部内・外面横ナデ，坏部外面の下位に明瞭な稜を持つ 内面放射状のヘラミガキ，脚部外面ヘラケズリ後脚部から裾部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 98% PL98 |
| 1111 | 土師器 | 高坏 | — | (4.2) | 7.9 | 雲母・白色粒子 | にぶい黄褐 | 普通 | 坏部外面ヘラケズリ後ナデ，内面放射状のヘラミガキ，脚部外面ヘラケズリ後脚部から裾部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 70% |
| 1112 | 土師器 | 高坏 | 9.8 | 7.5 | 7.3 | 石英・長石・雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 坏部口縁内・外面横ナデ，外面ヘラケズリ後ナデで口縁との境に丸みのある稜を持つ，内面放射状のヘラミガキ，脚部外面ヘラケズリ後ナデ，内面放射状のヘラミガキ，裾部内・外面横ナデ，裾部端部にナデによる沈線 | 覆土下層 | 90% PL97 |
| 1113 | 土師器 | 高坏 | 9.3 | 7.2 | 6.4 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 坏部口縁内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，外面ヘラケズリ後ナデで口縁との境に丸みのある稜を持つ，内面放射状のヘラミガキ，脚部外面ヘラケズリ後ナデ，内面放射状のヘラミガキ，裾部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 70% PL98 |
| 1114 | 土師器 | 高坏 | — | (3.0) | 6.9 | 石英・長石・雲母 | 灰褐 | 普通 | 脚部外面ヘラケズリ後ナデ，裾部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 30% |
| 1115 | 土師器 | 高坏 | — | (3.0) | [6.8] | 石英・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 脚部外面ヘラケズリ後ナデ，裾部内・外面横ナデ | 覆土下層 | 20% |
| 1117 | 手捏土器 | — | 8.2 | 3.6 | 4.2 | 雲母・白色粒子 | 黒褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ，底部木葉痕 | 覆土上層 | 70% PL98 |
| 1118 | 手捏土器 | — | — | (3.7) | 4.5 | 雲母・赤色粒子・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・ヘラ当て具痕 | 覆土下層 | 60% PL98 |
| 1119 | 土師器 | 甕 | 12.3 | 14.2 | 8.8 | 石英・長石・雲母・小礫 | 灰黄褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・ヘラナデ | 覆土下層 | 60% PL98 |
| 1120 | 土師器 | 甕 | 16.8 | 13.8 | 8.5 | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，輪積み痕残存，内面ナデ・ヘラナデ | 覆土下層 | 95% PL98 |
| 1121 | 土師器 | 甕 | [15.5] | 12.8 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口縁部輪積み痕残存，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・ヘラナデ | 覆土上層 | 70% |
| 1125 | 土師器 | 甗 | [27.8] | (12.8) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，輪積み痕残存，内面ナデ | 覆土下層 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|----|--------|----|------------|----|----|-----------------------|------|-----|
| 1145 | 須恵器 | 長頸甕 | — | (12.2) | — | 石英・長石・黒色粒子 | 黄灰 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ヘラナデ | 覆土上層 | 20% |
| 1146 | 須恵器 | 横瓶 | — | (18.3) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ヘラナデ | 覆土上層 | 10% |
| 1147 | 須恵器 | 甕 | — | (5.9) | — | 石英・長石 | 褐灰 | 普通 | 口縁部内・外面ロクロナデ, 口縁部窯壁付着 | 覆土上層 | 5% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|-------|-------|----|---|------|-----|
| TP324 | 須恵器 | 甕 | 石英・長石 | オリーブ黒 | 普通 | 口縁部外面1条の凸帯, 凸帯の下2段に組み合わせられた2条の沈線と波状沈線(7本単位) | 覆土上層 | 5% |
| TP325 | 須恵器 | 甕 | 長石 | 灰 | 普通 | 体部外面擬格子叩き, 内面同心円状の当て具痕 | 覆土下層 | 5% |
| TP337 | 須恵器 | 提瓶 | 長石 | 灰 | 普通 | 体部外面2条の沈線, 2条の沈線の間に縄状圧痕 | 覆土下層 | 20% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|--------|----|--------|-------|-------|----------|-------|----|----|------------------------------|------|----|
| DP34 | 支脚 | 24.0 | (6.8) | (7.8) | (1030.0) | 石英・長石 | 黄褐 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ, 指頭押圧痕残存, 底面植物繊維の圧痕 | 覆土上層 | |
| DP35AB | 支脚 | (21.4) | (5.8) | 5.5 | (840.0) | 石英・長石 | 黄橙 | 普通 | ヘラケズリ後ナデ, 指頭押圧痕残存 | 覆土上層 | |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|---------------|------|-------|
| Q143 | 勾玉 | 2.0 | 0.8 | — | 0.5 | 1.3 | 頁岩 | 孔径0.2cm, 全面研磨 | 床面 | PL101 |
| Q144 | 白玉 | — | — | 0.8 | 0.7 | 0.4 | 頁岩 | 孔径0.2cm, 全面研磨 | 覆土上層 | |
| Q145 | 紡錘車 | — | — | 4.7 | 2.0 | 61.6 | 頁岩 | 孔径1.0cm, 全面研磨 | 覆土下層 | PL102 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|--------|-------|-------|--------|----|----------------|------|----|
| M78 | 鎌カ | (2.3) | (0.5) | (0.5) | (1.0) | 鉄 | 茎カ, 断面方形, 木質残存 | 床面 | |
| M80 | 鎌カ | (3.9) | (0.4) | (0.4) | (0.9) | 鉄 | 茎カ, 断面方形 | 覆土上層 | |
| M82 | 不明 | (4.1) | (0.8) | (0.5) | (4.1) | 鉄 | 断面方形 | 覆土上層 | |
| M83 | 不明 | (3.0) | (0.7) | (0.6) | (2.0) | 鉄 | 断面方形 | 覆土上層 | |
| M84 | 鎌カ | (7.2) | (0.6) | (0.5) | (7.3) | 鉄 | 茎カ, 断面方形 | 覆土下層 | |
| M85 | 鎌カ | (3.5) | 1.0 | 0.8 | (3.1) | 鉄 | 茎カ, 断面方形 | 覆土上層 | |
| M86 | 刀子 | (6.9) | (1.2) | (0.5) | (6.9) | 鉄 | 茎カ, 断面方形 | 覆土下層 | |
| M87 | 刀子 | (10.2) | 1.0 | 0.4 | (13.4) | 鉄 | 刀身, 刀部先端および茎欠損 | 覆土下層 | |

第209号住居跡 (第90~92図)

位置 西部1区南部のC3j3区で, 平坦な台地上に位置している。

重複関係 第221号住居と第2566・2633・2639号土坑とピット(5か所)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.03m, 短軸3.22mの長方形で, 主軸方向はN-11°-Wである。壁高は29~34cmで, 外傾して立ち上がっている。

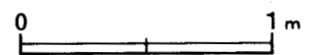
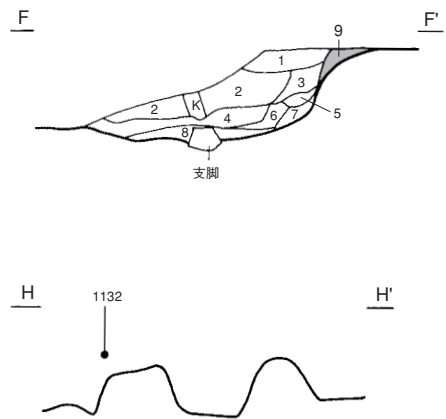
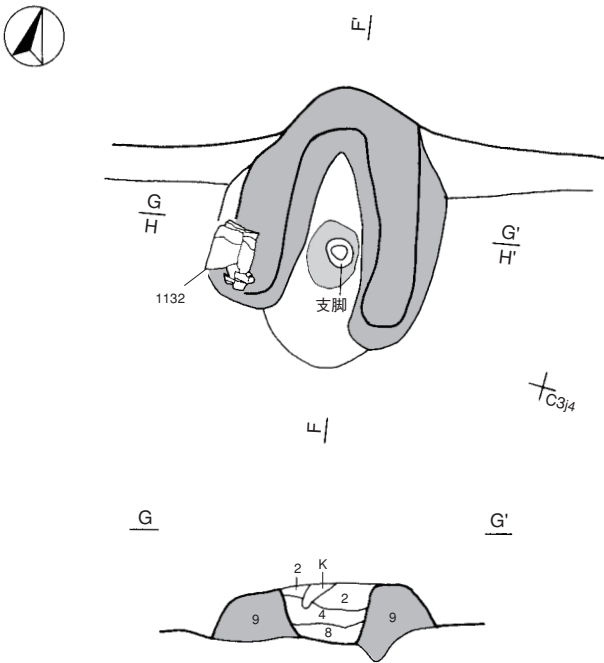
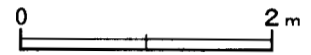
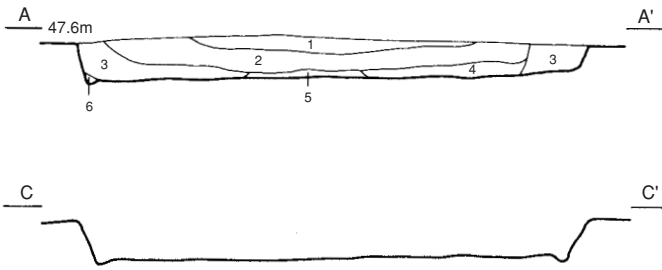
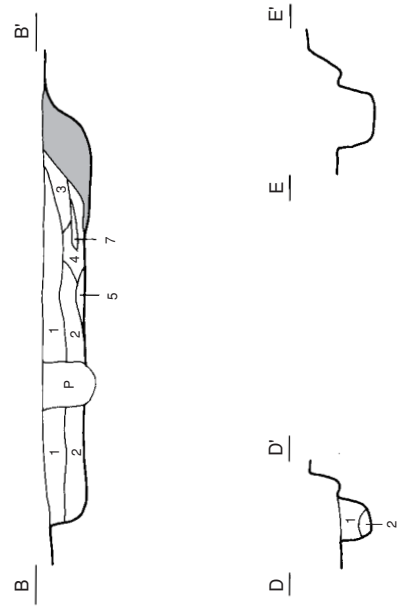
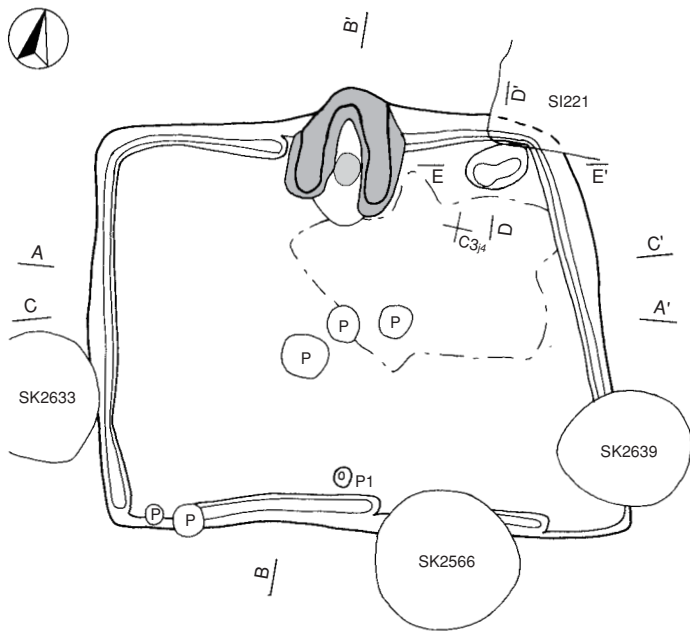
床 ほぼ平坦で, 竈の手前から東壁寄りにかけて踏み固められている。断面U字状の壁溝が南東・南西コーナーを除いて壁下を巡っている。

竈 中央部に付設されている。焚口部から煙道部が112cm, 袖部幅が80cm, 火床部幅が36cmである。袖部は床面に砂質粘土を貼り付けて構築されている。左袖部には1個体の甕が埋め込まれており, 補強材と考えられる。火床部は床面と同じ高さで, 火床面には角礫状の砂岩製支脚が埋め込まれ, 直立した状態で出土し, 火床面とともに火熱で赤変している。煙道部の壁外への掘り込みは18cmであり, 急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐灰色 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量



第90图 第209号住居跡实测图 (1)

- 5 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子多量
- 7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

- 8 黒褐色 炭化粒子微量
- 9 灰色 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 1か所。深さが9cmで，南壁際の中央部にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径52cm，短径34cmの楕円形で，深さは28cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

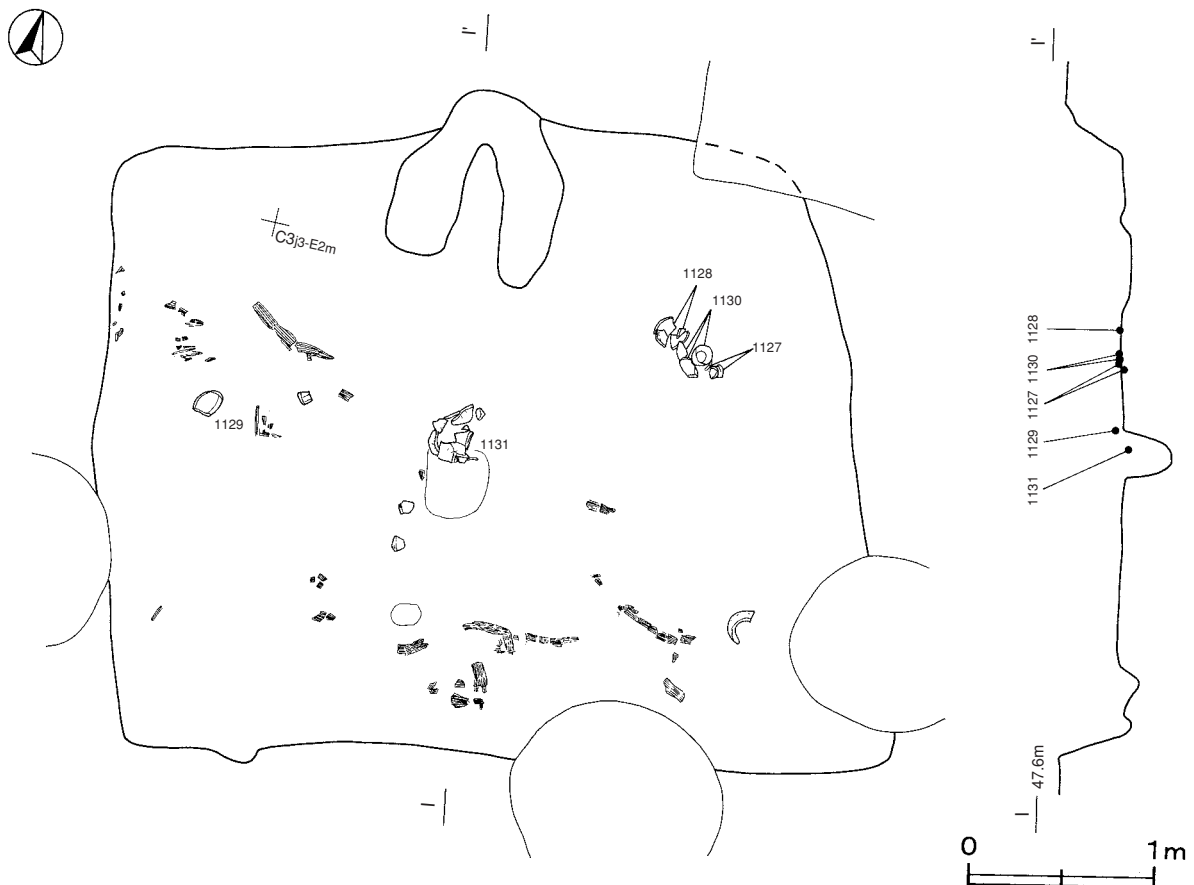
覆土 7層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

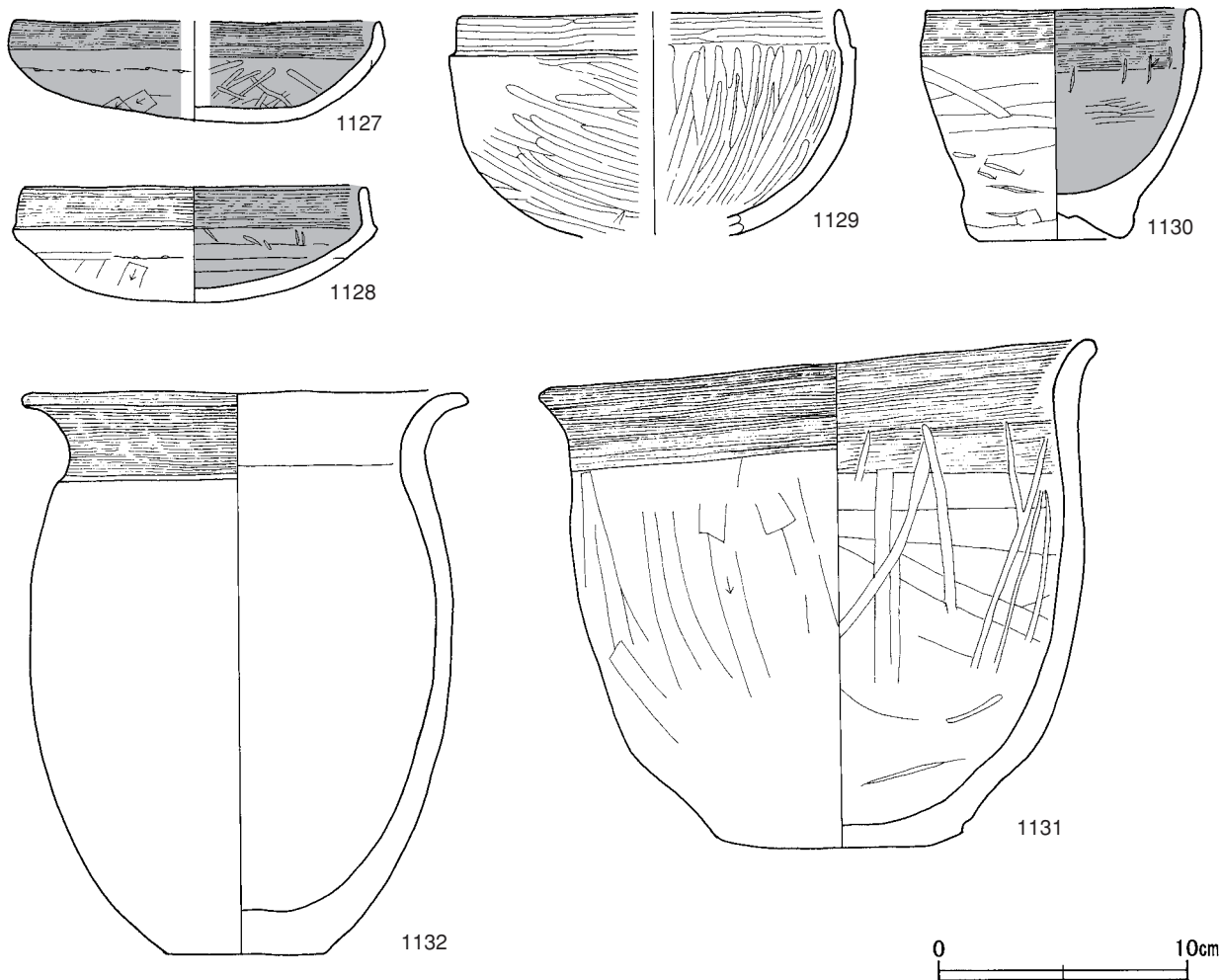
- 1 黒褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
- 5 暗褐色 粘土ブロック多量，焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量，粘土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片252点（坏58，高坏4，椀1，甕189）が全域に散在して出土している。1127・1128・1130は貯蔵穴の周辺の床面からまとまって出土している。1129は西壁寄りの覆土下層から，1131は中央部の床面から出土している。床面から出土した破損品は廃絶時に遺棄されたと考えられる。1129は破断面が摩滅しておらず，廃絶後の窪地に廃棄されたと考えられる。1132は竈の左袖部内から出土している。西・南壁寄りの床面から棒状の炭化材が出土している。また，混入した縄文土器片，弥生土器片，奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 炭化材が出土していることや床面が焼けていることから焼失住居と考えられ，遺棄された土器群の出土状況から廃絶時に火をつけた可能性が高い。廃絶時期は，1127・1128から7世紀前半と考えられる。



第91図 第209号住居跡実測図（2）



第92図 第209号住居跡出土遺物実測図

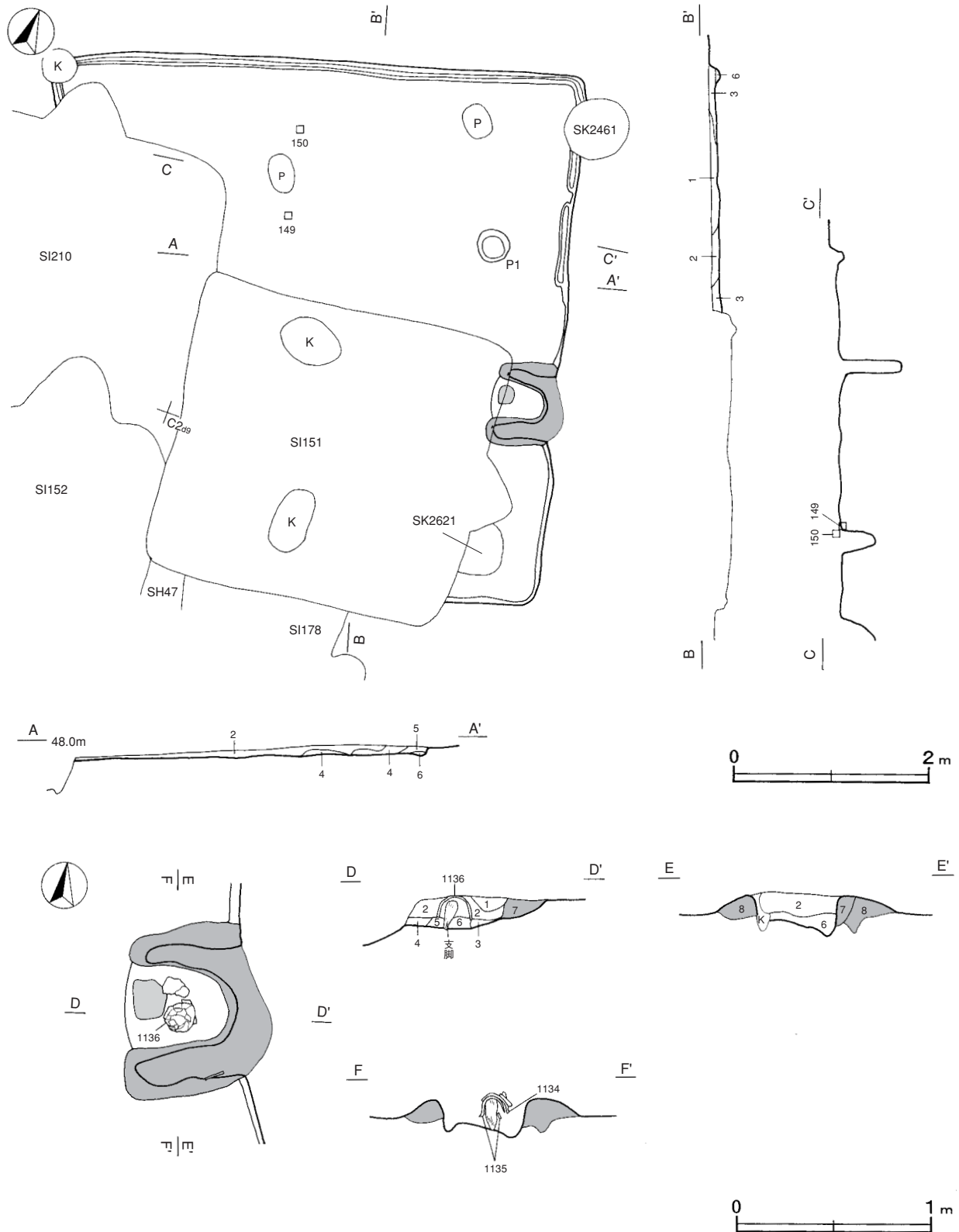
第209号住居跡出土遺物観察表（第92図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|------|-------|---------------|------|----|---|-------|--------------|
| 1127 | 土師器 | 坏 | [14.6] | 4.1 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ・不定方向のヘラミガキ | 床面 | 90% PL98 |
| 1128 | 土師器 | 坏 | 13.7 | 5.6 | — | 石英・長石・雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，輪積み痕残存，内面横ナデ | 床面 | 90% PL98 |
| 1129 | 土師器 | 椀 | [15.2] | 9.0 | — | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ，体部外面ナデ・斜め方向のヘラミガキ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 覆土下層 | 40% |
| 1130 | 土師器 | 鉢 | 10.8 | 9.1 | [6.1] | 雲母・白色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ナデ・ヘラナデ，内面ナデ・ヘラミガキ | 床面 | 100% PL99 |
| 1131 | 土師器 | 甕 | 21.6 | 20.3 | 9.7 | 石英・長石・雲母 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面上半横ナデ・ヘラナデ | 床面 | 80% PL99 |
| 1132 | 土師器 | 甕 | 17.1 | 22.5 | 6.3 | 石英・長石・赤色粒子・小礫 | 赤 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部内・外面火熱による荒れのため調整不明 | 竈左袖部内 | 60% PL99 |

第213号住居跡 (第93・94図)

位置 西部1区中央部のC2c9区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第178号住居跡を掘り込み、第151・152・178・210号住居と第21・47号方形竪穴遺構と第2461・2621とピット(2か所)に掘り込まれている。



第93図 第213号住居跡実測図

規模と形状 重複が激しく全容は不明であるが、東西長5.45m、南北長5.42mの方形で、主軸方向がN-75°-Eと推測される。壁高は9cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が確認された壁下に巡っている。

竈 東壁のやや右寄りに付設されている。焚口部から煙道部が74cm、袖部幅が43cm、火床部幅が47cmである。袖部は地山を掘り込んだあと砂質粘土を充填して構築されている。火床部は皿状にくぼんでおり、火床面は火熱で赤変硬化している。煙道部は壁外へ14cm掘り込んでおり、急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 赤褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 8 灰色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |

ピット 1か所。深さが22cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。

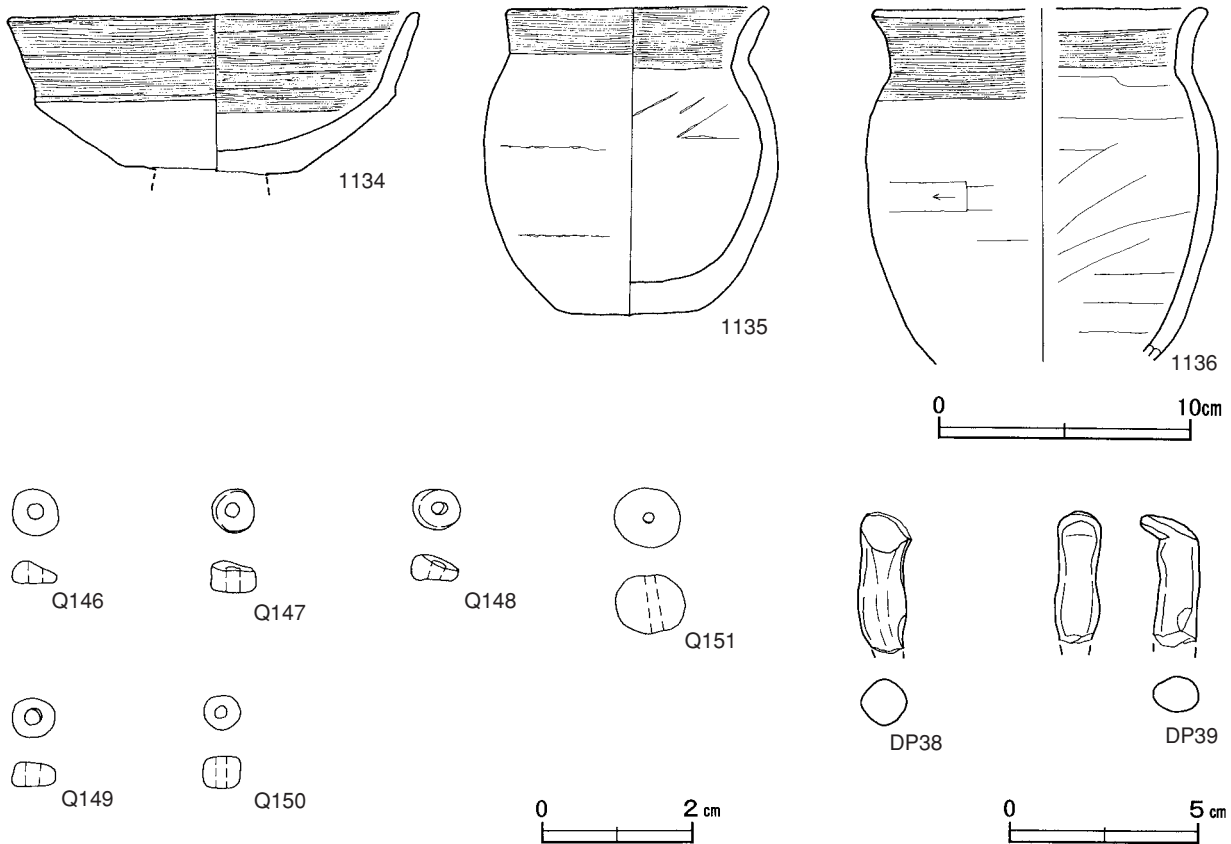
覆土 6層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片232点（坏18, 高坏16, 甕198）、土製品2点（不明）、石製品6点（白玉5, 小玉1）が出土している。1134・1135・1136は逆位で支脚の上に置かれた状態で出土している。Q149・Q150が中央部と北壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 廃絶時期は、1134から6世紀後半と考えられる。1134・1135・1136は煮炊き具を置くための高さを調整した土器と考えられる。



第94図 第213号住居跡出土遺物実測図

第213号住居跡出土遺物観察表（第94図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|--------|-----|---------------|-----|----|--|-------|-------------|
| 1134 | 土師器 | 高坏 | 16.0 | (6.3) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 赤褐 | 普通 | 坏部口縁内・外面横ナデ，外面ナデ | 竈燃焼部内 | 50% |
| 1135 | 土師器 | 甕 | 9.9 | 12.2 | 5.4 | 石英・長石・黒色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，輪積み痕残存，内面ナデ・ヘラナデ | 竈燃焼部内 | 70% PL99 |
| 1136 | 土師器 | 甕 | [13.0] | (14.0) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 竈燃焼部内 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|----|----|------|------|-------|
| DP38 | 不明土製品 | (3.7) | (1.3) | (1.2) | (5.1) | 石英・長石・雲母 | 明褐 | 普通 | 外面ナデ | 覆土中 | PL101 |
| DP39 | 不明土製品 | (3.4) | (1.3) | (1.0) | (4.3) | 石英・長石・雲母 | 明褐 | 普通 | 外面ナデ | 覆土中 | PL101 |

| 番号 | 器種 | 径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|-----|----|------|------|----|
| Q146 | 白玉 | 0.6 | 0.3 | 0.1 | 頁岩 | 側面研磨 | 覆土中 | |
| Q147 | 白玉 | 0.6 | 0.4 | 0.2 | 頁岩 | 側面研磨 | 覆土中 | |
| Q148 | 白玉 | 0.6 | 0.4 | 0.1 | 頁岩 | 側面研磨 | 覆土中 | |
| Q149 | 白玉 | 0.5 | 0.6 | 0.1 | 頁岩 | 側面研磨 | 床面 | |
| Q150 | 白玉 | 0.5 | 0.5 | 0.2 | 頁岩 | 側面研磨 | 床面 | |
| Q151 | 小玉 | 0.8 | 0.4 | 0.5 | 頁岩 | 全面研磨 | 覆土中 | |

第218号住居跡（第95～98図）

位置 西部1区南部のC2j9区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第30号方形竪穴遺構とピット（5か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.95m，短軸4.92mの方形で，主軸方向はN-82°-Eである。壁高は4～21cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が確認された壁下を巡っている。

竈 東壁の中央部に付設されている。焚き口から煙道部までが79cm，袖部幅が95cm，火床部幅が40cmである。火床部は地山を皿状に10～18cm掘りくぼめ，ロームブロックを含んだ暗褐色土で埋め戻して構築されており，袖部も埋土の上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は焼土粒子・炭化粒子が見られるだけである。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐 色 | 焼土粒子多量，粘土粒子少量 |
| 2 暗褐 色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 7 褐灰 色 | 粘土ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗褐 色 | 炭化粒子少量 | 8 灰 色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 4 褐灰 色 | 粘土ブロック中量，焼土粒子少量 | 9 暗褐 色 | ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐 色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さが28～47cmで，規模と位置から主柱穴と考えられる。P5は深さが8cmで，南壁際の中央部で馬蹄形の高まりに囲まれており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積と考えられる。

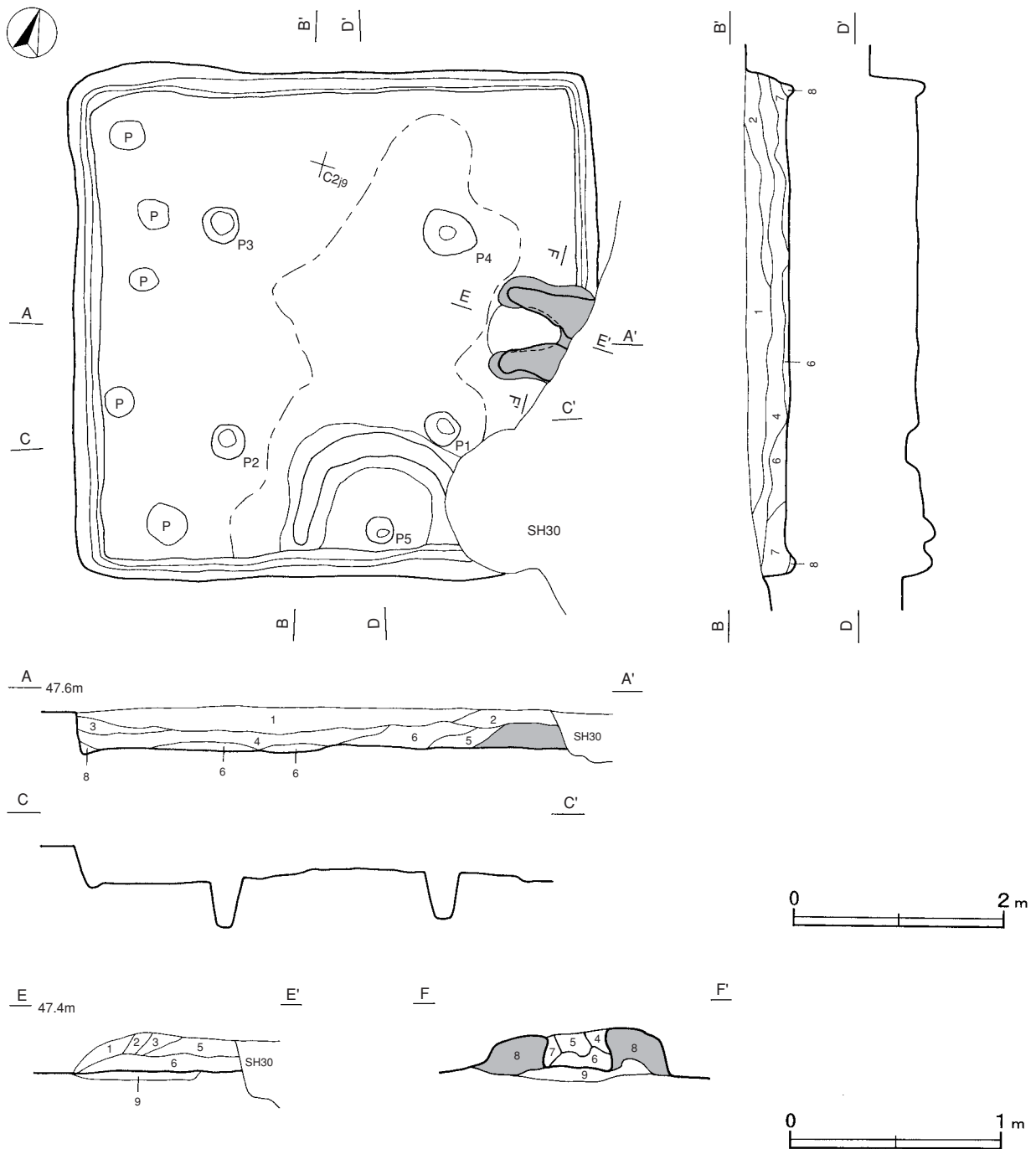
土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐 色 | ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐 色 | ロームブロック少量，炭化粒子少量 |
| 2 黒褐 色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

5 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
 6 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子中量

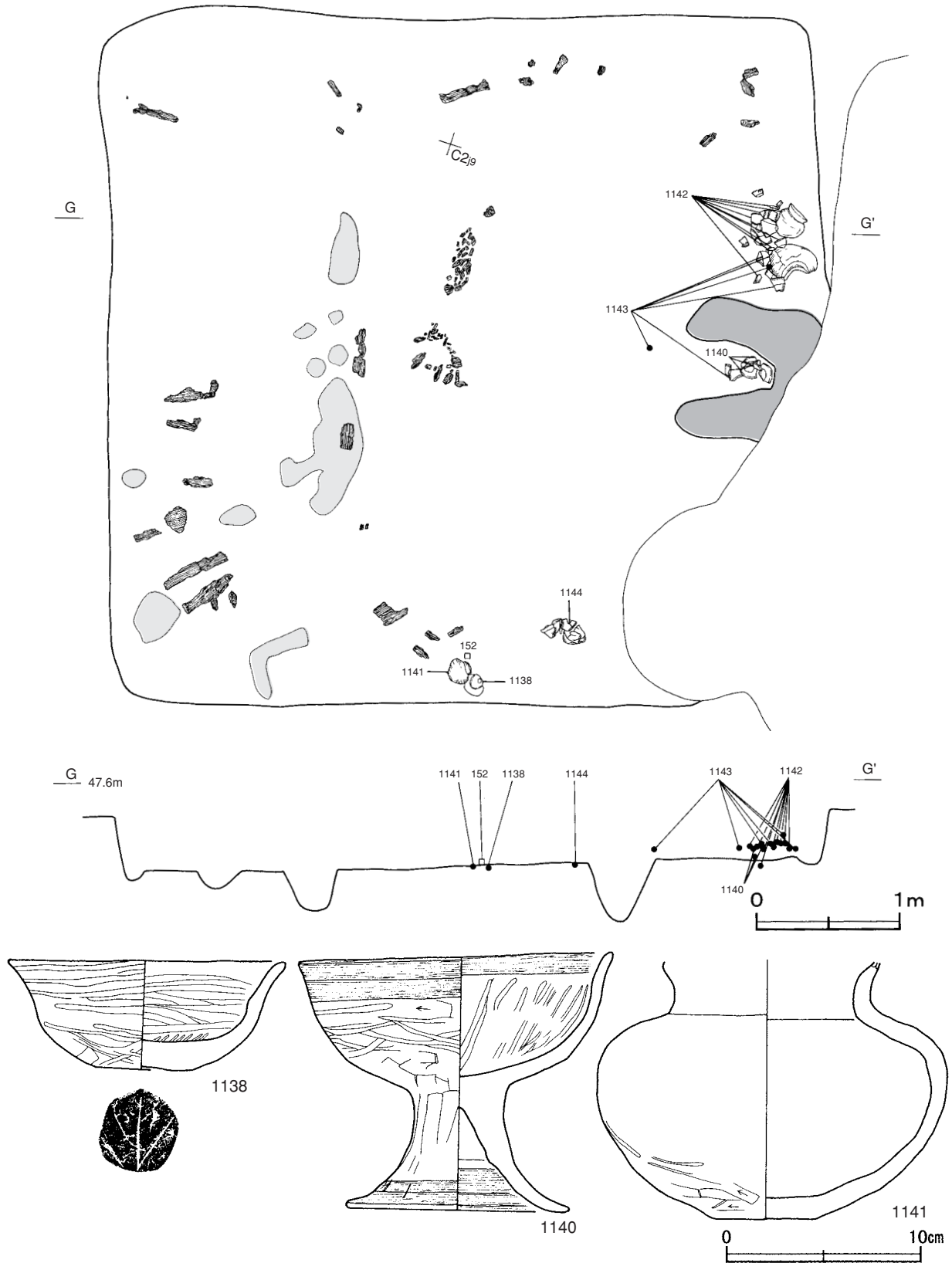
7 褐 色 ローム粒子多量
 8 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片774点(坏197, 高坏18, 椀8, 甕538, 甑13), 土製品2点(支脚), 石製品1点(勾玉)が出土している。土器片は中央部より壁際に多く出土している。1140は竈の火床部に置かれた状態で出土しているが, 火熱による赤変はみられない。1142・1143は竈左袖部の脇の床面から並んで出土している。南壁際から1138が逆位で, 1141は横位で, 1144は潰れた状態でそれぞれ床面から出土している。Q152は1138・1141の側の床面から出土している。これらは廃絶時に遺棄されたと考えられる。また, 炭化材が壁際の床面から多量に出土している。

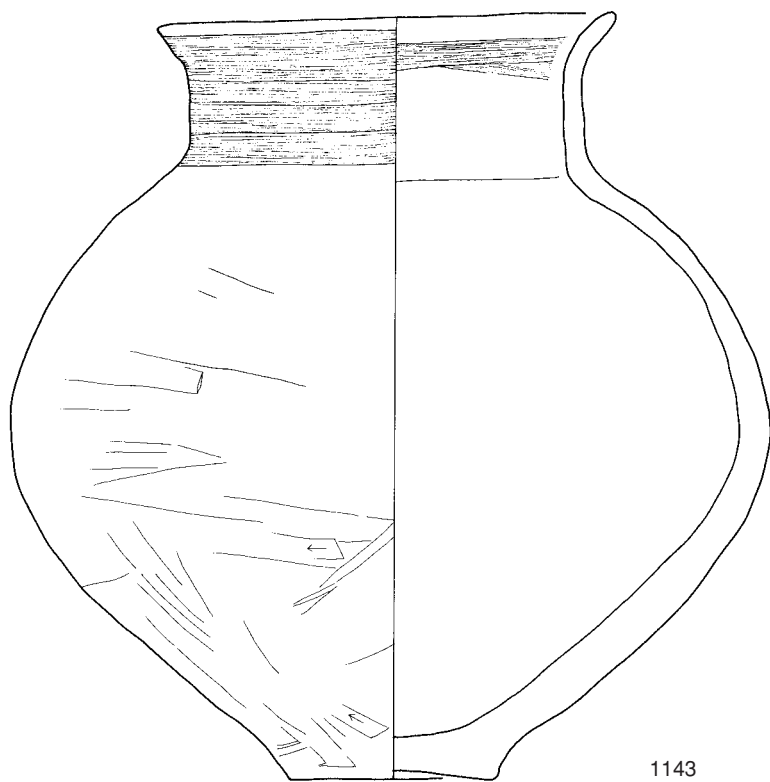


第95図 第218号住居跡実測図

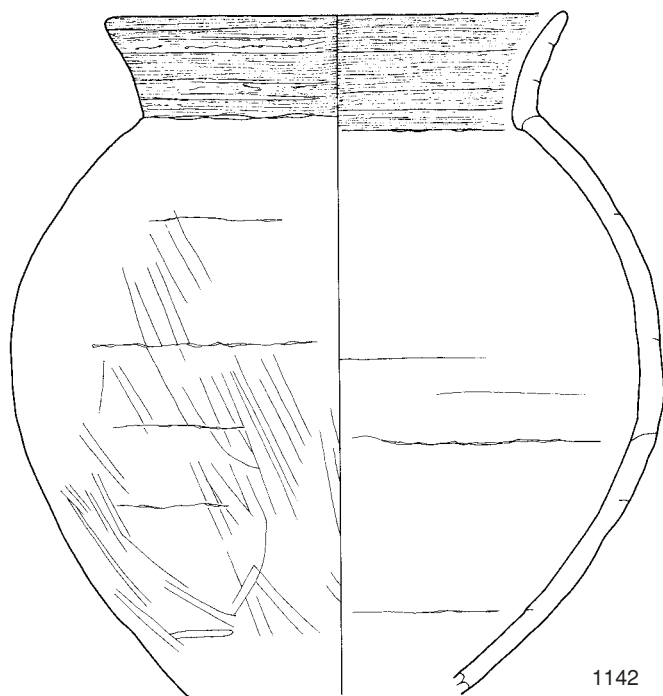
所見 遺棄された土器群から廃絶時期は、6世紀前半と考えられる。炭化材が出土していることや床面が焼けていることから焼失住居と考えられ、遺棄された土器群の出土状況から廃絶時に火をつけた可能性が高い。



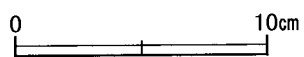
第96図 第218号住居跡・出土遺物実測図



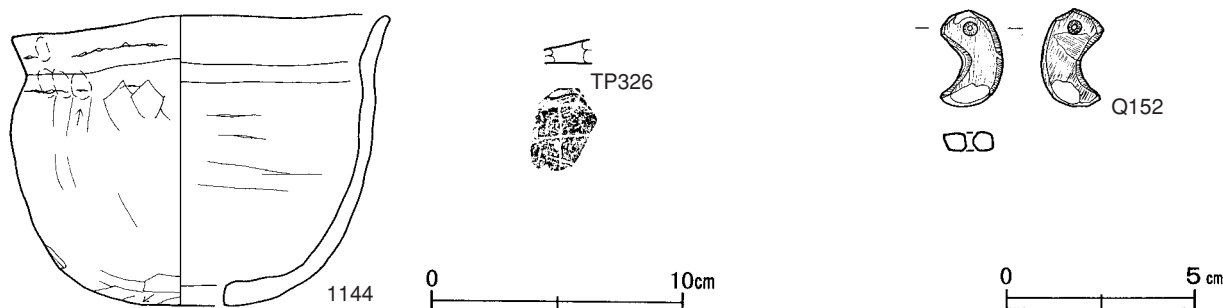
1143



1142



第97図 第218号住居跡出土遺物実測図（1）



第98図 第218号住居跡出土遺物実測図(2)

第218号住居跡出土遺物観察表(第96~98図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|------|--------|------|---------------|-------|----|---|------|--------------|
| 1138 | 土師器 | 坏 | 13.3 | 5.7 | 4.8 | 石英・雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ, 内面ナデ・横方向のヘラミガキ, 底部木葉痕 | 床面 | 90% PL99 |
| 1140 | 土師器 | 高坏 | 15.8 | 13.4 | 11.1 | 石英・長石・雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 坏部口縁内・外面横ナデ, 外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ, 内面ナデ・放射状のヘラミガキ, 脚部外面ヘラケズリ後ナデ, 裾部内外面横ナデ | 竈火床面 | 90% PL100 |
| 1141 | 土師器 | 壺 | — | (13.2) | 5.0 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | 床面 | 90% PL100 |
| 1142 | 土師器 | 甕 | 18.1 | (26.9) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 外面輪積み痕残存, 体部外面ヘラケズリ後ヘラナデ・輪積み痕残存, 内面ナデ・輪積み痕残存 | 床面 | 70% PL100 |
| 1143 | 土師器 | 甕 | 17.8 | 30.4 | 8.0 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ | 床面 | 80% PL100 |
| 1144 | 土師器 | 甗 | 14.8 | 11.5 | 4.0 | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面指頭押圧ぎみの横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 輪積み痕残存, 内面ナデ・ヘラナデ | 床面 | 90% PL100 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|----|-------|----|-----------------|------|----|
| TP326 | 土師器 | — | 長石 | にぶい褐色 | 普通 | 底部カ, 外面「+」のヘラ書き | 覆土中 | 5% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|------|-----|----|---------------------|------|-------|
| Q152 | 勾玉 | 2.5 | 1.6 | 0.49 | 3.0 | 頁岩 | 孔径0.2cm, 全面研磨, 一部剥離 | 床面 | PL101 |

第237号住居跡(第99図)

位置 西部1区南部のD3b4区で, 平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2765号土坑と第58号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸は4.32mが確認され, 短軸4.03mの方形で, 主軸方向はN-5°-Wである。壁高は9cmで, 外傾して立ち上がっている。

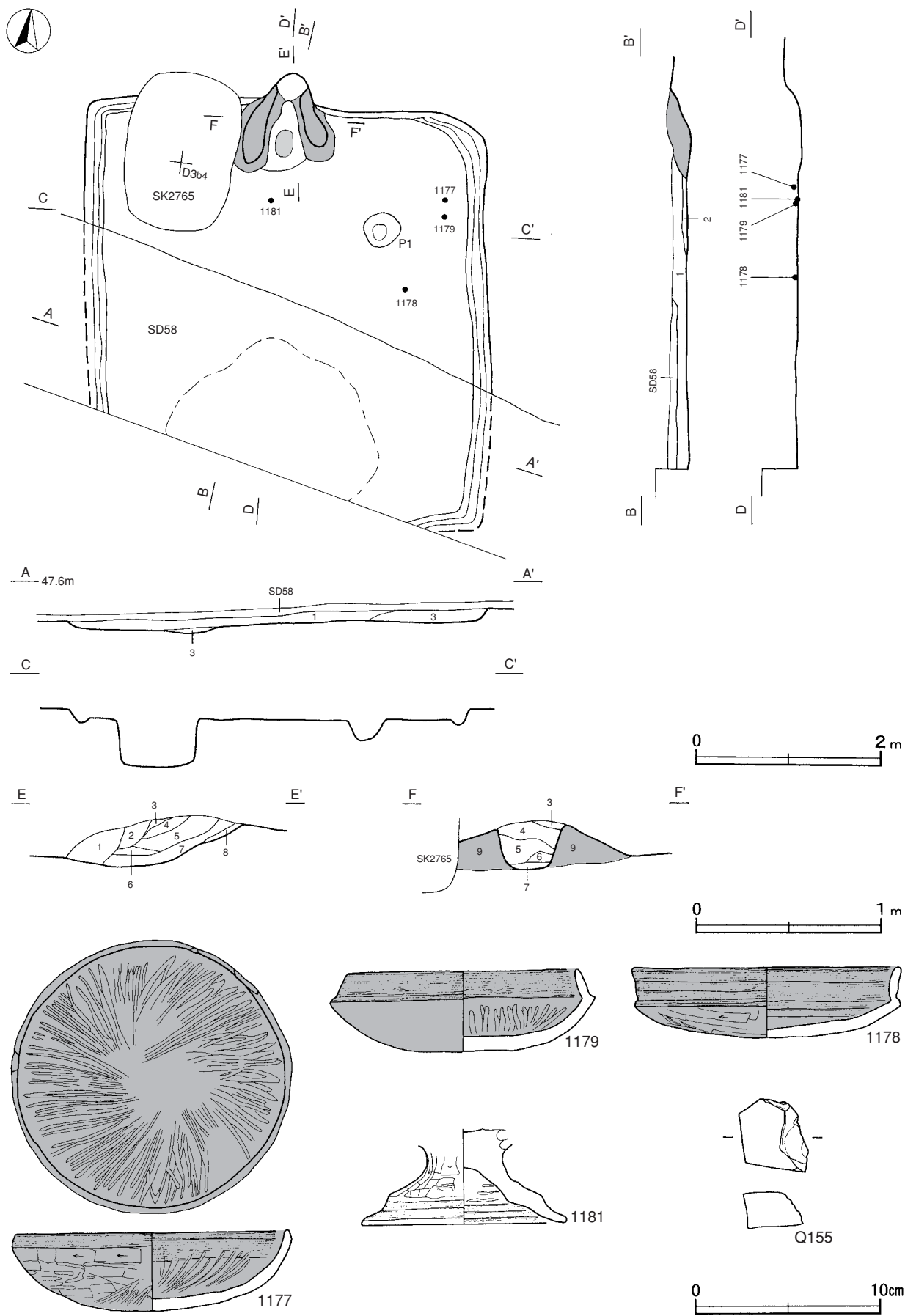
床 ほぼ平坦で, 南壁寄りの中央部が踏み固められている。断面U字状の壁溝が確認された壁下を巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部までが104cm, 袖部幅は90cmだけ確認され, 火床部幅は53cmである。袖部は床面上に砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さで, 火熱で赤変している。

煙道部は壁外へ32cm掘り込まれており, 緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |



第99图 第237号住居跡・出土遺物実測図

- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 6 灰褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子少量
 7 暗暗色 焼土粒子・炭化粒子微量
 8 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量
 9 褐灰色 ロームブロック・焼土ブロック中量

ピット 1か所。深さが22cmで、位置と規模から支柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片105点（坏41，高坏1，甕63），頁岩の剥片1点が出土している。土器片は全域に散在している。1181は竈前方の床面から出土している。1177・1178・1179は東壁際の床面から出土している。これらは廃絶時に遺棄されたと考えられる。また、その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 遺棄された土器群から廃絶時期は、7世紀前半と考えられる。頁岩の原石は石製模造品の石材であり、本跡から未製品や剥片が多量に出土していないことから、周辺に工房跡がある可能性が考えられる。

第237号住居跡出土遺物観察表（第99図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|------|-------|--------|------------|-------|----|--|------|-------------|
| 1177 | 土師器 | 坏 | 14.6 | 4.3 | — | 雲母・白色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ・ヘラミガキ，内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 床面 | 99% PL99 |
| 1178 | 土師器 | 坏 | 14.2 | 3.8 | — | 石英・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ | 床面 | 80% PL99 |
| 1179 | 土師器 | 坏 | 12.4 | 4.4 | 5.5 | 雲母・白色粒子 | 灰黄 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 床面 | 95% PL99 |
| 1181 | 土師器 | 高坏 | — | (5.1) | (10.8) | 白色粒子 | 灰 | 普通 | 脚部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ヘラナデ，裾部内面横ナデ | 床面 | 40% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|-----|-----|-----|----|-------|------|----|
| Q155 | 剥片 | 4.0 | 3.7 | 2.0 | 3.6 | 頁岩 | 剥離面あり | 覆土中 | |

表4 古墳時代住居跡一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模(m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内部施設 | | | | | | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|-----|------|---------|------|------------------|------------|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|----|-------------------|------------|
| | | | | | | | 壁溝 | 支柱穴 | 出入口 | ピット | 炉・竈 | 貯蔵穴 | | | |
| 101 | B2h2 | N-26°-W | 方形 | 3.97 × 3.85 | 26~31 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | — | 竈 | — | 自然 | 土師器，手捏土器，敲石，砥石，銅鏡 | 7世紀前半 |
| 102 | B2a1 | N-47°-E | 方形 | 5.09 × 5.00 | 18~26 | 平坦 | 一部 | 4 | 1 | — | 竈 | 1 | 自然 | 土師器，砥石 | 5世紀末~6世紀前半 |
| 104 | B2b3 | N-16°-W | [方形] | 5.98 × (5.25) | 45 | 平坦 | [全周] | 3 | 1 | — | — | — | 人為 | 土師器，須恵器，砥石 | 7世紀前半 |
| 106 | B2c4 | N-18°-W | [方形] | (3.65 × 1.70) | 35 | 平坦 | (一部) | 1 | — | — | — | — | 人為 | 土師器 | 7世紀前半 |
| 107 | B2f3 | N-34°-W | 方形 | 5.70 × 5.52 | 13 | 平坦 | ほぼ全周 | 4 | — | 1 | 炉 | 1 | 人為 | 土師器，剣形カ，不明鉄製品 | 4世紀末~5世紀初頭 |
| 108 | B1d0 | N-2°-E | 長方形 | 4.25 × 3.31 | 17~33 | 平坦 | 一部 | 4 | — | — | — | — | 人為 | 土師器，手捏土器，白玉 | 5世紀後半 |
| 109 | B1e0 | N-25°-W | 方形 | 4.09 × 3.75 | 12~18 | 平坦 | 一部 | — | — | — | — | — | 不明 | 土師器，土製品 | 7世紀後半 |
| 110 | C2a1 | N-8°-W | 方形 | 6.30 × 5.81 | 5~13 | 平坦 | 一部 | 4 | 1 | — | 炉4 | 1 | 人為 | 土師器，敲石 | 5世紀後半 |
| 114 | C2f1 | N-53°-W | 方形 | 5.06 × 5.03 | 10~24 | 平坦 | [全周] | 4 | 1 | — | 炉・竈 | 1 | 人為 | 土師器，須恵器，砥石 | 5世紀後半 |
| 117 | C2c3 | N-19°-W | 方形 | 6.50 × 6.37 | — | 平坦 | [全周] | 4 | — | — | 竈 | — | — | 土師器 | 7世紀前半 |
| 125 | B2h3 | N-0°-W | [方形] | 6.00 × 6.00 | 10~20 | 平坦 | [全周] | 4 | 1 | — | — | — | 自然 | 土師器 | 6世紀後半 |
| 128 | B2h1 | N-12°-W | 方形 | 5.45 × 5.08 | 15~26 | 平坦 | 一部 | 4 | 1 | — | 炉3 | 1 | 人為 | 土師器，手捏土器，不明鉄製品 | 5世紀後半 |
| 137 | C2b1 | — | [方形] | — | — | — | — | 2 | — | — | 炉2 | — | — | | 古墳時代 |
| 150 | C2b7 | N-10°-W | 方形 | 8.45 × 8.21 | 6~12 | 平坦 | [全周] | 4 | 1 | — | 竈 | 1 | 不明 | 土師器，砥石，土製品 | 7世紀前半 |

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内 部 施 設 | | | | | | 覆土 | 出 土 遺 物 | 備 考 (時 期) |
|-----|------|---------|------|-------------------|------------|----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|----|------------------------------------|--------------|
| | | | | | | | 壁溝 | 主柱穴 | 出入口 | ピット | 炉・竈 | 貯蔵穴 | | | |
| 155 | C3b1 | N-70°-E | 方形 | 3.55 × 3.52 | 13 | 平坦 | 一部 | - | - | 3 | 竈 | 1 | 人為 | 土師器, 砥石, 土製品 | 6世紀前半 |
| 162 | C2b7 | N-9°-W | [方形] | [4.38 × 4.25] | 7 | 平坦 | [全周] | 3 | 1 | 1 | - | - | 不明 | 土師器 | 古墳時代 |
| 164 | C3b3 | N-13°-W | 方形 | 4.54 × 4.35 | 4~13 | 平坦 | - | 4 | 1 | - | 炉 | 2 | 不明 | 土師器, 弥生土器 | 4世紀前半 |
| 169 | C3c4 | N-5°-E | 方形 | 6.23 × 5.65 | 10~25 | 平坦 | [全周] | 4 | 3 | 5 | 竈 | - | 人為 | 土師器, 弥生土器, 砥石 | 7世紀後半 |
| 172 | C2g7 | N-21°-W | 方形 | 8.18 × 7.42 | 28~32 | 平坦 | [全周] | 3 | 1 | 3 | 炉・竈 | 1 | 自然 | 土師器, 手捏土器, ガラス製品, 石製模造品 | 5世紀後半以前 |
| 173 | B3j4 | N-21°-W | 方形 | 4.70 × 4.70 | - | 平坦 | [全周] | - | 1 | 70 | 炉 | 1 | - | 土師器 | 5世紀末~6世紀前半 |
| 178 | C2d8 | N-0° | 方形 | 8.54 × 8.24 | 8~13 | 平坦 | [全周] | 4 | 3 | - | - | - | - | 土師器, 土製品 | 7世紀前半 |
| 184 | C3e5 | N-5°-W | - | 5.26 × - | 6 | 平坦 | [全周] | 4 | 1 | - | 炉 | 2 | - | 土師器 | 5世紀末~6世紀前半 |
| 187 | C3f5 | - | - | - | - | 平坦 | - | 3 | 1 | - | 竈 | - | - | 土師器 | 7世紀後半 |
| 194 | C3c1 | N-21°-W | [方形] | [5.83] × 5.40 | 16~20 | 平坦 | 一部 | 4 | 1 | - | 竈 | - | 自然 | 土師器 | 5世紀後半~6世紀前半 |
| 201 | C2e6 | N-12°-W | [方形] | 6.98 × (2.21) | 25 | 平坦 | 一部 | 1 | - | - | - | - | 自然 | 土師器 | 7世紀前半 |
| 202 | C3f2 | N-19°-W | 長方形 | 7.99 × 6.30 | 8~18 | 平坦 | [全周] | 4 | 1 | - | 炉4 | 1 | 不明 | 土師器, 砥石 | 5世紀後半 |
| 203 | C3d4 | N-5°-E | 方形 | 5.07 × 4.98 | 7 | 平坦 | ほぼ全周 | 4 | 1 | - | 竈 | - | - | 土師器, 土製品 | 7世紀後半 |
| 205 | C2h7 | N-46°-W | 方形 | 5.45 × 5.15 | 30~47 | 平坦 | [全周] | 4 | 1 | - | 竈 | - | 自然 | 土師器, 須恵器, 支脚, 紡錘車, 勾玉, 小玉, 鉄鎌刀, 刀子 | 7世紀後半 |
| 209 | C3j3 | N-11°-W | 長方形 | 4.03 × 3.22 | 29~34 | 平坦 | ほぼ全周 | - | 1 | - | 竈 | 1 | 自然 | 土師器 | 7世紀前半 |
| 213 | C2c9 | N-75°-E | [方形] | 5.45 × 5.42 | 9 | 平坦 | 一部 | 1 | - | - | 竈 | - | 人為 | 土師器, 土製品, 白玉, 小玉 | 6世紀後半 |
| 218 | C2j9 | N-82°-E | 方形 | 4.95 × 4.92 | 4~21 | 平坦 | [全周] | 4 | 1 | - | 竈 | - | 自然 | 土師器, 支脚, 勾玉 | 6世紀前半 |
| 237 | D3b4 | N-5°-W | 方形 | 4.32 × 4.03 | 9 | 平坦 | [全周] | 1 | - | - | 竈 | - | 自然 | 土師器 | 7世紀前半 |

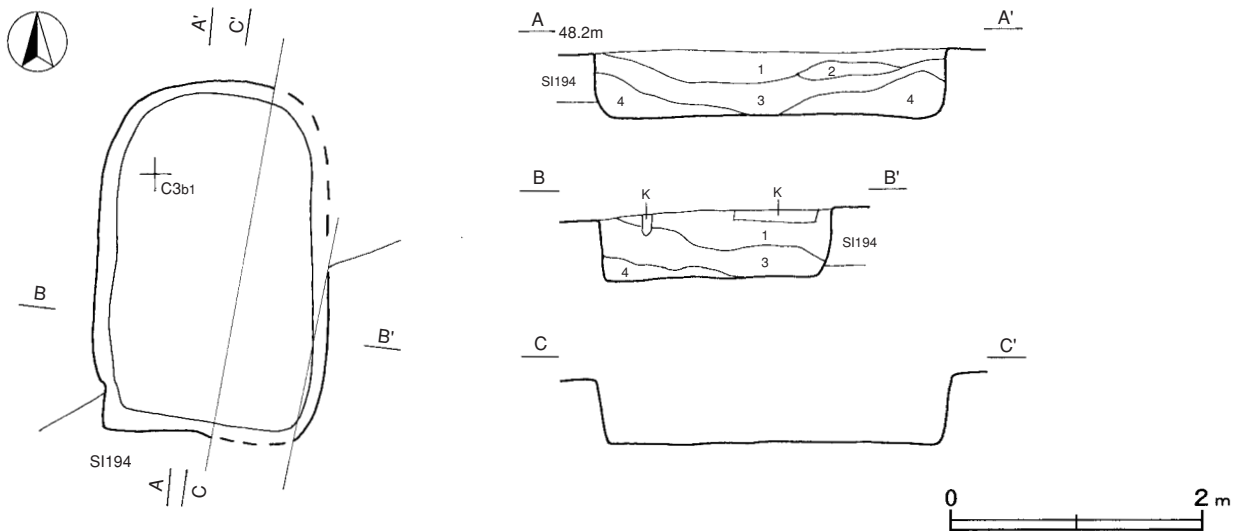
(2) 方形竪穴遺構

第20号方形竪穴遺構 (SI165) (第100図)

位置 西部1区北部のC3b1区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第194号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.81m, 短軸1.84mの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は51~55cmで、外傾して立ち上がっている。



第100図 第20号方形竪穴遺構実測図

床 ほぼ平坦で、軟弱である。

覆土 4層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片81点(坏23, 高坏3, 甕55), 石製品1点(砥石)が覆土中から出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。また、その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 当遺跡で古墳時代と特定できる方形竪穴遺構と形状が同じであり、本跡も古墳時代と考えられる。南西6mの位置に主軸方向をほぼ同じくする第178号住居跡があり、本跡は住居に付属する施設と考えられる。

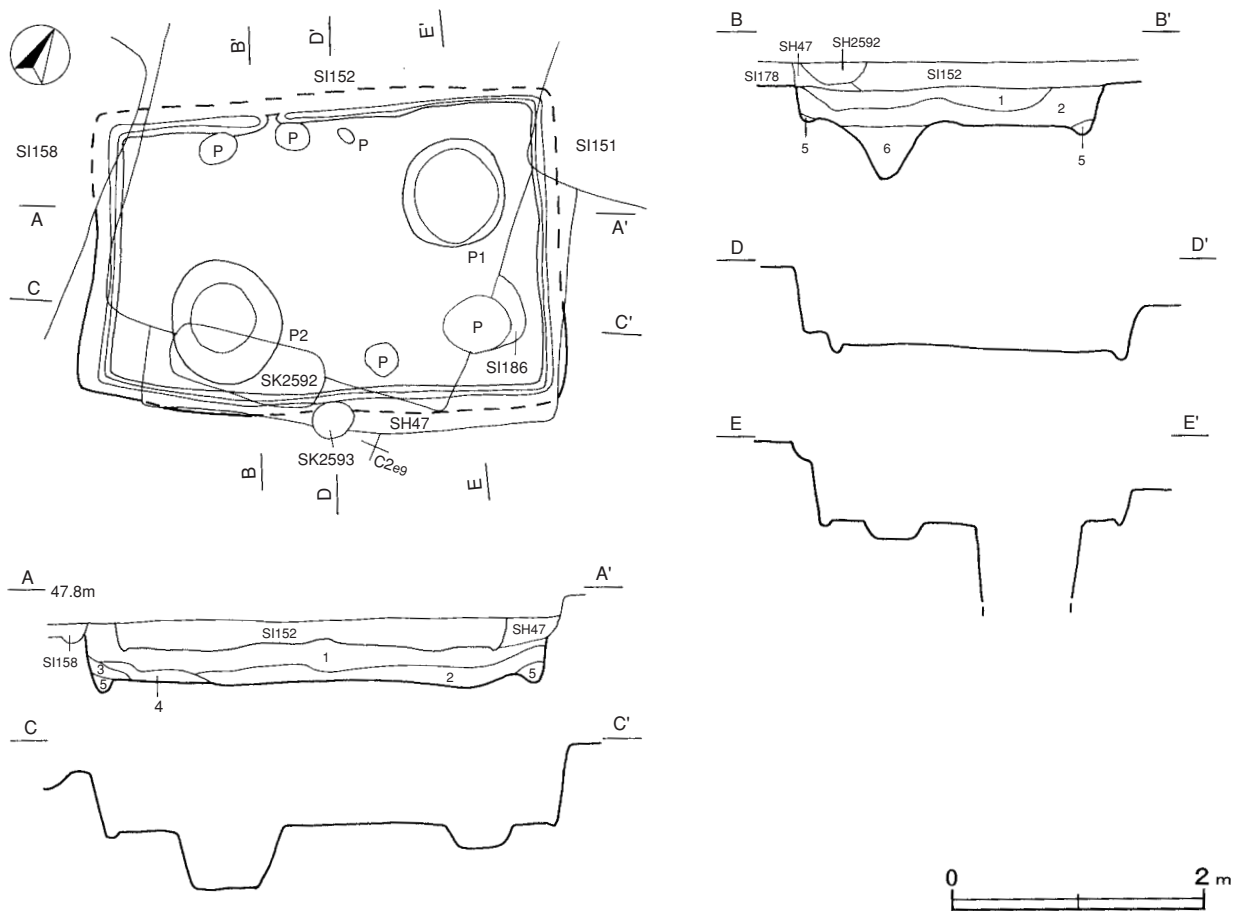
第21号方形竪穴遺構 (SI170) (第101図)

位置 西部1区中央部のC2d8区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第178号住居跡を掘り込み、第151・152・158・186号住居と第47号方形竪穴遺構と第2592・2593号土坑とピット(5か所)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.85m, 短軸2.53mの長方形と考えられ、主軸方向はN-66°-Eである。壁高は22~62cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、軟弱である。



第101図 第21号方形竪穴遺構実測図

ピット 2か所。P 1は湧水のため深さは不明である。P 2は深さが50cmで、これらの性格は不明である。

覆土 6層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片150点(坏19, 高坏2, 甕128, 甑1)が出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。また、その他に混入した弥生土器片が出土している。

所見 当遺跡で古墳時代と特定できる方形竪穴遺構と形状が同じであり、本跡も古墳時代と考えられる。北西5mの位置に主軸方向をほぼ同じくする第150号住居跡があることから、本跡は住居に付属する施設と考えられる。

第22号方形竪穴遺構 (SI188) (第102図)

位置 西部1区中央部のC 3 f5区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第187号住居跡を掘り込み、第14号掘立柱建物に掘り込まれている。

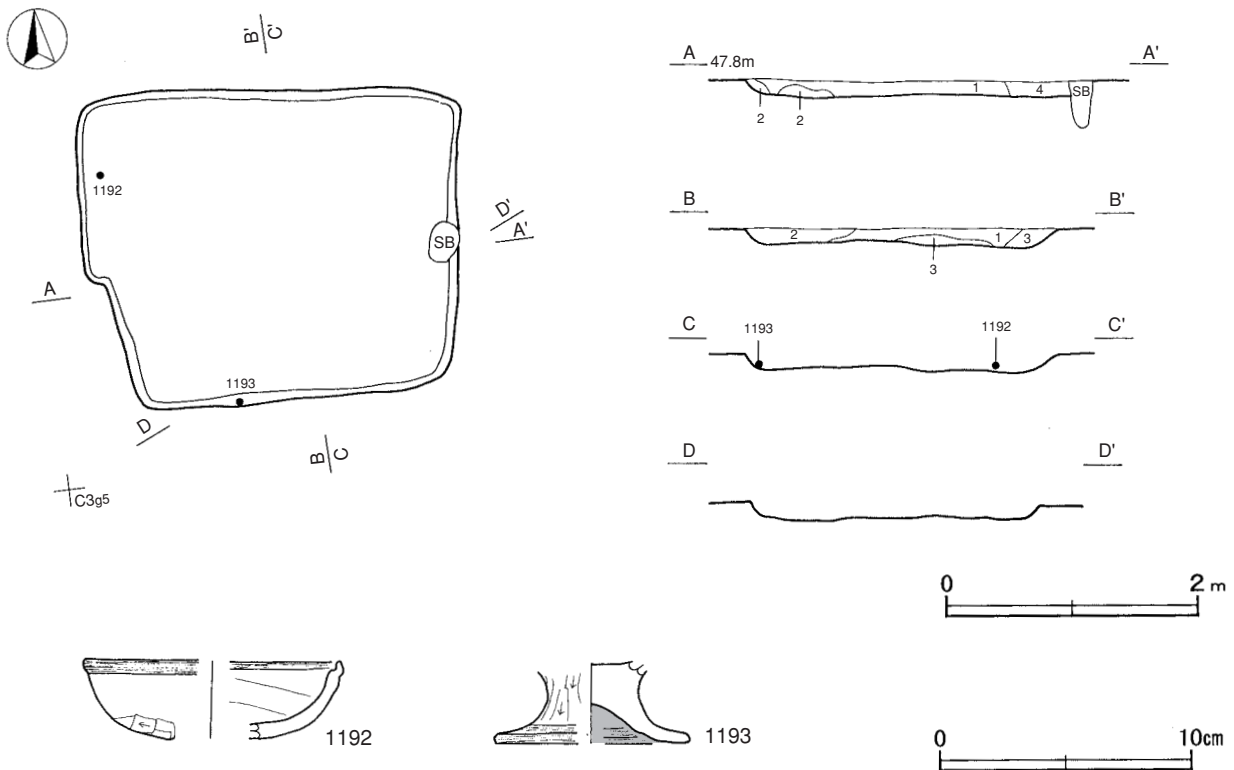
規模と形状 長軸2.96m、短軸2.50mの長方形で、主軸方向はN-84°-Wと考えられる。壁高は12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、軟弱である。

覆土 4層に分層される。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

| | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 黒色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |



第102図 第22号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片111点（坏36，高坏1，甕74）が出土している。土器片は全域に散在している。1192は西壁の，1193は南壁際の床面から出土している。

所見 廃絶時期は，1192・1193から7世紀後半と考えられる。北西6.4mの位置に主軸方向と廃絶時期がほぼ同じ第169・203号住居跡があり，本跡は住居に付属する施設と考えられる。

第22号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第102図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|-------|-------|----|----|--|------|-----|
| 1192 | 土師器 | 坏 | [10.0] | (3.1) | — | 石英・長石 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，口唇部にナデによる沈線，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ | 床面 | 10% |
| 1193 | 土師器 | 高坏 | — | (3.2) | [7.6] | 雲母 | 浅黄 | 普通 | 脚部外面ヘラケズリ後ナデ，裾部内・外面横ナデ | 床面 | 20% |

第23号方形竪穴遺構（SI191）（第103図）

位置 西部2区北部のB1a8区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2105号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.27m，短軸1.98mの長方形で，主軸方向はN-6°-Eと考えられる。壁高は7cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，軟弱である。

覆土 3層に分層される。堆積状況は不明である。

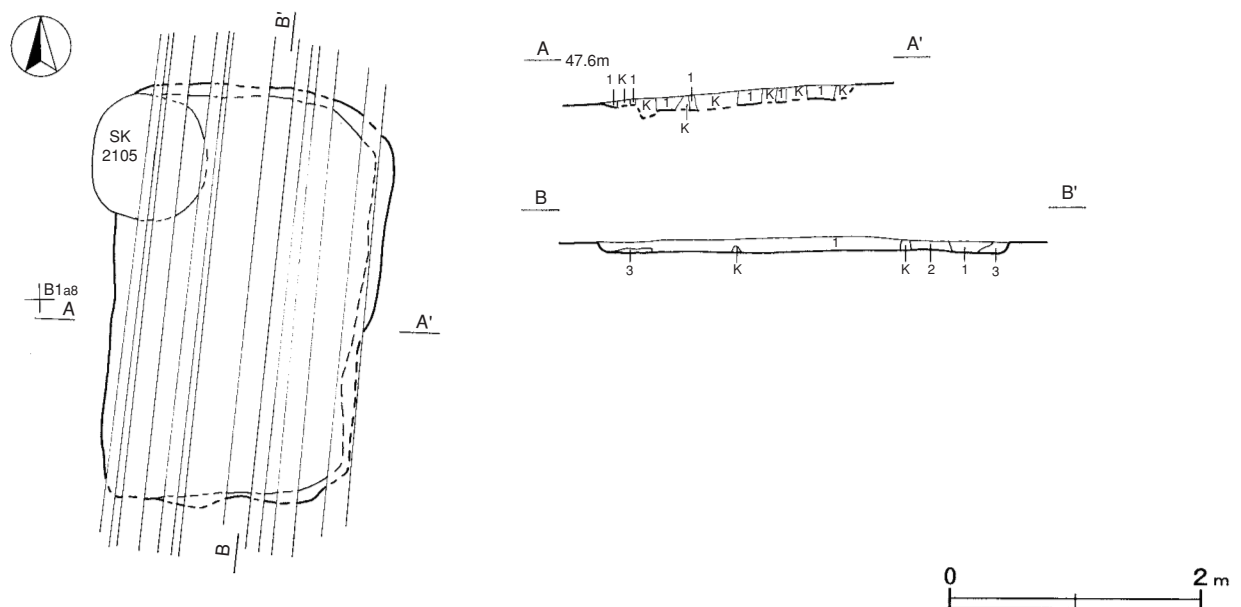
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

- 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片38点（坏16，埴1，甕21）が覆土中から出土しているが，いずれも細片で図示できるものはない。

所見 当遺跡で古墳時代と特定できる方形竪穴遺構と形状が同じであり，本跡も古墳時代と考えられる。5世



第103図 第23号方形竪穴遺構実測図

紀後半である第108・110・143号住居跡が南東の位置にあり、それらと主軸方向をほぼ同じくすることから、本跡は住居に付属する施設と考えられる。

第24号方形竪穴遺構 (SI197) (第104図)

位置 西部2区中央部のC 3 e3区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2493号土坑とピット (7か所) に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.79m、短軸1.95mの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は8~11cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、部分的に踏み固められている。

ピット 4か所。P1~P4は深さが15~20cmで、位置と規模から壁柱穴と考えられる。

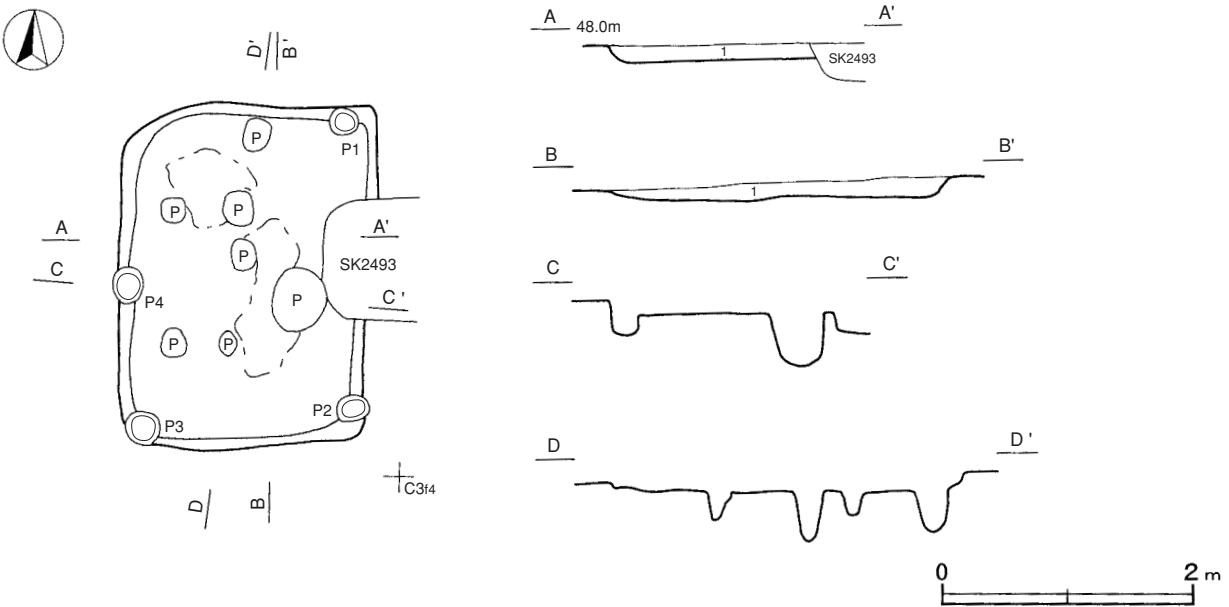
覆土 単一層である。堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片20点 (坏2, 甕18) が覆土中から出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。

所見 当遺跡で古墳時代と特定できる方形竪穴遺構と形状が同じである。北に5mの位置に第169・203号住居跡が、南東5.3mの位置に第22号方形竪穴遺構が、東に4.9mの位置に第184号住居跡があり、それらと主軸方向をほぼ同じくしていることから、本跡も古墳時代と考えられる。第169・203号住居跡と第184号住居跡のいずれに付属するか特定できないが、本跡は住居に付属する施設と考えられる。



第104図 第24号方形竪穴遺構実測図

第25号方形竪穴遺構 (SI200) (第105図)

位置 西部2区北部のC 3 f1区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第202号住居跡を掘り込み、第199号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.90m、短軸2.70mの方形で、主軸方向がN-90°-Eである。壁高は14~19cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、軟弱である。

ピット 11か所。P1~P11は深さが10~20cmであるが、性格は不明である。

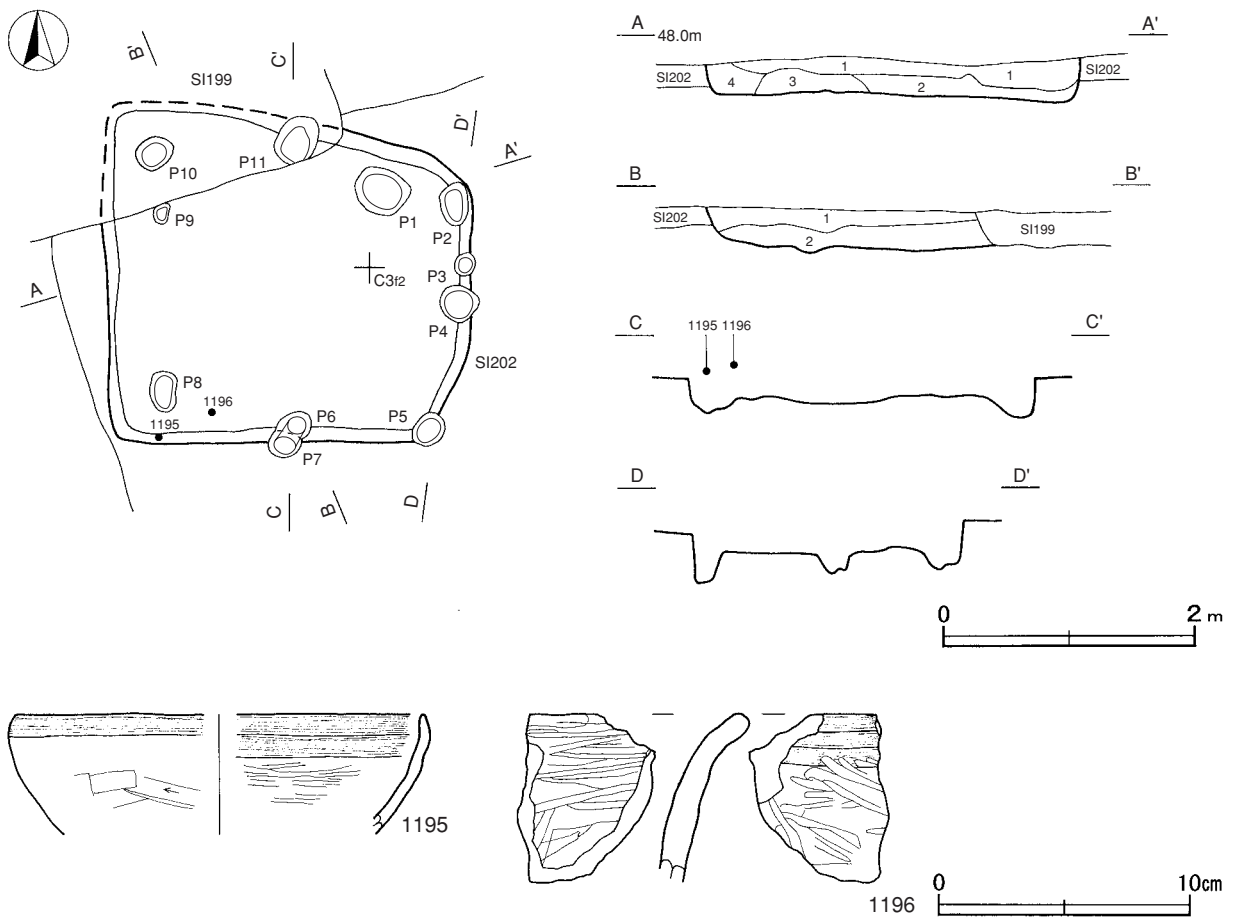
覆土 4層に分層される。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片152点（坏37、甕115）が覆土中から出土している。1195・1196は破断面が摩滅しており、廃絶後の流れ込みと考えられる。また、その他に混入した弥生土器片が出土している。

所見 当遺跡で古墳時代と特定できる方形竪穴遺構と形状が同じであり、本跡も古墳時代と考えられる。



第105図 第25号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第25号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第105図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|----|----------|------|----|---|------|-----|
| 1195 | 土師器 | 坏 | [16.2] | (4.7) | - | 石英・長石・雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ、体部外面ヘラケズリ後ナデ | 覆土上層 | 10% |
| 1196 | 土師器 | 甕カ | - | (6.7) | - | 雲母・白色粒子 | 灰褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後横方向のヘラミガキ、体部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ | 覆土上層 | 10% |

第26号方形竪穴遺構 (SI204) (第106図)

位置 西部1区中央部のC3g1区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第202号住居跡を掘り込み、第2523号土坑とピット(10か所)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.86m、短軸2.39mの長方形で、主軸方向はN-80°-Wである。壁高は4~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、軟弱である。

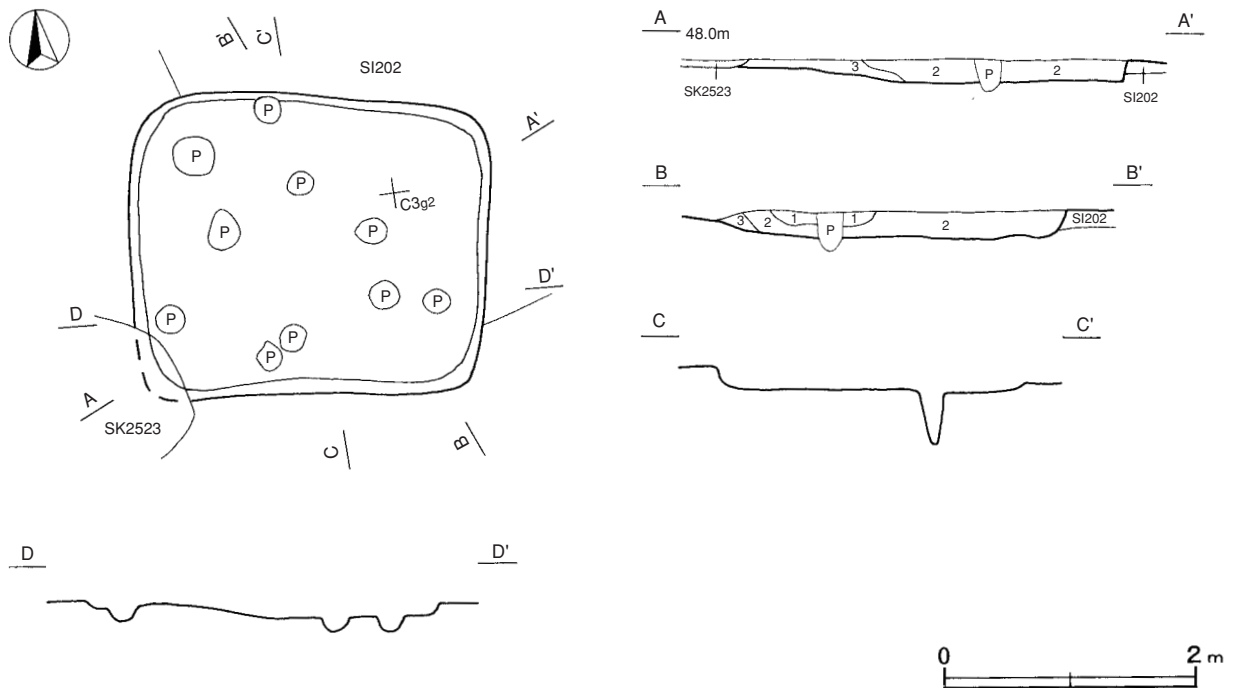
覆土 3層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片232点(坏43, 高坏3, 椀1, 甕182, 甌3)が覆土中から出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。また、その他に混入した縄文土器片, 弥生土器片, 陶器片が出土している。

所見 当遺跡で古墳時代と特定できる方形竪穴遺構と形状が同じであり、本跡も古墳時代と考えられる。



第106図 第26号方形竪穴遺構実測図

第27号方形竪穴遺構 (SI212) (第107図)

位置 西部2区中央部のC2c0区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第194・208号住居跡と第3584号土坑を掘り込み、第2542・2545号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.00m、短軸1.75mの長方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は50~63cmで、外傾して立ち上がっている。

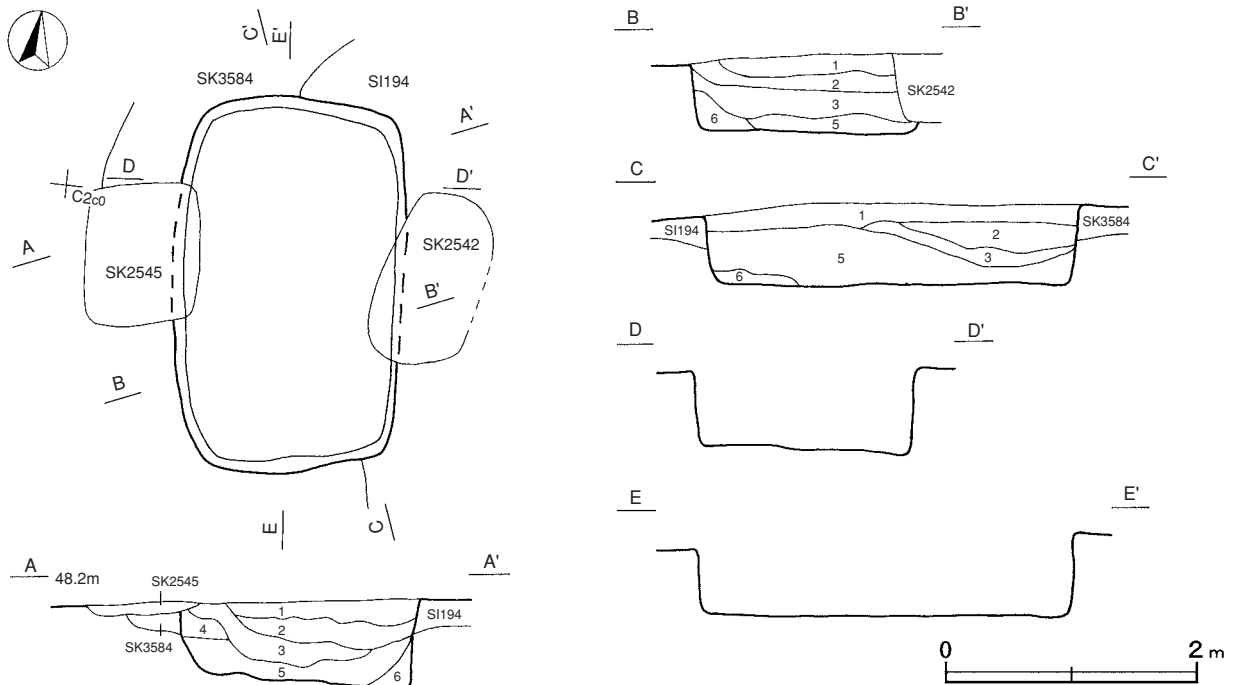
床 ほぼ平坦で、軟弱である。

覆土 6層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片343点（坏90, 高坏1, 椀2, 甕249, 甑1）が覆土中から出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。また、その他に混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。
所見 当遺跡で古墳時代と特定できる方形竪穴遺構と形状が同じであり、本跡も古墳時代と考えられる。西1.8mに第213号住居跡が位置しており、本跡は住居に付属する施設と考えられる。



第107図 第27号方形竪穴遺構実測図

第29号方形竪穴遺構 (SI225) (第108図)

位置 西部2区中央部のC3h3区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第207・217号住居と第2574・2615～2619・2635号土坑とピット（8か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.35m, 短軸2.60mの長方形で、主軸方向はN-71°-Eである。壁高が10～15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 部分的に踏み固められている。断面U字状の壁溝が確認された壁下を巡っている。

ピット 1か所。深さが50cmで、性格不明である。壁溝の小ピット18か所は、位置から壁柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

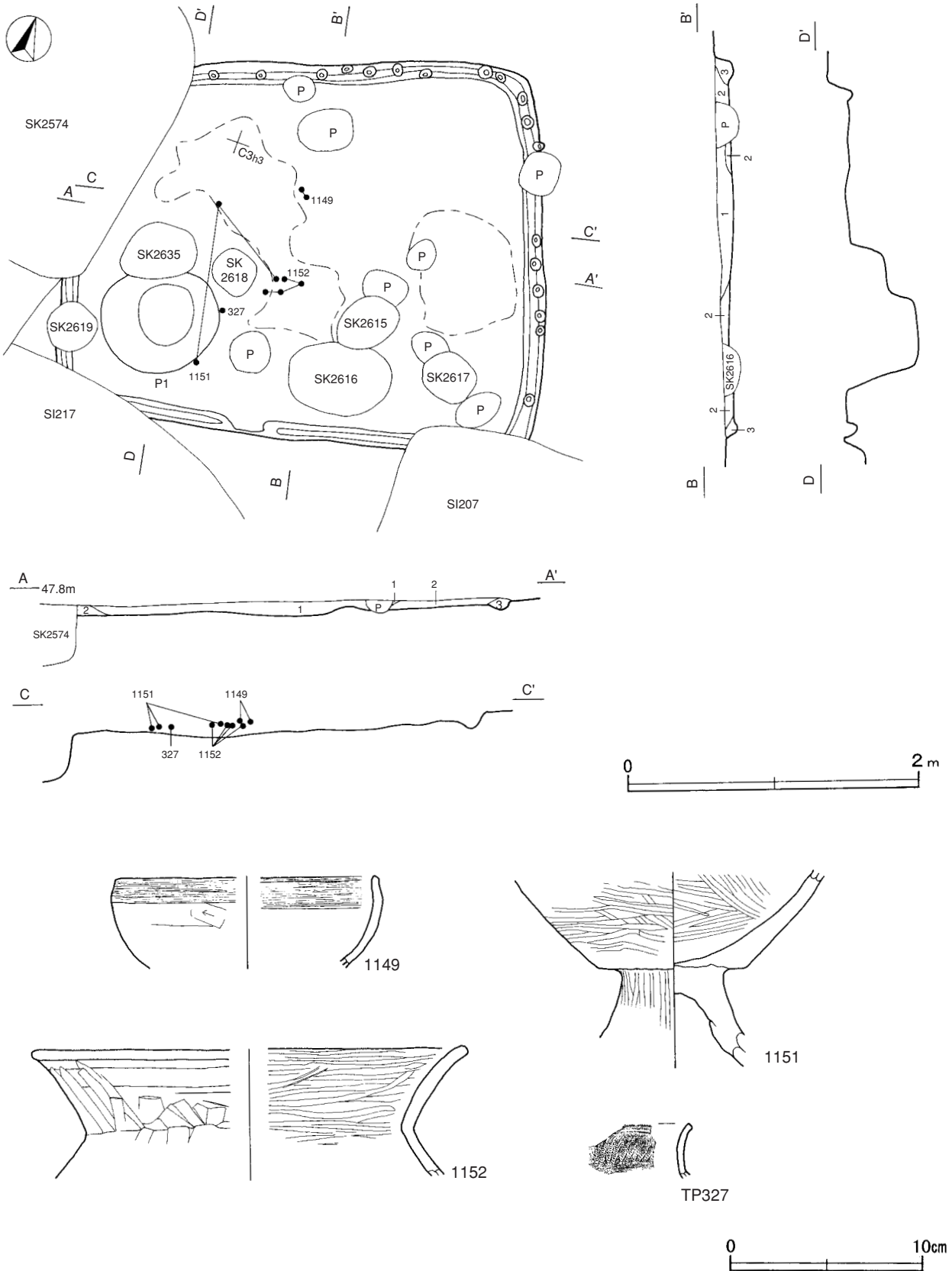
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片124点（坏40, 高坏6, 甕78）が出土している。1149・1151・1152・TP327は中央部の覆土下層から出土している。離れた位置の破片が接合していることから、廃絶後のくぼ地に廃棄されたと考

えられる。また、弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は、1149・1151から6世紀前半以前である。北3.3mに第202号住居跡があり、本跡は住居に付属する施設と考えられる。



第108図 第29号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第29号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第108図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|--------|----|--------------------|-------|----|--|------|-----|
| 1149 | 土師器 | 坏 | [13.6] | (4.7) | — | 石英・長石・雲母 | 赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラケズリ後ナデ，内面横ナデ | 覆土中層 | 10% |
| 1151 | 土師器 | 高坏 | — | (10.1) | — | 石英・長石・雲母・白色粒子・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 坏部外面ヘラケズリ後ナデ・横方向のヘラミガキ，内面ナデ・不定方向のヘラミガキ，脚部外面ナデ・縦方向のヘラミガキ，内面ナデ | 覆土下層 | 20% |
| 1152 | 土師器 | 甕 | [22.4] | (6.6) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後ヘラナデ | 覆土中層 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|------------|----|----|----------------|------|----|
| TP327 | 須恵器 | カ | 石英・長石・赤色粒子 | 灰 | 普通 | 10本単位の櫛歯による波状文 | 覆土下層 | 5% |

表5 古墳時代方形竪穴遺構一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内 部 施 設 | | | | | | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|----|------|---------|-----|-------------------|---------|----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|----|--------|----------------------------|
| | | | | | | | 壁溝 | 支柱穴 | 出入口 | ピット | 炉・竈 | 貯蔵穴 | | | |
| 20 | C3b1 | N-3°-E | 長方形 | 2.81×1.84 | 51~55 | 平坦 | — | — | — | — | — | — | 自然 | 土師器，砥石 | 第178号住居跡の付属施設 |
| 21 | C2d8 | N-66°-E | 長方形 | 3.85×2.53 | 22~62 | 平坦 | — | — | — | 2 | — | — | 自然 | 土師器 | 第150号住居跡の付属施設 |
| 22 | C3f5 | N-84°-W | 長方形 | 2.96×2.50 | 12 | 平坦 | — | — | — | — | — | — | 人為 | 土師器 | 第169・203号住居跡の付属施設 7世紀後半 |
| 23 | B1a8 | N-6°-E | 長方形 | 3.27×1.98 | 7 | 平坦 | — | — | — | — | — | — | — | 土師器 | 第108・110・143号住居跡の付属施設 |
| 24 | C3e3 | N-0° | 長方形 | 2.79×1.95 | 8~11 | 平坦 | — | — | — | 4 | — | — | — | 土師器 | 第184号住居跡の付属施設カ |
| 25 | C3f1 | N-90°-E | 方形 | 2.90×2.70 | 14~19 | 平坦 | — | — | — | 11 | — | — | 人為 | 土師器 | |
| 26 | C3g1 | N-80°-W | 長方形 | 2.86×2.39 | 4~20 | 平坦 | — | — | — | — | — | — | 自然 | 土師器 | |
| 27 | C2c0 | N-5°-W | 長方形 | 3.00×1.75 | 50~63 | 平坦 | — | — | — | — | — | — | 自然 | 土師器 | 第213号住居跡の付属施設 |
| 29 | C3h3 | N-71°-E | 長方形 | 3.35×2.60 | 10~15 | 平坦 | — | — | — | 1 | — | — | 自然 | 土師器 | 第202号住居跡の付属施設 6世紀前半以前 |

(3) 土坑

第2668号土坑（第109図）

位置 西部1区北部のC3c6区で，平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2666号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.76m，短径0.68mの楕円形で，長径方向はN-7°-Eである。深さは37cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

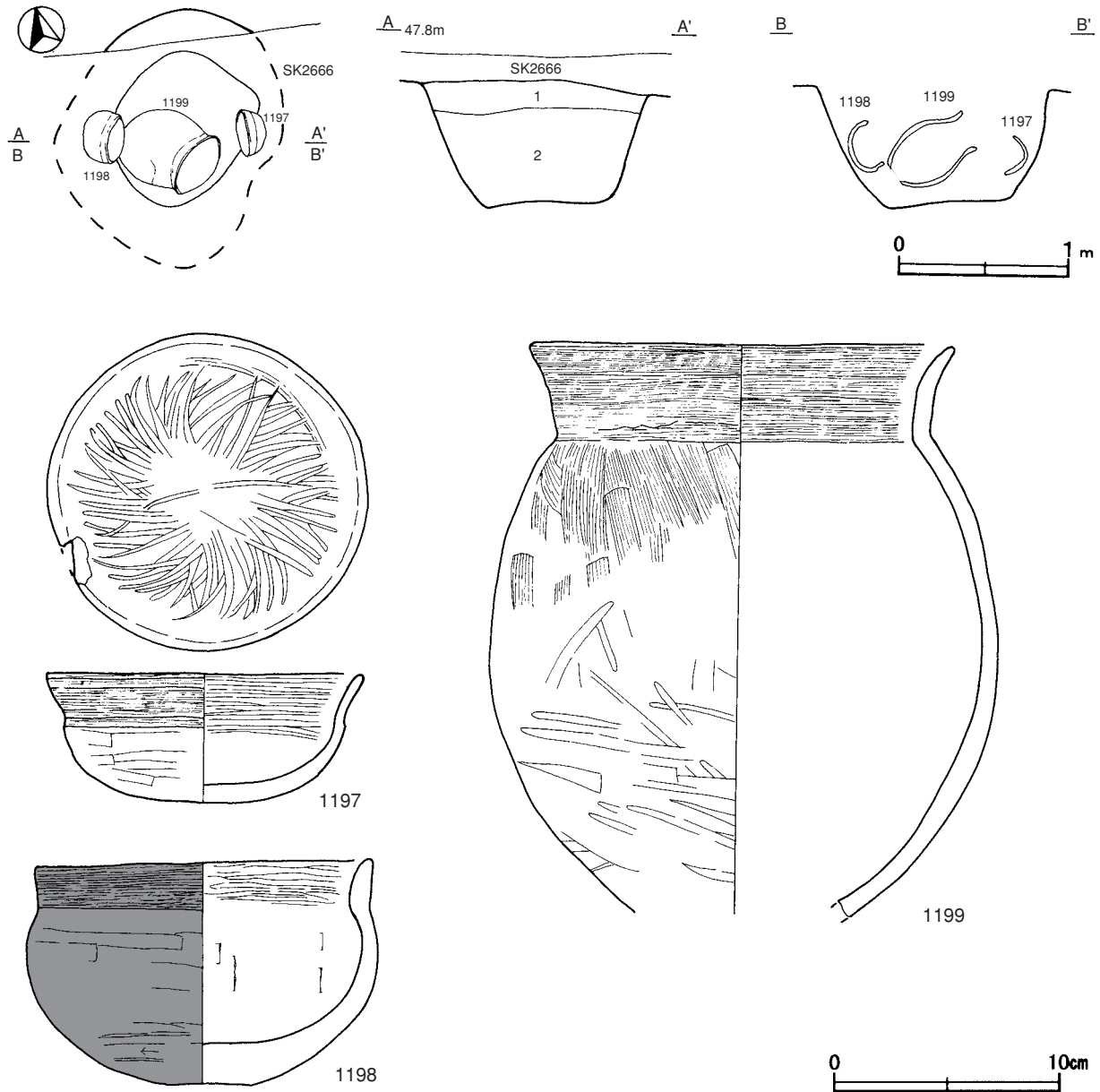
覆土 2層に分層される。各層ともロームブロックを不規則に含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック・焼土粒子中量

遺物出土状況 土師器片15点（坏6，鉢1，甕8）が出土している。1199の脇に1197・1198があり，これらは斜位の状態で，底面から少し浮いた位置で出土している。

所見 1197・1198はほぼ完形である。1199は底部が抜けており、甑に転用された可能性がある。これらの土器類は埋められた可能性があり、時期は土器から6世紀前半と考えられる。この時期の集落に伴う施設と考えられる。



第109図 第2668号土坑・出土遺物実測図

第2668号土坑出土遺物観察表（第109図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|------|--------|-----|------------|-------|----|--|------|--------------|
| 1197 | 土師器 | 坏 | 13.9 | 5.6 | — | 石英・長石・雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後内面ヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ・放射状のヘラミガキ | 覆土下層 | 98% PL100 |
| 1198 | 土師器 | 鉢 | 14.7 | 9.9 | 3.6 | 長石・雲母・赤色粒子 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ後内面ヘラミガキ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ, 外面煤付着 | 覆土下層 | 98% PL100 |
| 1199 | 土師器 | 甕 | 18.6 | (25.2) | — | 石英・長石・雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部上半ハケ目調整後ナデ, 体部下半ヘラケズリ後ヘラミガキ, 内面ナデ, 底部輪積みの部分で剥離 | 覆土下層 | 90% PL101 |

表6 古墳時代土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 内部施設 | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|------|------|--------|-----|----------------|--------|----|----|----|------|------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸)(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| 2668 | C3c6 | N-7°-E | 楕円形 | 0.76×0.68 | 37 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器 | 6世紀前半 |

(4) 溝跡

第59号溝跡 (第110・111図)

位置 西部1区南部のD 2 a0区で、平坦な台地上に位置している。

重複関係 第30号方形竪穴遺構と第58号溝とピット(5か所)に掘り込まれている。

規模と形状 D 2 a0区付近で第30号方形竪穴遺構に掘り込まれているが、その先に本跡の延長が確認されなかったことから、その付近で立ち上がっていたと推測される。直線的に南方向の調査区域外に延びており、確認された長さは4.40mである。上幅は1.62m～3.00m、下幅は0.30m～0.60mである。確認面から底面までの深さは40cmである。底面は平坦であり、ピットが3か所確認された。壁は外傾して立ち上がり、中段で平坦面を形成しながら緩やかに立ち上がっている。

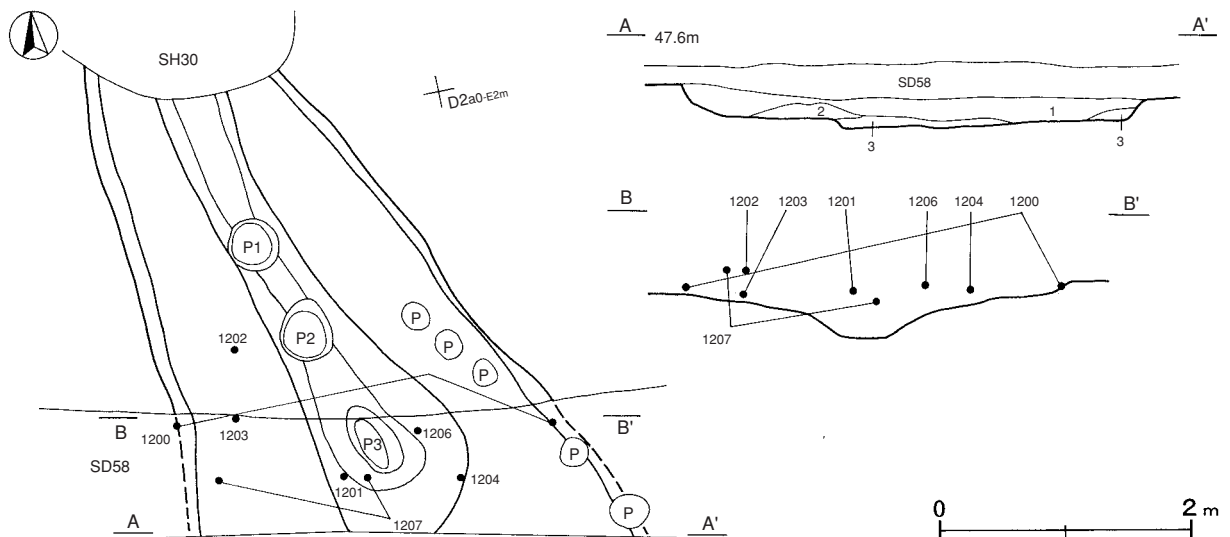
覆土 3層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

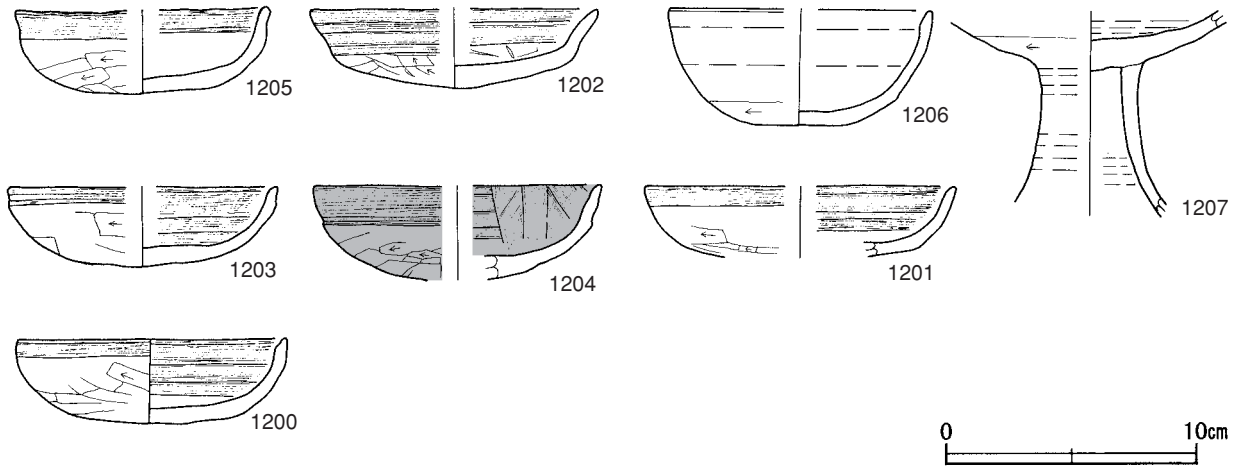
- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片363点(坏175, 高坏10, 甕178), 須恵器片15点(坏6, 瓶2, 甕7)が覆土中から出土している。1200は東側と西側の平坦面から出土した破片が接合したものである。1201・1204・1206は中央部の, 1202・1203・1207は西側の平坦面の覆土上層からそれぞれ出土している。これらは破断面の摩滅が少なく、埋没時のくぼ地に廃棄されたものと考えられる。

所見 性格は不明である。1200～1206は7世紀後半の土器であることから、それ以前に埋没が始まったものと考えられる。1207は8世紀中葉の土器で、この時期まで廃棄が行われたと推測される。また、本跡より北西方向に1200～1206と同じ土器が大量に廃棄された第205号住居跡がある。



第110図 第59号溝跡実測図



第111図 第59号溝跡出土遺物実測図

第59号溝跡出土遺物観察表 (第111図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|----|---------------|-------|----|--|------------|-----|
| 1200 | 土師器 | 坏 | 10.6 | 3.4 | — | 雲母・白色粒子 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 口唇部にナデによる沈線, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面横ナデ, 底部外面ヘラケズリ後ナデで平底ぎみ | 底面 覆土下層 | 70% |
| 1201 | 土師器 | 坏 | [12.2] | (2.7) | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 口唇部にナデによる沈線, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面横ナデ | 覆土上層 | 20% |
| 1202 | 土師器 | 坏 | [11.4] | 3.1 | — | 石英・長石・雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 口唇部にナデによる沈線, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 口縁部と体部の境の稜が明瞭, 内面横ナデ, 底部外面ヘラケズリ後ナデで平底ぎみ, 須恵器蓋模倣坏カ | 覆土上層 | 30% |
| 1203 | 土師器 | 坏 | [10.6] | 3.1 | — | 雲母・赤色粒子・白色粒子 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 口唇部にナデによる沈線, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 口縁部と体部の境の稜がまるみあり, 内面横ナデ, 底部外面ヘラケズリ後ナデ, 平底ぎみ, 須恵器蓋模倣坏カ | 覆土上層 | 30% |
| 1204 | 土師器 | 坏 | [11.4] | 3.7 | — | 石英・雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 口唇部にナデによる沈線, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 口縁部と体部の境の稜が明瞭, 内面縦・横ナデ, 底部外面ヘラケズリ後ナデ, 須恵器蓋模倣坏カ | 覆土上層 | 25% |
| 1205 | 土師器 | 坏 | [9.8] | 3.3 | — | 雲母・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部外面ヘラケズリ後ナデ, 内面ナデ, 底部外面ヘラケズリ後ナデ, 平底ぎみ | 覆土中 | 20% |
| 1206 | 須恵器 | 坏 | [10.3] | 4.6 | — | 石英・長石・金雲母 | 黄灰 | 良好 | 丸底, 底部回転ヘラケズリ | 覆土上層 | 35% |
| 1207 | 須恵器 | 高盤 | — | (8.2) | — | 黒色粒子 | 灰白 | 良好 | 坏部回転ヘラケズリ後脚部貼り付け | 覆土上層 | 20% |

表7 古墳時代溝跡一覧表

| 番号 | 位置 | 方向 | 形状 | 規模 | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|----|---------------|----|----|-------|---------------|---------------|--------|----|----|----|----------|------------|
| | | | | 長さ(m) | 上幅(m) | 下幅(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| 59 | C2j0~ D2a0 | 南 | 直線 | 4.40 | 1.62~ 3.00 | 0.30~ 0.60 | 40 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器, 須恵器 | 7世紀後半以前 |

3 奈良時代の遺構と遺物

竪穴住居跡11軒を確認した。以下、竪穴住居跡と遺物について記述する。

第103号住居跡（第112・113図）

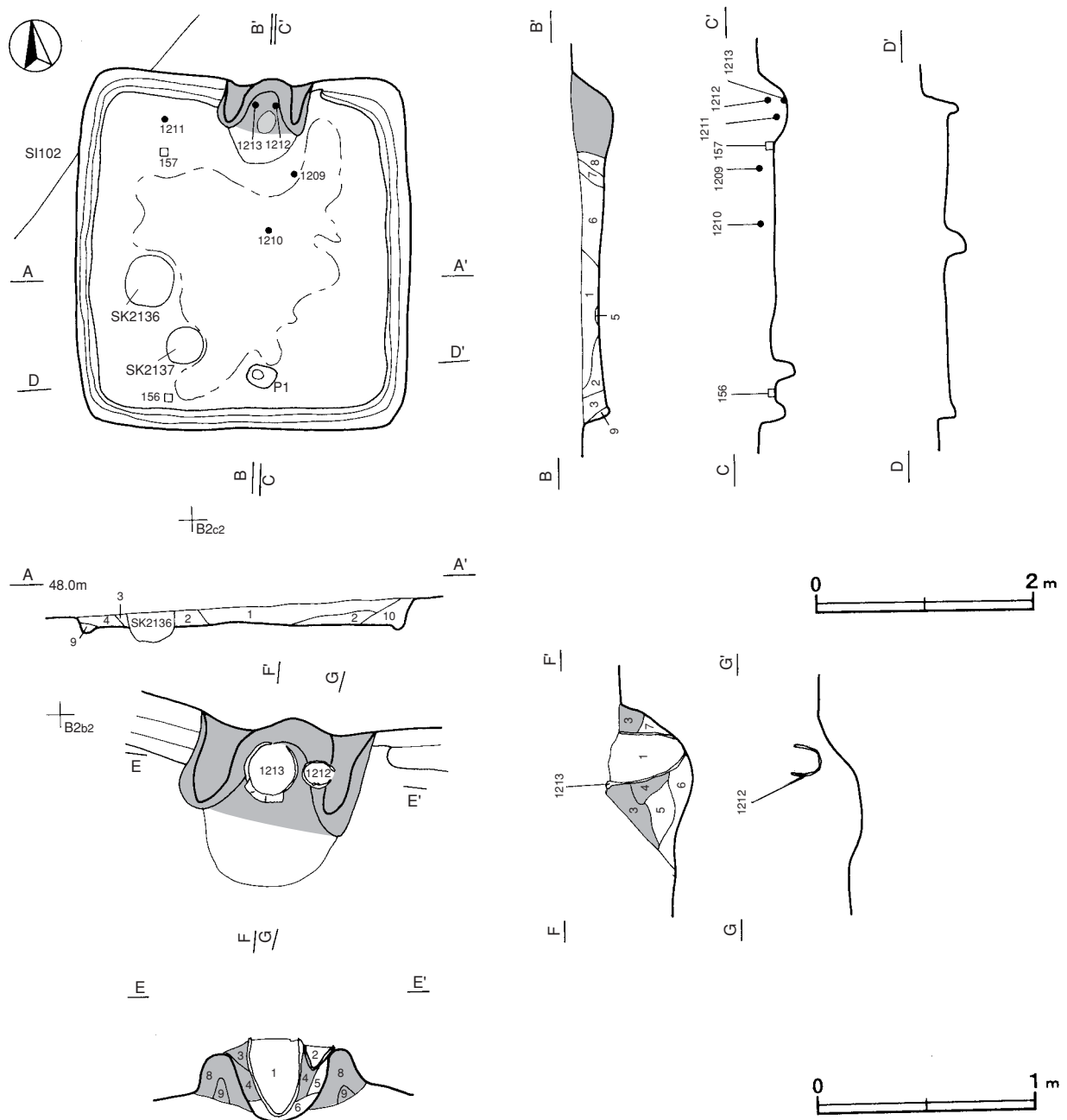
位置 調査区西部2区のB2b2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第102号住居跡を掘り込み、第2136・2137号土坑に掘り込まれている。

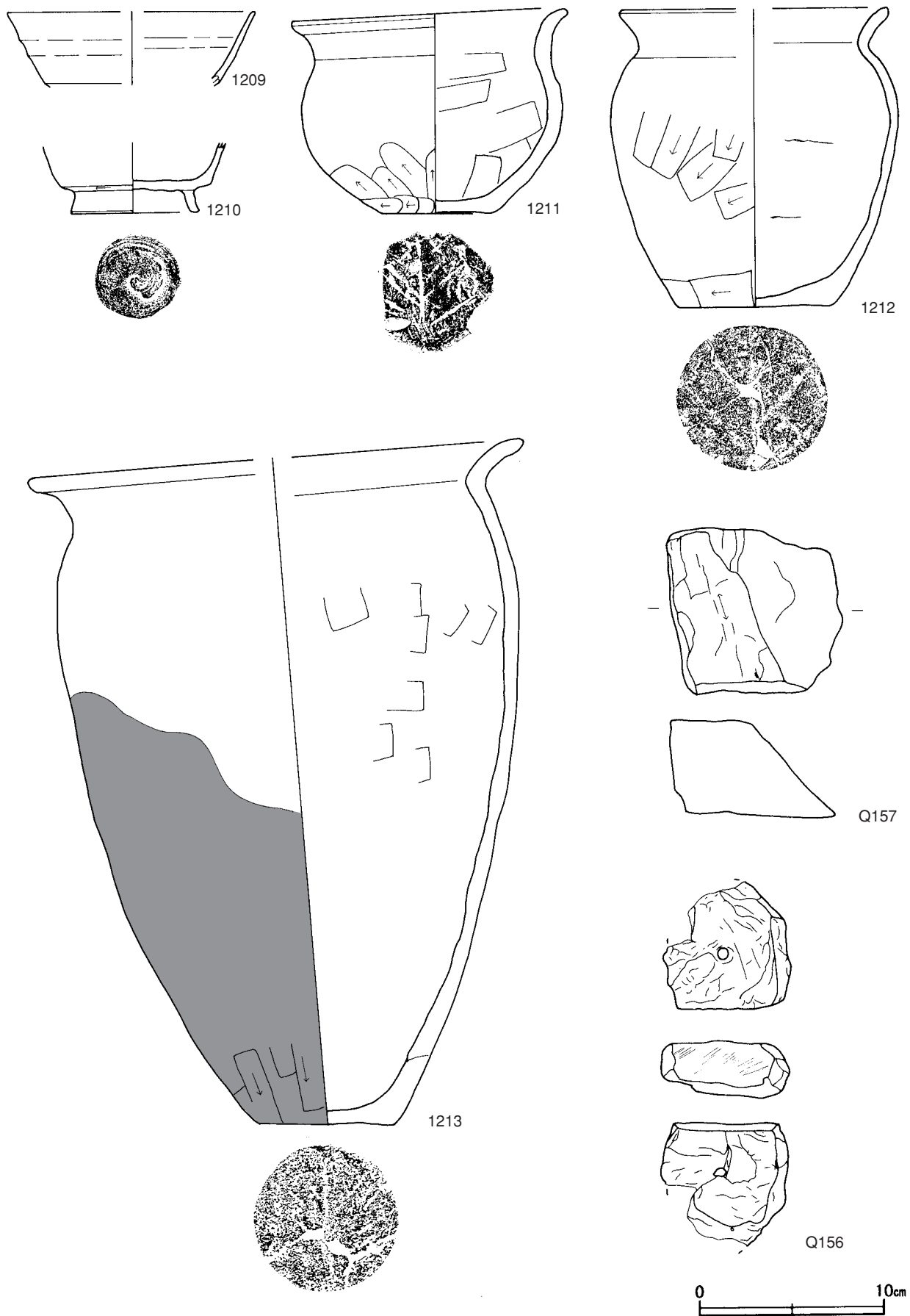
規模と形状 長軸3.3m、短軸3.1mのほぼ方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は12~21cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から竈手前にかけて踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで78cm、壁外への掘り込みは7cm、袖部幅は78



第112図 第103号住居跡実測図



第113図 第103号住居跡出土遺物実測図

cm, 火床部幅は46cmである。天井部は遺存しており, 砂質粘土ブロックを中量含んでいる第3層が相当する。また, 袖部は, 褐色土を芯材にして粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱で赤変しているが, 軟質である。煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 灰白色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| | | 9 褐色 | ロームブロック少量 |

ピット 1か所。深さ19cmで, 竈と向い合う位置にあり, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒色 | ローム粒子・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片274点(坏33, 甕241), 須恵器片7点(坏6, 高台付坏1), 石製品1点(紡錘車未製品), 石器2点(砥石), 礫12点(剥片)が出土している。1210は中央部, 1209は竈手前の覆土上層からそれぞれ出土している。Q157は北西部の覆土下層, 1211は北西部の床面からそれぞれ出土している。Q156は紡錘車の未製品カで, 南部の床面から出土している。1212・1213は土師器の甕であり, 竈に並んでかけられた状態で出土しており, 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 竈から二つの甕が並んだ状態で出土したことから, 二つの甕を掛けることのできる竈であったと考えられ, 今回の調査で確認されたのは本跡だけである。向かって右側が小形甕, 左側が大形甕である。時期は, 竈や床面から出土した土器から8世紀前葉と考えられる。

第103号住居跡出土遺物観察表(第113図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-----|-------------|-------|----|---------------------------|------|--------------------------|
| 1209 | 須恵器 | 坏 | [13.2] | (4.0) | — | 石英・長石 | 黄灰 | 普通 | 体部ロクロナデ | 上層 | 20%, 堀の内窯 |
| 1210 | 須恵器 | 高台付坏 | — | (3.7) | 6.6 | 石英・長石 | 灰褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 上層 | 30%, 底部ヘラ記号「+」, 堀の内窯 |
| 1211 | 土師器 | 小形甕 | 14.5 | 11.2 | 5.8 | 石英・長石 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ, 底部木葉痕 | 床面 | 100%, 体部外面煤痕 PL103 |
| 1212 | 土師器 | 小形甕 | [14.2] | 16.2 | 8.2 | 石英・長石・雲母・小礫 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ, 底部木葉痕 | 竈火床部 | 70%, 体部外面煤痕 PL103 |
| 1213 | 土師器 | 甕 | [26.0] | 37.3 | 7.2 | 石英・長石・雲母・小礫 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ, 底部木葉痕 | 竈火床部 | 60%, 体部外面煤付着・器面荒れ, PL103 |

| 番号 | 種別 | 最大径 | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|-----|---------|-----|---------------|------|----|
| Q156 | 紡錘車 | 6.9 | 0.6 | 3.0 | (136.2) | 粘板岩 | 未製品, 成形途中で欠損カ | 床面 | |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-------|-------|---------|----|-------------|------|----|
| Q157 | 砥石 | (9.0) | (9.3) | (5.1) | (560.0) | 砂岩 | 砥面1面, 他は剥離面 | 下層 | |

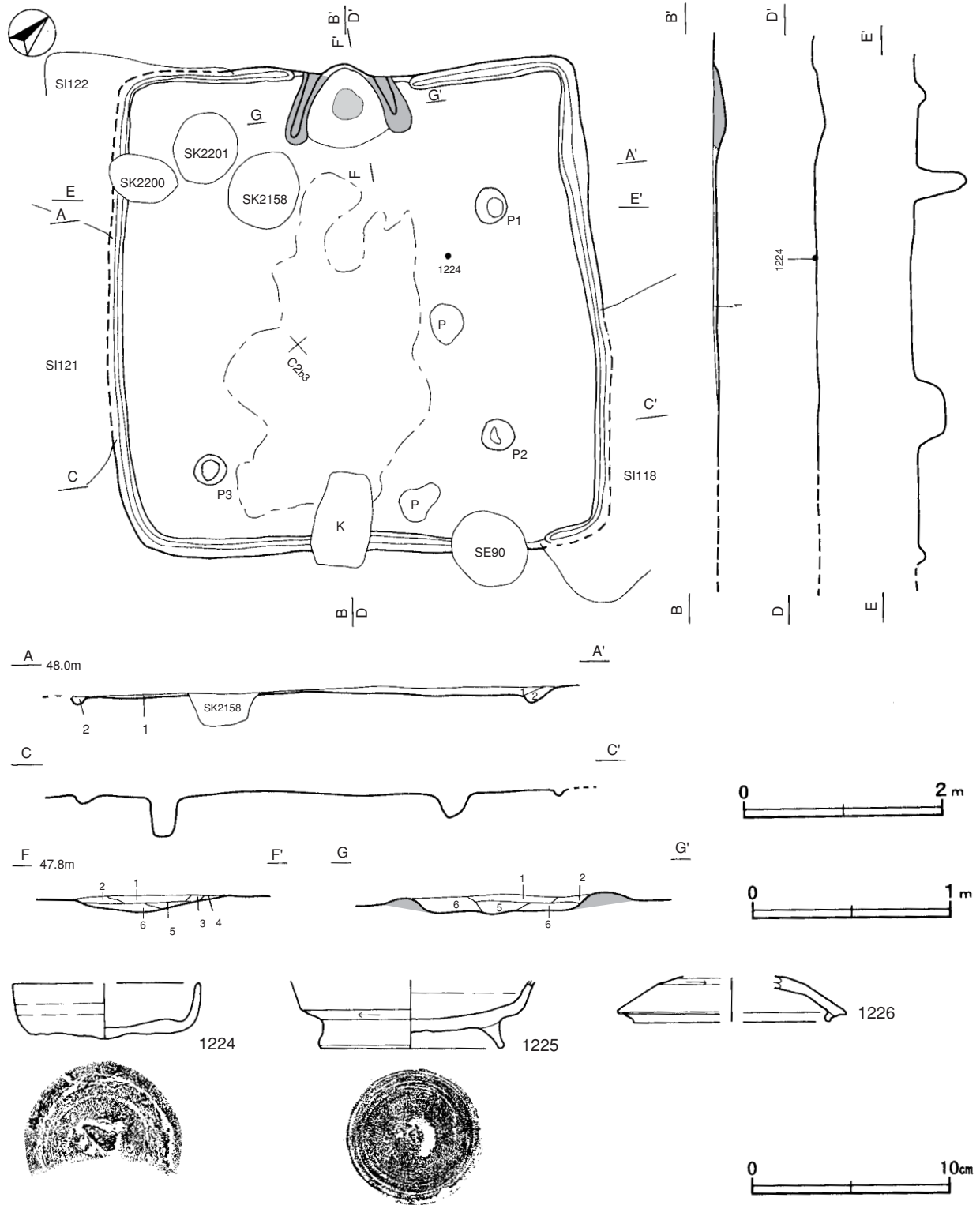
第112号住居跡（第114図）

位置 調査区西部2区のC 2 a2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第118・121・122号住居，第2158・2200・2201号土坑，第90号井戸，ピット（2か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.0m，短軸4.9mの方形で，主軸方向はN-49°-Wである。壁高は8cmである。

床 ほぼ平坦で，ピットの内側が踏み固められており，壁溝が周回している。



第114図 第112号住居跡・出土遺物実測図

竈 北西壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで84cm、壁外への掘り込みは10cm、袖部幅は128cm、火床部幅は76cmである。火床面は8cmほど皿状に掘りくぼめられ、火床面が火熱で赤変硬化している。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |

ピット 3か所。P1～P3は深さ24～40cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。北西側にも主柱穴が想定されるが、土坑に掘り込まれており、確認できなかった。

覆土 2層に分層される。薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 2 黒褐色 | ローム粒子微量 |
|-------|-----------|-------|---------|

遺物出土状況 土師器片176点（坏25，甕151），須恵器片21点（坏11，高台付坏7，蓋3）が全域から散在した状態で出土しているが、そのほとんどが細片である。1225・1226は覆土中，1224は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 覆土が薄く，7世紀後葉から8世紀代の土器片が混在している。時期は，住居の規模や形状及び主軸方向が8世紀中葉と考えられる第115号住居跡に酷似しており，該期の土器も出土していることから，同時期の可能性が高いと考えられる。

第112号住居跡出土遺物観察表（第114図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|-------|-------|-----|-------|----|----|------------------|------|-------------------|
| 1224 | 須恵器 | 坏 | [9.2] | 2.8 | 7.6 | 石英・長石 | 黄灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 下層 | 60%，堀の内窯 PL103 |
| 1225 | 須恵器 | 高台付坏 | — | (3.4) | 9.0 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け | 覆土中 | 50%，堀の内窯 |
| 1226 | 須恵器 | 蓋 | [9.8] | (2.3) | — | 白色粒子 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土中 | 10%，堀の内窯 |

第115号住居跡（第115・116図）

位置 調査区西部2区のC1g0区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第52・53号溝に掘り込まれている。

規模と形状 一辺4.5mの方形で，主軸方向はN-40°-Wである。壁高は23～28cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，ピットの内側が踏み固められている。壁溝は西壁際を除き巡っている。

竈 北西壁の中央部に付設されており，焚口部から煙道部まで85cm，壁外への掘り込みは14cm，袖部幅は112cm，火床部幅は50cmである。天井部は埋め戻されており，第1～3層が相当する。袖部は，砂質粘土ブロックを芯材として構築され，砂質粘土ブロックを多量に含む第8・12・14層が相当する。火床部は5cmほど皿状に掘りくぼめられて，火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。

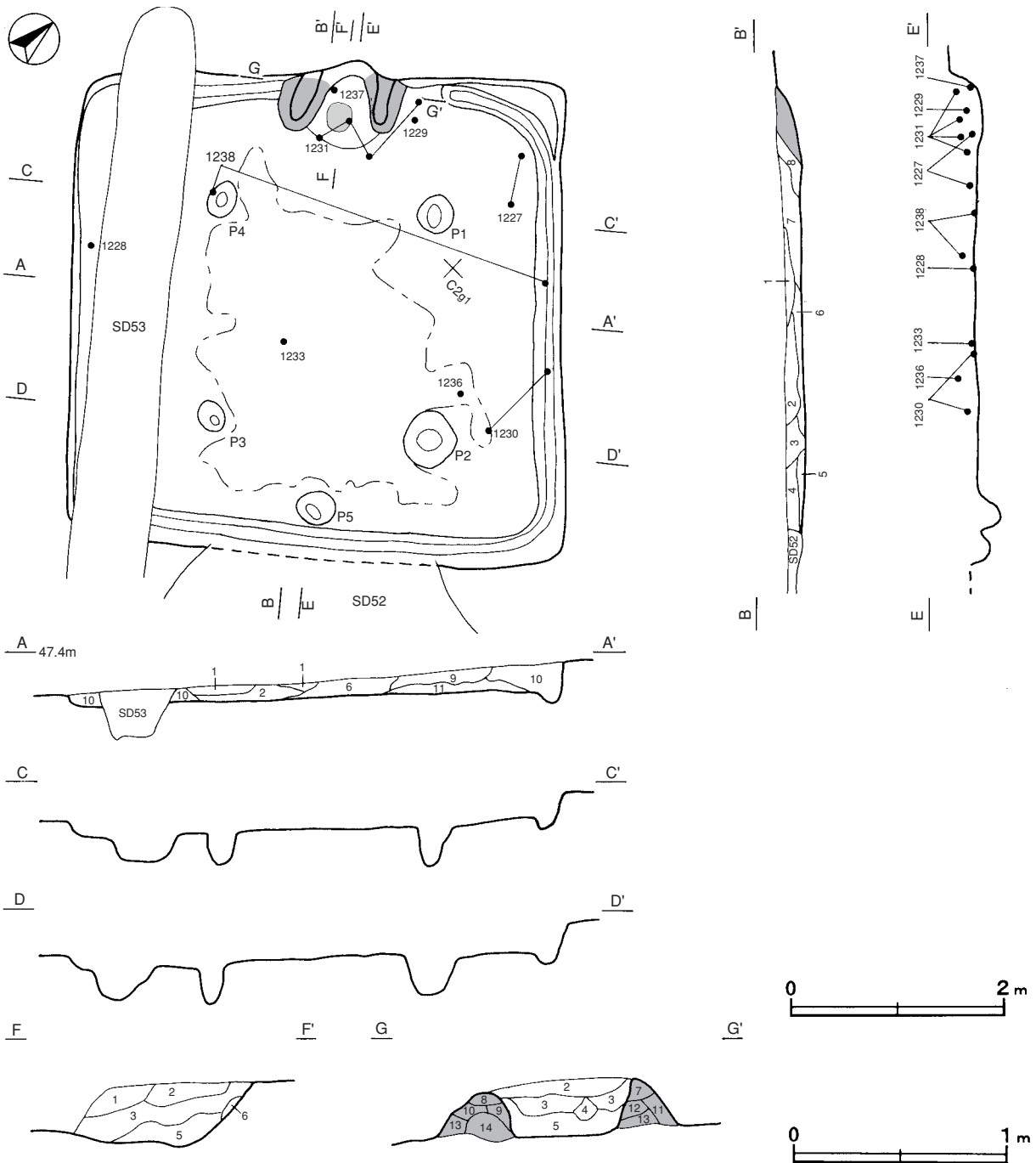
竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック・ 焼土ブロック・炭化物微量 | 2 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・ 炭化粒子微量 |
|-------|-----------------------------------|-------|------------------------------------|

- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 3 暗 褐 色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量 | 9 暗 赤 褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 11 暗 赤 褐色 | ロームブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック微量 |
| 7 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 | 13 暗 褐 色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック微量 |
| 8 灰 白 色 | 砂質粘土ブロック多量 | 14 明 褐 灰色 | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ30～38cmであり、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ18cmで、竈と向い合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

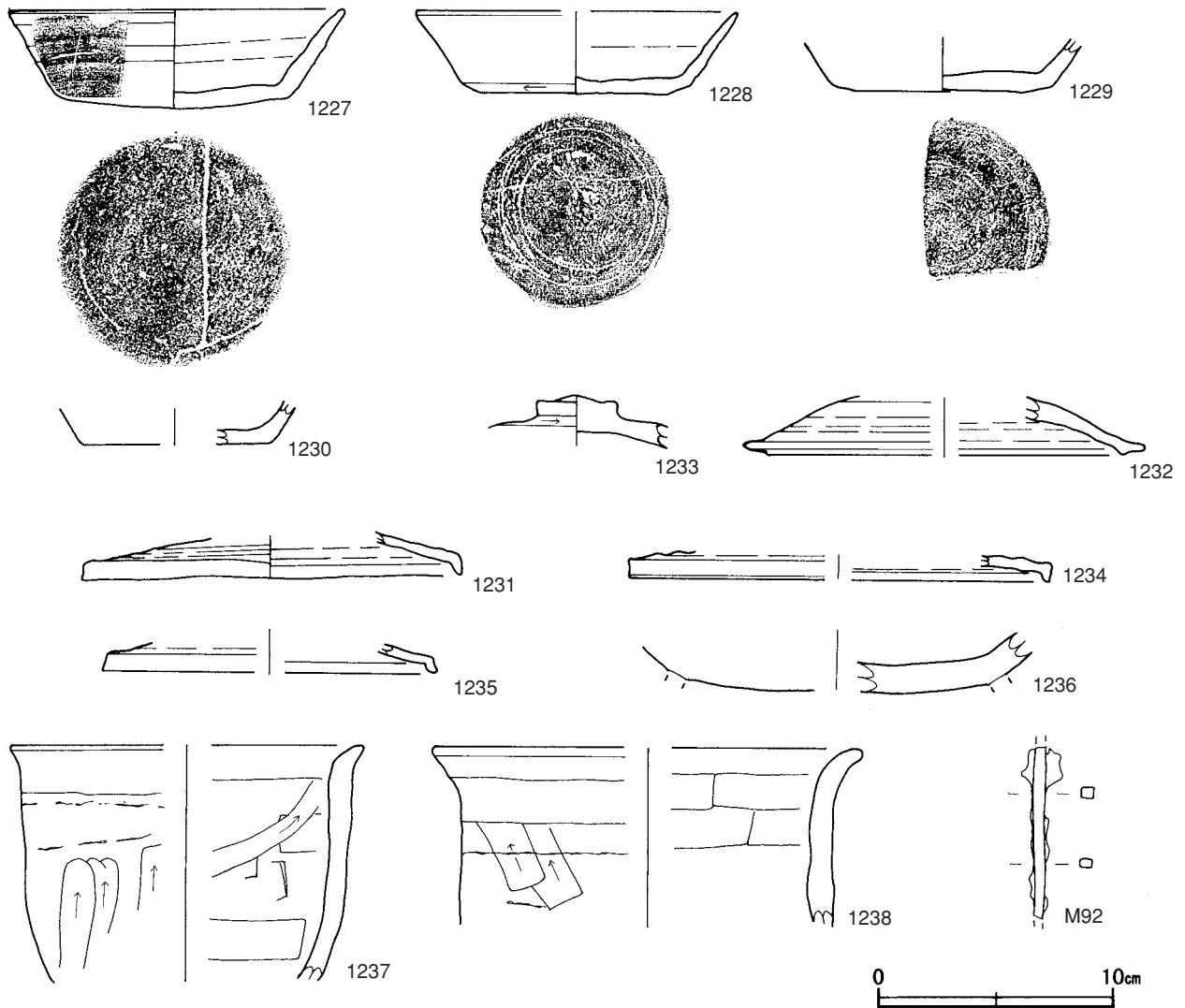


第115図 第115号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | 鹿沼バミスブロック中量, ロームブロック・ 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 鹿沼バミスブロック少量, ロームブロック・ 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼バミス・粘土粒子微量 |
| | | 11 黒褐色 | 焼土ブロック・鹿沼バミスブロック少量, ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片193点(坏33, 甕158, 甌2), 須恵器片39点(坏21, 蓋13, 瓶1, 甕4), 鉄製品1点(釘)が, 東部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。土師器坏は細片で古墳時代のものであり, 住居廃絶後に混入したと考えられる。1236は中央部の覆土上層, 1229は竈右袖側の覆土中層, 1233は中央部の覆土下層, 1227は北東部の覆土下層から出土している。1230は東部の覆土中層と下層から出土した破片が, 1238は北東壁際の覆土中層と北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1231は竈の覆土中層の埋め戻された覆土中と竈右袖側の覆土上層から出土した破片が接合したものであり, 廃絶後に投棄したものと考えられる。M92は竈の覆土中から出土しているが, 赤変しておらず, 住居廃絶後の埋め戻しの際に混入した可能性が高い。1228は南西壁際の床面から出土している。1237は竈の覆土下層から出土したもので, 火熱痕があることから竈にかけられていたものと考えられる。



第116図 第115号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、踏み固められた床の範囲が広く、さらに竈の火床面も強く赤変硬化していることから、使用期間が長かったと推測される。廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第115号住居跡出土遺物観察表（第116図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|--------|-------|-------|-----|----|---------------------|--------|---------------------------|
| 1227 | 須恵器 | 坏 | 14.0 | 4.3 | 9.5 | 長石 | 灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、ナデ | 下層 | 90%、窯不明、体部外面ヘラ記号「+」、PL103 |
| 1228 | 須恵器 | 坏 | [13.4] | 3.5 | 7.8 | 石英・長石 | 褐灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り、外面下端回転ヘラ削り | 床面 | 60%、堀の内窯、体部外面と底部に火襻 |
| 1229 | 須恵器 | 坏 | — | (2.3) | [9.2] | 石英・長石 | 黄灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 中層 | 20%、堀の内窯、体部外面と底部に火襻 |
| 1230 | 須恵器 | 坏 | — | (1.8) | [8.0] | 白色粒子 | 灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り | 中層・下層 | 10%、三嶋窯 |
| 1231 | 須恵器 | 蓋 | 16.0 | (1.9) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 竈上層・上層 | 40%、堀の内窯 |
| 1232 | 須恵器 | 蓋 | [14.8] | (2.4) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土中 | 5%、堀の内窯 |
| 1233 | 須恵器 | 蓋 | — | (2.2) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 下層 | 5%、堀の内窯 |
| 1234 | 須恵器 | 蓋 | [17.6] | (1.1) | — | 長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 覆土中 | 5%、堀の内窯 |
| 1235 | 須恵器 | 蓋 | [14.0] | (1.2) | — | 長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 竈左袖部内 | 5%、堀の内窯 |
| 1236 | 須恵器 | 瓶 | — | (2.6) | — | 長石・小礫 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 上層 | 5%、益子窯、高台部剥離 |
| 1237 | 土師器 | 甑 | [14.6] | (10.0) | — | 石英・長石 | 明赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ | 竈下層 | 30%、体部外面炭痕 |
| 1238 | 土師器 | 甑 | [17.6] | (7.6) | — | 石英・長石 | 明赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ | 中層・下層 | 20%、体部外面火熱痕 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|-------|----|---------|------|-------|
| M92 | 釘 | (7.4) | 0.5 | 0.5 | (6.5) | 鉄 | 断面方形の棒状 | 竈覆土中 | PL121 |

第131号住居跡（第117・118図）

位置 調査区西部1区のB2i0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第134号住居跡、第2248号土坑を掘り込み、第133号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北側部分が調査区域外に延びているため、東西軸は4.1m、南北軸は2.1mだけ確認された。柱穴の配置から、N-15°-Wを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は35~50cmで、直立している。

床 ほぼ平坦である。壁溝が確認された範囲で巡っている。

覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

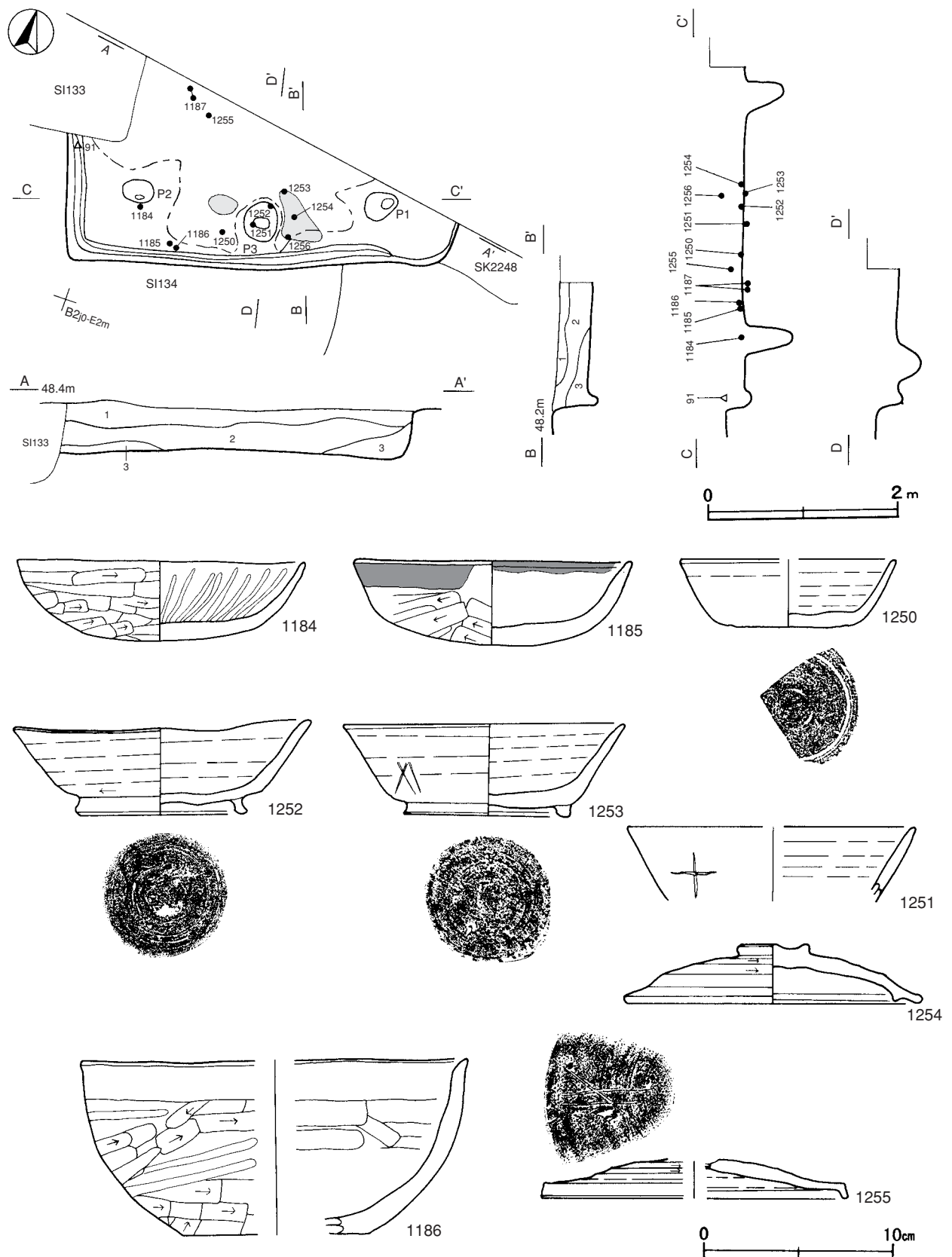
2 黒褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

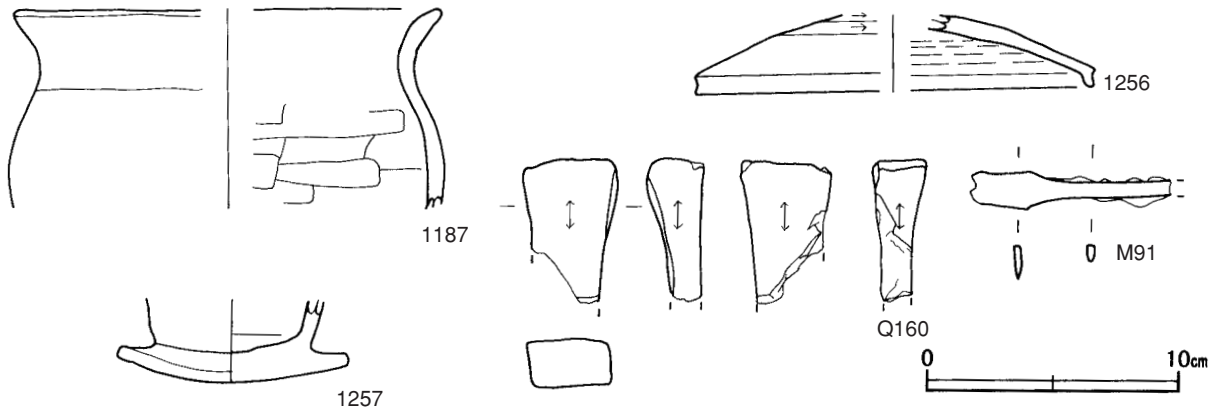
ピット 3か所。P1・P2は深さ38・50cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ26cmで、竈に向い合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片90点（坏18、椀1、甕71）、須恵器片9点（坏3、高台付坏2、蓋3、捏鉢1）、石器1点（砥石）、鉄製品1点（刀子）が、南部の覆土下層を中心に出土している。1184は南西コーナー部の覆土下層、1252は南部の覆土下層、1185・1186は南壁際の覆土下層から出土し、残存率が高いことから、廃絶後の埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。南部の床面からは焼土塊が散在して出土し、西部の床面からは炭化物が確認できたが、形状をとどめていない。1253・1254は南部の焼土塊近くの床面から出土し、火熱痕がある。1250は南壁際の床面、1187は中央部の床面、1251はP3の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 床面から焼土ブロックや炭化物が出土し、覆土の最下層にも焼土ブロックが確認できたが、柱材が確認できないことから、廃絶に伴った焼失家屋と考えられる。廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第117図 第131号住居跡・出土遺物実測図



第118図 第131号住居跡出土遺物実測図

第131号住居跡出土遺物観察表（第117・118図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-------|-----------|-------|----|-----------------------|---------|---------------------------------|
| 1184 | 土師器 | 坏 | 14.9 | 4.3 | — | 長石 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き | 下層 | 80%，PL103 |
| 1185 | 土師器 | 坏 | 14.5 | 4.5 | — | 石英・長石・白雲母 | 黄橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り | 下層 | 70%，口縁部内・外面油煙付着，PL103 |
| 1250 | 須恵器 | 坏 | [11.1] | 3.6 | [7.0] | 石英・長石 | 灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後，ナデ | 床面 | 20%，堀の内窯 |
| 1251 | 須恵器 | 坏 | [14.8] | (3.9) | — | 長石 | 灰白 | 普通 | 体部ロクロナデ | P 1 覆土中 | 10%，堀の内窯，体部外面ヘラ記号「+」PL118 |
| 1186 | 土師器 | 椀 | [20.0] | (9.3) | [9.6] | 石英・長石・白雲母 | 灰褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ヘラナデ | 下層 | 40% |
| 1252 | 須恵器 | 高台付坏 | 15.4 | 4.9 | 8.6 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け | 下層 | 100%，堀の内窯，PL104 |
| 1253 | 須恵器 | 高台付坏 | 14.7 | 5.0 | 8.6 | 石英・長石 | 暗灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け | 床面 | 90%，堀の内窯，体部外面ヘラ記号「XI」，火熱痕，PL104 |
| 1254 | 須恵器 | 蓋 | 15.3 | 3.1 | — | 石英・長石・白雲母 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 床面 | 60%，新治窯，火熱痕，PL104 |
| 1255 | 須恵器 | 蓋 | [15.9] | (2.0) | — | 石英・長石 | 暗灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 中層 | 5%，堀の内窯，体部外面ヘラ記号「H」PL118 |
| 1256 | 須恵器 | 蓋 | [15.6] | (3.0) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 上層 | 20%，堀の内窯 |
| 1257 | 須恵器 | 捏鉢 | — | (3.4) | [9.2] | 長石 | 灰白 | 普通 | 底部外面多方向のヘラ削り | 覆土中 | 10%，堀の内窯 |
| 1187 | 土師器 | 小形甕 | [16.6] | (7.6) | — | 石英・長石 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内面ヘラナデ，口縁部横ナデ | 床面 | 20%，体部外面器面荒れ |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-----|--------|-----|------------------|------|-------|
| Q160 | 砥石 | (5.7) | 3.7 | 2.2 | (51.0) | 凝灰岩 | 砥面4面，断面長方形 | 覆土中 | PL120 |
| M91 | 刀子 | (7.9) | 1.5 | 0.3 | (9.6) | 鉄 | 刃部から茎部にかけての破片，両関 | 上層 | |

第149号住居跡（第119・120図）

位置 調査区西部1区のB3j2区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第153・156・157号住居跡，第2271・2278・2308号土坑を掘り込み，第2268・2281号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.8mの方形で，主軸方向はN-7°-Wである。壁高は32～35cmで，外傾して立ち上がっている。

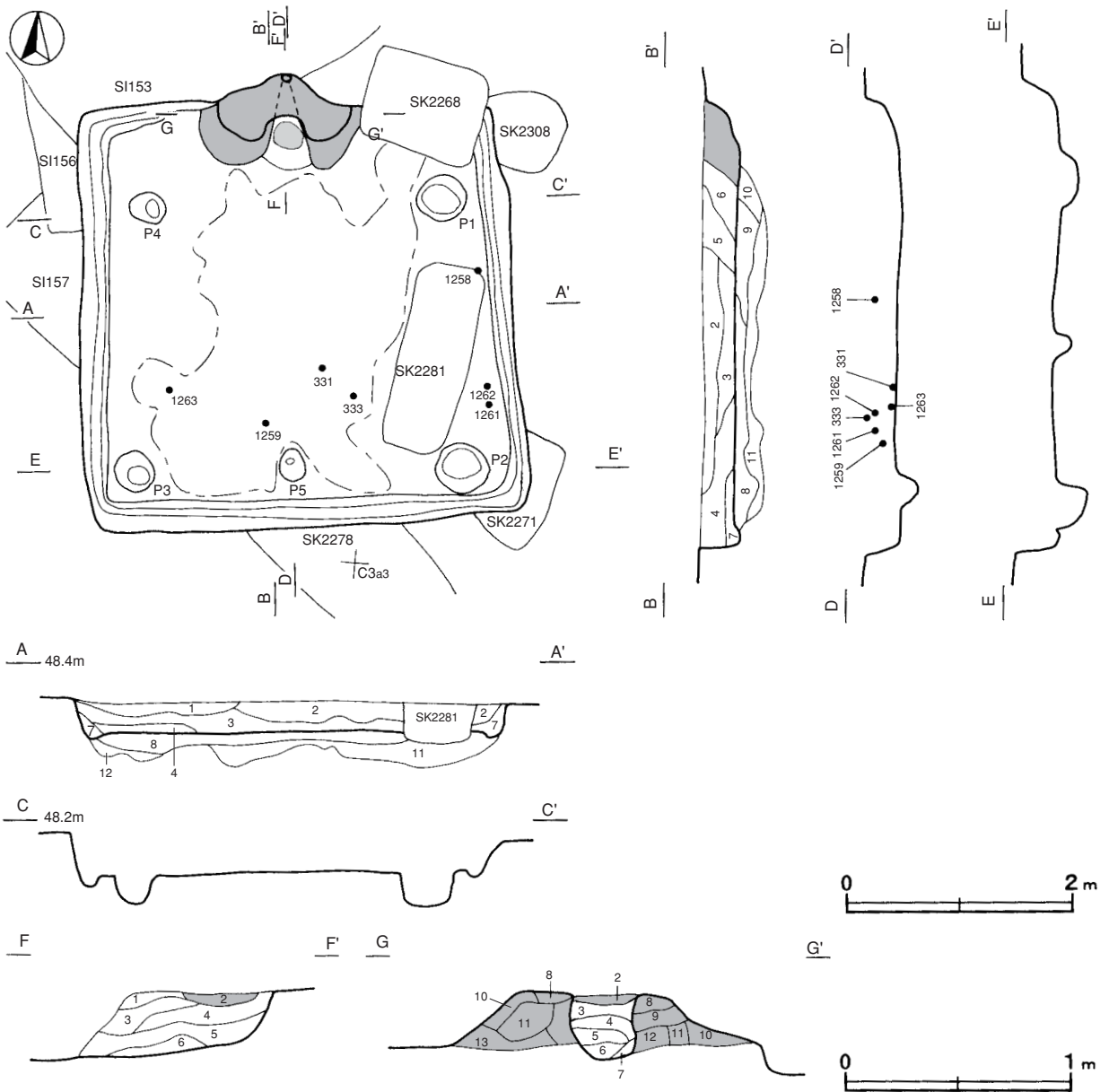
床 ほぼ平坦な貼床で，出入り口施設に伴うピットから竈にかけて踏み固められており，壁溝が周回している。

また、竈と壁際を除き貼り床で、ロームブロック混じりの暗褐色土などを10~30cm充填して構築している。掘り方は、中央部よりも北西・南西コーナー部がやや深く掘り込まれている。

竈 北壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで86cm、壁外への掘り込みは28cm、袖部幅は136cm、燃焼部幅は28cmである。天井部は残存しており、土層断面図中の砂質粘土ブロックを中量含む第2層が相当する。袖部は、砂質粘土ブロックを混ぜて構築されており、砂質粘土ブロックを多量含む第11層が芯材と考えられる。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火床面が火熱で赤変硬化している。また、煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 褐灰色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック微量 |
| 2 褐灰色 | 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土ブロック少量， ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 11 明褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土ブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物微量 | | |



第119図 第149号住居跡実測図

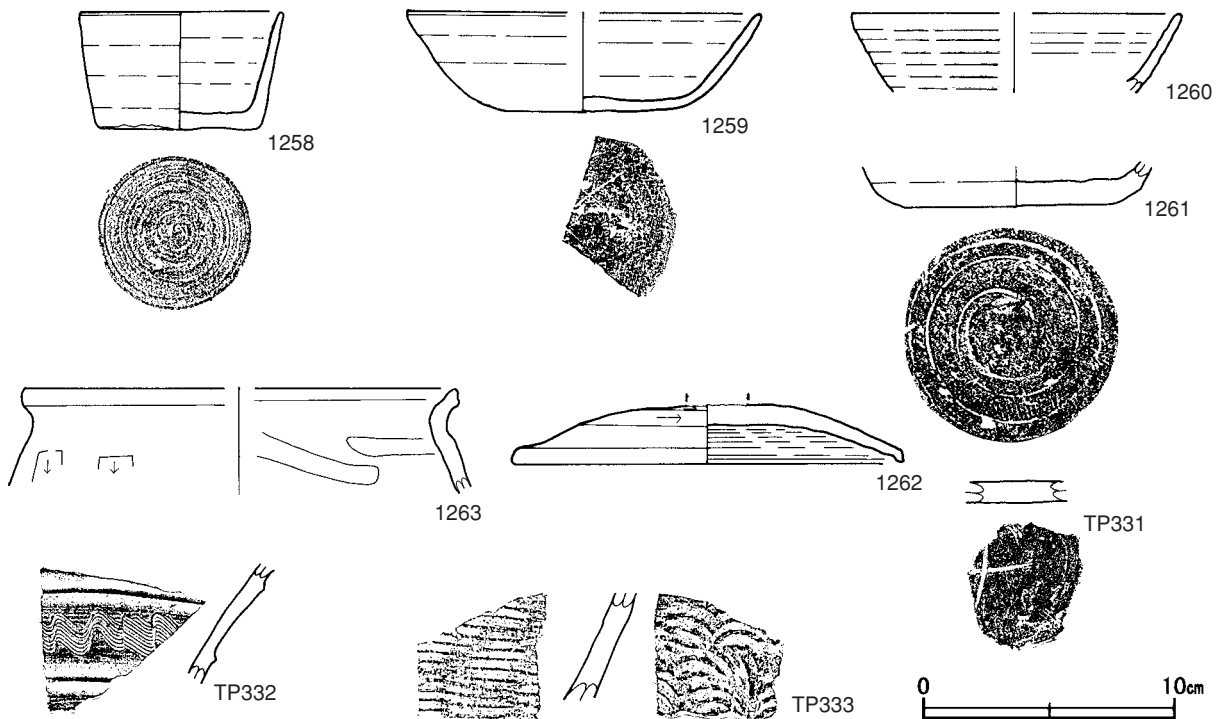
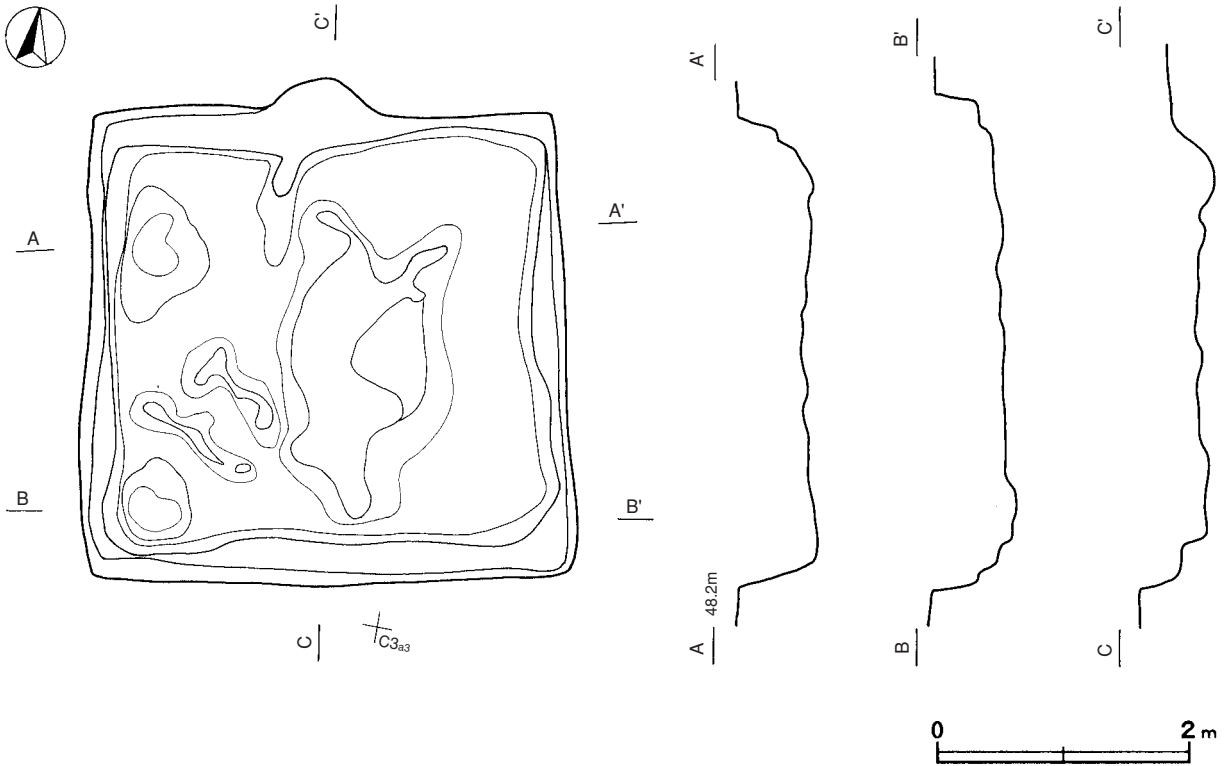
ピット 5か所。P 1～P 4は深さが16～31cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ16cmで、竈に向い合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。土層断面図中第8～12層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量



第120図 第149号住居跡・出土遺物実測図

| | | | |
|-------|------------------------------------|---------|---------------------------------------|
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック少量 (貼床構築土) |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、 焼土粒子微量 (貼床構築土) |
| 5 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量・焼土粒子少量、ローム粒子・ 炭化粒子微量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック多量 (貼床構築土) |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量 (貼床構築土) |
| 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量 (貼床構築土) |

遺物出土状況 土師器片291点 (坏5, 甕285, 甌1), 須恵器片62点 (坏48, 高台付坏3, 蓋2, 壺1, 甕8) が全域から散在した状態で出土している。TP333は中央部の覆土上層, 1261は東部の覆土中層, 1263は西部の覆土下層, 1259・TP331は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。1258・1262は東部の覆土中層から出土しており, 残存率が高いため, 住居廃絶後の埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第149号住居跡出土遺物観察表 (第120図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|-----|-----------|-----|----|------------------|------|------------------------|
| 1258 | 須恵器 | 坏 | 7.9 | 4.7 | 6.2 | 石英・長石 | 黄灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 中層 | 95%, 堀の内窯, PL104 |
| 1259 | 須恵器 | 坏 | [13.8] | 3.9 | 7.6 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, ナデ | 下層 | 30%, 堀の内窯, 底部外面ヘラ記号「+」 |
| 1260 | 須恵器 | 坏 | [13.0] | (4.2) | — | 長石 | 灰黄 | 普通 | 体部ロクロナデ | 覆土中 | 20%, 堀の内窯 |
| 1261 | 須恵器 | 坏 | — | (1.8) | 8.8 | 石英・長石 | 黄灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 中層 | 30%, 堀の内窯 |
| 1262 | 須恵器 | 蓋 | 15.2 | (2.3) | — | 石英・長石・白雲母 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 中層 | 90%, 新治窯, PL104 |
| 1263 | 土師器 | 甕 | [17.0] | (4.2) | — | 石英・長石・白雲母 | 明赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 下層 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|----|------|----|--|------|-------------|
| TP331 | 土師器 | 坏 | 長石 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 一方向のヘラ削り | 下層 | 体部外面ヘラ記号「+」 |
| TP332 | 須恵器 | 甕 | 長石 | 灰 | 普通 | 体部外面に2条の凸線, その内側に横位の沈線を巡らし, その上に波状沈線(8本歯)を施す | 覆土中 | 堀の内窯 |
| TP333 | 須恵器 | 甕 | 長石 | 灰 | 普通 | 体部外面平行叩き, 内面同心円状当て具痕 | 上層 | 堀の内窯 |

第154号住居跡 (第121~124図)

位置 調査区西部2区のC2f2区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第139号住居跡を掘り込み, 第123号住居, 第2253・2265・2266・2267号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.7m, 短軸6.2mのほぼ方形で, 主軸方向はN-31°-Wである。壁高は22~32cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部から竈手前にかけて踏み固められている。また, 壁溝は北壁際から東壁際にかけて巡っている。

竈 北壁のやや西寄りに付設されており, 焚口部から煙道部まで136cm, 壁外への掘り込みは14cm, 袖部幅は140cm, 火床部幅は48cmである。天井部は崩落しており, 粘土ブロックを中量含む第5層が相当する。火床部と袖部は床面から14~18cmほど掘りくぼめた後, ロームブロックを主とする褐色土を充填して構築されている。袖部はロームブロックや砂質粘土ブロックなどを用いて構築されている。火床部は浅い皿状を呈し, 火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 2 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量

| | | | |
|--------|------------------------------------|---------|---------------------------------|
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 極暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 10 赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 7 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子微量 |

ピット 12か所。P 1～P 4は深さが48～60cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ28cmで、竈に向い合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。P 6～P 9は深さが40～58cmであり、P 1～P 4の内側に対応して確認できたことから、主柱穴の作り替えが考えられる。また、北部の壁溝に位置する3か所の小ピットは深さ20cmほどで、壁柱穴と考えられる。

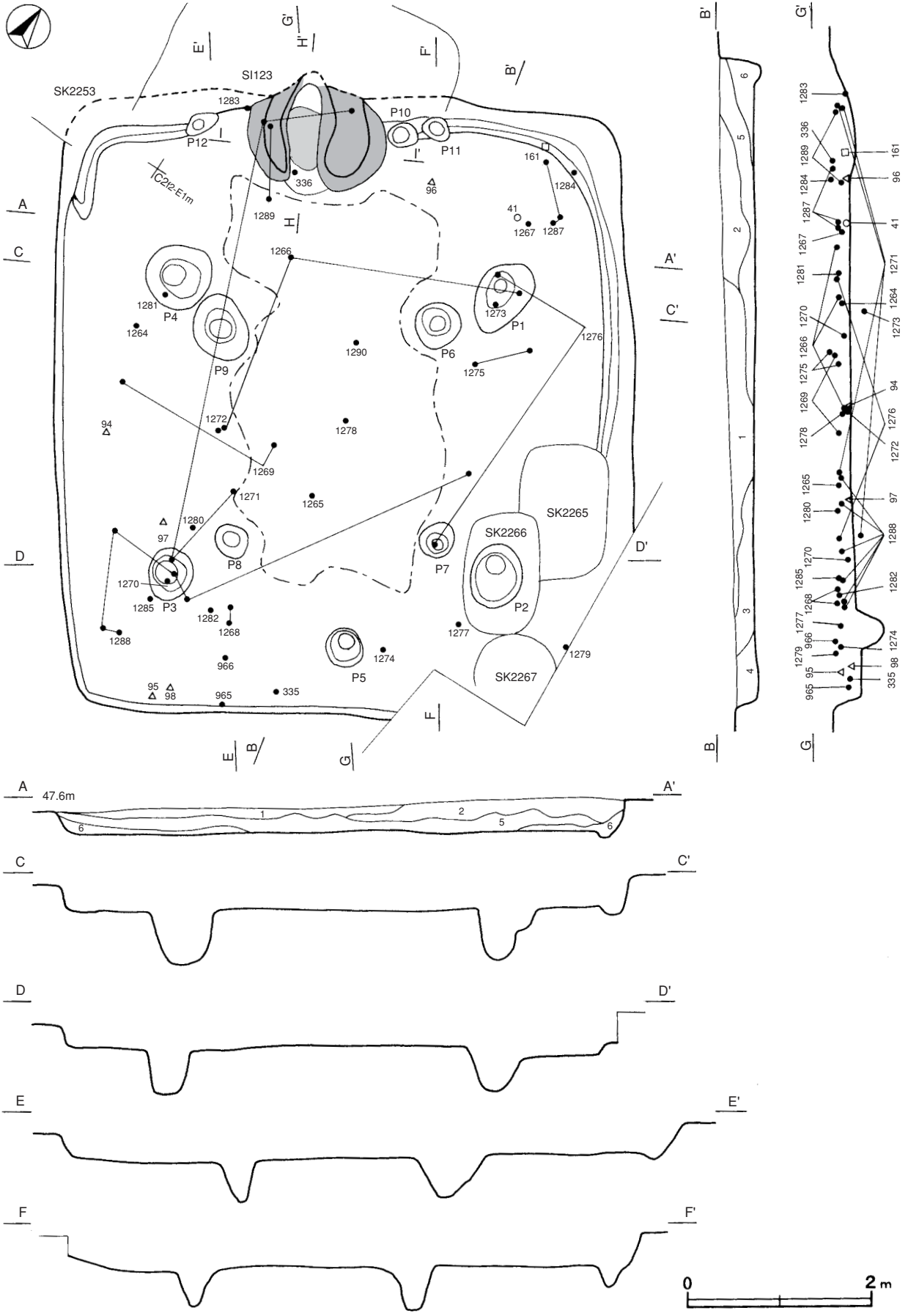
覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

| | | | |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片1071点（坏46, 甕1023, 甗2）, 須恵器片234点（坏144, 高台付坏9, 蓋54, 瓶6, 甕21）, 土製品1点（支脚）, 石製品1点（紡錘車）, 鉄製品5点（刀子1, 鎌2, 鉸具1, 不明1）が全域から散在した状態で出土している。1283は竈左袖部横の, 1284は北東コーナー部の, 1275は東部の, TP 336は竈手前の, 1277・1279は南東コーナー部の, 1274は南部の, M95は南壁際の, 966・1268・1282・1285は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。1267は北東コーナー部の, 1265・1272・1278・1290は中央部の, 965・TP 335・M98は南壁際の, 1270は南西コーナー部の覆土中層, 1264・1280・1281は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。M96は北部の, DP 41・Q 161は北東コーナー部の, M94は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。1287は北東コーナー部の覆土上層と覆土中層から出土した破片が, 1288は中央部の覆土上層と南西コーナー部の覆土中層から出土した破片が, 1289は竈左袖部上の覆土と竈手前の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものであり, 破断面が摩滅しておらず, 投棄されたものと考えられる。1266は西部の覆土上層及び竈手前と東部の覆土中層から出土して破片が, 1269は中央部と西部の覆土上層から出土した破片が, 1276は北東コーナー部と中央部の覆土上層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。1266・1269・1276は離れた位置から出土した破片が接合関係にあり, 残存率も高いことから, 廃絶後に投棄されたものと考えられる。1273もP 1の覆土中から出土し, 廃絶後に投棄されたものと考えられる。1271は竈両袖部上の覆土と中央部の覆土上層とP 3の覆土中から出土した破片が接合したものであり, 破断面が摩滅していないことから廃絶後に投棄されたものと考えられる。M97は西部の床面から出土している。

所見 本跡から出土した多くの土器片は, 出土状況から投棄されたものと考えられる。また, 覆土上層と主柱穴の覆土中から出土した破片が接合していることから, 本跡廃絶後すぐに埋め戻されたものと考えられる。また, 主柱穴（P 1～P 4）の内側に対応して柱穴（P 6～P 9）が確認できたことから, 柱が建て替えられ, 住居が拡張されているものと想定される。また, 鉸具を含めて帯金具が出土したのは, 当遺跡では本跡だけである。廃絶時期は, 坏や高台付坏の形状から8世紀中葉と考えられる。調査区内の8世紀代の住居では最も大形のものであることと, 多量の土器, 鉸具が出土していることから, 中心的な役割を果たしていたものと考えられる。

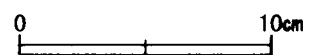
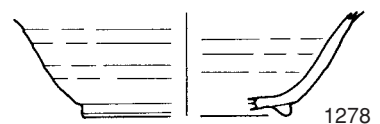
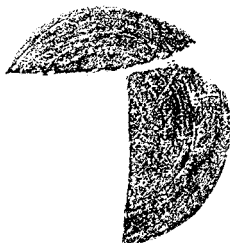
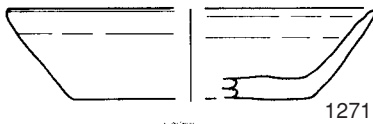
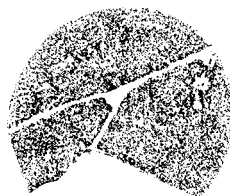
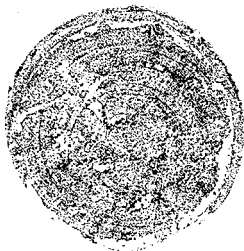
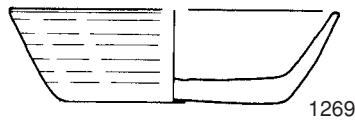
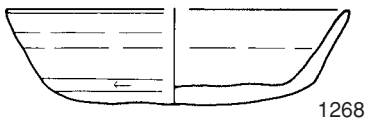
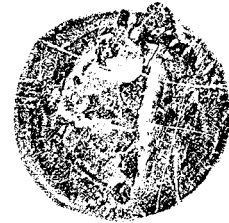
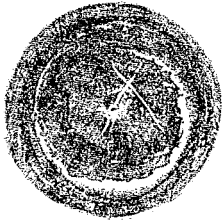
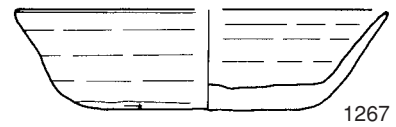
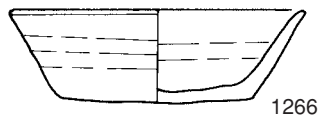
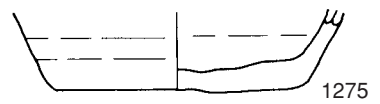
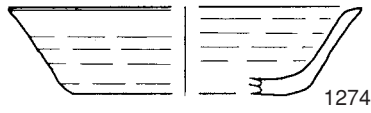
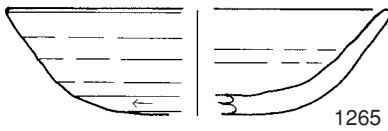
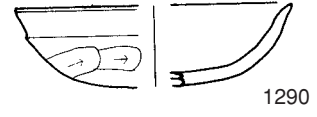
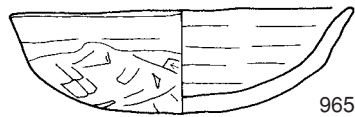
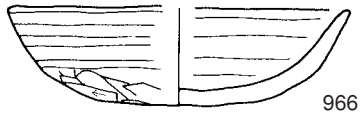
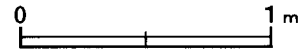
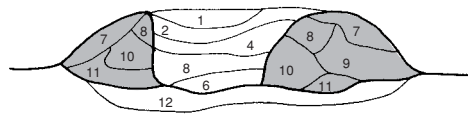
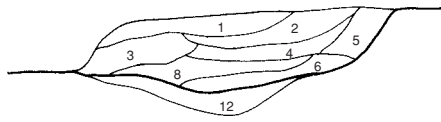


第121图 第154号住居跡実測図

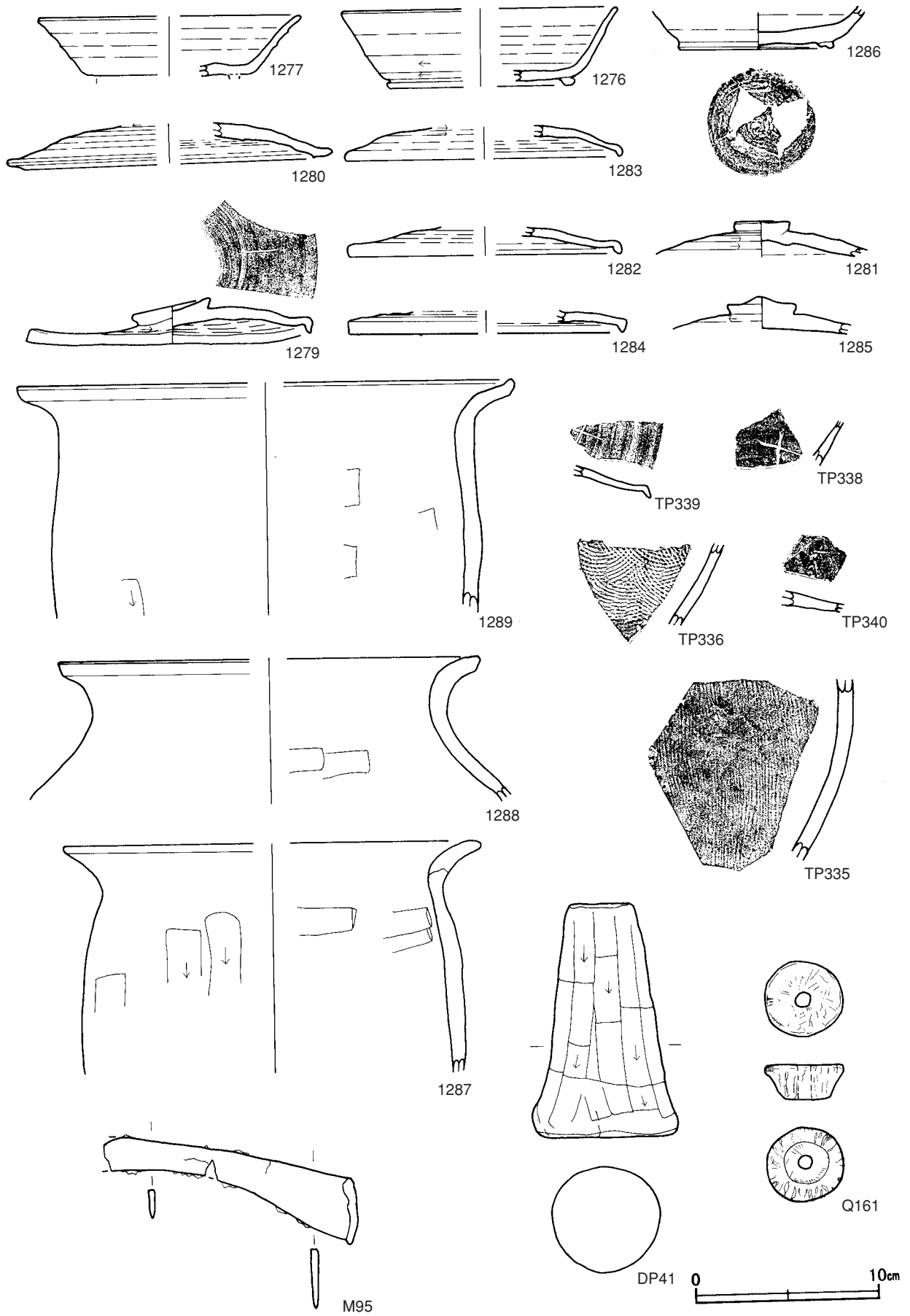
H 47.6m

H' I

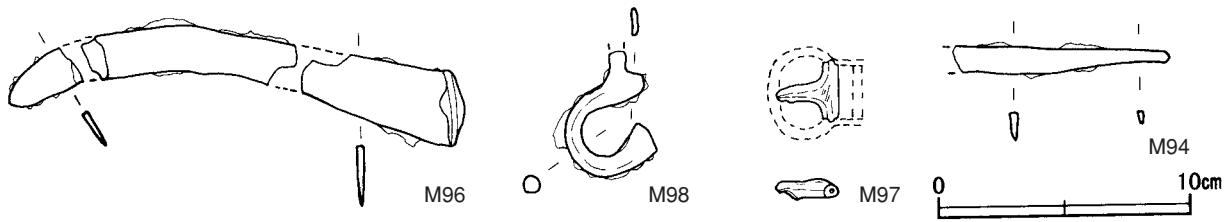
I'



第122图 第154号住居跡・出土遺物実測図



第123图 第154号住居跡出土遺物実測図(1)



第124図 第154号住居跡出土遺物実測図(2)

第154号住居跡出土遺物観察表(第122~124図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|--------|--------|-----------|-------|----|-------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 965 | 土師器 | 坏 | 13.5 | 4.1 | — | 長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部外面多方向のヘラ削り | 中層 | 90%, PL104 |
| 966 | 土師器 | 坏 | [13.6] | 3.8 | — | 白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部外面多方向のヘラ削り | 上層 | 40% |
| 1290 | 土師器 | 坏 | [10.8] | 3.2 | — | 白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部外面多方向のヘラ削り | 中層 | 30% |
| 1264 | 須恵器 | 坏 | 13.2 | 3.7 | 8.0 | 長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 回転ヘラ削り | 中層 | 95%, 堀の内窯, 底部外面ヘラ記号「×」, PL104 |
| 1265 | 須恵器 | 坏 | [15.0] | 4.2 | [7.0] | 長石・小礫 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 中層 | 40%, 益子窯 |
| 1266 | 須恵器 | 坏 | 11.4 | 3.7 | 7.6 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 回転ヘラ削り | 上層・中層 | 70%, 堀の内窯, PL105 |
| 1267 | 須恵器 | 坏 | [14.5] | 4.0 | 7.6 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り, 底部回転ヘラ切り | 中層 | 60%, 堀の内窯, 底部外面ヘラ記号「+」, PL104 |
| 1268 | 須恵器 | 坏 | [13.3] | 3.8 | 9.6 | 石英・長石 | 黄灰 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り, 底部回転ヘラ切り後, 回転ヘラ削り | 上層 | 60%, 堀の内窯, 底部外面火樫, PL104 |
| 1269 | 須恵器 | 坏 | [12.8] | 3.7 | 8.5 | 石英・長石 | 黄灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後, ナデ | 上層 | 40%, 堀の内窯, 底部外面火樫 |
| 1270 | 須恵器 | 坏 | [14.4] | 3.2 | [9.2] | 長石 | 灰白 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り, 底部回転ヘラ削り | 中層 | 30%, 堀の内窯, 底部外面火樫 |
| 1271 | 須恵器 | 坏 | [14.4] | 3.6 | [9.2] | 長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 上層・P3の覆土中 | 40%, 堀の内窯, 底部外面火樫 |
| 1272 | 須恵器 | 坏 | [15.0] | 4.3 | [8.4] | 長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 中層 | 30%, 堀の内窯 |
| 1273 | 須恵器 | 坏 | [14.4] | 3.8 | 7.6 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | P1覆土中 | 30%, 堀の内窯 |
| 1274 | 須恵器 | 坏 | [13.8] | 3.5 | [8.9] | 白色粒子 | 灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後, ナデ | 上層 | 30%, 堀の内窯 |
| 1275 | 須恵器 | 坏 | — | (3.2) | 9.5 | 白色粒子 | 灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 回転ヘラ削り | 上層 | 30%, 三義窯 |
| 1276 | 須恵器 | 高台付坏 | [14.8] | 4.3 | [10.0] | 長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け | 上層 | 40%, 堀の内窯 |
| 1277 | 須恵器 | 高台付坏 | [14.0] | (3.3) | [9.2] | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り, 高台貼り付け痕あり | 上層 | 20%, 堀の内窯 |
| 1278 | 須恵器 | 高台付坏 | — | (4.1) | [8.0] | 石英・長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 中層 | 20%, 堀の内窯 |
| 1279 | 須恵器 | 蓋 | 15.5 | 2.5 | — | 長石 | 灰白 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 上層 | 80%, 堀の内窯, ヘラ記号「-」, PL105 |
| 1280 | 須恵器 | 蓋 | 15.8 | (2.2) | — | 石英・長石・白雲母 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 上層 | 20%, 堀の内窯 |
| 1281 | 須恵器 | 蓋 | — | (2.0) | — | 石英・長石・小礫 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 中層 | 20%, 益子窯 |
| 1282 | 須恵器 | 蓋 | [14.6] | (1.5) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 上層 | 20%, 堀の内窯 |
| 1283 | 須恵器 | 蓋 | [15.0] | (1.8) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 下層 | 10%, 堀の内窯 |
| 1284 | 須恵器 | 蓋 | [14.8] | (1.2) | — | 長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 上層 | 20%, 堀の内窯 |
| 1285 | 須恵器 | 蓋 | — | (2.0) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 上層 | 10%, 堀の内窯 |
| 1286 | 須恵器 | 瓶 | — | (2.3) | 8.1 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け | 覆土中 | 20%, 堀の内窯 |
| 1288 | 土師器 | 甕 | [22.6] | (7.9) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | 上層・中層 | 20% |
| 1287 | 土師器 | 甕 | [22.3] | (12.4) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 上層・中層 | 20% |
| 1289 | 土師器 | 甕 | [26.6] | (12.6) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 上層・中層 | 15% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|----|-------|----|--------------|------|------------------|
| TP338 | 須恵器 | 坏 | 長石 | にぶい黄褐 | 普通 | 体部ロクロナデ | 覆土中 | 堀の内窯，体部外面ヘラ記号「+」 |
| TP339 | 須恵器 | 蓋 | 長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土中 | 堀の内窯，体部外面ヘラ記号「+」 |
| TP340 | 須恵器 | 蓋 | 長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 覆土中 | 堀の内窯，体部外面ヘラ記号「+」 |
| TP335 | 須恵器 | 甕 | 長石 | 灰黄 | 普通 | 体部外面縦位の平行叩き | 中層 | 堀の内窯，外面自然釉付着 |
| TP336 | 須恵器 | 甕 | 長石 | 灰 | 普通 | 体部外面同心円状当て具痕 | 上層 | 堀の内窯 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 最大径 | 最小径 | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|------|-----|-----|-------|----|-------------------|------|-------|
| DP41 | 支脚 | 12.9 | 7.8 | 3.5 | 597.0 | 粘土 | 側面ヘラ削り，火熱痕（二次焼成カ） | 下層 | PL119 |

| 番号 | 器種 | 最大径 | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|----------------|------|-------|
| Q161 | 紡錘車 | 4.3 | 0.8 | 1.9 | 46.9 | 蛇紋岩 | 全面研磨後，全面放射状の線刻 | 下層 | PL119 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-------|--------|-------|---------|--------|-----|--------------------|------|-------|
| M94 | 刀子 | (8.6) | 1.1 | 0.3 | (8.9) | 鉄 | 刃先・茎尻欠損，片関 | 下層 | PL121 |
| M95 | 鎌 | (13.6) | 3.5 | 0.4 | (52.1) | 鉄 | 基部は全体を折り返す | 上層 | PL121 |
| M96 | 鎌 | [18.0] | 3.1 | 0.3 | (42.6) | 鉄 | 刃先は若干彎曲，基部は全体を折り返す | 下層 | |
| M97 | 鉸具 | (2.5) | (2.5) | 0.8 | (6.7) | 鉄・銅 | 刺針部の破片，鉄地銅貼り | 床面 | PL121 |
| M98 | 不明鉄製品 | (7.9) | 3.6 | 0.2~0.7 | (19.0) | 鉄 | 掛け金具的な形状を有する | 中層 | PL121 |

第161A号住居跡（第125～127図）

位置 調査区西部1区のC3a1区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第155・194号住居跡を掘り込み，ピット（4か所）に掘り込まれている。また，第161B号住居跡の床面に貼床をし，西側に20cmほど拡張して本跡が構築されている。

規模と形状 長軸4.1m，短軸3.9mのほぼ方形で，主軸方向はN-13°-Wである。壁高は30～35cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，出入口施設に伴うピットから竈手前にかけて踏み固められている。壁溝は北西部の壁際を除き巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されており，焚口部から煙道部まで92cm，壁外への掘り込みは34cm，袖部幅は110cmである。袖部及び火床部は床面を5～9cm掘りくぼめた後，ロームブロックを主とする暗褐色土を床面と同じ高さまで埋め戻して構築されている。袖部は，ロームブロックや砂質粘土ブロックを混ぜた暗褐色土などを用いて構築されている。火床面は火熱で赤変硬化している。煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | |
|---------|----------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量 | 10 褐灰色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂質粘土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 | | |

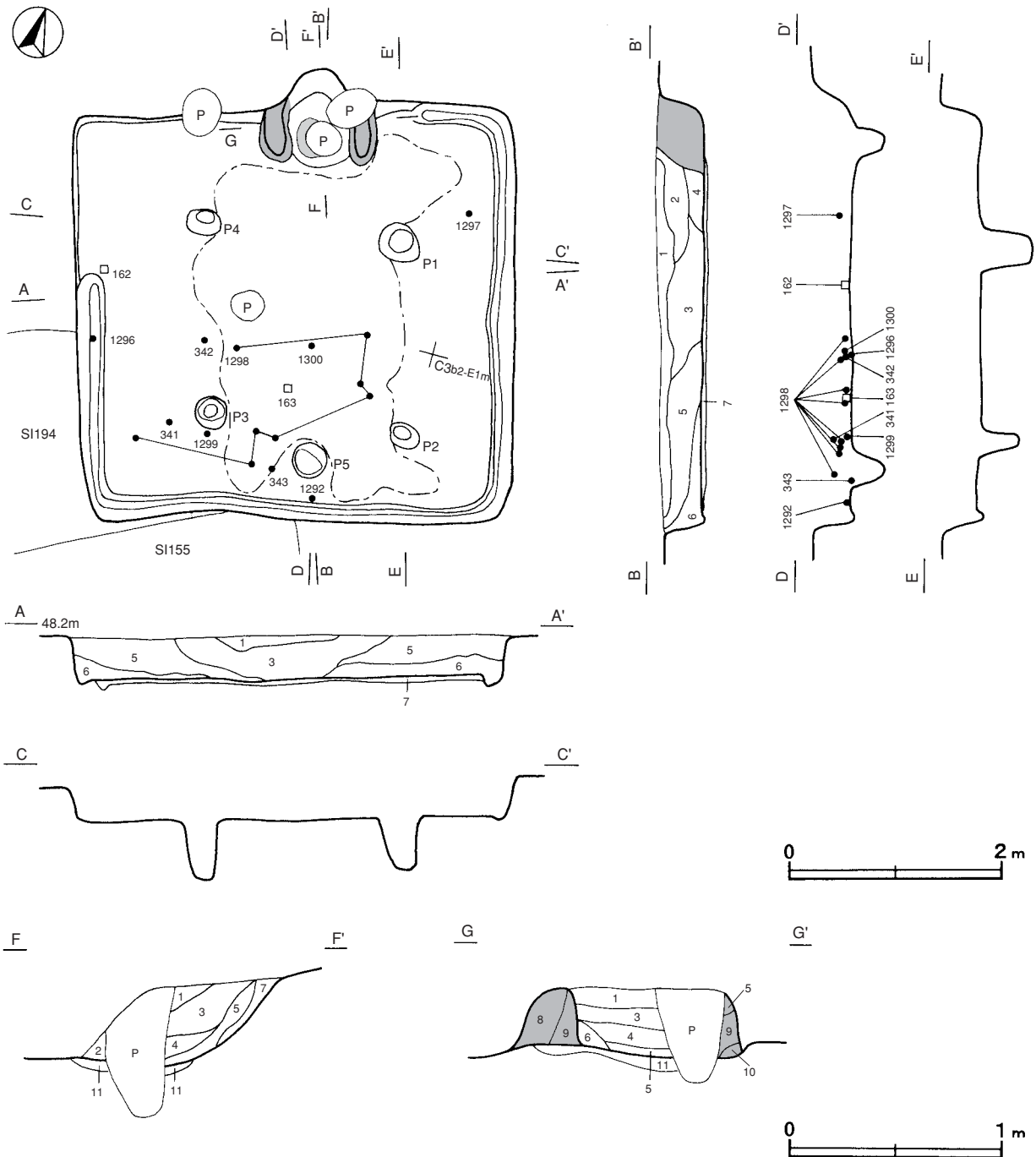
ピット 5か所。P1～P4は深さ39～55cmで，規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ26cmで，竈に向い合う位置にあり，出入口施設に伴うピットと考えられる。第161B号住居から本跡に拡張する際に，支柱穴を作り替えた痕跡はない。

覆土 6層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。土層断面図中の第7層は貼床の構築土である。

土層解説

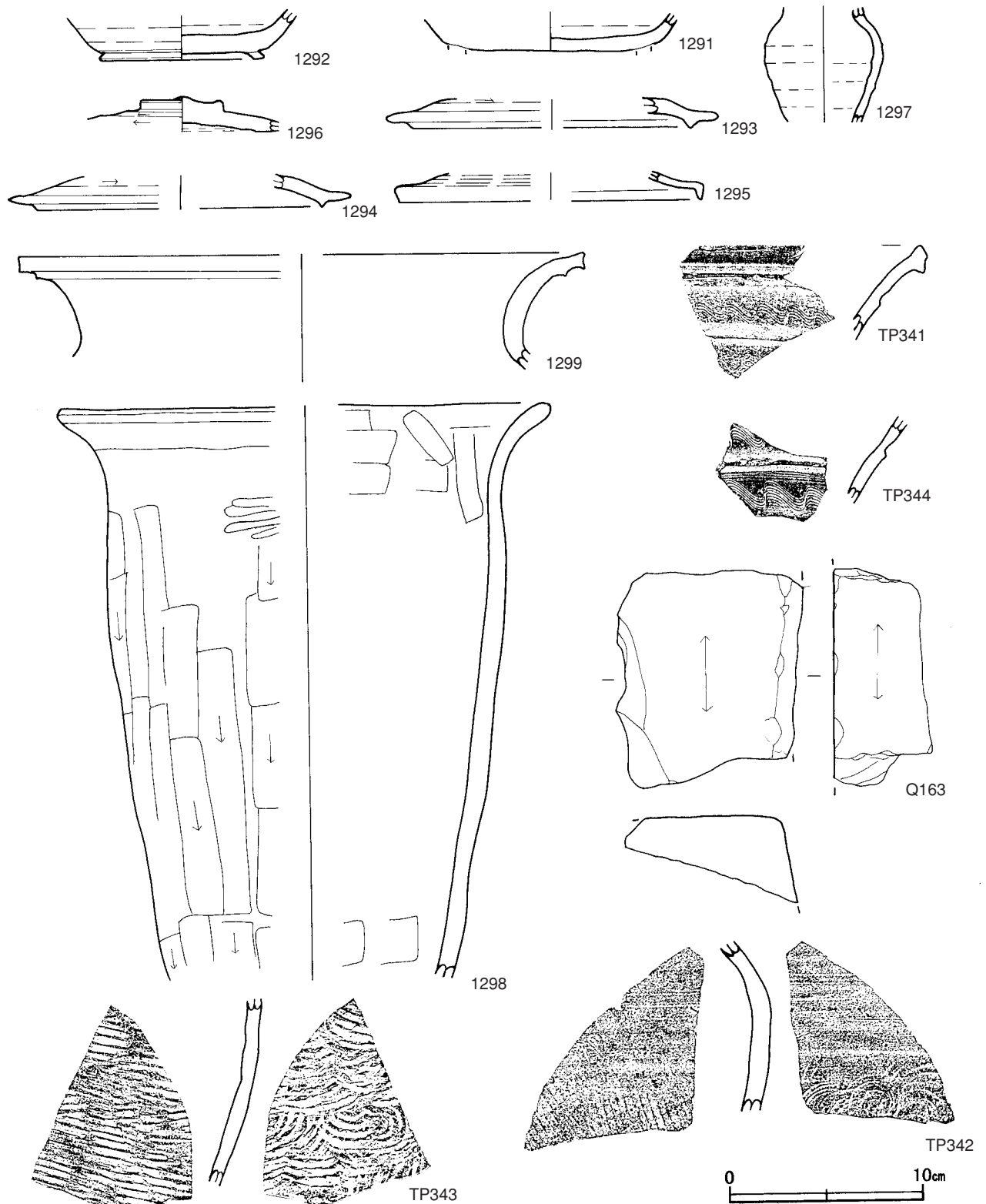
- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 (貼床構築土) |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片133点 (坏5, 甕105, 甑23), 須恵器片43点 (坏16, 高台付坏2, 蓋13, 壺1, 甕11), 石製紡錘車1点, 砥石1点, 鉄製品1点 (釘) が南部の覆土下層を中心に出土している。1297は北東コーナー部の, 1299は南部の, TP 341は南西コーナー部の, 1296は西壁際の, 1300・TP 342, Q163は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。1298は南西コーナー部と南部及び中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1292は南壁際の床面, TP 343は南部の床面, Q162は西壁際の床面からそれぞれ出土している。

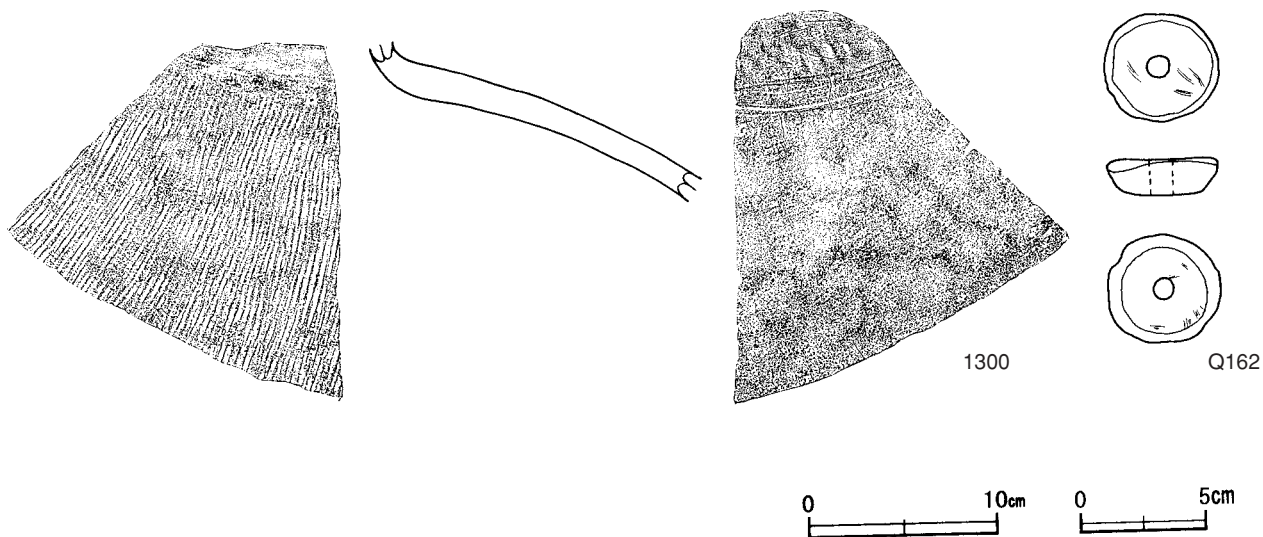


第125図 第161A号住居跡実測図

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。本跡は、第161B号住居を西側に20cmほど拡張した住居である。また、第161B号住居跡から拡張する際に柱穴を作り替えた痕跡がないことから、第161B号住居跡と同じ柱穴を使っていたものと考えられる。また、本跡の竈は、第161B号住居跡の竈とほぼ同じ位置にあることから、住居建て替え後も同じ位置に設けたと考えられる。



第126図 第161A号住居跡出土遺物実測図(1)



第127図 第161A号住居跡出土遺物実測図（2）

第161A号住居跡出土遺物観察表（第126・127図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|--------|-------|-----------|----|----|---------------------------|------|---------------------|
| 1291 | 須恵器 | 高台付坏 | — | (2.0) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り、高台貼り付痕あり | 覆土中 | 10%、堀の内窯、高台部剥離 |
| 1292 | 須恵器 | 高台付坏 | — | (2.5) | [8.3] | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 床面 | 10%、堀の内窯 |
| 1293 | 須恵器 | 蓋 | 14.2 | (1.5) | — | 石英・長石・白雲母 | 灰黄 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土中 | 10%、新治窯 |
| 1294 | 須恵器 | 蓋 | 14.6 | (1.7) | — | 石英・長石・白雲母 | 灰白 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土中 | 10%、新治窯 |
| 1295 | 須恵器 | 蓋 | [15.8] | (1.5) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 覆土中 | 5%、堀の内窯 |
| 1296 | 須恵器 | 蓋 | — | (1.8) | — | 石英・長石・白雲母 | 灰黄 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 下層 | 10%、新治窯 |
| 1297 | 須恵器 | 壺 | — | (6.0) | — | 長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 下層 | 20%、堀の内窯 |
| 1298 | 土師器 | 甗 | [25.0] | (29.7) | — | 石英・長石 | 黄褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ | 下層 | 30%、PL103 |
| 1299 | 須恵器 | 甗 | [29.0] | (6.0) | — | 長石 | 灰 | 普通 | 口縁部外面に1条の凸帯 | 下層 | 10%、堀の内窯、口縁部内面自然釉付着 |
| 1300 | 須恵器 | 甗 | — | (8.2) | — | 石英・長石・小礫 | 灰 | 普通 | 外面縦位の平行叩き、内面指頭圧痕 | 下層 | 10%、益子窯、外面自然釉付着 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|-------|----|----|------------------------------------|------|----------------|
| TP341 | 須恵器 | 甗 | 長石 | 灰 | 普通 | 口縁部外面波状沈線（4本櫛歯） | 下層 | 堀の内窯 |
| TP342 | 須恵器 | 甗 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部外面縦位の平行叩き、内面同心円の当て具痕 | 下層 | 堀の内窯、外面自然釉付着 |
| TP343 | 須恵器 | 甗 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部外面横位の平行叩き、内面同心円の当て具痕、体部外面一部自然釉付着 | 床面 | 堀の内窯 |
| TP344 | 須恵器 | 甗 | 長石 | 灰 | 普通 | 体部外面に1条の凸帯、その上下に波状沈線（7本櫛歯） | 覆土中 | 堀の内窯、体部内面自然釉付着 |

| 番号 | 器種 | 最大径 | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|------|-------|
| Q162 | 紡錘車 | 4.5 | 0.9 | 1.4 | 38.9 | 粘板岩 | 全面研磨 | 床面 | PL119 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-------|-------|---------|-----|------------|------|----|
| Q163 | 砥石 | (11.2) | (9.7) | (6.0) | (558.0) | 粘板岩 | 砥面2面、他は剥離面 | 下層 | |

第161B号住居跡（第128図）

位置 調査区西部1区のC3a1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第155・194号住居跡を掘り込み、ピット（4か所）に掘り込まれている。また、本住居の上に貼床をして第161A号住居が構築されている。

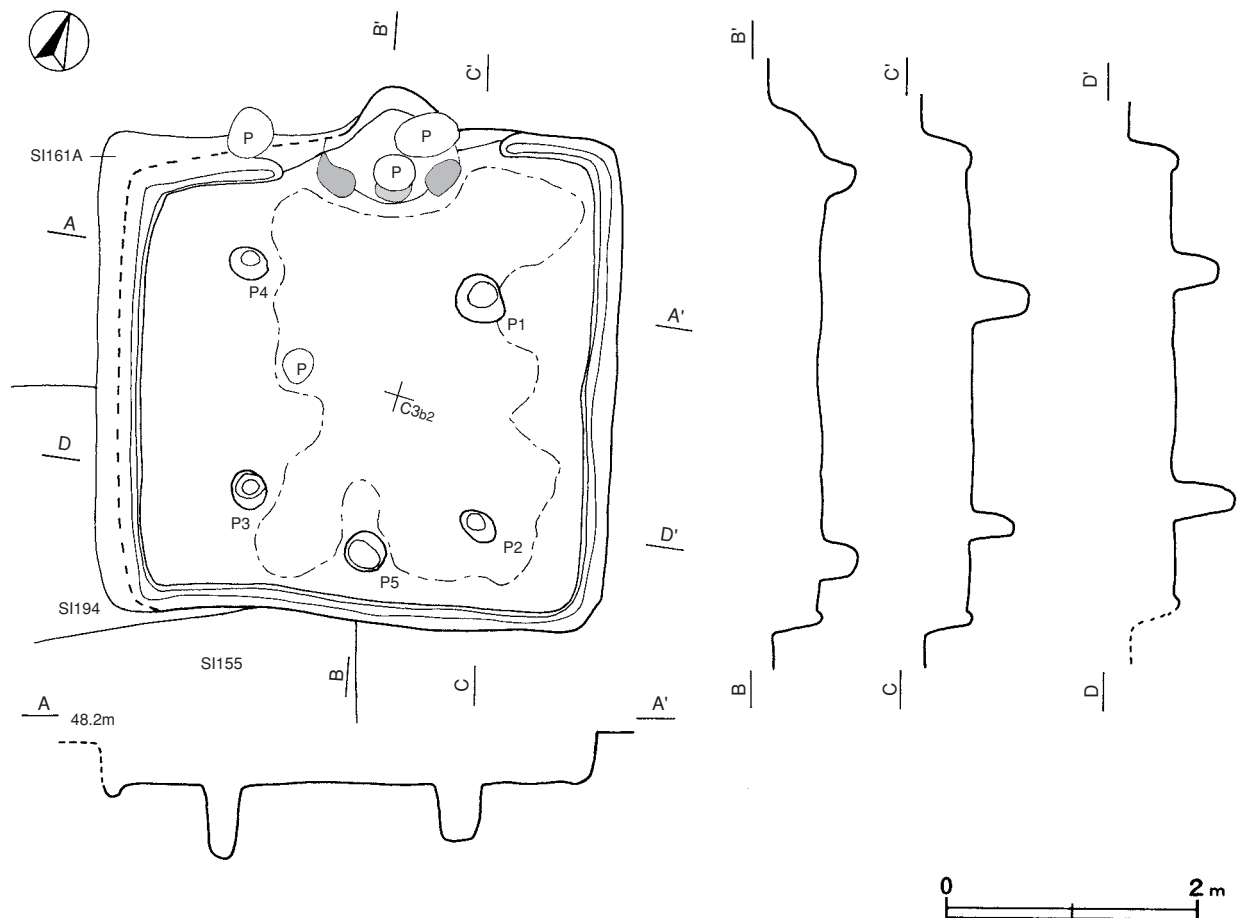
規模と形状 壁溝が確認できたことから一辺3.9mの方形であると推測した。主軸方向はN-13°-Wである。壁高は32~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、東側が踏み固められている。また、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されており、第161A号住居の竈の下に確認できたが、第161A号住居に掘り込まれているため赤変した火床部と粘土範囲が確認できただけである。粘土範囲が確認できたことから、袖は粘土で構築されていたものと考えられる。

ピット 5か所。P1~P4は深さ36~53cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ23cmで、竈に向い合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

所見 時期は、本跡から8世紀中葉と考えられる第161A号住居への建て替えが行われたことから、8世紀前葉と考えられる。



第128図 第161B号住居跡実測図

第181号住居跡（第129図）

位置 調査区西部1区のB3j7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第192号住居跡を掘り込み、第2369号土坑、第15号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 北側部分が調査区域外に延びているため、東西軸は3.1mで、南北軸は2.0mだけが確認された。南北軸を主軸とすると、N-7°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推測した。壁高は7cmである。

床 ほぼ平坦で、中央部の一部が踏み固められているほかは、全体的に軟弱である。

覆土 2層に分層される。薄いことから、堆積状況は不明である。

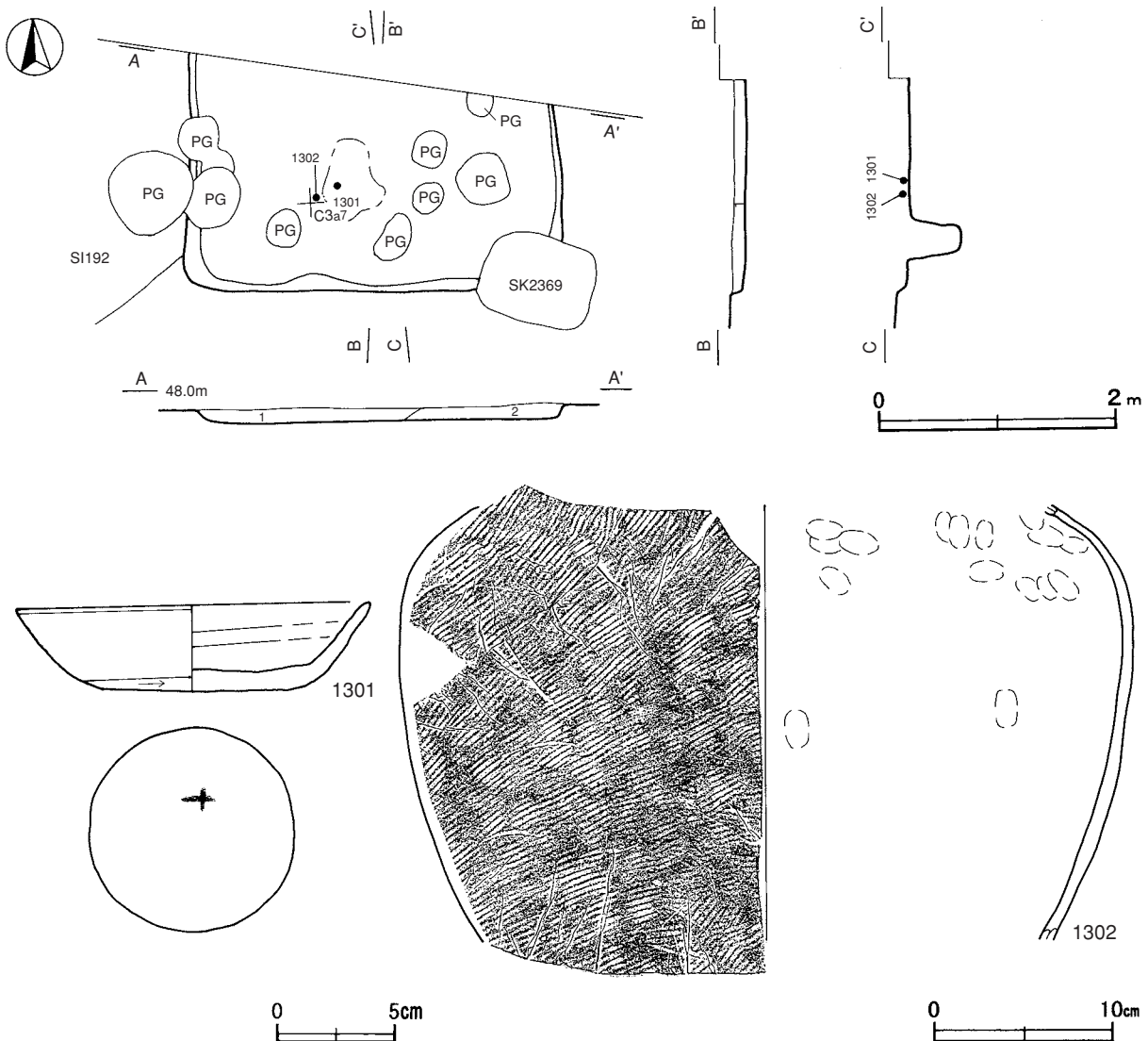
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片27点（坏4，甕23），須恵器片12点（坏3，甕9）が全域から散在した状態で出土している。1301・1302は南部の覆土下層から出土し、残存率が高く、廃絶後の早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第129図 第181号住居跡・出土遺物実測図

第181号住居跡出土遺物観察表（第129図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|------|--------|-----|-------|----|----|-------------------------|------|--------------------------|
| 1301 | 須恵器 | 坏 | 14.6 | 3.8 | 8.6 | 石英・長石 | 灰 | 良好 | 体部下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，ナデ | 下層 | 90%，堀の内窯，底部外面墨書「+」，PL105 |
| 1302 | 須恵器 | 甕 | — | (24.4) | — | 石英・長石 | 灰 | 良好 | 体部外面横位の平行叩き，内面指頭圧痕 | 下層 | 60%，堀の内窯 |

第198号住居跡（第130～132図）

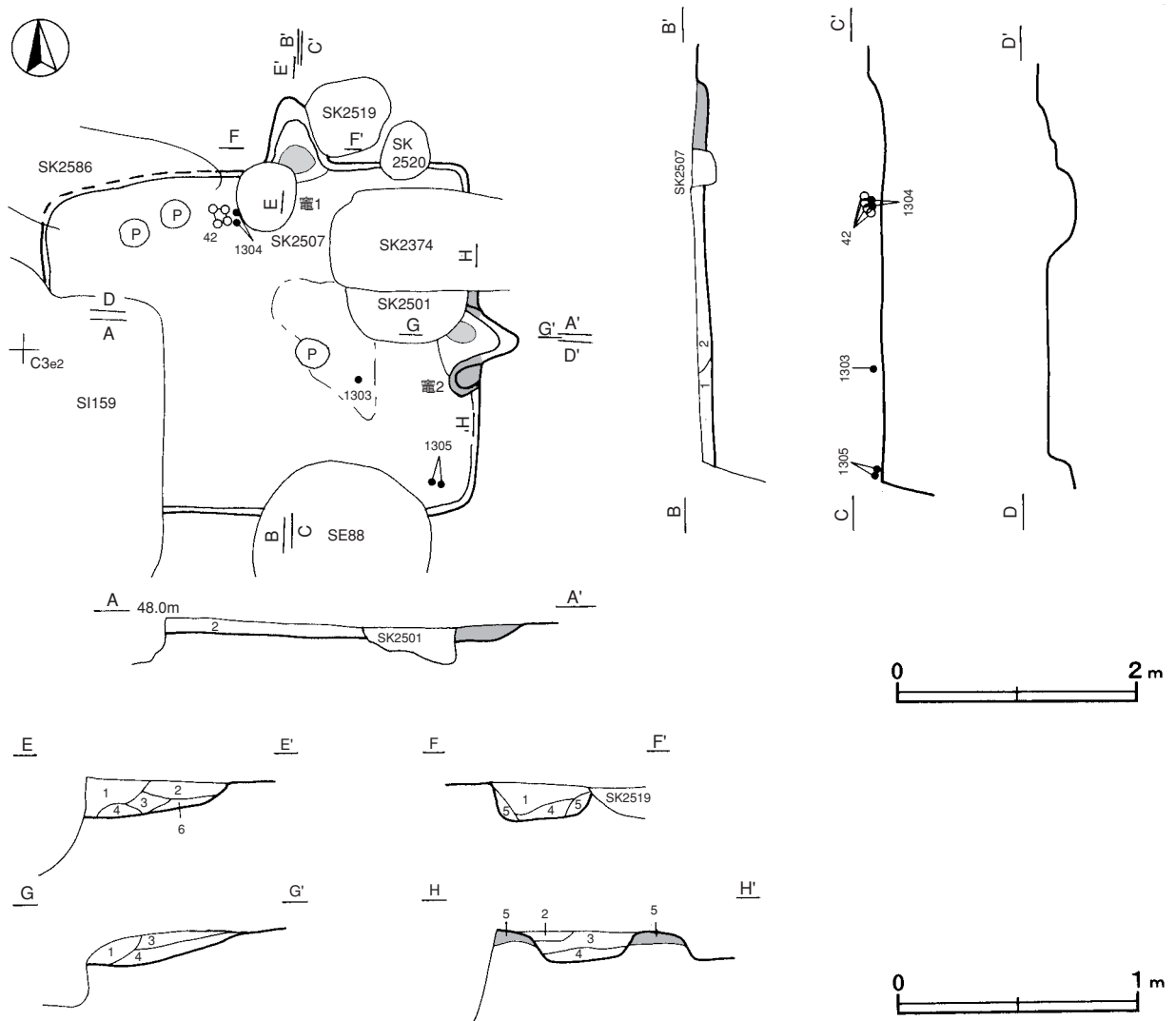
位置 調査区西部1区のC3d2区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第159号住居，第88号井戸，第2374・2501・2507・2519・2520・2586号土坑，ピット（3か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.5m，短軸2.9mの長方形で，主軸方向はN-2°-Wである。壁高は8cmほどである。

床 ほぼ平坦で，中央部が一部踏み固められている。

竈 竈1は北壁のやや東寄りに，竈2は東壁の中央部にそれぞれ付設されている。竈1は袖部が遺存せず，燃烧部に埋め戻され固められた痕跡が確認できたことから，竈2に作り替えられたと判断した。竈1は，焚口部



第130図 第198号住居跡実測図

から煙道部まで70cm，壁外への掘り込みは60cm，火床部幅は43cmである。竈の廃絶後に埋め戻されており，ロームブロックを中量含む第1層が相当する。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており，火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。竈2は，焚口部から煙道部まで68cm，壁外への掘り込みは37cm，火床部幅は36cmである。天井部は崩落しており，砂質粘土ブロックを中量含む第3層が相当する。袖部は，地山面を床面より14cm高く掘り残して基部とし，砂質粘土ブロックなどを混ぜた暗褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており，火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈1 土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |

竈2 土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

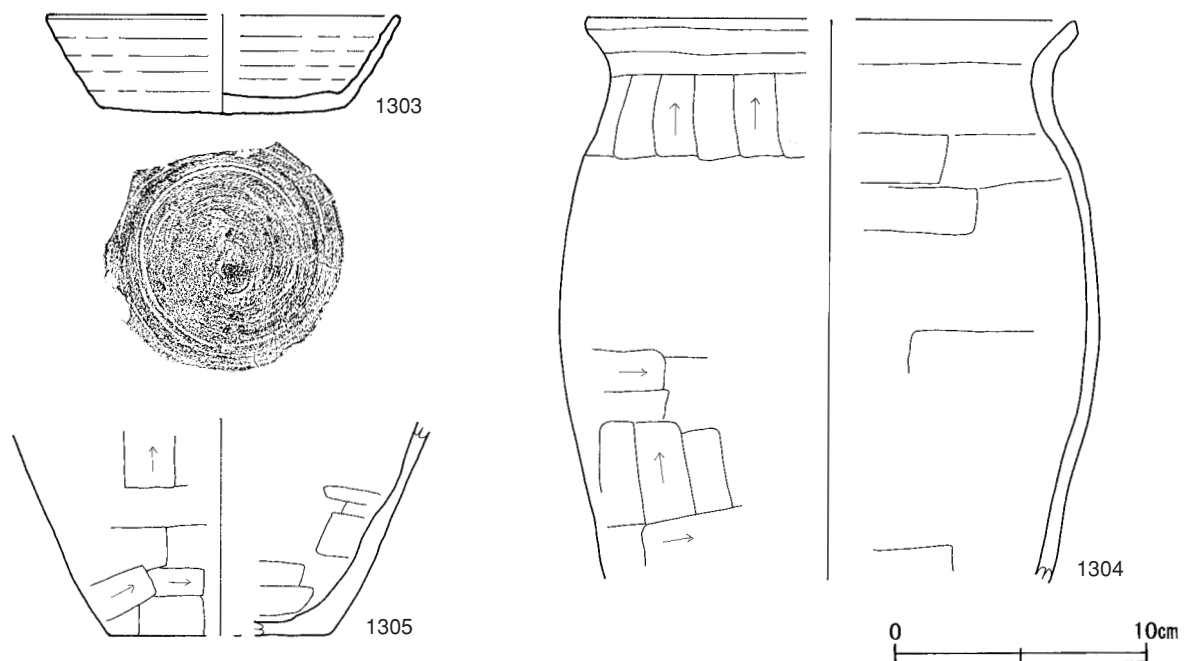
覆土 2層に分層される。薄いことから，堆積状況は不明である。

土層解説

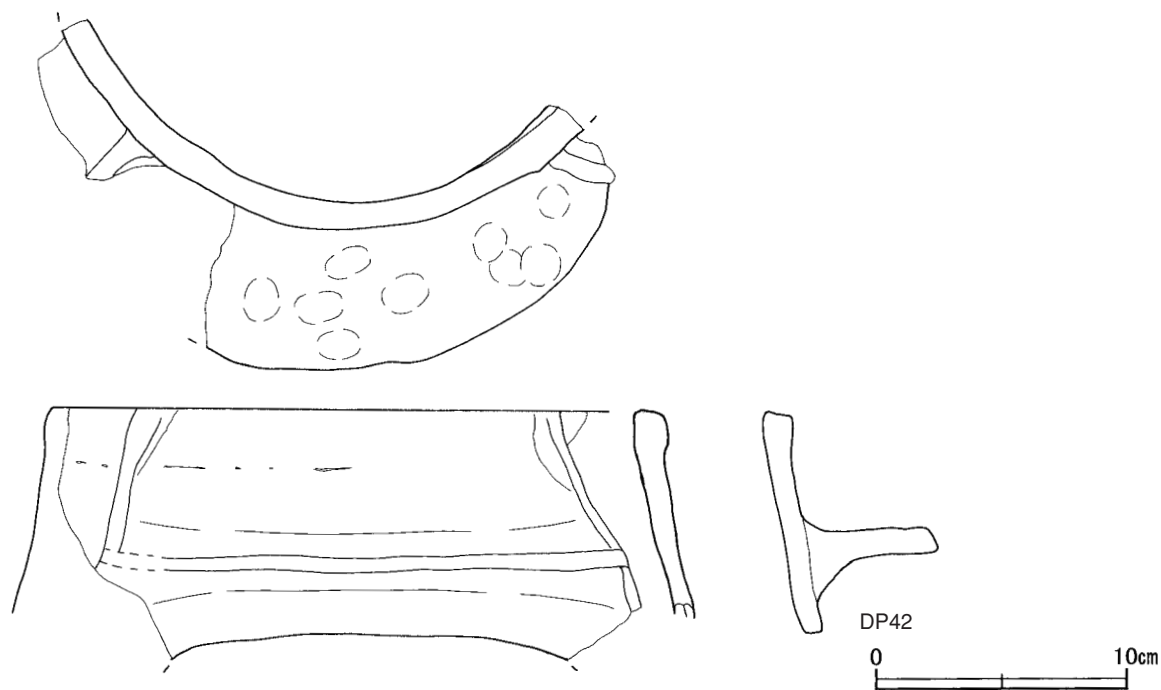
- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片88点（坏7，甕79，甗2），須恵器片5点（坏2，蓋1，甕2），土製品片23点（置き竈）が散在して出土している。1304・DP42は北壁際の覆土上層，1305は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。1303は中央部の覆土下層から出土し，残存率が高く，破断面が摩滅していないことから廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。当遺跡において異なる壁に竈を作り替えている事例は，第11号住居跡でも確認されている。しかし，奈良時代の住居跡で東壁に竈を設けているのは本跡だけである。



第131図 第198号住居跡出土遺物実測図（1）



第132図 第198号住居跡出土遺物実測図（2）

第198号住居跡出土遺物観察表（第131・132図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|--------|--------|-------|-----------|-------|----|----------------------------|------|-----------------|
| 1303 | 須恵器 | 坏 | 13.8 | 3.9 | 9.4 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 下層 | 50%, 堀の内窯 |
| 1304 | 土師器 | 甕 | [19.2] | (23.2) | — | 石英・長石 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 上層 | 20%, 体部外面 煤痕 |
| 1305 | 土師器 | 甕 | — | (8.5) | [8.5] | 石英・長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ, 底部木葉痕 | 下層 | 10% |
| DP42 | 土製品 | 置き竈 | [24.0] | (9.9) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 付け底部内外面指頭圧痕 | 上層 | 10%, PL119 |

第231号住居跡（第133・134図）

位置 調査区西部1区のC3j1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第230号住居, 第2649・2657号土坑, ピット（4か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.5m, 短軸3.3mのほぼ方形で, 主軸方向はN-5°-Eである。壁高は10~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 出入り口施設に伴うピットから竈手前にかけて踏み固められている。壁溝が周回している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。土坑に掘り込まれているため, 袖部幅116cm, 火床部幅58cmが確認されただけである。天井部は崩落しており, 竈土層断面図中の第3層が相当する。袖部は, ロームブロックや砂質粘土ブロックを混ぜた暗褐色土などを用いて構築されている。火床部は床面を12cm掘りくぼめた後, 黒褐色土などを床面と同じ高さまで埋め戻して構築している。火床面は火熱で赤変している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・ 砂質粘土ブロック微量 | 3 極暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・ 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| | | 5 褐灰色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |

6 暗 褐 色 ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量
 7 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

8 黒 褐 色 ロームブロック中量

ピット 1か所。深さ16cmで、竈と向い合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

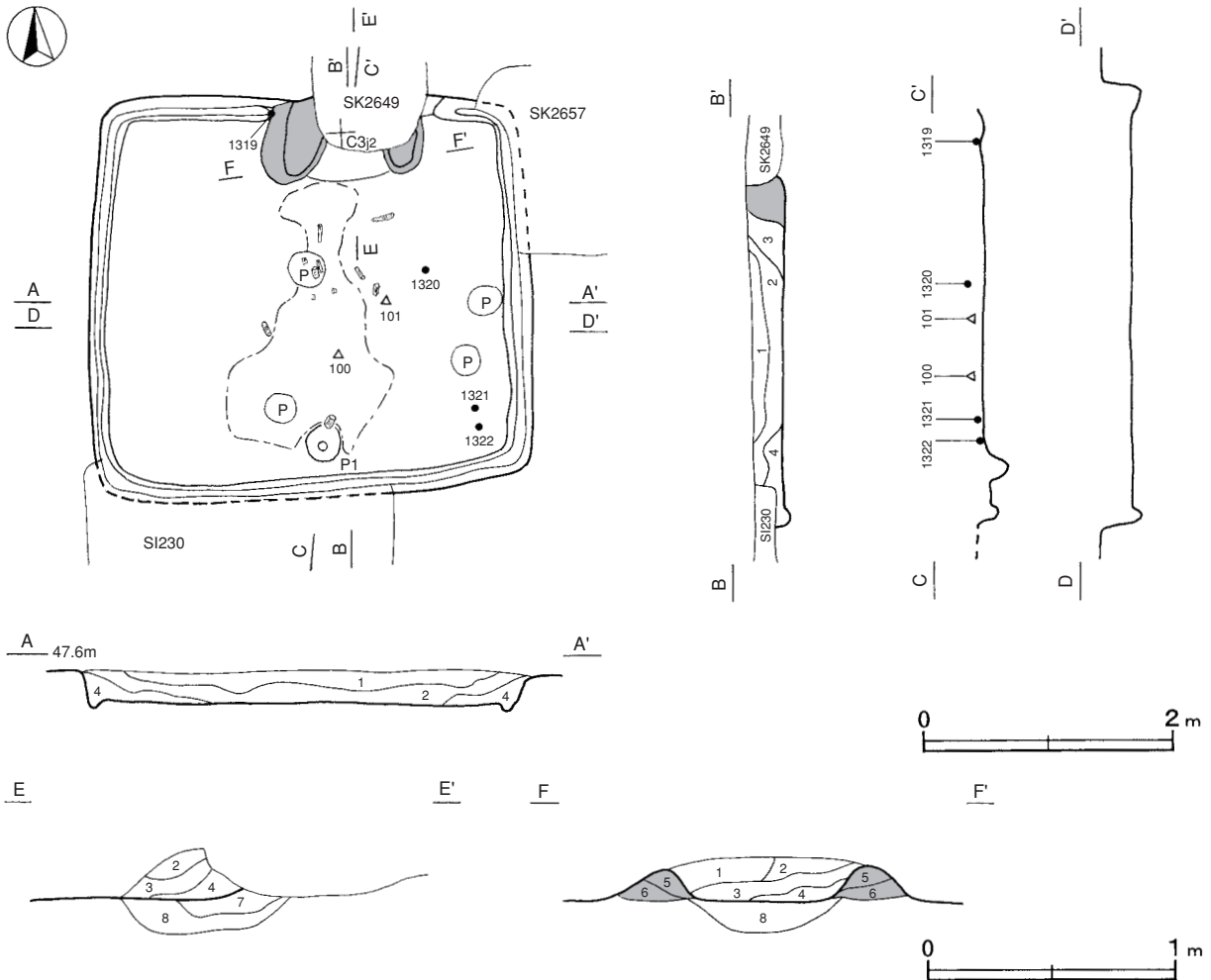
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

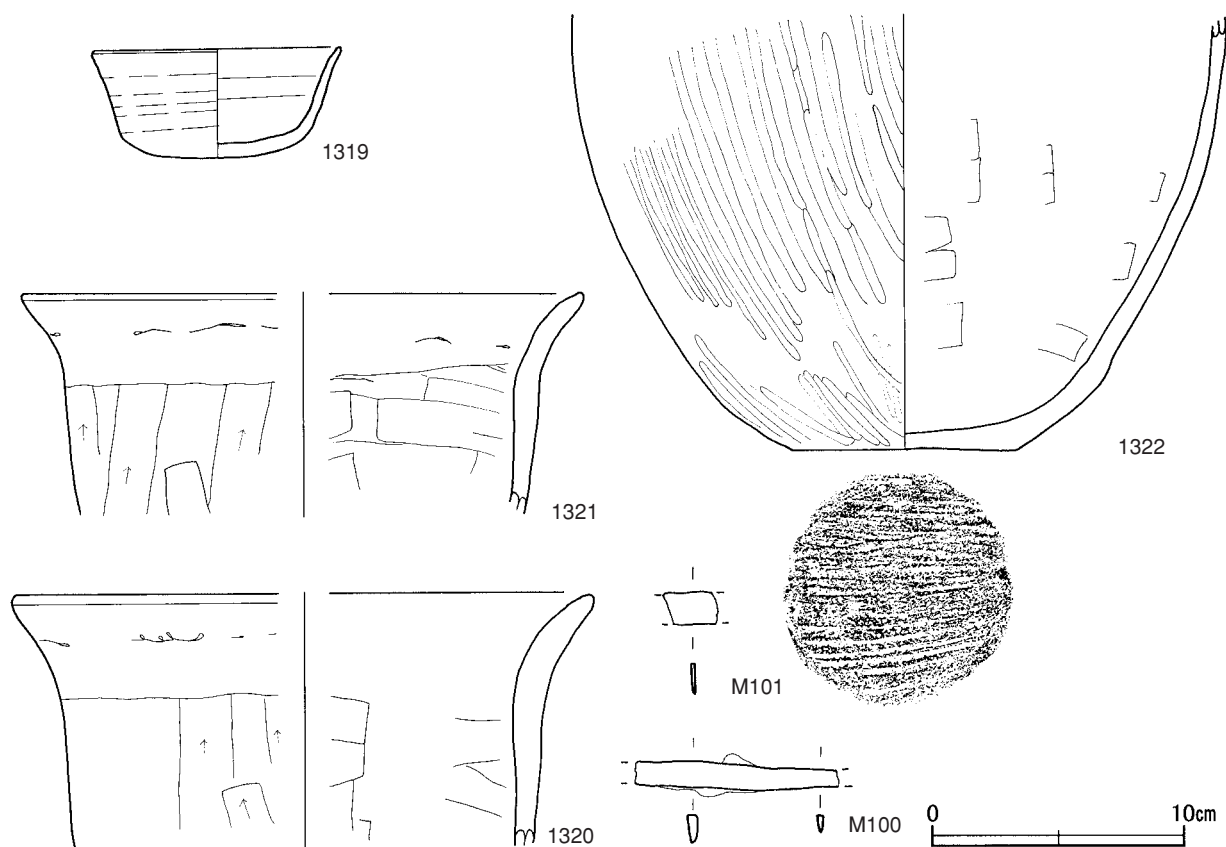
1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
 4 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片140点(甕129, 甑11), 須恵器片7点(坏4, 蓋2, 甕1), 鉄製品2点(刀子)が全域から散在した状態で出土している。1320・M100・M101は中央部の覆土上層, 1321・1322は南東コーナー部の覆土下層, 1319は左袖部横の覆土下層からそれぞれ出土している。また, 中央部の床面から炭化材が散在して出土している。直径4~6cmの加工痕を有する丸材が5本あり, 垂木材の一部と考えられるが, 他は形状をとどめていない。

所見 炭化材の出土状況や土器が床面から出土していないことから, 廃絶に伴った焼失家屋と推測される。また, 覆土に焼土ブロックや炭化粒子が含まれることから, 焼失後の早い段階で埋め戻されたと考えられる。また, 出土した土器に火災に伴う火熱痕が認められないことから, 土器類は埋め戻される段階で投棄されたものと考えられる。廃絶時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第133図 第231号住居跡実測図



第134図 第231号住居跡出土遺物実測図

第231号住居跡出土遺物観察表 (第134図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|--------|-----|-----------|------|----|--------------------|------|-----------------|
| 1319 | 須恵器 | 坏 | 9.8 | 4.4 | - | 石英・長石・白雲母 | 灰黄 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 手持ちヘラ削り | 下層 | 80%, 新治窯, PL105 |
| 1320 | 土師器 | 甑 | [22.6] | 10.0 | - | 石英・長石 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 上層 | 10% |
| 1321 | 土師器 | 甑 | [22.0] | (8.7) | - | 石英・長石 | 灰褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 下層 | 10% |
| 1322 | 土師器 | 甕 | - | (17.2) | 8.8 | 石英・長石・金雲母 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ | 下層 | 30%, 外面煤付痕 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-----|-------|----|---------------|------|-------|
| M100 | 刀子 | (8.0) | 1.0 | 0.4 | (9.2) | 鉄 | 刃部から茎部にかけての破片 | 上層 | PL121 |
| M101 | 刀子 | (2.2) | 1.3 | 0.1 | (1.2) | 鉄 | 刃部の破片, 両関 | 上層 | |

表8 奈良時代住居跡一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内部施設 | | | | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) | |
|-----|------|-----------|-------|-------------------|------------|----|------|-----|-----|-----|----|------|------------------------------------|--------|
| | | | | | | | 壁溝 | 主柱穴 | 出入口 | ピット | | | | |
| 103 | B2b2 | N-6°-E | 方形 | 3.3 × 3.1 | 12~21 | 平坦 | 全周 | - | 1 | - | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器, 石製紡錘車 | 8世紀前葉 |
| 112 | C2a2 | N-49°-W | 方形 | 5.0 × 4.9 | 8 | 平坦 | 全周 | 3 | - | - | 1 | 不明 | 須恵器 | 8世紀中葉カ |
| 115 | C1g0 | N-40°-W | 方形 | 4.5 × 4.5 | 23~28 | 平坦 | 一部 | 4 | 1 | - | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器, 鉄釘 | 8世紀中葉 |
| 131 | B2i0 | [N-15°-W] | [方・長] | 4.1 × (2.1) | 35~50 | 平坦 | 一部 | 2 | 1 | - | - | 人為 | 土師器, 須恵器, 砥石, 刀子 | 8世紀中葉 |
| 149 | B3j2 | N-7°-W | 方形 | 3.8 × 3.8 | 32~35 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | - | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器 | 8世紀後葉 |
| 154 | C2f2 | N-31°-W | 方形 | 6.7 × 6.2 | 22~32 | 平坦 | 一部 | 4 | 1 | 7 | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器, 土製支脚, 石製紡錘車, 刀子, 鉄製鎌, 鉸具 | 8世紀中葉 |

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内 部 施 設 | | | | | 覆土 | 出 土 遺 物 | 備 考 (時 期) |
|------|------|----------|-------|-------------------|------------|----|---------|-----|-----|-----|---|----|----------------|--------------|
| | | | | | | | 壁溝 | 主柱穴 | 出入口 | ピット | 竈 | | | |
| 161A | C3a1 | N-13°-W | 方形 | 4.1 × 3.9 | 30~35 | 平坦 | 一部 | 4 | 1 | - | 1 | 人為 | 須恵器, 石製紡錘車, 砥石 | 8世紀中葉 |
| 161B | C3a1 | N-13°-W | [方形] | 3.9 × (3.9) | 32~40 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | - | 1 | - | | 8世紀前葉 |
| 181 | B3j7 | [N-7°-E] | [方・長] | 3.1 × (2.0) | 7 | 平坦 | - | - | - | - | - | 不明 | 須恵器 | 8世紀中葉 |
| 198 | C3d2 | N-2°-W | 長方形 | 3.5 × 2.9 | 8 | 平坦 | - | - | - | - | 2 | 不明 | 土師器, 須恵器, 置き竈 | 8世紀中葉 |
| 231 | C3j1 | N-5°-E | 方形 | 3.5 × 3.3 | 10~24 | 平坦 | 全周 | - | 1 | - | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器, 刀子 | 8世紀前葉 |

4 平安時代の遺構と遺物

竪穴住居跡42軒, 井戸跡1基, 土坑7基を確認した。以下, 遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第105号住居跡 (第135図)

位置 調査区西部2区のB2i3区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第125号住居跡を掘り込み, 第84号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.2m, 短軸3.0mのほぼ方形で, 主軸方向はN-1°-Eである。壁高は15~20cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 出入り口施設に伴うピットの周囲及び竈の左袖部の南側が踏み固められている。壁溝は, 東壁際から西壁際にかけて巡っている。

竈 北壁のやや東側に付設されており, 焚口部から煙道部まで80cm, 壁外への掘り込みは26cm, 袖部幅は92cm, 火床部幅は58cmである。天井部は崩落しており, 土層断面図中の第2・3層が相当する。袖部及び火床部は床面から5~9cmほど掘りくぼめた後, 褐色土を床面と同じ高さまで埋め戻して構築されている。袖部は砂質粘土ブロックを主とする暗褐色土によって構築されている。火床面は火熱で赤変しているが, 軟質である。また, 煙道部は砂質粘土を貼り付けて構築されており, 急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | |
|--------|---------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量 | 8 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量 | 11 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |

ピット 1か所。深さ11cmで, 竈と向い合う位置にあり, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

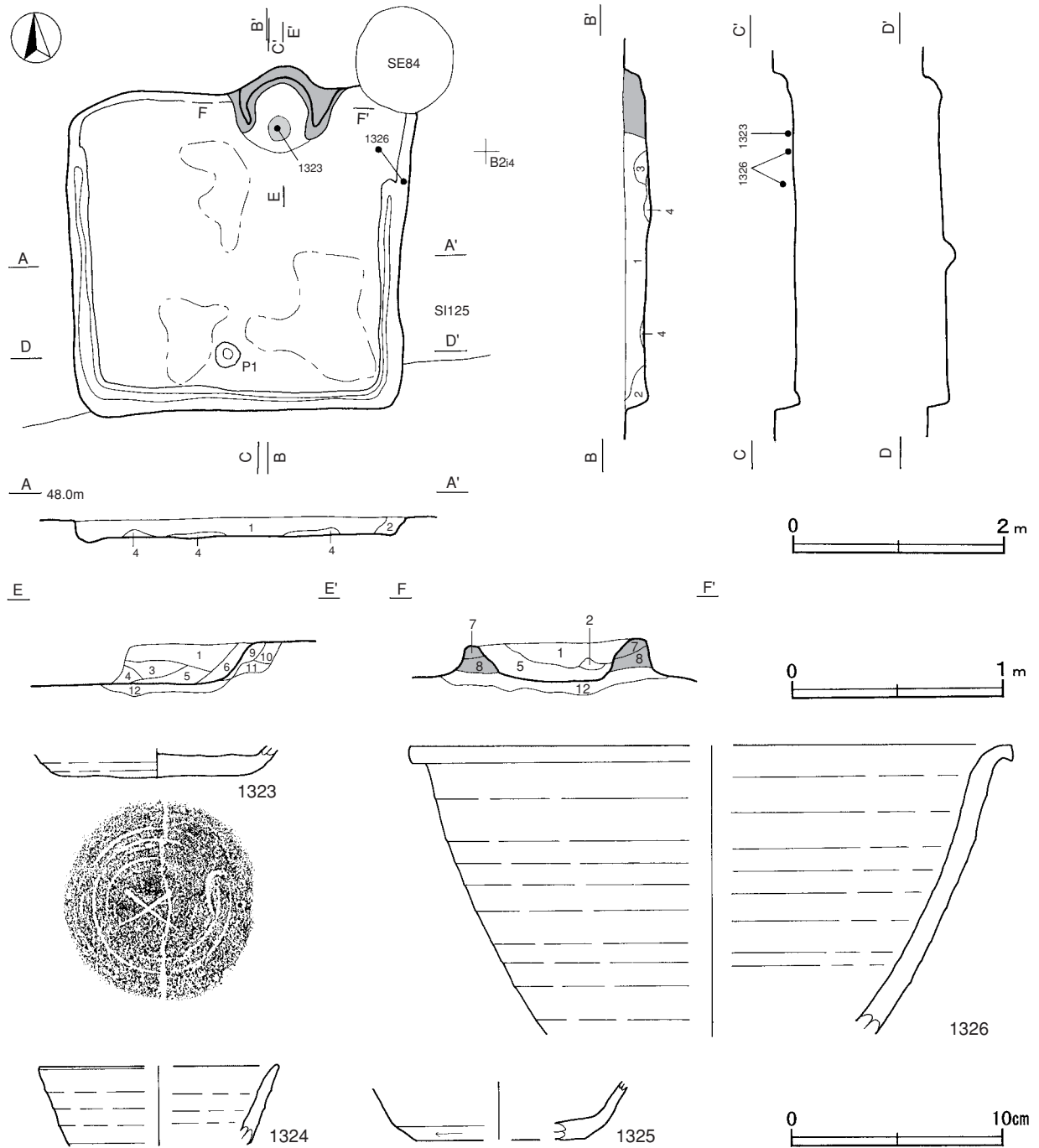
覆土 4層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

| | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片213点 (坏32, 蓋1, 甕180), 須恵器片9点 (坏7, 鉢2) が出土しているが, ほとんど細片であり, 廃絶後の埋め戻しの際に混入したのと考えられる。1326は北東コーナー部の覆土下層から出土し, 破断面が摩滅していないことから, 住居廃絶時の早い段階で投棄されたのと考えられる。1323は竈の火床面部から逆位で出土し, 火熱痕があることから支脚に転用されたのと考えられる。

所見 時期は、底部径の大きな土師器の坏が竈の火床面から出土していることから、9世紀後半と考えられる。



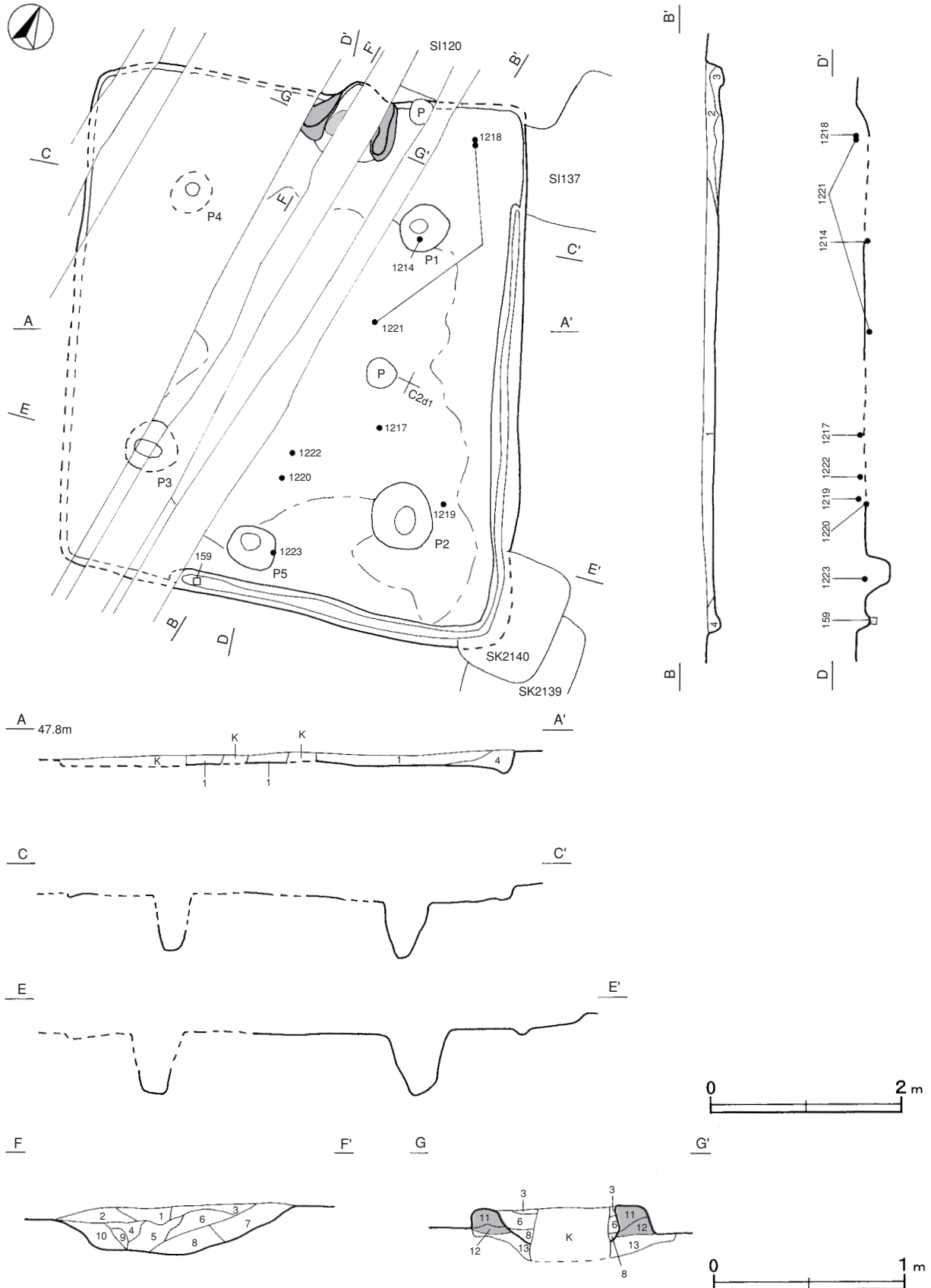
第135図 第105号住居跡・出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表 (第135図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|--------|-------|-------|----|----|------------|------|-------------------------------|
| 1323 | 土師器 | 坏 | - | (1.4) | 9.0 | 長石 | 橙 | 普通 | 底部回転ヘラ削り | 竈火床部 | 30%, 底部外面 ヘラ記号「×」 PL118 |
| 1324 | 須恵器 | 坏 | [11.2] | (3.8) | - | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部ロクロナデ | 覆土中 | 10%, 堀の内窯 |
| 1325 | 須恵器 | 坏 | - | (2.8) | [7.8] | 長石 | 灰黄 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 覆土中 | 10%, 堀の内窯 |
| 1326 | 須恵器 | 鉢 | [28.2] | (13.7) | - | 長石 | 灰 | 良好 | 体部ロクロナデ | 下層 | 20%, 堀の内窯 |

第111号住居跡 (第136~138図)

位置 調査区西部2区のC 1c0区で、台地上の平坦部に位置している。



第136図 第111号住居跡実測図

重複関係 第137号住居跡を掘り込み、第120号住居、第2139・2140号土坑、ピット（2か所）に掘り込まれている。

規模と形状 半分ほどが、耕作による攪乱を受けている。長軸5.7m、短軸4.3mの長方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は5~18cmである。

床 ほぼ平坦で、踏み固められている。壁溝は東壁際から南壁際にかけて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。攪乱を受けているため、壁外への掘り込み18cm、火床部幅57cmが確認されただけである。袖部及び火床部は床面から3~25cm掘りくぼめた後、3~10cm粘土粒子混じりのローム土を埋め戻して構築している。袖部はロームブロックを主とする褐色土を基部にして、粘土ブロックを貼り付けて構築されている。火床部は深さ20cmの皿状を呈し、火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部は外傾して緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | |
|---------|------------------------------------|----------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス微量 | 7 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス少量 |
| 2 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・鹿沼バミス微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・鹿沼バミス微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス微量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス微量 |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、鹿沼バミス微量 | 10 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック・砂粒微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 灰褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・砂粒少量 |
| 6 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・鹿沼バミス微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| | | 13 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量、砂粒・鹿沼バミス微量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ60~70cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ25cmで、竈に向い合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

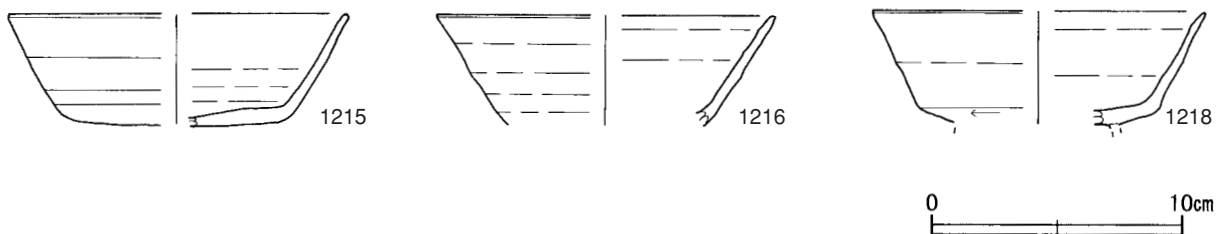
覆土 4層に分層される。薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

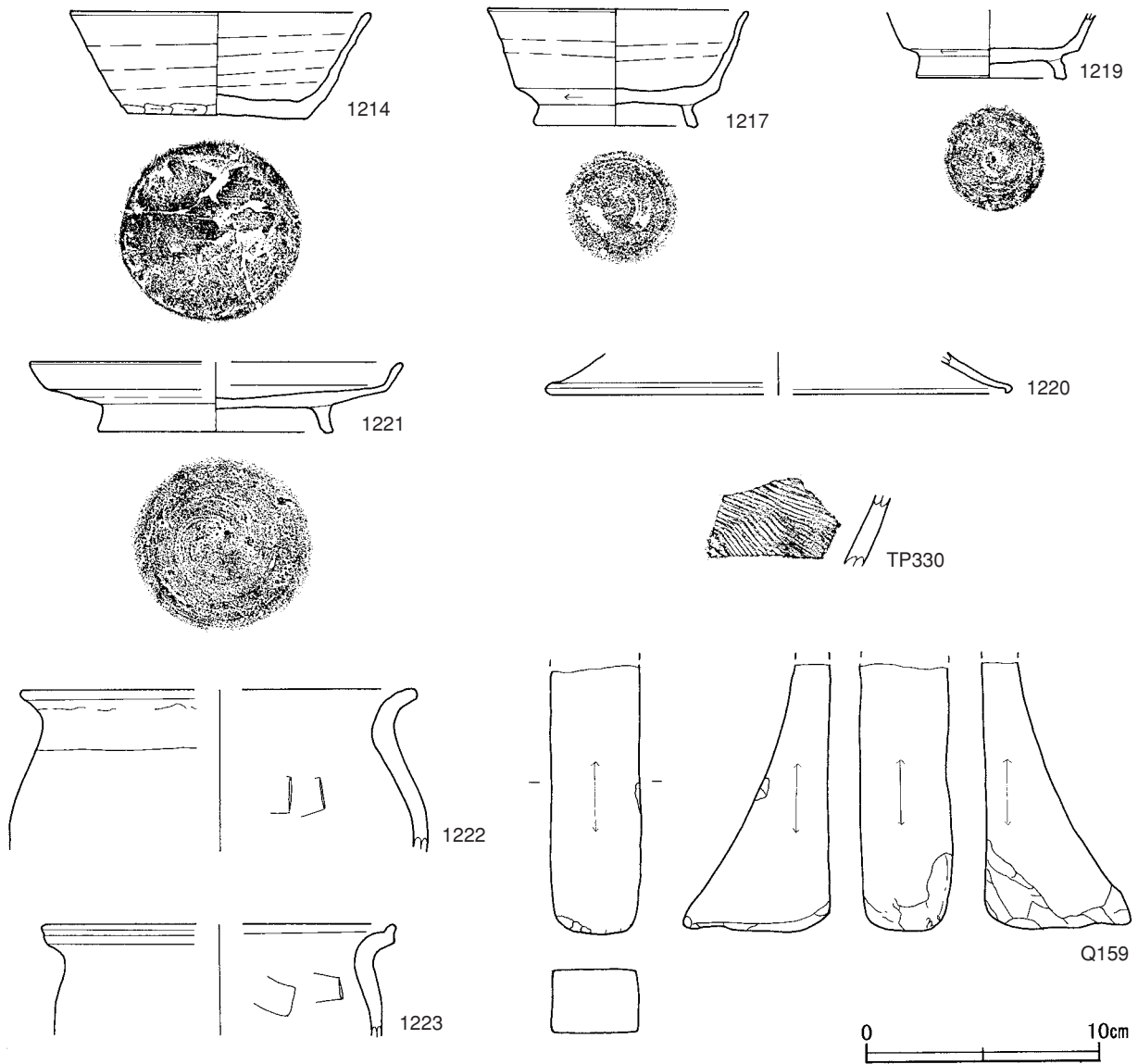
| | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|--|
| 1 黒褐色 | 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・鹿沼バミスブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 鹿沼バミスブロック・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片134点（甕）、須恵器片37点（坏21、高台付坏4、蓋7、盤2、甕3）、石器1点（砥石）が出土している。特に東側部分からの出土が多い。1218は北東コーナー部の覆土上層、1219は南東部の覆土上層、1217・1222は中央部の覆土下層、1220は中央部の床面からそれぞれ出土している。1221は北東コーナー部の覆土上層と中央部の床面から出土した破片が接合したものであり、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。Q159は南部の壁溝の覆土下層から出土している。1214はP1の覆土中、1223はP5の覆土中から出土しており、柱抜き取り後の早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 調査区内の9世紀代の住居では最も大形である。廃絶時期は、出土土器の形状から9世紀前葉と考えられる。



第137図 第111号住居跡出土遺物実測図（1）



第138図 第111号住居跡出土遺物実測図（2）

第111号住居跡出土遺物観察表（第137・138図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|--------|-----------|-------|----|--------------------|---------|------------------|
| 1214 | 須恵器 | 坏 | 12.7 | 4.6 | 7.1 | 石英・長石 | 黄灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り | P 1 覆土中 | 90%、堀の内窯、PL105 |
| 1215 | 須恵器 | 坏 | [13.3] | 4.5 | [8.0] | 石英・長石 | 灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 覆土中 | 30%、堀の内窯 |
| 1216 | 須恵器 | 坏 | [13.3] | (4.4) | — | 石英・長石 | 暗灰黄 | 普通 | 体部ロクロナデ | 覆土中 | 20%、堀の内窯 |
| 1217 | 須恵器 | 高台付坏 | 11.0 | 5.0 | 6.8 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 下層 | 80%、堀の内窯、PL105 |
| 1218 | 須恵器 | 高台付坏 | [13.0] | (4.6) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 上層 | 30%、堀の内窯 |
| 1219 | 須恵器 | 高台付坏 | — | (2.9) | 6.4 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 上層 | 30%、堀の内窯 |
| 1220 | 須恵器 | 蓋 | [19.4] | (1.8) | — | 長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 床面 | 10%、堀の内窯、内面自然釉付着 |
| 1221 | 須恵器 | 盤 | [15.7] | 3.0 | 10.0 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 上層・床面 | 70%、堀の内窯 |
| 1222 | 土師器 | 甕 | [16.5] | (6.9) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | 下層 | 5% |
| 1223 | 土師器 | 甕 | [14.8] | (4.8) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | P 5 覆土中 | 5% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|----|----|----|-----------|------|------|
| TP330 | 須恵器 | 甕 | 長石 | 灰 | 普通 | 外面斜位の平行叩き | 覆土中 | 堀の内窯 |

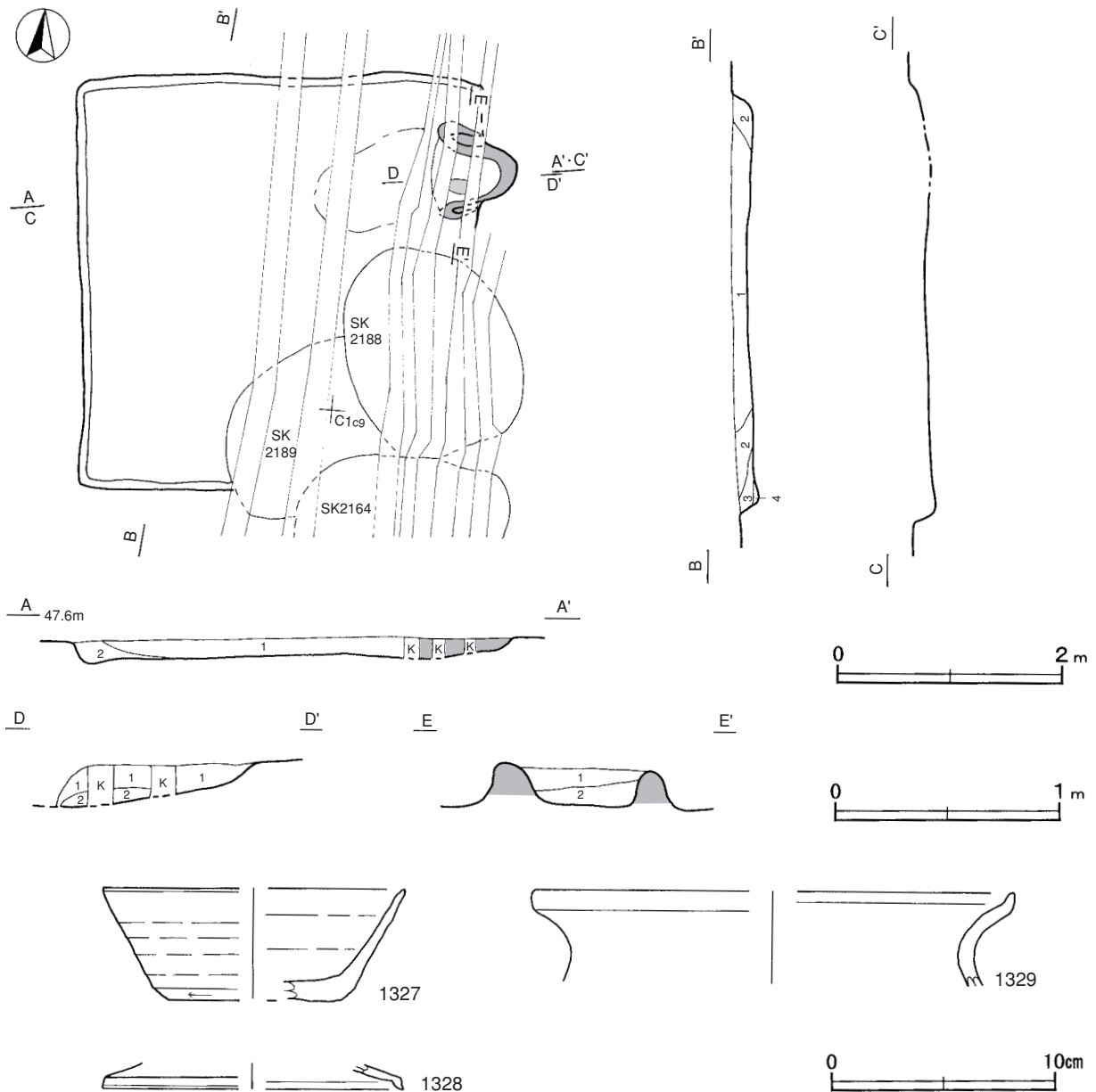
| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-----|-----|---------|-----|-------------|------|-------|
| Q159 | 砥石 | (11.5) | 4.0 | 6.3 | (295.0) | 凝灰岩 | 砥面4面, 断面長方形 | 壁溝下層 | PL120 |

第113号住居跡 (第139図)

位置 調査区西部2区のC1b8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2164・2188・2189号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.6mの方形で、主軸方向はN-83°-Eである。壁高は15cmで、外傾して立ち上がっている。



第139図 第113号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、竈の正面が踏み固められているほかは、全体的に軟質である。

竈 東壁の北側に付設されている。攪乱を受けているため、焚口部から煙道部まで76cm、袖部幅84cm、火床部幅48cmが確認された。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火床面が火熱で赤変しているが軟質である。煙道部は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 鹿沼パミス微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス少量

覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック微量 3 黒褐色 鹿沼パミスブロック少量, ロームブロック微量
2 極暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック微量 4 暗褐色 鹿沼パミスブロック中量, ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片137点（坏5，甕132），須恵器片28点（坏18，蓋4，甕6）が、全域から散在して出土しているが、そのほとんどは細片である。図示した土器は、すべて覆土中から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。

第113号住居跡出土遺物観察表（第139図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|-------|----------|----|----|------------|------|-----------|
| 1327 | 須恵器 | 坏 | [13.4] | 5.0 | [7.6] | 石英・長石・小礫 | 黄灰 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 覆土中 | 25%, 益子窯 |
| 1328 | 須恵器 | 蓋 | [13.2] | (1.2) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 覆土中 | 10%, 堀の内窯 |
| 1329 | 土師器 | 甕 | [21.1] | (4.1) | — | 石英・長石 | 橙 | 良好 | 口縁部横ナデ | 覆土中 | 10% |

第116号住居跡（第140・141図）

位置 調査区西部2区のC2d3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第117号住居跡を掘り込み、第130号住居に覆土上層のほとんどを掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.8m、短軸3.5mの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は8~14cmで、各壁とも直立して立ち上がっている。

床 西側が緩やかに傾斜し、ピットの内側がよく踏み固められている。壁溝は周回している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで103cm、壁外への掘り込みは40cm、袖部幅は116cm、火床部幅は52cmである。天井部は崩落しており、粘土ブロックを含む第1・2・4層が相当する。袖部は砂質粘土ブロックを混ぜて構築され、砂質粘土ブロックを含む第10層が袖の芯材と考えられる。火床部は8cmほど皿状に掘りくぼめられ、火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 明褐灰色 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化物微量 7 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗赤褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 8 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量
4 明褐灰色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量 10 褐灰色 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子微量
5 暗赤褐色 焼土ブロック多量 11 極暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
6 極暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット 3か所。P1・P2は深さ31cmと45cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ30cmで、竈と向い合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

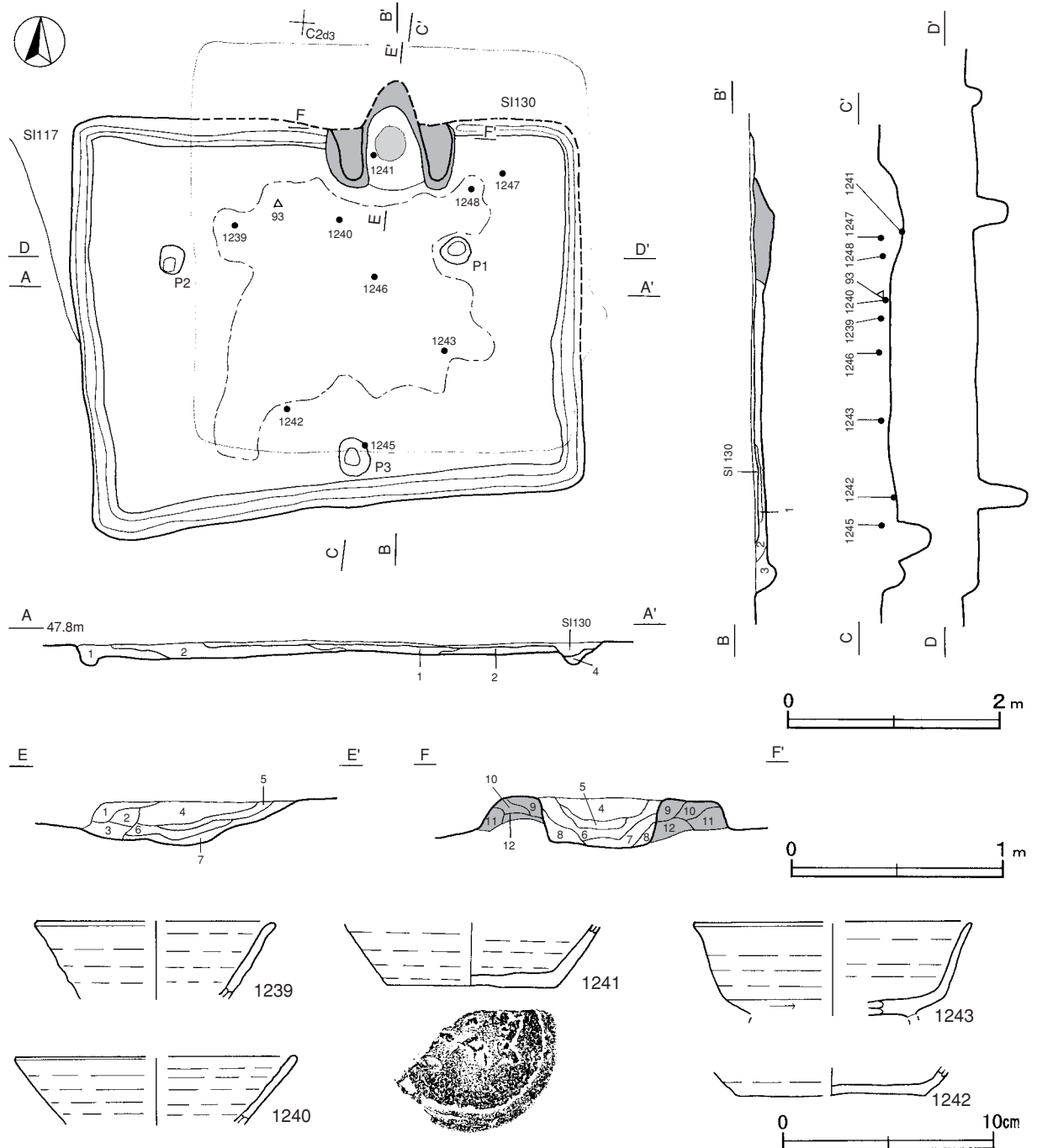
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 焼土ブロック微量

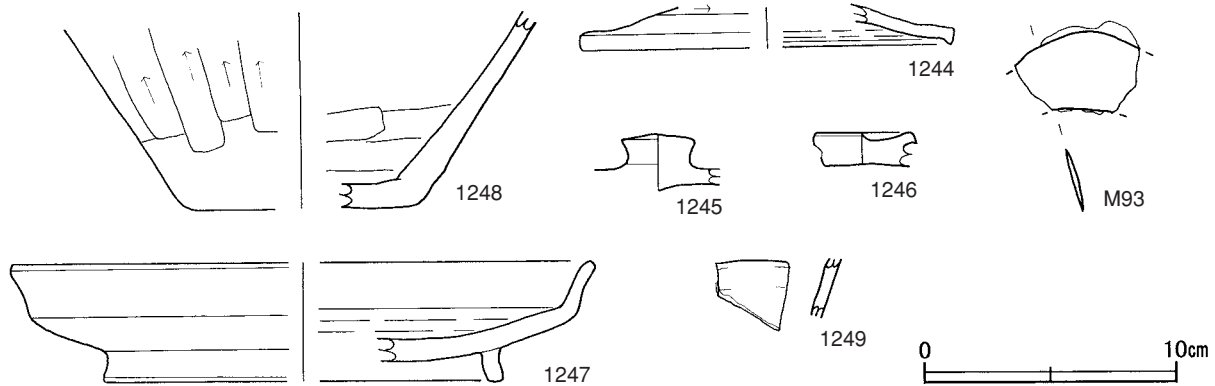
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片405点（坏104, 甕300, 甑1）, 須恵器片41点（坏25, 高台付坏2, 蓋11, 盤2, 甕1）, 灰釉陶器片1点（瓶カ）, 鉄製品1点（鎌）が出土している。遺物は全域に散在しており, そのほとんどが細片である。土師器坏は古墳時代のものであり, 埋め戻しの際に混入したものと考えられる。1239・M93は北西部の, 1243・1246は中央部の, 1245は南部の, 1247・1248は北東部の覆土上層からそれぞれ出土している。1240は竈手前の覆土下層, 1242は中央部床面からそれぞれ出土している。1241は竈火床部から逆位で出土し, 火熱痕が認められるため, 竈の支脚として使用されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第140図 第116号住居跡・出土遺物実測図



第141図 第116号住居跡出土遺物実測図

第116号住居跡出土遺物観察表（第140・141図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|------|--------|-------|--------|-----------|---------|----|-------------------|------|---------------------|
| 1239 | 須恵器 | 坏 | [11.1] | (3.7) | - | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部ロクロナデ | 上層 | 10%, 堀の内窯 |
| 1240 | 須恵器 | 坏 | [13.1] | (3.2) | - | 長石 | 灰 | 普通 | 体部ロクロナデ | 下層 | 10%, 堀の内窯 |
| 1241 | 須恵器 | 坏 | - | (3.0) | [8.0] | 石英・長石 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 竈火床部 | 30%, 堀の内窯, 火熱痕 |
| 1242 | 須恵器 | 坏 | - | (1.4) | [8.8] | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, ナデ | 床面 | 15%, 堀の内窯 |
| 1243 | 須恵器 | 高台付坏 | [12.8] | (4.4) | - | 石英・長石・小礫 | 外灰黒・内灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け | 上層 | 30%, 益子窯, 高台部剥離 |
| 1244 | 須恵器 | 蓋 | [14.6] | (1.6) | - | 長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土中 | 10%, 堀の内窯, 天井部外面に墨痕 |
| 1245 | 須恵器 | 蓋 | - | (2.2) | - | 石英・長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 上層 | 10%, 堀の内窯 |
| 1246 | 須恵器 | 蓋 | - | (1.4) | - | 石英・長石 | 灰 | 普通 | ロクロナデ | 上層 | 10%, 堀の内窯 |
| 1247 | 須恵器 | 盤 | [22.7] | 4.8 | [15.6] | 長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け | 上層 | 30%, 堀の内窯 |
| 1248 | 土師器 | 甕 | - | (7.8) | [9.2] | 石英・長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 上層 | 20% |
| 1249 | 灰釉陶器 | 瓶カ | - | (2.3) | - | 緻密 | 灰白 | 良好 | 体部ロクロナデ, 未施釉部分の破片 | 覆土中 | 5%, 猿投産(黒笹90号窯式) |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|----|-------|-----|-----|--------|----|----------------|------|----|
| M93 | 鎌 | (5.0) | 3.1 | 0.2 | (12.7) | 鉄 | 刃部の破片, 刃部は若干彎曲 | 上層 | |

第118号住居跡（第142図）

位置 調査区西部2区のC2 a3区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第112・127号住居跡を掘り込み, 第2233号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で確認されたため, 黒褐色を呈した床面の広がりから, 長軸3.1m, 短軸2.6mの長方形と推測した。竈のある方向を主軸方向とすると, 主軸方向はN-101°-Eである。

床 ほぼ平坦で, 竈手前から中央部にかけて踏み固められている。

竈 東壁の南寄りに付設されているが, 袖部は遺存せず, 火床部だけが確認できた。火床部は18cm掘りくぼめられ皿状を呈し, 火床面が火熱で赤変硬化している。

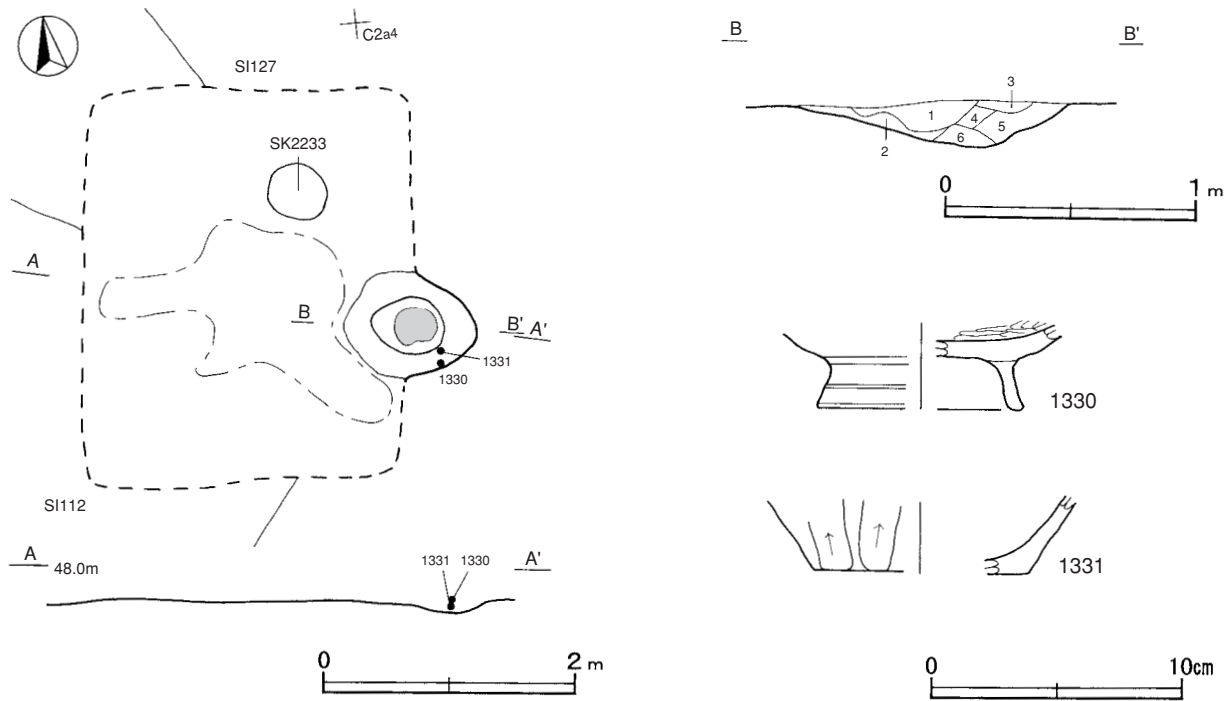
竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量, ロームブロック・砂粒・鹿沼バミス微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・鹿沼バミス微量

- 3 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 5 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片17点(坏5, 高台付碗11, 甕1), 須恵器片1点(甕)が竈を中心に出土している。1330・1331は竈右袖部内から出土し, 部分的には火熱痕が認められたが, 出土位置から袖部材に転用されたものと考えられる。

所見 時期は, 竈から出土した土器から, 10世紀前半と考えられる。



第142図 第118号住居跡・出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表 (第142図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|----|-------|-------|-----------|-----|----|----------|------|------------|
| 1330 | 土師器 | 高台付碗 | — | (3.4) | [8.0] | 白雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 高台部に沈線 | 右袖部内 | 10%, 内面火熱痕 |
| 1331 | 土師器 | 甕 | — | (3.1) | [8.5] | 石英・長石・白雲母 | 橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り | 右袖部内 | 5% |

第119号住居跡 (第143図)

位置 調査区西部2区のC2c3区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第117号住居跡を掘り込んでいる。

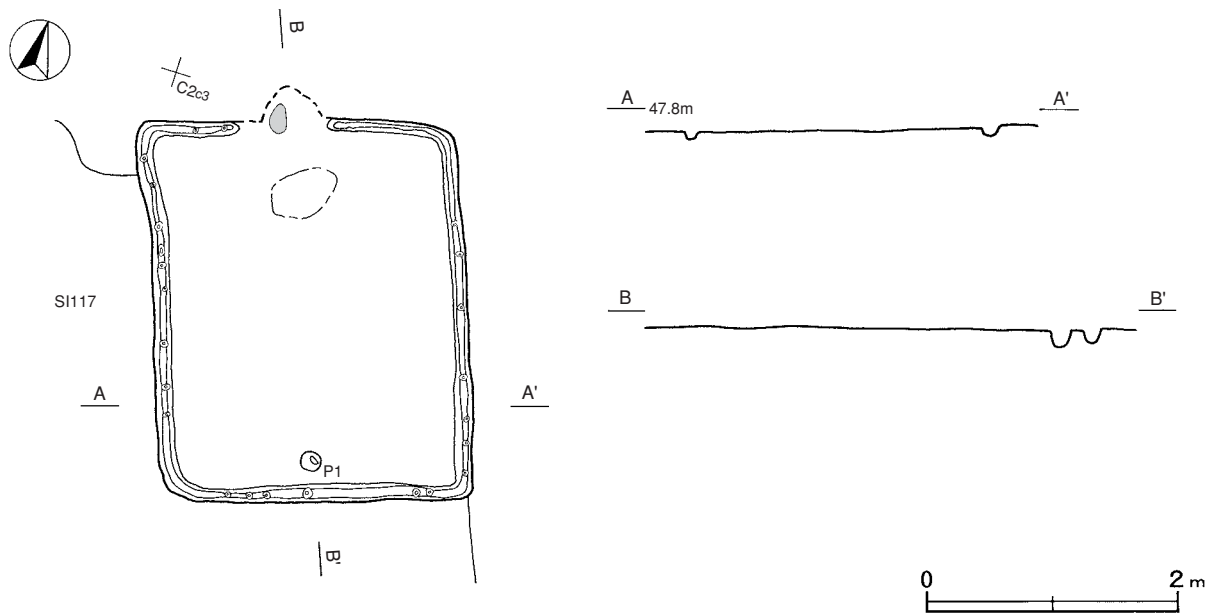
規模と形状 床面が露出した状況で確認されたため, 竈の位置と壁溝から長軸3.0m, 短軸2.5mの長方形で, 主軸方向はN-22°-Wと推測した。

床 竈手前がわずかに踏み固められているだけで, 詳細は不明である。壁溝が周回している。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。遺存状態が悪く, 火床面だけが確認された。竈材も不明である。

ピット 25か所。P1は深さ13cmで, 竈と向い合う位置にあり, 出入口施設に伴うピットと考えられる。壁溝内に確認できた24か所の小ピットは深さ4~7cmで, 壁柱穴と考えられる。

所見 時期は、7世紀前葉と考えられる第117号住居跡を掘り込み、当遺跡から確認された奈良時代及び平安時代の住居に規模や形状が酷似するものがあることから、奈良時代もしくは平安時代と考えられる。



第143図 第119号住居跡実測図

第120号住居跡（第144図）

位置 調査区西部2区のC 1 b0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第111・137号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が攪乱のため壊されている。南北軸は3.3mで、東西軸が2.3mだけ確認され、N-89°-Eを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は8~10cmである。

床 ほぼ平坦である。壁溝が確認された範囲で巡っている。

竈 東壁のやや南側に付設されており、焚口部から煙道部まで76cm、壁外への掘り込みは48cm、袖部幅66cm、火床部幅32cmである。袖部は、ロームブロックや砂質粘土ブロックを用いて構築されている。また、左袖内には砂岩の自然石が2点据えられており、袖の芯材と考えられる。火床部は12cmほど掘りくぼめられ、火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

覆土 2層に分層される。薄いことから、堆積状況は不明である。

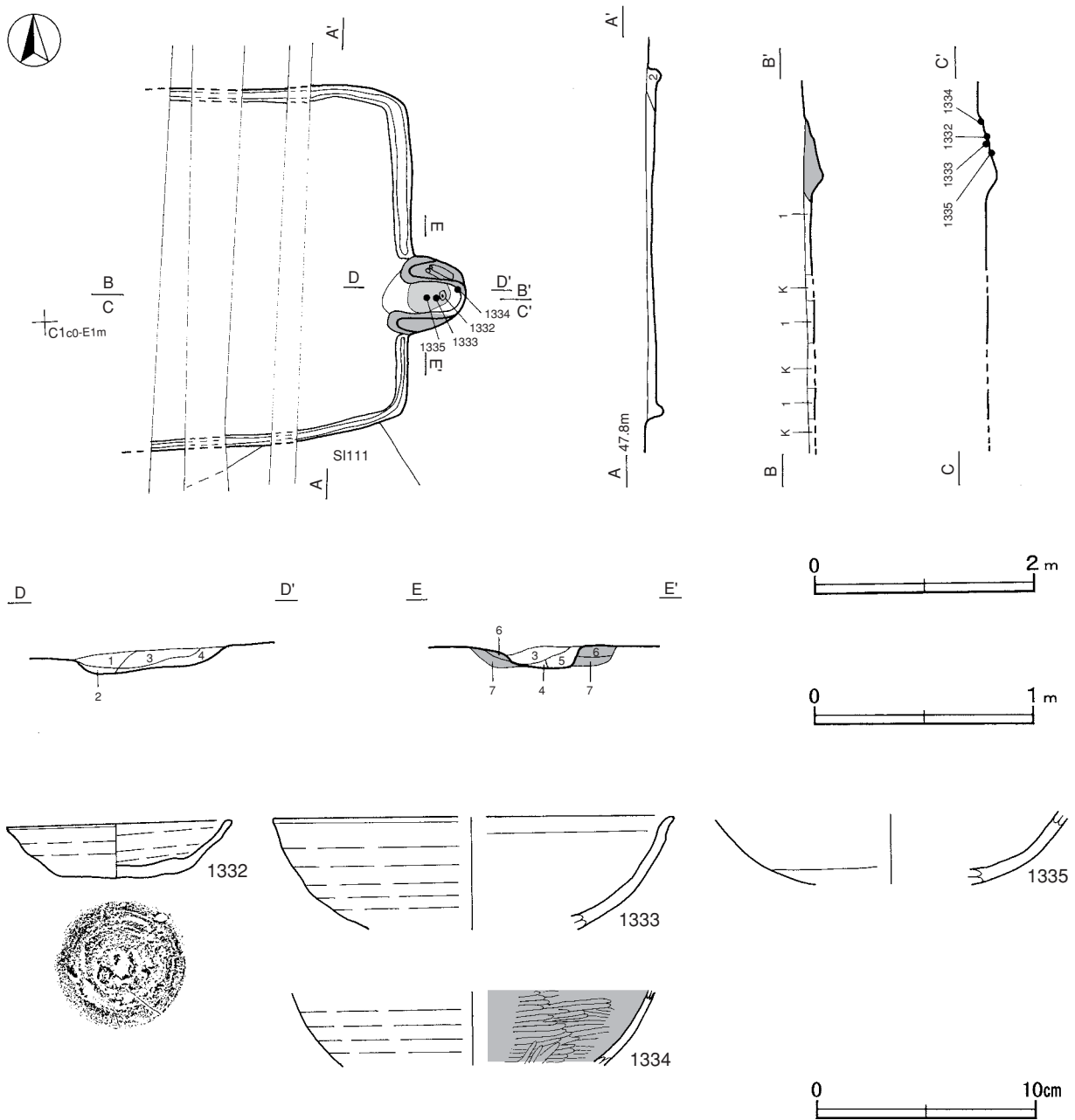
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック微量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片24点（小皿4，高台付椀9，甕11）が竈を中心に出土しているだけである。1333・1334・1335は竈の火床部から、1332は竈の火床部から伏せられた状態で出土している。1332~1335は赤変して

いるため、支脚として転用されたものと考えられる。

所見 時期は、竈火床部から出土した小皿が口径・器高共に小振りであり、初現的な小皿の様相を呈しているため、10世紀中葉と考えられる。



第144図 第120号住居跡・出土遺物実測図

第120号住居跡出土遺物観察表（第144図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-----|-----|------|----|----------|------|-----------------|
| 1332 | 土師器 | 小皿 | 10.0 | 2.6 | 5.6 | 白雲母 | 橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 竈火床部 | 70%, 火熱痕, PL105 |
| 1333 | 土師器 | 高台付椀 | [18.0] | (5.1) | — | 白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部ロクロナデ | 竈火床部 | 15%, 火熱痕 |
| 1334 | 土師器 | 高台付椀 | — | (3.5) | — | 白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き | 竈火床部 | 5%, 火熱痕 |
| 1335 | 土師器 | 高台付椀 | — | (3.2) | — | 白雲母 | にぶい褐 | 良好 | 体部ロクロナデ | 竈火床部 | 5%, 火熱痕 |

第121号住居跡（第145図）

位置 調査区西部2区のC 2 b2区で、台地上の平坦部に位置している。

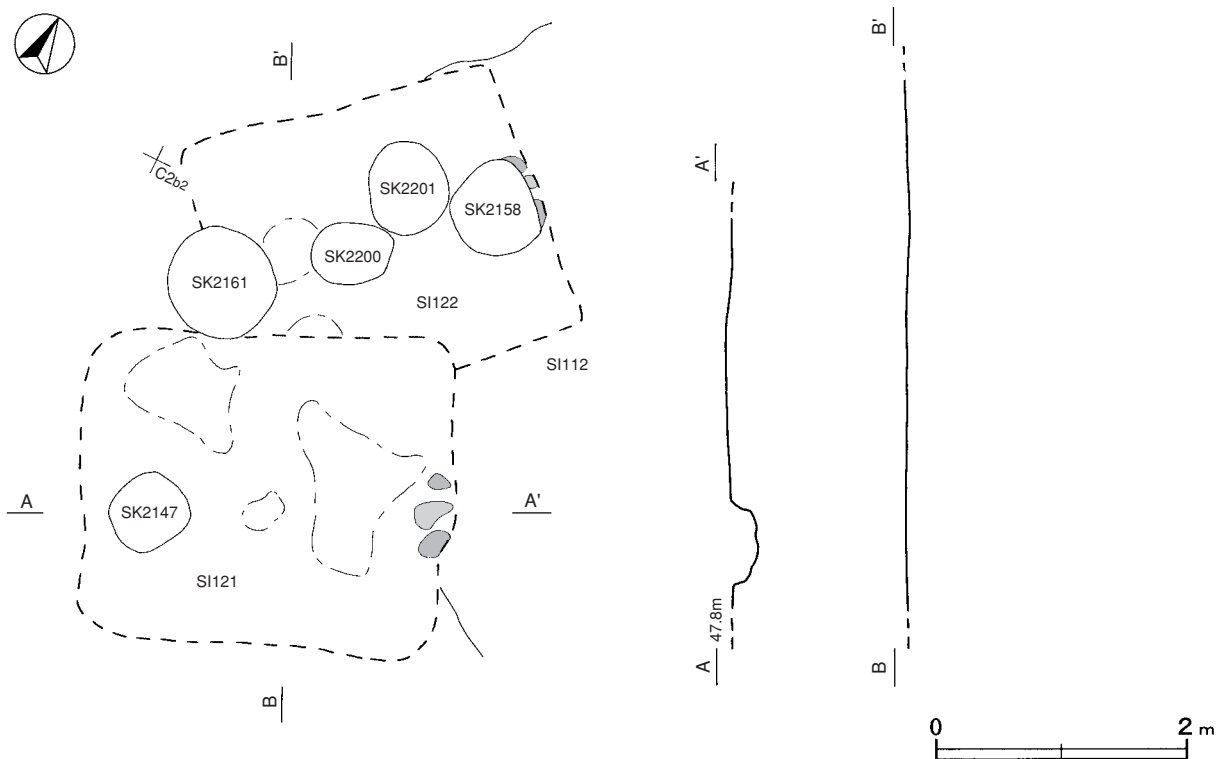
重複関係 第112・122号住居跡を掘り込み、第2147・2161号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で確認されたため、硬化面及び黒褐色を呈した床面の広がりから、長軸2.9m、短軸2.5mの長方形と推測した。竈のある方向を主軸方向とすると、主軸方向はN-67°-Eである。

床 ほぼ平坦で、竈手前及び北西コーナー部が踏み固められている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。遺存状態が悪く、火床面と粘土範囲が確認されただけである。

所見 床面が露出した状態で確認され出土遺物もなく、詳細は不明である。時期は、8世紀中葉に推定されている遺構を掘り込んでおり、住居の規模や主軸方向から平安時代と考えられる。



第145図 第121・122号住居跡実測図

第122号住居跡（第145図）

位置 調査区西部2区のC 2 a2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第112号住居跡を掘り込み、第121号住居、第2158・2200・2201・2161号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で確認されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから、長軸2.6m、短軸2.2mの長方形と推測した。竈のある方向を主軸方向とすると、主軸方向はN-49°-Eである。

床 南西部がわずかに踏み固められているが、詳細は不明である。

竈 東壁の中央部に付設されている。遺存状態が悪く、火床面と粘土範囲が確認されただけである。

所見 床面が露出した状態で確認され出土遺物もなく、詳細は不明である。時期は、8世紀中葉に推定されている遺構を掘り込んでおり、住居の規模や主軸方向から平安時代と考えられる。

第123号住居跡（第146・147図）

位置 調査区西部2区のC 2e2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第139・154号住居跡を掘り込み、第2253号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 壁溝から長軸3.3m、短軸3.2mのほぼ方形と推測され、竈のある位置を主軸方向とすると主軸方向はN-5°-Eである。壁際の覆土が確認できなかったことから、立ち上がりは不明である。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。壁溝が周回している。

竈 北壁のやや西寄りに付設されている。遺存状態が悪く、火床面と粘土の範囲が確認されただけである。

覆土 部分的に覆土が残っており、2層が確認された。薄いことから、堆積状況は不明である。

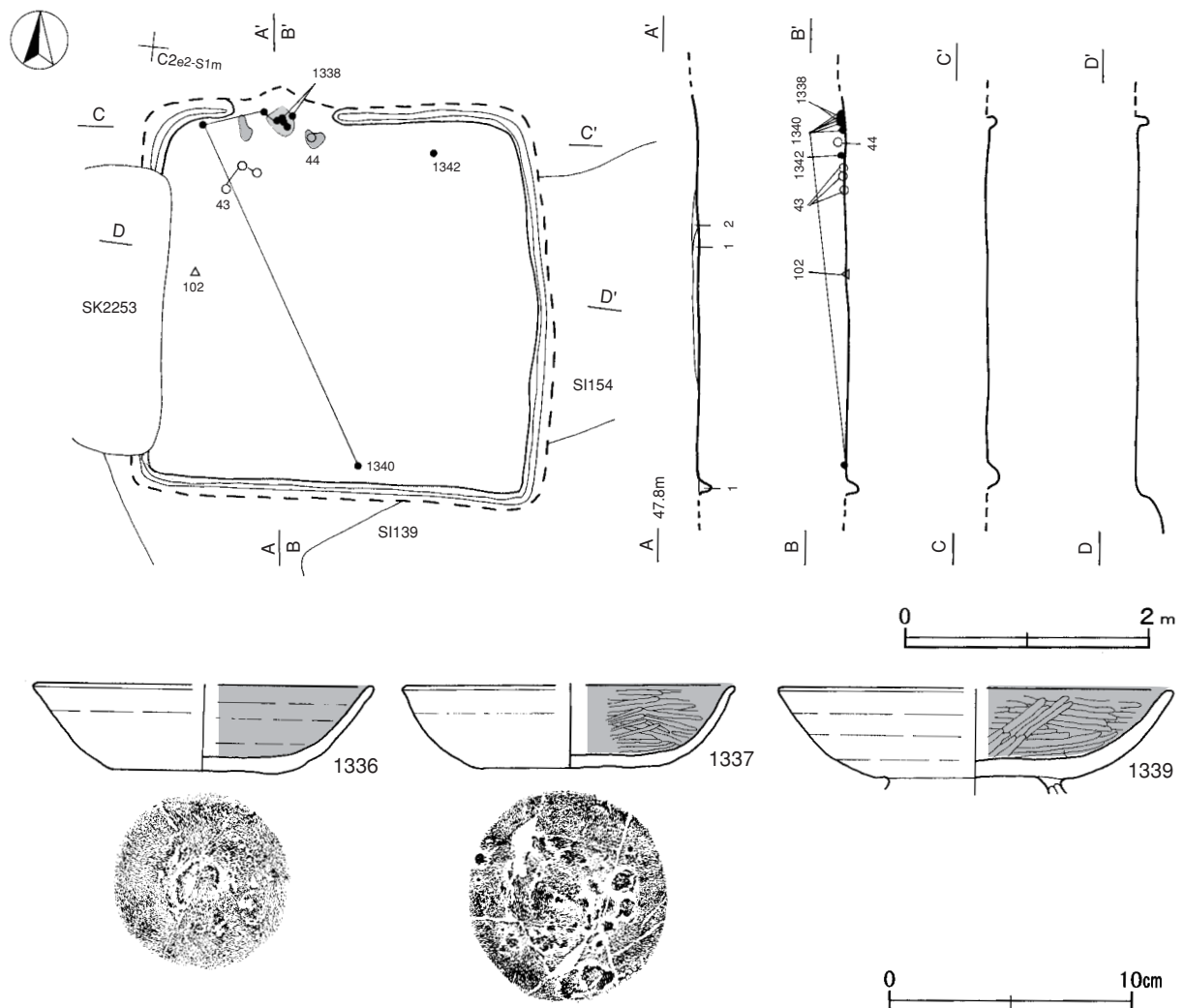
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

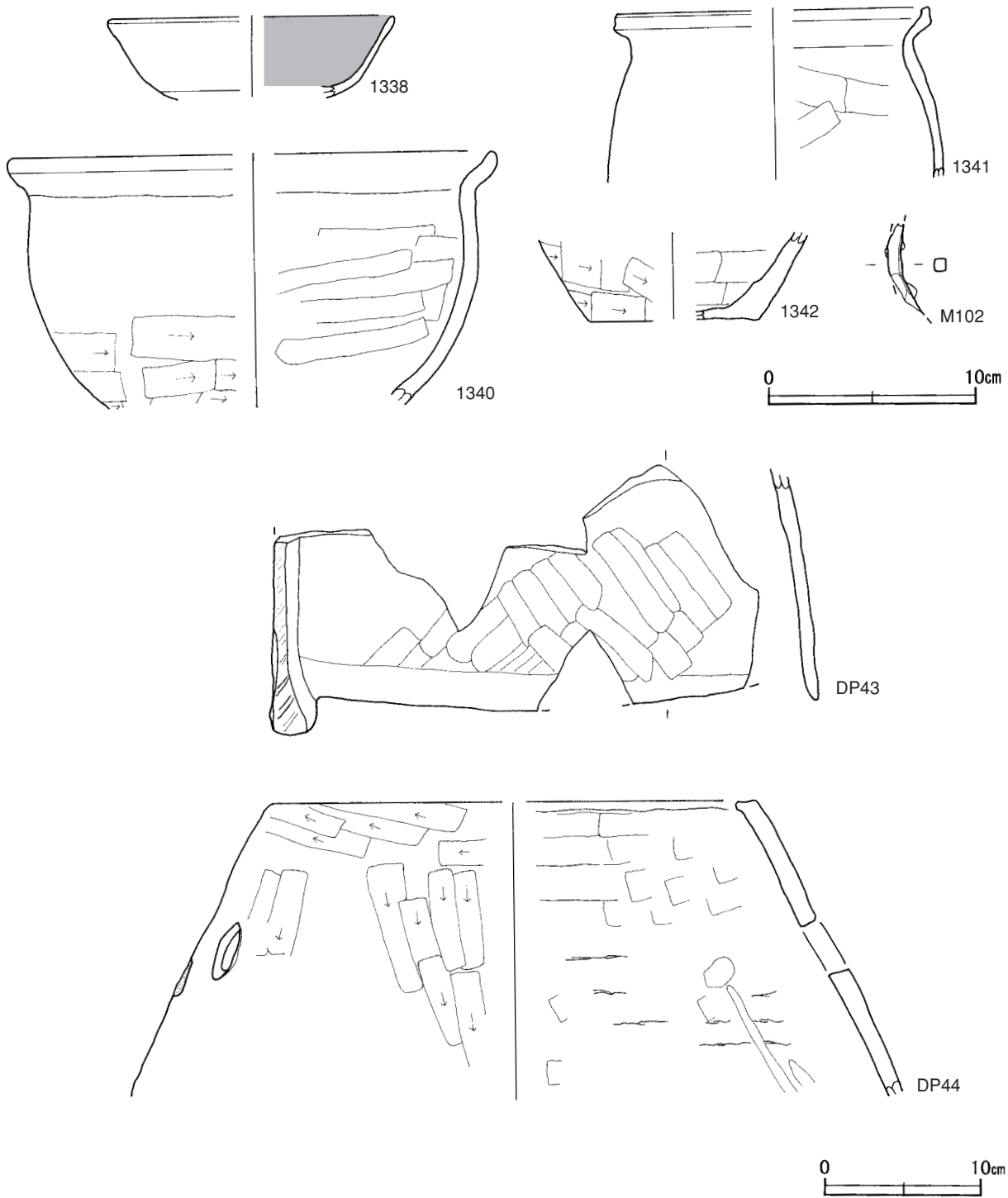
2 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片138点（坏41，高台付椀2，高台付皿1，甕94），須恵器片6点（坏4，蓋1，甕1），土製品片13点（置き竈），鉄製品1点（釘）が、竈付近を中心に出土している。DP 43は竈手前の、1342は北東部の、M102は西側の床面から、1338は竈火床面からそれぞれ出土している。1340は竈の火床面から出土した破片と北西部及び南部の床面から出土した破片が接合したものである。DP 44は置き竈であり、竈火床部からその破片が敷かれた状態で出土しており、火熱痕が認められるため、支脚に転用されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、廃絶時期は9世紀後葉と考えられる。



第146図 第123号住居跡・出土遺物実測図



第147図 第123号住居跡出土遺物実測図

第123号住居跡出土遺物観察表 (第146・147図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|---------------|-----|-----|-----------|-------|----|--------------------|---------|------------|
| 1336 | 土師器 | 坏 | [13.7] | 3.6 | 7.0 | 石英・長石 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 覆土中 | 50%, PL105 |
| 1337 | 土師器 | 坏 | [13.4] | 3.4 | 7.8 | 長石 | 灰黄褐 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き, 底部回転ヘラ切り | 覆土中 | 40% |
| 1338 | 土師器 | 坏 | [13.6] (3.9) | — | — | 石英・長石 | にぶい橙 | 普通 | 体部クロロナデ | 竈火床面 | 30% |
| 1339 | 土師器 | 高台付皿 | [15.9] (4.4) | — | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き | 覆土中 | 60% |
| 1340 | 土師器 | 甕 | [22.9] (12.1) | — | — | 石英・長石・白雲母 | 灰褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 竈火床面・床面 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|--------|--------|-------|-----------|-------|----|---------------------------------|------|----------------------------|
| 1341 | 土師器 | 甕 | [14.8] | (8.2) | — | 白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | 覆土中 | 10% |
| 1342 | 土師器 | 甕 | — | (4.2) | [8.2] | 石英・長石・白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 床面 | 10%, 火熱痕 |
| DP43 | 土製品 | 置き竈 | — | (14.7) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部内・外面ヘラナデ | 床面 | 5%, 火熱痕 |
| DP44 | 土製品 | 置き竈 | [30.8] | (19.0) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ・指頭圧痕, 穿孔 (1か所) | 竈火床面 | 20%, 取っ手の剥離痕あり, 火熱痕, PL119 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-----|-------|----|-------------|------|----|
| M102 | 釘 | (4.5) | 0.7 | 0.6 | (6.0) | 鉄 | 脚部の破片, 断面方形 | 床面 | |

第124号住居跡 (第148図)

位置 調査区西部2区のB1g9区で, 台地上の平坦部に位置している。

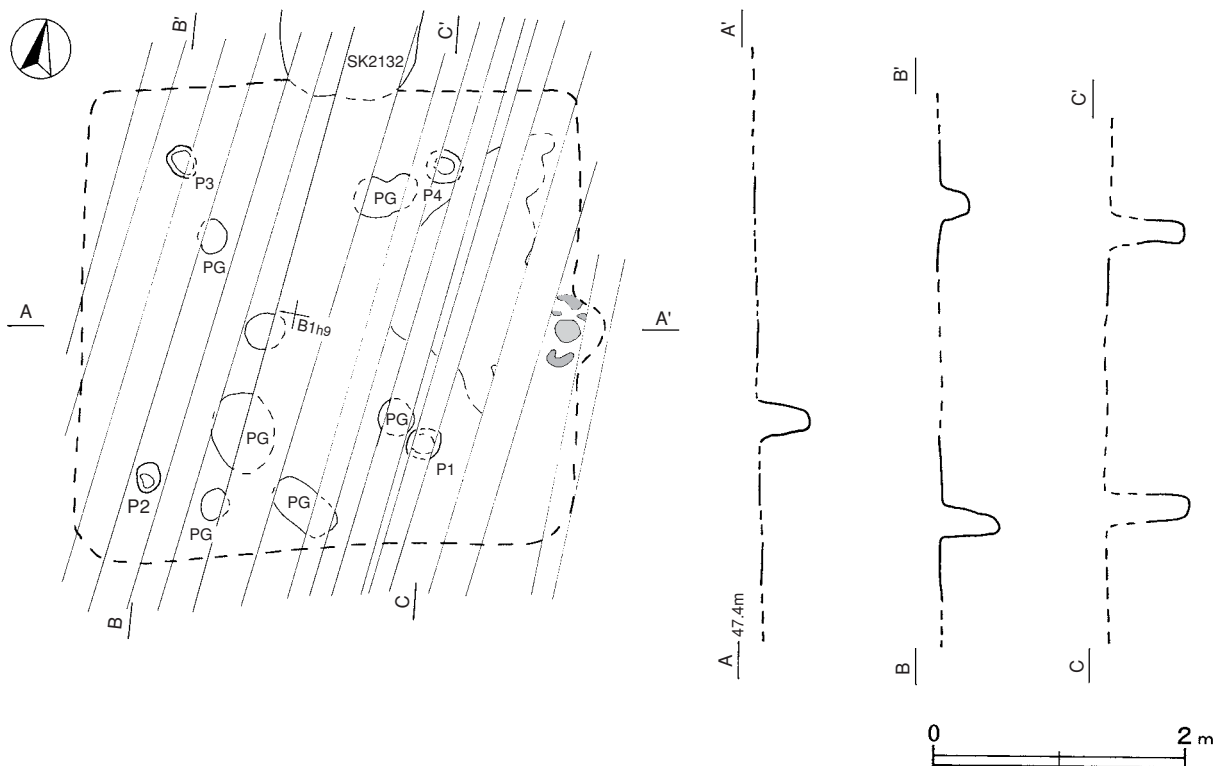
重複関係 第2132号土坑, 第11号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱で遺構の半分以上が掘り込まれ, 床面も露出した状態で確認されたため本来の形状を把握することはできなかった。黒褐色を呈した床面の広がりから, 長軸4.0m, 短軸3.6mの長方形と推測した。竈の位置を主軸方向とすると, 主軸方向はN-77°-Eである。

床 竈手前が踏み固められているが, 詳細は不明である。

竈 東壁の中央部に付設されている。遺存状態が悪く, 火床面と粘土の範囲が確認されただけである。火床面は火熱でやや赤変しているが, 軟質である。粘土が散在していることから, 袖部は粘土で構築されていたと推測される。

ピット 4か所。P1~P4は深さ22~67cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。



第148図 第124号住居跡実測図

遺物出土状況 須恵器片2点(坏)が柱穴の覆土中から出土しているが、細片である。

所見 時期は、柱穴内から出土した土器片が律令期のものであることから、奈良時代もしくは平安時代と考えられる。

第126号住居跡 (第149図)

位置 調査区西部2区のB1g0区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 床面が露出した状態で確認された。黒褐色を呈した床面の広がりから、長軸2.7m、短軸2.4mの長方形と推測した。竈の位置を主軸方向とすると、主軸方向はN-109°-Eである。

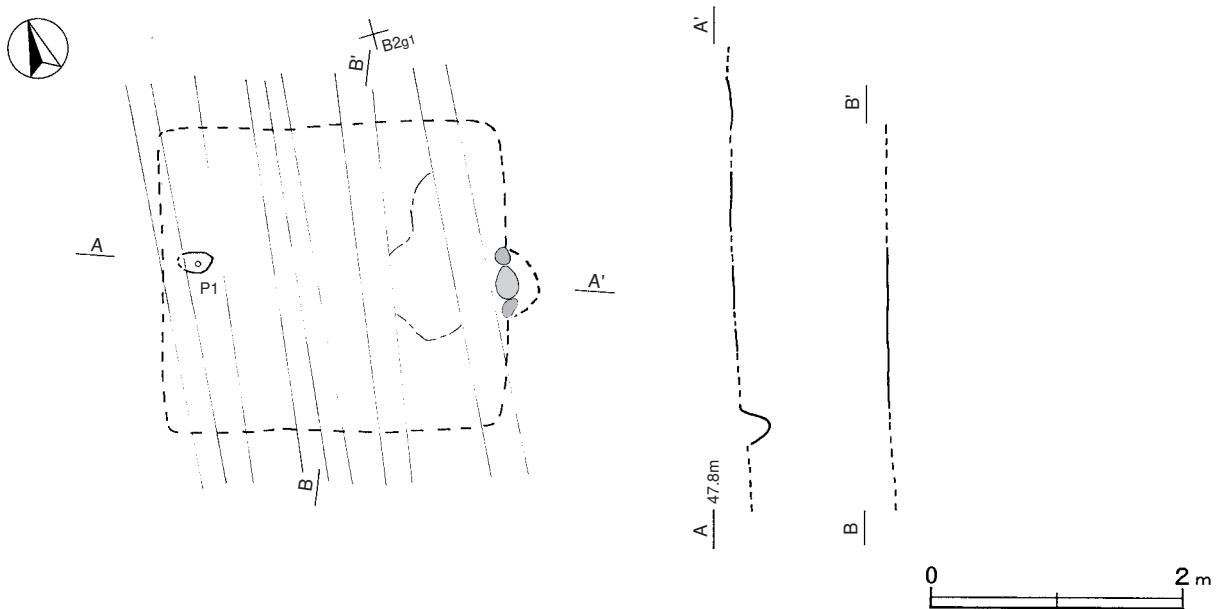
床 竈手前が踏み固められているが、詳細は不明である。

竈 東壁の中央部に付設されている。遺存状態が悪く、火床面と粘土の範囲だけが確認された。火床面は浅い皿状に掘りくぼめられ、火熱で赤変している。

ピット 1か所。深さ20cmで、竈と向い合う位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片2点(坏, 甕), 須恵器片2点(坏, 甕)が確認面から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期は、住居の規模や形状及び主軸方向が10世紀に比定されている第118号住居跡と酷似していることから、同時期の可能性が高いと考えられる。



第149図 第126号住居跡実測図

第129号住居跡 (第150図)

位置 調査区西部1区のB2i7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第147号住居跡を掘り込み、第2198号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面が削平された状態で確認された。壁溝や柱穴の位置から、一辺3.7mの方形と推測した。竈の位置を主軸方向とすると、主軸方向はN-8°-Eである。

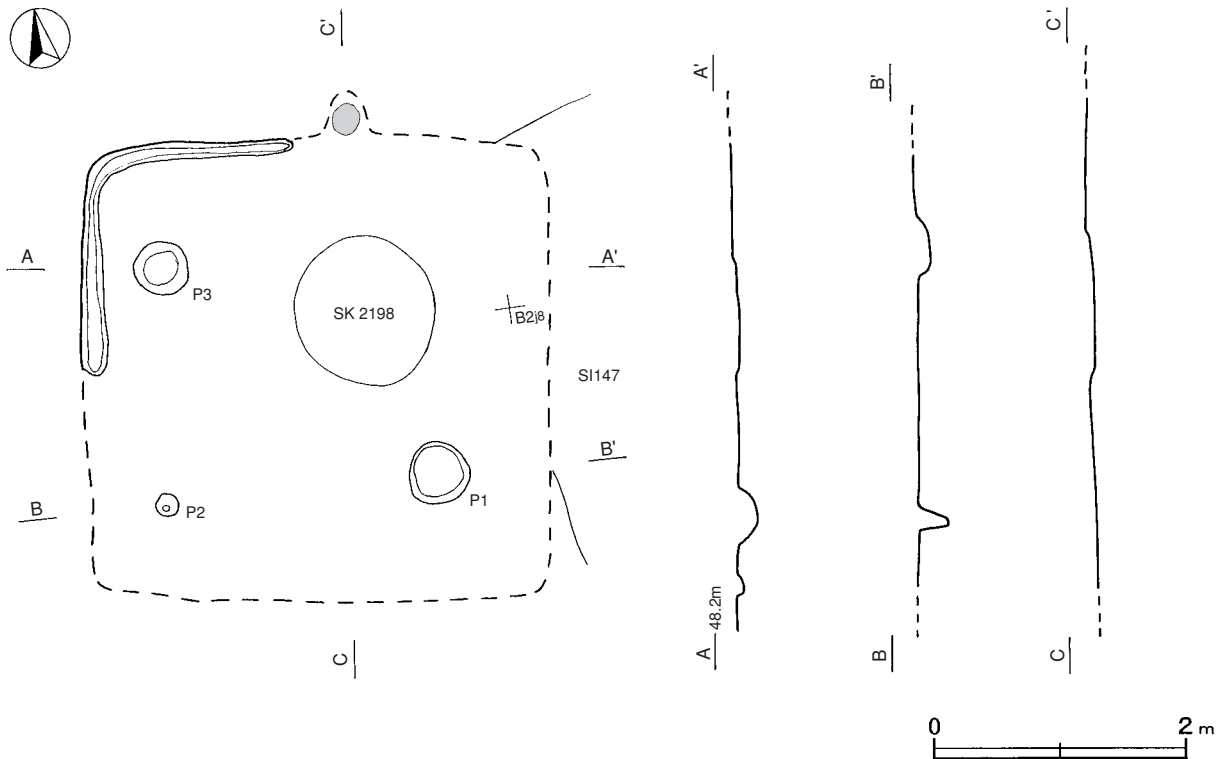
床 壁溝が、北西コーナー部の壁際に確認できただけである。

竈 北壁の中央部に付設されている。遺存状態が悪く、火床面が確認されただけである。

ピット 3か所。P1～P3は深さ10～25cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

遺物出土状況 土師器片8点（甕），須恵器片1点（甕）がピット内から出土したが，細片で破断面が摩滅していることから，住居廃絶後に混入したものと考えられる。

所見 時期は，柱穴内から出土した土器片が律令期のものであることから，奈良時代もしくは平安時代と考えられる。



第150図 第129号住居跡実測図

第130号住居跡（第151図）

位置 調査区西部2区のC2d3区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第116・117号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺3.8mの方形で，主軸方向はN-92°-Eである。壁高は2cmである。

床 ほぼ平坦で，竈手前が踏み固められている。壁溝が周回している。

竈 東壁の南寄りに付設されており，焚口部から煙道部まで48cm，壁外への掘り込みは20cm，袖部幅は66cm，火床部幅は34cmである。袖部は8cm掘りくぼめた後，粘土ブロックなどを用いて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用している。火床面は火熱で赤変硬化している。

竈土層解説

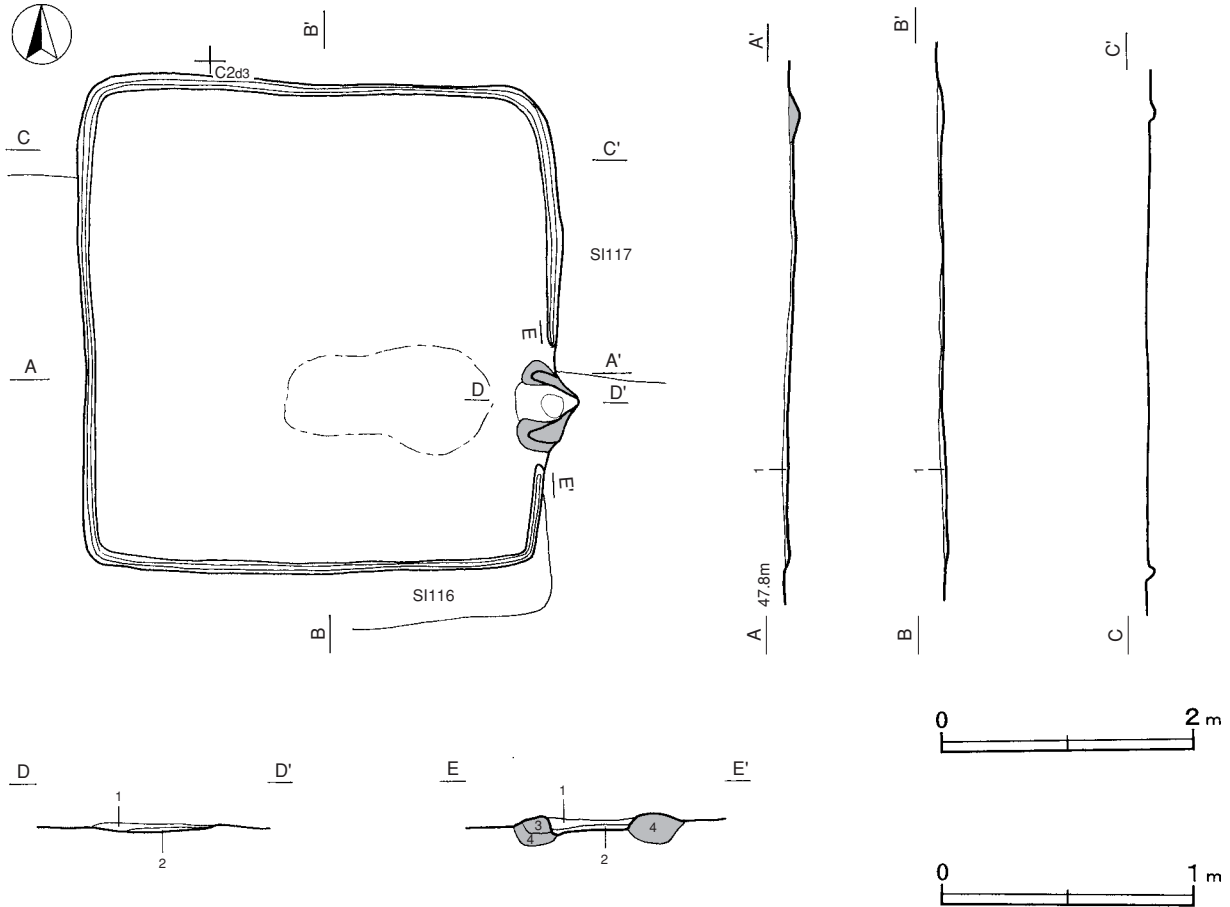
- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量 | 3 灰白色 砂質粘土ブロック多量 |
| 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 |

覆土 単一層である。薄いことから，堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、9世紀前葉と考えられる第116号住居跡を掘り込んでいることから、9世紀前葉以後の平安時代と考えられる。



第151図 第130号住居跡実測図

第132号住居跡 (第152図)

位置 調査区西部2区のB2i2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第101・128・142号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 床面が露出した状態で確認されたため、柱穴の位置及び黒褐色を呈した床面の広がりから、長軸3.9m、短軸3.6mのほぼ方形と推測した。竈の位置を主軸方向とすると、主軸方向はN-92°-Eである。

床 ほぼ平坦で、北西部から中央部にかけて踏み固められている。

竈 東壁の南寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで56cm、袖部幅70cm、火床部幅41cmである。袖部は砂質粘土ブロックを含む暗褐色土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用し、火床面は火熱で赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量

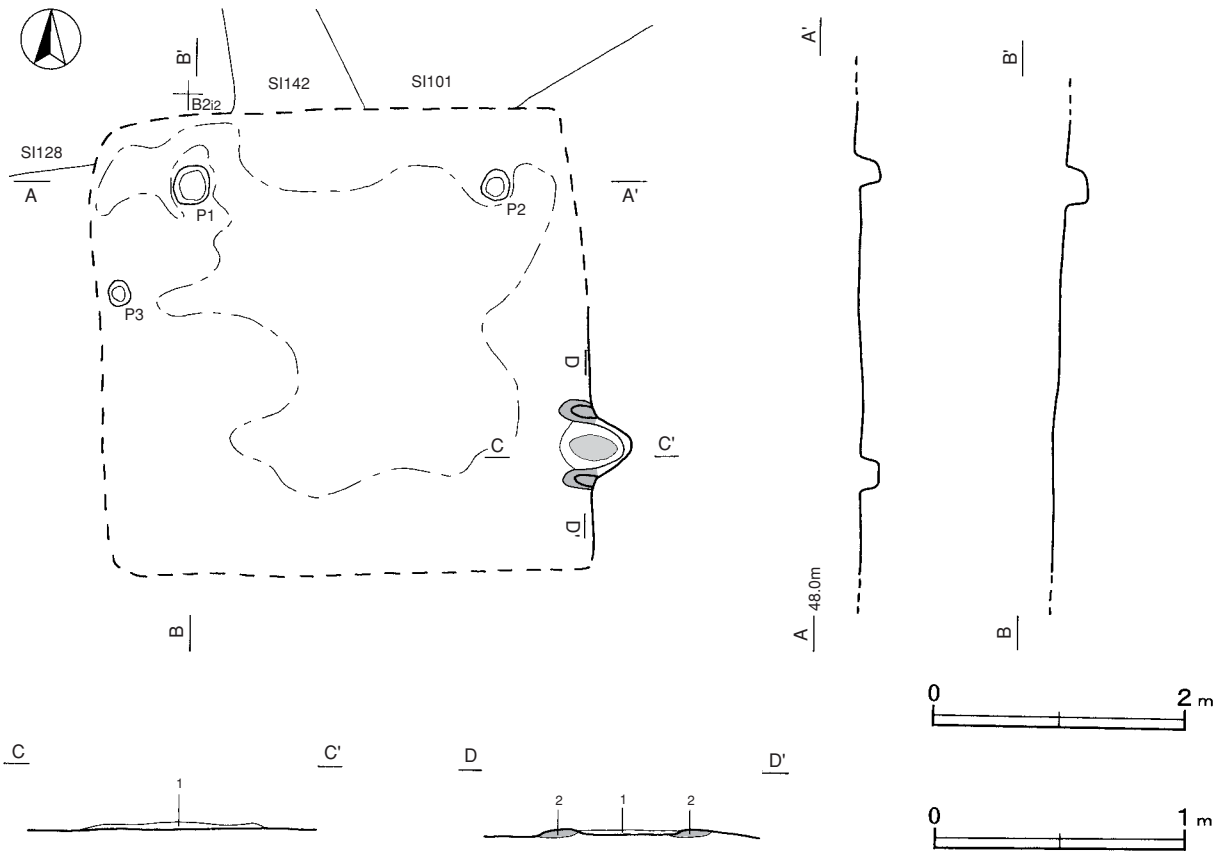
2 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック微量

ピット 3か所。P1・P2は深さ15cmと17cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ16cmで、

竈と向い合う位置からは少しずれるが、硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片2点（坏、甕）が柱穴の覆土中から出土しているが、細片である。

所見 時期は、柱穴内から出土した土器片が律令期のものであることから、奈良時代もしくは平安時代と考えられる。



第152図 第132号住居跡実測図

第133号住居跡（第153図）

位置 調査区西部1区のB2i9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第131・134号住居跡を掘り込み、第136号住居、第31号方形竪穴遺構、第2209・2235号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側部分が調査区域外に延びているために、東西軸は3.6mで、南北軸は1.9mだけが確認された。主軸はP1が出入り口施設に伴うピットと考えられることから、N-20°-Wを主軸方向とする方形もしくは長方形と推定した。壁高は46~66cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、出入り口付近から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が確認された壁際を巡っている。また、床を作る際には、ロームブロック混じりの褐色土を8~22cm充填して貼床をしている。

ピット 1か所。深さ26cmで、南壁際の中央部にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第10層はP1の覆土であり、11層は貼床の構築土である。

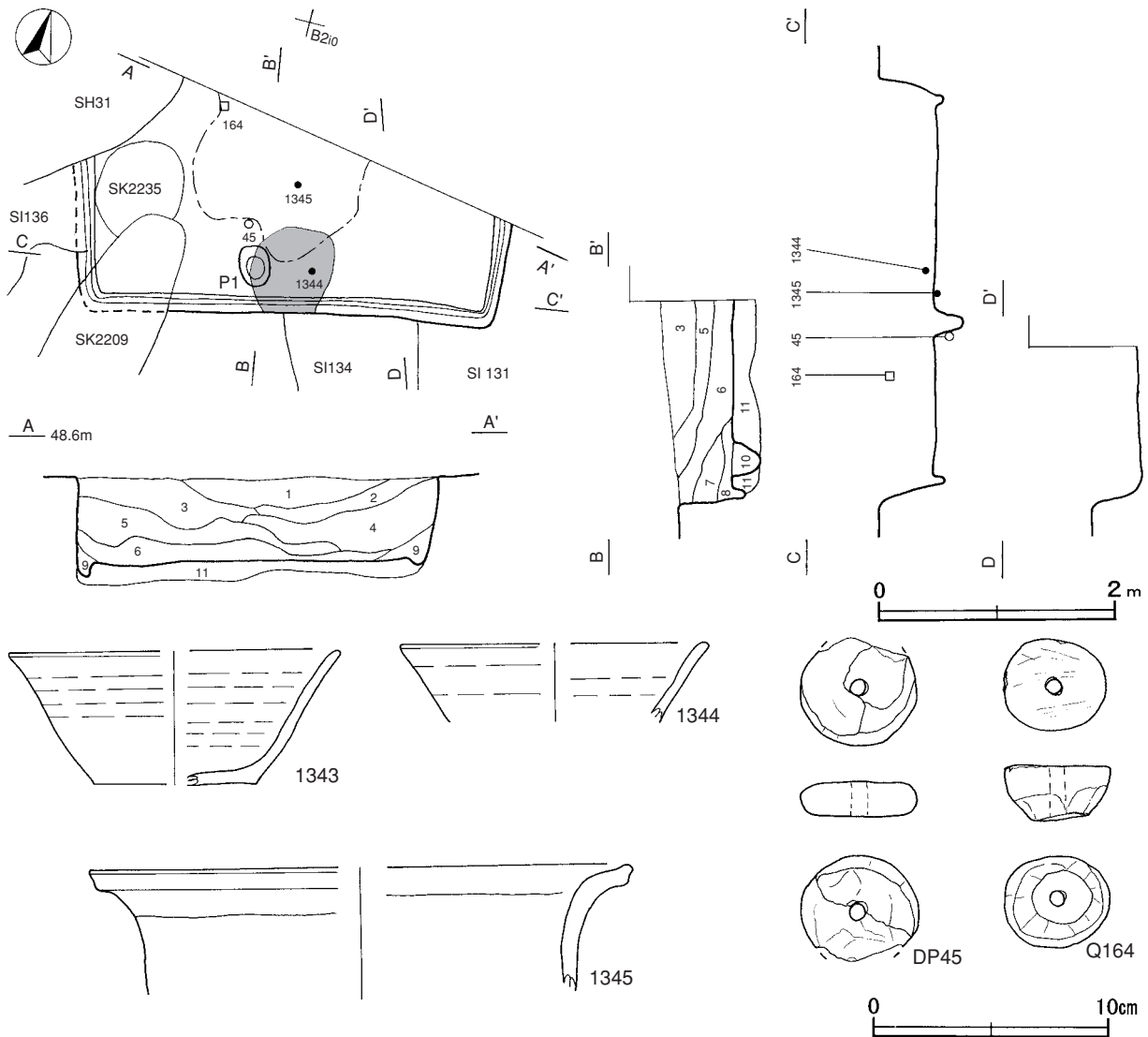
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 黒色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|-------------------|
| 5 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 11 褐色 | ロームブロック中量 (貼床構築土) |

遺物出土状況 土師器片204点(坏22, 甕182), 須恵器片18点(坏12, 蓋2, 甕2, 甑2), 土製品1点(紡錘車), 石製品1点(紡錘車)が南部の覆土下層を中心に出土している。土師器坏は細片で、古墳時代のものであることから、住居が埋め戻される際に混入したものと考えられる。Q164は中央部の覆土上層, 1344は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。1345は中央部の床面, DP45は貼床層から出土している。南壁際中央部に粘土ブロックが認められたが、下に暗褐色土が確認できたため、埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第153図 第133号住居跡・出土遺物実測図

第133号住居跡出土遺物観察表 (第153図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|-------|-------|-----|----|--------------|------|-----------|
| 1343 | 須恵器 | 坏 | [13.7] | 5.6 | [6.8] | 石英・長石 | 灰褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、ナデ | 覆土中 | 20%, 堀の内窯 |
| 1344 | 須恵器 | 坏 | [12.8] | (3.3) | - | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 口縁部ロクロナデ | 下層 | 5%, 堀の内窯 |
| 1345 | 土師器 | 甕 | [22.6] | (5.2) | - | 長石 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部横ナデ | 床面 | 5% |

| 番号 | 器種 | 最大径 | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|------|-----|-------|-----|-----|--------|------|-----------------------|------|-------|
| DP45 | 紡錘車 | (5.0) | 0.7 | 1.5 | (33.2) | 粘土 | ナデ、孔面に平坦面、灰褐色 | 貼床層 | PL119 |
| Q164 | 紡錘車 | 4.3 | 0.8 | 1.9 | 46.9 | 花崗岩カ | 全面研磨、側面に工具による縦位の調整痕あり | 上層 | PL119 |

第135号住居跡（第154図）

位置 調査区西部1区のB2j6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路、第2199号土坑に掘り込まれている。

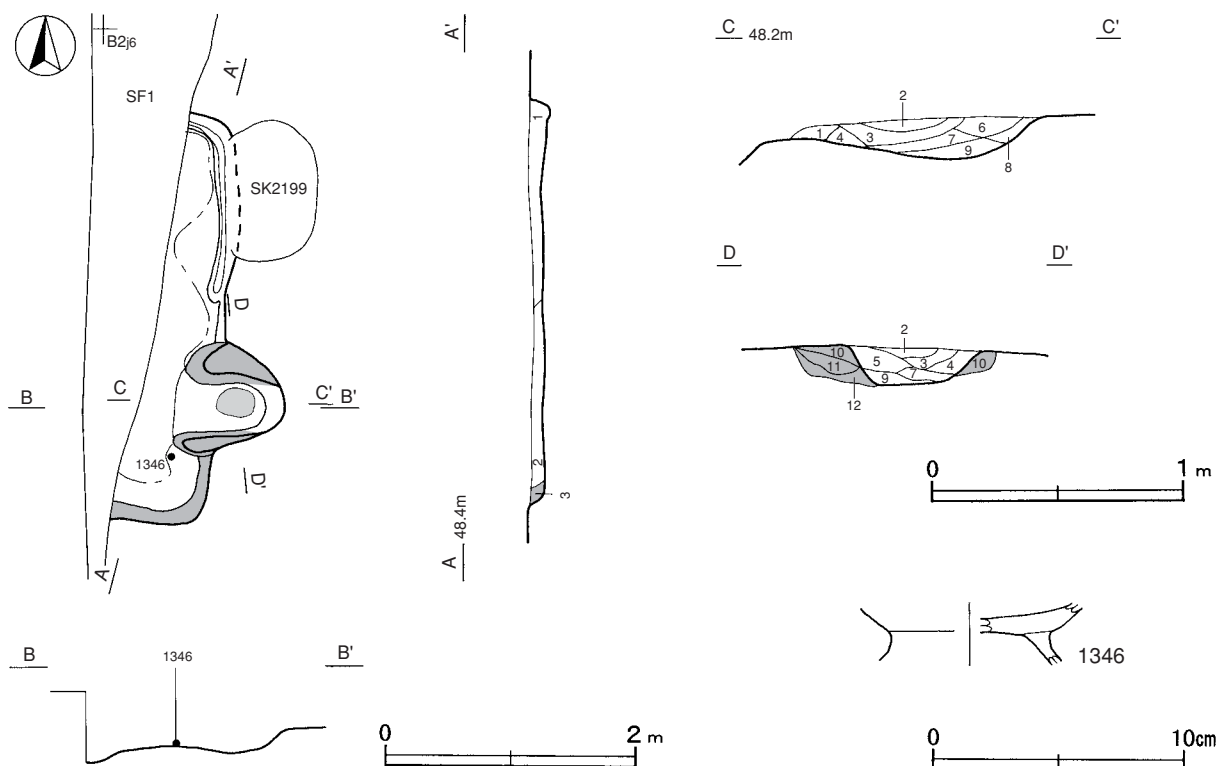
規模と形状 西側部分が第1号道路に掘り込まれているため、南北軸は3.2mで、東西軸は0.8mだけが確認された。竈の位置と残存する壁の立ち上がりから、 $N-95^{\circ}-E$ を主軸方向とする方形または長方形と推測した。壁高は6cmである。

床 ほぼ平坦で、残存している部分は踏み固められている。東壁際の北側から北壁際にかけて壁溝が巡り、東壁際の南側から南壁際にかけては粘土が貼られていた。

竈 東壁の南側に付設されており、焚口部から煙道部まで85cm、壁外への掘り込みは53cm、袖部幅は78cm、火床部幅は40cmである。天井部は崩落しており、砂質粘土ブロックを含む第4層が相当する。袖部は、砂質粘土ブロックとロームブロックを用いて構築されている。火床部は皿状に10cm掘りくぼめられ、火床面が火熱で赤変硬化している。また、煙道部は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、 砂質粘土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・ 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、 砂質粘土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子微量 | | |



第154図 第135号住居跡・出土遺物実測図

- 8 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
 9 赤 褐 色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量
 10 暗 赤 褐 色 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量,
 ロームブロック・炭化粒子微量
 11 黒 褐 色 ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量
 12 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量,
 砂質粘土ブロック微量

覆土 3層に分層される。薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
 3 灰 褐 色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片35点（小皿2，坏6，高台付椀3，甕24）が竈手前の覆土下層を中心に出土しているが、ほとんどが細片である。1346は竈手前の床面から出土している。

所見 東壁際の南側から南壁際にかけては壁溝を掘らずに粘土を貼りつけられており、壁の崩落を防ぐ工夫と考えられ、今回の調査では本跡だけの造作である。廃絶時期は、出土土器から10世紀後半と考えられる。

第135号住居跡出土遺物観察表（第154図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|----|-------|----|--------|-------|----|-------------------|------|-----|
| 1346 | 土師器 | 高台付椀 | — | (2.5) | — | 長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 床面 | 20% |

第136号住居跡（第155・156図）

位置 調査区西部1区のB2i9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第133・147号住居跡，第2235・2357号土坑を掘り込み，第31号方形竪穴遺構，第22号地下式坑，第2282・2292・2293号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側部分が調査区域外に延びている。東西軸は3.7mで，南北軸は2.3mだけ確認され，N-105°-Eを主軸とする方形または長方形と推定した。壁高は14~16cmでほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で土坑等に掘り込まれているが，一部に硬化面が認められることから，中央部が踏み固められていたと想定される。

竈 東壁の南寄りに付設されているが，左袖は遺構に掘り込まれて遺存していない。袖部はロームブロックや砂質粘土ブロックで構築され，砂質粘土ブロックを中量含む第6層が袖の芯材と考えられる。火床部は7cmほど掘りくぼめた後，ロームブロック混じりの暗褐色土を床面と同じ高さまで埋め戻して，構築されている。火床面は火熱で赤変硬化している。煙道部はロームブロック混じりの暗褐色土を貼り付けて構築され，急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量
 5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・
 砂質粘土ブロック微量
 6 黒 褐 色 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量
 7 暗赤褐色 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・
 炭化粒子微量
 8 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 9 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・
 砂質粘土ブロック少量

覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

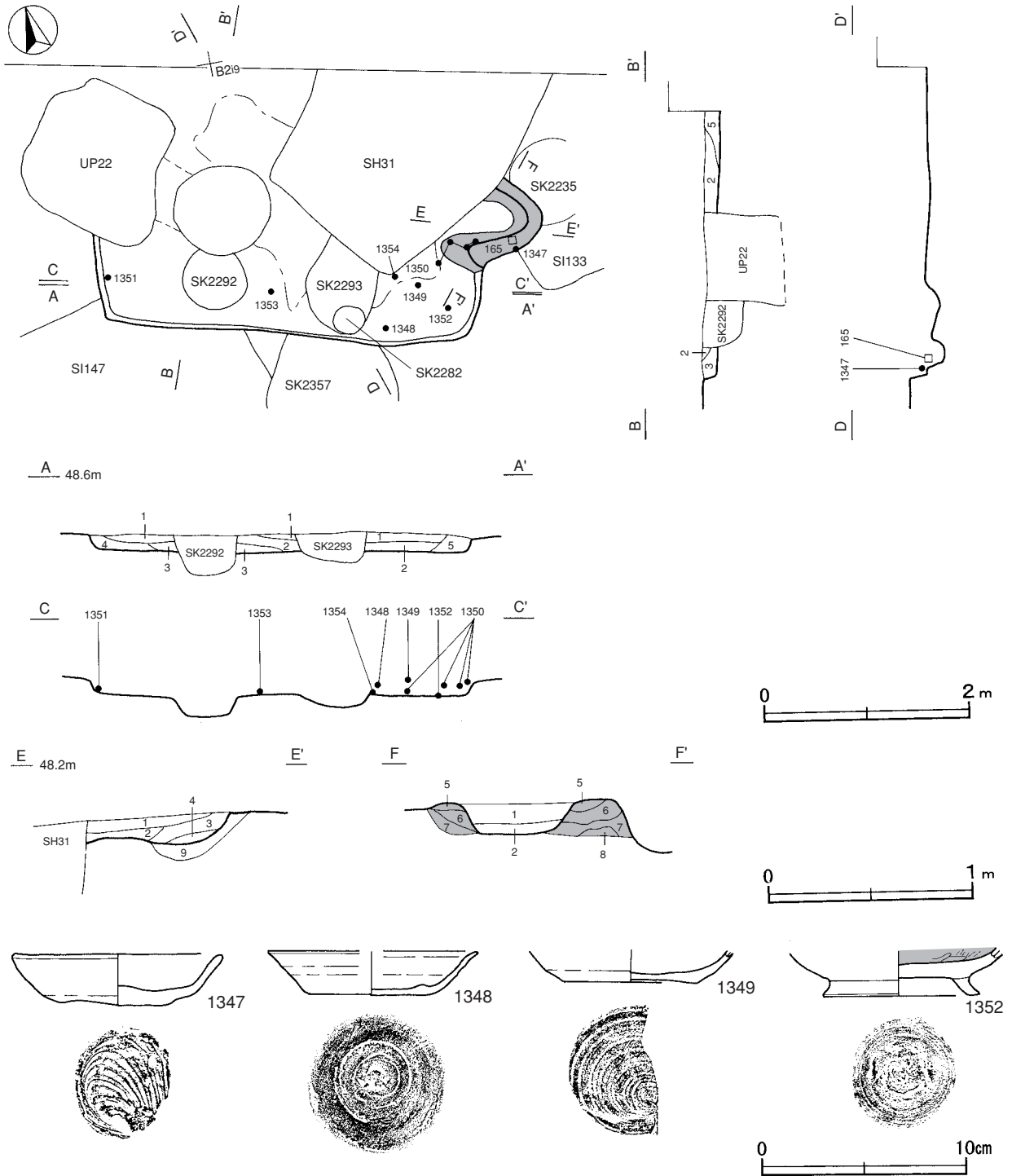
土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
 5 暗 褐 色 ロームブロック中量

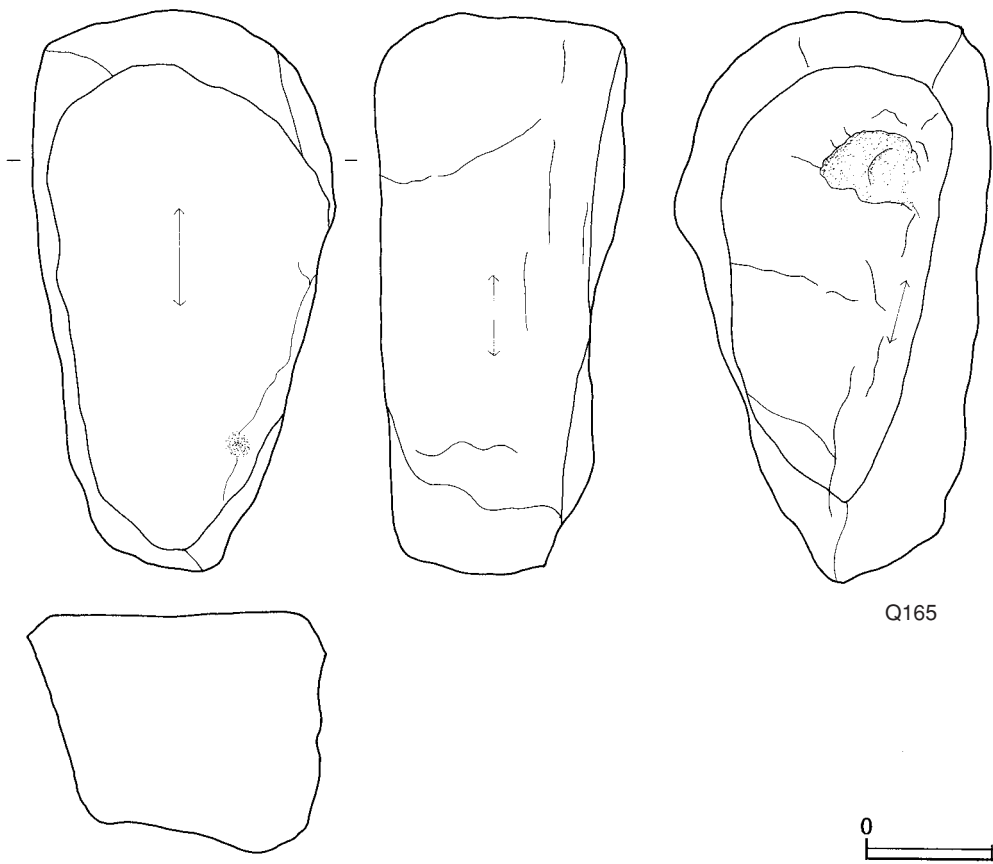
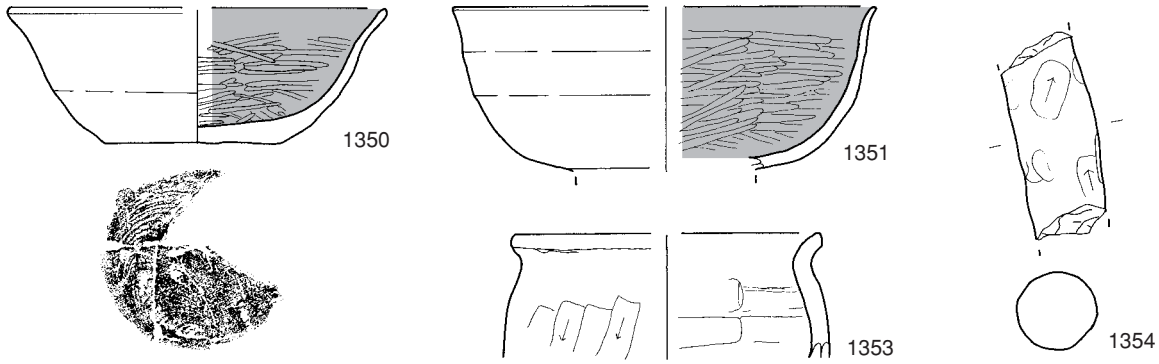
遺物出土状況 土師器片89点（小皿4，坏44，高台付椀5，甕35，三足鍋カ1），須恵器片1点（坏），砥石1点

が、南東コーナー部の覆土下層から床面を中心に出土している。1348・1349は南東コーナー部の覆土上層、1351は西壁際の、1353は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。1348は残存率が高く、破断面が摩滅していないことから、廃絶後に投棄されたものと考えられる。1350は竈右袖部上の覆土から出土した破片と竈手前の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1352・1354は南東コーナー部の床面から出土している。1347・Q165は、竈右袖部内から出土し、火熱痕がないことから袖部材に転用されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は、竈袖部や床面から出土した小皿や高台付椀の形状から10世紀中葉と考えられる。



第155図 第136号住居跡・出土遺物実測図



第156図 第136号住居跡出土遺物実測図

第136号住居跡出土遺物観察表 (第155・156図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-----|-----------|------|----|-------------------|------------|-------------|
| 1347 | 土師器 | 小皿 | 10.0 | 2.5 | 5.2 | 石英・長石・金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転糸切り | 竈右袖部内 | 100%, PL105 |
| 1348 | 土師器 | 小皿 | [10.1] | 2.1 | 6.1 | 長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 上層 | 60%, PL105 |
| 1349 | 土師器 | 坏 | — | (1.6) | 6.4 | 長石・白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転糸切り | 上層 | 30% |
| 1350 | 土師器 | 坏 | [14.8] | 5.4 | 6.9 | 長石・白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き, 底部回転糸切り | 竈袖上の覆土, 下層 | 40% |
| 1351 | 土師器 | 高台付椀 | [16.6] | (6.6) | — | 石英・長石・白雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き | 下層 | 40%, 高台部剥離 |
| 1352 | 土師器 | 高台付椀 | — | (2.3) | 7.5 | 白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 床面 | 30% |
| 1353 | 土師器 | 小形甕 | [12.0] | (5.0) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 下層 | 5%, 火熱痕 |
| 1354 | 土師器 | 三足鍋カ | — | (8.2) | — | 石英・長石 | にぶい褐 | 普通 | 外面ヘラ削り, 指頭圧痕 | 床面 | 5%, 火熱痕 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|--------|-------|----------|----|-------------|-------|----|
| Q165 | 砥石 | (22.4) | (12.1) | (9.4) | (3420.0) | 砂岩 | 砥面3面, 断面長方形 | 竈右袖部内 | |

第140A号住居跡（第157・158図）

位置 調査区西部1区のC2a9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2247号土坑, 第1号柵, ピット（1か所）に掘り込まれている。また, 第140B号住居跡を拡張して本跡が構築されている。

規模と形状 長軸4.4m, 短軸3.7mの長方形で, 主軸方向はN-20°-Wである。壁高は8~25cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 掘り込んだ地山面を床として, P1から竈手前にかけて踏み固められている。東側に90cmほど拡張した部分は, 西側の床から10cmほどの高さに設けられている。壁溝が周回している。

竈 北壁のやや西寄りに付設されており, 焚口部から煙道部まで113cm, 壁外への掘り込みは58cm, 袖部幅は98cm, 燃焼部幅は44cmである。天井部は崩落しており, 砂質粘土ブロックを主とする第6層が相当する。袖部は, 砂質粘土ブロックやロームブロックを貼り付けて構築されている。火床部は床面を皿状に10cm掘りくぼめ, 火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部は急な傾斜で立ち上がっている。また, 第140B号住居から本跡に拡張する際に, 竈を作り替えた痕跡がないことから, 第140B号住居の竈をそのまま使用したと考えられる。

竈土層解説

| | | | |
|--------|---------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 明褐灰色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 | | |
| 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 1か所。深さ26cmで, 竈と向い合う位置にあることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。第140B号住居から本住居に拡張する際に, 作り替えた痕跡がないことから, 第140B号住居のピットをそのまま使用したのと考えられる。

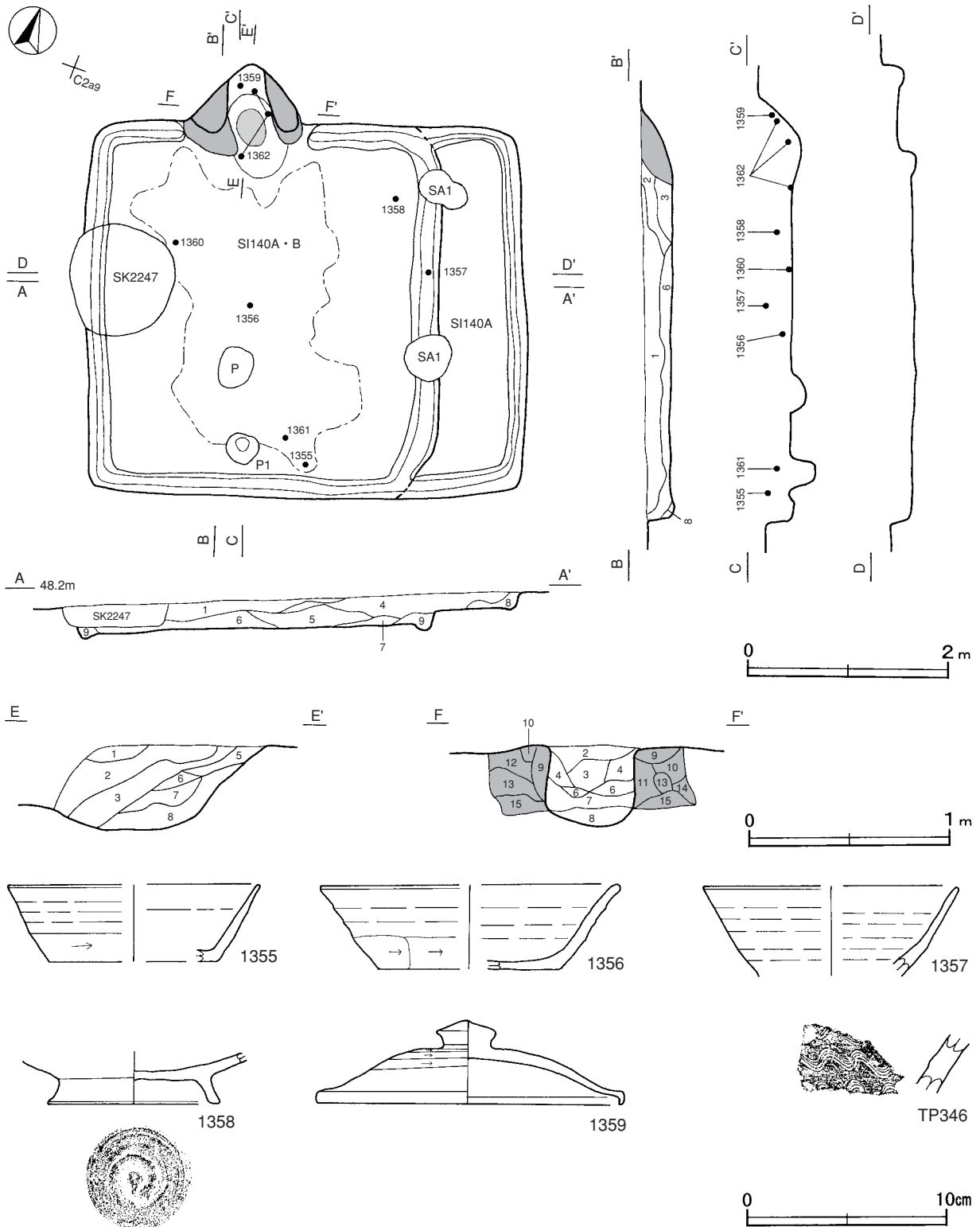
覆土 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

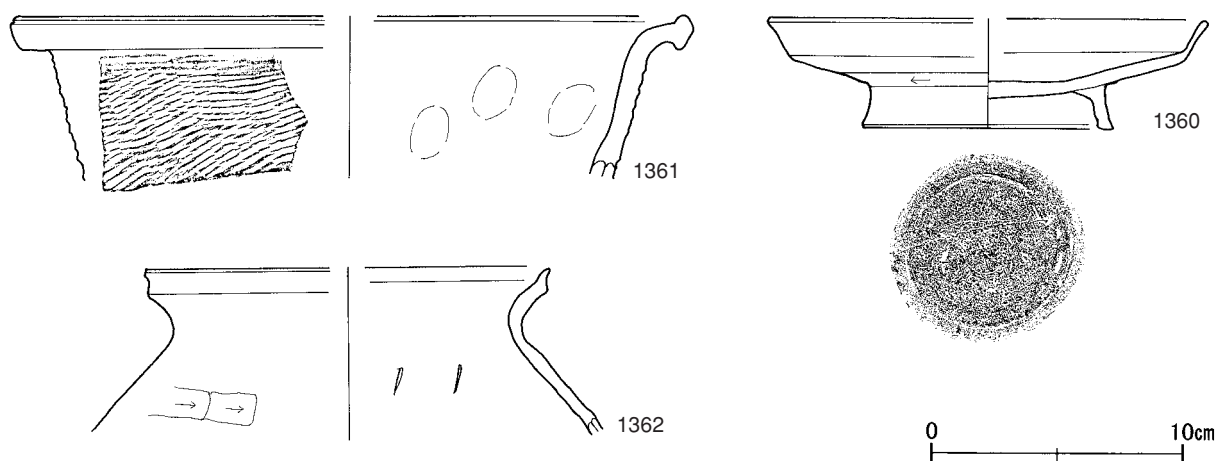
| | | | |
|--------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片358点（甕357, 甌1）, 須恵器片49点（坏24, 高台付坏2, 蓋13, 盤3, 甕5, 甌2）が散在した状態で出土している。1355・1361は南部の, 1357・1358は東部の覆土上層, 1356は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。1360は西部の覆土下層から出土し, 残存率が高く, 破断面が摩滅していないことから, 廃絶後に投棄されたものと考えられる。1359は竈の煙道部から出土しているが, 火熱痕がない。また, 残存率が高く, 破断面が摩滅していないことから, 廃絶後に投棄されたものと考えられる。1362は竈の火床部から出土した破片が接合したものであり, 火熱痕があることから, 竈で使用されていたものが廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 段差を設けた床と西側の床の間に壁溝が確認できたことから、拡張されたものと判断した。拡張された床には、遺物や硬化面は確認できなかった。床に段差を設けているのは、当遺跡内では本跡だけの造作である。水戸市の梶内遺跡などにも認められるが、住居の東側に段差を設けた床を設けている事例は少ない。廃絶時期は、出土土器から8世紀末葉から9世紀前葉と考えられる。



第157図 第140A・B号住居跡，第140A号住居跡出土遺物実測図



第158図 第140A号住居跡出土遺物実測図

第140A号住居跡出土遺物観察表（第157・158図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-------|--------|-------|----|---------------------------|------|------------------|
| 1355 | 須恵器 | 坏 | [12.5] | 3.9 | [8.4] | 石英・長石 | 褐灰 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 上層 | 30%, 益子窯 |
| 1356 | 須恵器 | 坏 | [14.7] | 4.2 | [9.0] | 白色粒子 | 黄灰 | 普通 | 体部下端手持ヘラ削り | 下層 | 20%, 堀の内窯 |
| 1357 | 須恵器 | 坏 | [12.5] | (4.5) | — | 石英・長石 | にぶい黄褐 | 普通 | 体部ロクロナデ | 上層 | 20%, 堀の内窯 |
| 1358 | 須恵器 | 高台付坏 | — | (2.6) | 8.4 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 上層 | 30%, 堀の内窯 |
| 1359 | 須恵器 | 蓋 | 15.0 | 4.2 | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 竈煙道部 | 70%, 堀の内窯, PL106 |
| 1360 | 須恵器 | 盤 | [17.2] | 4.4 | 9.6 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 下層 | 70%, 堀の内窯, PL106 |
| 1361 | 須恵器 | 甌 | [26.0] | (6.5) | — | 白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内面指頭圧痕、外面斜位と横位の平行叩きを重ねる | 上層 | 10%, 新治窯 |
| 1362 | 土師器 | 甕 | [15.8] | (6.7) | — | 長石・白雲母 | にぶい黄 | 普通 | 体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ | 竈火床部 | 10%, 火熱痕 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|----|----|----|--------------------|------|------|
| TP346 | 須恵器 | 甕 | 長石 | 灰 | 普通 | 体部外面に2段の波状沈線（3本櫛歯） | 覆土中 | 堀の内窯 |

第140B号住居跡（第157図）

位置 調査区西部1区のC2a9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2247号土坑，第1号柵，ピット（1か所）に掘り込まれている。また，本住居を拡張して第140A号住居が構築されている。

規模と形状 長軸3.7m，短軸3.5mのほぼ方形で，主軸方向はN-20°-Wである。壁高は25cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 第140A号住居に拡張した際も，同じ床面を使っている。壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されている。

ピット 1か所。深さ26cmで，竈と向い合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

所見 本跡を拡張して第140A号住居が建てられたと推測されるが，竈を作り替えた痕跡や床を貼り床した痕跡もないことから，本跡を建ててすぐに第140A号住居に拡張したと考えられる。時期は，第140A号住居の年代観に従い8世紀末葉から9世紀前葉と考えられる。

第141号住居跡（第159図）

位置 調査区西部1区のB 2 h6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第144号住居跡を掘り込み、第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外に延び、さらに北西部が第1号道路に掘り込まれているため、東西軸は3.2m、南北軸は2.4mだけ確認された。P 2が出入り口施設に伴うピットと考えられることから、N-30°-Wを主軸方向とする方形もしくは長方形と推定した。壁高は20cmで外傾して立ち上がっている。

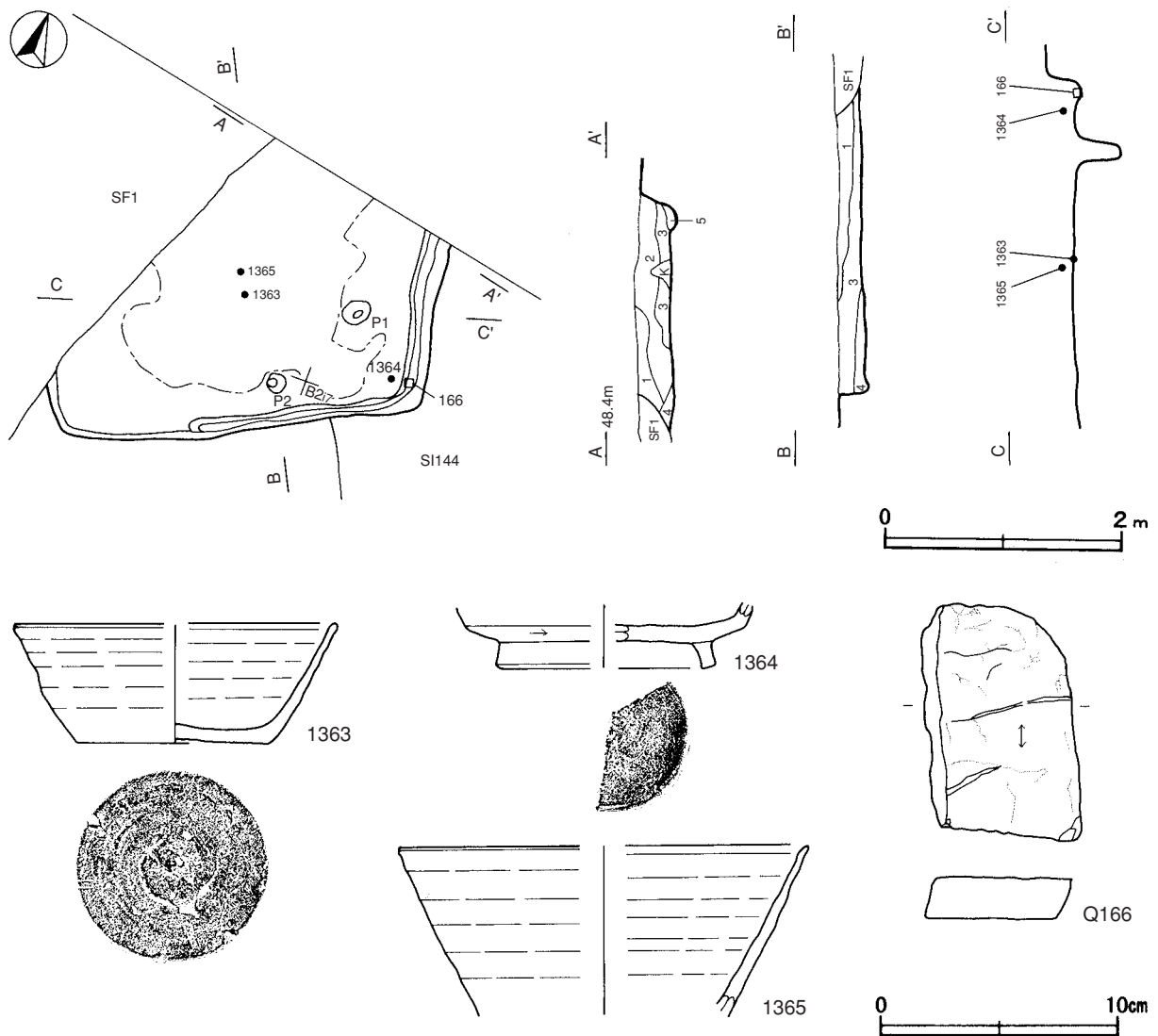
床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝は東壁際から南壁際にかけて巡っている。

ピット 2か所。P 1は深さ38cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。他の支柱穴は、第1号道路に掘り込まれているか、もしくは調査区域外に存在していると想定される。P 2は深さ26cmで、南壁際の中央部寄りにあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量 | 4 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | |



第159図 第141号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片43点（甕），須恵器片10点（坏9，高台付坏1），石器1点（砥石）が中央部下層を中心に出土している。1364は南東コーナー部の，1365は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。1363は中央部の床面から，Q166は東壁際の壁溝の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，床面出土の土器から8世紀末葉から9世紀前葉と考えられる。

第141号住居跡出土遺物観察表（第159図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-------|-------|-------|----|----|------------------|------|----------------|
| 1363 | 須恵器 | 坏 | [13.4] | 5.0 | 8.0 | 長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り | 床面 | 60%，堀の内窯，PL106 |
| 1364 | 須恵器 | 坏 | — | (2.8) | [9.2] | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け | 下層 | 20%，堀の内窯 |
| 1365 | 須恵器 | 坏 | [17.0] | (7.1) | — | 黒色粒子 | 浅黄 | 普通 | 体部ロクロナデ | 下層 | 10%，窯不明 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-------|-----|---------|------|--------------|-------|----|
| Q166 | 砥石 | (10.1) | (6.6) | 1.8 | (240.0) | 雲母片岩 | 砥面1面，断面平行四辺形 | 壁溝覆土中 | |

第143号住居跡（第160図）

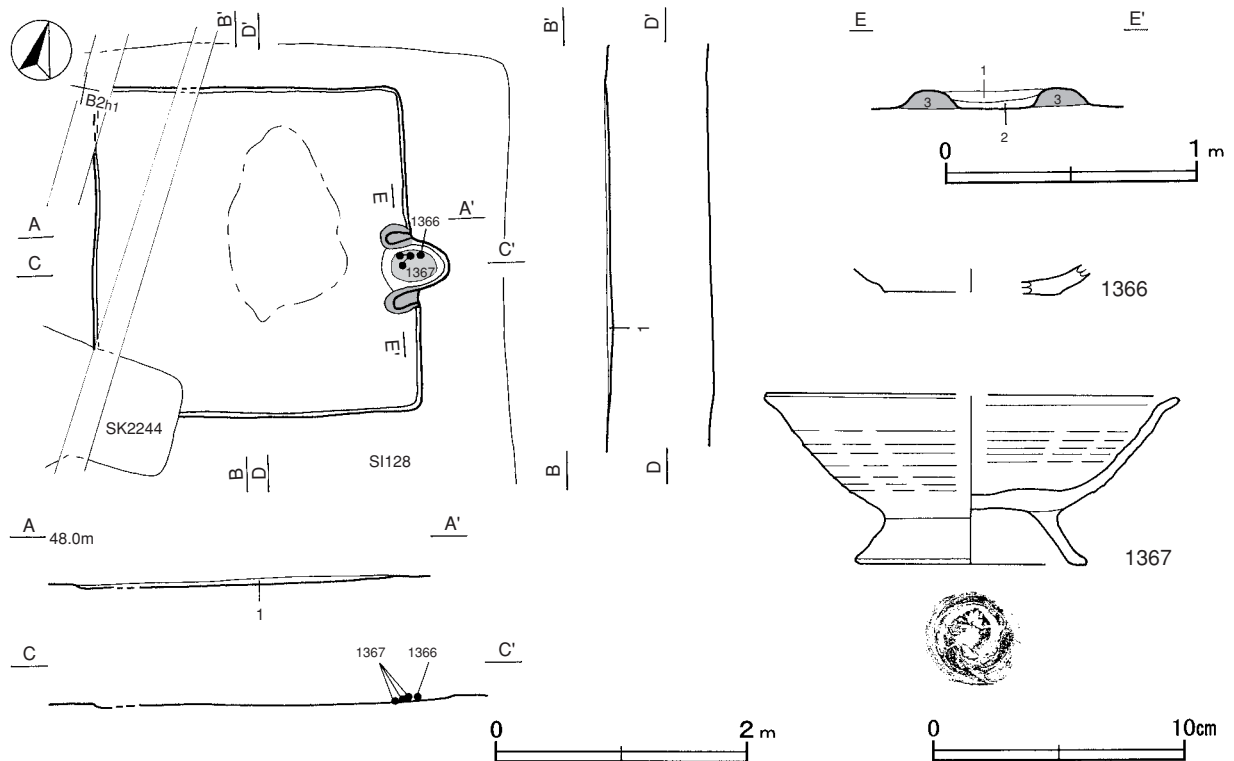
位置 調査区西部2区のB2h1区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第128号住居跡を掘り込み，第224号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺2.6mの方形で，主軸方向はN-75°-Eである。壁高は2cmである。

床 ほぼ平坦で，竈の手前がよく踏み固められている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されており，焚口から煙道部まで54cm，壁外への掘り込みは27cm，袖部幅72cm，火床部幅32cmである。袖部は，ロームブロックを主とする暗褐色土で構築されている。火床部は床面と同じ高



第160図 第143号住居跡・出土遺物実測図

さの地山面をそのまま使用しており、火床面が火熱で赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | | |

覆土 単一層である。薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片4点(坏1・高台付椀3)が竈から出土している。1366・1367は竈の火床部から逆位で出土し、火熱痕があるため、1367は支脚、1366は支脚の高さを調整するものとして転用されたものと考えられる。

所見 時期は、竈から出土した高台付椀の形状から10世紀後葉と考えられる。

第143号住居跡出土遺物観察表(第160図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-------|--------|------|----|-------------------|------|----------|
| 1366 | 土師器 | 坏 | — | (1.2) | [6.9] | 長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部ロクロナデ | 竈火床部 | 5%, 火熱痕 |
| 1367 | 土師器 | 高台付椀 | [16.0] | 6.7 | [8.8] | 白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 竈火床部 | 50%, 火熱痕 |

第151号住居跡(第161・162図)

位置 調査区西部1区のC2c9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第152・178・210・213号住居跡, 第21・47号方形竪穴遺構, 第2621号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.2m, 短軸3.0mのほぼ方形で、主軸方向はN-82°-Eである。壁高は10cmである。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められており、壁溝が周回している。また、貼床は、掘り方に2cmほど暗褐色土を充填して構築土としている。

竈 東壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで106cm, 壁外への掘り込みは40cm, 袖部幅は108cm, 燃焼部幅30cmである。袖部はロームブロックや砂質粘土ブロック混じりの暗褐色土などで構築され、砂質粘土ブロックを中量含む第10層が袖の芯材と考えられる。火床部は床面から15cmほど掘りくぼめた後、ローム土を充填して構築されている。火床部から煙道部にかけては、火熱で赤変硬化している。煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 明褐灰色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 | | |

ピット 5か所。支柱穴はP1~P4が相当し、深さが16~25cmである。P5は深さ34cmで、竈に向い合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

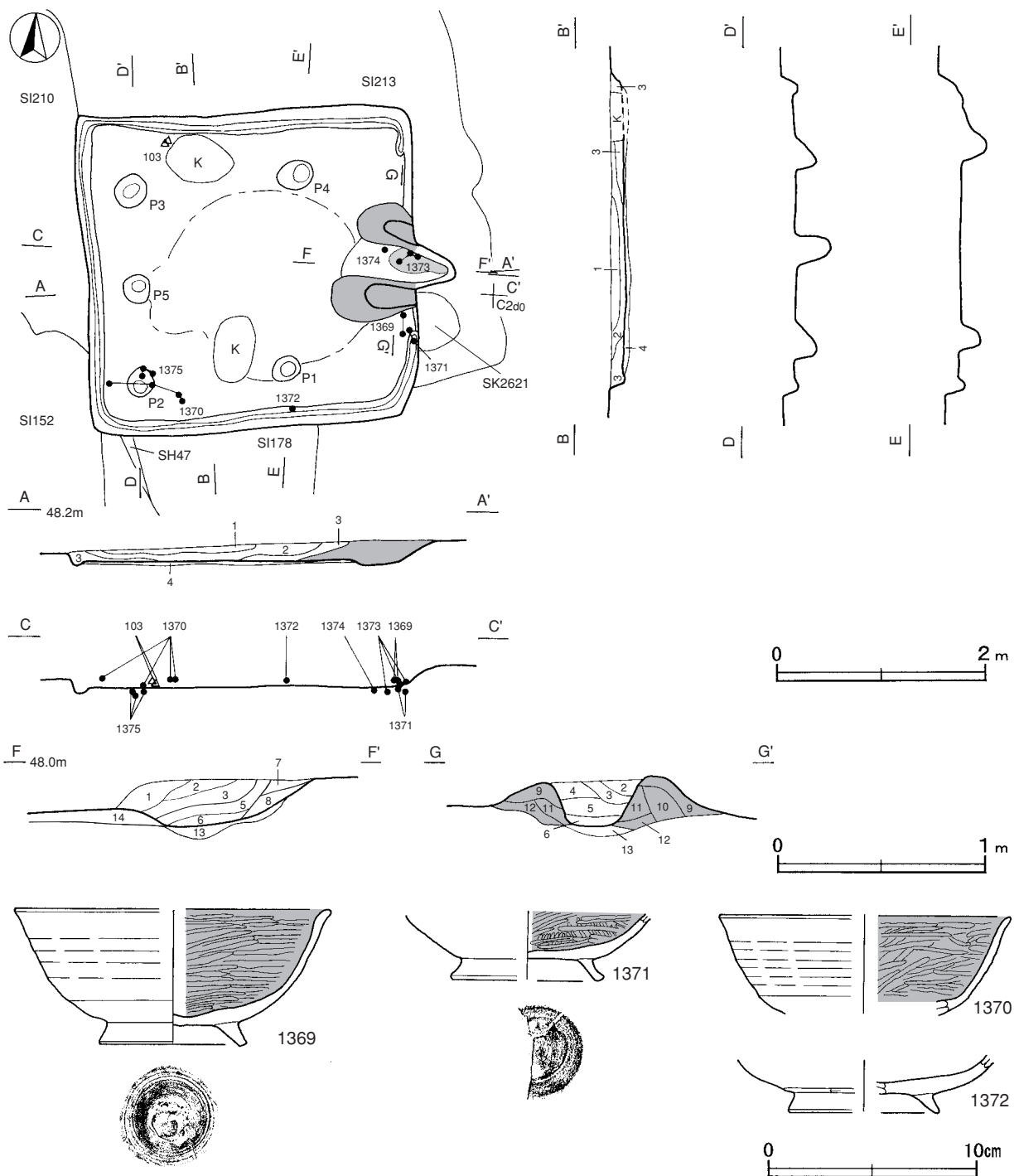
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第4層は貼床の構築土である。

土層解説

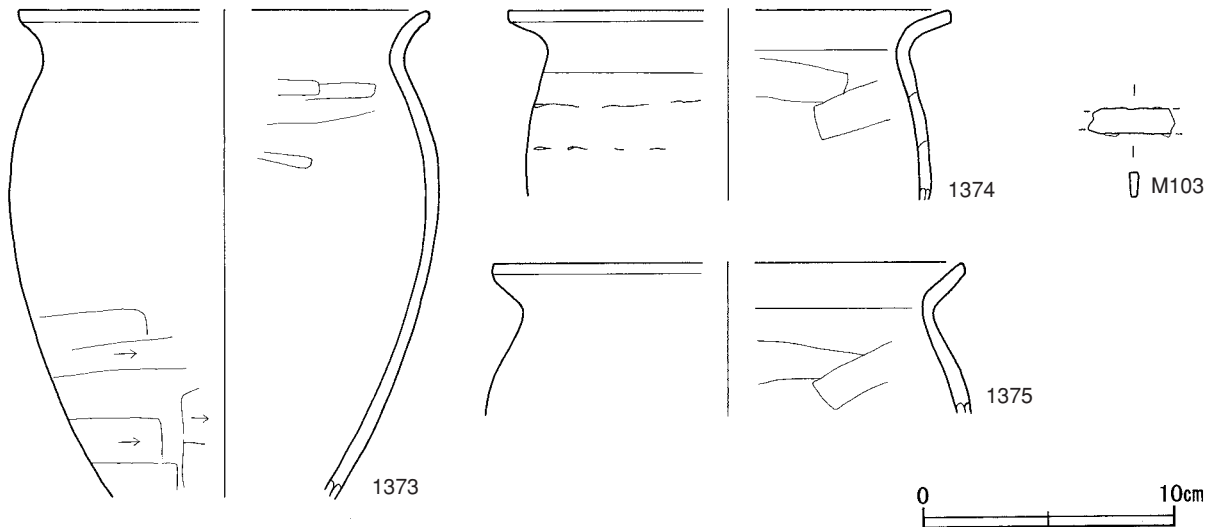
- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量(貼床構築土) |

遺物出土状況 土師器片337点（坏64，高台付椀22，甕251），須恵器片4点（甕），鉄製品1点（刀子）が，南東コーナー部及び南西コーナー部の覆土下層から床面に掛けて出土している。1369は東壁際，1372は南壁際，M103は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。1369は残存率が高く，破断面が摩耗していないことから，廃絶後に投棄されたものと考えられる。1370は南西コーナー部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。1371は東壁際の床面，1375はP2の覆土中からそれぞれ出土している。1373・1374は竈の火床部から出土し，火熱痕があることから，竈で使用されていたものが廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は，出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第161図 第151号住居跡・出土遺物実測図



第162図 第151号住居跡出土遺物実測図

第151号住居跡出土遺物観察表（第161・162図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|--------|-------|-----------|-------|----|------------------|---------|------------|
| 1369 | 土師器 | 高台付椀 | [15.0] | 6.5 | 6.8 | 金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 下層 | 70%, PL106 |
| 1370 | 土師器 | 高台付椀 | [13.8] | (4.7) | — | 金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き | 上層 | 30% |
| 1371 | 土師器 | 高台付椀 | — | (3.4) | [7.2] | 長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 床面 | 30% |
| 1372 | 土師器 | 高台付椀 | — | (2.9) | [7.2] | 白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 下層 | 30% |
| 1373 | 土師器 | 甕 | [16.0] | (14.3) | — | 石英・長石 | 明赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ | 竈火床部 | 5%, 火熱痕 |
| 1374 | 土師器 | 甕 | [17.4] | (7.5) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | 竈火床部 | 10%, 火熱痕 |
| 1375 | 土師器 | 甕 | [18.4] | (6.1) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | P 2 覆土中 | 10%, 火熱痕 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-----|-------|----|-------|------|----|
| M103 | 刀子 | (3.5) | 1.0 | 0.4 | (4.8) | 鉄 | 刃部の破片 | 下層 | |

第152号住居跡（第163・164図）

位置 調査区西部1区のC2d8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第178・186・210・213号住居跡，第21・47号方形竪穴遺構を掘り込み，第151号住居，第2592号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.3m，短軸3.1mのほぼ方形で，主軸方向はN-5°-Wである。壁高は30~38cmで，各壁ともほぼ直立している。

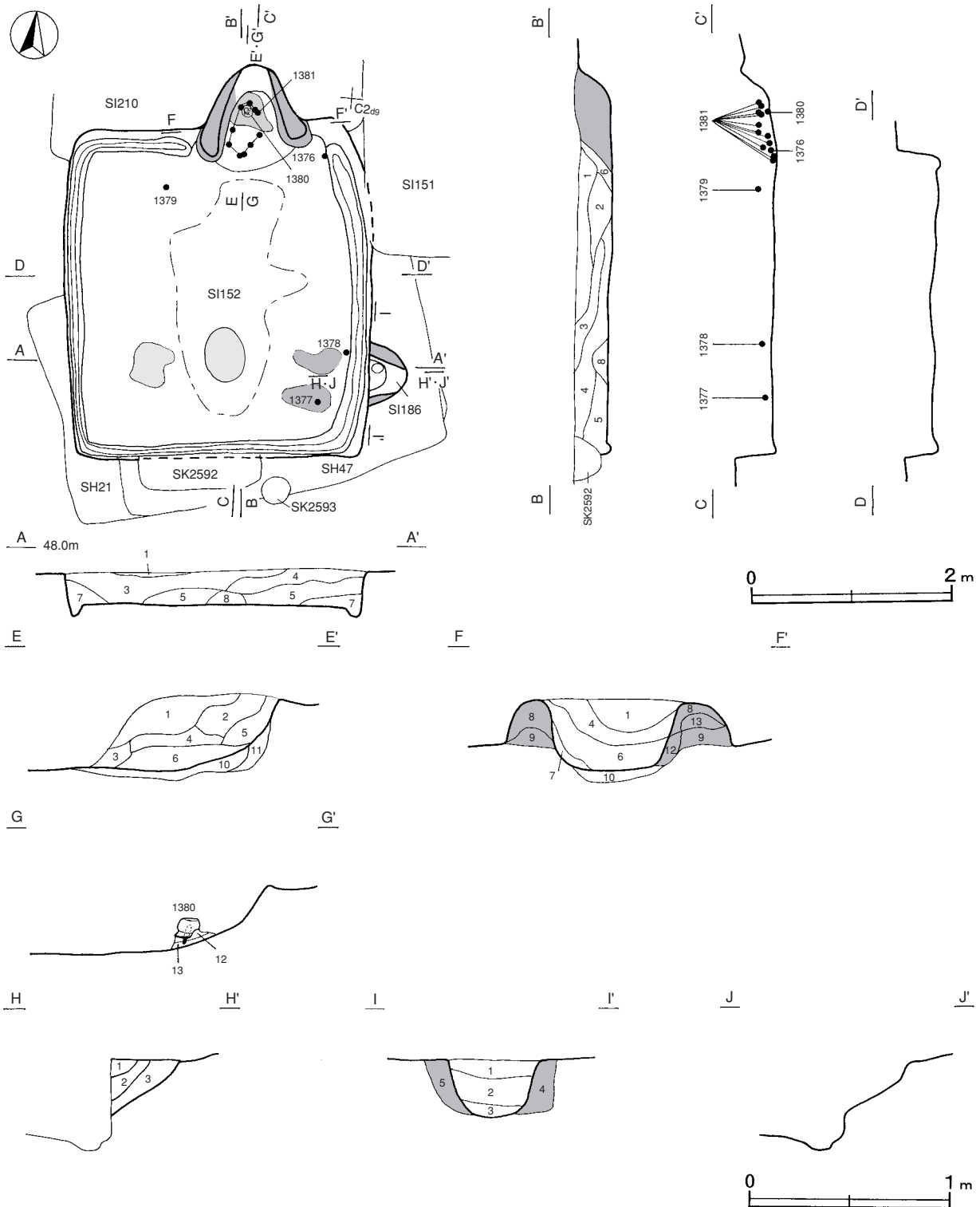
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。南壁中央部が土坑に掘り込まれているが，壁溝は遺存し，周回している。

竈 北壁の東寄りに付設されており，焚口部から煙道部まで107cm，壁外への掘り込みは62cm，袖部幅は110cm，燃烧部幅は57cmである。天井部は崩落しており，砂質粘土ブロックを主とする土層断面図中の第4層が相当する。袖部は，黒褐色土を基部にして，砂質粘土ブロックを主とする暗赤褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は地山面を5~7cmほど掘くぼめた後，ロームブロックを主とする暗褐色土を床面と同じ高さまで埋め戻して構築している。火床面は火熱で赤変硬化し，小形甕を転用した支脚が据えられていた。煙道部は緩やか

な傾斜で立ち上がっている。

電土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 |
| | | 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |



第163図 第152・186号住居跡実測図

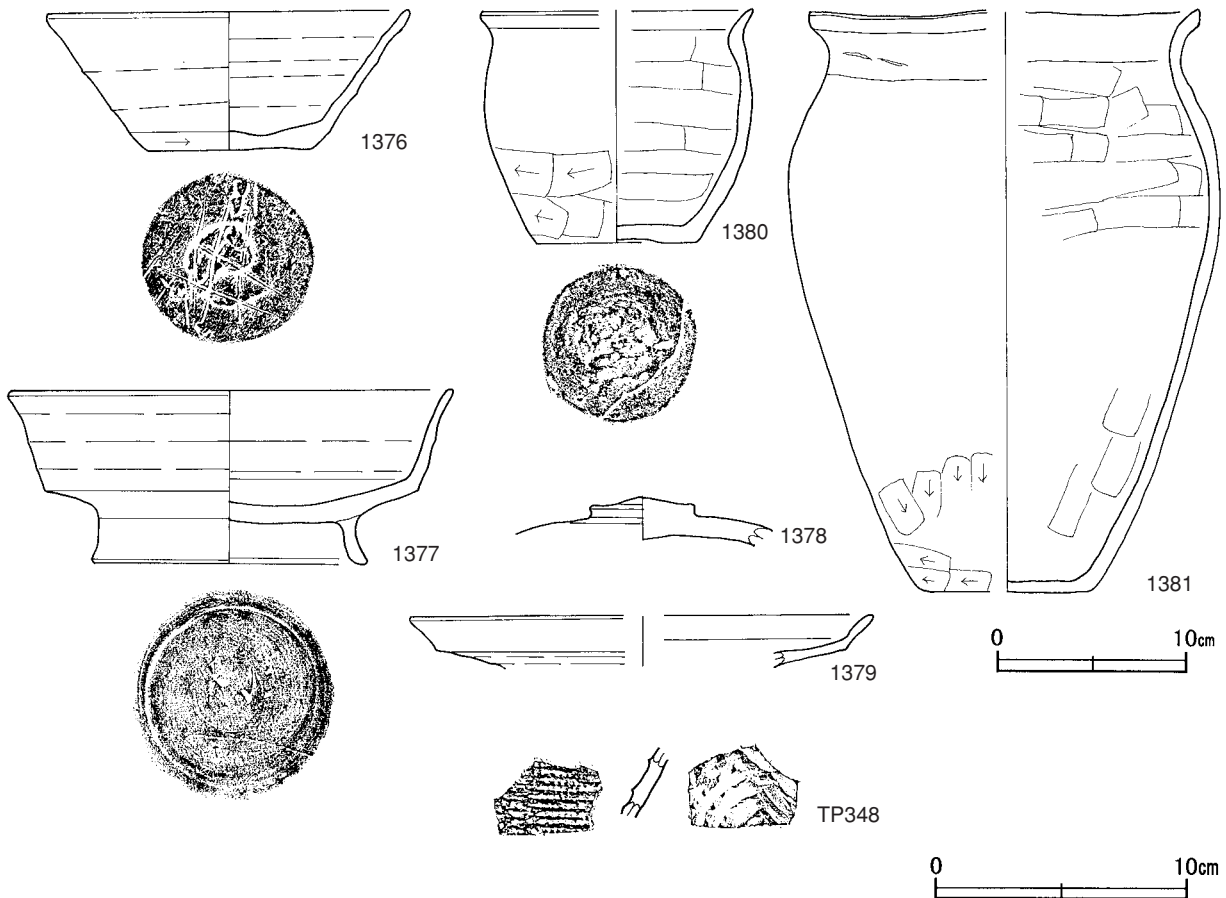
覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 極暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・ 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片549点 (坏118, 甕431), 須恵器片43点 (坏28, 高台付坏1, 蓋4, 盤2, 瓶1, 甕6, 甌1), 桃の種1点が竈及び北部の覆土下層を中心に出土している。土師器の坏は, ほとんどが細片で古墳時代のものであることから, 住居廃絶後の埋め戻しの際に混入したものと考えられる。1379は北西部の覆土中層, 1378は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。1376は北東コーナー部の, 1377は南東コーナー部の覆土下層から出土しており, 現存率が高く, 破断面が摩滅していないことから, 住居廃絶後すぐに投棄されたものと考えられる。1380は小形甕で, 竈の火床部から逆位で出土しており, 火熱痕があることから支脚として転用されたものと考えられる。支脚に転用された小形甕の内側には, 炭化材と粘土が確認でき, 甕を固定していたものと考えられる。1381は竈の火床部から散在した状態で出土し, 火熱痕があることから, 竈で使用されていたものが廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また, 南部の覆土下層に焼土ブロックと粘土ブロックが確認できたが, 床も遺物も焼けておらず, 埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見 廃絶時期は, 竈および覆土下層から出土している土器から9世紀中葉と考えられる。本跡に伴う遺物が少ないのは, 住居を廃絶する際に土器類を持ち出したためと推測される。



第164図 第152号住居跡出土遺物実測図

第152号住居跡出土遺物観察表（第164図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-------|-----------|-------|----|---------------------|------|------------------------------|
| 1376 | 須恵器 | 坏 | 14.0 | 5.5 | 6.6 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り，体部下端回転ヘラ削り | 下層 | 95%，堀の内窯，底部ヘラ記号「#」，PL106・118 |
| 1377 | 須恵器 | 高台付坏 | 17.5 | 6.9 | 10.6 | 石英・長石 | 黄灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け | 下層 | 95%，堀の内窯，PL106 |
| 1378 | 須恵器 | 蓋 | — | (1.9) | — | 石英・長石 | にぶい黄橙 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 下層 | 10%，窯不明 |
| 1379 | 須恵器 | 盤 | [18.2] | (2.0) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 口縁部ロクロナデ | 中層 | 10%，堀の内窯 |
| 1380 | 土師器 | 小形甕 | [10.6] | 9.2 | 6.1 | 石英・長石 | 明赤褐 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラナデ | 竈火床部 | 70%，火熱痕，PL106 |
| 1381 | 土師器 | 甕 | [20.2] | 30.5 | [8.3] | 石英・長石・白雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラナデ | 竈火床部 | 40%，火熱痕 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-------|-----|----|----|----|----|----------------------|------|-----|
| TP348 | 須恵器 | 甕 | 長石 | 灰 | 普通 | 体部外面擬格子叩き，内面同心円の当て具痕 | 覆土中 | 窯不明 |

第186号住居跡（第163図）

位置 調査区西部1区のC2d9区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第213号住居跡，第21・47号方形竪穴遺構を掘り込み，大部分を第152号住居に掘り込まれている。

規模と形状 竈以外は掘り込まれているため，規模と形状は不明である。

竈 竈の向きから東壁に付設されていたと考えられるが，壁外への掘り込みだけが確認された。火床面は火熱で赤変硬化している。煙道部は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| | | 5 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片3点（甕）が竈から出土している。

所見 時期は，9世紀中葉と考えられる遺構に掘り込まれ，竈から律令期の土師器が出土していることから，奈良時代もしくは平安時代と考えられる。

第158号住居跡（第165～167図）

位置 調査区西部1区のC2d7区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第171・178号住居跡，第21号方形竪穴遺構を掘り込み，第166号住居，ピット（3か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.6m，短軸3.5mの方形で，主軸方向はN-2°-Eである。壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で，壁溝の内側が踏み固められている。壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されており，焚口部から煙道部まで102cm，壁外への掘り込みは43cm，袖部幅は104cm，火床部幅は46cmである。天井部は崩落しており，砂質粘土ブロックを中量含む土層断面図中の第1層が相当する。袖部は，基部に地山を掘り残した上に暗褐色土を貼り，さらに，砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており，火床面が火熱で赤変硬化している。また，火床面には小形甕を転用した支脚が据えられている。煙道部は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

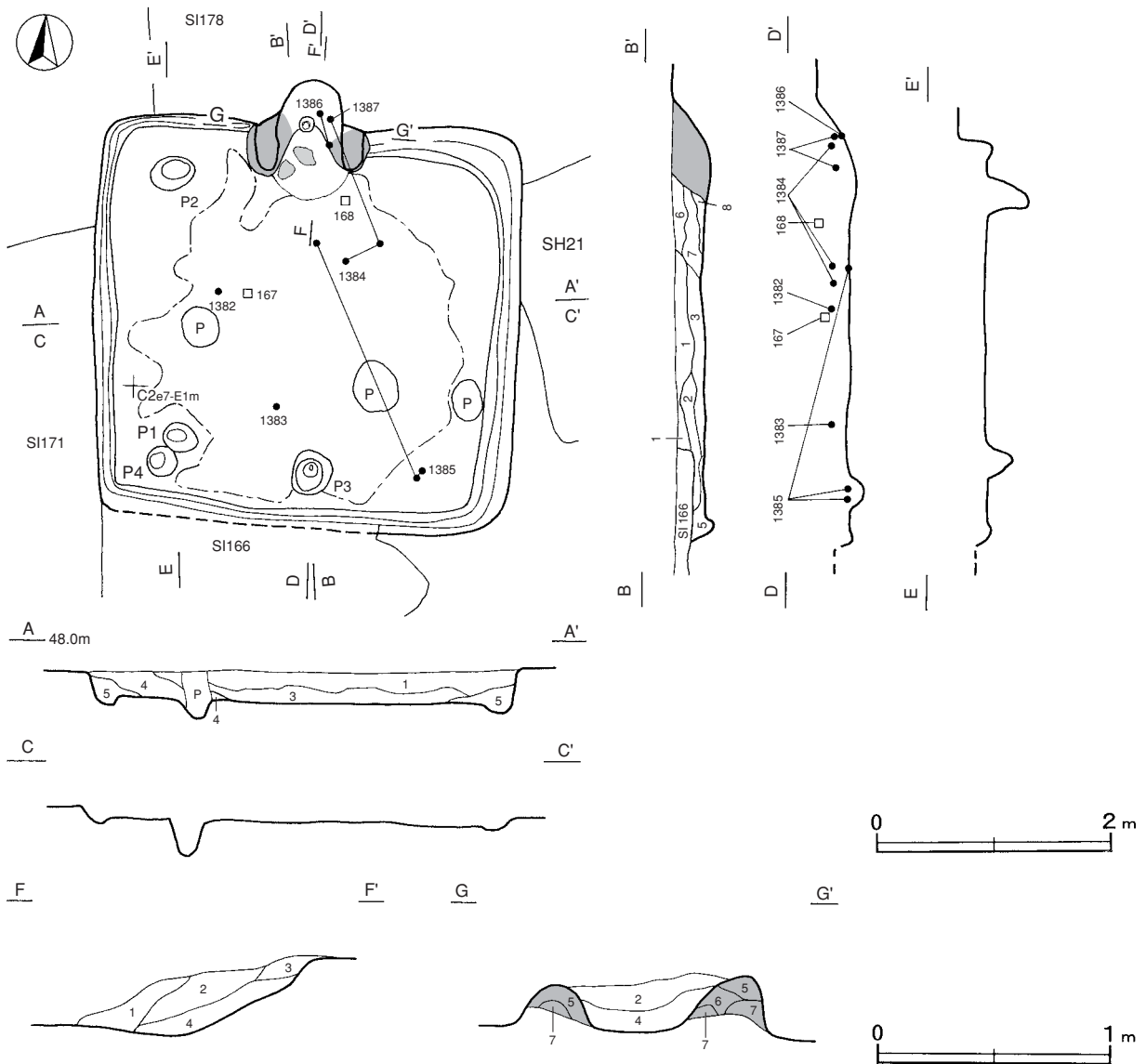
- | | | | |
|--------|---------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・砂粒中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 明褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量 | 6 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物・砂粒微量 | | |

ピット 4か所。P1・P2は深さ20cmと32cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。東側に対応するピットは確認できなかった。P3は深さ12cmで、竈に向い合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ20cmで、P1の内側にあり、P4からP1に柱を建て替えたものと考えられる。

覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

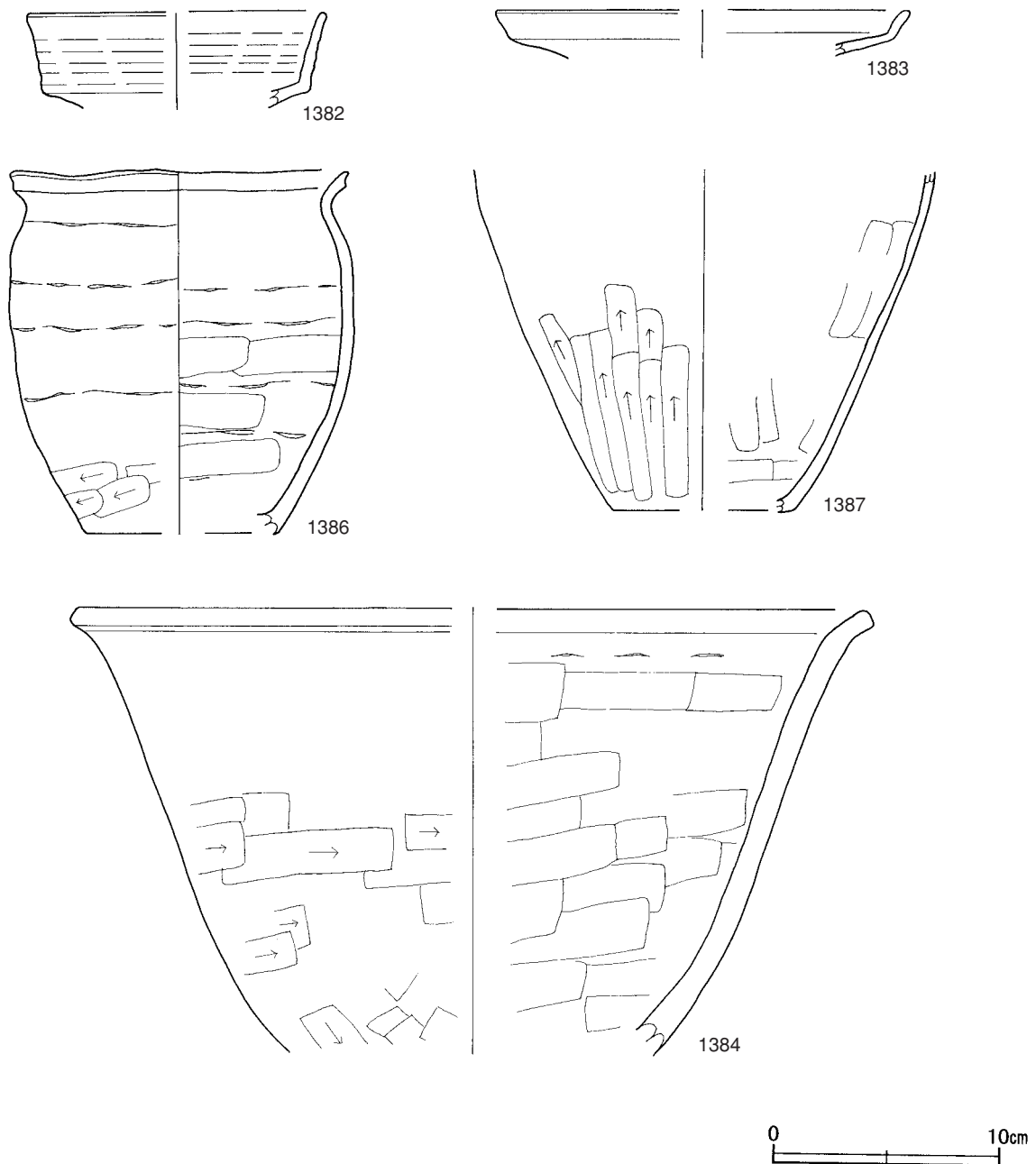
- | | | | |
|--------|-------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | | |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |



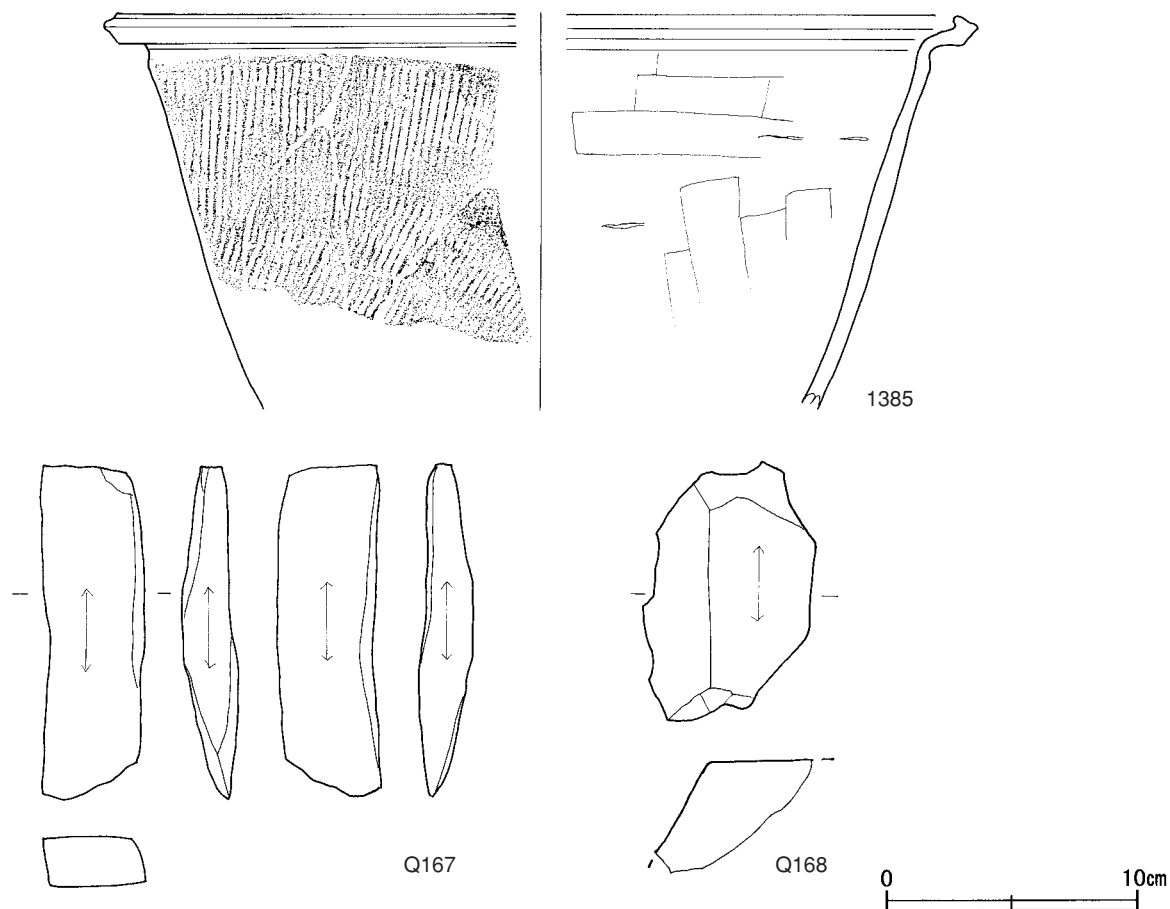
第165図 第158号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片303点（坏21，小形甕1，甕279，甑2），須恵器片41点（坏7，高台付坏2，鉢3，盤1，甕28），砥石2点が竈火床部及び竈手前から中央部にかけて散在した状態で出土している。1382・1383・Q167は中央部の，Q168は竈手前の覆土上層から出土している。1384は竈の覆土上層と竈手前の覆土上層から出土した破片が，1385は竈手前と南東コーナー部の床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。1386は竈火床部から逆位で底が抜けた状態で出土し，火熱痕があることから，支脚として転用されたものと考えられる。また，1387は竈の覆土中層から崩れた状態で出土し，火熱痕があることから，竈で使われていたものが廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀前半と考えられる。本跡は，隣接している第152号住居跡と規模や形状が酷似し，ともに竈に小形甕を転用した支脚を設けている。



第166図 第158号住居跡出土遺物実測図（1）



第167図 第158号住居跡出土遺物実測図（2）

第158号住居跡出土遺物観察表（第166・167図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|--------|-------|-----------|----|----|--------------------|----------|------------------------|
| 1382 | 須恵器 | 高台付坏 | [12.3] | (4.2) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部ロクロナデ，高台部剥離痕あり | 上層 | 5%，堀の内窯 |
| 1383 | 須恵器 | 盤 | [18.0] | (2.1) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 口縁部ロクロナデ | 上層 | 5%，堀の内窯 |
| 1384 | 須恵器 | 鉢 | [34.3] | (19.4) | — | 長石 | 灰 | 普通 | 体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ | 竈覆土上層・上層 | 10%，堀の内窯 |
| 1385 | 須恵器 | 鉢 | [33.2] | (15.6) | — | 石英・長石・白雲母 | 灰 | 普通 | 体部外面縦位の平行叩き，内面ヘラナデ | 床面 | 5%，新治窯 |
| 1386 | 土師器 | 小形甕 | 14.6 | 16.0 | [8.2] | 石英・長石 | 橙 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラナデ | 竈火床部 | 80%，火熱痕，体部外面粘土附着，PL106 |
| 1387 | 土師器 | 甕 | — | (15.0) | [8.0] | 石英・長石・金雲母 | 暗褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ | 竈覆土中層 | 30% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-------|-------|---------|-----|---------------|------|-------|
| Q167 | 砥石 | 13.1 | 4.1 | 2.0 | 151.0 | 凝灰岩 | 砥面4面，断面形平行四辺形 | 上層 | PL120 |
| Q168 | 砥石 | (10.3) | (6.9) | (4.5) | (298.0) | 砂岩 | 砥面1面，調整面1面 | 上層 | |

第160A号住居跡（第168・169図）

位置 調査区西部1区のC2d0区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第35号方形竪穴遺構，第2354・2370・2388号土坑，ピット（3か所）に掘り込まれている。また，第160B号住居跡の床面に貼床をし，西側に30cmほど拡張して本跡が構築されている。

規模と形状 長軸3.4m，短軸3.1mのほぼ方形で，主軸方向はN-5°-Eである。壁高は24~28cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，出入口施設に伴うピットの内側から竈手前にかけて踏み固められている。壁溝は周回している。

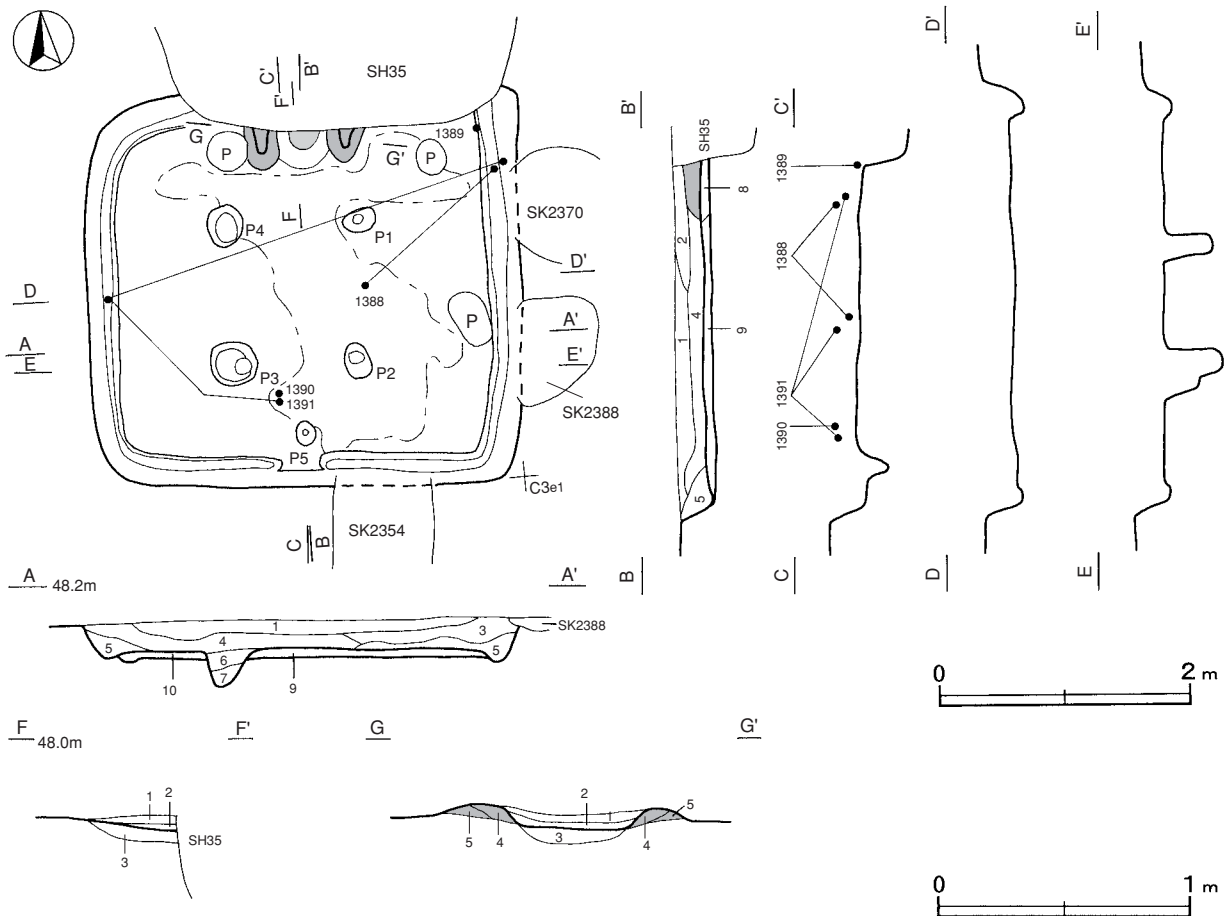
竈 北壁の中央部に付設されているが，遺存状態が悪いため，袖部幅96cm，火床部幅48cmだけが確認された。袖部はロームブロックと砂質粘土ブロックを混ぜた暗褐色土で構築されている。火床部は10cm皿状に掘りくぼめた後，床面と同じ高さまでロームブロックを含む暗褐色土を埋め戻して構築している。火床面は火熱で赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量， 焼土ブロック微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1~P4は深さ39~48cmで，規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ23cmで，竈に向い合う位置にあり，出入口施設に伴うピットと考えられる。第160B号住居から本跡に拡張する際にピットを作り替えた痕跡がないことから，第160B号住居においても同じピットを使っていたものと考えられる。

覆土 5層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。第6・7層はP3の覆土，第8層は竈の掘り方の埋土，第9・10層は貼床の構築土である。



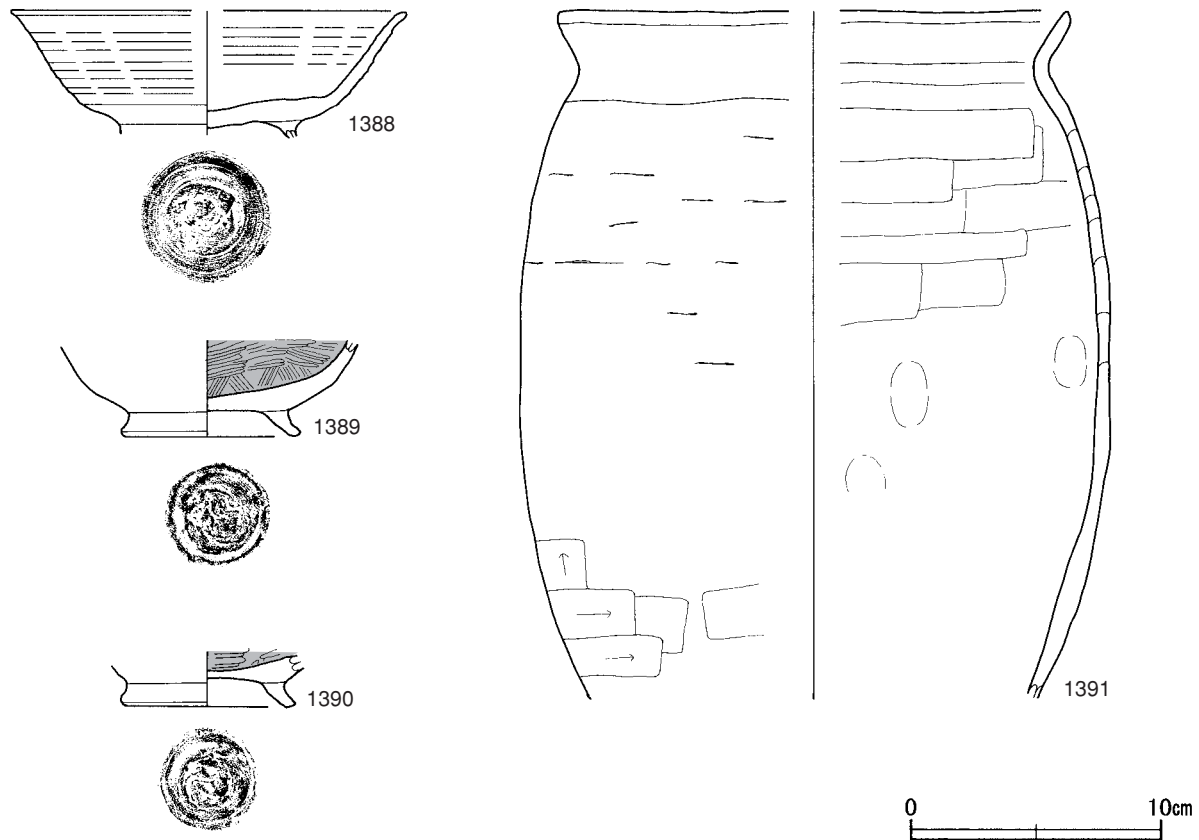
第168図 第160A号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 (貼床構築土) |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量 (貼床構築土) |

遺物出土状況 土師器片248点(坏73, 高台付椀3, 甕172)が全域から散在した状態で出土している。1389は東壁際の覆土下層, 1390は中央部の覆土上層からそれぞれ出土したものである。1388は東壁際の覆土上層と中央部の覆土下層から出土した破片が, 1391は東壁際と西壁際と中央部の覆土上層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。1388・1391は離れた位置から出土した破片が接合関係にあり, 破断面が摩滅していないことから, 廃絶後の埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は, 出土土器から10世紀後葉と考えられる。本跡は, 第160B号住居を西側に30cmほど拡張した住居と考えられる。



第169図 第160A号住居跡出土遺物実測図

第160A号住居跡出土遺物観察表 (第169図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|--------|-----|-----------|------|----|--------------------|-------|-----|
| 1388 | 土師器 | 高台付椀 | [15.6] | (5.1) | — | 金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 上層・下層 | 50% |
| 1389 | 土師器 | 高台付椀 | — | (3.8) | 6.8 | 金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 下層 | 40% |
| 1390 | 土師器 | 高台付椀 | — | (2.1) | 6.6 | 金雲母 | 橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 上層 | 30% |
| 1391 | 土師器 | 甕 | [20.0] | (27.4) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 上層 | 30% |

第160B号住居跡（第170図）

位置 調査区西部1区のC 2 d0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第35号方形竪穴遺構，第2354・2370・2388号土坑，ピット（3か所）に掘り込まれている。また，本跡の上に貼床をして，さらに西側に30cmほど拡張して第160A号住居が構築されている。

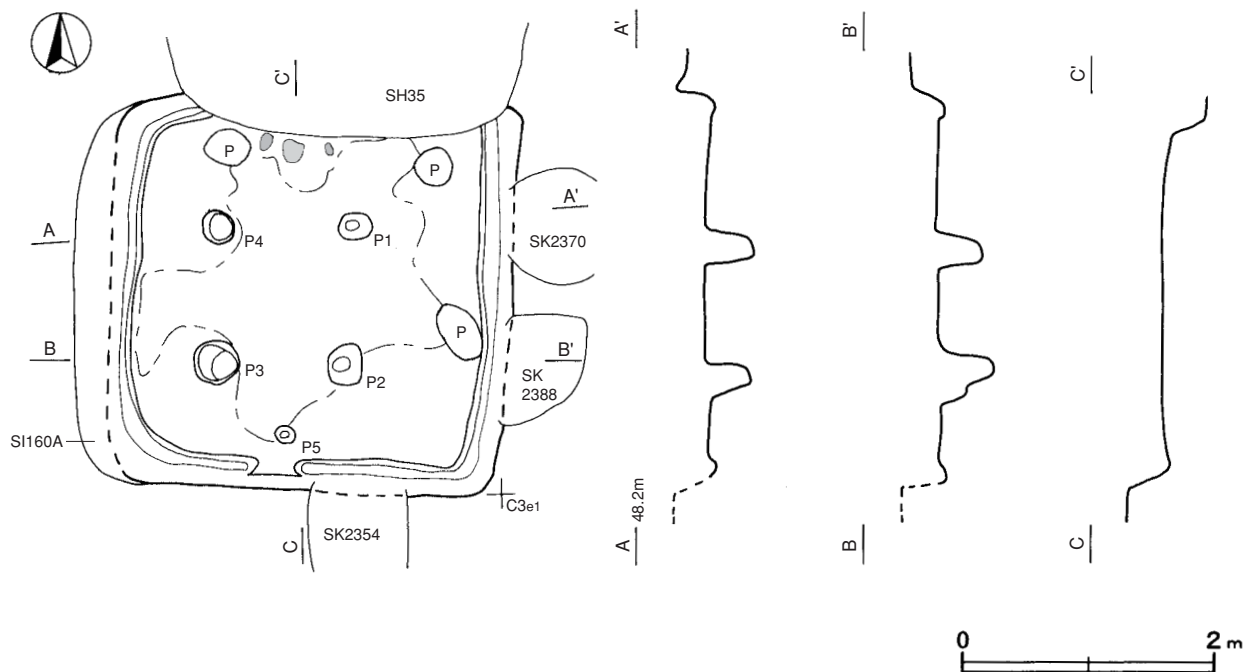
規模と形状 壁溝が確認できたことから一辺3.1mの方形と推測した。主軸方向はN-5°-Eである。壁高は30cmほどで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，出入口施設に伴うピットから竈手前及び西壁際の中央部にかけてよく踏み固められている。壁溝は出入口施設に伴うピット近くの壁際を除き確認された。

竈 北壁の中央部に付設されており，第160A号住居の竈の下に確認された。遺存状態が悪く，赤変した火床面と粘土範囲が確認できただけである。

ピット 5か所。主柱穴はP 1～P 4が相当し，深さは34～42cmである。P 5は深さ19cmで，竈に向い合う位置にあり，出入口施設に伴うピットと考えられる。

所見 時期は，本跡から第160A号住居への建て替えが行われ，第160A号住居が10世紀後半に廃絶されたと考えられることから，10世紀中葉と考えられる。本跡の竈と第160A号住居の竈がほぼ同じ位置にあるため，ほぼ同じ位置に構築したものと推測できる。



第170図 第160B号住居跡実測図

第163A号住居跡（第171・172図）

位置 調査区西部1区のC 3 b4区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第173号住居跡を掘り込み，第37号方形竪穴遺構，第2300号土坑，ピット（2か所）に掘り込まれている。また，第163B号住居跡の床面に貼床をして本住居が構築されている。

規模と形状 長軸3.8m，短軸3.4mのほぼ方形で，主軸方向はN-8°-Wである。壁高は6～12cmで外傾して

立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、柱穴の内側が踏み固められている。また、壁溝が周回している。

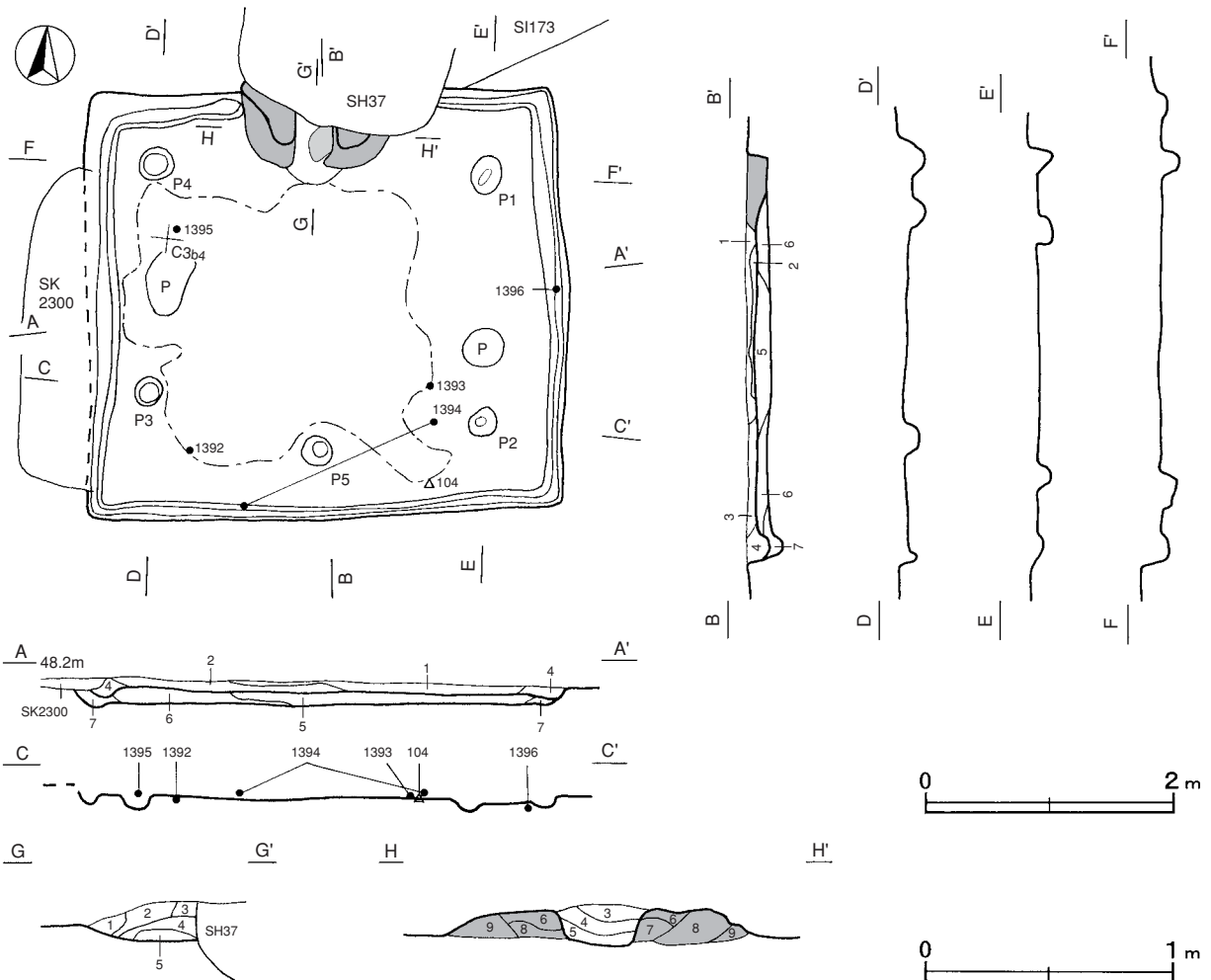
竈 北壁の中央部に付設されているが、北側は第37号方形竈穴遺構に掘り込まれているため、袖部幅118cm、火床部幅36cmだけが確認された。天井部は崩落しており、粘土ブロックを中量含む土層断面図中の第2層が相当する。袖部は砂質粘土ブロックを芯材にして、粘土ブロック混じりのローム土を貼り付けて構築されている。火床部は浅く皿状に掘りくぼめられ、火床面が火熱で赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐灰色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 明褐灰色 | 粘土ブロック多量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量 | 9 黒色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ10～15cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ24cmで、竈に向い合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。第5～7層は住居を構築した際の貼床の構築土である。



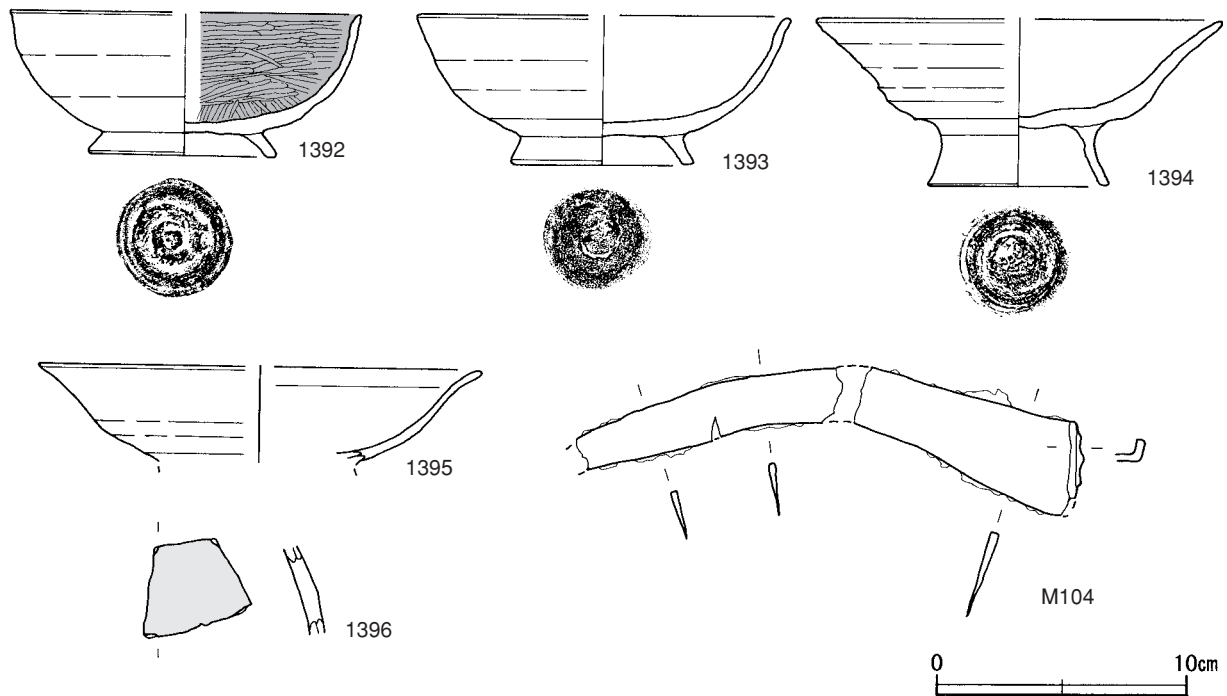
第171図 第163A号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 (貼床構築土) |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 (貼床構築土) |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 (貼床構築土) |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片132点 (坏46, 高台付椀20, 鉢2, 甕63), 須恵器片13点 (坏6, 蓋2, 瓶1, 甕4), 灰釉陶器片1点 (瓶カ), 鉄製品1点 (鎌) が出土している。須恵器片は細片で破断面が摩滅しており, 廃絶後の埋め戻しの際に混入したものと考えられる。1394は南壁際の覆土下層と南東部の床面から出土した破片が接合したものであり, 破断面が摩滅していないことから, 廃絶後の埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。1396は東壁の壁溝覆土中, M104は南壁際の, 1395は北西部の床面からそれぞれ出土している。1392は南西部の床面, 1393は南東部の床面からともにつぶれた状態で出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 床面出土の土器から10世紀後葉と考えられる。本跡は, 第160B号住居からの建て替えと考えられる。



第172図 第163A号住居跡出土遺物実測図

第163A号住居跡出土遺物観察表 (第172図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|------|--------|-------|-----|-----------|----------|----|-------------------|-------|-------------------|
| 1392 | 土師器 | 高台付椀 | [13.8] | 5.7 | 7.4 | 長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 床面 | 60%, PL107 |
| 1393 | 土師器 | 高台付椀 | [14.6] | 6.0 | 7.0 | 石英・長石・白雲母 | 橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 床面 | 50%, PL107 |
| 1394 | 土師器 | 高台付椀 | [15.8] | 6.7 | 7.0 | 石英・長石・白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 下層・床面 | 40% |
| 1395 | 土師器 | 高台付椀 | [17.4] | (3.8) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部ロクロナデ | 床面 | 20% |
| 1396 | 灰釉陶器 | 瓶カ | — | (3.5) | — | 普通 | オリーブ黄・灰白 | 良好 | 体部ロクロ調整, 釉は流し掛け | 壁溝覆土中 | 5%, 猿投産 (折戸53号窯式) |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-----|-----|--------|----|---------------------|------|----|
| M104 | 鎌 | (20.0) | 3.8 | 0.4 | (51.3) | 鉄 | 刃部は若干彎曲, 基部は全体を折り返す | 上層 | |

第163B号住居跡（第173図）

位置 調査区西部1区のC3b4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第173号住居跡を掘り込み、第37号方形竪穴遺構、第2300号土坑、ピット（2か所）に掘り込まれている。また、本住居の上に貼床をして第163A号住居が構築されている。

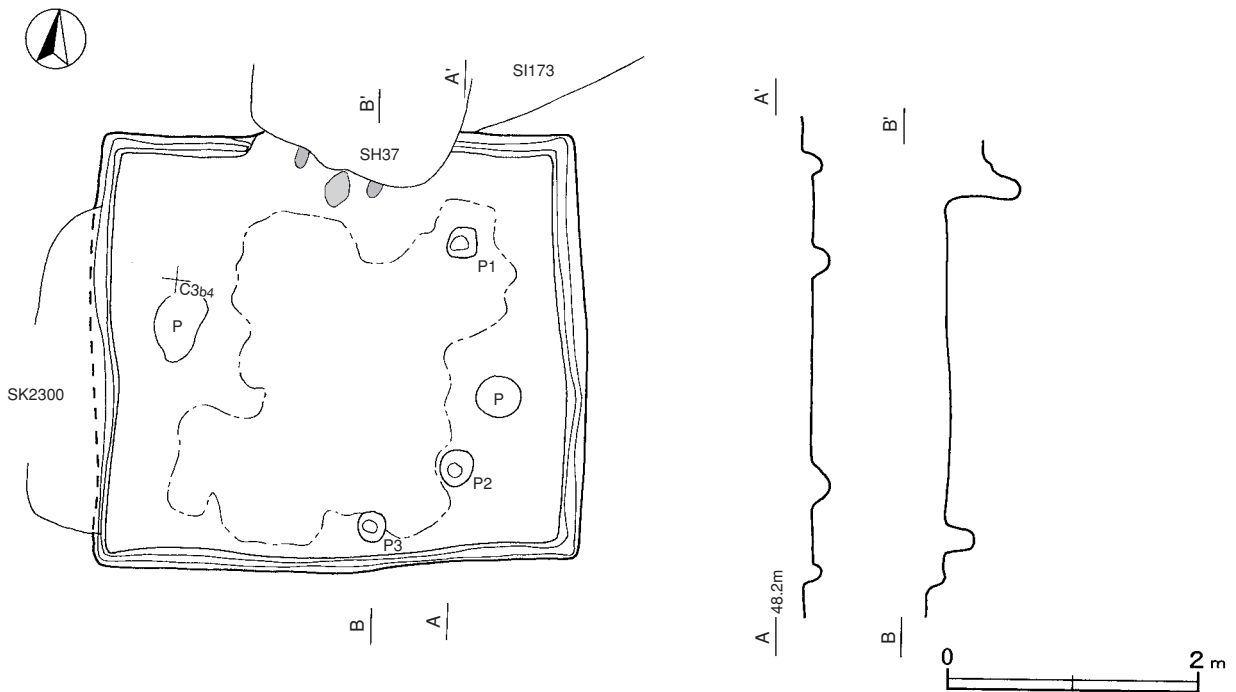
規模と形状 長軸3.8m、短軸3.4mのほぼ方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は8~14cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入口口施設に伴うピットから竈手前にかけて踏み固められている。また、壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部に付設されており、第163A号住居の竈の下に確認できたが、第161A号住居に掘り込まれているため、赤変した火床部と粘土範囲が確認できただけである。粘土範囲が確認できたことから、袖は粘土で構築されていたものと考えられる。

ピット 3か所。P1~P3は貼床の下で確認できたことから、本住居に伴うピットと考えられる。P1・P2は深さ14cmで、規模と形状から支柱穴と考えられる。P3は深さ24cmで、竈に向い合う位置にあり、出入口口施設に伴うピットと考えられる。

所見 時期は、本跡に貼床をして第163A号住居に建て替えられたと考えられ、第163A号住居が10世紀後葉に比定されていることから、10世紀中葉と考えられる。



第173図 第163B号住居跡実測図

第166号住居跡（第174図）

位置 調査区西部1区のC2e7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第158・171・178号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.8m、短軸2.4mの長方形で、主軸方向はN-93°-Eである。壁高は14~20cmで外傾して立

ち上がっている。

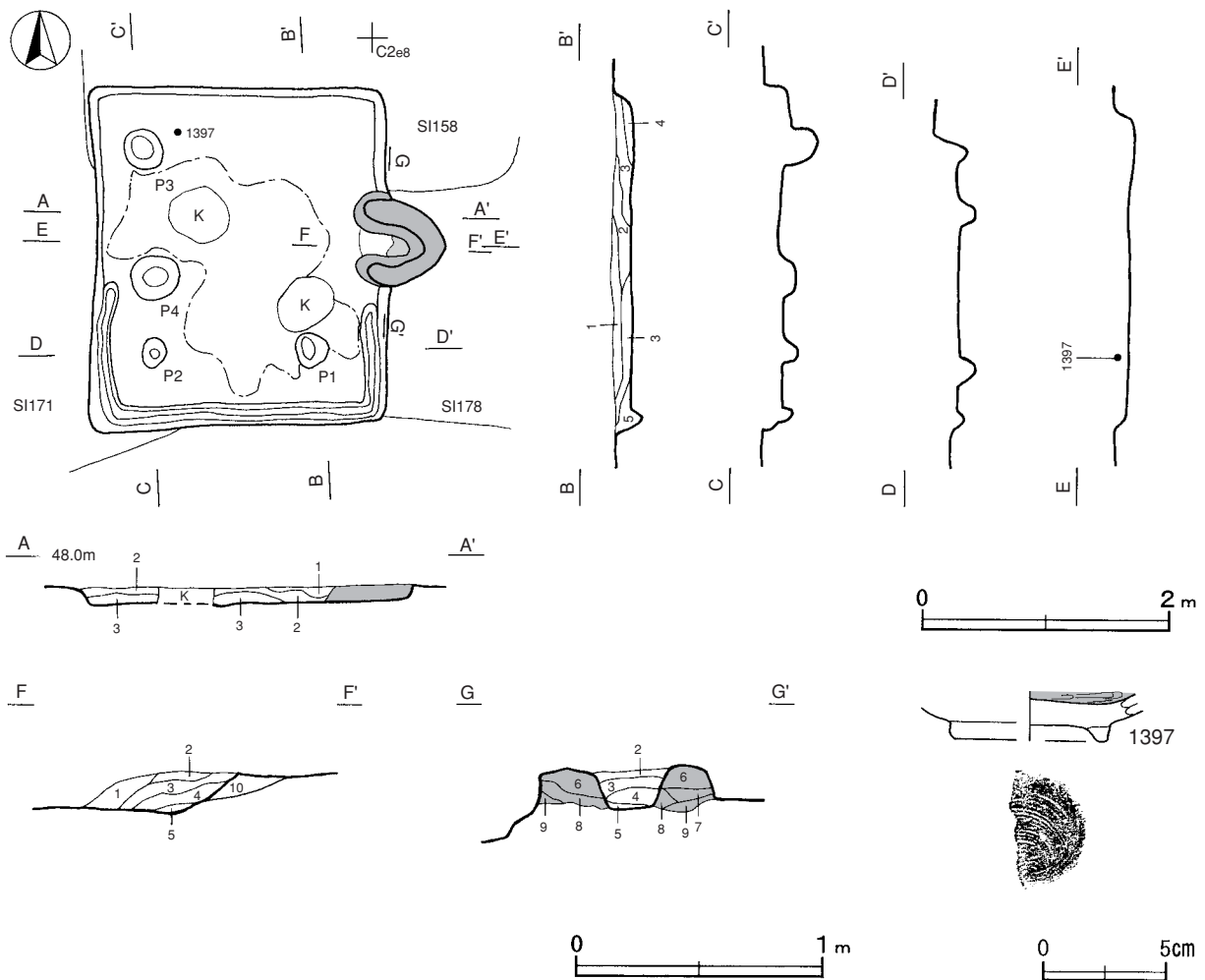
床 ほぼ平坦で、中央部から南側にかけて踏み固められている。また、壁溝は東壁際の南側から西壁際の南側にかけて確認できた。

竈 東壁の中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで72cm、壁外への掘り込みは45cm、袖部幅は72cm、火床部幅は24cmである。袖部はロームブロック混じりの暗褐色土を基部として、砂質粘土ブロックを貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部はロームブロックを貼り付けて構築され、緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 明褐灰色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |

ピット 4か所。P1～P3は深さ13～28cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。北東側にも支柱穴が想定されるが、確認できなかった。P4は深さ10cmで竈に向い合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第174図 第166号住居跡・出土遺物実測図

覆土 5層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片104点（坏19，高台付椀2，甕83）が全域から出土しているが、細片である。1397は北壁際の覆土上層から出土しているが、破断面が摩滅していないことから、混入したものと考えられる。

所見 時期は、9世紀前半と考えられる第158号住居跡を掘り込んでいることや出土遺物が10世紀以降の様相を示していることから、10世紀以降の平安時代と考えられる。

第166号住居跡出土遺物観察表（第174図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|----|-------|-------|-------|----|----|-----------------|------|-----|
| 1397 | 土師器 | 高台付椀 | — | (2.0) | [6.1] | 石英・長石 | 橙 | 普通 | 底部回転糸切り後，高台貼り付け | 上層 | 10% |

第180号住居跡（第175・176図）

位置 調査区西部1区のC2e9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第178号住居跡を掘り込み、ピット（2か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.5m，短軸3.4mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は22~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北壁の西側から南壁にかけてと北東コーナー部の壁際及び東壁の一部に確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで105cm，壁外への掘り込みは52cm，袖部幅は98cm，燃烧部幅は53cmである。天井部は崩落しており，竈土層断面図中の第3層が相当する。袖部及び火床部は床面を10~15cm掘りくぼめた後，ロームブロックを主とする黒色土などを床面と同じ高さまで埋め戻して構築されている。袖部は砂質粘土塊を芯材にして構築されている。火床面は火熱で淡く赤変しているが，軟質である。煙道の立ち上がり部には砂岩の自然石が据えられており，赤変しているため支脚として使用されたものと考えられる。煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量 | 7 極暗褐色 | 焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐灰色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 | 8 褐灰色 | 砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 | 9 極暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子少量，砂質粘土ブロック微量 | 10 黒色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| | | 11 褐灰色 | 砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック微量 |

ピット 13か所。P1は深さ25cmで，竈に向い合う位置にあり，出入り口施設に伴うピットであると考えられる。また，南東部及び南西部の壁際に位置する12か所の小ピットは深さ7cmで，壁柱穴と考えられる。

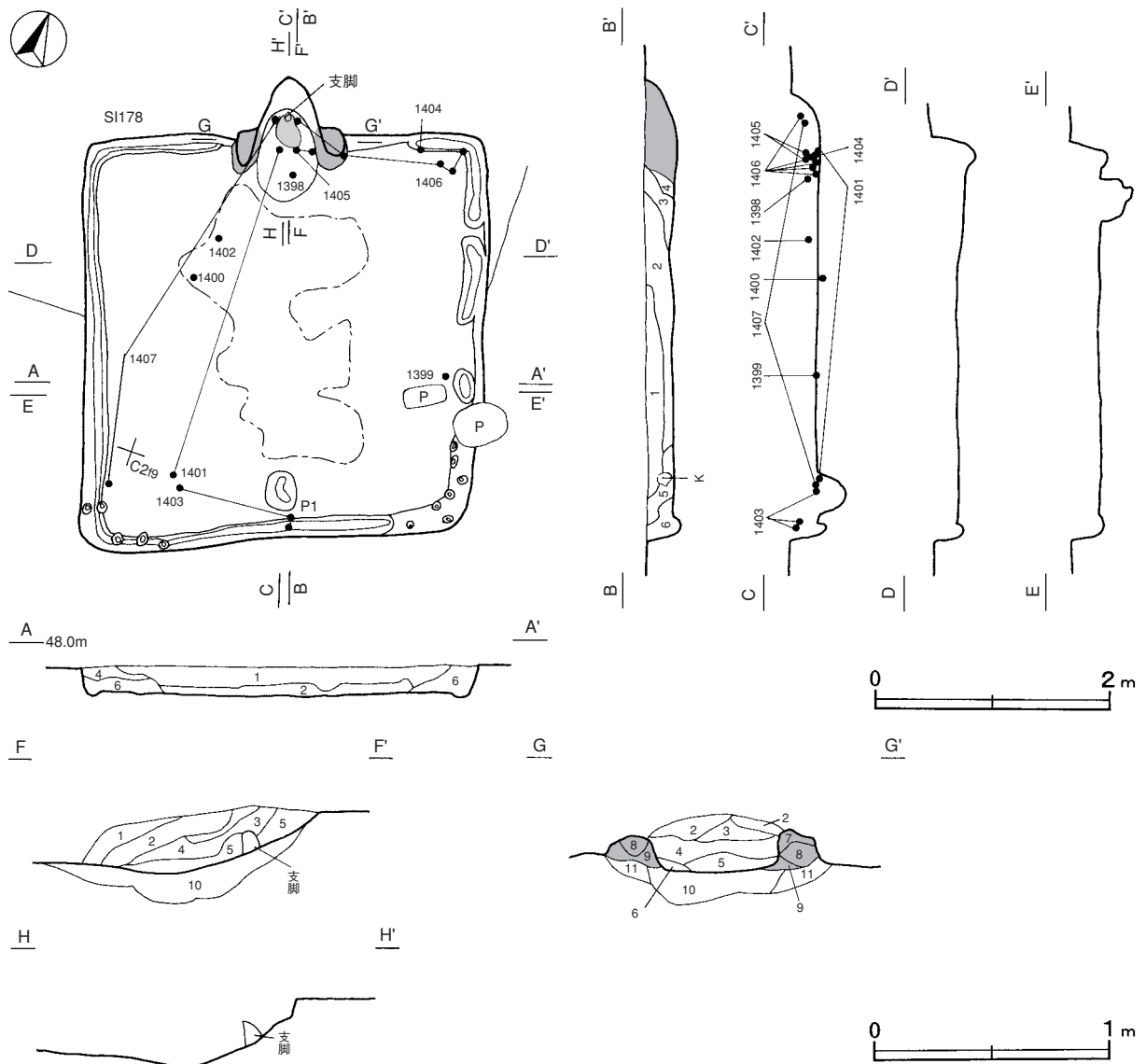
覆土 6層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

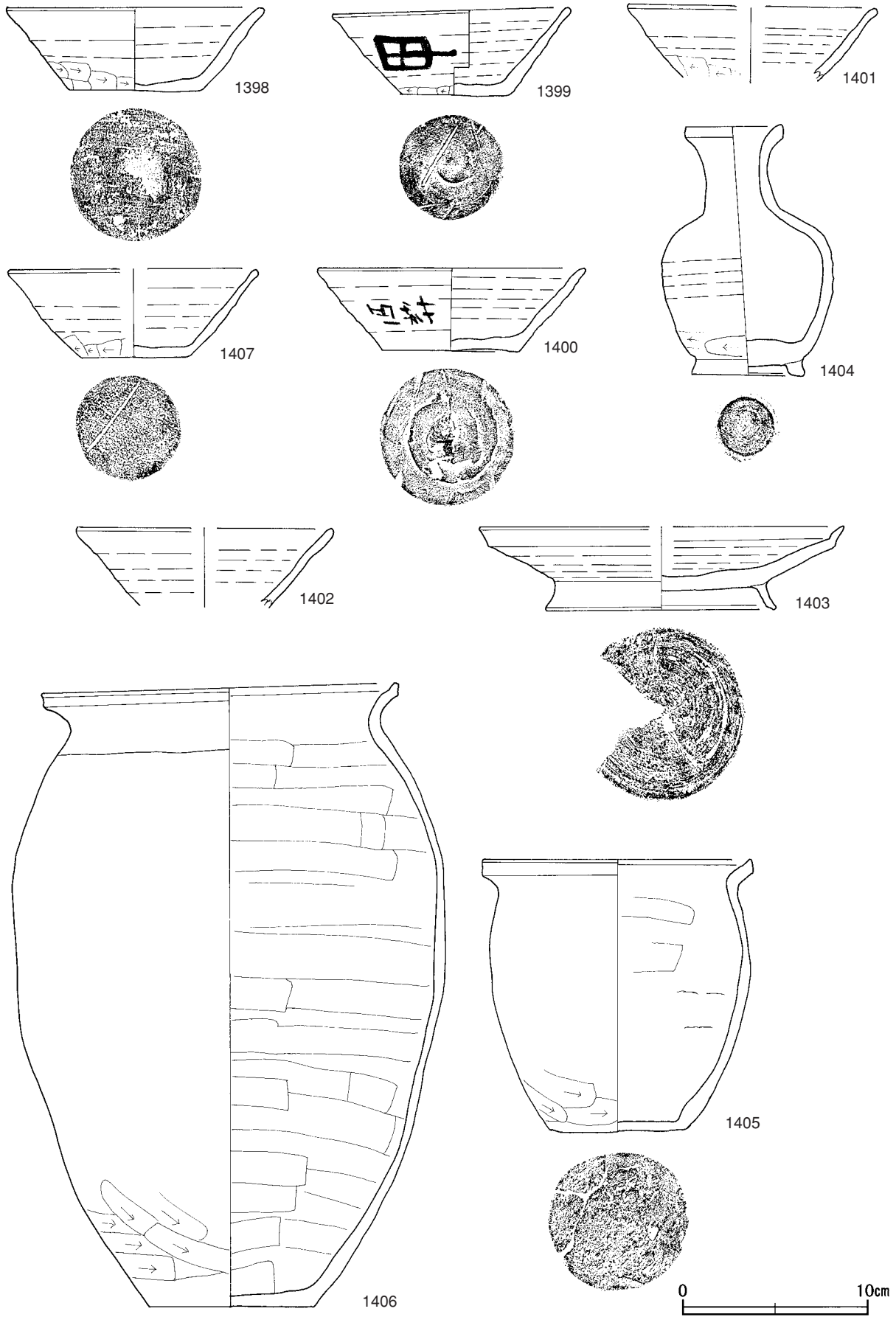
- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片327点（坏6，甕321），須恵器片27点（坏9，蓋3，盤12，甕2，長頸瓶1）が竈内及び北東コーナー部からまとまって出土している。1403は南壁際の覆土上層と床面から出土した破片が接合したものであり，残存率が高く，破断面も摩滅していないことから，廃絶後に投棄されたものと考えられる。1401・1406・1407は竈内の覆土下層から出土し，それぞれ南西コーナー部の下層，北東コーナー部の覆土下層から出土した破片と接合したものである。離れた位置から出土した破片が接合関係にあり，破断面が摩滅していないことから，廃絶後に投棄されたものと考えられる。1398は竈内の覆土下層から正位で出土しているが，火熱痕がないことから，廃絶後に投棄されたものと考えられる。1405は竈の覆土下層からつぶれた状態で出土している。1399は東壁際の，1400は中央部の床面からそれぞれ出土している。1404は北東コーナー部の床面から横位で出土している。

所見 竈内から多くの土器が出土しているが，1405を除いて火熱痕や竈材の付着も見られないことから，一括投棄されたものと考えられる。床面から出土している土器も，竈内の出土状況と同様に廃絶後に投棄された可能性が高い。廃絶時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第175図 第180号住居跡実測図



第176図 第180号住居跡出土遺物実測図

第180号住居跡出土遺物観察表（第176図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|--------|-------|------|-----------|-------|----|------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1398 | 須恵器 | 坏 | 13.6 | 4.5 | 7.2 | 石英・長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、二方向のヘラ削り | 竈覆土下層 | 100%、堀の内窯、酸化炎焼成、PL107 |
| 1399 | 須恵器 | 坏 | 12.5 | 4.8 | 5.6 | 石英・長石 | 灰白 | 普通 | 体部下端手持ちヘラ削り、底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り | 床面 | 100%、堀の内窯、体部外面墨書「甲」、PL107 |
| 1400 | 須恵器 | 坏 | 14.2 | 4.5 | 7.4 | 石英・長石 | 灰白 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 床面 | 95%、堀の内窯、体部外面墨書「酒郷升」、PL107・118 |
| 1401 | 須恵器 | 坏 | [13.0] | (4.0) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部下端手持ちヘラ削り | 竈覆土下層・下層 | 30%、堀の内窯 |
| 1402 | 須恵器 | 坏 | [13.5] | (4.2) | — | 石英・長石・白雲母 | 灰 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 下層 | 10%、堀の内窯 |
| 1407 | 須恵器 | 坏 | [13.2] | 4.8 | 5.6 | 石英・長石 | 橙 | 普通 | 体部下端手持ちヘラ削り、底部回転ヘラ削り後、ナデ | 竈覆土上層・下層 | 30%、堀の内窯、酸化炎焼成、底部外面ヘラ記号「一」 |
| 1403 | 須恵器 | 盤 | [19.5] | 4.5 | 12.0 | 長石・石英・小礫 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 上層・床面 | 60%、益子窯、PL107 |
| 1404 | 須恵器 | 長頸瓶 | 5.1 | 13.4 | 6.0 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 床面 | 100%、堀の内窯、体部外面自然釉付着、PL107 |
| 1405 | 土師器 | 小形甕 | 14.2 | 14.6 | 7.4 | 石英・長石 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り、内面ヘラナデ | 竈覆土下層 | 80%、火熱痕、PL107 |
| 1406 | 土師器 | 甕 | 19.0 | 33.5 | 8.8 | 石英・長石 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り、内面ヘラナデ | 竈覆土下層 | 70%、火熱痕、PL108 |

第182号住居跡（第177図）

位置 調査区西部1区のC2f0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第89号井戸と第2489・2490・2551号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.1mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は8cmである。

床 ほぼ平坦で、竈手前が踏み固められているほかは、全体的に軟弱である。

竈 北壁の東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで70cm、壁外への掘り込みは44cm、袖部幅は69cm、燃焼部幅は48cmである。袖部はロームブロックと砂質粘土ブロックを混ぜた黒褐色土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火床面が火熱で淡く赤変しているが、軟質である。煙道部は砂質粘土ブロックを主とする極暗褐色土を貼り付けて構築され、緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量 | 6 極暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック微量 | | |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

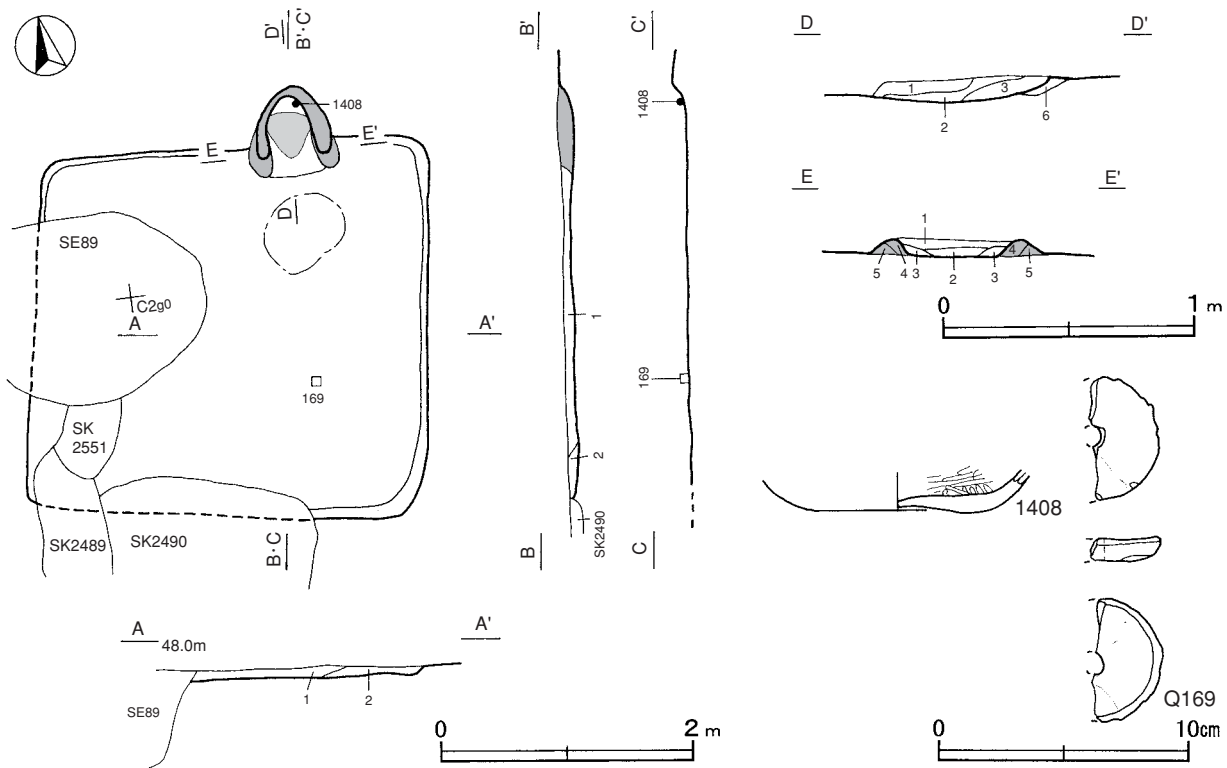
覆土 2層に分層される。薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
|-------|-----------|-------|--------------------|

遺物出土状況 土師器片51点（坏15、甕36）、須恵器片5点（坏3、蓋1、甕1）、石製紡錘車1点が主に竈の覆土中から出土しているが、細片である。Q169は中央部の床面から出土している。1408は竈の火床部から逆位で出土し、火熱痕があることから、支脚に転用されていたものと考えられる。

所見 時期は、竈内の出土土器から9世紀後半と考えられる。



第177図 第182号住居跡・出土遺物実測図

第182号住居跡出土遺物観察表（第177図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|----|-------|-----|-----|-------|----|--------------|------|---------|
| 1408 | 土師器 | 坏 | — | (1.6) | 6.8 | 白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、ナデ | 竈火床面 | 20% 火熱痕 |

| 番号 | 器種 | 最大径 | 孔径 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-------|-----|-----|--------|----|----------------|------|----|
| Q169 | 紡錘車 | (4.9) | 0.8 | 0.9 | (13.3) | 頁岩 | 孔一部残存, 上面・下面剥離 | 床面 | |

第196号住居跡（第178図）

位置 調査区西部1区のC3b7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2491号土坑及びピット（2か所）に掘り込まれている。

規模と形状 東側部分が調査区域外に延びているため、南北軸は3.2mで、東西軸は1.7mだけが確認された。N-13°-Wを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は8cmほどである。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。大部分が土坑によって掘り込まれているため、壁外に30cm掘り込んでいることが確認されただけである。遺存している火床面は火熱で赤変しているが、軟質である。

電土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

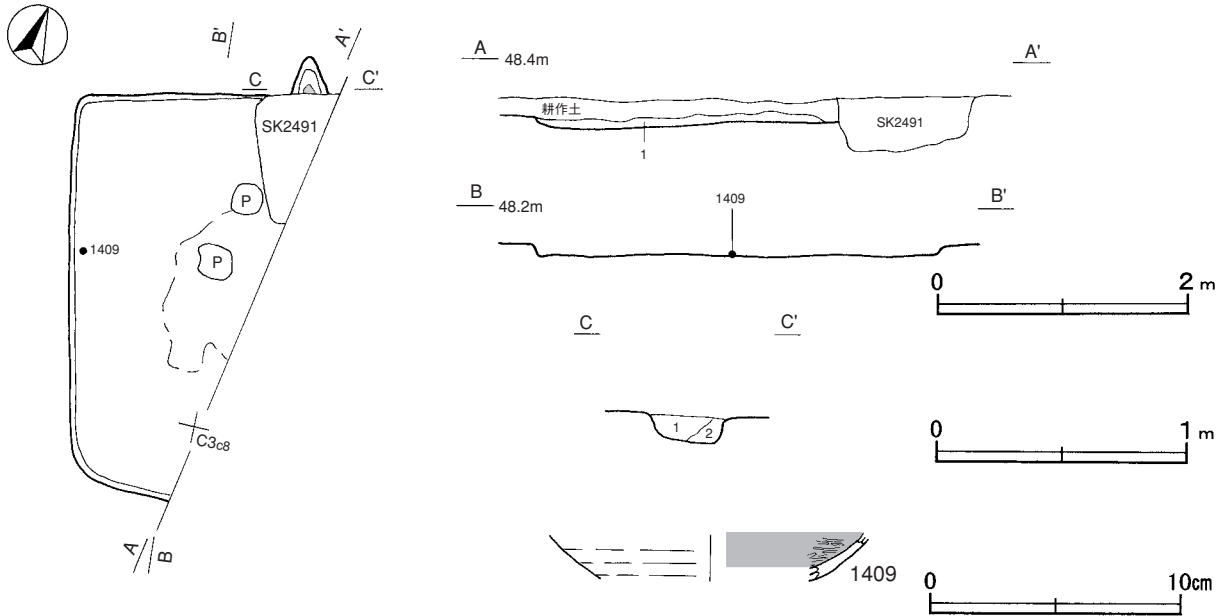
覆土 単一層である。薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片21点（坏10，甕11），須恵器片2点（坏）が，全域から散在した状態で出土している。土器片は細片で，破断面が摩滅していることから，廃絶後に流入したと考えられる。1409は西壁際の床面から出土している。

所見 時期は，出土遺物が9世紀中葉以降の様相を示していることから，9世紀中葉以降の平安時代と考えられる。



第178図 第196号住居跡・出土遺物実測図

第196号住居跡出土遺物観察表（第178図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|----|-------|----|--------|------|----|----------|------|----|
| 1409 | 土師器 | 坏 | — | (1.8) | — | 長石・白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部内面へラ磨き | 床面 | 5% |

第199号住居跡（第179・180図）

位置 調査区西部1区のC3e1区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第202号住居跡，第25号方形竪穴遺構を掘り込み，第33・34号方形竪穴遺構，第2355号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.1m，短軸3.0mの方形で，主軸方向はN-16°-Wである。壁高は12~16cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，出入り口施設に伴うピットから竈手前にかけて踏み固められている。壁溝が確認された範囲で巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで74cm，壁外への掘り込みは30cmである。また，袖部幅は102cm，火床部幅は54cmである。袖部及び火床部は，床面を5~12cm掘りくぼめた後，ロームブロックを主とする褐色土や極暗褐色土を床面と同じ高さまで埋め戻して構築されている。袖部は，砂質粘土ブロックとロームブロックを主として構築されている。火床面は左袖の内側とともに火熱で著しく赤変硬化している。

煙道部はロームブロックや砂質粘土ブロックを貼り合わせて構築され、急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--|----------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 褐灰色 | 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・ 焼土粒子少量 |
| 2 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・ 砂質粘土ブロック少量 |
| 3 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，焼土 ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量， 砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量 | 11 極暗赤褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック少量 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 極暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・ 焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 16か所。P1は深さ30cmで竈と向い合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。南壁際から西壁際の壁溝内に確認できた15か所の小ピットは、深さ6cmほどで、壁柱穴と考えられる。

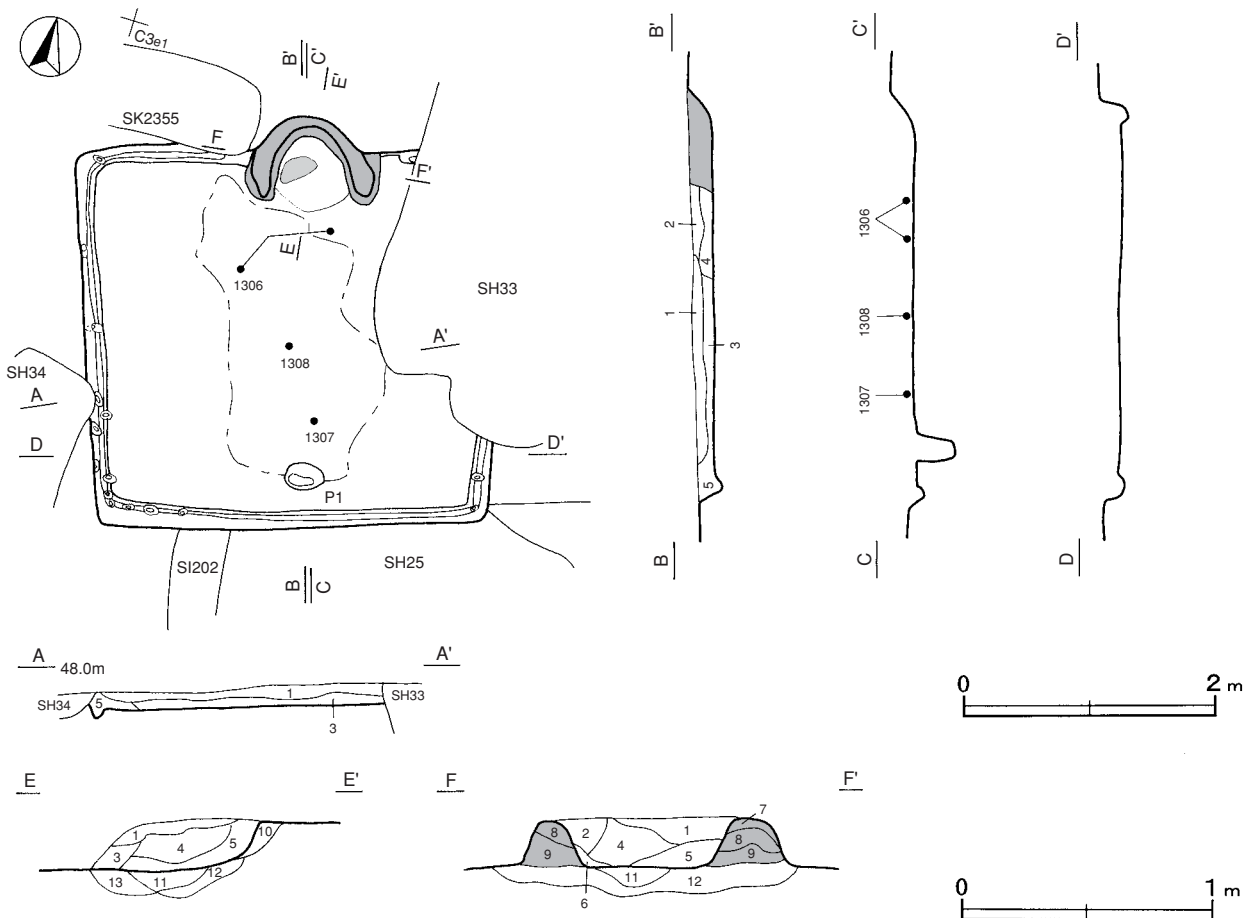
覆土 5層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

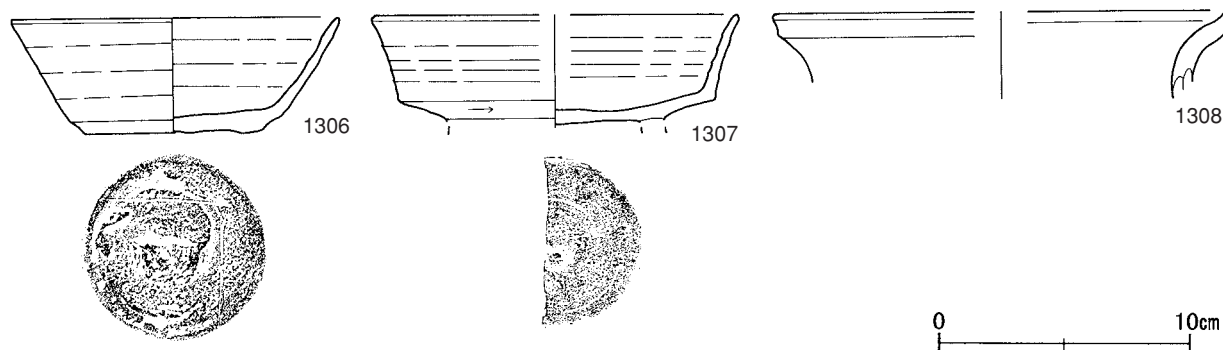
- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量， 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片43点（甕），須恵器片13点（坏8，高台付坏1，蓋1，甕3）が散在して出土している。1307・1308は中央部の覆土下層から出土している。1306は竈手前と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものであり、破断面が摩滅しておらず、残存率が高いことから、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第179図 第199号住居跡実測図



第180図 第199号住居跡出土遺物実測図

第199号住居跡出土遺物観察表 (第180図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-----|-----------|-----|----|-------------------|------|---------------------------|
| 1306 | 須恵器 | 坏 | 12.8 | 4.6 | 7.0 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 下層 | 80%, 堀の内窯, 底部ヘラ記号「ㄣ」PL108 |
| 1307 | 須恵器 | 高台付坏 | [14.2] | (4.3) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け | 下層 | 40%, 堀の内窯 |
| 1308 | 土師器 | 甕 | [17.8] | (3.4) | — | 石英・長石・金雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 口縁部横ナデ | 下層 | 5% |

第207号住居跡 (第181・182図)

位置 調査区西部1区のC3h3区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第29号方形竪穴遺構を掘り込み, 第221号住居, 第2531号土坑, ピット(3か所)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.7m, 短軸3.1mの長方形で, 主軸方向はN-89°-Eである。壁高は8cmである。

床 南東コーナー部が5cmほど下がってはいるが, ほぼ平坦である。出入口施設に伴うピットから竈手前にかけて踏み固められている。壁溝が南壁際を除いて巡っている。

竈 東壁の南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで112cm, 壁外への掘り込みは44cmである。天井部・袖部は遺存せず, 右袖部には地山を掘り残し, 袖部の基部にした痕跡が認められる。火床部は床面から4cmほど浅く皿状に掘りくぼめられている。火床面は火熱で赤変しているが, 軟質である。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
 3 極暗褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量

ピット 1か所。深さ26cmで西壁際の中央部にあり, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

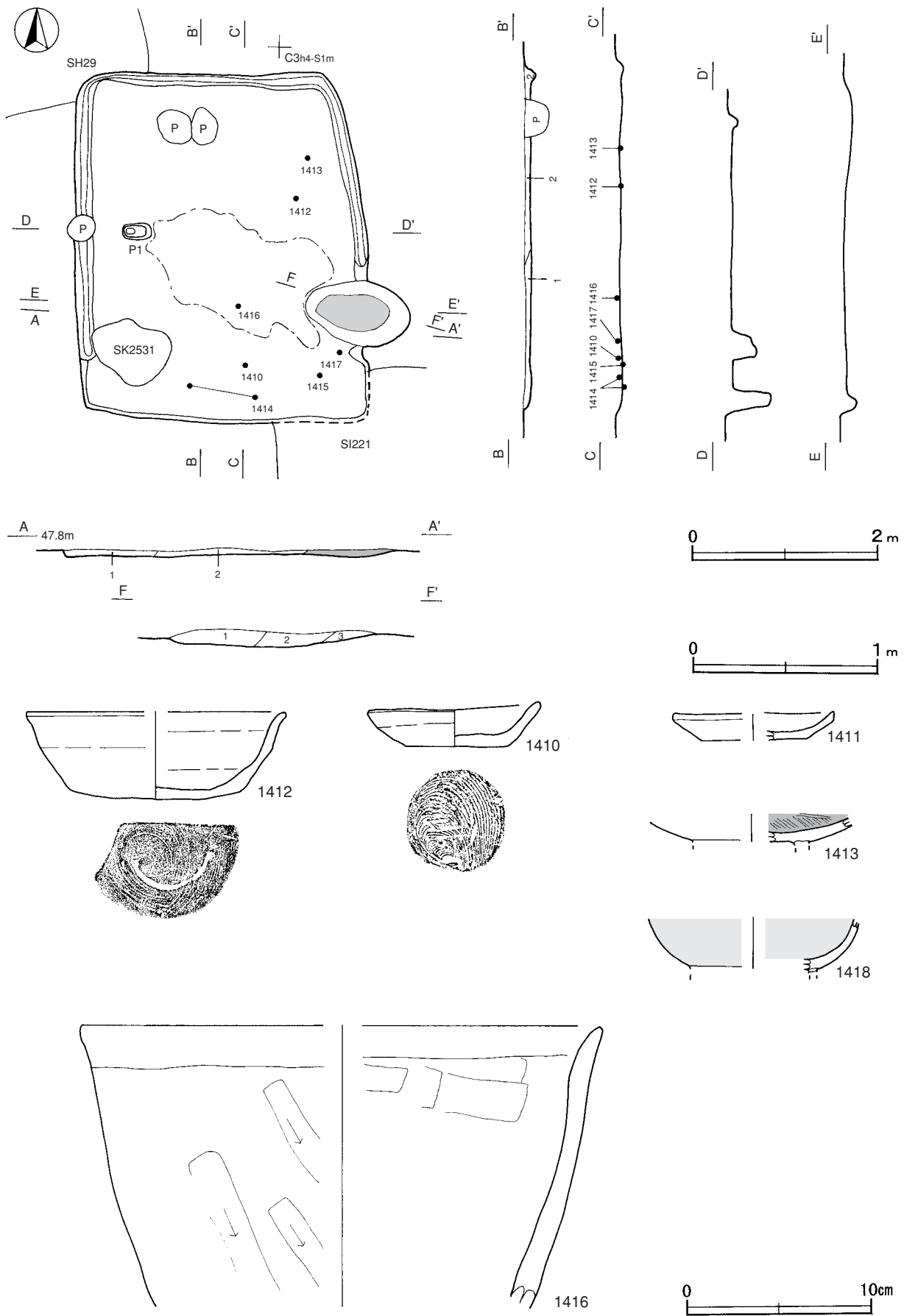
覆土 2層に分層される。薄い, 砂質粘土ブロックを含んでおり, 人為堆積の可能性が高い。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片167点(小皿2, 坏19, 高台付碗8, 鉢6, 甕131, 甗1), 緑釉陶器片1点(碗), 自然礫(角礫)12点が, 南東コーナー部から集中して出土している。1410・1416・1417は南東コーナー部の覆土下層, 1412・1413は北東コーナー部の床面, 1414・1415は南東コーナー部の床面から出土している。また, 南東コーナー部の覆土下層及び床面から, 土器とともに礫や砂質粘土塊が出土している。これらは, 土器とともに廃絶後の早い段階で一括投棄された可能性が高いと考えられる。

所見 廃絶時期は, 出土土器から11世紀前半と考えられる。



第181图 第207号住居跡・出土遺物実測図



第182図 第207号住居跡出土遺物実測図

第207号住居跡出土遺物観察表 (第181・182図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|------|--------|--------|--------|-----------|-------------|----|----------------------------------|------|------------------------|
| 1410 | 土師器 | 小皿 | 9.1 | 2.5 | 5.4 | 金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転糸切り | 下層 | 100%, PL108 |
| 1411 | 土師器 | 小皿 | [8.5] | 1.4 | [5.6] | 白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転糸切り | 覆土中 | 40% |
| 1412 | 土師器 | 坏 | [13.8] | 4.8 | 9.0 | 白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転糸切り | 床面 | 40% |
| 1413 | 土師器 | 高台付椀 | — | (1.5) | — | 金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部内面ヘラ磨き | 床面 | 20% |
| 1414 | 土師器 | 甕 | — | (16.3) | 13.0 | 石英・長石・白雲母 | 褐灰 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り | 床面 | 20% |
| 1415 | 土師器 | 甕 | [23.4] | (24.6) | — | 石英・長石 | 褐灰 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 床面 | 30% |
| 1416 | 土師器 | 甌 | [27.8] | (15.1) | — | 石英・長石・白雲母 | 褐灰 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 下層 | 10% |
| 1417 | 土師器 | 鉢 | [24.6] | (12.3) | — | 石英・長石 | 明赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ | 下層 | 10% |
| 1418 | 緑釉陶器 | 碗 | — | (2.8) | — | 緻密 | 灰・灰 オリーブ | 良好 | 胎土非常に緻密, ハケ塗り, 高台貼り付け, 二次焼成により変色 | 覆土中 | 10%, 尾北産(篠岡4'窯式) PL108 |

第210号住居跡（第183～185図）

位置 調査区西部1区のC2c8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第178・213号住居跡を掘り込み、第151・152号住居、第2537号土坑、ピット（1か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.4m、短軸3.0mのほぼ方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は20～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口施設に伴うピットから中央部にかけて踏み固められている。全面が貼床で、暗褐色土や褐色土を12～20cm充填してつくられている。また、壁溝が周回している。掘り方は、中央部よりも各コーナー部が深く掘り込まれている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで102cm、壁外への掘り込みは50cm、袖部幅は104cm、火床部幅は40cmである。袖部及び火床部は床面から10cm掘りくぼめた後、暗褐色土や暗赤褐色土を埋め戻して構築されている。袖部は砂質粘土塊を芯材にして構築されている。火床部は皿状を呈し、火床面及び両袖部の内側が火熱で著しく赤変硬化している。煙道部は粘土ブロックなどを貼り付けて構築され、急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

| | | | |
|---------|-------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 褐灰色 | 砂質粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | | |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | | |

ピット 1か所。深さ16cmで、竈と向い合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

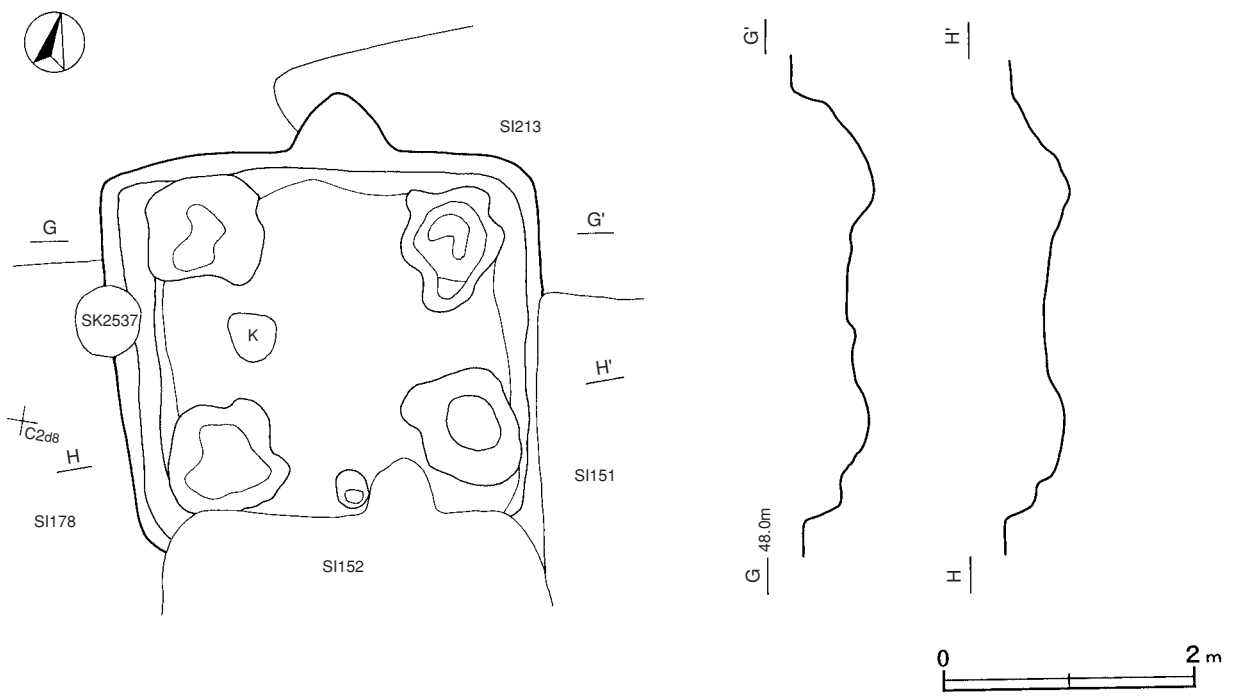
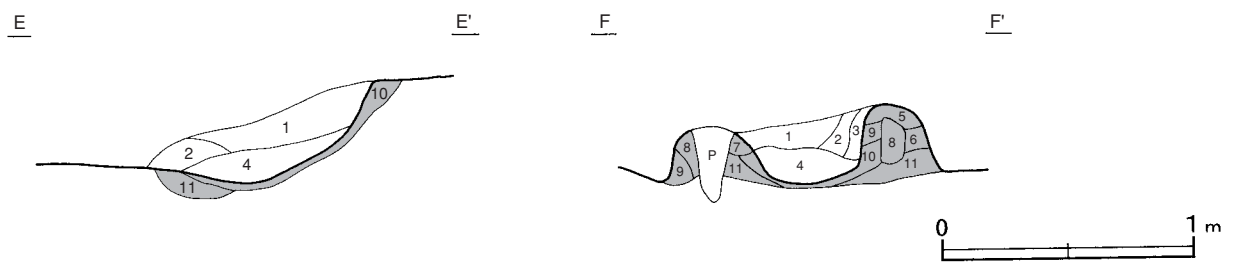
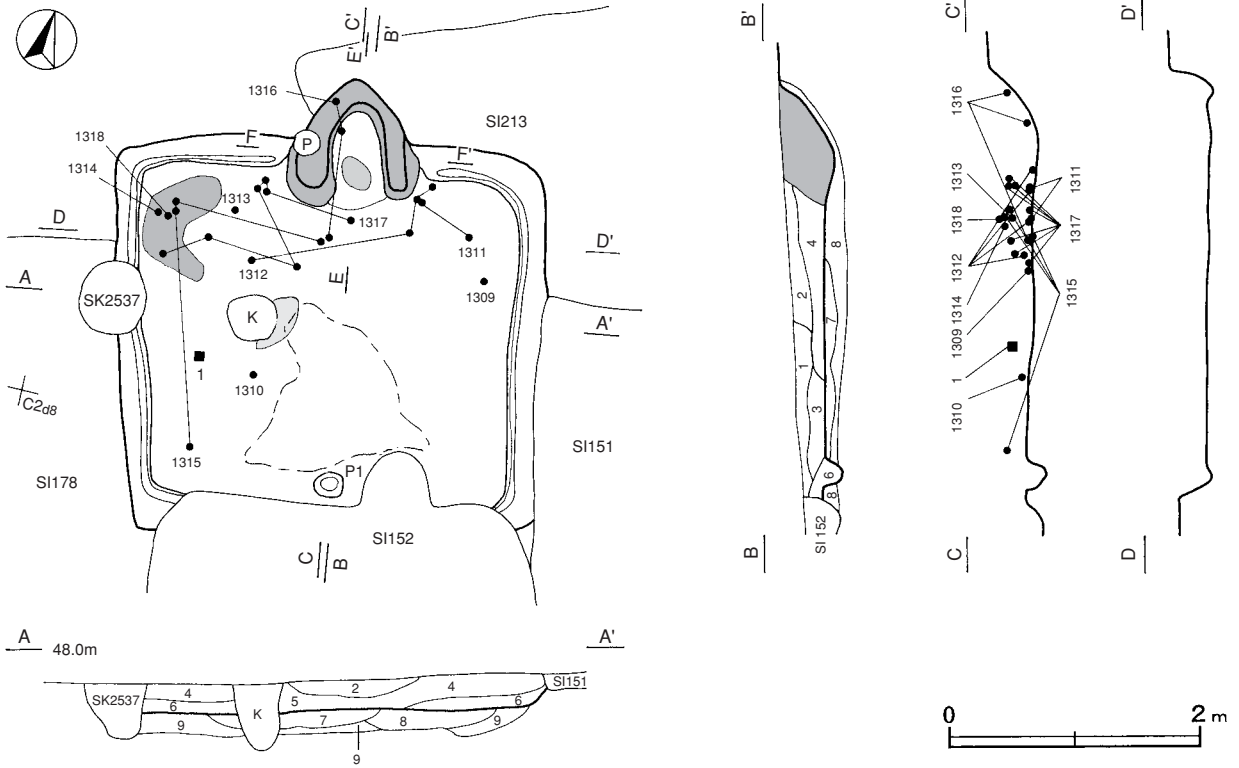
覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。土層断面図中第7～9層は、貼床の構築土である。

土層解説

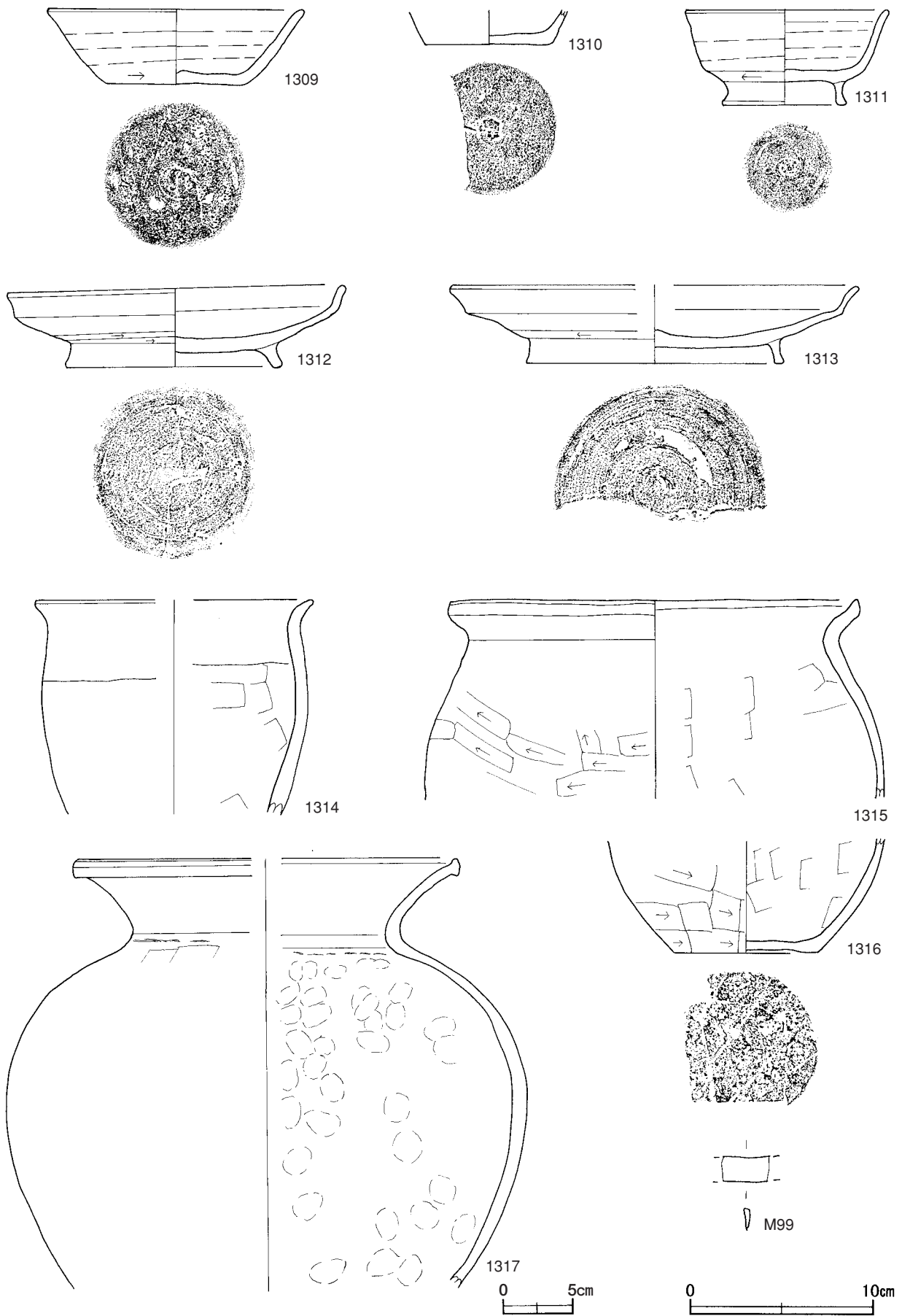
| | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量（貼床構築土） |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量（貼床構築土） |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック多量（貼床構築土） |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片402点（甕398、甗4）、須恵器片75点（坏21、高台付坏1、蓋5、盤4、高盤22、壺19、甕3）、鉄製品1点（刀子）、瓦片1点が、主に北西コーナー部の覆土上層から下層にかけて出土している。1314・1318は北西コーナー部の覆土上層、T1は西部の覆土中層、1313は北西コーナー部の覆土中層、1309・1311は北東コーナー部の覆土下層、1310は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。1316は竈と竈手前の覆土下層から出土した破片が、1317は竈手前と北西コーナー部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。1312は北東コーナー部と西部の覆土下層及び床面から出土した破片が、1315は竈手前の覆土下層及び北西コーナー部の覆土上層、南西コーナー部の覆土上層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。1312・1315は離れた位置から出土した破片が接合関係にあることや破断面が摩滅していないことから、廃絶後に投棄されたものと考えられる。また、北西コーナー部の覆土中に焼土塊や粘土塊が確認できたが、床や遺物に火熱痕が確認できないことから、埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

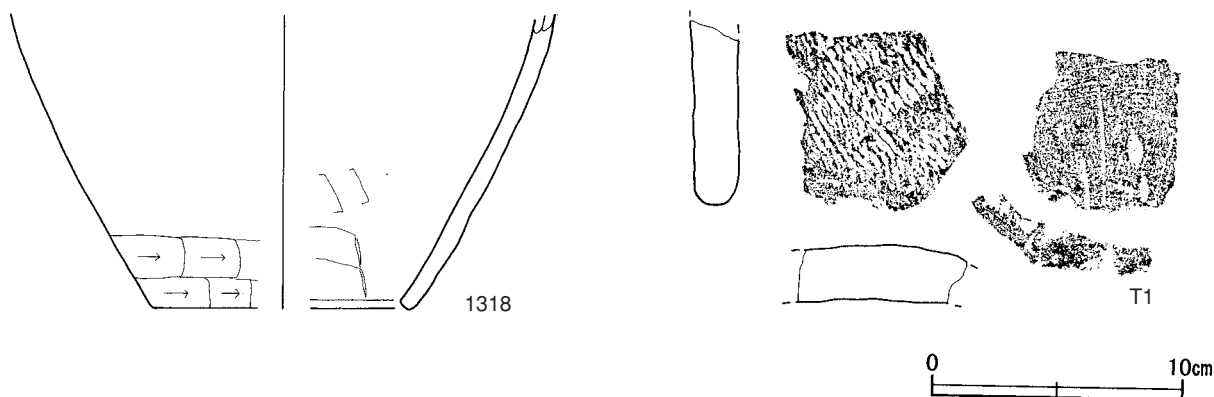
所見 廃絶時期は、9世紀中葉に比定されている第152号住居に掘り込まれていることや出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第183图 第210号住居跡実測図



第184図 第210号住居跡出土遺物実測図（1）



第185図 第210号住居跡出土遺物実測図(2)

第210号住居跡出土遺物観察表(第184・185図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|--------|--------|-----------|-------|----|--|----------|-----------------------------------|
| 1309 | 須恵器 | 坏 | 13.7 | 4.2 | 7.4 | 石英・長石・小礫 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、ナデ | 下層 | 80%, 益子窯, PL108 |
| 1310 | 須恵器 | 坏 | — | (1.9) | 6.7 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、ナデ | 下層 | 40%, 堀の内窯 |
| 1311 | 須恵器 | 高台付坏 | 10.8 | 5.1 | 6.6 | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 下層 | 70%, 堀の内窯, PL108 |
| 1312 | 須恵器 | 盤 | 18.0 | 4.4 | 11.6 | 石英・長石・小礫 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 下層・床面 | 80%, 益子窯, PL109 |
| 1313 | 須恵器 | 盤 | [21.8] | 4.2 | 13.8 | 石英・長石 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け | 中層 | 50%, 堀の内窯, 酸化炎焼成, PL108 |
| 1314 | 土師器 | 小形甕 | [14.8] | (11.5) | — | 石英・長石・金雲母 | 明赤褐 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | 上層 | 20%, 体部外面器面荒れ |
| 1315 | 土師器 | 甕 | 21.8 | (10.8) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ | 上層・下層 | 15% |
| 1316 | 土師器 | 甕 | — | (6.3) | 7.8 | 石英・長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、底部木葉痕 | 竈覆土下層・下層 | 20% |
| 1317 | 須恵器 | 甕 | [27.4] | (30.8) | — | 石英・長石 | 灰 | 普通 | 体部外面斜位の平行叩き後、ナデ、肩部外面ヘラ削り、頸部外面輪積痕、内面ナデ、指頭圧痕 | 下層 | 30%, 堀の内窯, 肩部外面・口縁部内面自然釉付着, PL108 |
| 1318 | 土師器 | 甗 | — | (11.6) | [10.0] | 石英・長石 | 明赤褐 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り、内面ヘラナデ | 上層 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|------|-------|-------|-------|---------|----|--------------|-------|----|
| M99 | 刀子 | (2.6) | 1.2 | 0.2 | (2.6) | 鉄 | 刃部の破片 | 貼床構築土 | |
| T1 | 隅軒平瓦 | (6.7) | (6.6) | (2.3) | (122.7) | 粘土 | 凸面平行叩き、凹面布目痕 | 中層 | |

第215号住居跡(第186・187図)

位置 調査区西部1区のC2i7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2571・2575号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.8m、短軸2.3mの長方形で、主軸方向はN-105°-Eである。壁高は14~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部の一部が踏み固められているほかは、全体的に軟弱である。壁溝が周回している。

竈 東壁の南寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで74cm、壁外への掘り込みは31cm、袖部幅は100cm、火床部幅は54cmである。天井部は崩落しており、砂粒を中量含む第3層が相当する。袖部はローム土を掘り残し基部として、砂粒を含む黒褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用している。火床面は火床部の煙道部寄りに位置し、淡く赤変しているが、軟質である。火床面には雲母

片岩が据えられており、赤変しているため、支脚として使用されたものと考えられる。煙道部はロームブロックや砂粒を貼り付けて構築され、外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 黒褐色 焼土粒子・砂粒少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・砂粒中量，炭化粒子少量 | 6 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量 |

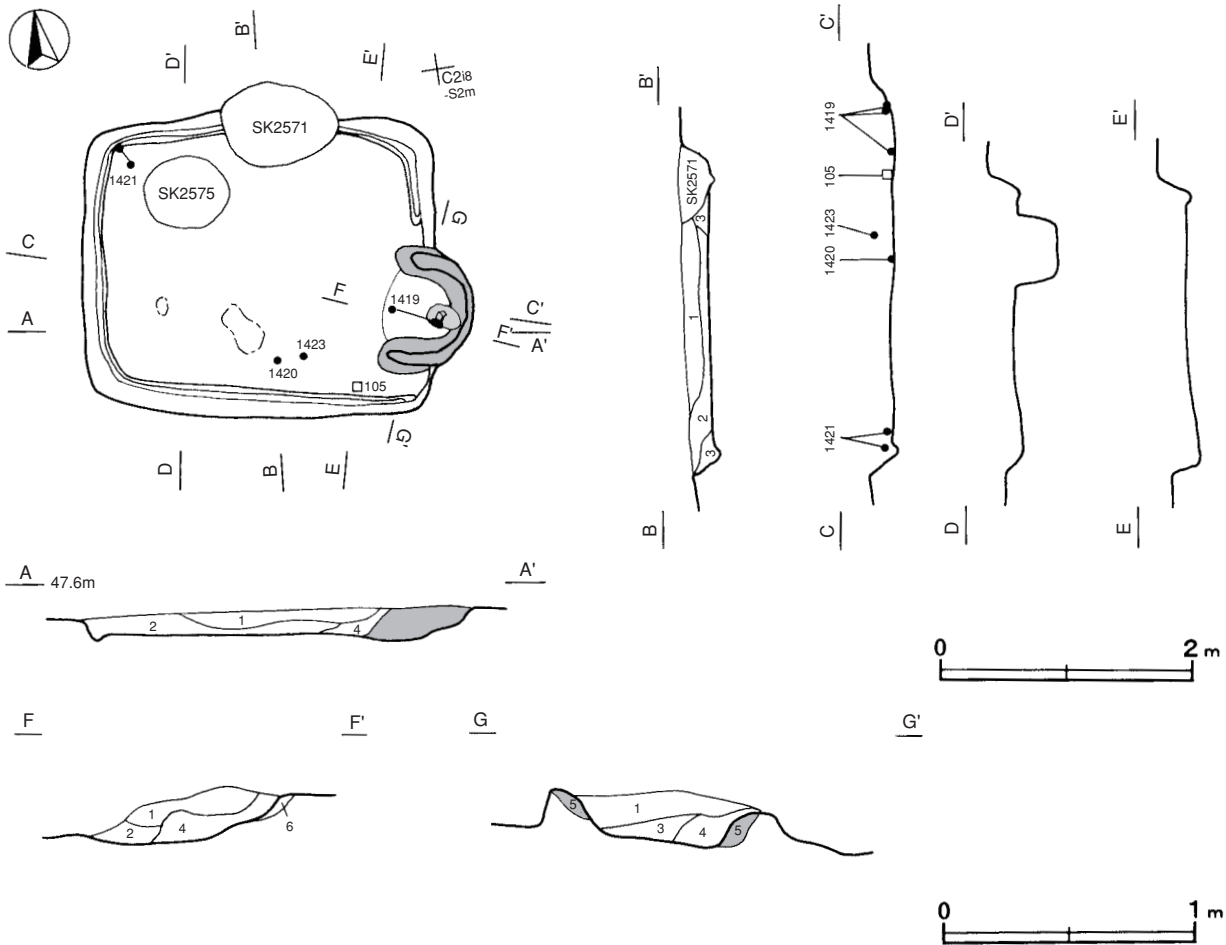
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

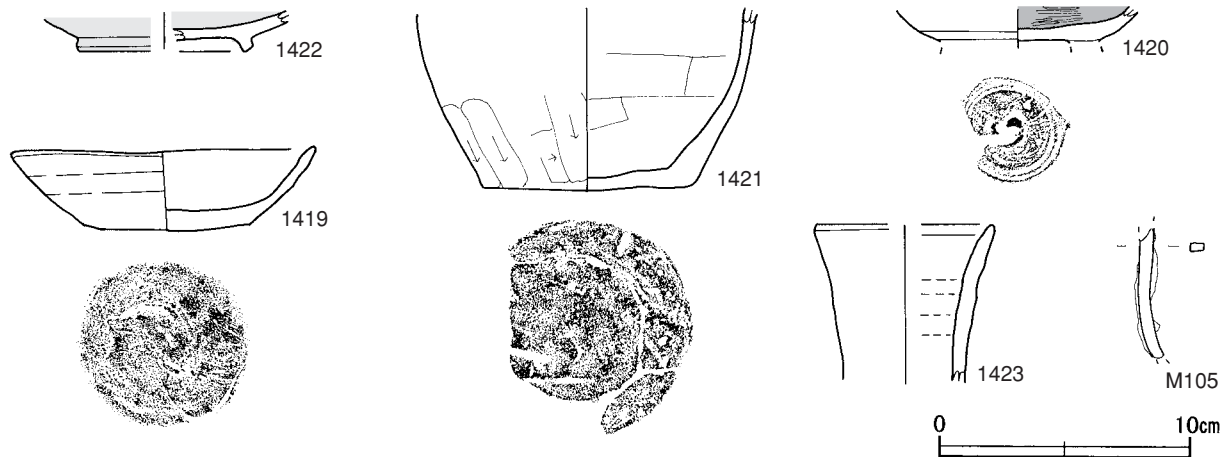
- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 極暗褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片215点（坏83，高台付椀7，甕125），須恵器片27点（坏15，高台付坏1，皿1，蓋4，高盤2，甕3，長頸瓶1），灰釉陶器片1点（皿），鉄製品1点（釘カ）が，主に竈や南東コーナー部の覆土中から出土している。須恵器は細片で破断面が摩滅していることから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。1422は覆土中，1423は南部の覆土上層から出土している。1420は南部の，M105は南壁際の，1421は北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。1419は竈の覆土下層から出土した破片が接合したものであり，天井部の崩落土に相当する層の下で確認され，火熱痕がないことから，廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，竈内の出土土器から10世紀前半と考えられる。



第186図 第215号住居跡実測図



第187図 第215号住居跡出土遺物実測図

第215号住居跡出土遺物観察表（第187図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|------|-------|-------|-------|-----------|----------|----|---|-------|--------------------------|
| 1419 | 土師器 | 坏 | 12.0 | 3.4 | 6.6 | 白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、ナデ | 竈覆土下層 | 90%, PL109 |
| 1420 | 土師器 | 高台付椀 | — | (1.3) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 下層 | 20% |
| 1421 | 土師器 | 甕 | — | (7.3) | 8.4 | 石英・長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り、内面ヘラナデ | 下層 | 20% |
| 1422 | 灰釉陶器 | 皿 | — | (1.6) | [6.8] | 緻密 | 灰オリーブ・灰白 | 良好 | 見込み無釉、釉は漬け掛け、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、やや雑な三日月高台 | 覆土中 | 10%, 猿投産(折戸53号窯式) |
| 1423 | 須恵器 | 長頸瓶 | [7.0] | (6.3) | — | 緻密 | 灰オリーブ・灰黄 | 良好 | ロクロナデ、口縁部外面自然釉付着 | 上層 | 10%, 猿投産(岩崎25号窯式カ) PL109 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-----|-------|----|-------------|------|----|
| M105 | 釘 | (5.2) | 0.6 | 0.4 | (3.8) | 鉄 | 脚部の破片、断面長方形 | 下層 | |

第217A号住居跡（第188・189図）

位置 調査区西部1区のC3h2区に位置し、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第29号方形竪穴遺構を掘り込み、第2570・2573・2584号土坑及びピット（13か所）に掘り込まれている。また、第217B号住居跡を西側に30cmほど拡張して本住居が構築されている。

規模と形状 長軸3.5m、短軸2.9mの長方形で、主軸方向はN-101°-Eである。壁高は10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、第217B号住居と同じ床面を使っていたと考えられる。中央部から竈手前にかけて踏み固められている。壁溝が東壁を除き巡っている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されており、規模は焚口から煙道部まで74cm、壁外への掘り込みは58cm、袖部幅は80cm、火床部幅は44cmである。天井部は崩落しており、砂質粘土ブロックを中量含む第4層が相当する。袖部は暗褐色土を基部として、砂質粘土ブロックを含む黒褐色土を貼り付けて構築されている。また、左袖部内には砂岩の自然石があり、芯材と考えられる。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火床面が火熱で赤変硬化している。煙道部は外傾して緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 | 5 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化物・砂質粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |

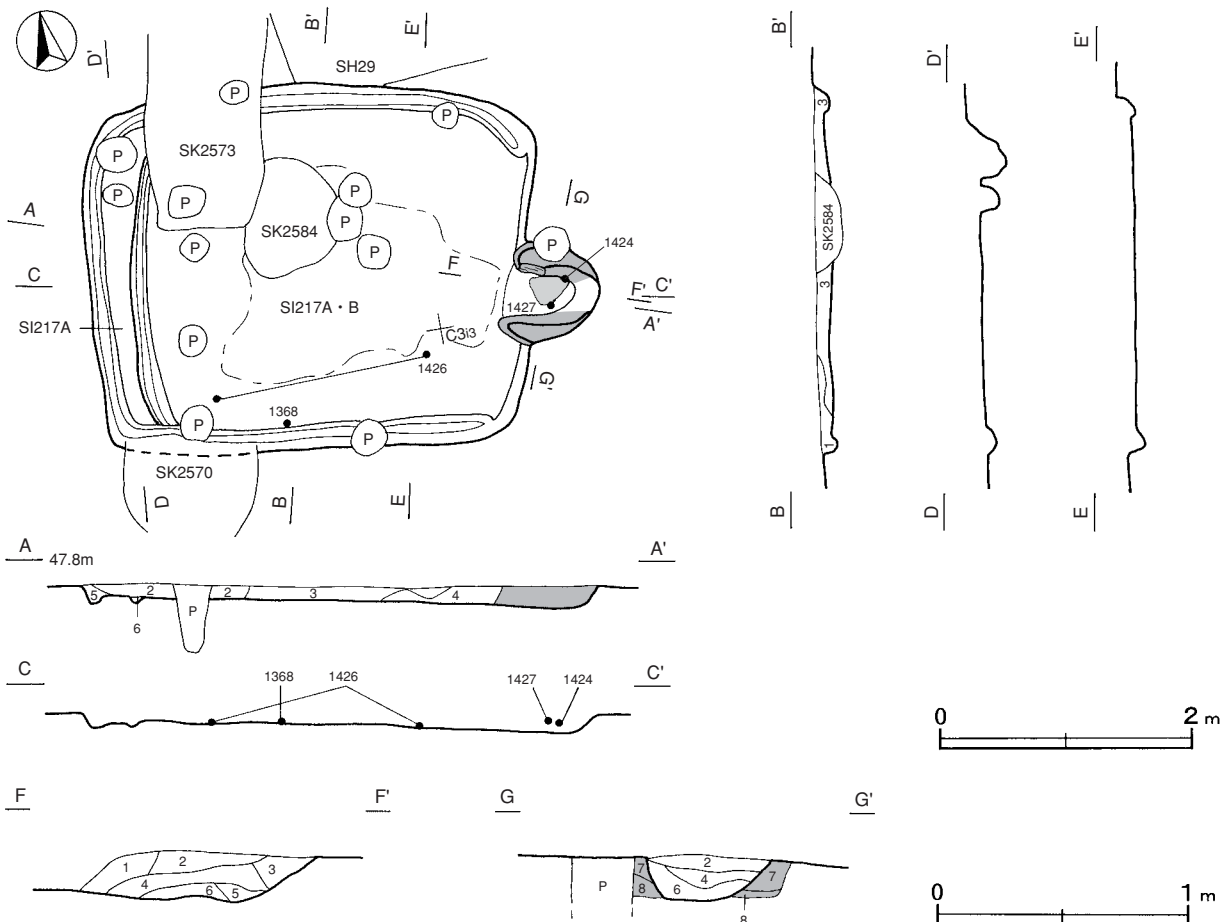
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。土層断面図中第6層は第217B号住居跡の壁溝の覆土である。

土層解説

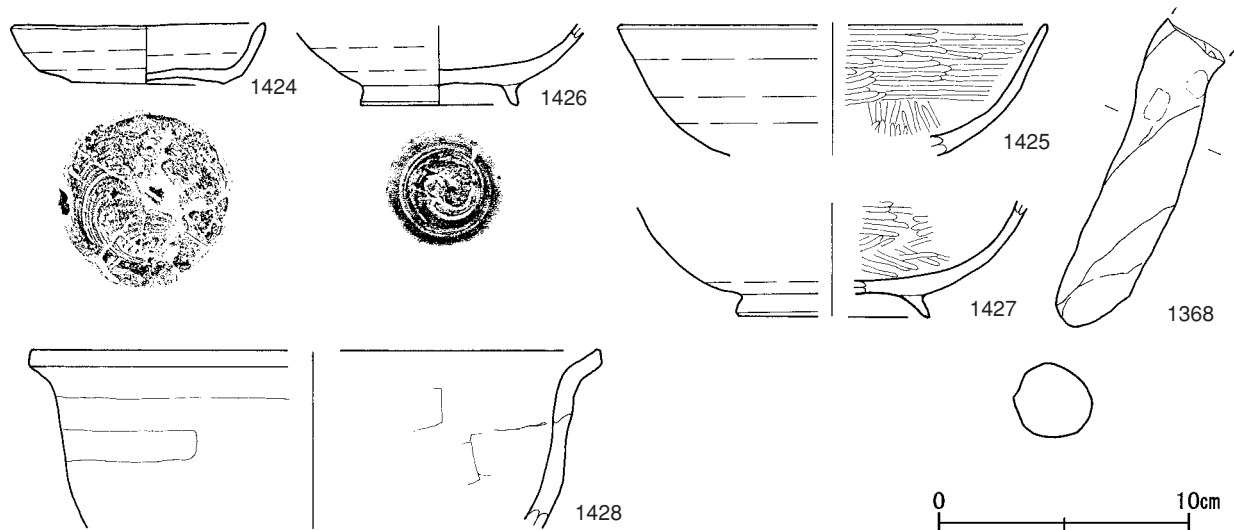
- | | | | |
|--------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片109点（小皿3，坏40，高台付椀5，甕59，鉢1，三足鍋1），須恵器片7点（坏5，蓋1，甕1）が，竈内及び南部の覆土下層から出土している。須恵器は細片で断面が摩滅していることから，埋め戻しの際に混入したものと考えられる。1368は南部の覆土下層から出土している。1426は南東コーナー部の覆土下層と南西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1427は竈の覆土中層で，天井部の崩落土に相当する層の上から出土し，火熱痕がなく，破断面が摩滅していないことから，廃絶後に投棄されたものと考えられる。1424は火床面から逆位で出土し，火熱痕があることから，支脚に転用されたものと考えられる。

所見 時期は，竈内の出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第188図 第217A・B号住居跡実測図



第189図 第217A号住居跡出土遺物実測図

第217A号住居跡出土遺物観察表（第189図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|--------|-------|-----------|-------|----|-------------------|-------|-------------------------|
| 1424 | 土師器 | 小皿 | 10.0 | 2.5 | 6.0 | 白雲母 | 橙 | 普通 | 底部回転糸切り | 竈火床面 | 95%, 火熱痕, 底部粘土付着, PL109 |
| 1425 | 土師器 | 高台付碗 | [16.8] | (5.2) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き | 覆土中 | 20% |
| 1426 | 土師器 | 高台付碗 | — | (3.2) | 6.2 | 長石・金雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 下層 | 30% |
| 1427 | 土師器 | 高台付碗 | — | (4.6) | [7.5] | 金雲母・白色粒子 | 橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 竈覆土上層 | 30% |
| 1428 | 土師器 | 鉢 | [22.3] | (7.1) | — | 長石・金雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | 竈覆土中 | 5% |
| 1368 | 土師器 | 三足鍋カ | — | (12.1) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 断面不整円形, 捻り痕, 指頭圧痕 | 下層 | 5% |

第217B号住居跡（第188図）

位置 調査区西部1区のC3h2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第29号方形竪穴遺構を掘り込み、第2570・2573・2584号土坑、ピット（10か所）に掘り込まれている。また、本跡を西側に30cmほど拡張して第217A号住居が構築されている。

規模と形状 長軸3.1m、短軸2.9mの方形で、主軸方向はN-101°-Eである。壁高は10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 同じ床面を使って第217A号住居に拡張されているため、詳細は不明である。壁溝が東壁際を除き巡っている。

竈 確認されている竈は拡張後の第217A号住居のものである。

所見 拡張した第217A号住居と竈や壁溝、床などを共有していることから、第217A号住居との時期差はほとんどないと推測される。時期は、第217A号住居の年代観から10世紀中葉と考えられる。

第220号住居跡 (第190・191図)

位置 調査区西部1区のC3h4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第221号住居跡を掘り込み、第2556・2558・2559・2563・2604号土坑及びピット (2か所) に掘り込まれている。

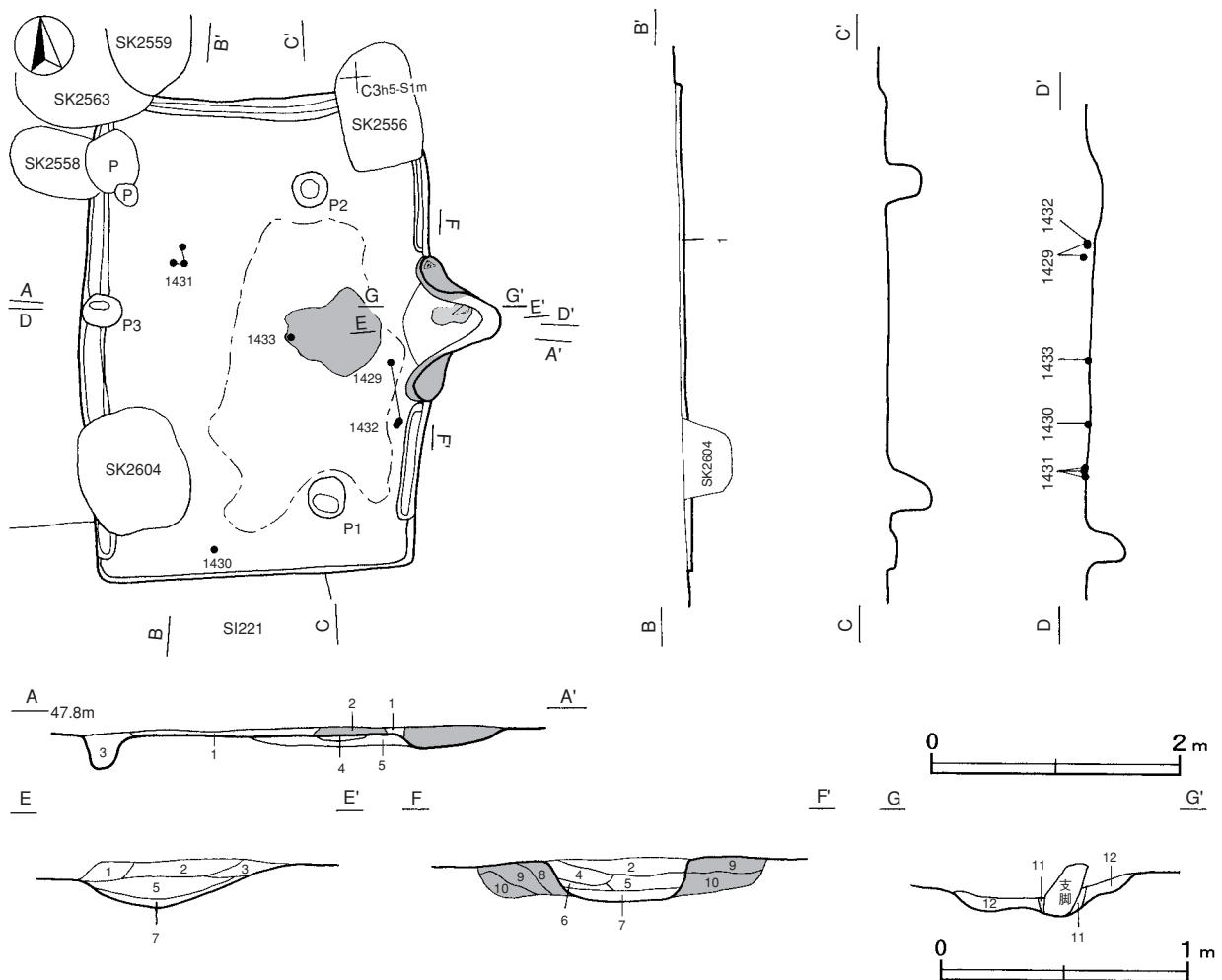
規模と形状 長軸3.9m、短軸2.7mの長方形で、主軸方向はN-96°-Eである。壁高は8cmである。

床 ほぼ平坦で、支柱穴間が踏み固められている。竈手前が貼床で粘土ブロックを含む黒褐色土を8cm埋土して構築されている。壁溝は南壁を除いて巡っている。

竈 東壁の中央部に付設されており、焚口から煙道部まで80cm、壁外への掘り込みは60cmで、袖部幅は114cm、火床部幅は56cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中の第1層が相当する。袖部はロームブロックを含む黒褐色土で構築されている。左袖部内には砂岩の自然石が据えられており、袖の芯材と考えられる。火床部は床面を20cm掘りくぼめた後、黒褐色土を4cmほど埋め戻して構築されている。火床面と両袖部の内側が火熱で赤変している。また、火床面には赤変した支脚 (砂岩の自然石) が据えられている。煙道部は外傾して緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 褐灰色 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量 | 3 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |



第190図 第220号住居跡実測図

- | | | | |
|---------|----------------------|----------|-----------------------|
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 8 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 12 極暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |

ピット 3か所。P1・P2は深さ28cmと36cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ30cmで、竈に向い合う位置にあり、出入口施設に伴うピットである。

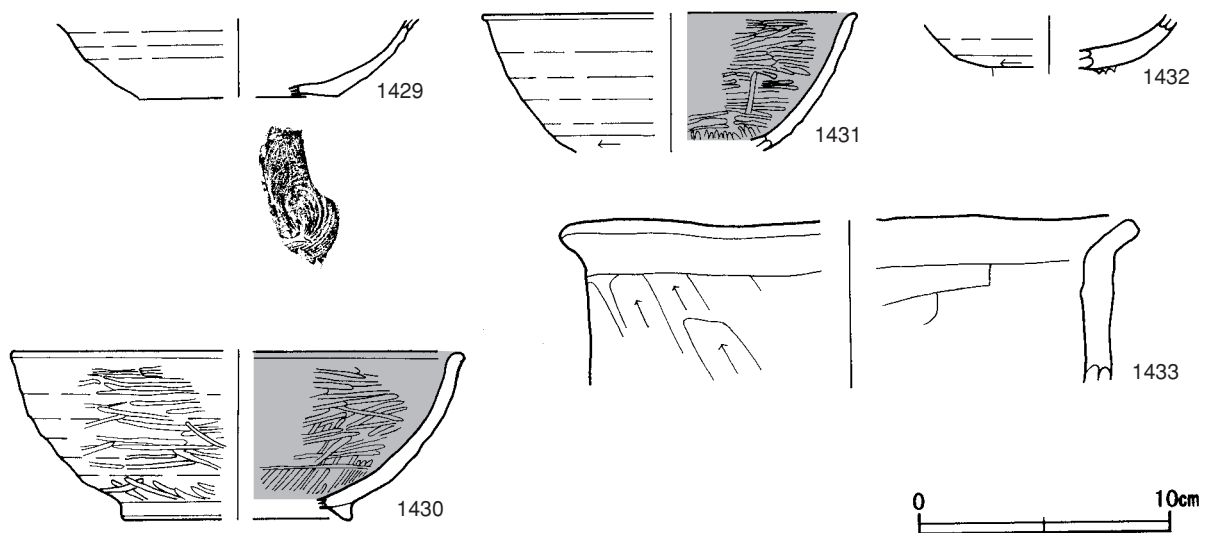
覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。土層断面図中第4～5層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 (貼床構築土) |
| 2 明褐灰色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 (貼床構築土) |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片167点（小皿5，坏10，高台付椀14，鉢6，甕131，甌1）が、全域から散在した状態で出土している。1429・1432は竈の右袖部手前の覆土上層から出土している。また、竈手前の覆土上層から床面にかけて粘土塊が出土しており、廃絶後に投げ込まれたものと考えられる。1433は粘土塊の中から出土している。1431は西部，1430は南壁際の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から11世紀前半と考えられる。



第191図 第220号住居跡出土遺物実測図

第220号住居跡出土遺物観察表 (第191図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-------|--------|------|----|--------------------|------|-----|
| 1429 | 土師器 | 坏 | — | (3.1) | [8.0] | 白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転糸切り | 上層 | 20% |
| 1430 | 土師器 | 高台付椀 | [17.8] | 6.7 | [9.0] | 長石 | 灰黄 | 普通 | 体部内・外面ヘラ磨き | 床面 | 30% |
| 1431 | 土師器 | 高台付椀 | [14.6] | (5.5) | — | 石英・長石 | にぶい橙 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り, 内面ヘラ磨き | 床面 | 20% |
| 1432 | 土師器 | 高台付椀 | — | (2.3) | — | 長石・白雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 上層 | 10% |
| 1433 | 土師器 | 甌 | [22.0] | (6.5) | — | 石英・長石 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り | 下層 | 10% |

第221号住居跡 (第192・193図)

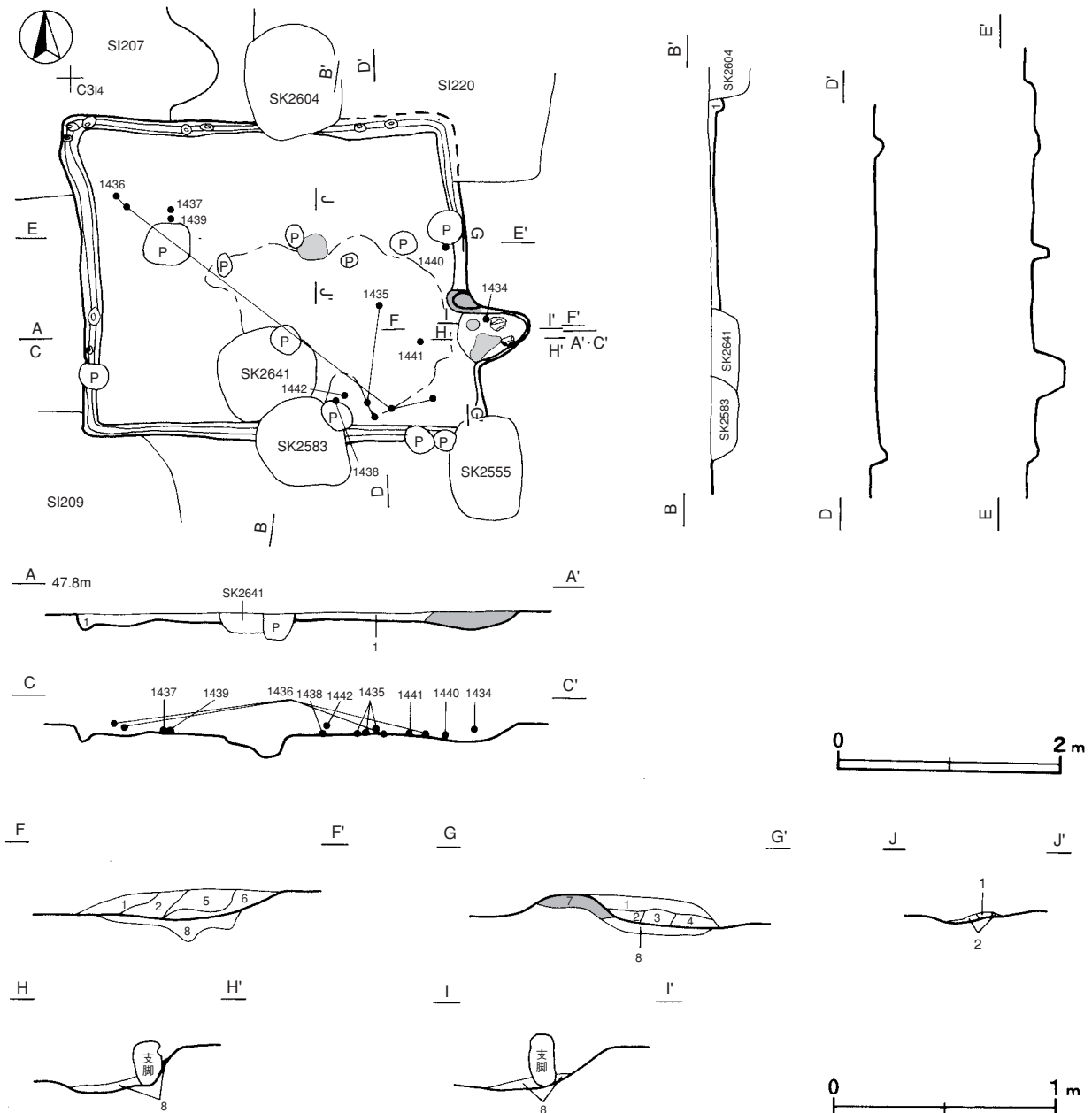
位置 調査区西部1区のC3i4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第207・209号住居跡を掘り込み、第220号住居、第2555・2583・2604・2641号土坑及びピット(11か所)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.4m、短軸2.9mの長方形で、主軸方向はN-89°-Eである。壁高は8cmである。

床 ほぼ平坦で、中央部から竈手前にかけて踏み固められている。壁溝が周回している。

竈 東壁の南寄りに付設されている。右袖部は遺存せず、焚口から煙道部まで69cm、壁外への掘り込み52cmが確認された。左袖部は掘り残したローム面を基部として、粘土粒子などを混ぜた暗褐色土を貼り付けて構築している。火床部は床面を14~24cm掘りくぼめた後、黒褐色土を8~20cm埋め戻して構築されている。火床面は火熱で赤変硬化している。また、火床面には赤変した支脚(砂岩の自然石)が2個据えられている。煙道部は外傾して緩やかな傾斜で立ち上がっている。



第192図 第221号住居跡実測図

電土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|--------|------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |

炉 中央部に付設されている。長径28cm, 短径22cmの楕円形を呈している。掘り込みは認められず、床面と同じ高さの地床炉である。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|----------|-------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 2 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
|--------|----------|-------|-----------------|

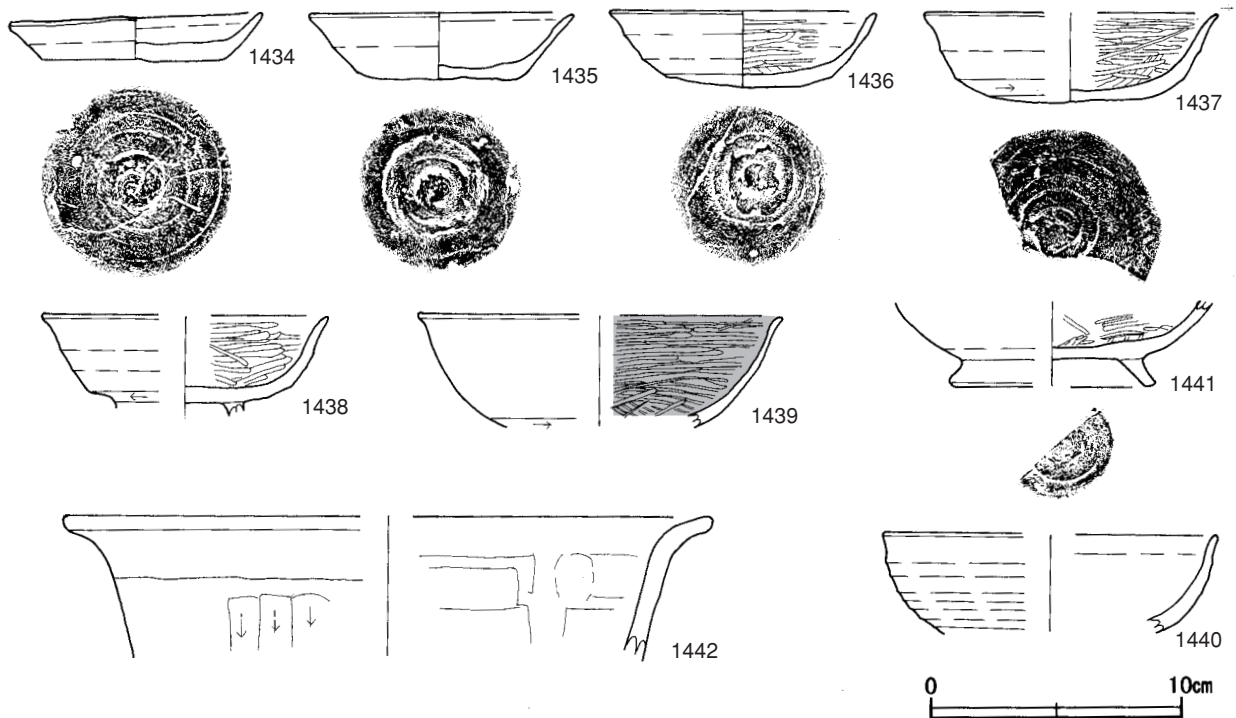
ピット 9か所。北壁際から西壁際にかけて9か所確認できた深さ5cmほどの小ピットは、壁柱穴と考えられる。

覆土 単一層である。薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 |
|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片117点（小皿5, 坏43, 高台付椀12, 甕56, 甑1）が、南東コーナー部及び北西コーナー部を中心に出土している。1440は東壁際の、1437・1439は北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。1435は竈手前の覆土下層と南東部の床面から出土した破片が、1436は北西コーナー部の覆土上層と南東部の床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。1435・1436は離れた位置から出土した破片が接合しており、残存率も高いことから、廃絶後に投棄されたものと考えられる。1438・1442は南東コーナー部、1441は竈手前の床面からそれぞれ出土している。南東コーナー部や竈手前には土器が投棄されていることから、1438・1441・1442も投棄されたものと考えられる。1434は竈の覆土下層から逆位で出土し、火熱痕があり、粘土も付着しており、すぐ脇に自然石を利用した支脚が据えられていることから、支脚の高さを調整するために使われていたものと考えられる。



第193図 第221号住居跡出土遺物実測図

所見 当遺跡の奈良時代から平安時代の住居で、竈と炉を有しているのは本跡だけである。竈と炉を有する住居には手工業生産を行っていた事例があるが、本跡から手工業生産に関わる遺物は出土していない。また、竈内に2個の支脚が据えられていたことから、甕を2個横に並べて掛けていたものと考えられる。廃絶時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。

第221号住居跡出土遺物観察表（第193図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-------|-----------|-------|----|------------------|-------|--------------------------|
| 1434 | 土師器 | 小皿 | 9.8 | 1.8 | 7.4 | 長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 竈覆土下層 | 95%，火熱痕・粘土付着，PL109 |
| 1435 | 土師器 | 小皿 | 10.5 | 2.6 | 6.5 | 長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 下層・床面 | 90%，内・外面火熱痕，外面粘土付着，PL109 |
| 1436 | 土師器 | 小皿 | 10.4 | 3.0 | — | 長石・金雲母 | 橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 上層・床面 | 60%，PL109 |
| 1437 | 土師器 | 坏 | [11.5] | 3.4 | — | 長石・金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後，ナデ | 下層 | 50% |
| 1440 | 土師器 | 坏 | [13.0] | (3.9) | — | 白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 口縁部横ナデ | 下層 | 30% |
| 1438 | 土師器 | 高台付椀 | [11.2] | (4.1) | — | 長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け | 床面 | 60% |
| 1439 | 土師器 | 高台付椀 | [14.2] | (4.4) | — | 金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 下層 | 20% |
| 1441 | 土師器 | 高台付椀 | — | (3.4) | [7.8] | 白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け | 床面 | 20% |
| 1442 | 土師器 | 甌 | [25.4] | (5.7) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ | 床面 | 5% |

第226号住居跡（第194図）

位置 調査区西部1区のC2f8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第172・236号住居跡を掘り込み、ピット（1か所）に掘り込まれている。

規模と形状 一辺2.5mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は10~25cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されており、焚口から煙道部まで52cm、壁外への掘り込みは28cmである。袖部幅は56cm、火床部幅は30cmである。竈は廃絶後に埋め戻されており、竈土層断面図中の第1・2層が相当する。袖部は粘土ブロックを含む黒褐色土を基部として、粘土粒子などを混ぜた暗褐色土を貼り付けて構築されている。右袖部内には砂岩の自然石が据えられており、袖の芯材と考えられる。火床部は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用している。火床面は火熱で赤変しているが、軟質である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 | | |

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

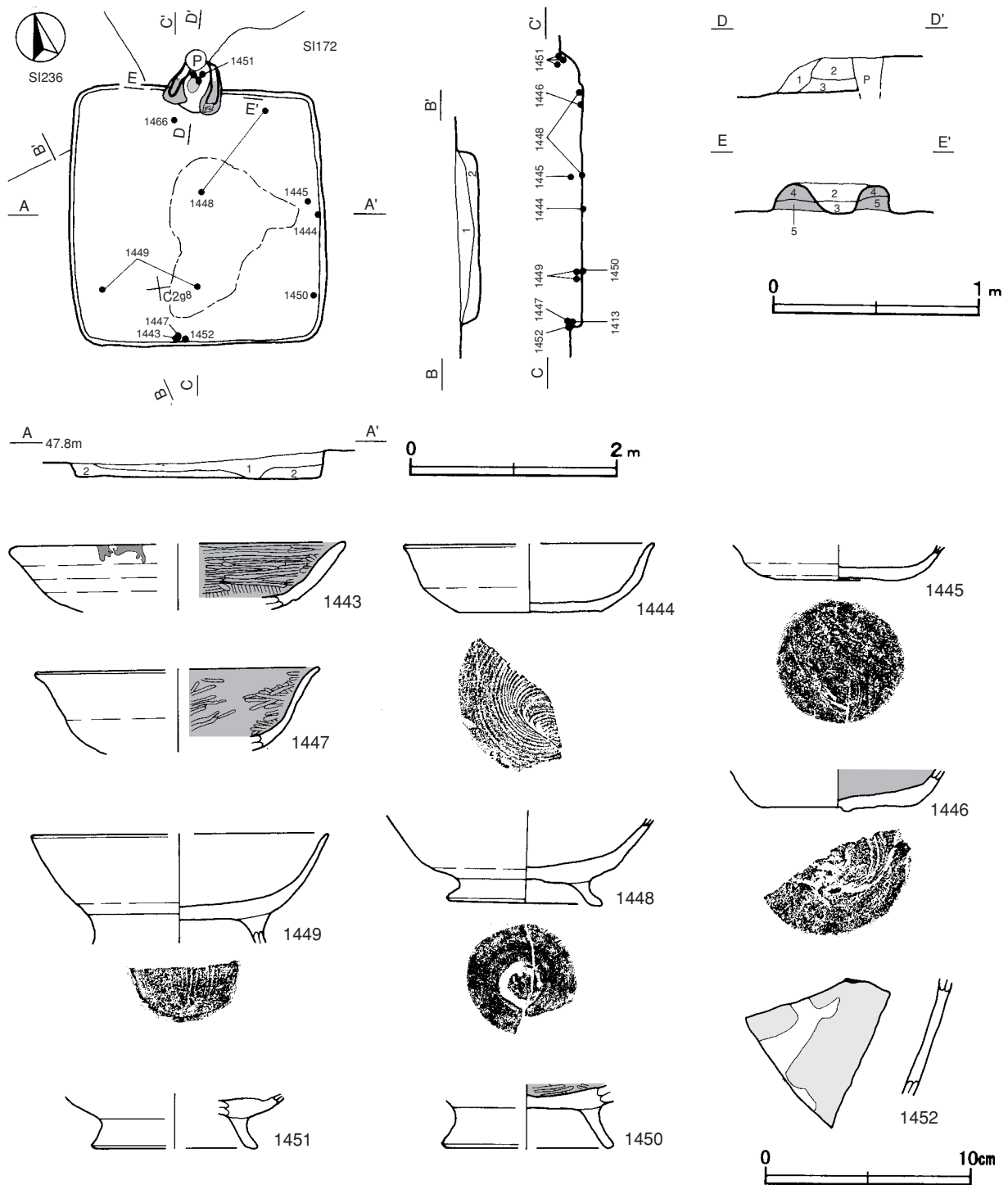
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 2 黒色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量 |
|-------|--------------|------|-----------------------|

遺物出土状況 土師器片282点（坏103，高台付椀11，甕168），須恵器片7点（坏6，蓋1），灰釉陶器片1点（瓶）が、全域から散在した状態で出土している。須恵器は細片で破断面が摩滅しており、埋め戻しの際に混入したものと考えられる。1445は東壁際，1447・1452は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。1448は北壁際の覆土下層と中央部の床面から出土した破片が，1449は南部と西壁際の覆土下層から出土した破片がそ

それぞれ接合したものである。1448・1449は離れた位置から出土した破片が接合し、破断面が摩滅していないことから、廃絶後に投棄されたものと考えられる。1444・1450は東壁際、1446は竈手前の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。1451は竈の覆土上層から出土し、火熱痕がなく、破断面が摩滅していることから、廃絶後の埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、床面出土の土器から10世紀中葉と考えられる。当該期において一辺2.5mの住居は、最も小形である。



第194図 第226号住居跡・出土遺物実測図

第226号住居跡出土遺物観察表（第194図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|------|--------|-------|-------|-----------|----------|----|-------------------|-------|------------------|
| 1443 | 土師器 | 坏 | [16.2] | (3.2) | — | 長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き | 覆土中 | 50%, 口縁部油煙付着 |
| 1444 | 土師器 | 坏 | [12.1] | 3.3 | 6.9 | 石英・長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転糸切り | 床面 | 30% |
| 1445 | 土師器 | 坏 | — | (1.7) | 6.0 | 長石・金雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転糸切り後, ナデ | 上層 | 20% |
| 1446 | 土師器 | 坏 | — | (2.0) | 7.4 | 石英・長石・金雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 床面 | 20% |
| 1447 | 土師器 | 高台付椀 | [13.6] | (4.0) | — | 金雲母 | 橙 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き | 上層 | 15% |
| 1448 | 土師器 | 高台付椀 | — | (4.2) | 7.3 | 金雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 下層・床面 | 30% |
| 1449 | 土師器 | 高台付椀 | [14.2] | 5.3 | — | 長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転糸切り後, 高台貼り付け | 下層 | 50% |
| 1450 | 土師器 | 高台付椀 | — | (3.1) | [8.0] | 石英・長石・金雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け | 床面 | 10% |
| 1451 | 土師器 | 高台付椀 | — | (2.7) | [7.9] | 金雲母 | 橙 | 普通 | 高台貼り付け後, ナデ | 覆土上層 | 5% |
| 1452 | 灰釉陶器 | 瓶カ | — | (5.6) | — | 普通 | 灰オリーブ・灰白 | 良好 | 釉は流し掛け, 体部口口調整 | 上層 | 5%, 猿投産(折戸53号窯式) |

第229号住居跡（第195・196図）

位置 調査区西部1区のC3j4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第232号住居跡を掘り込み、第2630・2660号土坑及びピット（7か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.3m、短軸3.7mの長方形で、主軸方向はN-105°-Eである。壁高は4~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈手前と南西部が踏み固められている。壁溝は南壁と北壁の一部に確認できた。

竈 東壁の南寄りに付設されており、焚口から煙道部まで88cm、壁外への掘り込みは68cmである。袖部幅は90cm、火床部幅は54cmである。竈は埋め戻されており、竈土層断面図中の第1~4層までが相当する。袖部は暗褐色土などを基部として、粘土ブロックを含む黒褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用し、火床面及び左袖の内側が火熱で赤変硬化している。煙道部は粘土ブロックなどを貼り付けて構築されており、急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | 砂質粘土粒ブロック少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量 | 8 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | | |
| 6 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 3か所。主柱穴はP1・P2が相当し、深さは20cmと32cmである。P3は深さ12cmで、西壁際の中央部にあり、出入口施設に伴うピットである。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。堆積状況から、北側から埋め戻しているものと考えられる。

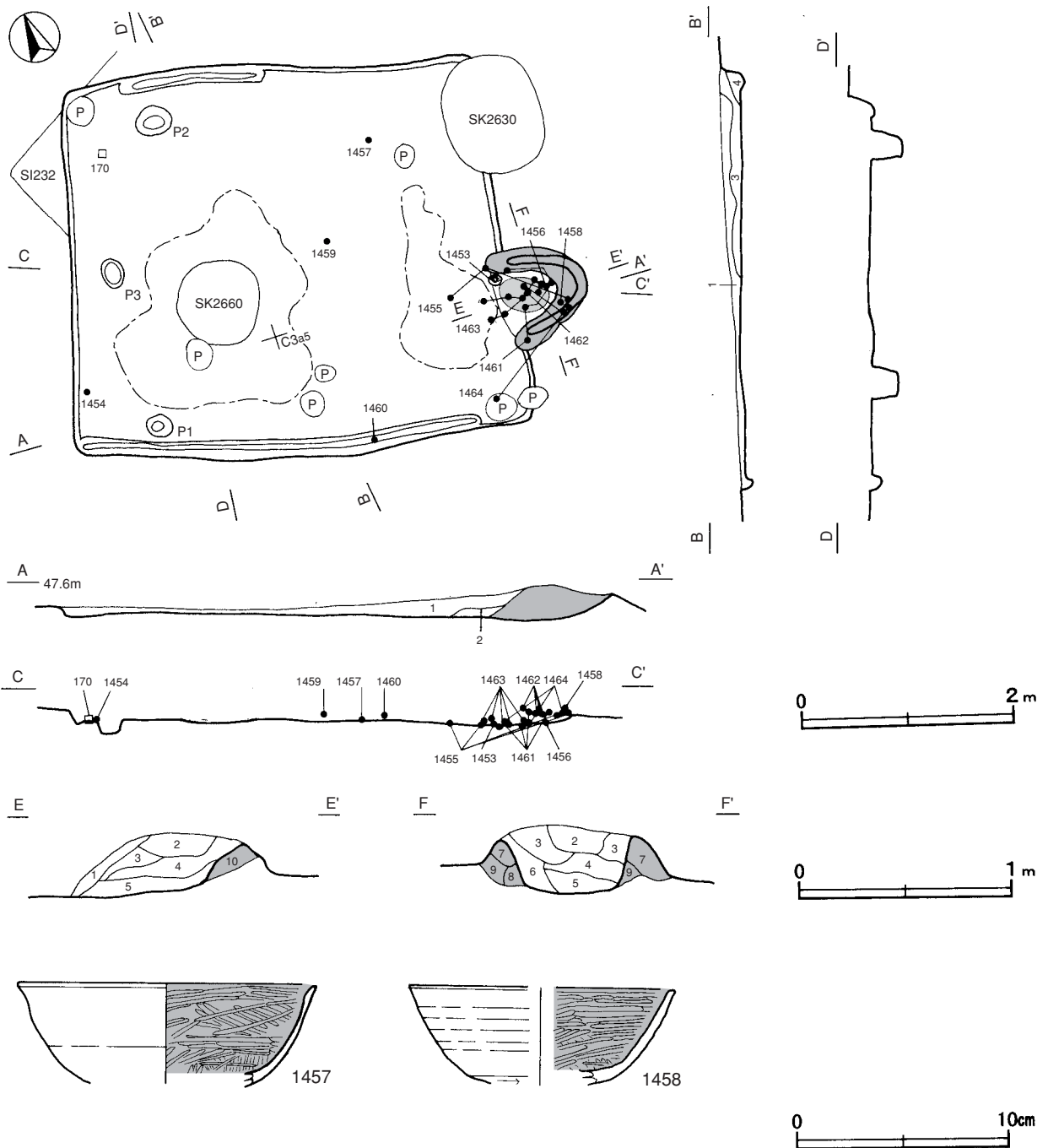
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

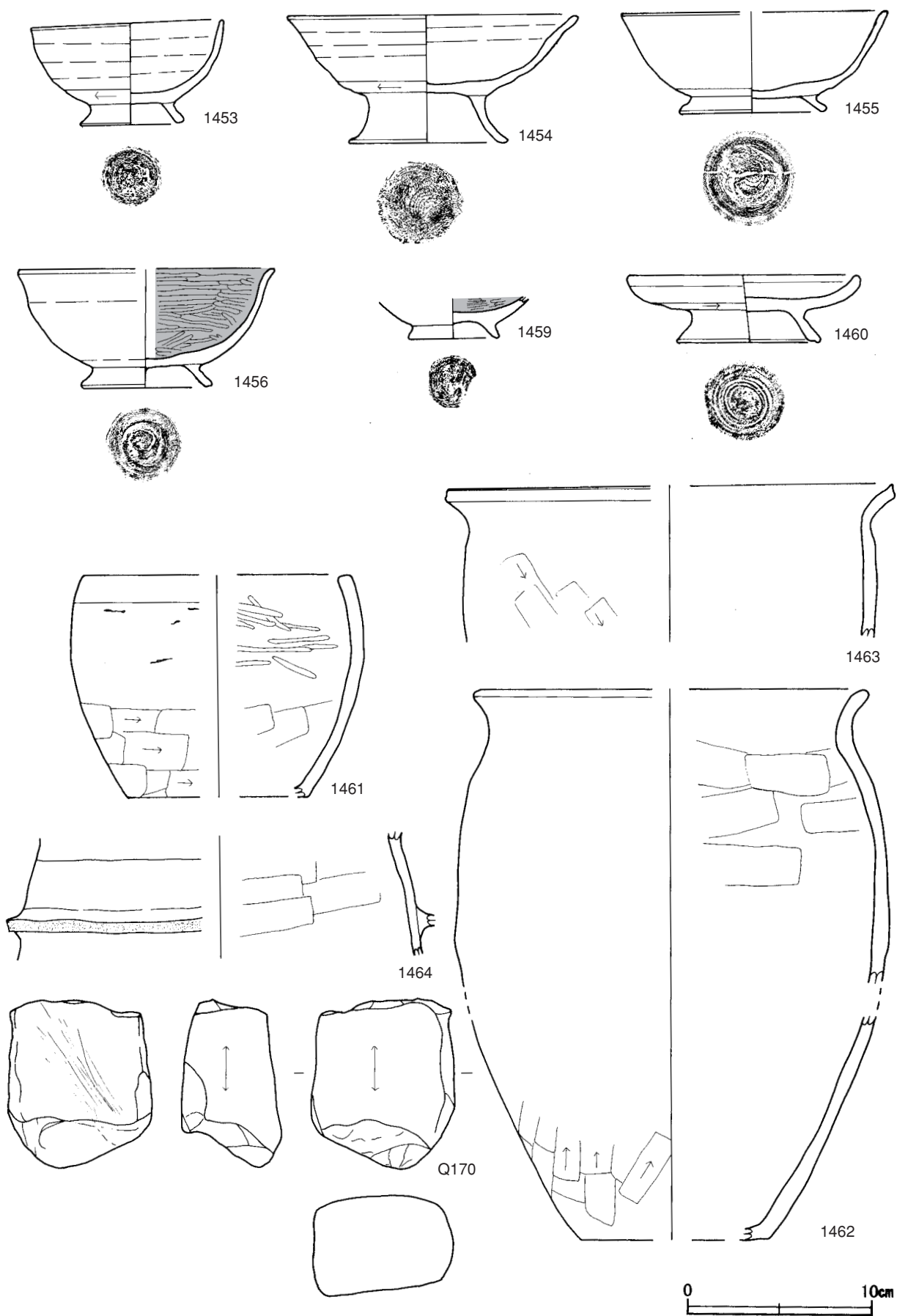
遺物出土状況 土師器片318点（坏106, 高台付椀21, 鉢4, 甕185, 羽釜2）, 石器1点（砥石）が、竈内を中心に出土している。1459は中央部, 1460は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。1457は北東コーナー部, Q170は北西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。1454は南西コーナー部の床面からつぶれた状

態で出土している。1458・1462は竈の覆土上層から出土している。1455は竈の覆土上層と竈手前の覆土下層から出土した破片が、1461・1463・1464は竈の覆土上層及び火床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。1453は竈の火床面から逆位で出土し、内側を粘土で固め、外側には火熱痕があることから、支脚に転用されたものと考えられる。1456は竈の火床面から出土し、火熱痕があることから、支脚の一部に転用された可能性が高い。竈内から多くの土器が出土しているが、支脚への転用と考えられる1453・1456以外の土器は、火熱痕の認められないものが多い。支脚に転用された土器の他は、竈を埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第195図 第229号住居跡・出土遺物実測図



第196图 第229号住居跡出土遺物実測図

第229号住居跡出土遺物観察表（第195・196図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|--------|-------|-----------|-------|----|-----------------------------|----------------|--------------------------------|
| 1453 | 土師器 | 高台付椀 | 10.4 | 5.6 | 5.3 | 石英・長石・金雲母 | 橙 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り、底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 竈火床面 床面 | 100%、内外面 火熱痕・粘土付 着、PL109 |
| 1454 | 土師器 | 高台付椀 | 15.5 | 6.8 | 8.4 | 石英・長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り、底部回転糸切り後、高台貼り付け | 竈覆土上層 ・下層 | 100%、PL109 |
| 1455 | 土師器 | 高台付椀 | [14.3] | 5.5 | 7.6 | 白雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 竈火床面 | 20% |
| 1456 | 土師器 | 高台付椀 | [13.7] | 6.5 | 6.9 | 金雲母 | 橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 床面 | 40%、内外面火熱 痕、底部粘土付着 |
| 1457 | 土師器 | 高台付椀 | 14.0 | (4.7) | — | 金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部内面ヘラ磨き | 竈覆土上層 | 60% |
| 1458 | 土師器 | 高台付椀 | [12.4] | (4.5) | — | 金雲母 | 灰褐 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 下層 | 20% |
| 1459 | 土師器 | 高台付椀 | — | (2.3) | 4.8 | 長石・金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 下層 | 10% |
| 1460 | 土師器 | 高台付皿 | 12.4 | 3.7 | 7.7 | 金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 竈内上層 | 95%、PL109 |
| 1461 | 土師器 | 鉢 | [14.4] | 12.0 | 9.8 | 石英・長石・金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部下端手持ちヘラ削り | 竈火床面 | 40% |
| 1462 | 土師器 | 甕 | [20.8] | [29.8] | (8.4) | 石英・長石・金雲母 | にぶい黄褐 | 普通 | 体部外面下端ヘラ削り | 竈内上層 | 10% |
| 1463 | 土師器 | 甕 | [23.8] | (8.4) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部外面ヘラ削り、口縁部横ナデ | 竈覆土上層 ・竈火床面 | 10% |
| 1464 | 土師器 | 羽釜 | — | (6.6) | — | 石英・長石・金雲母 | 灰褐 | 普通 | 内面ヘラナデ | 竈覆土上層 ・竈火床面 | 10% |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-----|-----|---------|----|------------|------|----|
| Q170 | 砥石 | (9.2) | 7.9 | 5.5 | (523.0) | 泥岩 | 砥面3面、断面長方形 | 床面 | |

第230号住居跡（第197図）

位置 調査区西部1区のC3j1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第231号住居跡を掘り込み、第2629・2642号土坑、ピット（2か所）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.7m、短軸2.5の方形で、主軸方向はN-91°-Eである。壁高は13~20cmで直立している。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟弱である。

竈 東壁の南寄りに付設されており、焚口から煙道部まで48cm、壁外への掘り込みは10cm、袖部幅は79cm、火床部幅は42cmである。袖部は砂粒や砂質粘土ブロック混じりの黒褐色土を用いて構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用しており、火床面は火熱で赤変しているが、軟質である。煙道部は外傾して緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・砂粒微量 | 4 黒褐色 | 砂粒中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・砂粒微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | | |

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

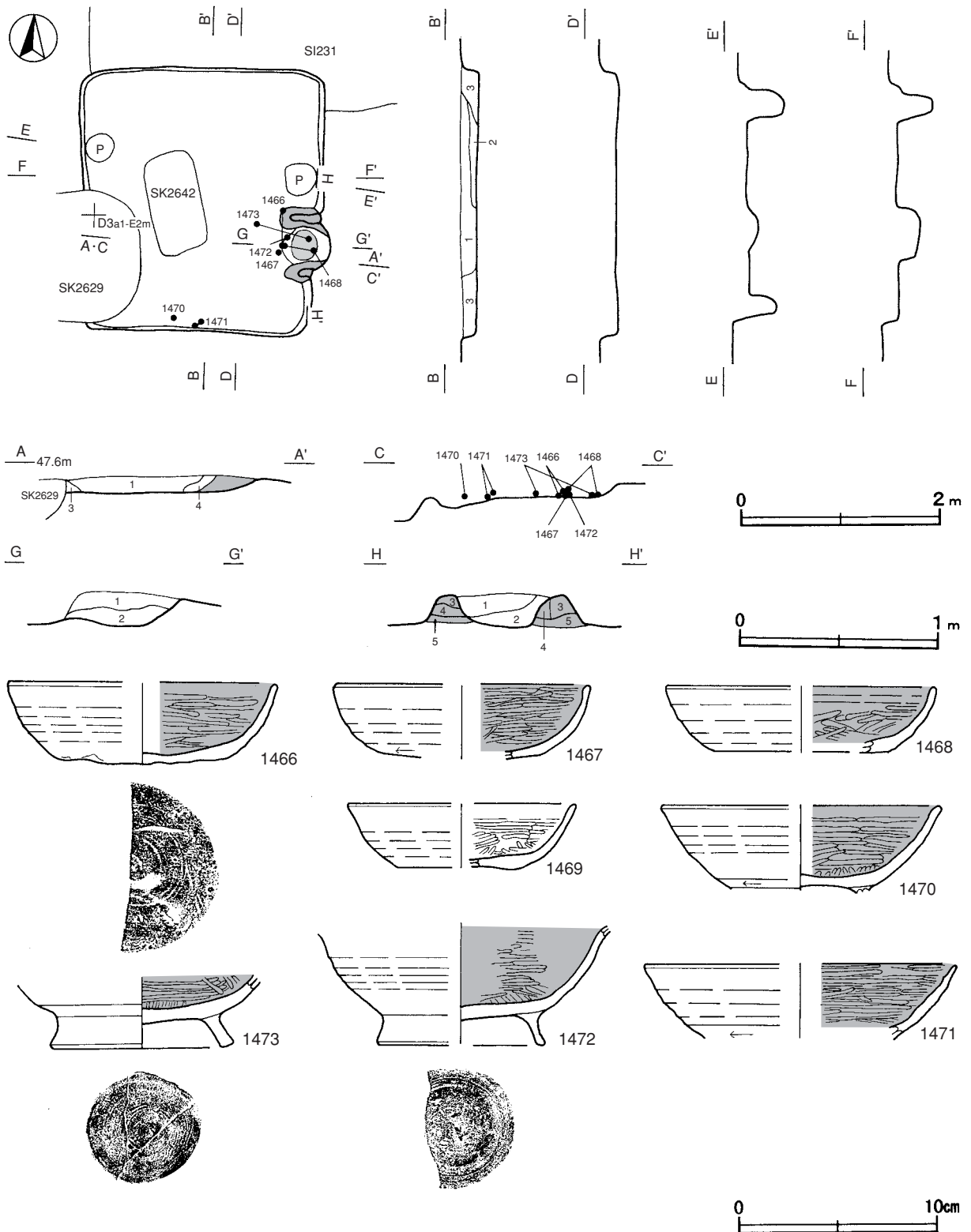
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 3 黒色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片102点（坏43、高台付椀8、甕51）、須恵器片10点（坏5、蓋2、甕3）、鉄滓2点があり、竈内を中心に出土している。須恵器は細片で破断面が摩滅しており、廃絶後の埋め戻しの際に混入したものと

考えられる。1471は南壁際の覆土下層と床面から出土した破片が、1473は竈の覆土下層と左袖手前の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。1466・1467・1468・1472は竈の覆土下層から出土し、火熱痕が認められることから、支脚に転用されたものと考えられる。1470は南壁際の床面から出土している。

所見 硬化面が確認できず、火床面も軟質であることから、住居の使用期間は短かったものと推測される。廃絶時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第197図 第230号住居跡・出土遺物実測図

第230号住居跡出土遺物観察表（第197図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|--------|-------|-------|--------|-------|----|------------------|----------|--------------|
| 1466 | 土師器 | 坏 | [13.2] | 4.0 | 8.0 | 金雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 竈覆土下層 | 50%, 内・外面火熱痕 |
| 1467 | 土師器 | 坏 | [12.8] | 3.7 | [7.7] | 石英・長石 | にぶい黄橙 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 竈覆土下層 | 40% |
| 1468 | 土師器 | 坏 | [13.3] | 3.3 | [8.6] | 白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 竈覆土下層 | 25%, 外面煤付着 |
| 1469 | 土師器 | 坏 | [11.3] | 3.3 | [6.2] | 金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 覆土中 | 40%, 内・外面火熱痕 |
| 1470 | 土師器 | 高台付椀 | [13.8] | (4.4) | — | 長石 | 褐灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 床面 | 40%, 内・外面火熱痕 |
| 1471 | 土師器 | 高台付椀 | [15.4] | (3.8) | — | 長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部下端回転ヘラ削り | 下層・床面 | 20% |
| 1472 | 土師器 | 高台付椀 | — | (6.1) | [8.2] | 長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 竈覆土下層 | 30% |
| 1473 | 土師器 | 高台付椀 | — | (3.6) | 8.9 | 長石・金雲母 | 灰黄褐 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け | 竈覆土下層・下層 | 30% |

表9 平安時代住居跡一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内 部 施 設 | | | | | 覆土 | 出 土 遺 物 | 備 考 (時 期) |
|------|------|----------|-------|-------------------|------------|----|---------|-----|-----|-----|---|----|------------------------|--------------|
| | | | | | | | 壁溝 | 主柱穴 | 出入口 | ピット | 竈 | | | |
| 105 | B2i3 | N-1°-E | 方形 | 3.2 × 3.0 | 15~20 | 平坦 | 一部 | — | 1 | — | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器 | 9世紀後半 |
| 111 | C1c0 | N-12°-W | 長方形 | 5.7 × 4.3 | 5~18 | 平坦 | 一部 | 4 | 1 | — | 1 | 不明 | 土師器, 須恵器, 砥石 | 9世紀前葉 |
| 113 | C1b8 | N-83°-E | 方形 | 3.6 × 3.6 | 15 | 平坦 | — | — | — | — | 1 | 自然 | 土師器, 須恵器 | 9世紀前半 |
| 116 | C2d3 | N-2°-E | 長方形 | 4.8 × 3.5 | 8~14 | 平坦 | 全周 | 2 | 1 | — | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 鉄製鎌 | 9世紀前葉 |
| 118 | C2a3 | N-101°-E | [長方形] | [3.1 × 2.6] | — | 平坦 | — | — | — | — | 1 | — | 土師器 | 10世紀前半 |
| 119 | C2c3 | N-22°-W | [長方形] | [3.0 × 2.5] | — | 不明 | 全周 | — | 1 | 24 | 1 | — | — | 奈良・平安時代 |
| 120 | C1b0 | N-89°-E | [方・長] | 3.3 × (2.3) | 8~10 | 平坦 | 一部 | — | — | — | 1 | 不明 | 土師器 | 10世紀中葉 |
| 121 | C2b2 | N-67°-E | [長方形] | [2.9 × 2.5] | — | 平坦 | — | — | — | — | 1 | — | — | 平安時代 |
| 122 | C2a2 | N-49°-E | [長方形] | [2.6 × 2.2] | — | 平坦 | — | — | — | — | — | — | — | 平安時代 |
| 123 | C2e2 | N-5°-E | [方形] | [3.3 × 3.2] | — | 平坦 | 全周 | — | — | — | 1 | — | 土師器, 置き竈, 鉄釘 | 9世紀後葉 |
| 124 | B1g9 | N-77°-E | [長方形] | [4.0 × 3.6] | — | 不明 | — | 4 | — | — | 1 | — | — | 奈良・平安時代 |
| 126 | B1g0 | N-109°-E | [長方形] | [2.7 × 2.4] | — | 不明 | — | — | 1 | — | 1 | — | — | 10世紀代カ |
| 129 | B2i7 | N-8°-E | [方形] | [3.7 × 3.7] | — | 不明 | 一部 | — | 3 | — | 1 | — | — | 奈良・平安時代 |
| 130 | C2d3 | N-92°-E | 方形 | 3.8 × 3.8 | 2 | 平坦 | 全周 | — | — | — | 1 | 不明 | — | 9世紀前葉以降 |
| 132 | B2i2 | N-92°-E | [方形] | [3.9 × 3.6] | — | 平坦 | — | 2 | 1 | — | 1 | — | — | 奈良・平安時代 |
| 133 | B2i9 | N-20°-W | [方・長] | 3.6 × (1.9) | 46~66 | 平坦 | — | — | 1 | — | — | 人為 | 土師器, 須恵器, 土製紡錘車, 石製紡錘車 | 9世紀中葉 |
| 135 | B2j6 | N-95°-E | [方・長] | 3.2 × (0.8) | 6 | 平坦 | 一部 | — | — | — | 1 | 不明 | 土師器 | 10世紀後半 |
| 136 | B2i9 | N-105°-E | [方・長] | 3.7 × (2.3) | 14~16 | 平坦 | — | — | — | — | 1 | 人為 | 土師器, 砥石 | 10世紀中葉 |
| 140A | C2a9 | N-20°-W | 長方形 | 4.4 × 3.7 | 8~25 | 平坦 | 全周 | — | 1 | — | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器 | 9世紀前葉 |
| 140B | C2a9 | N-20°-W | 方形 | 3.7 × 3.5 | 25 | 平坦 | 全周 | — | 1 | — | 1 | — | — | 9世紀前葉 |
| 141 | B2h6 | N-30°-W | [方・長] | 3.2 × (2.4) | 20 | 平坦 | 一部 | 1 | 1 | — | — | 人為 | 土師器, 須恵器, 砥石 | 9世紀前葉 |
| 143 | B2h1 | N-75°-E | 方形 | 2.6 × 2.6 | 2 | 平坦 | — | — | — | — | 1 | 不明 | 土師器 | 10世紀後葉 |
| 151 | C2c9 | N-82°-E | 方形 | 3.2 × 3.0 | 10 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | — | 1 | 自然 | 土師器, 須恵器, 刀子 | 10世紀中葉 |
| 152 | C2d8 | N-5°-W | 方形 | 3.3 × 3.1 | 30~38 | 平坦 | [全周] | — | — | — | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器 | 9世紀中葉 |
| 158 | C2d7 | N-2°-E | 方形 | 3.6 × 3.5 | 20~30 | 平坦 | 全周 | 2 | 1 | 1 | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器, 砥石 | 9世紀前半 |
| 160A | C2d0 | N-5°-E | 方形 | 3.4 × 3.1 | 24~28 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | — | 1 | 人為 | 土師器 | 10世紀後葉 |
| 160B | C2d0 | N-5°-E | 方形 | 3.1 × 3.1 | 30 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | — | 1 | — | — | 10世紀中葉 |
| 163A | C3b4 | N-8°-W | 方形 | 3.8 × 3.4 | 6~12 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | — | 1 | 人為 | 土師器, 灰釉陶器, 鉄製鎌 | 10世紀後葉 |
| 163B | C3b4 | N-8°-W | 方形 | 3.8 × 3.4 | 8~14 | 平坦 | 全周 | 2 | 1 | — | 1 | — | — | 10世紀中葉 |
| 166 | C2e7 | N-93°-E | 長方形 | 2.8 × 2.4 | 14~20 | 平坦 | 一部 | 3 | 1 | — | 1 | 人為 | 土師器 | 10世紀以降 |
| 180 | C2e9 | N-17°-W | 方形 | 3.5 × 3.4 | 22~26 | 平坦 | 一部 | — | 1 | 12 | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器 | 9世紀中葉 |

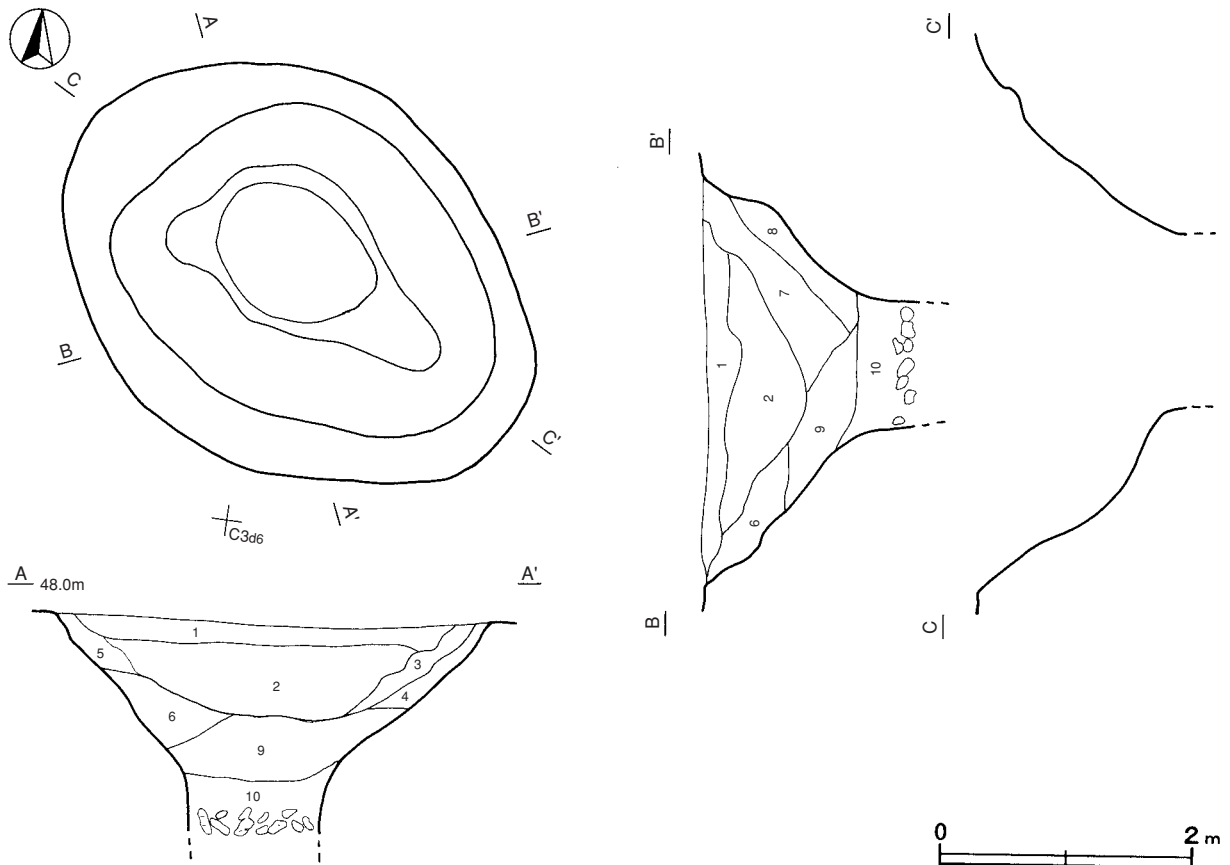
| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内 部 施 設 | | | | | 覆土 | 出 土 遺 物 | 備 考 (時 期) |
|------|------|----------|-------|-------------------|------------|----|---------|-----|-----|-----|-----|----|--------------------|--------------|
| | | | | | | | 壁溝 | 主柱穴 | 出入口 | ピット | 竈 | | | |
| 182 | C2f2 | N-9°-E | 方形 | 3.1 × 3.1 | 8 | 平坦 | - | - | - | - | 1 | 不明 | 土師器, 石製紡錘車 | 9世紀後半 |
| 186 | C2d9 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | - | - | - | - | 1 | - | | 奈良・平安時代 |
| 196 | C3b7 | N-13°-W | [方・長] | 3.2 × (1.7) | 8 | 平坦 | - | - | - | - | 1 | 不明 | 土師器 | 9世紀中葉以降 |
| 199 | C3e1 | N-16°-W | 方形 | 3.1 × 3.0 | 12~16 | 平坦 | [全周] | - | 1 | 15 | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器 | 9世紀前葉 |
| 207 | C3h3 | N-89°-E | 長方形 | 3.7 × 3.1 | 8 | 平坦 | 一部 | - | 1 | - | 1 | 人為 | 土師器, 緑釉陶器 | 11世紀前半 |
| 210 | C2c8 | N-12°-W | 方形 | 3.4 × 3.0 | 20~30 | 平坦 | 全周 | - | 1 | - | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器, 刀子, 隅軒平瓦 | 9世紀前葉 |
| 215 | C2i7 | N-105°-E | 長方形 | 2.8 × 2.3 | 14~22 | 平坦 | 全周 | - | - | - | 1 | 人為 | 土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 鉄釘 | 10世紀前半 |
| 217A | C3h2 | N-101°-E | 長方形 | 3.5 × 2.9 | 10 | 平坦 | 一部 | - | - | - | 1 | 人為 | 土師器 | 10世紀中葉 |
| 217B | C3h2 | N-101°-E | 方形 | 3.1 × 2.9 | 10 | 平坦 | 一部 | - | - | - | 1 | - | | 10世紀中葉 |
| 220 | C3h4 | N-96°-E | 長方形 | 3.9 × 2.7 | 8 | 平坦 | 一部 | 2 | 1 | - | 1 | 人為 | 土師器 | 11世紀前半 |
| 221 | C3i4 | N-89°-E | 長方形 | 3.4 × 2.9 | 8 | 平坦 | 全周 | - | - | 9 | 竈・炯 | 不明 | 土師器 | 10世紀中葉 |
| 226 | C2f8 | N-10°-E | 方形 | 2.5 × 2.5 | 10~25 | 平坦 | - | - | - | - | 1 | 人為 | 土師器, 灰釉陶器 | 10世紀中葉 |
| 229 | C3j4 | N-105°-E | 長方形 | 4.3 × 3.7 | 4~20 | 平坦 | 一部 | 2 | 1 | - | 1 | 人為 | 土師器, 砥石 | 10世紀後葉 |
| 230 | C3j1 | N-91°-E | 方形 | 2.7 × 2.5 | 13~20 | 平坦 | - | - | - | - | 1 | 人為 | 土師器 | 10世紀前葉 |

(2) 井戸跡

第92号井戸跡 (第198・199図)

位置 調査区西部1区のC3c6区で, 台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径4.08m, 短径3.08mの楕円形で, 長径方向はN-59°-Wである。確認面から1.2mまでは漏



第198図 第92号井戸跡実測図

斗状で、それ以下は長径1.3m、短径1.0mで円筒状に掘り込まれている。湧水のため、深さは1.7mまでしか確認できなかった。

覆土 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・礫中量 |

遺物出土状況 土師器片289点（坏100，高台付椀4，甕185），須恵器片31点（坏22，蓋3，甕6），灰釉陶器片1点（短頸壺），石器1点（砥石），礫68点が出土している。1514・1515は覆土中からの出土である。長さ10～25cmの砂岩の自然礫が、覆土下層から出土している。

所見 覆土下層から出土した多くの礫は、井戸を埋め戻すために投棄されたものと推測される。廃絶時期は、出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第199図 第92号井戸跡出土遺物実測図

第92号井戸跡出土遺物観察表（第199図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|-----|--------|-------|----|-------------|----------|----|----------------|------|-----------------|
| 1514 | 須恵器 | 蓋 | [16.5] | (2.3) | — | 長石・白雲母・白色粒子 | 黄灰 | 普通 | 天井部回転ヘラ削り | 覆土中 | 5%，堀の内窯 |
| 1515 | 灰釉陶器 | 短頸壺 | — | (6.0) | — | 緻密 | 灰オリーブ・灰白 | 良好 | 釉は流し掛け，体部ロクロナデ | 覆土中 | 5%，猿投産（黒笹90号窯式） |

表10 平安時代井戸跡一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 | | 断面形 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|----|------|---------|-----|----------------|--------|-----|----|----------|------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸)(m) | 深さ(cm) | | | | |
| 92 | C3c6 | N-59°-W | 楕円形 | 4.08×3.08 | (170) | 漏斗状 | 人為 | 須恵器，灰釉陶器 | 9世紀後葉 |

(3) 土坑

第2253号土坑（第200図）

位置 調査区西部2区のC2e1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第123・154号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.36m，短軸0.88mの隅丸長方形で，長軸方向はN-6°-Wである。深さは20cmで，外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

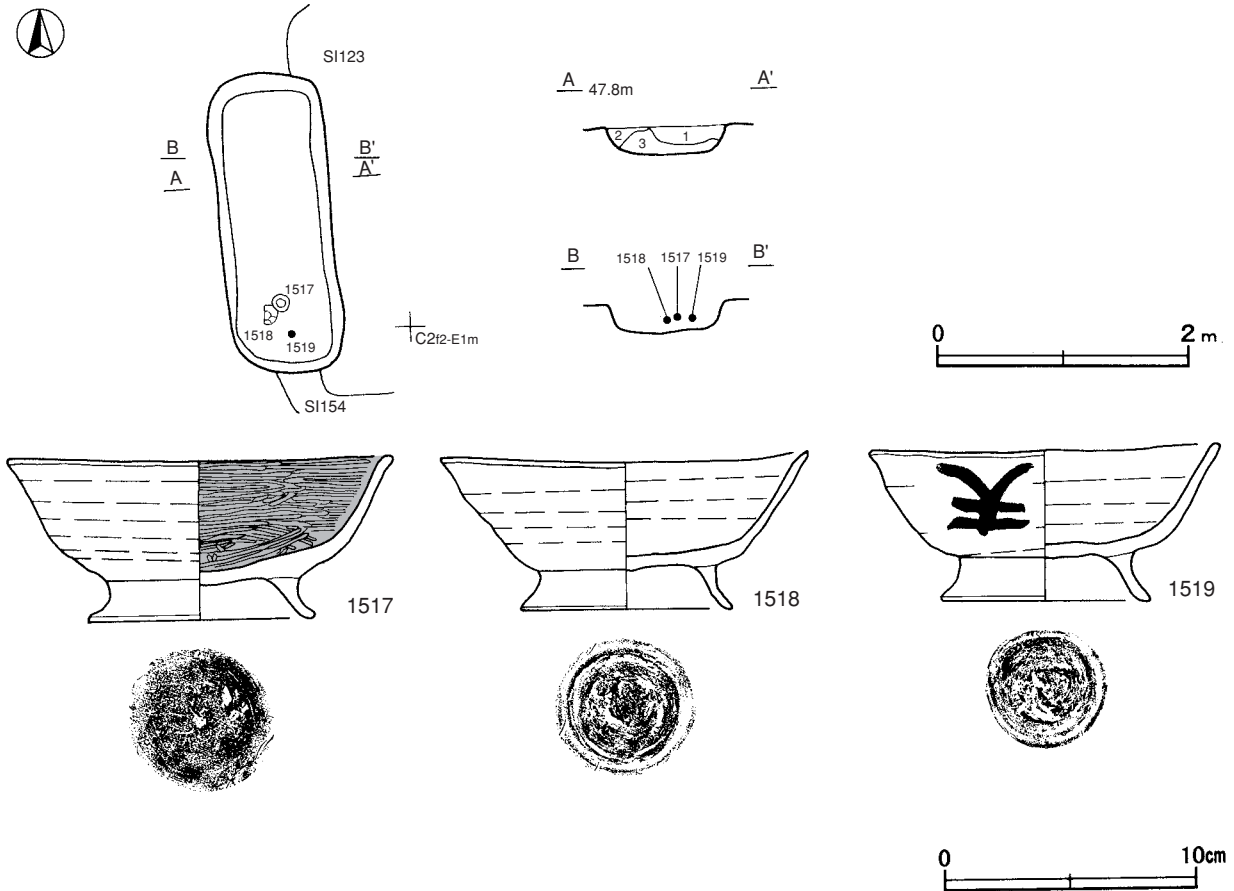
覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|--------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片 9点（高台付椀 3，甕 6）が出土している。1517・1518・1519は南部の覆土下層から正位の状態で出土している。

所見 性格については断定できないが，土師器の高台付椀が3点まとまって出土し，形状が隅丸長方形であることや人為堆積を示していることから，墓坑の可能性が考えられる。時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第200図 第2253号土坑・出土遺物跡実測図

第2253号土坑出土遺物観察表（第200図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|------|-----|-----|-------------|-------|----|------------------|------|-----------------------------|
| 1517 | 土師器 | 高台付椀 | 15.3 | 6.4 | 8.4 | 白雲母・赤色粒子 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け | 下層 | 95%， PL100 |
| 1518 | 土師器 | 高台付椀 | 14.5 | 6.3 | 8.2 | 長石・白雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け | 下層 | 100%， PL110 |
| 1519 | 土師器 | 高台付椀 | 13.7 | 6.2 | 8.1 | 長石・白雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 良好 | 底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け | 下層 | 95%， PL110・118， 体部外面墨書「夫」逆位 |

第2604号土坑（第201図）

位置 調査区西部1区のC3i4区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第220号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.00m，短径0.89mの不整楕円形で，長径方向はN-10°-Wである。深さは33cmで，外傾して緩やかに立ち上がっている。底面は皿状である。

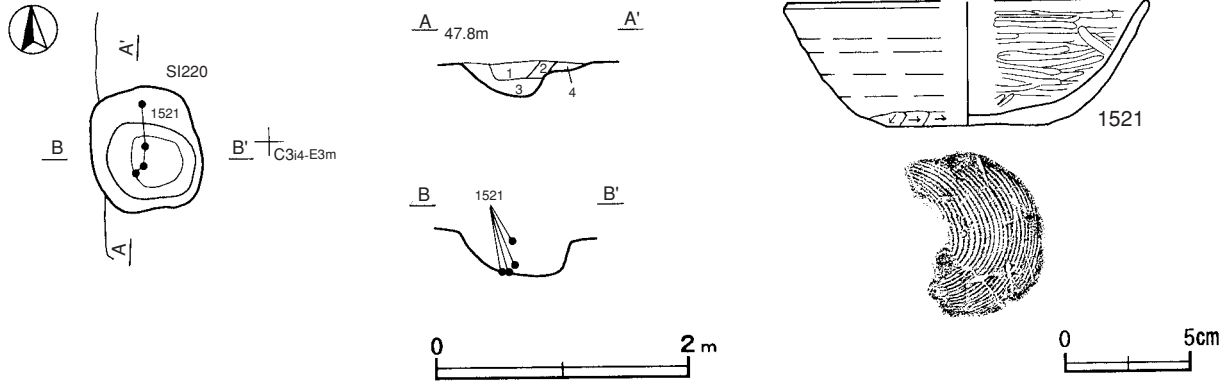
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片32点（坏23, 高台付椀1, 甕5, 甑3）が出土している。1521は覆土上層から底面にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、重複関係と出土土器から11世紀代と考えられる。性格は不明である。



第201図 第2604号土坑・出土遺物実測図

第2604号土坑出土遺物観察表（第201図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-----|-----|-----|------|----|----------------------|-------|------------|
| 1521 | 土師器 | 坏 | [14.0] | 5.0 | 6.2 | 白雲母 | にぶい褐 | 良好 | 底部回転糸切り, 体部下端手持ちヘラ削り | 上層～底面 | 60%, PL110 |

第2655号土坑（第202・203図）

位置 調査区西部1区のC3i2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2657号土坑を掘り込んでいる。また、第235号住居跡とも重複しているが、住居の覆土が確認できなかったため不明である。

規模と形状 長軸2.18m, 短軸1.38mの隅丸長方形で、主軸方向はN-72°-Wである。深さは22~50cmで、外傾して立ち上がっている。底面は二段に掘り込まれている。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

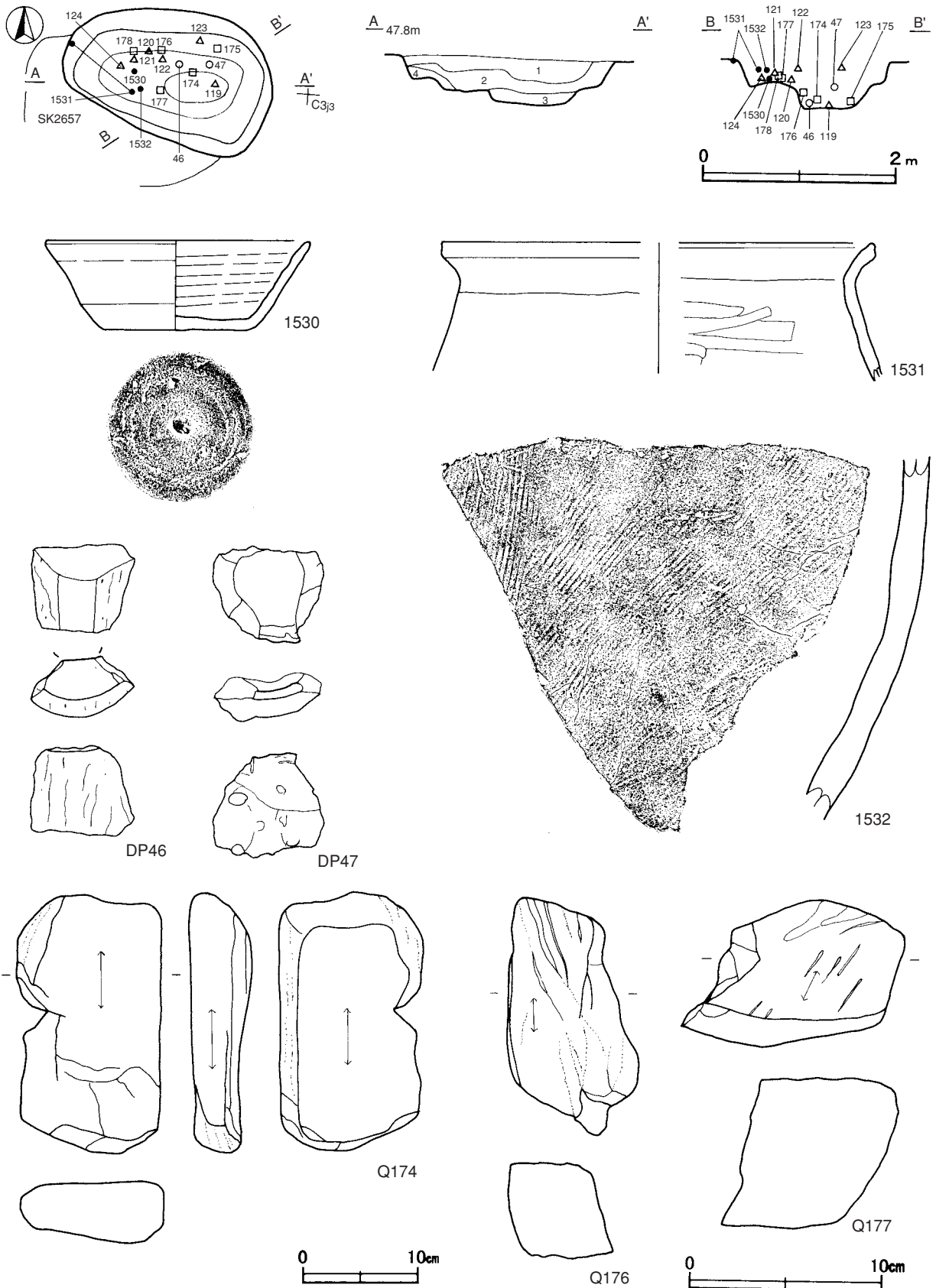
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片167点（坏16, 甕151）, 須恵器片17点（坏12, 蓋3, 甕2）, 土製品片27点（支脚4, 羽口23）, 石器4点（砥石）, 炉壁片36点, 鉄滓225点（椀状滓9, 流動滓15, 破砕面のある鉄滓201）, 火熱痕のある礫10点が出土している。人工的に小割りされたと思われる鋭利な破砕面を有する鉄滓は、覆土上層から底面にかけて出土している。出土した鉄滓の総重量は9766.6gになる。スサが混ぜられた炉壁片は覆土上層から覆土下層にかけて出土している。1530~1532・M121~M123は覆土上層, DP46・DP47・Q174~Q178・M119・M120・M124は覆土下層からそれぞれ出土している。

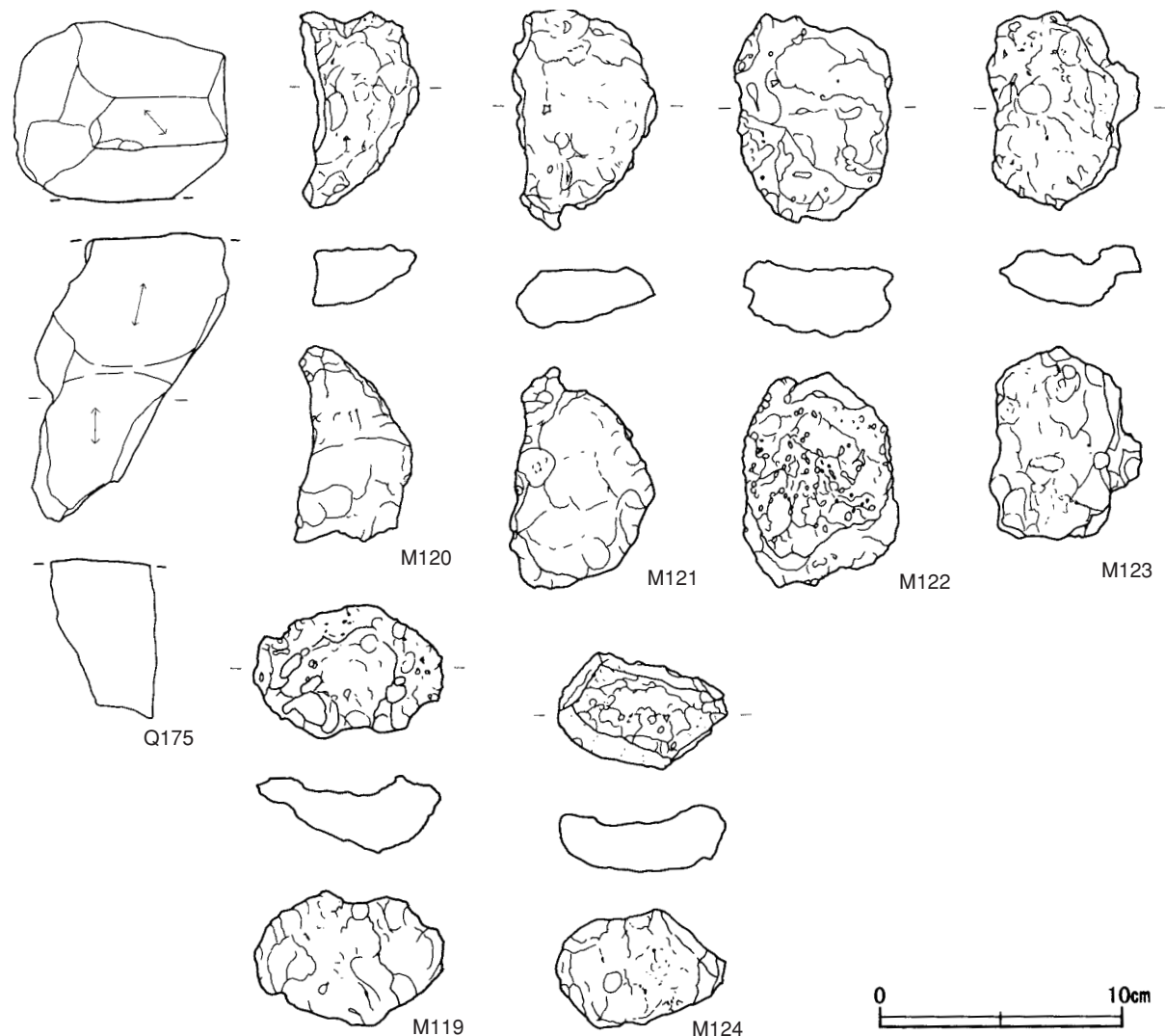
所見 鉄滓をはじめ、炉壁片や羽口片, 火熱痕のある礫片, 砥石, 土師器片, 須恵器片などが出土し、意図的に投げ込んだものと考えられる。流動滓, 炉壁片などは精錬（製鉄）の操業に伴うものであり、破砕面を有す

る多量の鉄滓は、除滓のための小割り・選別によるものと考えられる。精錬遺跡には、製鉄炉の他に小割り・選別をする作業場を伴うことが多く、本土坑も製鉄に関わる廃滓土坑（鉄滓を廃棄するために掘られた土坑）



第202図 第2655号土坑・出土遺物実測図

と考えられる。本土坑の近くに製鉄炉があったものと想定されるが、確認されていない。時期は、9世紀中葉と考えられる第2657号土坑を掘り込んではいるが、出土土器に時期差がないことから、9世紀中葉と考えられる。



第203図 第2655号土坑出土遺物実測図

第2655号土坑出土遺物観察表 (第202・203図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|--------|-----|-----------|----|----|--------------|------|----------------|
| 1530 | 須恵器 | 坏 | 13.6 | 4.7 | 7.4 | 長石 | 灰 | 普通 | 底部回転ヘラ切り後、ナデ | 下層 | 65%、堀の内窯、PL110 |
| 1531 | 土師器 | 甕 | [22.2] | (7.1) | — | 石英・長石・白雲母 | 赤褐 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | 上層 | 5% |
| 1532 | 須恵器 | 甕 | — | (19.1) | — | 石英・長石・白雲母 | 灰 | 普通 | 体部外面斜位の平行叩き | 上層 | 10%、新治窯 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|--------|-------|----------|----|----------------------------|------|----|
| DP46 | 羽口 | (4.6) | (5.3) | (3.1) | (51.8) | 粘土 | 内面火熱により若干赤変、外面ナデ調整 | 下層 | |
| DP47 | 羽口 | (5.0) | (5.8) | (2.6) | (45.7) | 粘土 | 外面火熱で溶解され、溶着滓が付着、内面火熱により赤変 | 下層 | |
| Q174 | 砥石 | (22.5) | (12.5) | 5.3 | (1690.0) | 砂岩 | 砥面3面、断面長方形 | 下層 | |
| Q175 | 砥石 | (12.0) | (8.8) | (6.6) | (600.0) | 砂岩 | 砥面2面、斜めの砥面あり | 下層 | |
| Q176 | 砥石 | 12.5 | 6.8 | 4.9 | 520.0 | 砂岩 | 砥面1面、溝状の擦痕あり、一部火熱痕 | 下層 | |
| Q177 | 砥石 | 7.8 | (11.6) | 7.8 | (890.0) | 砂岩 | 砥面1面、溝状の擦痕あり | 下層 | |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|-----|-------|----|---------------------------|------|----|
| M119 | 椀状滓 | 5.6 | 7.7 | 3.2 | 111.7 | 鉄 | 断面椀形・着磁性なし、表面暗褐色 | 下層 | |
| M120 | 椀状滓 | 8.2 | 4.8 | 2.6 | 127.0 | 鉄 | 断面椀形、着磁性なし、表面黒褐色、底面炉壁付着 | 下層 | |
| M121 | 椀状滓 | 9.1 | 6.0 | 2.6 | 151.4 | 鉄 | 断面椀形、着磁性なし、表面錆で赤褐色、底面炉壁付着 | 上層 | |
| M122 | 椀状滓 | 8.6 | 6.4 | 2.8 | 235.0 | 鉄 | 断面椀形、着磁性なし、表面錆で赤褐色、底面炉壁付着 | 上層 | |
| M123 | 椀状滓 | 8.1 | 6.2 | 2.5 | 115.5 | 鉄 | 断面椀形、着磁性なし、表面錆で赤褐色、底面炉壁付着 | 上層 | |
| M124 | 椀状滓 | 4.8 | 7.0 | 2.4 | 109.8 | 鉄 | 断面椀形、着磁性なし、表面黒褐色、底面炉壁付着 | 下層 | |

第2657号土坑（第204図）

位置 調査区西部1区のC3j2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第231号住居跡を掘り込み、第2655号土坑に掘り込まれている。また、第235号住居跡とも重複しているが、住居の覆土が確認できなかったため不明である、

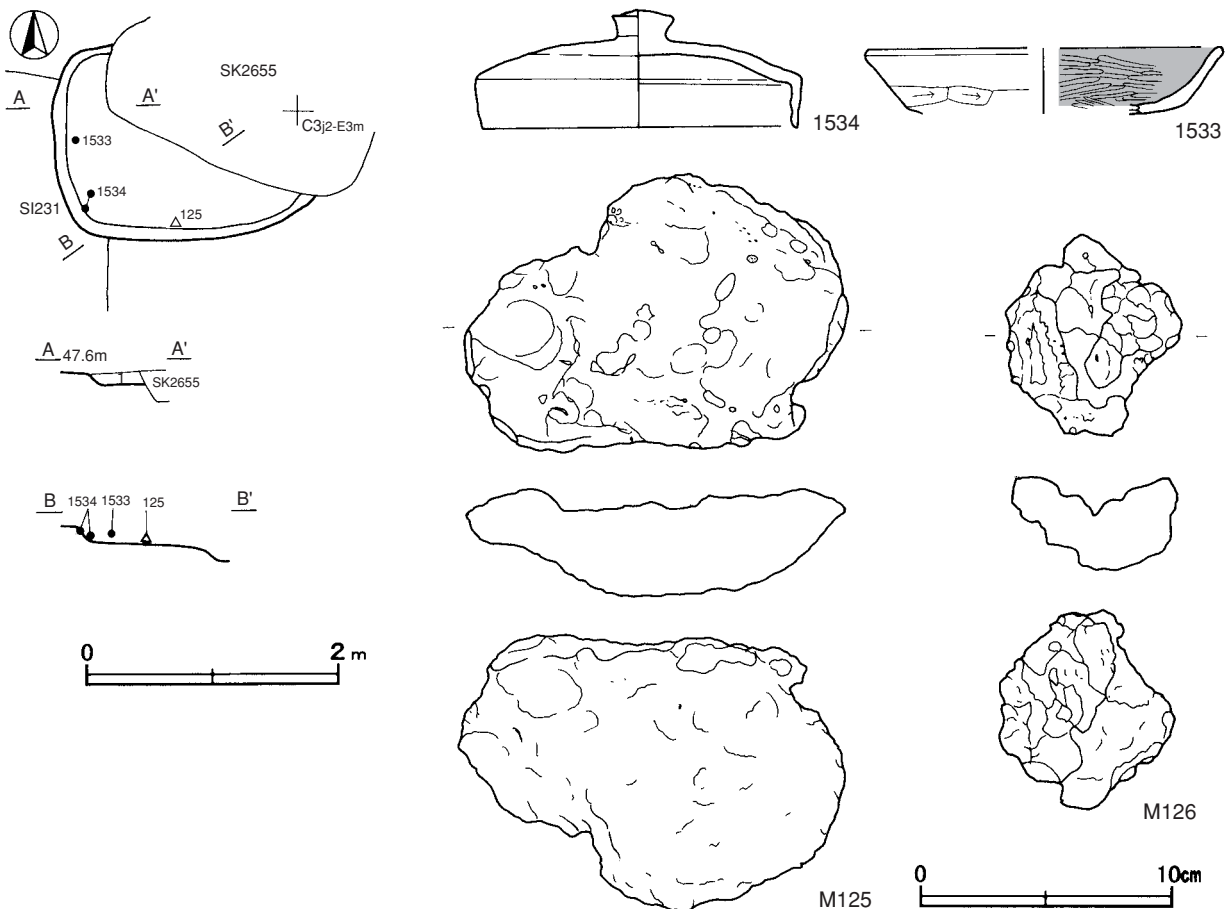
規模と形状 土坑に掘り込まれているため、南北軸は1.51mで、東西軸は1.88mだけが確認された。主軸方向をN-89°-Wとする隅丸長方形と推測される。深さは11cmで、外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 単一層である。堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片6点（坏4，甕2），須恵器片3点（坏1，蓋2），土製品片1点（支脚），鉄滓13点



第204図 第2657号土坑・出土遺物実測図

(破砕面のある鉄滓)が出土している。鉄滓は、小鉄滓が大部分を占め、覆土上層から底面にかけて出土している。出土した鉄滓の総重量は214.2gである。1533・1534・M125は覆土下層から出土している。

所見 第2655号土坑に規模や形状が酷似し、鉄滓も出土していることから廃滓土坑と考えられる。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2657号土坑出土遺物観察表 (第204図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|--------|-----|-------|------|----|----|-------------|------|-------------------------|
| 1533 | 土師器 | 坏 | [13.8] | 3.0 | [8.6] | 白色粒子 | 褐 | 普通 | 体部下端手持ちヘラ削り | 下層 | 10% |
| 1534 | 須恵器 | 蓋 | 12.4 | 4.7 | — | 長石 | 黄灰 | 普通 | 天井部ロクロナデ | 下層 | 50%、堀の内窯、天井部自然袖付着、PL110 |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|------|------|-----|-------|----|------------------------------|------|-------|
| M125 | 椀状滓 | 11.0 | 15.1 | 4.2 | 876.0 | 鉄 | 断面椀形、着磁性、表面に若干錆、内面黒褐色、底面炉壁付着 | 下層 | PL121 |
| M126 | 鉄滓 | 7.9 | 7.0 | 3.1 | 253.0 | 鉄 | 着磁性なし、表面錆で赤褐色、表面やや流動状 | 覆土中 | |

第2658号土坑 (第205図)

位置 調査区西部1区のC3i2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 ピット(2か所)に掘り込まれている。第235号住居跡とも重複しているが、住居の覆土が確認できなかったため、重複関係は不明である。

規模と形状 長径0.88m、短径0.84mのほぼ円形で、主軸方向はN-0°である。深さは12cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

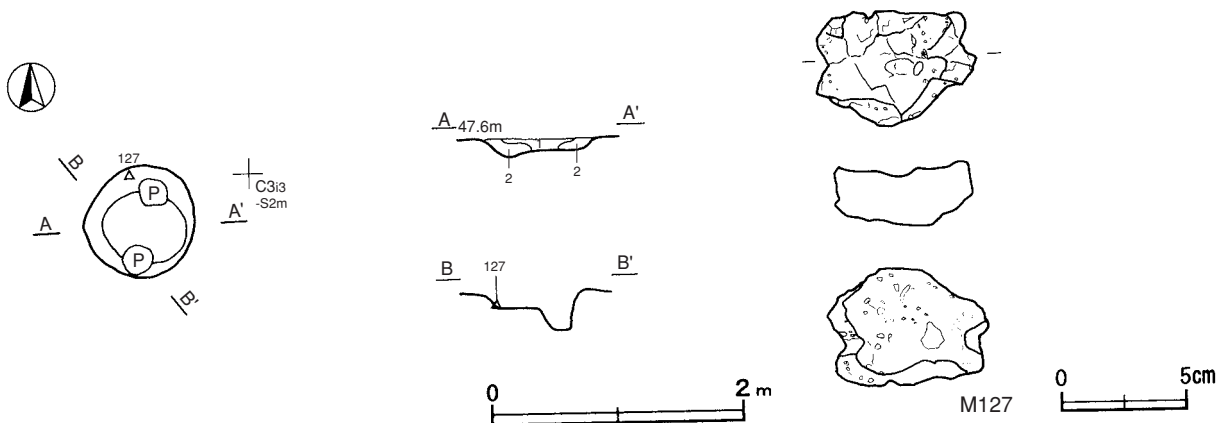
土層解説

1 黒色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片6点(坏4、甕2)、須恵器片3点(坏1、蓋2)、土製品1点(支脚)、石器3点、鉄滓22点(破砕面のある鉄滓)が出土している。鉄滓は、小鉄滓が大部分を占め、覆土上層から底面にかけて出土している。出土した鉄滓の総重量は284.6gである。M127は覆土下層から出土している。

所見 第2655号土坑と隣接し、鉄滓が出土していることから、廃滓土坑と考えられる。時期は、出土土器が細片で明確に時期はとらえられないが、第2655・2657号土坑の年代観から9世紀中葉と考えられる。



第205図 第2658号土坑・出土遺物実測図

第2658号土坑出土遺物観察表（第205図）

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|------|----|-----|-----|-----|------|----|-------------------------|------|-----|
| M127 | 鉄滓 | 4.6 | 6.4 | 2.4 | 91.0 | 鉄 | 着磁性なし，表面錆で赤褐色，表面空気排出孔多し | 下層 | |

第2659号土坑（第206図）

位置 調査区西部1区のC3j4区で，台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 径0.60mの円形である。深さは21cmで，外傾して立ち上がっている。底面は皿状である。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

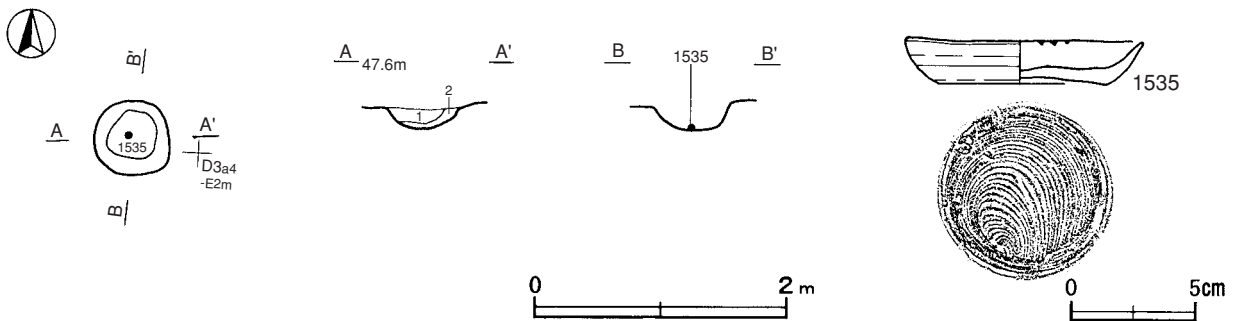
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片7点（小皿2，甕5）が出土している。1535は底面から出土し，油煙が付着していることから，灯明皿に転用されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から10世紀後葉と考えられる。性格は不明である。



第206図 第2659号土坑・出土遺物実測図

第2659号土坑出土遺物観察表（第206図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|----|-----|-----|-----|--------|-------|----|---------|------|------------------|
| 1535 | 土師器 | 小皿 | 9.4 | 1.7 | 6.7 | 長石・白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転糸切り | 底面 | 90%口縁部油煙付着，PL111 |

表11 平安時代土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規 模 | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|------|------|---------|---------|----------------|--------|----|----|----|-------------------|------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸)(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| 2253 | C2e1 | N-6°-W | 隅丸長方形 | 2.36 × 0.88 | 20 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器 | 10世紀前葉 |
| 2604 | C3i4 | N-10°-W | 不整楕円形 | 1.00 × 0.89 | 33 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器 | 11世紀 |
| 2655 | C3i2 | N-72°-W | 隅丸長方形 | 2.18 × 1.38 | 22~50 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師器，須恵器，羽口，砥石，椀状滓 | 9世紀中葉，廃滓土坑 |
| 2657 | C3j2 | N-89°-W | [隅丸長方形] | (1.88) × 1.51 | 11 | 外傾 | 平坦 | 不明 | 土師器，須恵器，椀状滓，鉄滓 | 9世紀中葉，廃滓土坑 |
| 2658 | C3i2 | N-0° | 円形 | 0.88 × 0.84 | 12 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 鉄滓 | 9世紀中葉，廃滓土坑 |
| 2659 | C3j4 | N-0° | 円形 | 0.60 × 0.60 | 21 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器 | 10世紀後葉 |

5 中・近世の遺構と遺物

掘立柱建物跡13棟，方形竪穴遺構16基，地下式坑1基，火葬土坑5基，土壇墓5基，井戸跡11基，土坑19基，土坑群1か所，溝跡12条，道路跡1条，不明遺構1基を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡（第207・208図）

位置 調査区中央部5区のE7c0～E8e3区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第5号掘立柱建物跡，第3185号土坑，第28号ピット群を掘り込み，第3576号土坑に掘り込まれている。第6・7・8号掘立柱建物跡とも重複しているが，柱穴の切り合いがないため新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間，梁行2間の側柱建物跡で，南側に廂を持っている。桁行方向をN-83°-Wとする東西棟である。身舎は桁行9.8m，梁行4.8～5.2mで，面積は49.0m²である。柱間寸法は桁行1.6～2.9m，梁間2.4～2.8mで，桁行の西側の柱間寸法が狭い。繫梁間は2.6mである。北桁及び廂の中央に推測される柱穴は確認できなかった。また，北桁は柱筋と間尺が揃わない構造である。

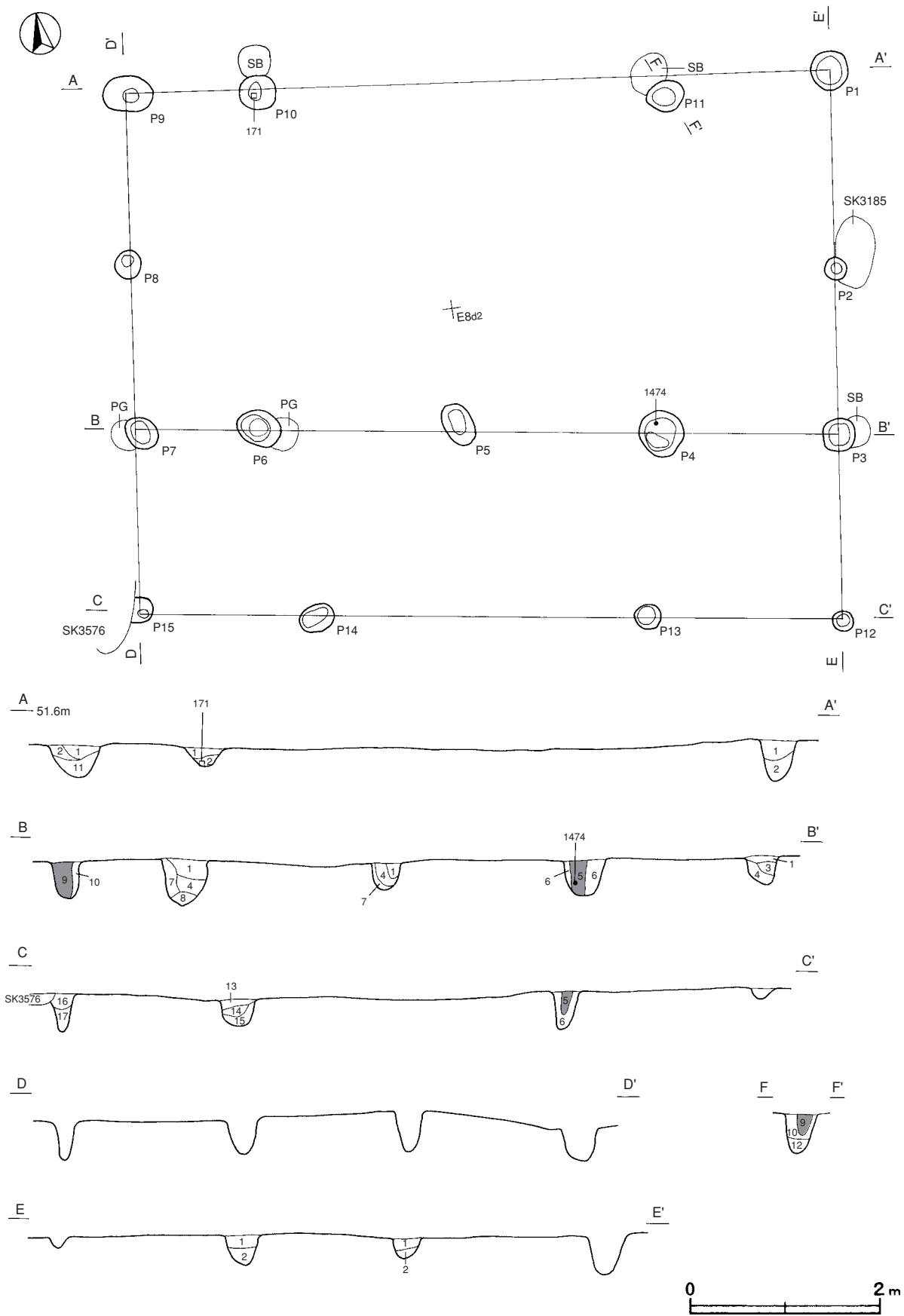
柱穴 15か所。長径30～72cm，短径30～65cmの円形もしくは楕円形，あるいは隅丸長方形で，深さは15～65cmである。柱痕はP4・P7・P11・P13で確認でき，第5・9層が相当する。第6・10・12層は掘り方の埋土であり，第6層は締まりが強い。

土層解説

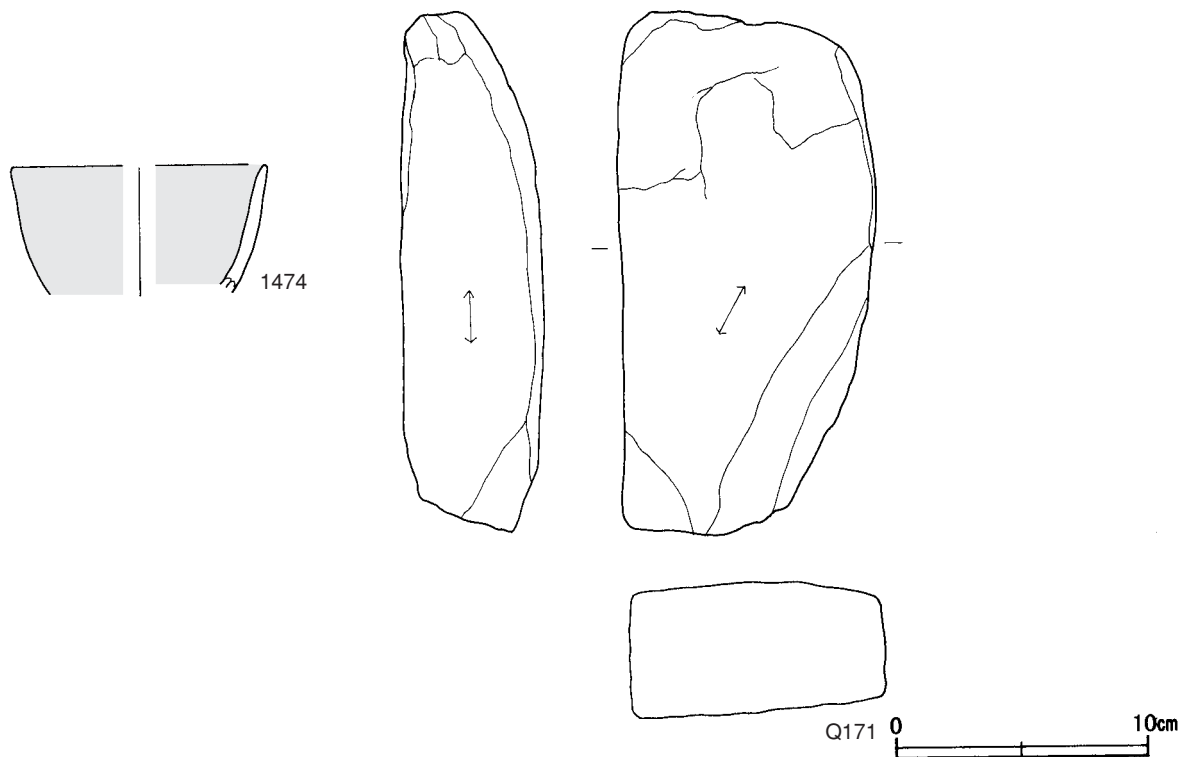
| | | | |
|--------|---------------------------|--------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミス中量，炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス微量 |
| 2 極暗褐色 | 鹿沼パミスブロック・ローム粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミス少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量，炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 鹿沼パミス少量，ロームブロック微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量，鹿沼パミスブロック少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量 | 13 暗褐色 | 鹿沼パミス多量，炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量，炭化物微量 | 14 暗褐色 | 鹿沼パミス多量，ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミス中量 | 15 褐色 | 鹿沼パミス中量 |
| 8 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック少量，炭化物微量 | 16 灰褐色 | 鹿沼パミス多量，ロームブロック中量 |
| | | 17 暗褐色 | 鹿沼パミス中量，ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点（小皿1，内耳鍋2），瓦質土器片1点（甕），陶器片2点（尾呂碗），石器1点（砥石）が出土している。1474はP4の柱痕の下層から出土している。Q171は砥石でP10の底面から出土し，根石として利用されていたと考えられる。

所見 身舎の面積が49.0m²であり，当遺跡では大きな建物跡であるが，近世の建物跡としては規模が大きいわけではなく，周囲の状況から副屋的な機能を果たしていたと考えられる。また，本跡は掘り込んでいる第5号掘立柱建物跡とP4～P6が共有し，P3・P10・P11が重複し，P1・P2が近接していることから，第5号掘立柱建物を建て替えたものと考えられる。さらに，廃絶時期がほぼ同時期である第21・23・64・65号溝に区画された内側にあることから，溝も一体であったと考えられる。廃絶時期は，出土した陶器の生産年代が17世紀後葉から18世紀初頭に位置づけられていることから，17世紀後葉から18世紀初頭と考えられる。



第207图 第4号掘立柱建物迹实测图



第208図 第4号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第208図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 絵付・施釉 | 手法の特徴 | 産地・年代 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|--------|-------|----|------|-------|------------------|-------------------------|---------|-----|
| 1474 | 陶器 | 飴釉尾呂碗 | [10.0] | (5.0) | — | 褐・浅黄 | 飴釉 | 口縁部ほぼ直立，体部内・外面施釉 | 瀬戸産，連房登窯Ⅲa期 (1670~1710) | P4 柱痕下層 | 20% |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|------|-----|-----|--------|----|------------|-------|-------|
| Q171 | 砥石 | 20.7 | 9.9 | 5.1 | 1870.0 | 泥岩 | 砥面2面，断面長方形 | P10底面 | PL120 |

第5号掘立柱建物跡 (第209・210図)

位置 調査区中央部5区のE 8 c1~E 8 d3区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3185号土坑，第28号ピット群を掘り込み，第4号掘立柱建物，第3524・3525号土坑，第28号ピット群に掘り込まれている。第6・7・8号掘立柱建物跡とも重複しているが，柱穴の切り合いがないため新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，南側に廂を持っている。桁行方向をN-85°-Wとする東西棟である。身舎は桁行8.6m，梁行5.0~5.2mで，面積は43.9㎡ある。柱間寸法は，桁行2.7~3.0m，梁間2.2~3.1mで，梁行の柱穴がやや不揃いである。繫梁間は1.2~1.5mである。南桁にあるP4~P6は建て替えられた第4号掘立柱建物跡でも柱穴として利用されている。また，廂の西側の柱穴は土坑に掘り込まれ，廂の中間の西側に推測される1か所の柱穴も確認できなかった。

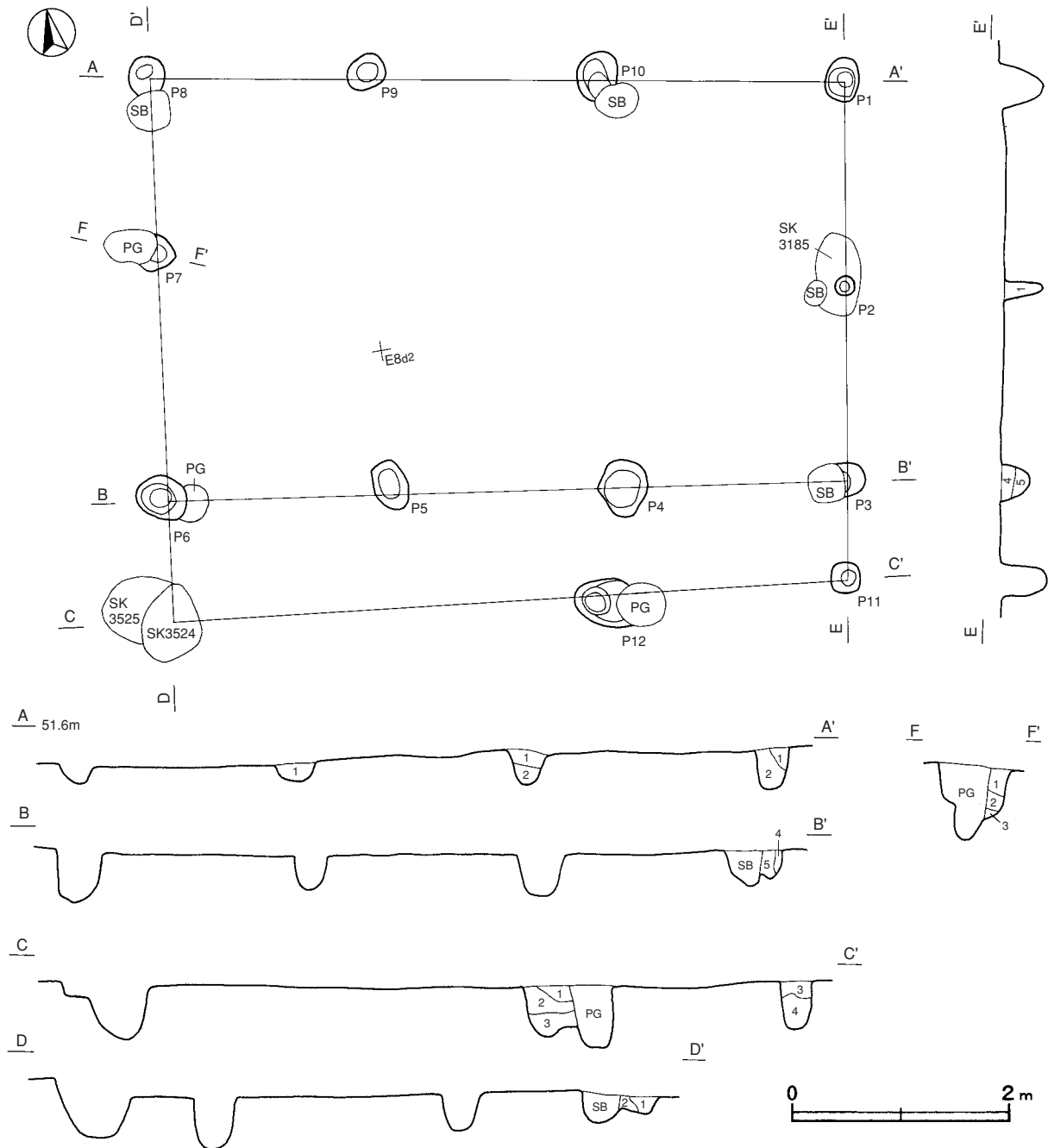
柱穴 12か所。長径28~70cm，短径25~60cmの円形もしくは楕円形，あるいは隅丸長方形で，深さは20~64cmである。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

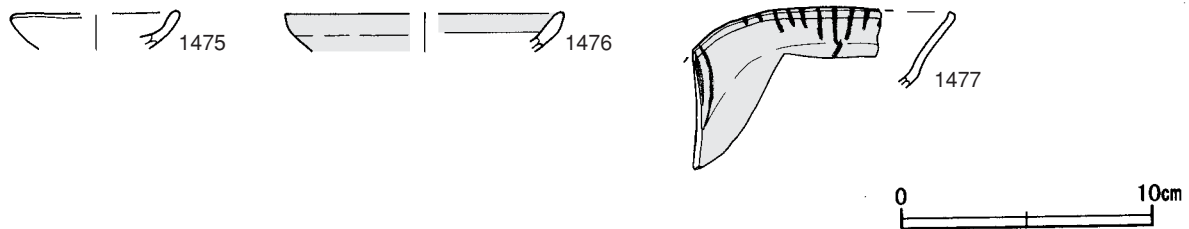
- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量 | 4 褐色 | 鹿沼バミス中量, ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック多量・鹿沼バミスブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿, 内耳鍋), 陶器片3点(碗, 小皿, 四方鉢)が出土している。1475はP3, 1476はP9, 1477はP10の埋土からそれぞれ出土し, 廃絶後に混入したものと考えられる。

所見 身舎の面積が43.9m²であり, 当遺跡では第4号掘立柱建物跡に次ぐ規模であるが, 近世では大きな規模ではなく, 周囲の状況からも副屋的な機能を果たしていたと考えられる。また, 本跡は, 廃絶時期がほぼ同時期である第62号溝の北側14mの位置することから, 溝も一体であったと考えられる。廃絶時期は, 出土した陶器の生産年代が17世紀前半に位置づけられていることから, 17世紀前半と考えられる。



第209図 第5号掘立柱建物跡実測図



第210図 第5号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第210図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----------|--------|-------|----|----------|--------|---------------|----------------|---------|-------------|
| 1475 | 土師質土器 | 小皿 | [6.6] | (1.4) | — | 白雲母・赤色粒子 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ | P 3 埋土 | 20% |
| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 絵付・施釉 | 手法の特徴 | 産地・年代 | 出土位置 | 備考 |
| 1476 | 陶器 | 緑釉小皿 | [11.0] | (1.5) | — | 浅黄・橙 | 口縁部灰釉 | 体部内面下端無釉 | 瀬戸産，後期（15世紀後半） | P 9 埋土 | 5% |
| 1477 | 陶器 | 絵唐津木賊文四方鉢 | — | (3.1) | — | 褐灰・にぶい赤褐 | 鉄絵・長石釉 | 口縁部外反り，口縁部木賊文 | 唐津産，17世紀前半 | P 10 埋土 | 5% PL124 |

第6号掘立柱建物跡（第211図）

位置 調査区中央部5区のE 7 c0～E 8 d1区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第28号ピット群を掘り込み，第7号掘立柱建物に掘り込まれている。第4・5号掘立柱建物跡と重複しているが，柱穴の切り合いがないため新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡であり，桁行方向をN-82°-Wとする東西棟である。桁行は5.4m，梁行は2.6～2.8mであり，面積は14.6㎡である。柱間寸法は，桁行2.7m，梁間1.2～1.5mである。南側桁行の中間に推測される柱穴は確認できなかった。

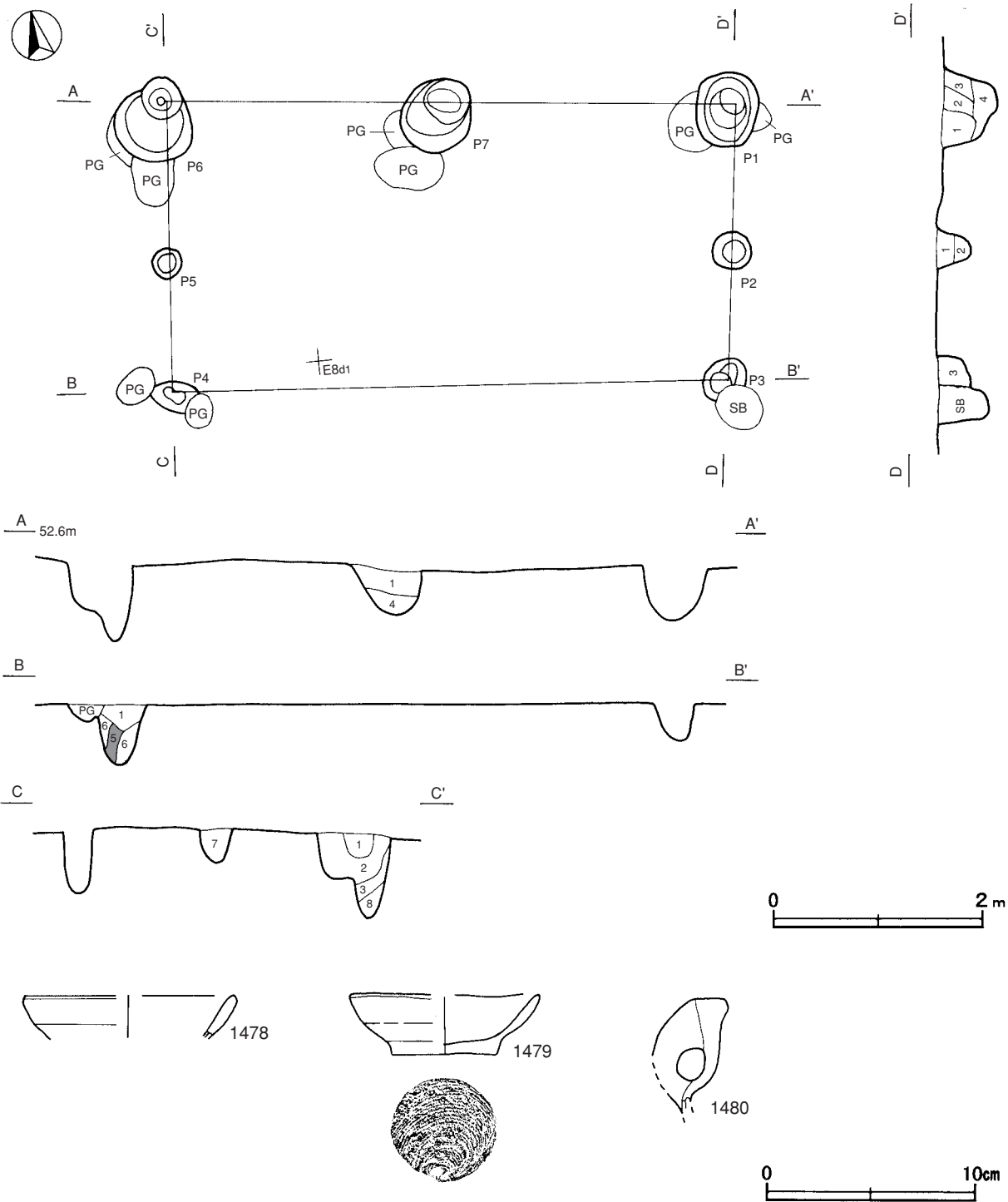
柱穴 7か所。長径28～78cm，短径26～72cmの円形もしくは楕円形で，深さは30～75cmである。柱痕はP 4で確認でき，第5層が相当する。第6層は掘り方の埋土であり，突き固められている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，鹿沼バミスブロック微量 | 5 黒褐色 | 鹿沼バミス・ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量，鹿沼バミスブロック微量 | 6 褐色 | 鹿沼バミスブロック中量，ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 鹿沼バミスブロック少量，ローム粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス微量 | 8 褐色 | 鹿沼バミスブロック中量，ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片6点（小皿4，内耳鍋2）が出土している。1478・1479・1480はP 7の埋土から出土しており，廃絶後に混入したものと考えられる。

所見 廃絶時期は，出土土器から17世紀前半と考えられる。重複している第5号掘立柱建物と廃絶時期が同じであり，柱穴の切り合いがないため，新旧関係は不明である。第5号掘立柱建物は18世紀前葉に廃絶した第4号掘立柱建物に建て替えたと考えられることから，本跡は第5号掘立柱建物より古いと推測できる。



第211図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

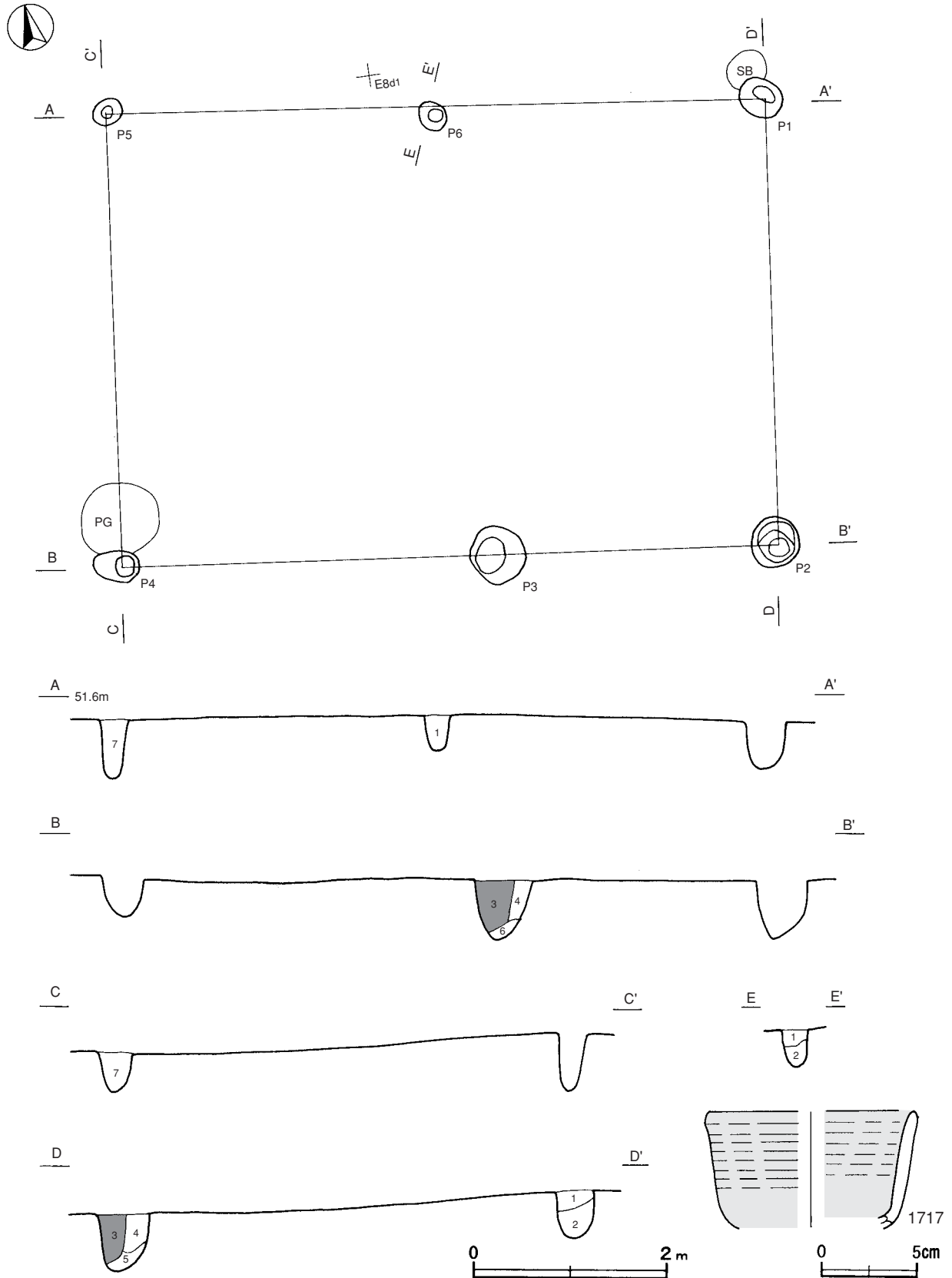
第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第211図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|-----|---------|------|----|-----------------|--------|-----|
| 1478 | 土師質土器 | 小皿 | [10.0] | (2.0) | — | 石英・白色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ | P 7 埋土 | 10% |
| 1479 | 土師質土器 | 小皿 | [9.0] | 2.8 | 4.8 | 石英・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部内面指ナデ，底部回転糸切り | P 7 埋土 | 40% |
| 1480 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (5.5) | — | 長石・金雲母 | 褐 | 普通 | 耳部破片，耳は円形 | P 7 埋土 | 5% |

第7号掘立柱建物跡 (第212図)

位置 調査区中央部5区のE 7c0~E 8e1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第6号掘立柱建物跡, 第28号ピット群を掘り込んでいる。第4号掘立柱建物跡, 第3239・3524・



第212図 第7号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

3525号土坑とも重複しているが、柱穴の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡であり、桁行方向をN-87°-Wとする東西棟である。桁行は6.8m、梁間は4.7mで、面積は32.0㎡である。柱間寸法は、桁行が3.0~3.8mである。

柱穴 6か所。長径30~60cm、短径25~56cmの円形もしくは楕円形で、深さは39~60cmである。柱痕跡はP2・P3で確認でき、第3層が相当する。第4・5・6層は掘り方の埋土で、第5・6層は突き固められている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | 鹿沼パミスブロック・ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 鹿沼パミス・ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック中量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳鍋）、陶器片1点（鉄釉筒型碗）が出土している。1717はP6の埋土から出土している。

所見 廃絶時期は、出土した陶器の生産年代が17世紀後葉から18世紀初頭に位置づけられることから、17世紀後葉から18世紀初頭と考えられる。重複している第4号掘立柱建物と廃絶時期が同じであり、柱穴の切り合いがないため、新旧関係は不明である。第4号掘立柱建物は17世紀前半に廃絶した第5号掘立柱建物を建て替えたと考えられることから、本跡は第4号掘立柱建物より新しいと推測できる。

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第212図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 絵付・施釉 | 手法の特徴 | 産地・年代 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|--------|-------|----|--------------|-------|----------------|------------------------|-------|-----|
| 1717 | 陶器 | 鉄釉筒型碗 | [10.4] | (6.0) | — | 黒褐・に ぶい黄橙 | 鉄釉 | 体部内・外面施釉、体部は直立 | 瀬戸産、連房登窯Ⅲa期(1670~1710) | P6 埋土 | 20% |

第8号掘立柱建物跡（第213図）

位置 調査区中央部5区のE8d2~E8e3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第4・5号掘立柱建物跡、第28号ピット群と重複しているが、柱穴の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行1間、梁行2間の側柱建物跡であり、桁行方向をN-5°-Eとする東西棟である。桁行は3.6m、梁行は3.0mで、面積は10.8㎡である。梁間の柱間寸法は、1.0mと2.0mを基調としている。また、東桁と西桁の中央に推測される柱穴は確認できなかった。

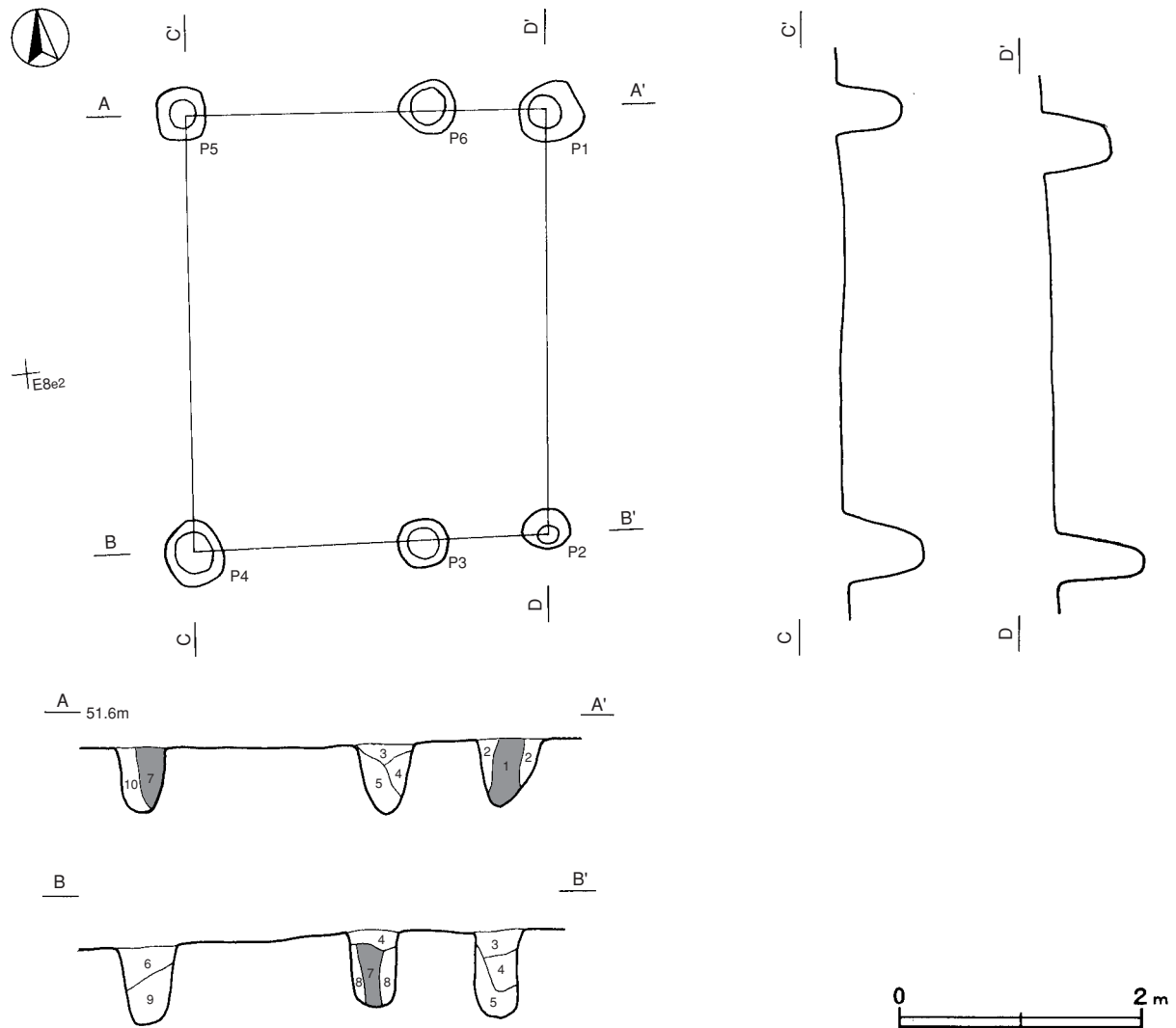
柱穴 6か所。長径40~55cm、短径36~50cmの円形もしくは楕円形、あるいは隅丸長方形で、深さは56~72cmである。柱痕跡はP1・P3・P5で確認でき、第1・7層が相当する。第2・8・10層は掘り方の埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック少量 |
| 2 褐色 | 鹿沼パミスブロック・ローム粒子中量 | 7 極暗褐色 | 鹿沼パミス・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 鹿沼パミス多量、ロームブロック中量 | 8 褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス少量 | 9 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック・ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック少量 | 10 褐色 | 鹿沼パミス多量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点（小皿1、内耳鍋2）がP1・P4から出土しているが、細片である。

所見 時期は、出土土器や柱穴の掘り方の規模などから中世もしくは近世と考えられる。



第213図 第8号掘立柱建物跡実測図

第9号掘立柱建物跡 (第214図)

位置 調査区中央部5区のE7e0～E8g1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3570・3572号土坑，第30号ピット群を掘り込み，第10号掘立柱建物に掘り込まれている。

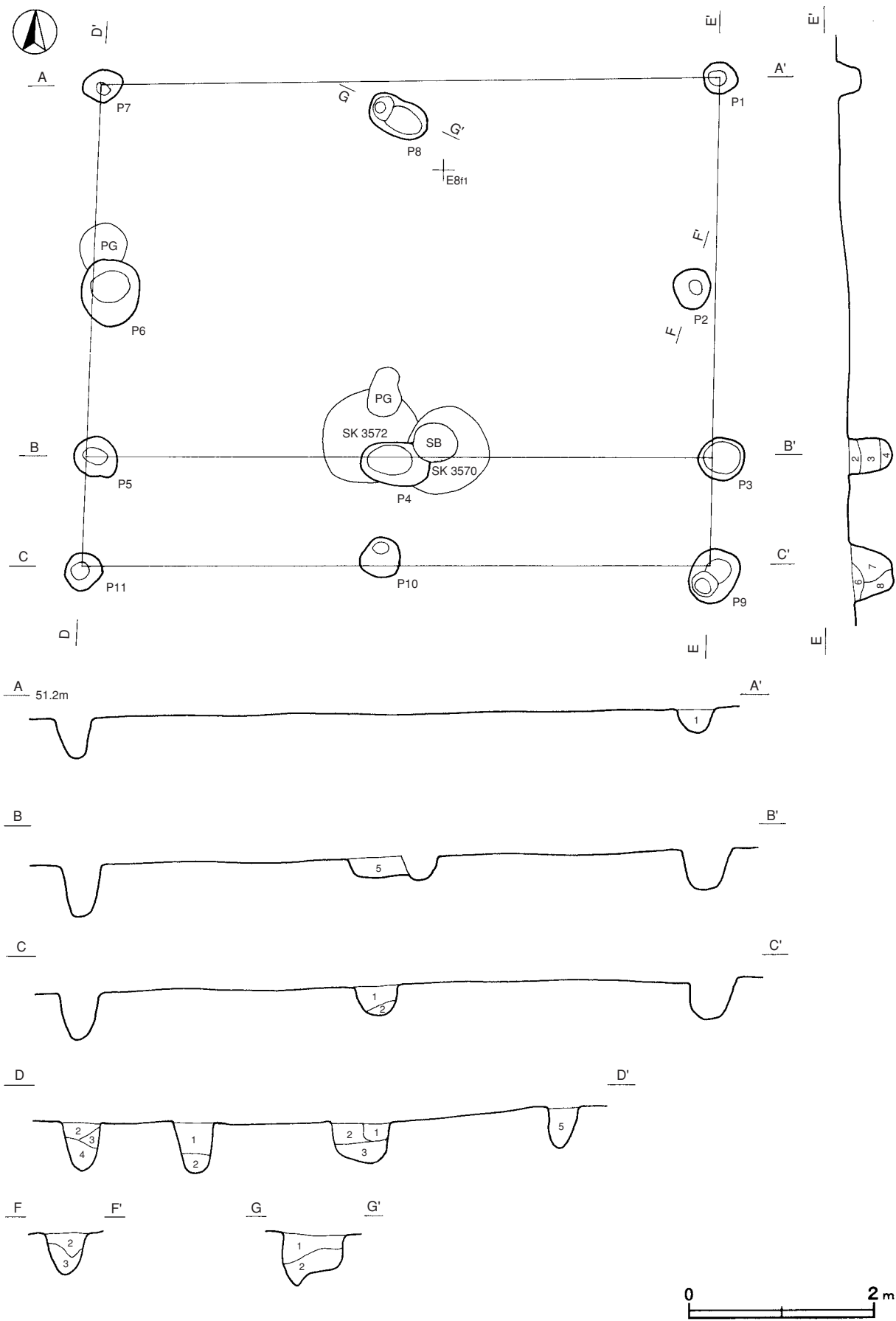
規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，南側に廂を持っている。桁行方向をN-88°-Eとする東西棟である。身舎は桁行6.6～6.7m，梁行4.0～4.2mで，面積は27.3m²である。柱間寸法は，桁行3.0～3.5m，梁間1.8～2.2mであり，繫梁間は1.2～1.3mである。また，柱筋と間尺が揃わない構造である。

柱穴 11か所。長径35～72cm，短径35～65cmの円形もしくは楕円形で，深さは20～55cmである。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 鹿沼パミス多量，ロームブロック少量 | 6 暗褐色 鹿沼パミスブロック少量 |
| 2 黒褐色 鹿沼パミス多量，ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 鹿沼パミスブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック多量，鹿沼パミス中量 | 8 暗褐色 鹿沼パミス多量，ロームブロック少量 |
| 4 褐色 ロームブロック多量 | 9 極暗褐色 鹿沼パミス多量，ロームブロック少量 |
| 5 褐色 鹿沼パミス多量 | |

遺物出土状況 土師質土器片16点（内耳鍋）がP3・P5・P6・P7から出土しているが，細片である。



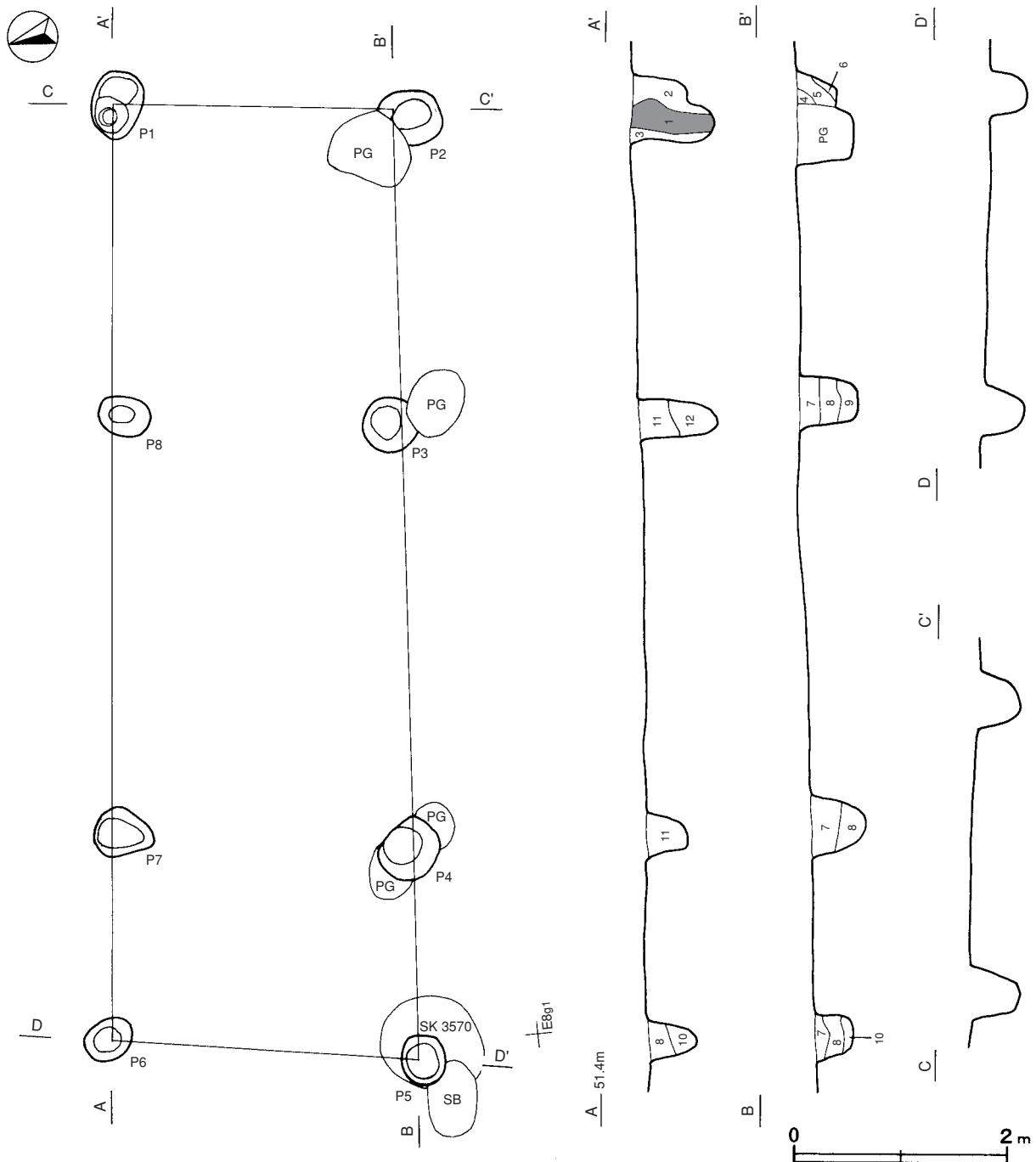
第214图 第9号掘立柱建物跡実測図

所見 第4・5号掘立柱建物と桁行方向と構造が酷似しているため、同じように副屋的な機能を果たしていたものと考えられる。第4号掘立柱建物跡の正面から2.8m、第5号掘立柱建物跡の正面から4mの位置にあり、同時期に機能していたとは考えられない。時期は、17世紀前半に廃絶したと考えられる第10号掘立柱建物に掘り込まれ、第4・5号掘立柱建物と桁行方向と構造が酷似していることから、17世紀初頭と考えられる。

第10号掘立柱建物跡 (第215・216図)

位置 調査区中央部5区のE 8e1～E 8f3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第9号掘立柱建物跡、第3570号土坑、第30号ピット群のP117・P118を掘り込み、第30号ピット群



第215図 第10号掘立柱建物跡実測図

のP99・P101に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡であり、桁行方向をN-87°-Wとする東西棟である。桁行は8.6~8.9m、梁行は2.6~2.8mで、面積は23.9m²である。桁行の柱間寸法は、2.0m、2.9m、3.9mを基調としており、桁行の中間が広い構造である。

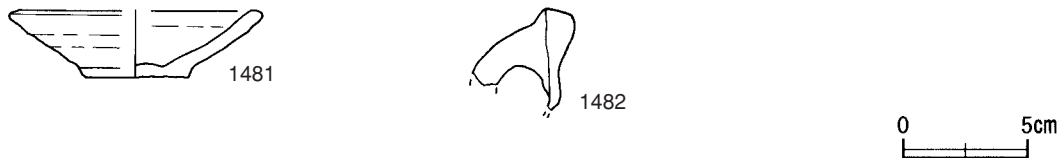
柱穴 8か所。長径48~63cm、短径37~48cmの円形もしくは楕円形で、深さは36~76cmである。柱痕跡はP1で確認でき、第1層が相当する。第2・3層は掘り方の埋土であり、締まりが強い。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 鹿沼パミス・ローム粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミスブロック中量 |
| 2 黒褐色 鹿沼パミス多量、ロームブロック中量 | 8 褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミス少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミス中量 | 9 黄褐色 ロームブロック・鹿沼パミス多量 |
| 4 極暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス中量 | 10 褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミスブロック中量 |
| 5 極暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミス少量 | 11 極暗褐色 鹿沼パミス中量、ロームブロック少量 |
| 6 極暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量 | 12 暗褐色 鹿沼パミス・ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片20点（小皿4，内耳鍋16），瓦質土器片2点（播鉢）が出土している。1481・1482はP8の埋土から出土している。

所見 桁行8.6~8.9m、梁間2.6~2.8mと細長く、桁行の中間が広い構造である。廃絶時期は、出土土器から17世紀前半と考えられる。17世紀前半に廃絶し副屋と考えられる第5号掘立柱建物跡の正面から約5mに位置している。



第216図 第10号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第216図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|-------|-------|-------|-------------|-------|----|----------------|-------|----------|
| 1481 | 土師質土器 | 小皿 | [9.2] | 2.6 | [4.0] | 長石・白雲母・赤色粒子 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転糸切り後、ナデ | P8 埋土 | 20% |
| 1482 | 土師質土器 | 内耳鍋 | - | (4.0) | - | 石英・長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 耳部破片、口縁部内・外面ナデ | P8 埋土 | 5% 外面煤付着 |

第11号掘立柱建物跡（第217図）

位置 調査区西部2区のB2i2~C2a2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第110・112・125・132号住居跡を掘り込んでいる。第2142号土坑とも重複しているが、柱穴の切り合いがないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、西側に廂を持っている。桁行方向をN-6°-Eとする南北棟である。身舎は桁行5.9~6.0m、梁行2.9~3.0mで、面積は17.6m²である。柱間寸法は、桁行が1.8~2.2mである。繫梁間は0.5~1.0mであり、北側が開いている。

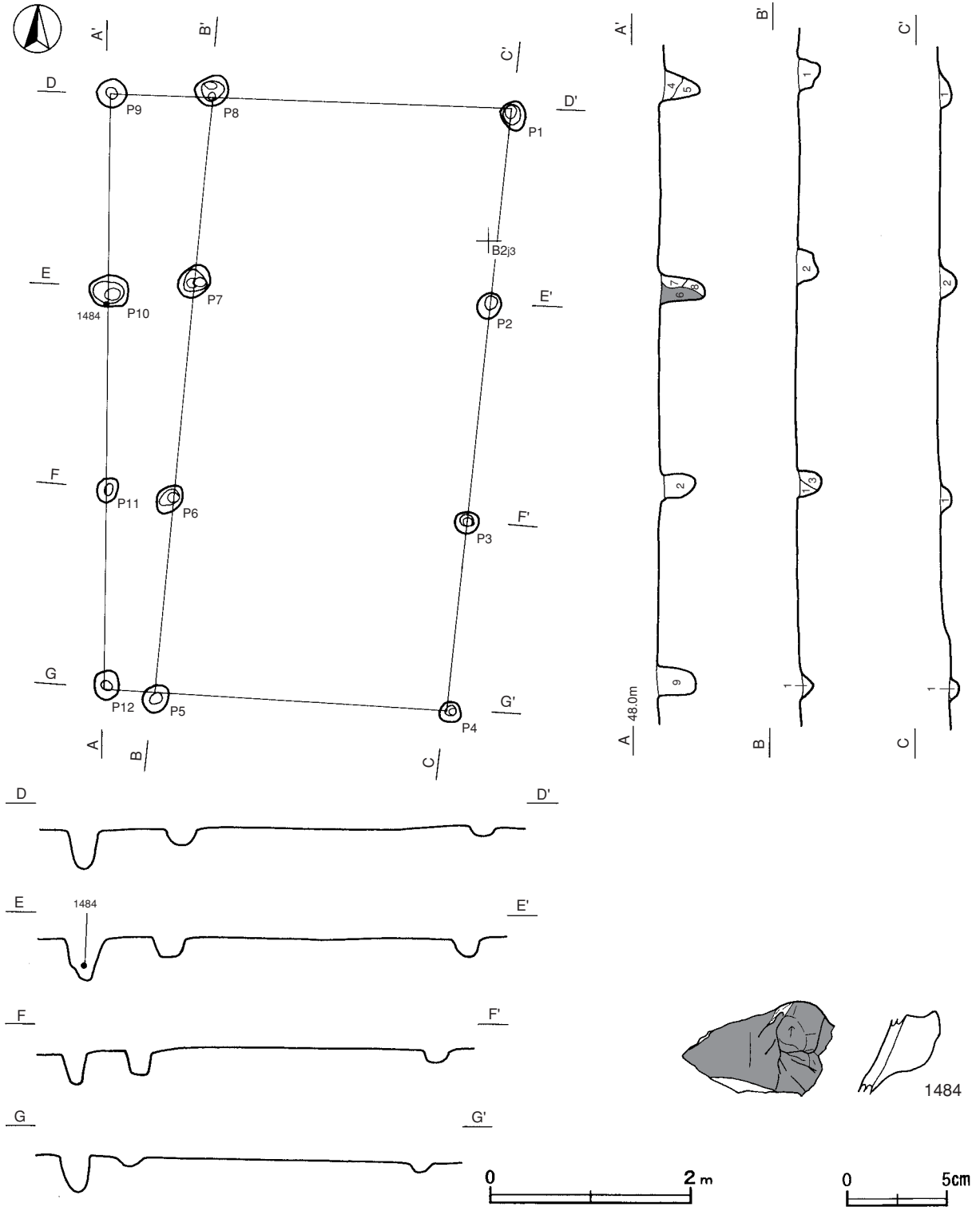
柱穴 12か所。長径23~40cm、短径20~29cmの円形もしくは楕円形で、深さは10~44cmである。柱痕跡はP10で確認でき、第6層が相当する。第7・8層は掘り方の埋土で、突き固められている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒色 | ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片2点(鍋カ)が出土している。1484はP10の柱痕下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器や柱穴の掘り方の規模などから中世もしくは近世と考えられる。



第217図 第11号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第217図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|----|-------|----|-------|----|----|----------------|---------|----|
| 1484 | 土師質土器 | 鍋カ | — | (4.0) | — | 石英・長石 | 褐 | 普通 | 外面取っ手残存、外面ヘラナデ | P10柱痕下層 | 5% |

第14号掘立柱建物跡（第218図）

位置 調査区西部1区のC 3 e5～C 3 g6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第184・187・188号住居跡，第22号方形竪穴遺構，第2385・2420・2464・2529号土坑を掘り込んでいる。第2465号土坑とも重複しているが，柱穴の切り合いがないため，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間，梁行1間の側柱建物跡であり，東側に廂を持っている。桁行方向をN-2°-Eとする南北棟である。身舎は桁行8.1m，梁行3.3mで，面積は26.7m²である。柱間寸法は桁行1.8～2.4m，梁間3.3mであり，繫梁間は1.5～1.6mである。また，柱筋と間尺が揃わない構造である。

柱穴 15か所。長径26～55cm，短径26～50cmの円形もしくは楕円形で，深さは30～70cmである。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片39点（坏21，甕18），須恵器片1点（蓋）がP 5・P 7・P 8から出土しているが，細片で破断面が摩滅していることから，混入したものと考えられる。

所見 時期は，柱穴の掘り方の規模及び柱筋と間尺が揃わない構造などから，中世もしくは近世と考えられる。

第16号掘立柱建物跡（第219図）

位置 調査区中央部5区のE 8 e7～E 8 f8区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第31号掘立柱建物跡，第3015・3018・3059・3115号土坑を掘り込んでいる。第3019号土坑，第21号ピット群とも重複しているが，柱穴の切り合いがないため，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡であり，桁行方向をN-11°-Wとする南北棟である。桁行は4.2m，梁行は4.0～4.1mであり，面積は17.0m²である。北側と南側の梁行には側柱穴があり，主柱穴の柱間寸法は，桁行1.2～2.9m，梁間1.8～2.3mである。また，柱筋と間尺が揃わない構造である。

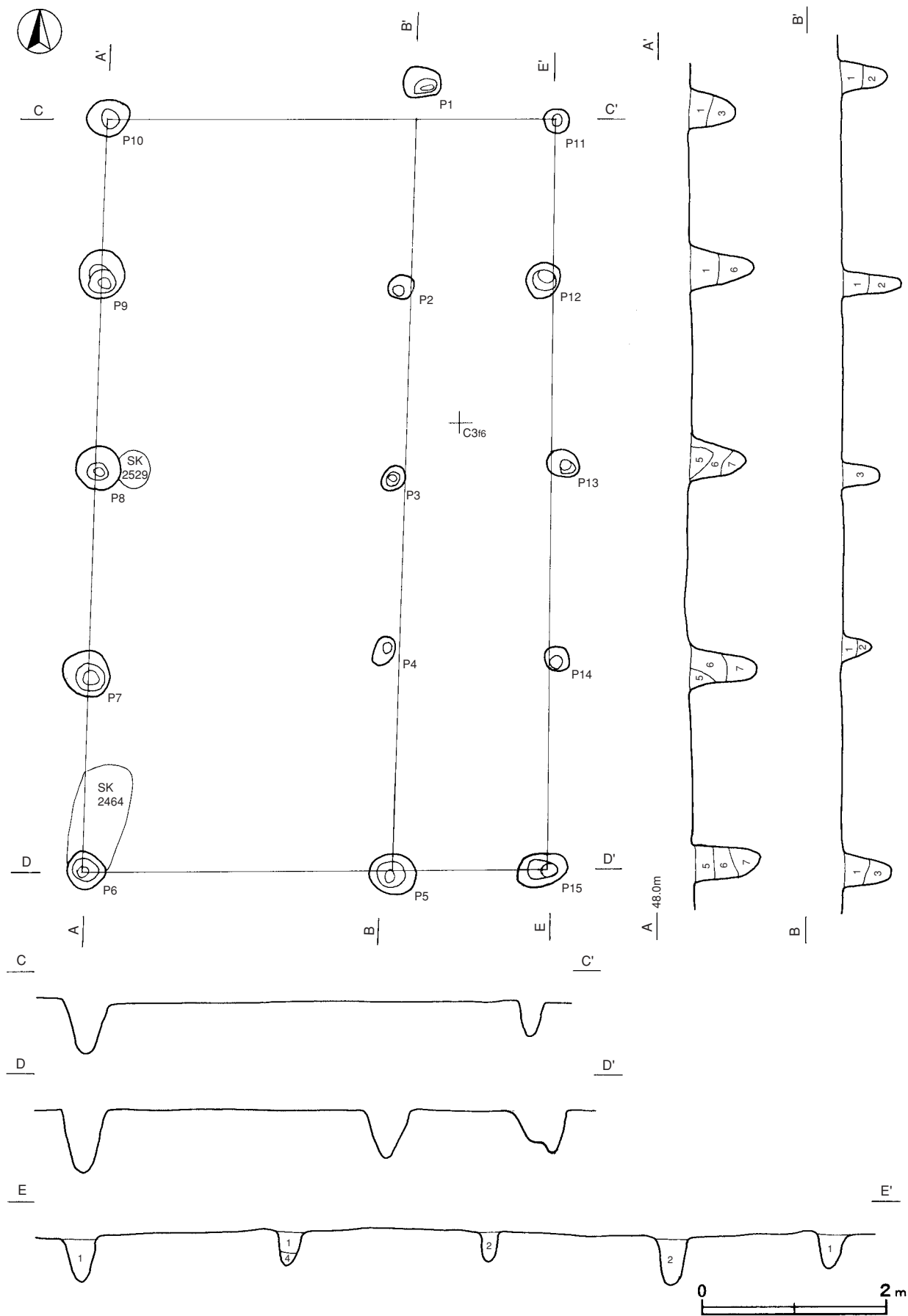
柱穴 12か所。P 1～P 8が主屋柱穴，P 9～P 12が側柱穴と考えられる。主屋柱穴は長径25～55cm，短径22～41cmの円形もしくは楕円形で，深さは13～33cmである。側柱穴は長径20～50cm，短径18～40cmの円形もしくは楕円形で，深さは10～40cmであるが，P 12を除いて主屋柱穴より一回り小さい。柱痕跡はP 2・P 5・P 7・P 12で確認でき，第2層が相当する。第3・5・6層は掘り方の埋土である。

土層解説

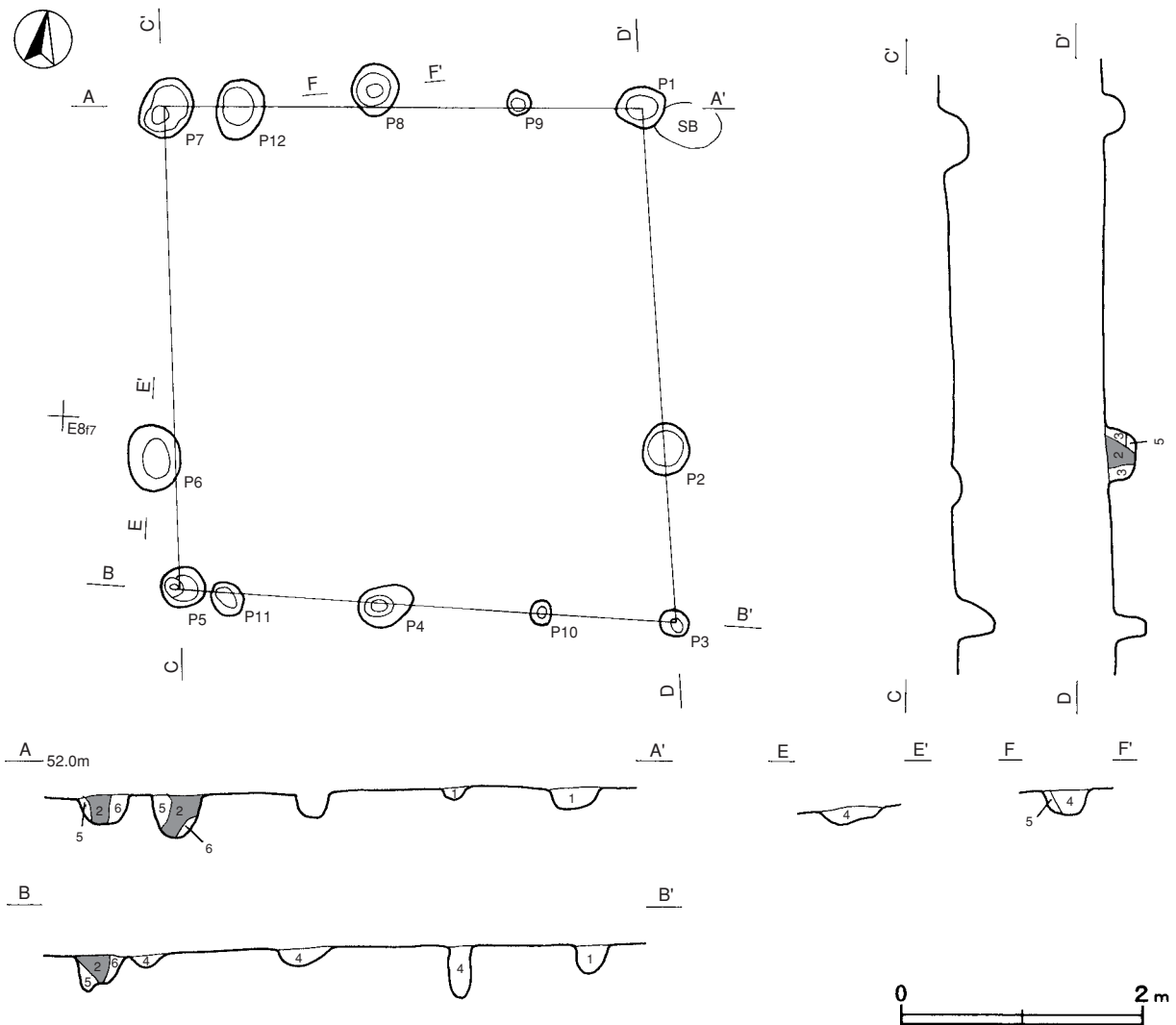
| | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 鹿沼バミス・ローム粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，鹿沼バミス微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量，鹿沼バミスブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点（小皿，内耳鍋，播鉢）がP 2・P 8から出土しているが，すべて細片である。

所見 時期は，柱穴の掘り方の規模や柱筋と間尺が揃わない構造から，中世もしくは近世と考えられる。



第218图 第14号掘立柱建物跡実測図



第219図 第16号掘立柱建物跡実測図

第17号掘立柱建物跡（第220図）

位置 調査区中央部5区のE 7 f8～E 7 h0区，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第30号ピット群と重複しているが，柱穴の切り合いがないため，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡であり，桁行方向をN-11°-Wとする南北棟である。桁行は5.4m，梁行は3.7mであり，面積は20.0㎡である。柱間寸法は，桁行が2.4mと3.1mで，梁間が1.7mと2.2mを基調としている。西側の桁行の中間に推測できる柱穴は確認できなかった。また，柱筋と間尺が揃わない構造である。

柱穴 7か所。長径38～64cm，短径30～48cmの円形もしくは楕円形で，深さは28～60cmである。柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

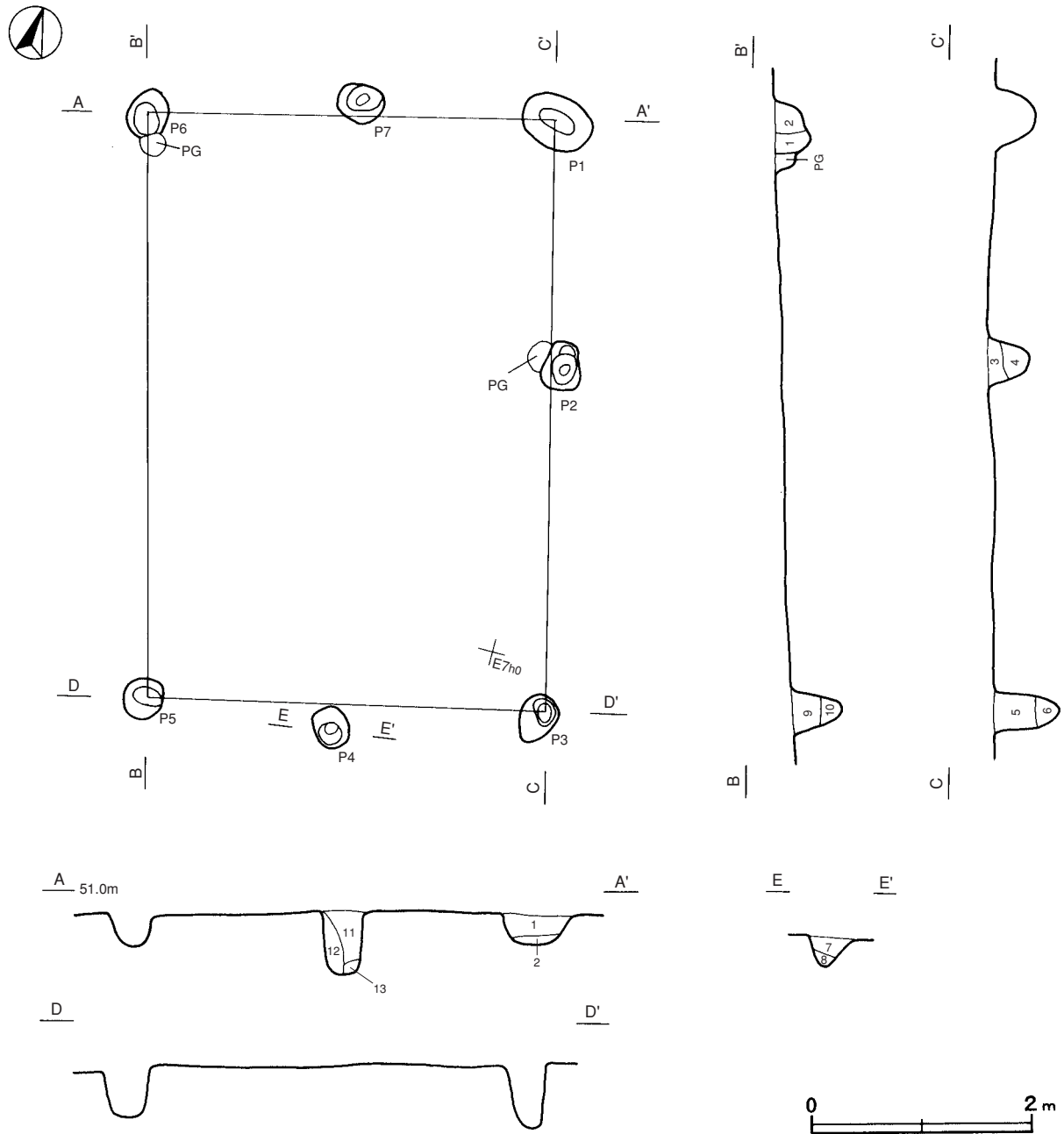
土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 鹿沼パミス中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 ロームブロック多量，鹿沼パミス少量 |
| 2 暗褐色 鹿沼パミス多量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 鹿沼パミスブロック少量 |
| 3 黒褐色 鹿沼パミス中量，炭化粒子微量 | 8 暗褐色 鹿沼パミス多量，ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 鹿沼パミス多量 | 9 暗褐色 鹿沼パミス中量，ロームブロック少量 |
| 5 極暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量 | 10 暗褐色 鹿沼パミスブロック少量，ロームブロック微量 |

- 11 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 炭化物微量 13 黒褐色 ロームブロック中量
 12 褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿, 内耳鍋)がP3から出土しているが, 細片である。

所見 時期は, 柱穴の掘り方の規模や柱筋と間尺が揃わない構造から, 中世もしくは近世と考えられる。



第220図 第17号掘立柱建物跡実測図

第31号掘立柱建物跡 (第221図)

位置 調査区中央部5区のE 8 d7~E 8 f9区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第21号ピット群を掘り込み, 第16号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と構造 東側が調査区域外に延びているため, 桁行は3間で6.6m, 梁行は1間で2.3mが確認された。南

北軸から桁行方向をN-36°-Wととらえた。柱間寸法は、桁行が1.9~2.6mと不揃いである。

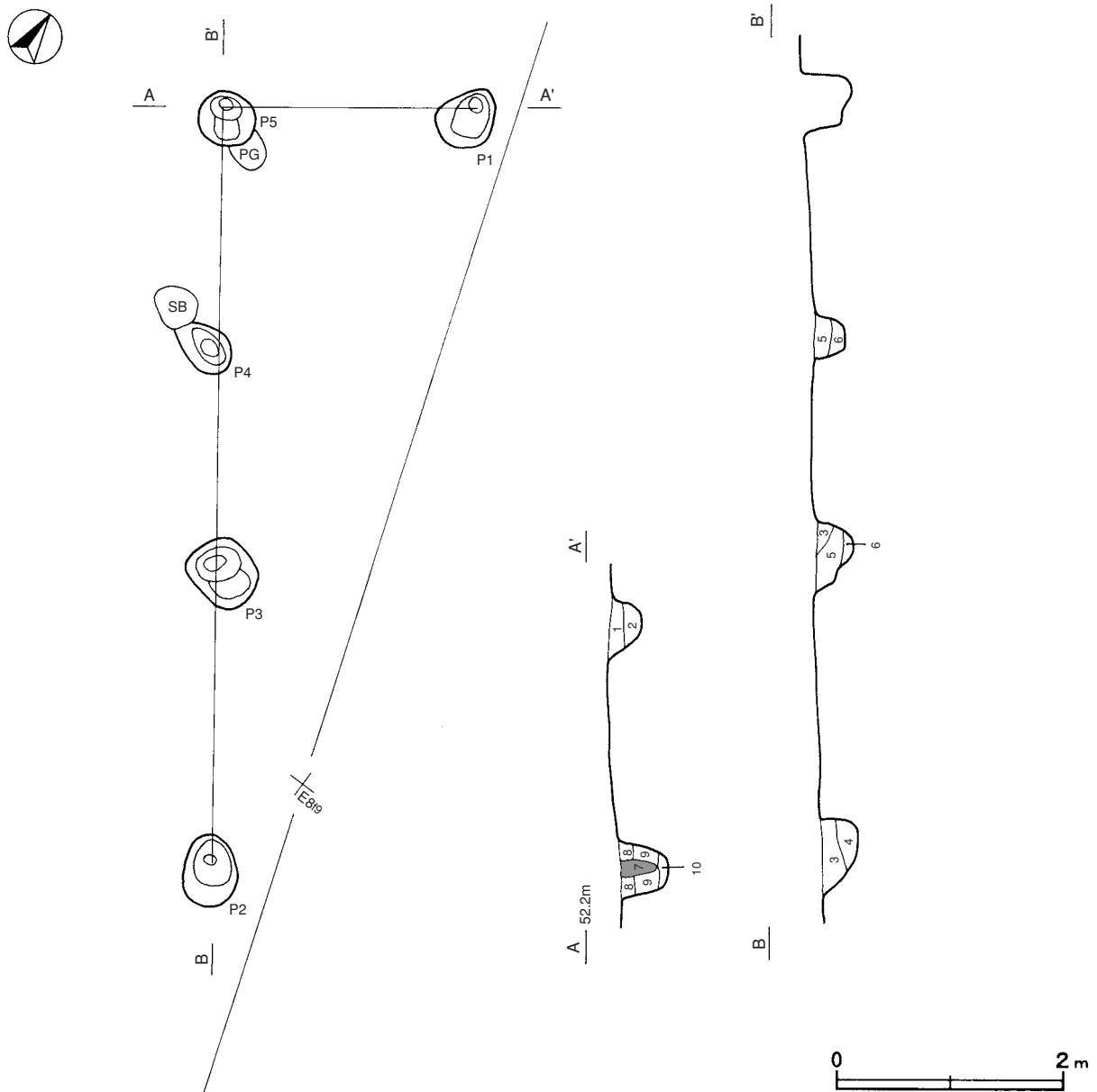
柱穴 5か所。長径52~62cm, 短径35~54cmの円形もしくは楕円形で、深さは25~45cmである。柱痕跡はP5で確認でき、第7層が相当する。第8・9・10層は掘り方の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|---------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック・鹿沼バミス微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼バミス少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼バミスブロック微量 | 9 褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 極暗褐色 | 鹿沼バミスブロック中量, ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿1, 内耳鍋2, 挿鉢1), 瓦質土器1点(鉢)が, P1・P3・P5から出土しているが, 細片である。

所見 時期は, 出土土器や柱穴の掘り方の規模などから, 中世もしくは近世と考えられる。



第221図 第31号掘立柱建物跡実測図

第33号掘立柱建物跡（第222図）

位置 調査区中央部5区のE 8g3～E 8h4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第65号溝跡，第27号ピット群を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡であり，桁行方向をN-82°-Wとする東西棟である。桁行は5.0m，梁行は2.6～2.8mであり，面積は13.5㎡である。柱間寸法は，桁行が2.4mと2.6m，梁間が1.2mと1.5mを基調としている。

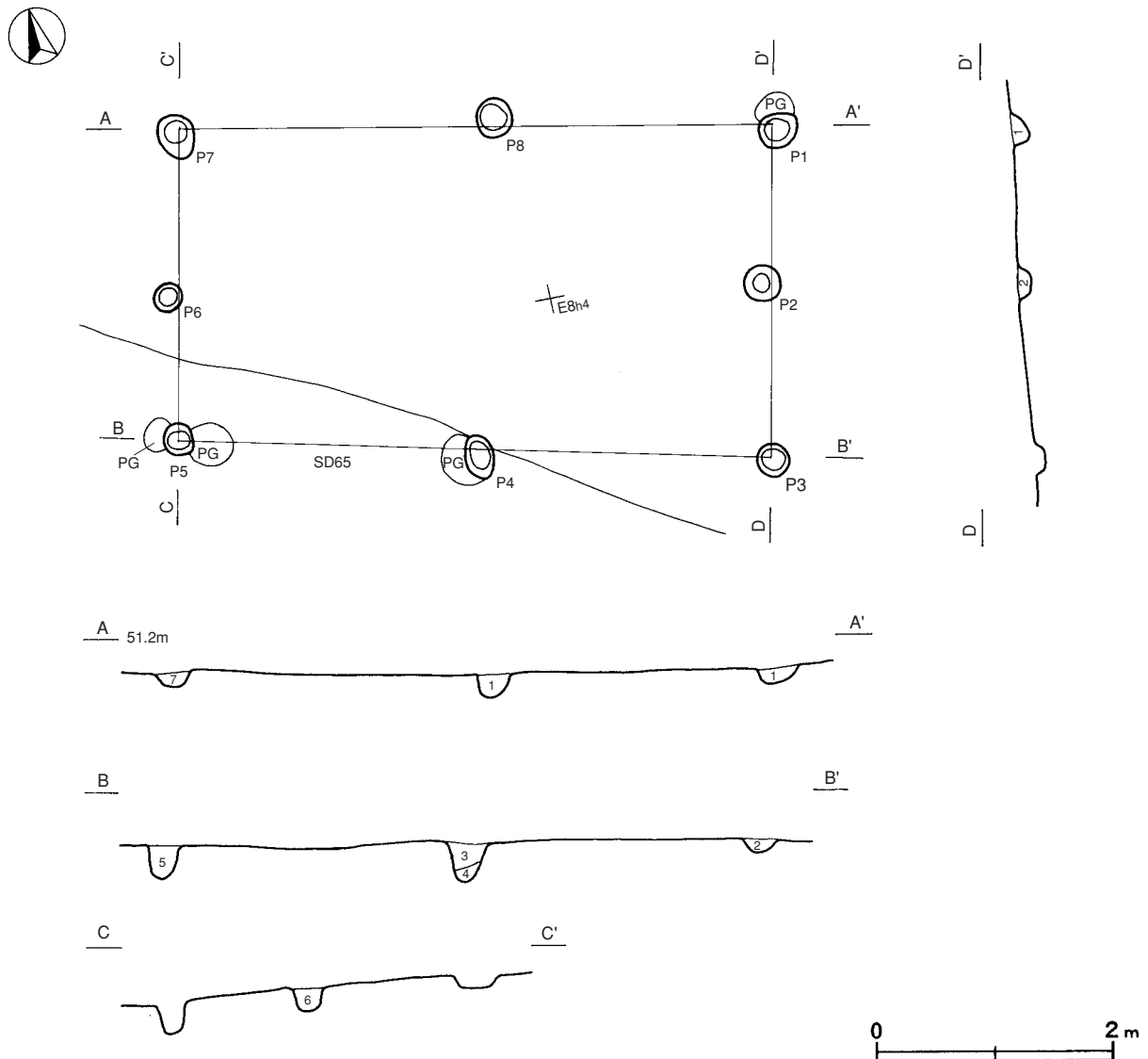
柱穴 8か所。長径22～38cm，短径22～28cmの円形もしくは楕円形で，深さは9～28cmである。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 黄褐色 鹿沼バミスブロック少量，ローム粒子微量 | 5 黄褐色 ロームブロック中量，鹿沼バミスブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量，鹿沼バミス少量 | 6 暗褐色 鹿沼バミス多量，ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量 | 7 黄褐色 鹿沼バミス多量，ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師質土器片3点（内耳鍋）がP2・P5から出土しているが，細片である。

所見 時期は，18世紀前葉と考えられる溝を掘り込んでいることから，18世紀前葉以降の近世と考えられる。



第222図 第33号掘立柱建物跡実測図

表12 中・近世掘立柱建物跡一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 桁×梁 (間) | 規模 (m) | 面積 (㎡) | 桁柱間 (m) | 梁間 (m) | 繫梁間 (m) | 柱 穴 (cm) | | | | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|----|---------------|---------|------------|---------------------|-----------|-----------------|-----------|------------|------------|-----|------------------|-------|------------------|-------------------|
| | | | | | | | | | 構造 | 柱穴 | 平面形 | 深さ | | |
| 4 | E7c0～ E8e3 | N-83°-W | 4×2 | 9.8×4.8 ～5.2 | 49.0 | 1.6～2.9 | 2.4～2.8 | 2.6 | 側柱 (南廂) | 15 | 円形・楕円形・ 隅丸長方形 | 15～65 | 土師質土器, 陶器, 砥石 | 17世紀後葉～ 18世紀初頭 |
| 5 | E8c1～ E8d3 | N-85°-W | 3×2 | 8.6×5.0 ～5.2 | 43.9 | 2.7～3.0 | 2.2～3.1 | 1.2～1.5 | 側柱 (南廂) | 12 | 円形・楕円形・ 隅丸長方形 | 20～64 | 土師質土器, 陶器 | 17世紀前半 |
| 6 | E7c0～ E8d1 | N-82°-W | 2×2 | 5.4×2.6 ～2.8 | 14.6 | 2.7 | 1.2～1.5 | — | 側柱 | 7 | 円形・楕円形 | 30～75 | 土師質土器 | 17世紀前半 |
| 7 | E7c0～ E8e1 | N-87°-W | 2×1 | 6.8×4.7 | 32.0 | 3.0～3.8 | 4.7 | — | 側柱 | 6 | 円形・楕円形 | 39～60 | 土師質土器, 陶器 | 17世紀後葉～ 18世紀初頭 |
| 8 | E8d2～ E8e3 | N-5°-E | 1×2 | 3.6×3.0 | 10.8 | 3.6 | 1.0・2.0 | — | 側柱 | 6 | 円形・楕円形・ 隅丸長方形 | 56～72 | 土師質土器 | 中・近世 |
| 9 | E7e0～ E8g1 | N-88°-E | 2×2 | 6.6～6.7× 4.0～4.2 | 27.3 | 3.0～3.5 | 1.8～2.2 | 1.2～1.3 | 側柱 (南廂) | 11 | 円形・楕円形 | 20～55 | 土師質土器 | 17世紀初頭 |
| 10 | E8e1～ E8f3 | N-87°-W | 3×1 | 8.6～8.9× 2.6～2.8 | 23.9 | 2.0・2.9 ・3.9 | 2.6～2.8 | — | 側柱 | 8 | 円形・楕円形 | 36～76 | 土師質土器, 瓦質 土器 | 17世紀前半 |
| 11 | B2i2～ C2a2 | N-6°-E | 3×1 | 5.9～6.0× 2.9～3.0 | 17.6 | 1.8～2.2 | 2.9～3.0 | 0.5～1.0 | 側柱 (西廂) | 12 | 円形・楕円形 | 10～44 | 土師質土器 | 中・近世 |
| 14 | C3e5～ C3g6 | N-2°-E | 4×1 | 8.1×3.3 | 26.7 | 1.8～2.4 | 3.3 | 1.5～1.6 | 側柱 (東廂) | 15 | 円形・楕円形 | 30～70 | | 中・近世 |
| 16 | E8e7～ E8f8 | N-11°-W | 2×2 | 4.2×4.0 ～4.1 | 17.0 | 1.2～2.9 | 1.8～2.3 | — | 側柱 | 12 | 円形・楕円形 | 13～33 | 土師質土器 | 中・近世 |
| 17 | E7f8～ E7h0 | N-11°-W | 2×2 | 5.4×3.7 | 20.0 | 2.4・3.1 | 1.7・2.2 | — | 側柱 | 7 | 円形・楕円形 | 28～60 | 土師質土器 | 中・近世 |
| 31 | E8d7～ E8f9 | N-36°-W | (3×1) | (6.6× 2.3) | (7.6) | (1.9～2.6) | (2.3) | — | 不明 | (5) | 円形・楕円形 | 25～45 | 土師質土器, 瓦質 土器 | 中・近世 |
| 33 | E8g3～ E8h4 | N-82°-W | 2×2 | 5.0×2.6 ～2.8 | 13.5 | 2.4・2.6 | 1.2・1.5 | — | 側柱 | 8 | 円形・楕円形 | 9～28 | 土師質土器 | 18世紀前葉以 降の近世 |

(2) 方形竪穴遺構

第31号方形竪穴遺構 (S I 138) (第223図)

位置 調査区西部1区のB2i9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第133・136号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北側部分が調査区域外に延びているため、東西軸2.0mで、南北軸は2.4mだけが確認された。南北軸を主軸とすると、主軸方向がN-46°-Eの長方形と推測した。壁高は70cmで、各壁とも直立している。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。

覆土 6層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

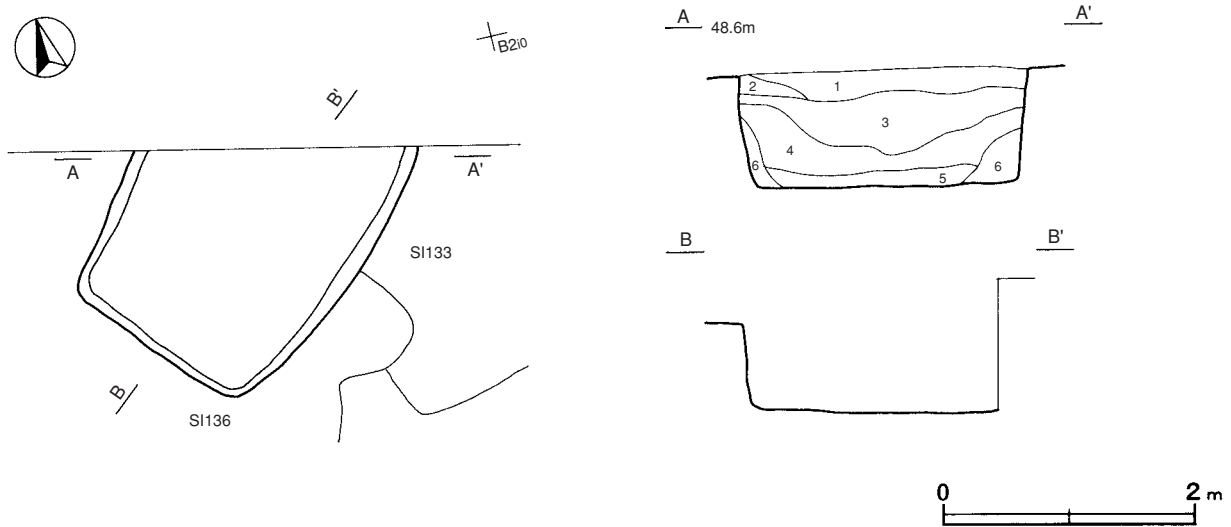
土層解説

1 黒 色 ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒 褐色 ローム粒子微量
3 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
4 黒 色 ローム粒子・炭化粒子微量

5 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒 褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミスブロック・
焼土粒子微量

遺物出土状況 陶器片1点(碗)が出土しているが、細片である。また、混入した土師器片と須恵器片が出土している。

所見 時期は、陶器片が出土していることや遺構の形態から中世後半と考えられる。



第223図 第31号方形竪穴遺構実測図

第32号方形竪穴遺構 (SI 148) (第224図)

位置 調査区西部1区のB3j1区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.6m、短軸1.9mで、南西コーナーが南側に張り出した不整長方形を呈し、主軸方向はN-2°-Wである。また、南西コーナーの張り出し部はスロープ状を呈し、北西コーナー部は内側に段状の張り出しを有している。壁高は64cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。

覆土 7層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

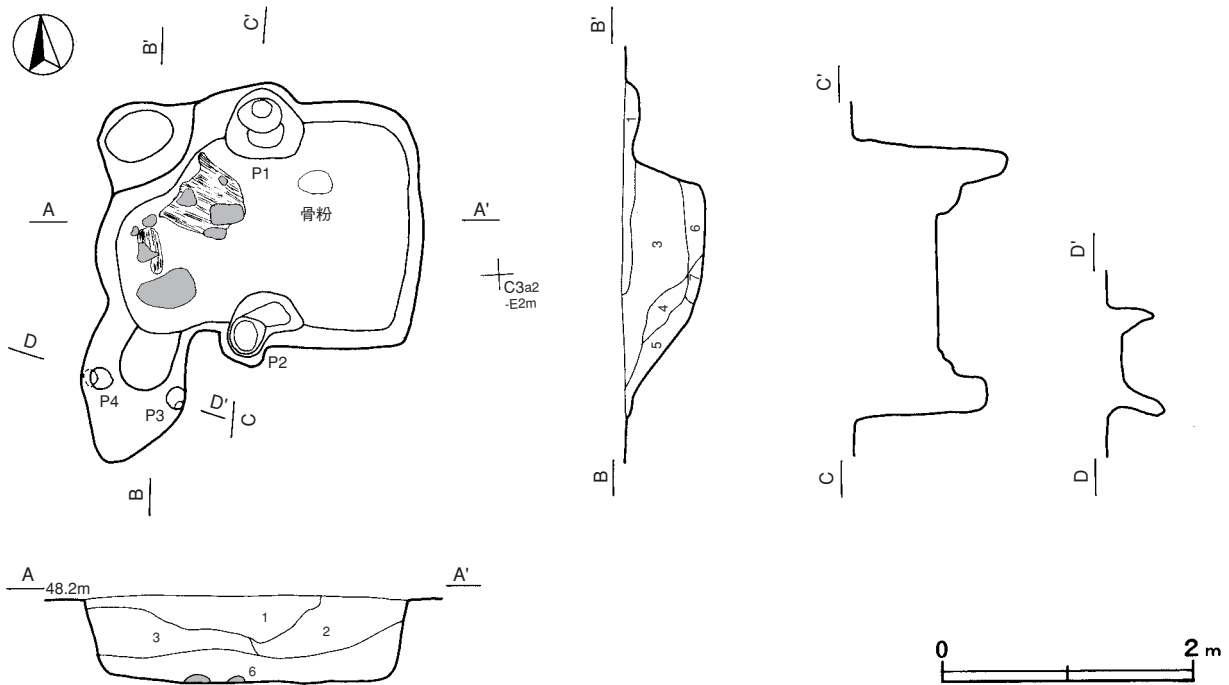
土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 7 明褐灰色 | 粘土ブロック多量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック多量 | | |

ピット 4か所。P1・P2は深さ57cmと40cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3・P4は深さ24cmと30cmで、規模と配置から補助柱穴と考えられる。

遺物出土状況 陶器片1点(碗)が出土しているが、細片である。西部の床面からは粘土塊、粘土塊の上からは長さ68cmほどの板状の炭化物が出土している。粘土塊を土台にして板を床状に敷いたものと考えられる。また、北部の床面からは少量の骨粉が出土しているが、骨粉の種別や性格については不明である。また、混入した土師器片と須恵器片が出土している。

所見 南西コーナーの張り出し部は、出入り口部と考えられる。時期は、陶器片が出土していることや遺構の形態から中世後半と考えられる。



第224図 第32号方形竪穴遺構実測図

第33号方形竪穴遺構 (S I 159) (第225図)

位置 調査区西部1区のC 3 e1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第198・199号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺2.7mで、南壁中央部が南側に、北壁中央部が北側に若干張り出した不整形を呈し、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は30~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全面的に軟質である。

覆土 8層に分層される。各層にロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

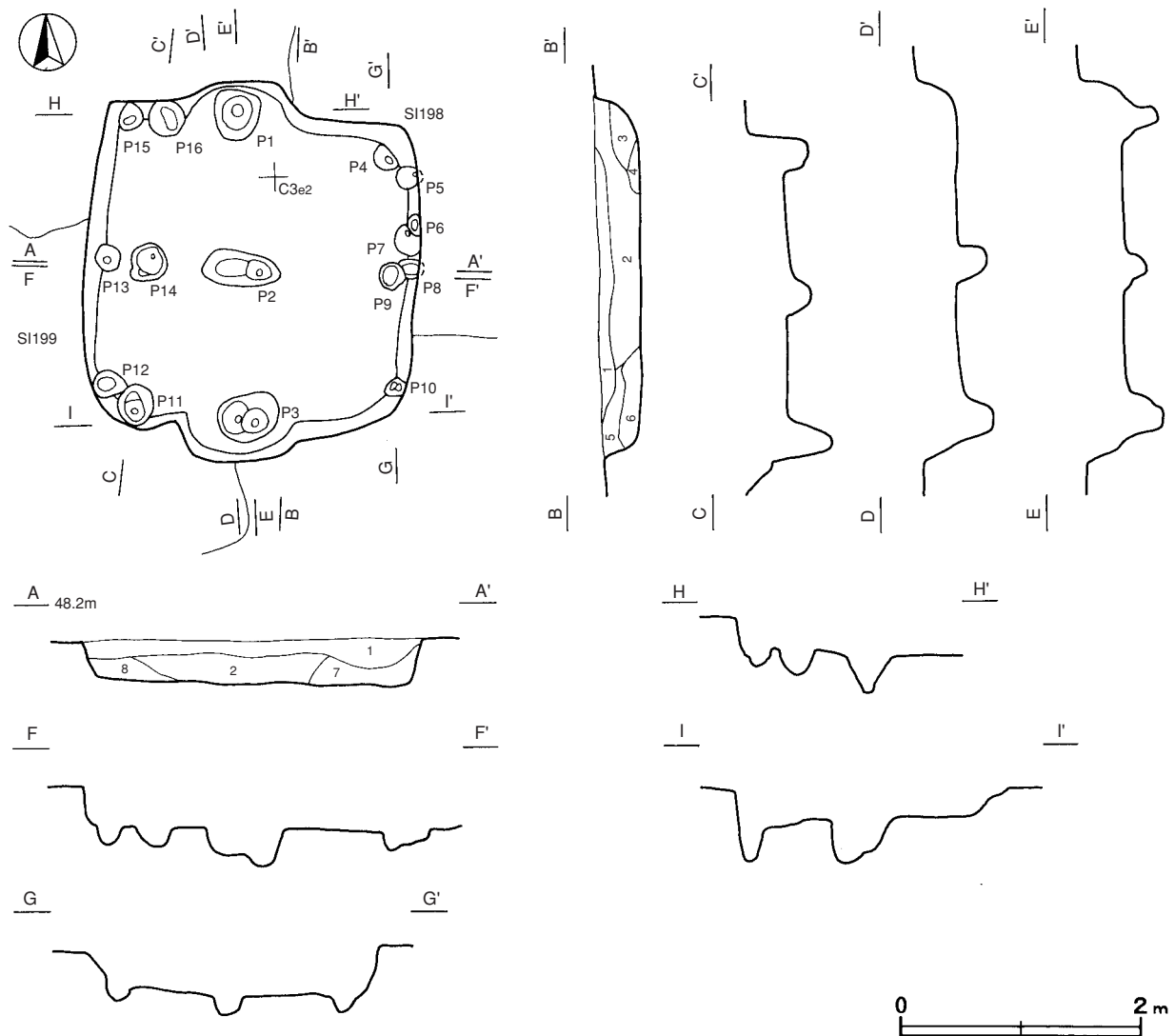
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量 |

ピット 16か所。P 1~P 3は深さ28~32cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 4~P 16は深さ12~38cmで、規模と配置から補助柱穴と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)が出土しているが、細片である。また、混入した土師器片と須恵器片が出土している。

所見 時期は、小皿片が出土していることや遺構の形態から中世と考えられる。



第225図 第33号方形竪穴遺構実測図

第34号方形竪穴遺構 (SI 167) (第226図)

位置 調査区西部1区のC 2 f0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第168号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.0m、短軸2.6mで、北東コーナーが北側に張り出した不整形長方形を呈し、主軸方向はN-4°-Eである。また、北東コーナーの張り出し部の床面は、内側の床面と同じ高さである。壁高は18~23cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、北東コーナーの張り出し部から南西コーナー部にかけて踏み固められている。

覆土 8層に分層される。ロームブロックを不規則に含んだ人為堆積である。

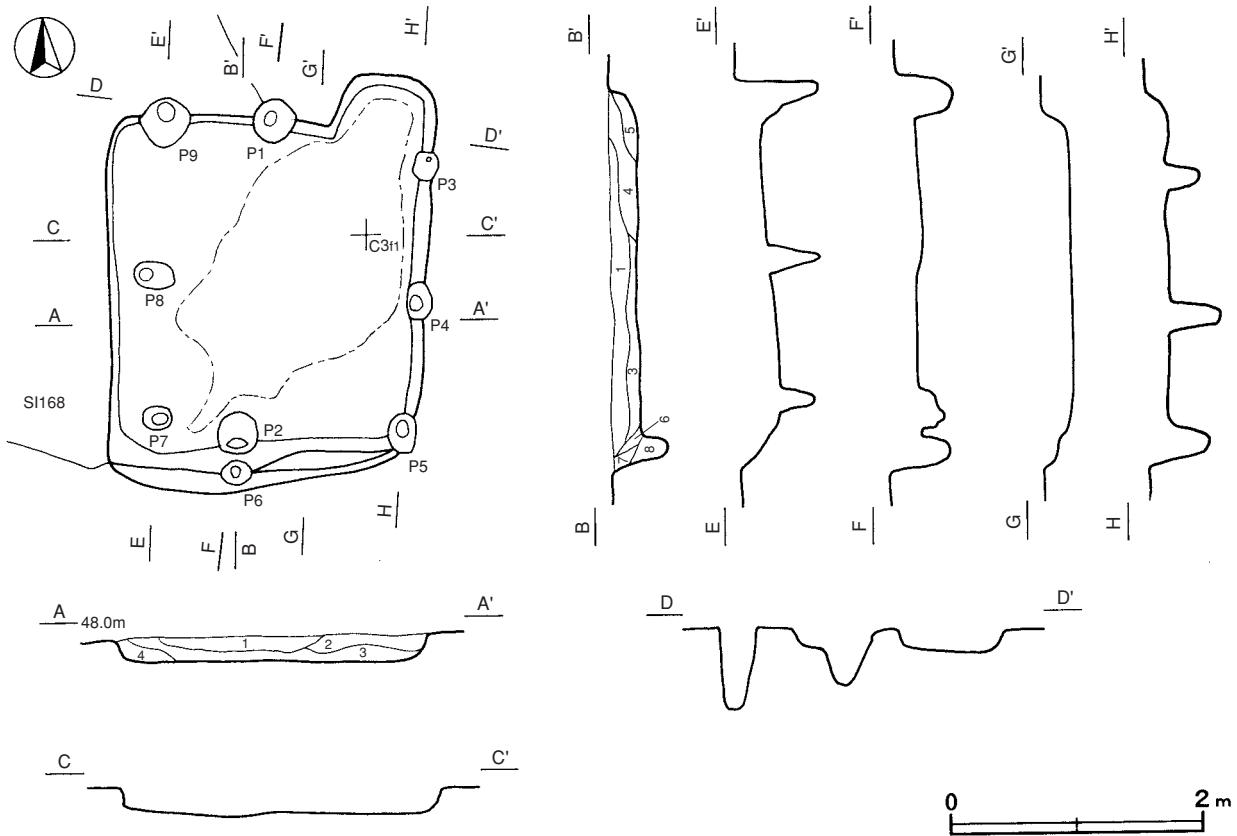
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック多量 |

ピット 9か所。P 1・P 2は深さ28cmと20cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3~P 9は深さ19~45cmで、規模と配置から補助柱穴と考えられる。

遺物出土状況 弥生土器片，土師器片，須恵器片の細片が出土しているが，破断面が摩滅していることから，廃絶後の埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見 北東コーナーの張り出し部の床面が硬化していることから，出入口部と考えられる。廃絶時期は，遺構の形態から中世と考えられる。



第226図 第34号方形竪穴遺構実測図

第35号方形竪穴遺構（S I 174）（第227図）

位置 調査区西部1区のC 2 c0区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第160・194号住居跡，第2524号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.0m，短軸2.1mで隅丸長方形を呈し，主軸方向はN-90°-Eである。壁高は58~68cmで，直立している。

床 ほぼ平坦で，全体的に軟質である。

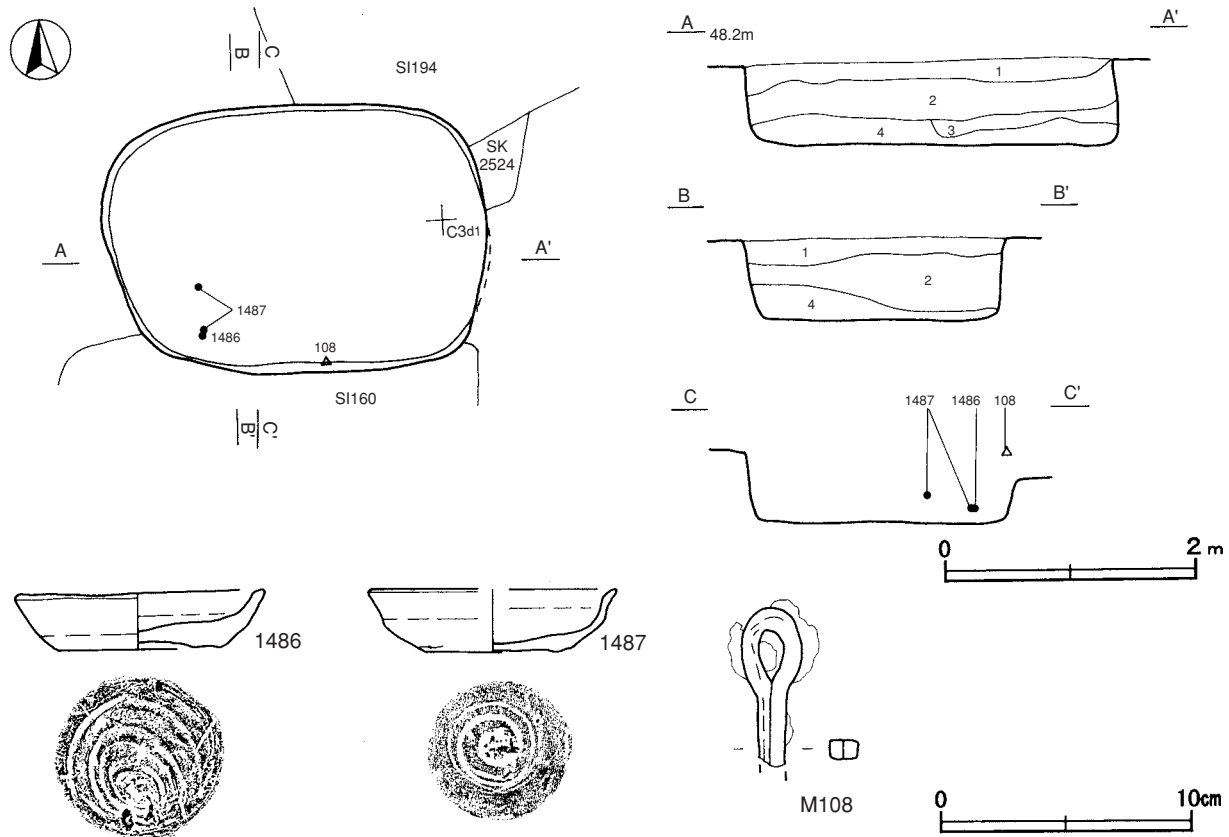
覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを不規則に含み，ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片1点（小皿），土師質土器片2点（小皿），鉄製品1点（引手カ）が出土している。M 108は南壁際の覆土上層から出土している。1487は南部の覆土下層および覆土中層から出土した破片が接合したもので，破断面が摩滅していることから混入したものと考えられる。1486は南部の覆土下層から出土し，残存率が高く埋め戻しの際に投棄したものと考えられる。また，混入した弥生土器片や須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は，出土土器から13世紀前半と考えられる。



第227図 第35号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第35号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第227図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-----|-----------|------|----|----------|--------|------------|
| 1487 | 土師器 | 小皿 | [9.6] | 2.5 | 5.4 | 白雲母 | 灰黄 | 普通 | 底部回転ヘラ切り | 下層・覆土中 | 70% |
| 1486 | 土師質土器 | 小皿 | 9.8 | 2.3 | 6.2 | 石英・長石・金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転糸切り | 下層 | 75%, PL110 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-------|-----|-----|--------|----|----------------|------|-------|
| M108 | 引手カ | (6.4) | 2.5 | 0.7 | (32.0) | 鉄 | 先端部を空け、全体を折り返す | 上層 | PL121 |

第36号方形竪穴遺構（SI176）（第228図）

位置 調査区西部1区のB3j4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第173号住居跡，第2326・2499号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.3m，短軸2.0mで，南東コーナーが南東側に張り出した不整長方形を呈し，主軸方向はN-79°-Wである。また，南東コーナーの張り出し部はスロープ状を呈し，南西コーナー部は内側に段状の張り出しを有している。壁高は72~80cmで直立している。

床 ほぼ平坦で，全体的に軟質である。

覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを多量に含み，ブロック状に堆積した人為堆積である。

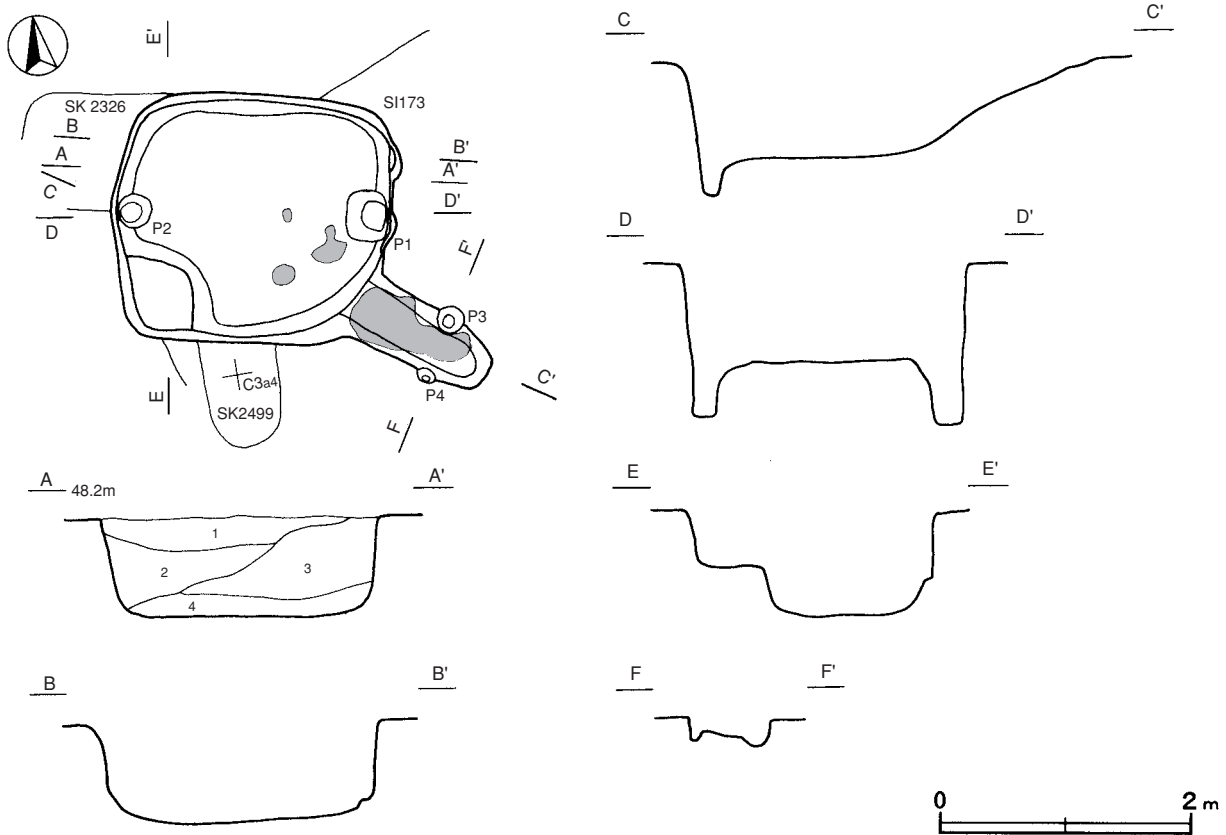
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量，炭化物少量，粘土ブロック・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック多量，焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量，粘土ブロック少量，炭化物微量 |

ピット 4か所。P1・P2は深さ51cmと44cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P3・P4は深さ10cmで、対で位置していることから、張り出し部の構造物にかかわる柱穴と考えられる。

遺物出土状況 張り出し部と南東部の床面から粘土塊が出土しているが、火熱痕はなく、性格は不明である。また、混入した弥生土器片と土師器片や須恵器片が出土している。

所見 南西コーナーの張り出し部は、出入口部と考えられる。時期は、遺構の形態から中世と考えられる。



第228図 第36号方形竪穴遺構実測図

第37号方形竪穴遺構 (S I 177) (第229図)

位置 調査区西部1区のC3a4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第163・173号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.2m、短軸1.7mの長方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は34~44cmで外傾して立ち上がっている。また、南東コーナー部分がスロープ状を呈している。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。

覆土 4層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

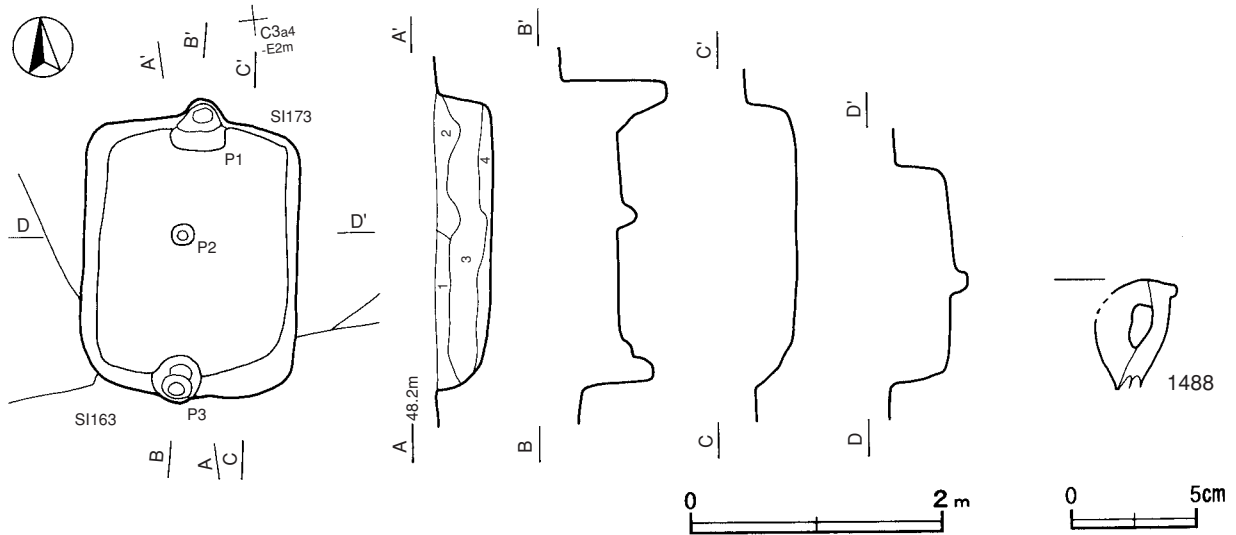
| | | | |
|-------|---------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック少量 |

ピット 3か所。P1~P3は深さ15~42cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器2点(内耳鍋)、鉄滓2点が出土している。1488は覆土中から出土している。また、

混入した土師器片と須恵器片が出土している。

所見 南東コーナー部が出入り口部と考えられる。時期は、内耳鍋片が出土していることや遺構の形態から中世後半と考えられる。



第229図 第37号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第37号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第229図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|----|-------|----|-----------|------|----|-----------|------|-------------|
| 1488 | 土師質土器 | 内耳鍋 | - | (4.5) | - | 石英・長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 耳部破片，耳は扁平 | 覆土中 | 5%，口縁部外面煤附着 |

第38号方形竪穴遺構（SI 179）（第230図）

位置 調査区西部1区のC3d4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第169・203号住居跡，第2379・2504号土坑を掘り込んでいます。

規模と形状 一辺2.2mの方形で，支柱穴の配置から主軸方向はN-76°-Wである。壁高は71~80cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，全体的に軟質である。

覆土 5層に分層される。各層にロームブロックを不規則に含み，ブロック状に堆積した人為堆積である。

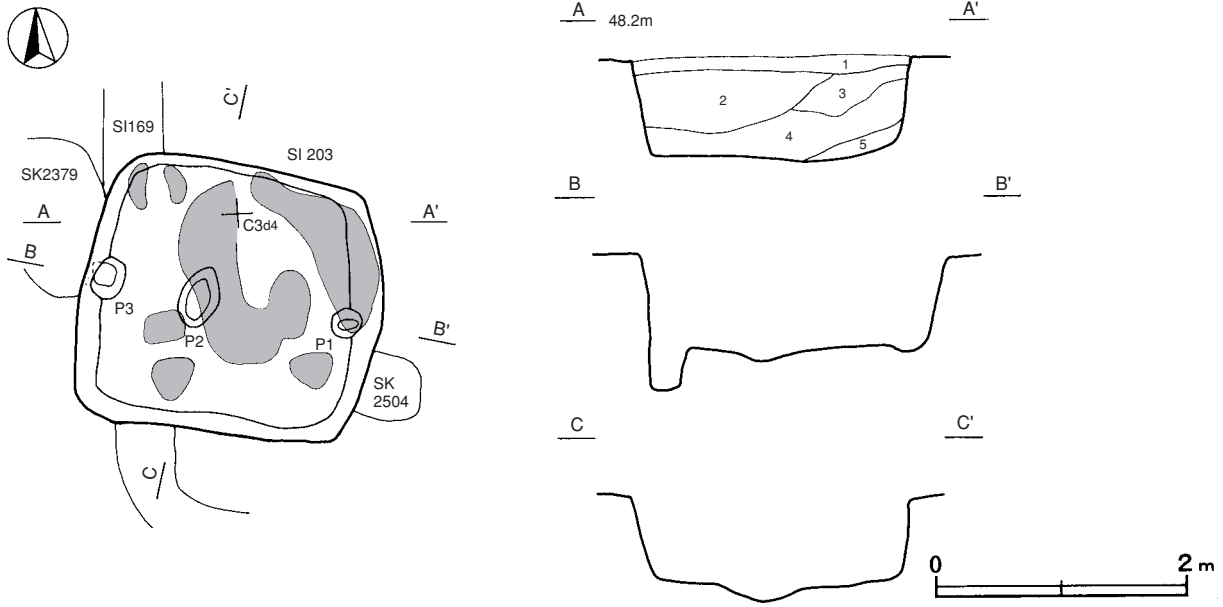
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック多量，粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量 | | |

ピット 3か所。深さ6~34cmで，規模と配置から支柱穴と考えられる。

遺物出土状況 中央部から北東部の覆土下層から床面にかけて厚さ6~12cmの粘土塊が出土しているが，粘土塊の下に黒色土があり，覆土中にも粘土塊が確認できたことから，埋め土の覆土に混入したものと考えられる。また，混入した土師器片と須恵器片及び土製支脚や敲石が出土している。

所見 時期は，遺構の形態から中世と考えられる。



第230図 第38号方形竪穴遺構実測図

第39号方形竪穴遺構（S I 183）（第231図）

位置 調査区西部1区のC 2 a0区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.0m、短軸1.2mの不定形で、主軸方向はN-74°-Wである。壁高は56cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。

覆土 3層に分層される。各層にロームブロックを含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

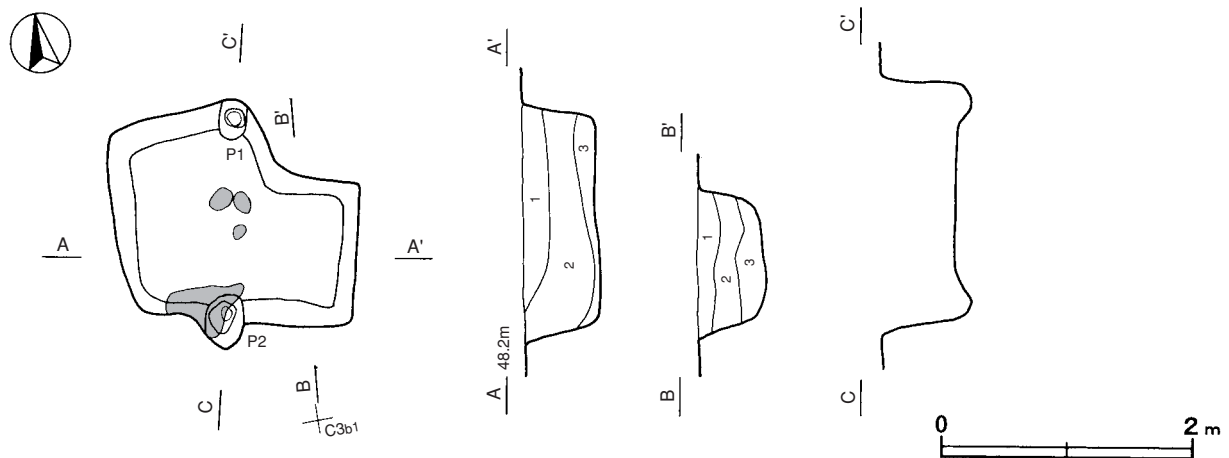
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

ピット 2か所。P 1とP 2は深さ10cmと16cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

遺物出土状況 陶器片1点（常滑甕）が出土しているが、細片である。中央部と南壁際の覆土下層から粘土塊が出土しているが、床面には付着しておらず、埋め戻しの際に混入したものと考えられる。また、混入した弥



第231図 第39号方形竪穴遺構実測図

生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は、常滑焼の甕片が出土していることや遺構の形態から中世と考えられる。

第40号方形竪穴遺構 (SI 185) (第232図)

位置 調査区西部1区のB3j5区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第192号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北側部分が調査区域外に延びているため、東西軸2.0m、南北軸は0.7mだけが確認され、南壁中央部が南側に張り出している。南北軸を主軸とすると、主軸方向をN-8°-Wとする不整形または不整長方形と推測した。また、南壁の張り出し部はスロープ状を呈している。壁高は59~63cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。

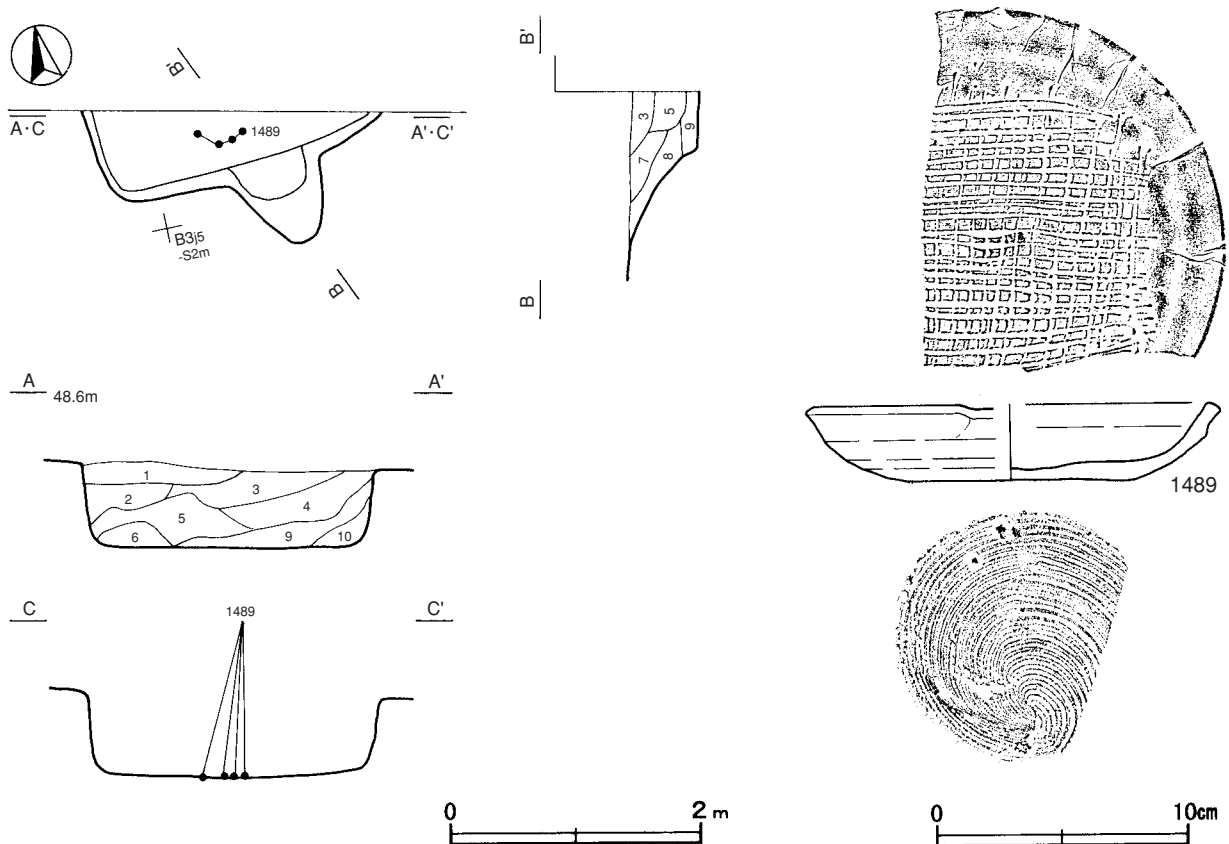
覆土 10層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 陶器片1点(卸皿)が出土している。1489は南部の床面から出土しており、遺棄されたものと考えられる。また、混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 張り出し部は出入り口部と考えられる。時期は、遺構の形態と出土した陶器の生産年代が15世紀末葉~



第232図 第40号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

16世紀初頭に位置づけられていることから、15世紀末葉から16世紀初頭と考えられる。

第40号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第232図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 絵付・施釉 | 手法の特徴 | 産地・年代 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|----|--------|-----|-------|---------|-------|-----------------|------------------------|------|--------------------|
| 1489 | 陶器 | 卸皿 | [16.2] | 3.0 | [9.5] | にぶい橙・灰白 | 灰釉 | 片口が一部残存，底部回転糸切り | 瀬戸産大窯 I a期 (1490～1510) | 床面 | 60%，卸目に摩滅痕なし，PL123 |

第41号方形竪穴遺構（S I 211）（第233図）

位置 調査区西部1区のC 3 b7区で，台地上の平坦部に位置している。

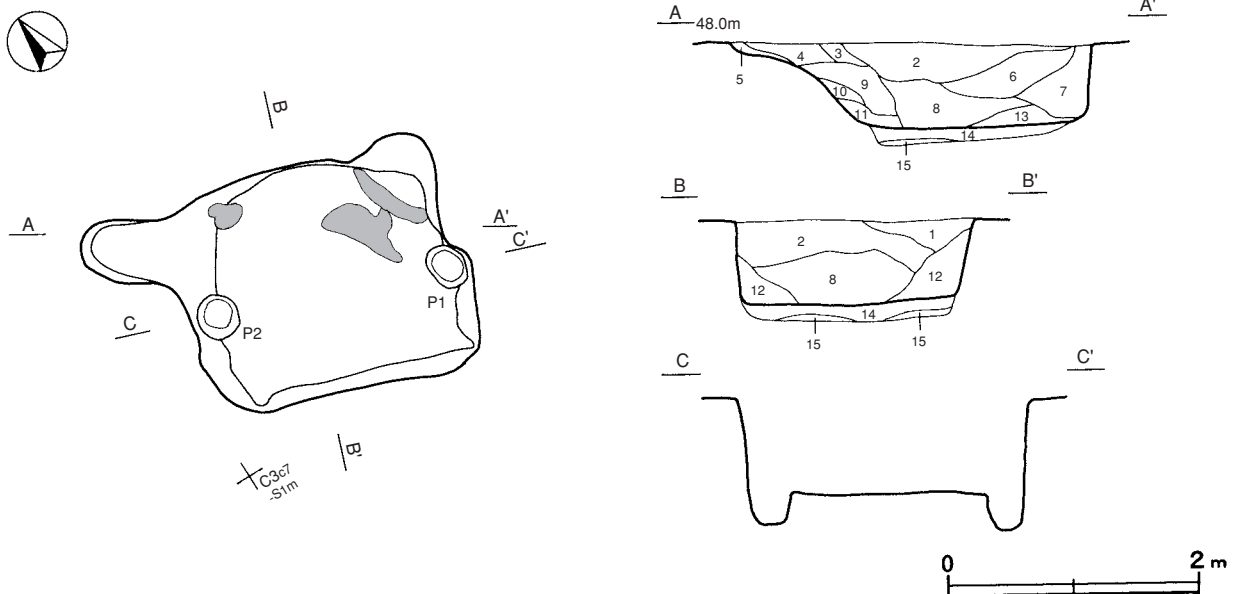
規模と形状 長軸2.2m，短軸1.9mで，北西コーナー部が北西側に張り出した不整長方形を呈し，主軸方向はN-65°-Wである。また，北西コーナーの張り出し部はスロープ状を呈している。壁高は60～64cmで，直立している。

床 ほぼ平坦で，全体的に軟質である。また，全面が貼床で，下層に泥炭状粒子を主とする黒色土を3～4cm敷き，その上にロームブロックを主とする褐色土を8～12cm充填して構築されている。

覆土 13層に分層される。ロームブロックを不規則に含み，ブロック状に堆積した人為堆積である。第14・15層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック多量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 | 12 黒褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミスブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量 | 14 褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子微量（貼床構築土） |
| 7 極暗褐色 | ロームブロック多量 | 15 黒色 | 泥炭状粒子中量，ローム粒子少量（貼床構築土） |
| 8 黒褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子微量 | | |



第233図 第41号方形竪穴遺構実測図

ピット 2か所。P1とP2は深さ29cmと26cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

遺物出土状況 北東部と北西部の床面から粘土塊が出土しているが、火熱痕はなく、性格は不明である。混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片、土製支脚が出土している。

所見 貼床の最下層にある黒色土には植物の葉の繊維を残す泥炭状粒子が中量認められることから、貼床を構築する際に植物の葉を敷き、その上にロームブロックを充填した可能性が考えられる。北西コーナーの張り出し部は、出入り口部と考えられる。時期は、遺構の形態から中世と考えられる。

第42号方形竪穴遺構 (SI 227) (第234図)

位置 調査区西部1区のC2g8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第172・205号住居跡を掘り込み、第2620号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.2m、短軸1.7mの長方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁高は40~48cmで、ほぼ直立している。また、北西コーナー部は内側に段状の張り出しを有している。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。

覆土 5層に分層される。各層にロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

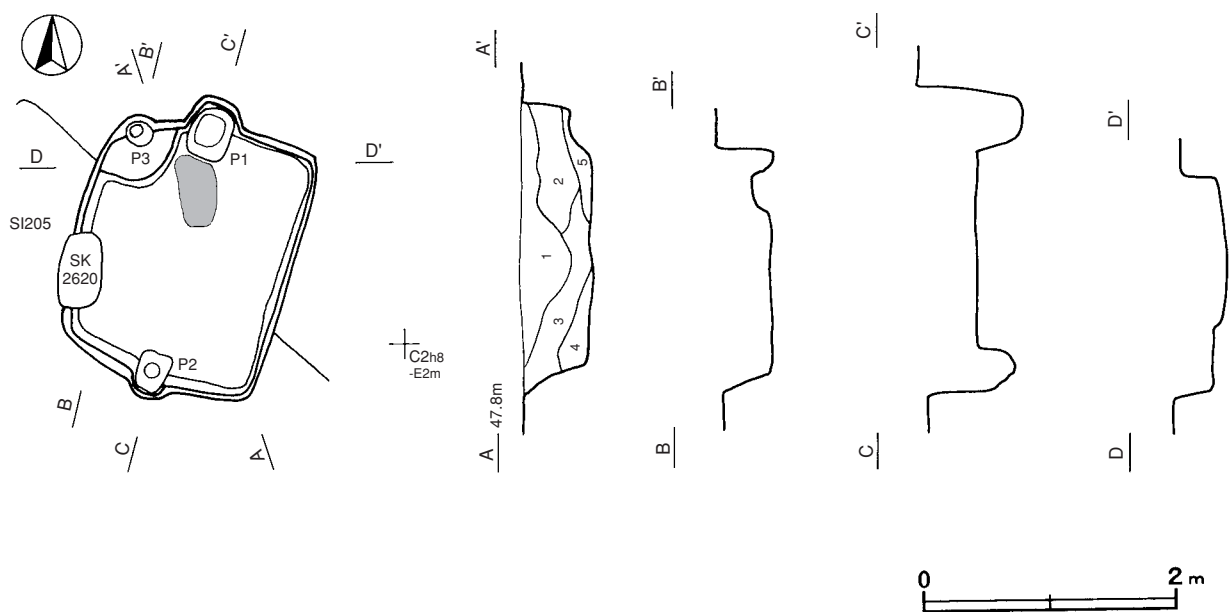
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |

ピット 3か所。P1・P2は深さ36cmと29cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P3は深さ17cmで、規模と配置から補助柱穴と考えられる。

遺物出土状況 北部の床面から粘土塊が出土しているが、火熱痕はなく、性格は不明である。また、混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は、遺構の形態から中世と考えられる。



第234図 第42号方形竪穴遺構実測図

第43号方形竪穴遺構 (SI 303) (第235図)

位置 調査区中央部5区のE 8 g7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3032・3060・3061・3062・3066・3068号土坑を掘り込み、第3067号土坑、ピット(3か所)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.2m、短軸1.7mで、南西コーナー部が南側に張り出した不整長方形を呈し、主軸方向はN-5°-Wである。また、南壁の西寄りの張り出し部はスロープ状を呈している。壁高は29~36cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。また、全面が貼床で、ロームブロックを主とする褐色土を2~12cm充填し、その上に粘土を1~2cm貼り付けている。また、掘り方は出入り口部よりも主室部の方が深く掘り込まれている。

覆土 7層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。8・9層は貼床の構築土である。

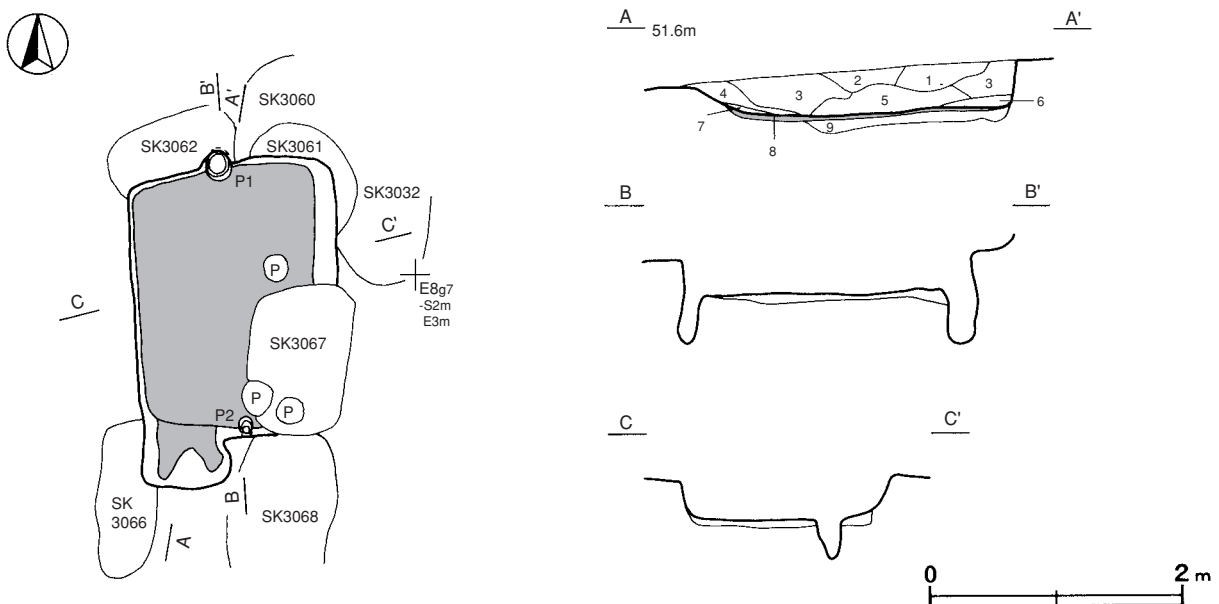
土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼バミスブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼バミスブロック少量 | 7 黒色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・鹿沼バミス少量 | 8 灰白色 | 粘土ブロック中量, 鹿沼バミス微量 (貼床構築土) |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子・鹿沼バミス微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼バミスブロック少量 (貼床構築土) |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼バミスブロック微量 | | |

ピット 2か所。深さは43cmと37cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土しているが、細片であり、破断面が摩滅していることから、廃絶後の埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見 南壁の張り出し部は出入り口部と考えられる。また、貼床を粘土で構築している点の特筆できる。時期は、重複関係と遺構の形態から中世後半もしくは近世と考えられる。18世紀前半以降の土坑墓と考えられる土坑群の中央に位置していることから、土坑群との関連が推測される。



第235図 第43号方形竪穴遺構実測図

第44号方形竪穴遺構（SK3307）（第236図）

位置 調査区中央部5区のE 8h1区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.0m、短軸1.4mの長方形で、主軸方向はN-14°-Eである。壁高は14~29cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。

覆土 8層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

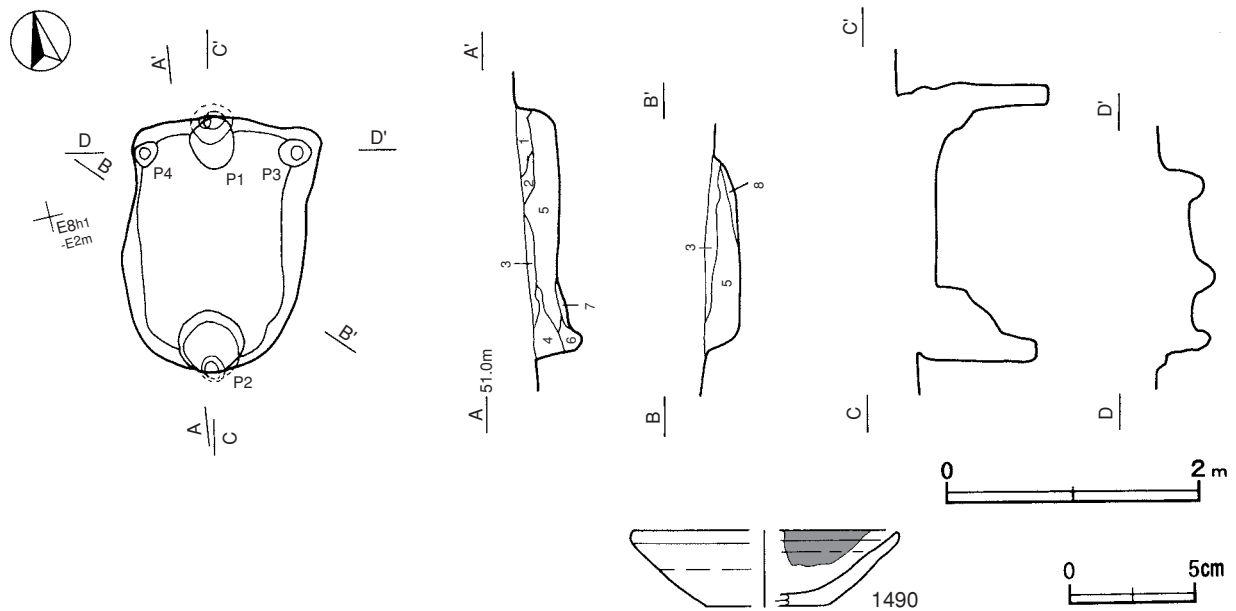
土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 鹿沼パミスブロック中量, ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミスブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 鹿沼パミスブロック微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・鹿沼パミス微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量 | 7 暗褐色 鹿沼パミス中量, ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 |

ピット 4か所。P1・P2は深さ90cmと78cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3・P4は深さ13cmと14cmで、規模と配置から補助柱穴と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿）が出土している。1490は覆土中から出土しており、内面に油煙が付着していることから、灯明皿に転用したものと考えられる。また、混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は、出土土器から中世末もしくは近世初頭と考えられる。



第236図 第44号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第44号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第236図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-----|-------|-----|-------|----|-------------|------|---------------|
| 1490 | 土師質土器 | 小皿 | [10.4] | 3.0 | [4.8] | 白雲母 | にぶい黄橙 | 普通 | 底部回転糸切り後、ナデ | 覆土中 | 20%、口縁部内面油煙付着 |

第45号方形竪穴遺構 (SK3575A) (第237・238図)

位置 調査区中央部5区のE 8 d1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3239・3575号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.3m、短軸2.2mで、西壁中央部が西側に張り出した不整形を呈し、主軸方向はN-54°-Eである。また、張り出し部はスロープ状を呈している。壁高は72~78cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟質である。

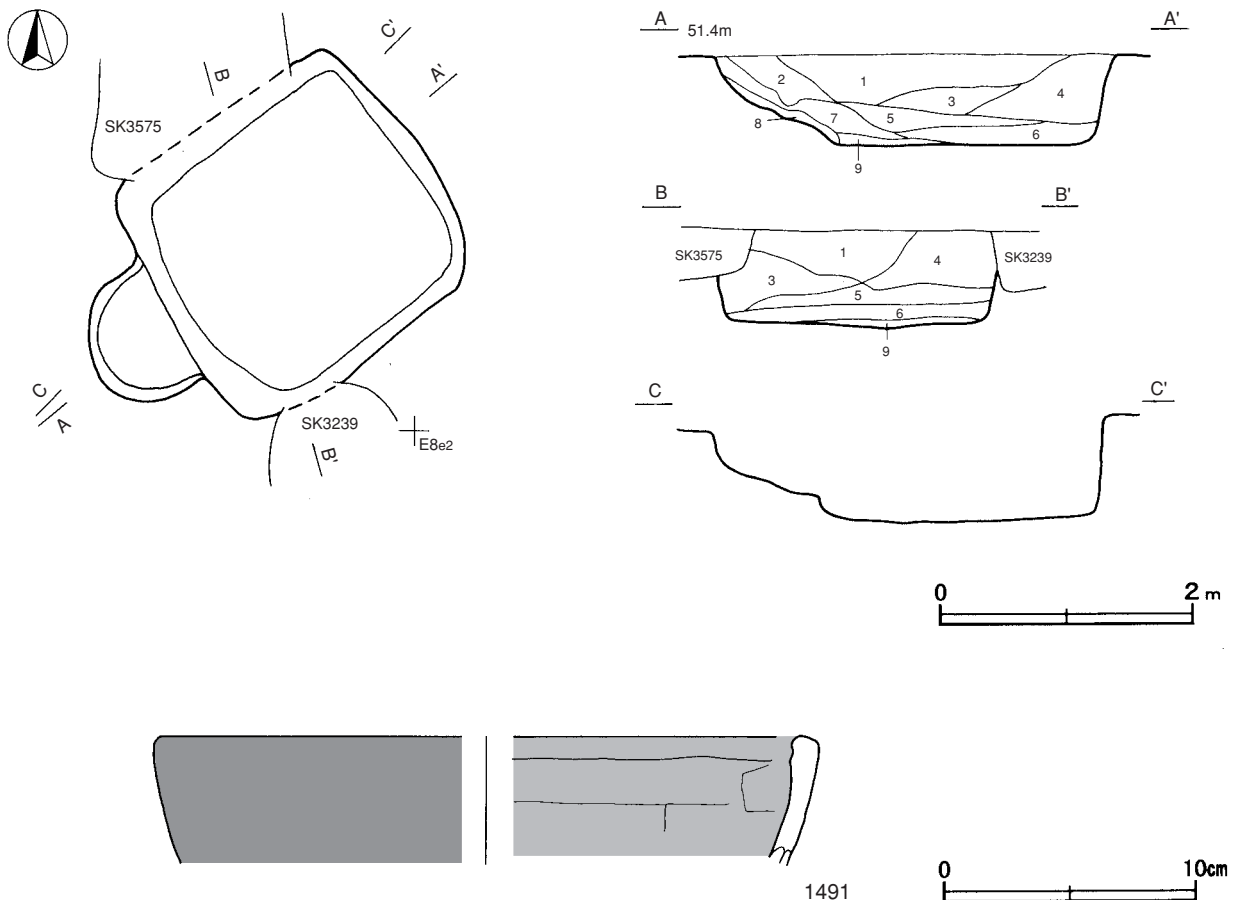
覆土 9層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

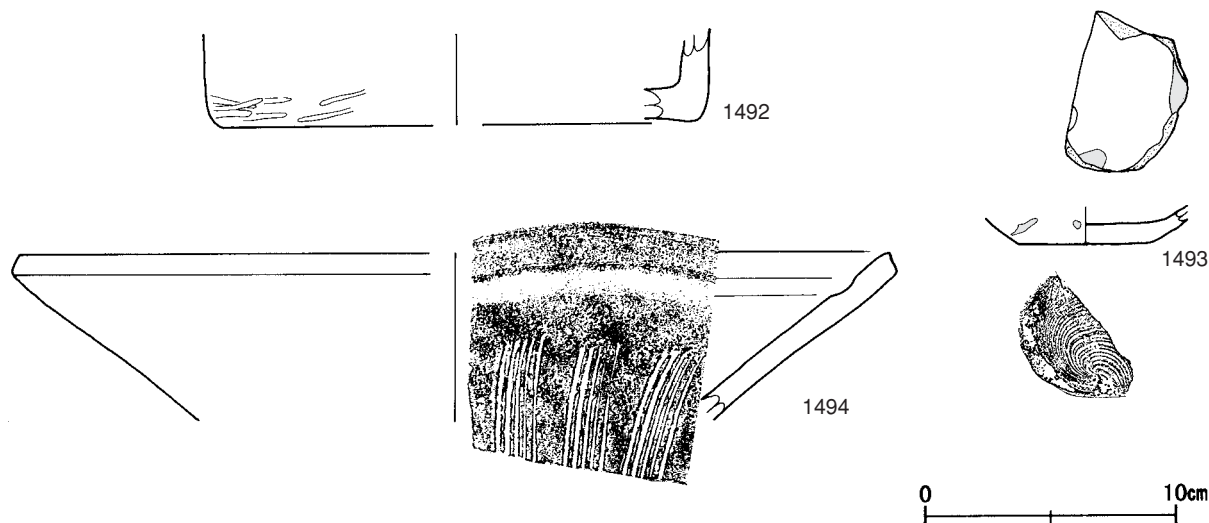
- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、鹿沼パミスブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス中量、炭化粒子少量 | 9 褐色 | 鹿沼パミス中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片18点（小皿3，火舎カ1，内耳鍋14），陶器片2点（端反皿，播鉢）が出土している。1490~1494は覆土中から出土している。1494は破断面が摩滅していないことから、投棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 張り出し部は、出入り口部と考えられる。廃絶時期は、遺構の形態と出土した陶器の生産年代が16世紀前葉に位置づけられることから、16世紀前葉以前の中世と考えられる。



第237図 第45号方形竪穴遺構・出土遺物実測図



第238図 第45号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第45号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第237・238図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|--------|-----------|------|----|-----------|------|---------------|
| 1491 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [25.9] | (5.1) | — | 石英・長石・白雲母 | 明赤褐 | 普通 | 口縁部内面ヘラナデ | 覆土中 | 10%, 口縁部外面煤附着 |
| 1492 | 土師質土器 | 火舎カ | — | (3.7) | [19.0] | 石英・長石・白雲母 | にぶい褐 | 普通 | 体部外面ヘラ磨き | 覆土中 | 10% |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 絵付・施釉 | 手法の特徴 | 産地・年代 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|--------|-------|-------|-------------|----------------|--------------------|---------------------|------|--------------------|
| 1493 | 陶器 | 緑釉端反皿 | — | (1.6) | [5.7] | 灰オリーブ・にぶい赤褐 | 体部内・外面緑釉・見込み無釉 | 底部回転糸切り | 瀬戸産，大窯Ⅰ期（1490～1530） | 覆土中 | 10% |
| 1494 | 陶器 | 播鉢 | [34.2] | (6.6) | — | にぶい赤褐 | 無釉 | 5条1単位の播り目，口縁部内面に沈線 | 信楽産（15世紀後半） | 覆土中 | 5%，播り目に摩滅痕なし，PL123 |

第46号方形竪穴遺構（SK2250）（第239図）

位置 調査区西部1区のC2a8区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2252・2321・2327・2334・2335号土坑を掘り込み，第14号土墳墓に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.9m，短軸2.7mの方形で，主軸方向はN-33°-Eである。壁高は80cmで直立している。

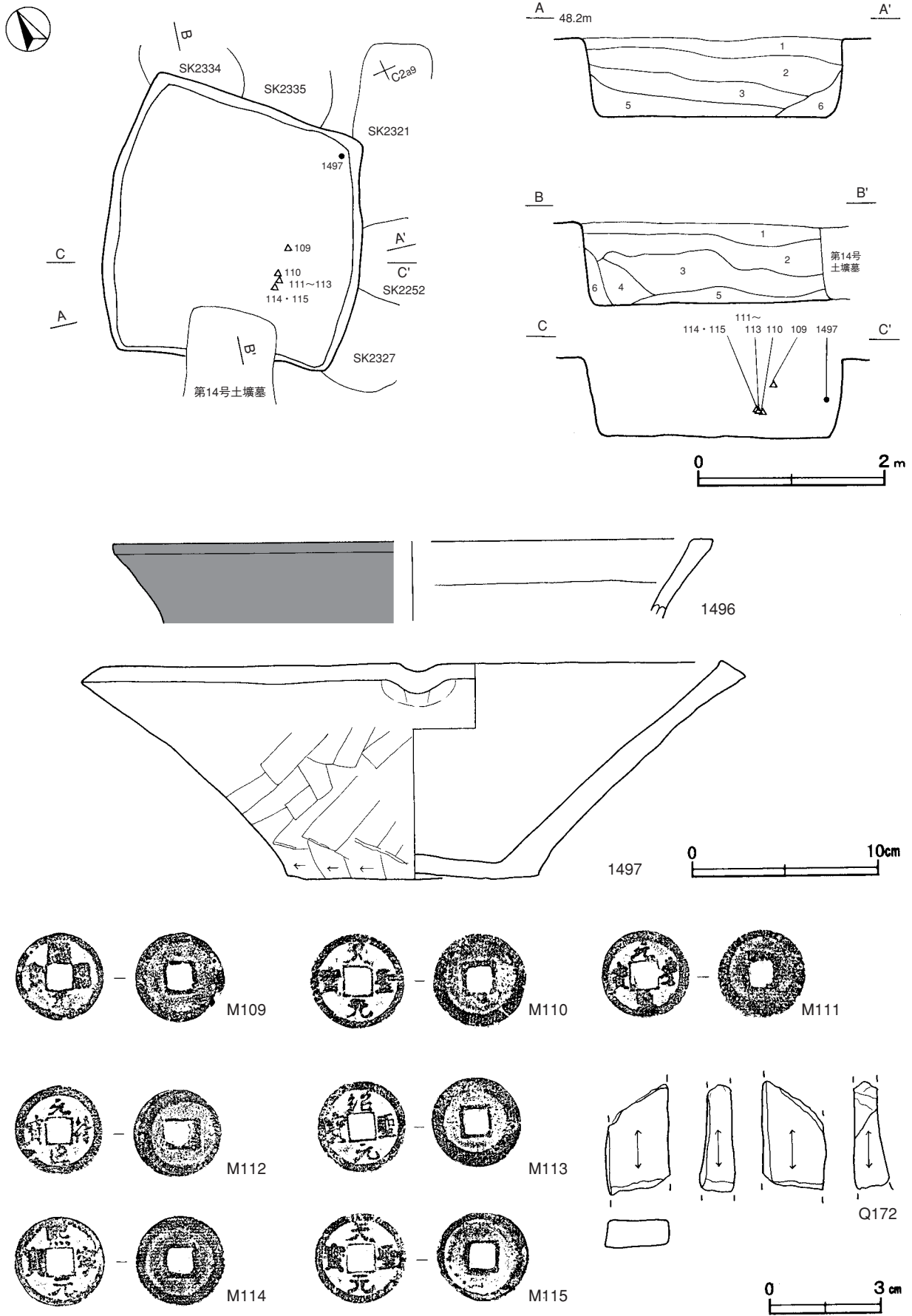
床 ほほ平坦で，全体的に軟質である。

覆土 6層に分層される。第1～3層はブロック状に堆積した人為堆積であり，第4～6層はレンズ状に堆積した自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量，骨粉微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳鍋），陶器片2点（片口鉢），石製品1点（砥石），古銭7枚が出土している。M109は東部の覆土中層，M110～M115は東部の覆土下層からそれぞれ出土しており，埋葬に伴う副葬品と考えられる。1497は北東コーナー部の覆土中層から逆位で出土しており，埋葬に伴う副葬品と考えられる。また，混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。



第239图 第46号方形竖穴遺構・出土遺物実測図

所見 覆土下層から古銭や片口鉢が出土したことから、廃絶した後、墓として利用したものと考えられる。時期は、副葬された片口鉢の生産年代が15世紀前半に位置づけられていることから、15世紀前半以前の中世と考えられる。

第46号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第239図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|----|-----------|------|----|------------|------|-----------|
| 1496 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.0] | (4.3) | — | 石英・長石・白雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ | 覆土中 | 5%, 外面煤付着 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 絵付・施釉 | 手法の特徴 | 産地・年代 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-----|------|------|------|-------|-------|----------------------|------------------|------|-----------|
| 1497 | 陶器 | 片口鉢 | 33.2 | 11.6 | 13.5 | にぶい赤褐 | 無釉 | 体部下端手持ちヘラ削り, 内面自然釉付着 | 常滑系, 9型式(15世紀前半) | 中層 | 50% PL117 |

| 番号 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|-------|-------|-------|-----|-------------|------|----|
| Q172 | 砥石 | (2.9) | (1.7) | (1.0) | (7.6) | 凝灰岩 | 砥面4面, 断面長方形 | 覆土中 | |

| 番号 | 銭名 | 径 | 孔 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|------|------|------|-----|-----------|----|---------|------|-------|
| M109 | 開元通寶 | 2.40 | 0.67 | 2.8 | 621 (唐) | 銅 | 無背銭, 真書 | 中層 | PL121 |
| M110 | 天聖元寶 | 2.55 | 0.68 | 2.9 | 1023 (北宋) | 銅 | 無背銭, 真書 | 下層 | PL121 |
| M111 | 元豊通寶 | 2.37 | 0.71 | 3.2 | 1078 (北宋) | 銅 | 無背銭, 行書 | 下層 | PL121 |
| M112 | 元符通寶 | 2.38 | 0.63 | 3.3 | 1098 (北宋) | 銅 | 無背銭, 行書 | 下層 | PL121 |
| M113 | 紹聖元寶 | 2.45 | 0.68 | 3.5 | 1094 (北宋) | 銅 | 無背銭, 行書 | 下層 | PL121 |
| M114 | 熙寧元寶 | 2.34 | 0.68 | 3.4 | 1068 (北宋) | 銅 | 無背銭, 真書 | 下層 | PL121 |
| M115 | 天聖元寶 | 2.46 | 0.68 | 3.3 | 1023 (北宋) | 銅 | 無背銭, 真書 | 下層 | PL121 |

表13 中・近世方形竪穴遺構一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内部施設 | | | | | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|----|------|---------|-----------|-------------------|------------|----|------|-----|-----------|-----|----|----|------------------|----------------------|
| | | | | | | | 壁溝 | 主柱穴 | 張り出し部 | ピット | 火処 | | | |
| 31 | B2i9 | N-46°-E | [長方形] | 2.0 × 2.4 | 70 | 平坦 | — | — | — | — | — | 自然 | 陶器細片 | 中世後半 |
| 32 | B3j1 | N-2°-W | 不整長方形 | 2.6 × 1.9 | 64 | 平坦 | — | 2 | 1 (スローブ状) | 2 | — | 人為 | 陶器, 粘土塊, 炭化物, 骨粉 | 中世後半, 内側への張り出しも有する |
| 33 | C3e1 | N-4°-E | 不整形 | 2.7 × 2.7 | 30~40 | 平坦 | — | 3 | 2 | 13 | — | 人為 | 土師質土器 | 中世, 北壁と南壁の中央部が若干張り出す |
| 34 | C2f0 | N-4°-E | 不整長方形 | 3.0 × 2.6 | 18~23 | 平坦 | — | 2 | 1 (段状) | 7 | — | 人為 | | 中世, 床と同じ高さで張り出す |
| 35 | C2c0 | N-90°-E | 隅丸長方形 | 3.0 × 2.1 | 58~68 | 平坦 | — | — | — | — | — | 人為 | 土師質土器, 引手金具カ | 13世紀前半 |
| 36 | B3j4 | N-79°-W | 不整長方形 | 2.3 × 2.0 | 72~80 | 平坦 | — | 2 | 1 (スローブ状) | 2 | — | 人為 | 粘土塊 | 中世, 内側への張り出しも有する |
| 37 | C3a4 | N-9°-E | 長方形 | 2.2 × 1.7 | 34~44 | 平坦 | — | 3 | — | — | — | 人為 | 土師質土器 | 中世後半, コーナー部がスローブ状 |
| 38 | C3d4 | N-76°-W | 方形 | 2.2 × 2.2 | 71~80 | 平坦 | — | 3 | — | — | — | 人為 | 粘土塊 | 中世 |
| 39 | C2a0 | N-74°-W | 不定形 | 2.0 × 1.2 | 56 | 平坦 | — | 2 | — | — | — | 人為 | 陶器, 粘土塊 | 中世 |
| 40 | B3j5 | N-8°-W | [不整方・不整長] | 2.0 × (0.7) | 59~63 | 平坦 | — | — | 1 (スローブ状) | — | — | 人為 | 陶器 | 15世紀末葉~16世紀初頭 |

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模 (m) (長軸×短軸) | 壁高 (cm) | 床面 | 内 部 施 設 | | | | | 覆土 | 出 土 遺 物 | 備 考 (時 期) |
|----|------|---------|-------|-------------------|------------|----|---------|-----|---------------|-----|----|-------|------------|----------------------|
| | | | | | | | 壁溝 | 支柱穴 | 張り出し部 | ピット | 火処 | | | |
| 41 | C3b7 | N-65°-W | 不整長方形 | 2.2×1.9 | 60~64 | 平坦 | - | 2 | 1 (スロ ープ状) | - | - | 人為 | 粘土塊 | 中世, 貼床に泥炭 状粒子あり |
| 42 | C2g8 | N-16°-E | 長方形 | 2.2×1.7 | 40~48 | 平坦 | - | 2 | 1 (段状) | 1 | - | 人為 | 粘土塊 | 中世, 内側への張 り出しを有する |
| 43 | E8g7 | N-5°-W | 不整長方形 | 2.2×1.7 | 29~36 | 平坦 | - | 2 | 1 (スロ ープ状) | - | - | 人為 | - | 中世後半もしくは 近世 |
| 44 | E8h1 | N-14°-E | 長方形 | 2.0×1.4 | 14~29 | 平坦 | - | 2 | - | 2 | - | 人為 | 土師質土器 | 中世末もしくは近世初頭 |
| 45 | E8d1 | N-54°-E | 不整長方形 | 2.3×2.2 | 72~78 | 平坦 | - | - | 1 (スロ ープ状) | - | - | 人為 | 土師質土器, 陶器 | 16世紀前葉以前の中世 |
| 46 | C3a8 | N-33°-E | 方形 | 2.9×2.7 | 80 | 平坦 | - | - | - | - | - | 自然・人為 | 陶器, 砥石, 古銭 | 15世紀前半以前の中世 |

(3) 地下式坑

第22号地下式坑 (SK2234・2251) (第240図)

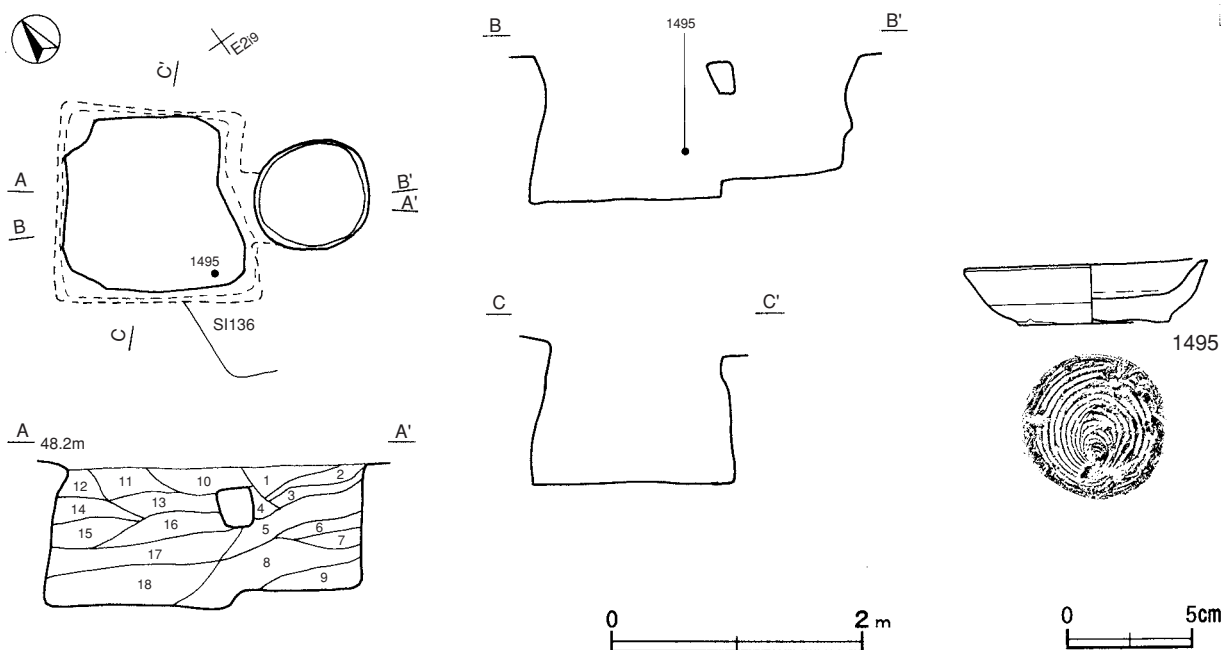
位置 調査区西部1区のB2i8区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第136号住居跡を掘り込んでいる。

竪坑 径が0.9mの円形で, 壁高は90~100cmで直立している。底面は主室の方に緩やかに傾斜し, 竪坑と主室の間に14cmの段差がある。また, 竪坑寄りに一部天井部が残っており, 厚みは33cmで, 天井部から底面までは52cmである。

主室 一辺1.5mの方形で, 主軸方向はN-52°-Wである。壁高は120cmでわずかに内傾している。底面は平坦で, 全体的に軟質である。

覆土 18層に分層される。ロームブロックを含む第17層が天井部の崩落土と考えられる。竪坑はレンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。竪坑が自然堆積している過程で, 天井部が崩落し, 主室も自然堆積したものと考えられる。



第240図 第22号地下式坑・出土遺物実測図

土層解説

| | | | |
|-------|--------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒色 | 鹿沼バミスブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 黒色 | 鹿沼バミス少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒色 | 鹿沼バミスブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒色 | ロームブロック少量, 鹿沼バミスブロック微量 |
| 3 黒色 | ローム粒子微量 | 12 黒色 | ローム粒子・鹿沼バミス少量 |
| 4 黒色 | 鹿沼バミスブロック・ローム粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 14 黒色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | 15 黒色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量 | 16 黒褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼バミスブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼バミス微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 18 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片 5 点（小皿）が出土している。1495は主室の南コーナー部の覆土下層から出土し、残存率が高いことから投棄されたものと考えられる。また、混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 当遺跡で、竪坑と主室の間に天井部が遺存している地下式坑は、本跡のみである。時期は、出土土器から14世紀後半と考えられる。

第22号地下式坑出土遺物観察表（第240図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-----|-----|-----|-----------|------|----|---------|------|------------|
| 1495 | 土師質土器 | 小皿 | 9.6 | 2.5 | 5.9 | 石英・長石・金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 底部回転糸切り | 下層 | 70%, PL110 |

表14 中・近世地下式坑一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 規模 | | | | | | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|----|------|---------|----------|--------|-----|----------|--------|-----|----|----|-------|------------|
| | | | 竪坑 | | | 主室 | | | | | | |
| | | | 長径×短径(m) | 深さ(cm) | 平面形 | 長軸×短軸(m) | 深さ(cm) | 平面形 | | | | |
| 22 | B2i8 | N-52°-W | 0.9×0.9 | 90~100 | 円形 | 1.5×1.5 | 120 | 方形 | 平坦 | 自然 | 土師質土器 | 14世紀後半 |

(4) 火葬土坑

第1号火葬土坑（SK2304）（第241図）

位置 調査区西部1区のC3c5区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第169・203号住居跡，第2338号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.8m，短軸0.61mの不整長方形で，長軸方向はN-0°である。深さは37cmで，壁は直立している。底面の北部は，段状で10cm高くなっている。中央部は火熱で赤変している。

覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第4～6層には骨粉を含み，第2～7層には焼土・炭化物を含んでいる。

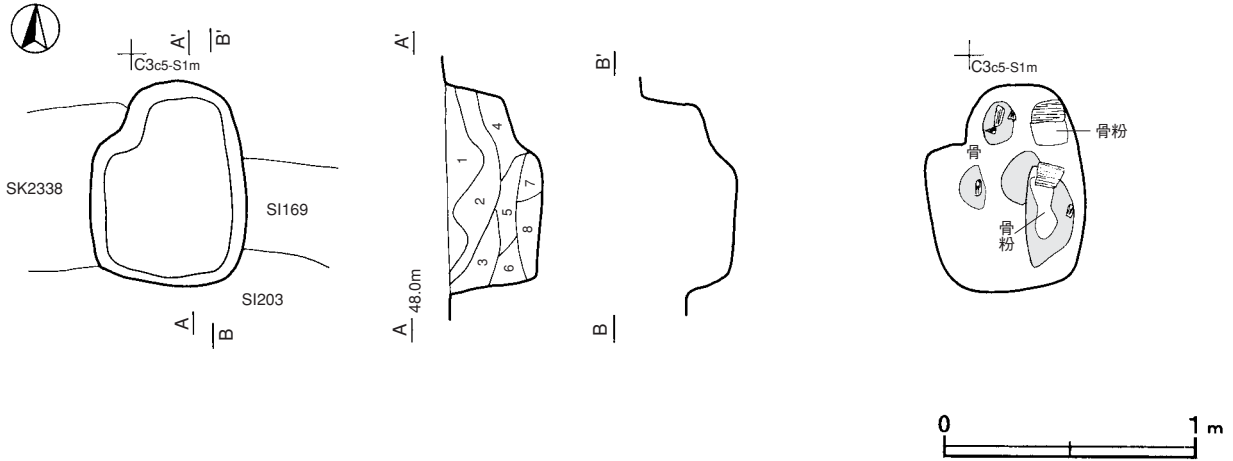
土層解説

| | | | |
|--------|-------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗赤褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・骨粉微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 7 黒色 | 炭化物中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・骨粉微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・小骨片少量 | | |

遺物出土状況 覆土下層から底面にかけて，骨粉・焼土・炭化物が散在している。また，混入した土師器片も

出土している。

所見 骨粉・焼土・炭化物が出土し、底面が赤変していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。また、残されている骨は小片であり、取り出されたと考えられる。火葬骨を埋葬した墓は調査区内では確認されていない。第1～4号火葬土坑は近接しており、本跡を含めた一体が火葬場的なブロックであったと推測できる。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



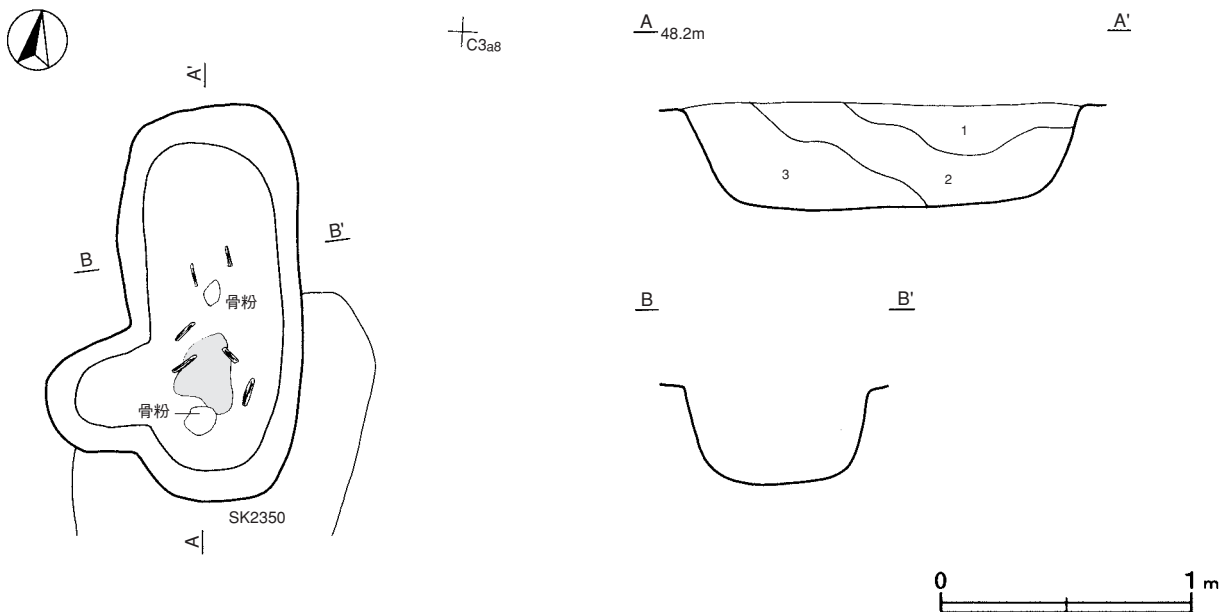
第241図 第1号火葬土坑実測図

第2号火葬土坑 (SK2349) (第242図)

位置 調査区西部1区のC3a7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2350号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 T字状を呈している。燃烧部は長軸1.56m、短軸0.71mの隅丸長方形で、長軸方向はN-8°-Wである。深さは36cmで、壁は外傾して立ち上がっている。通気溝は燃烧部の西壁のやや南寄りにあり、燃烧部と直交し、西壁からの長さ0.32m、幅0.39mである。底面は、ほぼ平坦で、燃烧部の通気溝側の底部が火熱で



第242図 第2号火葬土坑実測図

赤変している。

覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第2・3層には骨粉・焼土・炭化物を含んでいる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|---------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量 | 3 極暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・骨粉微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・骨粉微量 | | |

遺物出土状況 燃焼部の南部の覆土上層から底面にかけて、骨粉・焼土・炭化物が散在している。また、混入した土師器片も出土している。

所見 骨粉・焼土・炭化物が出土し、底面が赤変していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。また、骨粉だけが残されており、骨は取り出されたと考えられる。火葬骨を埋葬した墓は調査区内では確認されていない。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。

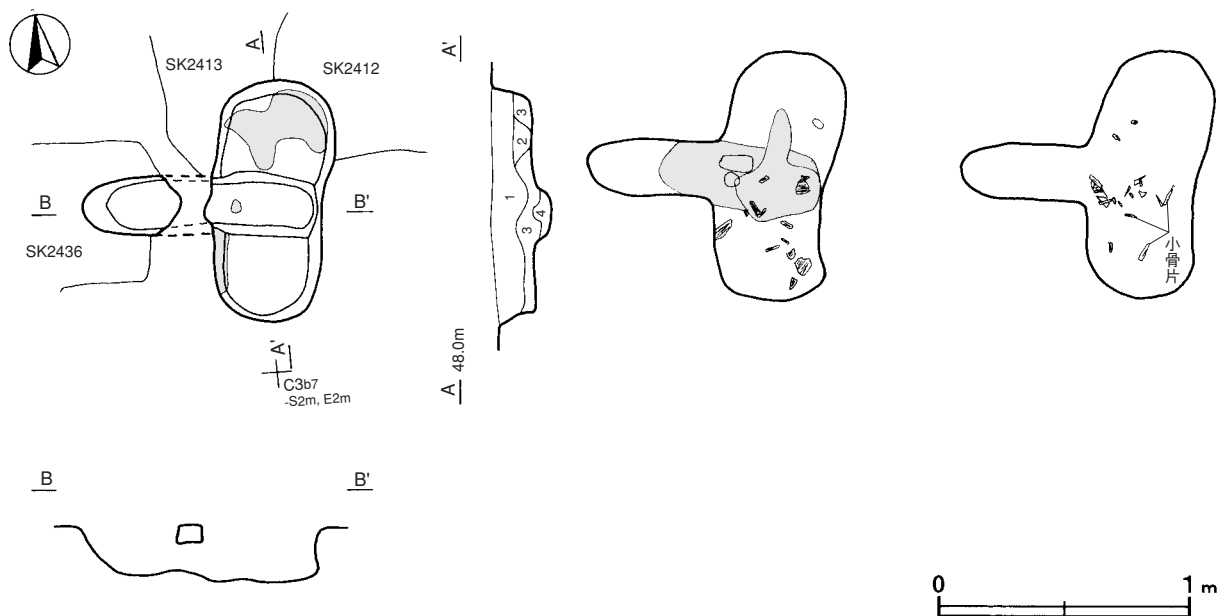
第3号火葬土坑 (SK2396) (第243図)

位置 調査区西部1区のC3b7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2412・2413・2436号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 T字状を呈している。燃焼部は長軸0.96m、短軸0.46mの隅丸長方形で、長軸方向はN-10°-Eである。深さは15~23cmで、壁は外傾して立ち上がっている。通気溝は燃焼部の西壁の中央部にあり、燃焼部と直交し、長さ0.95m、幅0.22m、深さ20cmである。また、通気溝は天井部が遺存しており、厚みは7cm、天井部から底面までは10~15cmである。通気溝は燃焼部より深く掘り込まれ、燃焼部の底部が火熱で赤変している。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第2~4層には骨粉を含み、第1~4層には焼土・炭化物を含んでいる。



第243図 第3号火葬土坑実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 3 極暗褐色 | 炭化物少量, 焼土ブロック・骨片・骨粉微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物・骨粉微量 | 4 黒褐色 | 炭化物中量, 骨片・骨粉微量 |

遺物出土状況 燃焼部南部の覆土下層から底面にかけて、骨片・焼土・炭化材が散在している。また、煙道部の底面からは炭化材が出土している。

所見 骨片・焼土・炭化物が出土し、底面が赤変していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。また、小骨片が多少残されてはいるが、多くの骨は取り出されたと考えられる。火葬骨を埋葬した墓は調査区内では確認されていない。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。

第4号火葬土坑（SK2434）（第244図）

位置 調査区西部1区のC3d3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2374号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部を土坑に掘り込まれているため、南北軸0.43mで、東西軸は0.80mだけが確認された。長軸方向をN-87°-Wとする不整長方形と推測される。深さは4~7cmである。底面は、東部が深く掘り込まれ、北東側が火熱で赤変している。

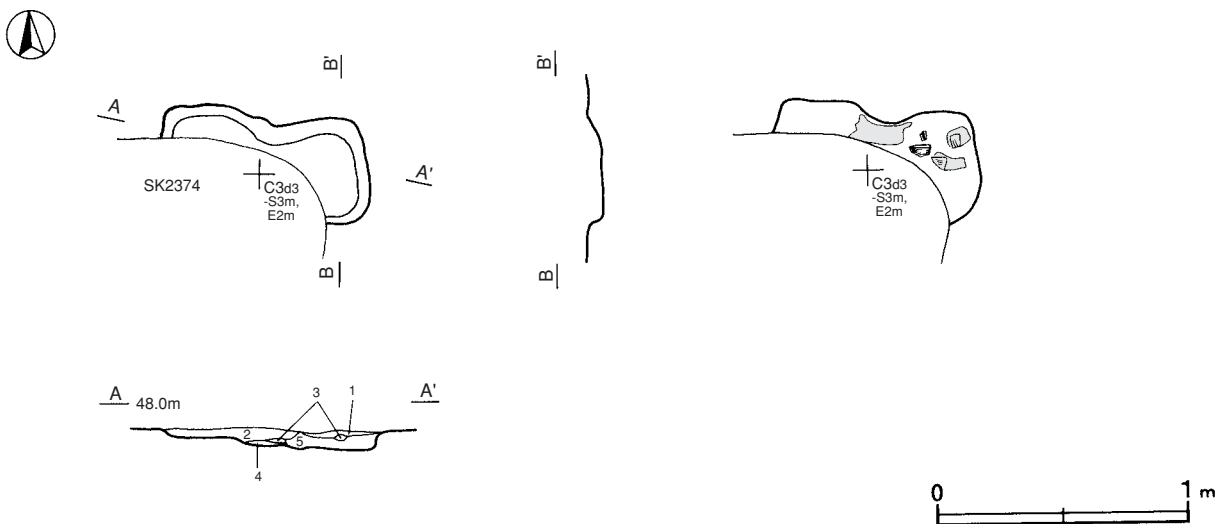
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第1・5層には骨片・骨粉を含み、第1~5層には焼土・炭化物を含んでいる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 骨片・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒色 | 炭化物中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・骨粉微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 燃焼部の西部の覆土上層から底面にかけて、骨片・焼土・炭化物が散在している。

所見 骨片や骨粉・焼土・炭化物が出土し、底面が赤変していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。また、残された骨は小骨片だけであり、取り出されたと考えられる。火葬骨を埋葬した墓は調査区内では確認されていない。検出された部分は、骨片や骨粉・焼土・炭化物が出土していることと形状から、燃焼部と考えられる。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第244図 第4号火葬土坑実測図

第5号火葬土坑 (SK3583) (第245図)

位置 調査区西部2区のB1g8区で、台地上の平坦部に位置している。

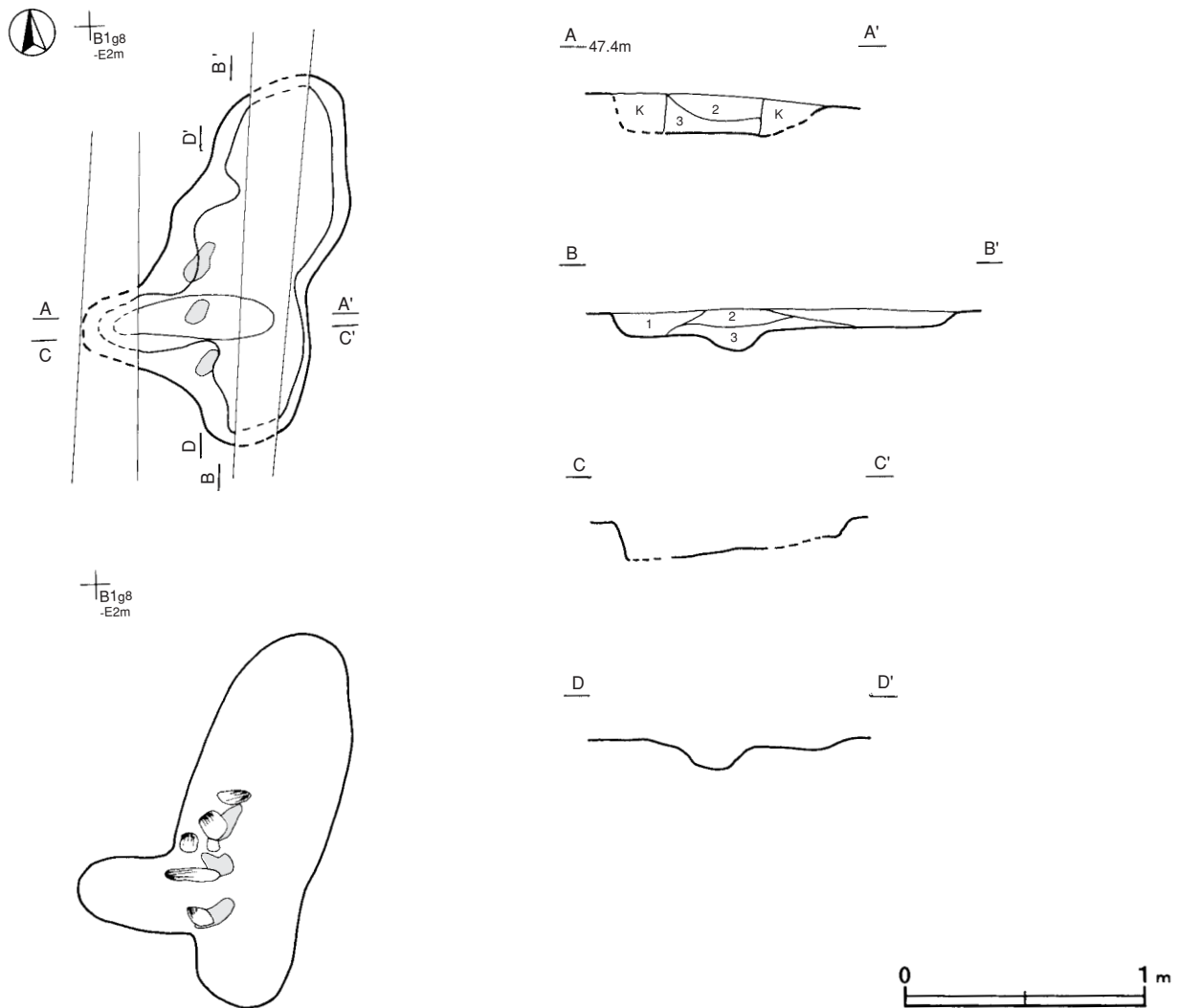
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、T字状を呈していたと推測される。現存する燃烧部の規模は、南北軸が1.48m、東西軸が0.71mである。長軸方向をN-5°-Eとする不整長方形と推測される。深さは8cmである。通気溝は燃烧部の西壁のやや南寄りにあり、燃烧部と直交し、幅0.52m、深さ16cmだけが確認された。通気溝は燃烧部より深く掘り込まれ、燃烧部の通気溝側の底部が火熱で赤変している。

覆土 3層に分層される。薄いが、焼土ブロック・炭化材・骨片を含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・骨粉微量 | 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物・骨片微量 |
| | | 3 黒褐色 | 炭化物中量, 焼土ブロック・骨粉微量 |

遺物出土状況 燃烧部の通気溝側の覆土下層から底面にかけて、骨片・焼土・炭化物が散在して出土している。
 所見 骨片や骨粉・焼土・炭化物が出土し、底面が赤変していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。また、残された骨は小骨片だけであり、取り出されたと考えられる。火葬骨を埋葬した墓は調査区内では確認されていない。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第245図 第5号火葬土坑実測図

表15 中・近世火葬土坑一覽表

| 番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規 模 | | | | | | | 覆土 | 出 土 遺 物 | 備 考 (時 代) |
|----|------|---------|---------|---------------|--------|---------|----|-------|------|--------|----|-----------|--------------|
| | | | | 燃焼部 | | | | 通気溝 | | | | | |
| | | | | 長軸×短軸(m) | 深さ(cm) | 平面形 | 壁 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(cm) | | | |
| 1 | C3c5 | N-0° | 不整長方形 | 0.8 × 0.61 | 37 | 不整長方形 | 直立 | - | - | - | 人為 | 骨片・焼土・炭化物 | 中世 |
| 2 | C3a7 | N-8°-W | T字状 | 1.56 × 0.71 | 36 | 隅丸長方形 | 外傾 | 0.32 | 0.39 | 不明 | 人為 | 骨粉・焼土・炭化物 | 中世 |
| 3 | C3b7 | N-10°-E | T字状 | 0.96 × 0.46 | 15~23 | 隅丸長方形 | 外傾 | 0.95 | 0.22 | 20 | 人為 | 骨片・焼土・炭化物 | 中世 |
| 4 | C3d3 | N-87°-W | [不整長方形] | (0.80) × 0.43 | 4~7 | 不明 | 不明 | - | - | - | 人為 | 骨片・焼土・炭化物 | 中世 |
| 5 | B1g8 | N-5°-E | [T字状] | (1.48 × 0.71) | 8 | [不整長方形] | 不明 | 不明 | 0.52 | 16 | 人為 | 骨片・焼土・炭化物 | 中世 |

(5) 土壙墓

第13号土壙墓 (SK2547) (第246図)

位置 調査区西部1区のC2b0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第194号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.71m、短軸0.57mの長方形で、長軸方向はN-64°-Eである。深さは18cmであり、底面はほぼ平坦で、外傾して立ち上がっている。

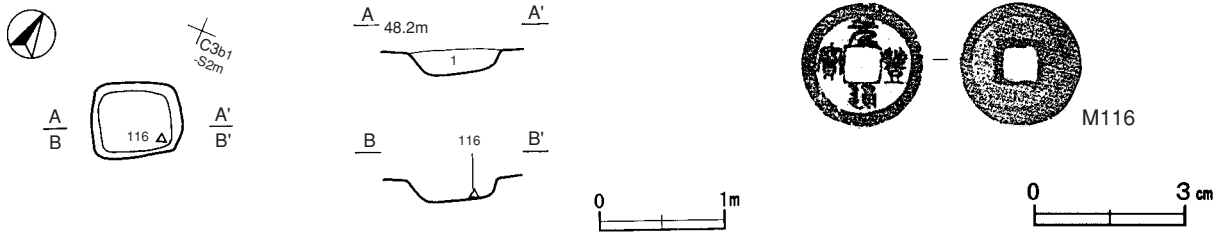
覆土 単一層である。骨粉や古銭が出土し、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・骨粉微量

遺物出土状況 古銭1枚(元豊通寶)と骨粉が覆土中から出土している。骨粉は覆土中に散在している。M116は南部の覆土下層から出土している。

所見 覆土中から骨粉と古銭が出土していることと、覆土に火熱痕跡がなく形状が長方形で人為堆積を示していることから、土壙墓と考えられる。埋葬形態は、遺構の形状から屈葬と推測される。時期は、北宋銭が副葬されていることから、中世と考えられる。



第246図 第13号土壙墓・出土遺物実測図

第13号土壙墓出土遺物観察表 (第246図)

| 番号 | 銭名 | 径 | 孔 | 重量 | 初鑄年 | 材質 | 特 徴 | 出土位置 | 備 考 |
|------|------|------|------|-----|-----------|----|---------|------|-------|
| M116 | 元豊通寶 | 2.47 | 0.71 | 2.9 | 1078 (北宋) | 銅 | 無背銭, 篆書 | 下層 | PL121 |

第14号土墳墓（SK2254）（第247図）

位置 調査区西部1区のC2a8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第46号方形竪穴遺構，第55号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.02m，短軸1.00mの長方形で，長軸方向はN-24°-Eである。深さは80cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

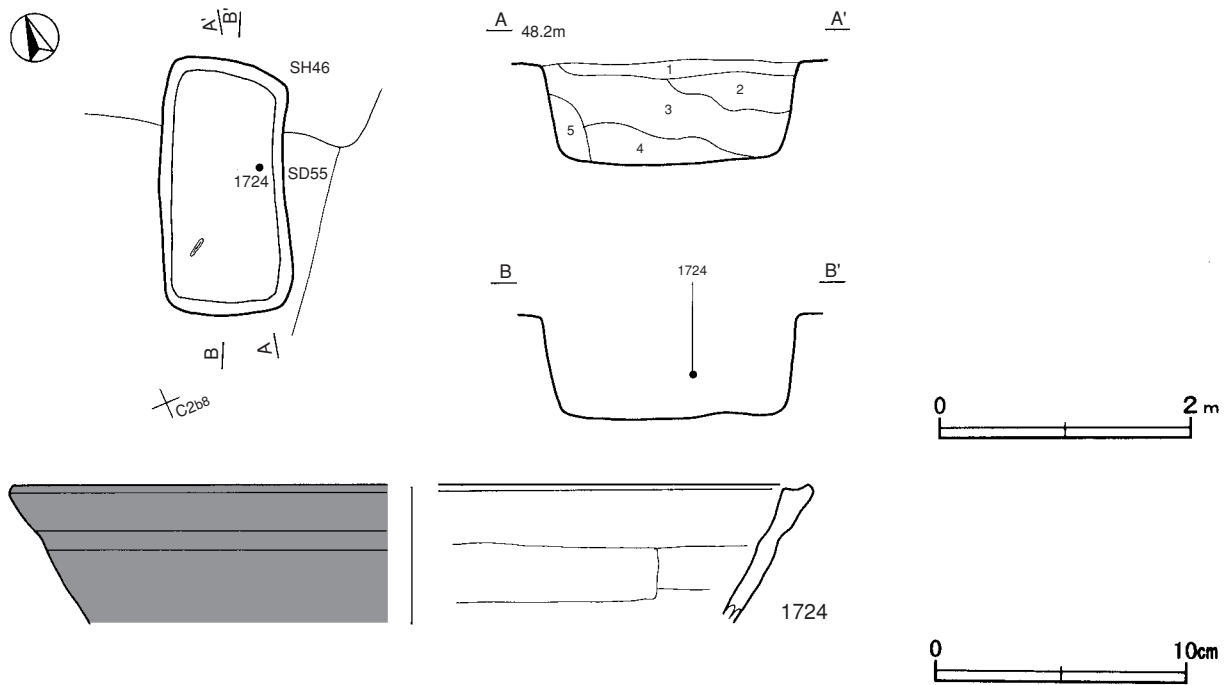
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第4層には骨粉を含んでいる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック多量，骨粉微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳鍋），陶器片1点（碗），骨片・骨粉が出土している。1724は東壁際の覆土下層から出土している。骨粉は覆土下層から散在して出土し，骨片は西壁際の底面から出土している。骨片は太い筒状を呈していることから，大腿骨の可能性が高い。また，混入した土師器片も出土している。

所見 骨片や骨粉が出土していることと，覆土に火熱痕跡がなく，形状が長方形で人為堆積を示していることから土葬墓と考えられる。埋葬形態は，遺構の規模から伸展葬と推測される。時期は，15世紀前半と考えられる第46号方形竪穴遺構を掘り込んでいることや内耳鍋片が出土していることから，15世紀前半以降の中世もしくは近世前半と考えられる。



第247図 第14号土墳墓・出土遺物実測図

第14号土墳墓出土遺物観察表（第247図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|----|-----------|------|----|------------------|------|-------------|
| 1724 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [31.3] | (5.5) | - | 石英・長石・金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 口縁部外面沈線，体部内面ヘラナデ | 下層 | 5%，口縁部外面煤附着 |

第15号土墳墓 (SK3325) (第248・249図)

位置 調査区中央部5区のE 8 il区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3532号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.46m、短軸2.34mのほぼ方形で、長軸方向はN-18°-Eである。深さは35cmで、底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

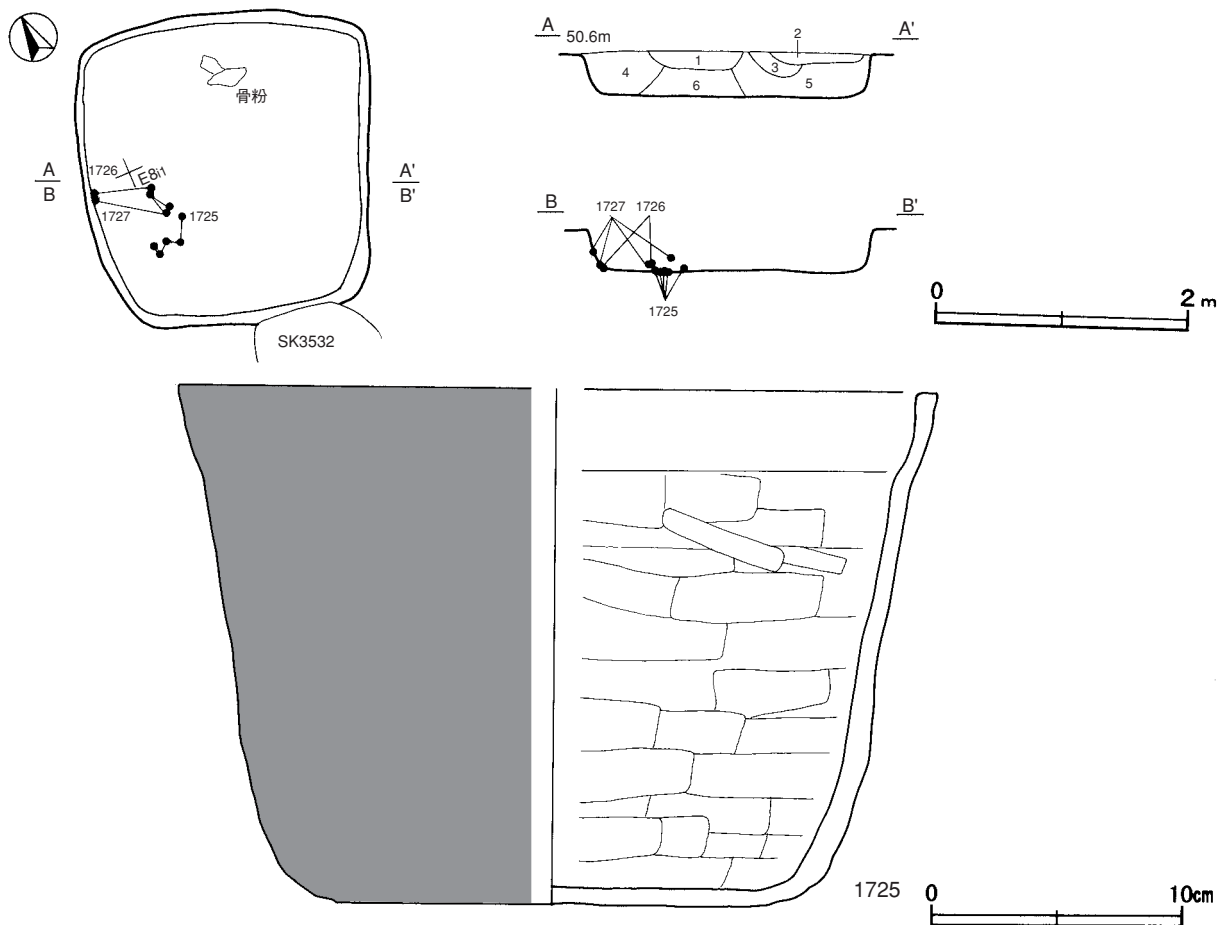
覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第6層は骨粉を含んでいる。

土層解説

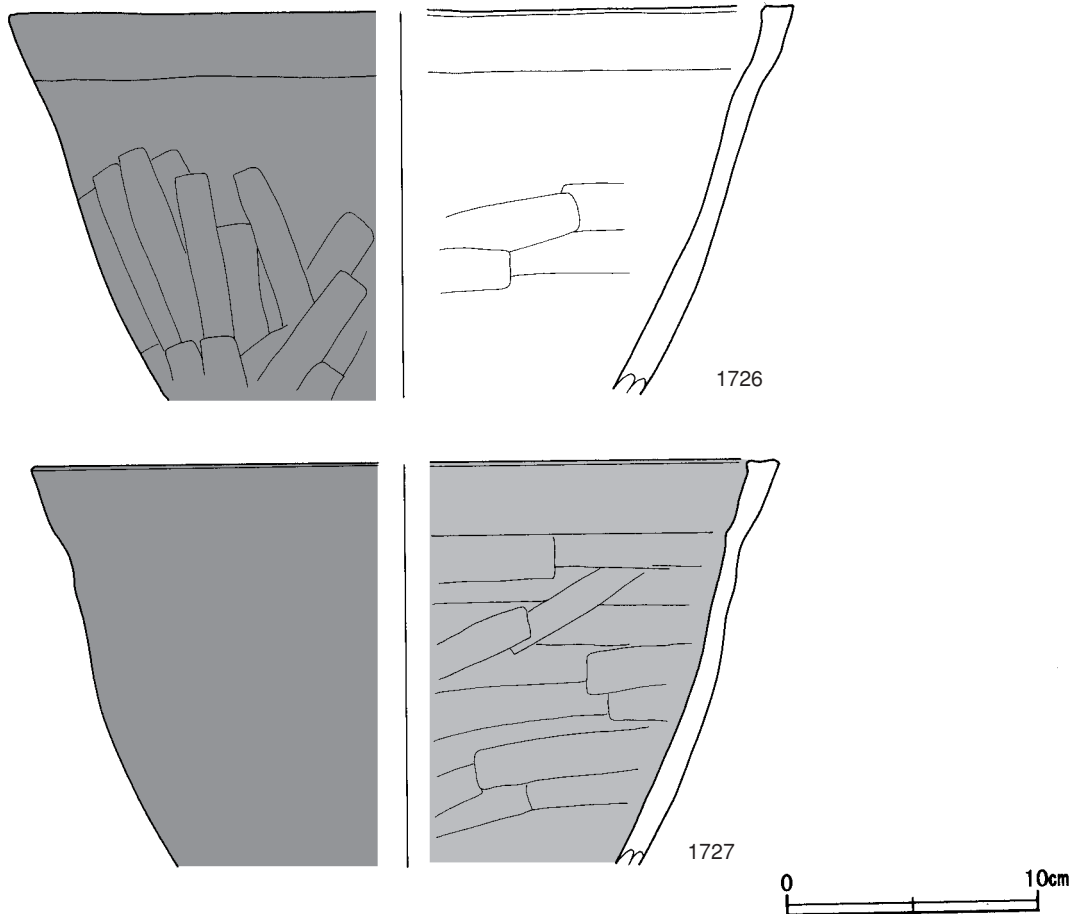
| | | | |
|-------|------------------------|------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 | 5 褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック・骨粉微量 |

遺物出土状況 土師質土器片42点 (内耳鍋), 骨片・骨粉が出土している。1727は西部の覆土中層から底面にかけて出土した破片が, 1726は西部の覆土下層から底面にかけて出土した破片が, 1725は西部の覆土下層から底面にかけて出土した破片が接合したものである。これらの土器は、意図的に投棄されたものと考えられる。骨粉は北部の覆土下層から底面にかけて出土している。骨片は北部の底面から出土し板状を呈していることから、頭骨の可能性が考えられる。

所見 骨片や骨粉が出土していることと、覆土に火熱痕跡がなく、形状が方形で人為堆積を示していることから土墳墓と考えられる。埋葬形態は、遺構の規模から伸展葬と推測される。時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀と考えられる。



第248図 第15号土墳墓・出土遺物実測図



第249図 第15号土壙墓出土遺物実測図

第15号土壙墓出土遺物観察表 (第248・249図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|--------|------|--------|------|----|------------------------|-------|----------------|
| 1725 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [29.6] | 20.4 | 16.4 | 長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内面ヘラナデ | 下層・底面 | 60%, 体・底部外面煤付着 |
| 1726 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [30.9] | (15.4) | — | 長石・金雲母 | 橙 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ, 体部内・外面ヘラナデ | 下層・底面 | 30%, 体部外面煤付着 |
| 1727 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [29.2] | (16.0) | — | 長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 口縁部内面横ナデ, 体部内面ヘラナデ | 中層～底面 | 20%, 体部外面煤付着 |

第19号土壙墓 (SK3088) (第250図)

位置 調査区中央部5区のE 8 h4区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3087号土坑, 第65号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.83m, 短軸1.04mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-86°-Wである。深さは24cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。第1・2層とも骨粉を含んでいる。

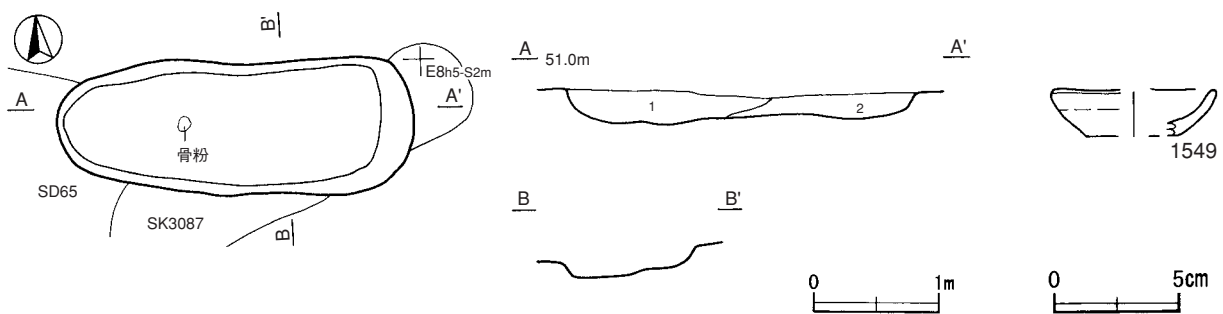
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量, 鹿沼バミスブロック・骨粉微量 2 黒褐色 ロームブロック多量, 骨粉微量

遺物出土状況 土師質土器片4点（小皿3，内耳鍋1），骨粉が出土している。1549は覆土中から出土し，破断面が摩滅していることから混入したものと考えられる。骨粉は中央部の底面及び覆土中から出土している。

また，混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 骨粉が出土していることと，形状が隅丸長方形で人為堆積を示していることから，土葬墓と考えられる。埋葬形態は，遺構の規模から伸展葬と推測される。時期は，18世紀前葉に廃絶した溝を掘り込んでいることと出土遺物から，18世紀中葉ごろと考えられる。



第250図 第19号土壙墓・出土遺物実測図

第19号土壙墓出土遺物観察表（第250図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-------|-----|----|----|-------------|------|-----|
| 1549 | 土師質土器 | 小皿 | [6.4] | 1.8 | [3.6] | 白雲母 | 灰白 | 普通 | 白かわらけ，ロクロナデ | 覆土中 | 20% |

第20号土壙墓（SK3084）（第251図）

位置 調査区中央部5区のE8h4区で，台地上の平坦部に位置している。

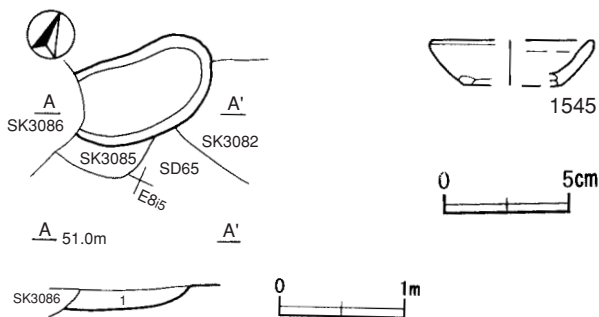
重複関係 第3082・3085号土坑，第65号溝を掘り込み，第3086号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 土坑に掘り込まれているため，南北軸は0.70mで，東西軸は1.08mだけが確認された。長軸方向をN-49°-Eとする不整長方形と推測される。深さは16cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックや粘土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック・骨粉微量



遺物出土状況 土師質土器片3点（小皿1，内耳鍋2），骨粉が出土している。1545は覆土中から出土している。

所見 覆土中から骨粉が出土していることと形状から土葬墓と考えられる。埋葬形態は，遺構の規模から伸展葬と推測される。時期は，18世紀前葉に廃絶した溝を掘り込んでいることと出土遺物から，18世紀中葉ごろと考えられる。

第251図 第20号土壙墓・出土遺物実測図

第20号土墳墓出土遺物観察表（第251図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|-------|-----|-------|-----|-----|----|-------------|------|-----|
| 1545 | 土師質土器 | 小皿 | [6.4] | 1.9 | [4.0] | 白雲母 | 浅黄橙 | 普通 | 白かわらけ、ロクロナデ | 覆土中 | 30% |

表16 中・近世土墳墓一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 (時期) |
|----|------|-----------|---------|----------------|--------|----|----|----|-----------------------|-----------------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸)(m) | 深さ(cm) | | | | | |
| 13 | C2b0 | N-64° - E | 長方形 | 0.71 × 0.57 | 18 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 古銭, 骨粉 | 中世 |
| 14 | C2a8 | N-24° - E | 長方形 | 2.02 × 1.00 | 80 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 陶器細片, 骨片・骨粉 | 15世紀前半以降の 中世もしくは近世 |
| 15 | E8i1 | N-18° - E | 方形 | 2.46 × 2.34 | 35 | 直立 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 骨片・骨粉 | 15世紀後半から16世紀 |
| 19 | E8h4 | N-86° - W | 隅丸長方形 | 2.83 × 1.04 | 24 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 骨粉 | 18世紀中葉ごろ |
| 20 | E8h4 | N-49° - E | [不整長方形] | 0.70 × (1.08) | 16 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器, 骨粉 | 18世紀中葉ごろ |

(6) 井戸跡

第71号井戸跡（第252図）

位置 調査区中央部5区のE 8g5区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3482・3483号土坑，ピット（1か所）に掘り込まれている。

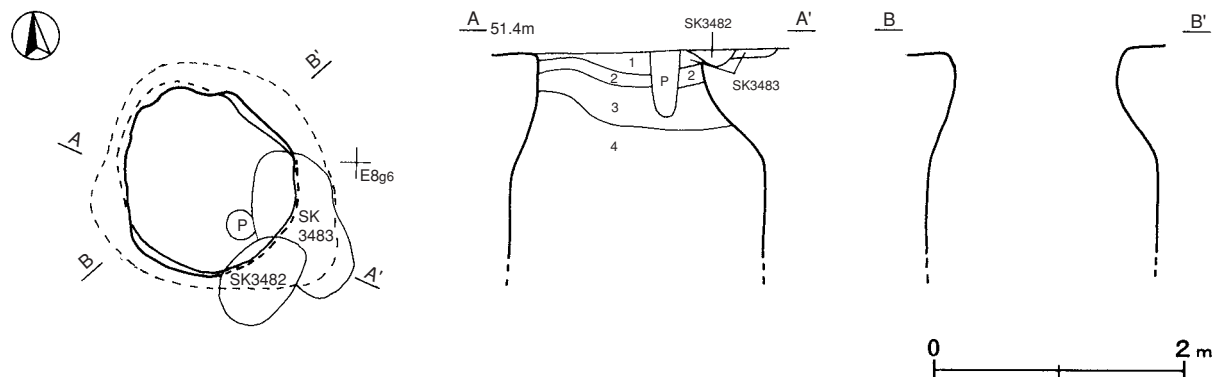
規模と形状 長径1.40m，短径1.36mの不整円形である。円筒状に掘り込まれ，外側に14～52cmめぐれている。湧水のため深さ1.6mまでしか確認できなかった。

覆土 4層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・ 鹿沼パミスブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | 鹿沼パミスブロック中量，ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量，鹿沼パミスブロック微量 |

遺物出土状況 陶器細片1点（碗），瓦質土器1点（鉢カ）が覆土中から出土している。また，混入した縄文土器片と土師器片が出土している。



第252図 第71号井戸跡実測図

所見 廃絶時期は、陶器細片などが出土していることから、中世後半もしくは近世と考えられる。18世紀前葉に廃絶したと考えられる掘立柱建物跡や溝に近接し、周囲にある井戸が17世紀前半から18世紀中葉にかけて廃絶されたと考えられることから、17世紀前半から18世紀中葉の可能性も高いと推測される。

第72号井戸跡（第253図）

位置 調査区中央部5区のE 8 h9区で、台地上の平坦部に位置している。

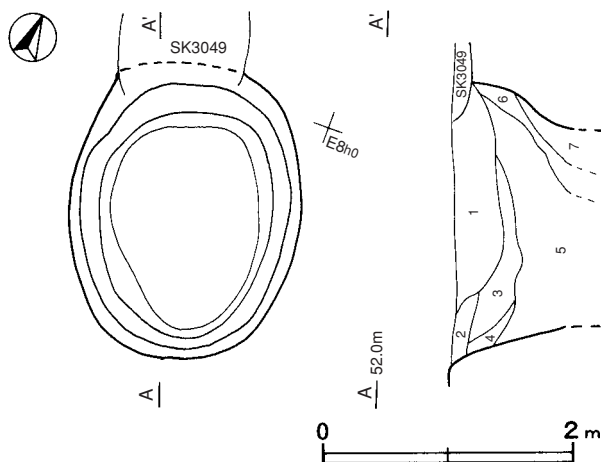
重複関係 第3049号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.30m、短径1.86mの楕円形で、長径方向はN-18°-Wである。漏斗状に掘り込まれているが、湧水のため深さ0.9mまでしか確認できなかった。

覆土 7層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，鹿沼パミス微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，鹿沼パミス微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，鹿沼パミス微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量，鹿沼パミス微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量，鹿沼パミスブロック少量 | | |



第253図 第72号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師質土器細片1点（内耳鍋）が覆土中から出土している。また、混入した縄文土器片が出土している。

所見 廃絶時期は、内耳鍋片が出土し18世紀前半と考えられる土坑に掘り込まれていることから、18世紀前半以前の中世もしくは近世と考えられる。周囲にある井戸が17世紀前半から18世紀中葉にかけて廃絶されたと考えられ、同時期に機能していた可能性も高いと推測される。

第73号井戸跡（第254図）

位置 調査区中央部5区のE 7 g0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3306号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.40m、短径2.22mの円形である。深さ0.8mまでは漏斗状で、それ以下は長径1.24m、短径1.16mで円筒状に掘り込まれている。湧水のため深さ1.5mまでしか確認できなかった。

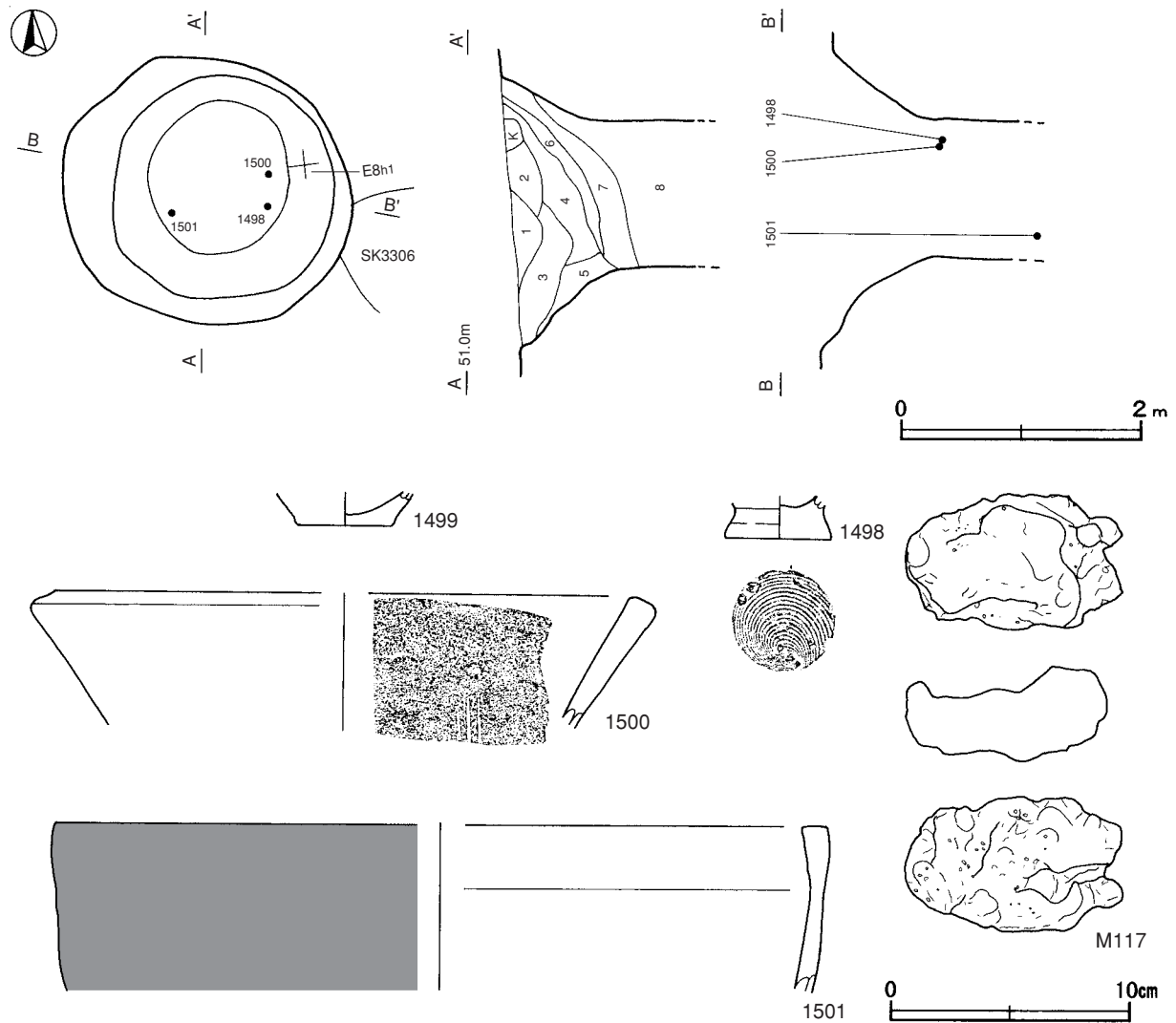
覆土 8層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミスブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量，鹿沼パミスブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量，鹿沼パミス微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量，鹿沼パミス微量 |

遺物出土状況 土師質土器片29点（小皿2，内耳鍋25，搦鉢2），瓦質土器1点（搦鉢），鉄滓19点が出土している。1499・M117は覆土中，1498・1500は覆土中層，1501は地下水面のやや下からそれぞれ出土しており，埋め戻す際に投棄したものと考えられる。また，混入した縄文土器片・土師器片・須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は，出土土器から近世前半と考えられる。18世紀前葉に廃絶したと考えられる掘立柱建物跡や溝に近接し，周囲にある井戸が17世紀前半から18世紀中葉にかけて廃絶されていると考えられることから，17世紀前半から18世紀中葉にかけての可能性も高いと推測される。



第254図 第73号井戸跡・出土遺物実測図

第73号井戸跡出土遺物観察表（第254図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|--------|-------|-------|------------|------|----|-----------|------|---------------------|
| 1498 | 土師質土器 | 小皿 | — | (1.8) | 4.4 | 金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転糸切り | 中層 | 10% |
| 1499 | 土師質土器 | 小皿 | — | (1.4) | [3.8] | 長石 | にぶい橙 | 普通 | 底部回転糸切り | 覆土中 | 10% |
| 1500 | 瓦質土器 | 搦鉢 | [24.0] | (5.5) | — | 石英・長石・赤色粒子 | 褐 | 普通 | 3条1単位の播り目 | 中層 | 5%，口縁部内・外面火熱痕，酸化炎焼成 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|----|-----------|-------|----|---------------------------------|-------|-------------|
| 1501 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [32.0] | (6.9) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 体部内・外面ナデ, 口縁部内面横ナデ, 体部直線的に立ち上がる | 地下水面下 | 5%, 体部外面煤付着 |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|-----|-----|-----|-------|----|--------------------------------|------|----|
| M117 | 椀状滓 | 5.6 | 9.0 | 3.9 | 224.0 | 鉄 | 断面碗形, 空気排出孔が多数, 着磁性なし, 表面錆で赤褐色 | 覆土中 | |

第74号井戸跡 (第255図)

位置 調査区中央部5区のE8i5区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第65号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.04m, 短径0.88mの楕円形で, 長径方向はN-0°である。円筒状に掘り込まれているが, 湧水のため深さ1.35mまでしか確認できなかった。

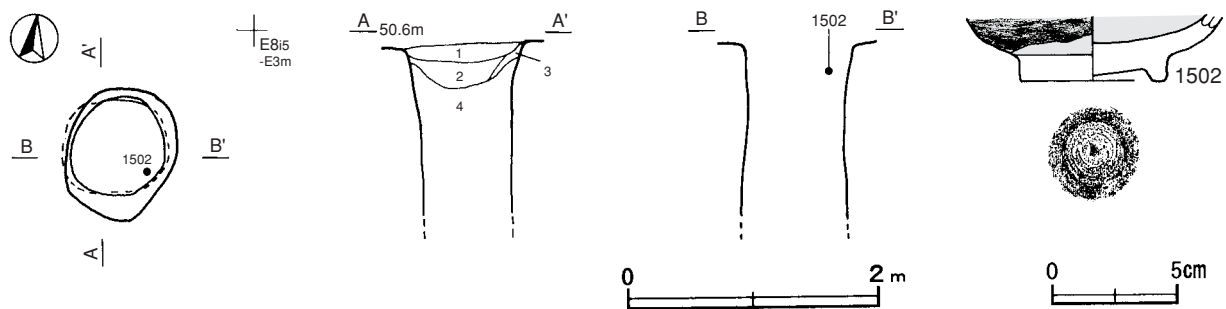
覆土 4層に分層される。ロームブロックや粘土ブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・鹿沼バミス微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼バミス微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片8点(小皿3, 内耳鍋5), 瓦質土器1点(甕), 陶器1点(丸碗)が出土している。1502は覆土上層から出土し, 破断面が摩滅していないことから, 埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。また, 混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 覆土上層から出土した陶器は, 本跡の最終段階の遺物ととらえることができる。廃絶時期は, 18世紀前葉に廃絶したと考えられる溝を掘り込んでいることや投棄された陶器の生産年代が17世紀後葉から18世紀前葉に位置づけられることから, 18世紀中葉頃と考えられる。また, 井戸は溝の廃絶時期と出土した陶器の生産年代が近いことから, 溝廃絶後すぐに掘られたと推測される。



第255図 第74号井戸跡・出土遺物実測図

第74号井戸跡出土遺物観察表 (第255図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 絵付・施釉 | 手法の特徴 | 産地・年代 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|----|-------|-----|----------|-------|-----------------------------|--------------------------|------|-----------|
| 1502 | 陶器 | 漆黒釉丸碗 | — | (2.6) | 5.6 | 黒褐・オリープ黄 | 漆黒釉 | 削り出し輪高台, 体部内・外面・高台内施釉, 豊付無釉 | 瀬戸産, 連房登窯Ⅲa期 (1670~1710) | 上層 | 20% PL123 |

第75号井戸跡 (第256・257図)

位置 調査区中央部5区のE 8:9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第63・64号溝跡，第3039号土坑を掘り込み，第21号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.04m，短径1.98mの円形である。漏斗状に掘り込まれているが，深さ1.5mまでしか確認できなかった。

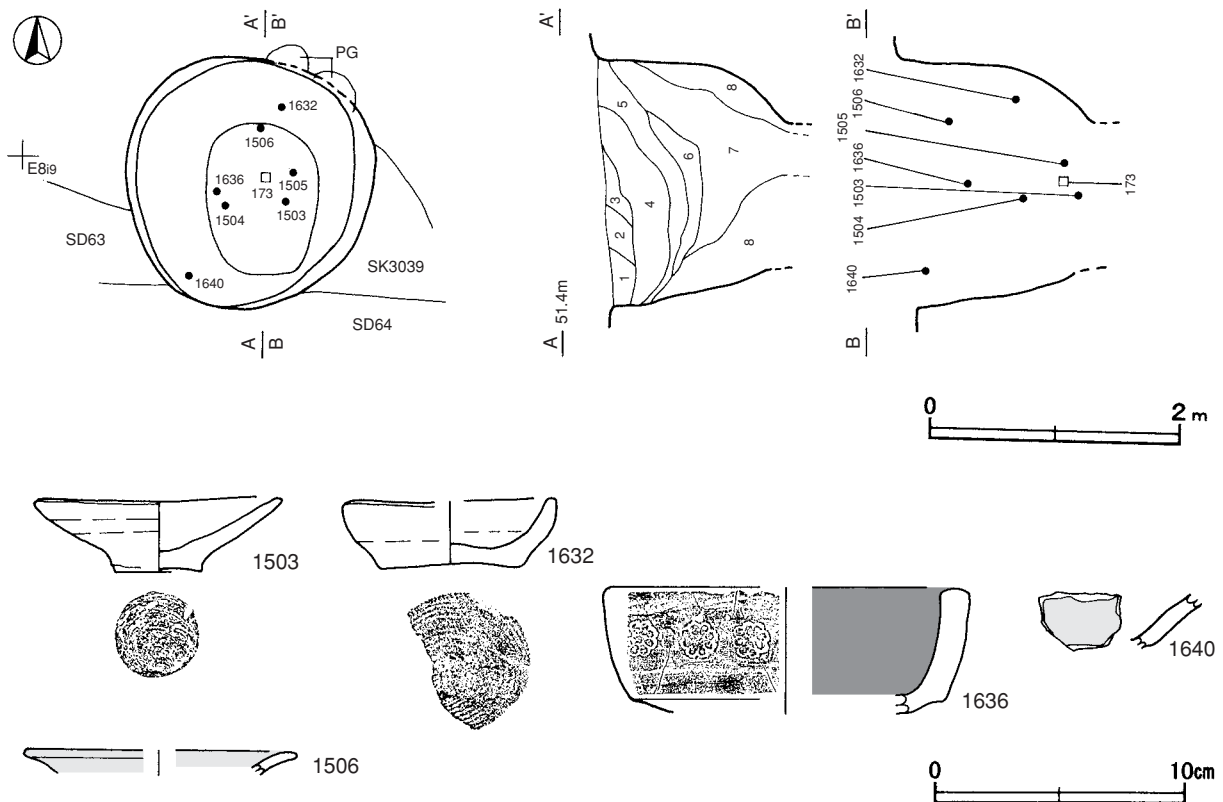
覆土 8層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスブロック及び粘土ブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

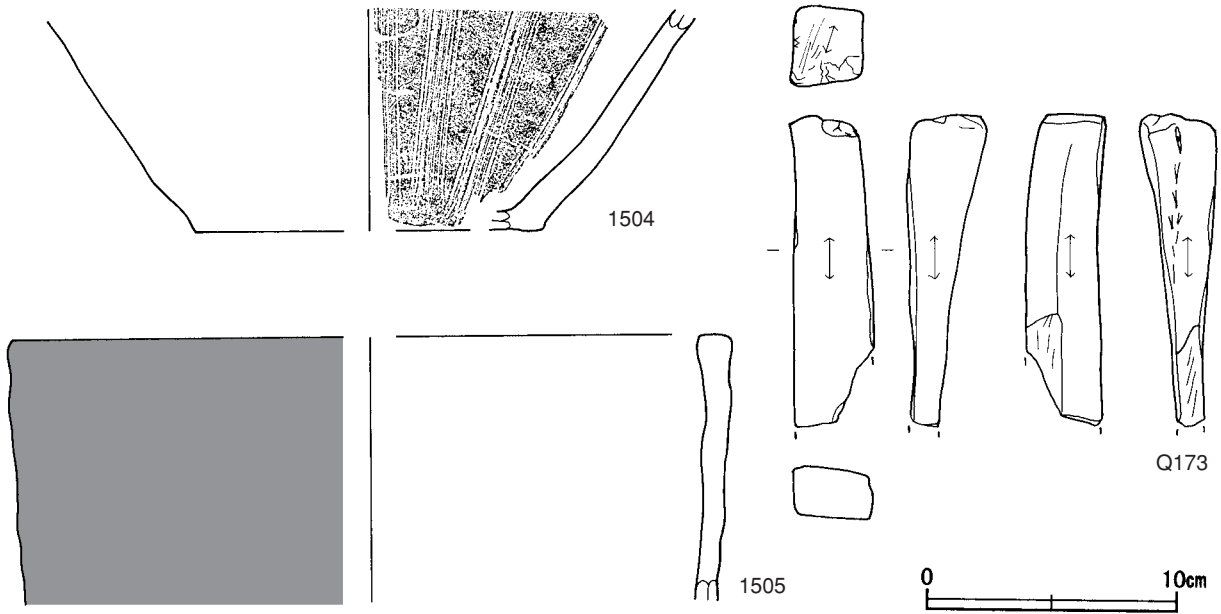
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量，鹿沼パミス少量，粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック中量，鹿沼パミス・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・鹿沼パミス微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | | |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック・鹿沼パミス微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片10点 (小皿2，内耳鍋8)，瓦質土器4点 (香炉1，播鉢2，甕1)，陶器2点 (灰釉輪壳皿)，石器1点 (砥石) が出土している。1506は中央部の，1640は南部の覆土上層から，1504・1636は中央部の，1632は北部の覆土中層から，1503・1505・Q173は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。また，混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 廃絶時期は，18世紀前葉に廃絶したと考えられる溝を掘り込んでいることや出土した陶器の生産年代が18世紀前半に位置づけられることから，18世紀中葉頃と考えられる。また，井戸は溝の廃絶時期と出土した陶器の生産年代が近いことから，溝廃絶後すぐに掘られたと推測される。



第256図 第75号井戸跡・出土遺物実測図



第257図 第75号井戸跡出土遺物実測図

第75号井戸跡出土遺物観察表（第256・257図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|--------|--------|-----------|-----|----|-----------------------------|------|--------------------|
| 1503 | 土師質土器 | 小皿 | 9.5 | 2.9 | 3.4 | 石英・長石 | 浅黄橙 | 普通 | 白かわらけ，底部回転糸切り | 下層 | 100%，PL110 |
| 1632 | 土師質土器 | 小皿 | [8.4] | 2.7 | 5.4 | 金雲母 | 橙 | 普通 | 底部回転糸切り後，ナデ，底部内面ロクロナデ | 中層 | 50% |
| 1505 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [28.4] | (10.5) | — | 石英・長石・金雲母 | 橙 | 普通 | 内・外面ナデ調整 | 下層 | 5%， 外面煤付着 |
| 1636 | 瓦質土器 | 香炉 | [14.4] | (5.0) | — | 長石・金雲母 | 灰 | 普通 | 体部外面菊花文（印文）押擦 | 中層 | 20%， 内面煤付着PL117 |
| 1504 | 瓦質土器 | 播鉢 | — | (8.8) | [13.1] | 石英・白雲母 | 灰褐 | 普通 | 12条1単位の播り目，1単位内での播り目の深さが異なる | 中層 | 5% PL116 |

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 絵付・施釉 | 手法の特徴 | 産地・年代 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|-------|--------|-------|----|-------|-------|----------------|------------------------|------|----|
| 1506 | 陶器 | 灰釉輪壳皿 | [10.6] | (1.0) | — | 浅黄・灰白 | 灰釉 | 口縁部外反り，貫入多し | 瀬戸産，連房登窯Ⅲb期（1710～1750） | 上層 | 5% |
| 1640 | 陶器 | 灰釉輪壳皿 | — | (2.2) | — | 灰白・黄灰 | 灰釉 | 貫入多し，外反して立ち上がる | 瀬戸産，連房登窯Ⅲb期（1710～1750） | 上層 | 5% |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|----|--------|-----|-----|---------|-----|------------|------|-------|
| Q173 | 砥石 | (12.2) | 3.2 | 3.0 | (141.0) | 凝灰岩 | 砥面5面，断面長方形 | 下層 | PL120 |

第76号井戸跡（第258図）

位置 調査区中央部5区のE8i8区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第64号溝に掘り込まれている。

規模と形状 上部を溝に掘り込まれているため，確認された規模は，径1.46mの円形である。漏斗状に掘り込まれているが，湧水のため深さ1.4mまでしか確認できなかった。

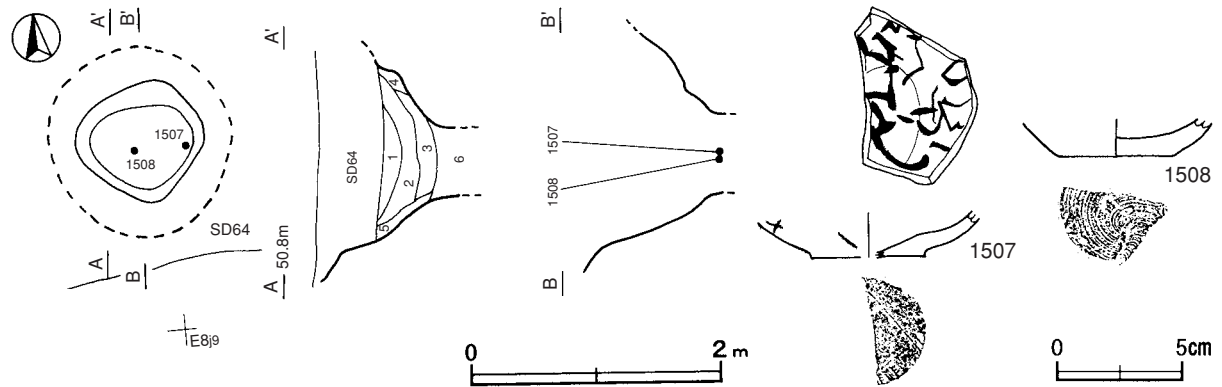
覆土 6層に分層される。ロームブロックや粘土ブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | 4 褐色 | 粘土粒子多量, ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 5 暗黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 6 褐灰色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)が出土している。1507・1508は中央部の覆土下層からの出土で、破断面が摩滅していないことから廃絶後間もない時期に投棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は、出土土器から17世紀前半と考えられる。



第258図 第76号井戸跡・出土遺物実測図

第76号井戸跡出土遺物観察表 (第258図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|----|-------|-------|--------|----|----|---------------------|------|---------------------------|
| 1507 | 土師質土器 | 小皿 | — | (1.9) | [4.4] | 長石 | 橙 | 普通 | 底部内面指ナデ, 底部外面スノコ状圧痕 | 下層 | 20%, 体部内・外面墨書(習書痕), PL118 |
| 1508 | 土師質土器 | 小皿 | — | (1.5) | [4.5] | 長石・白雲母 | 灰黄 | 普通 | 体部内面ロクロナデ, 底部回転糸切り | 下層 | 20% |

第77号井戸跡 (第259・260図)

位置 調査区中央部5区のE 8 i6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第62号溝跡を掘り込み、第3077・3078号土坑、第65号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径は4.30mで、短径は3.86mのほぼ円形で、長径方向はN-0°と推測される。深さ1.5mまでは漏斗状に、それ以下は長径2.14m、短径1.81mで円筒状に掘り込まれている。湧水のため深さ2.0mまでしか確認できなかった。

覆土 18層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスブロック及び粘土ブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

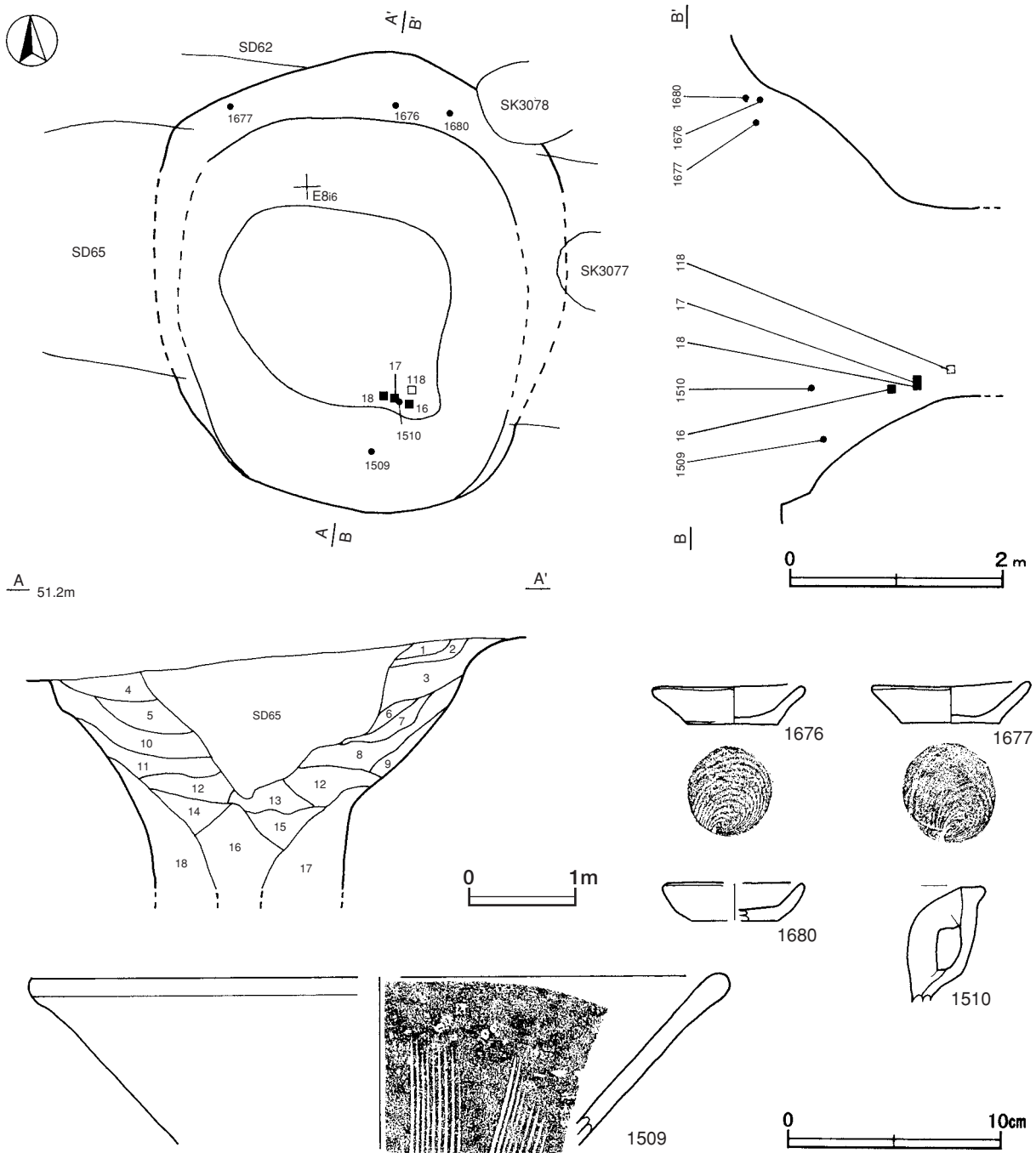
土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 鹿沼パミスブロック・炭化粒子・粘土粒子・褐鉄鉱粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 8 灰褐色 | 褐鉄鉱粒子少量, ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック・鹿沼パミス微量 | 9 灰黄褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス少量, 粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック少量 | 10 暗褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化材・褐鉄鉱粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量, 鹿沼パミス微量 | 11 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック中量, ローム粒子少量, 褐鉄鉱粒子微量 |
| 6 灰黄褐色 | 鹿沼パミス少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・褐鉄鉱粒子微量 | | |

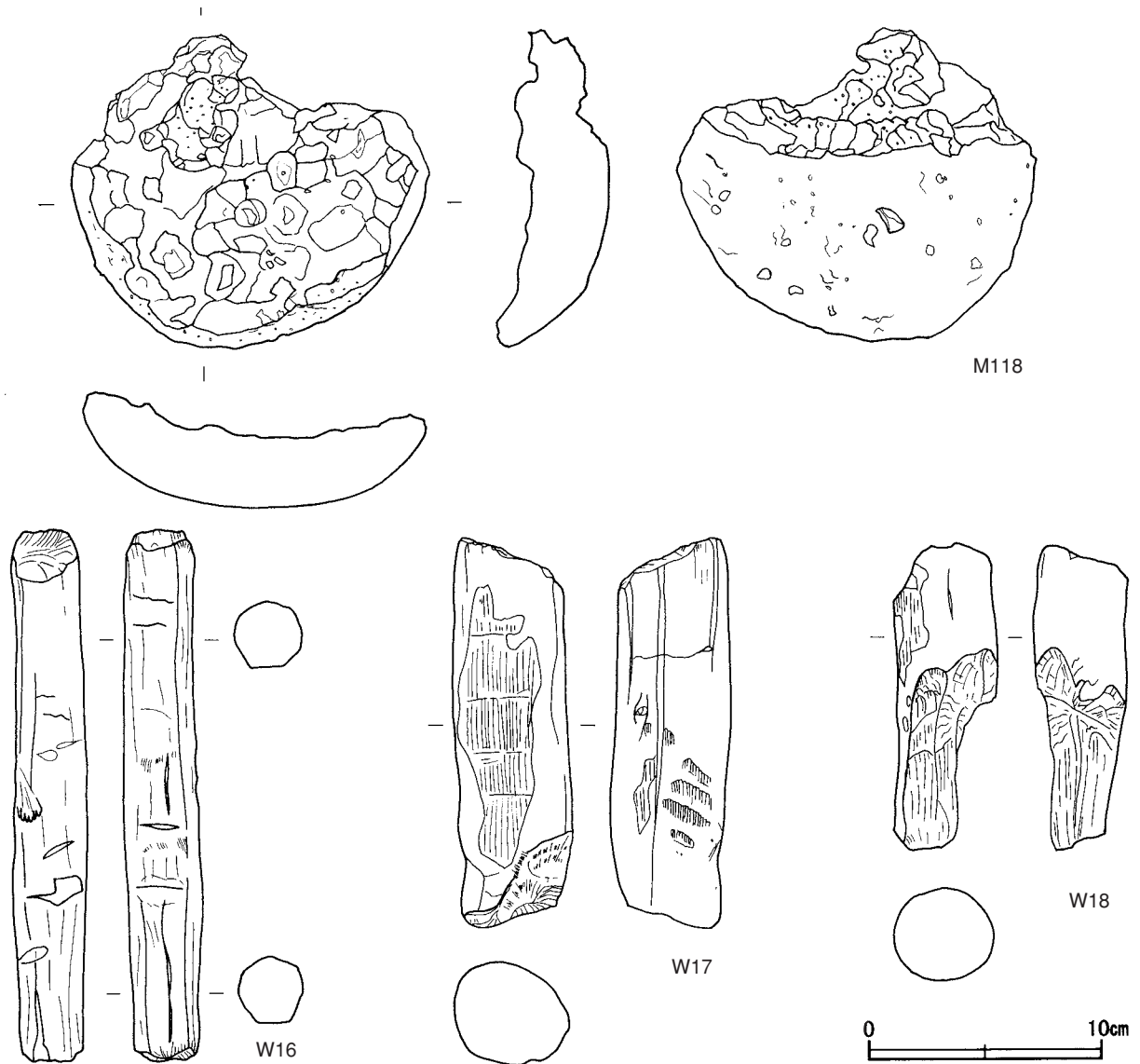
- | | |
|--|-------------------------------|
| 12 黒褐色 鹿沼バミスブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 黒褐色 鹿沼バミスブロック少量, ローム粒子微量 |
| 13 灰褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量 | 16 灰黄褐色 鹿沼バミスブロック中量, ローム粒子少量 |
| 14 灰黄褐色 鹿沼バミスブロック多量, ロームブロック微量 | 17 黒褐色 鹿沼バミスブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | 18 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 鹿沼バミス微量 |

遺物出土状況 土師質土器片 5 点 (小皿 3, 播鉢 1, 内耳鍋 1), 瓦質土器 1 点 (播鉢), 椀状滓 1 点, 木片 3 点 (丸太材 1, 杭 2) が出土している。1676・1677・1680は北部の, 1509は南部の, 1510は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。1676・1677は残存率が高く, また, 1680・1509は破断面が摩滅しておらず, 投棄されたものと考えられる。W16~18・M118は中央部の覆土下層から出土している。

所見 覆土上層に投棄された土器は, 本跡の最終段階の遺物と判断できる。廃絶時期は, 17世紀後葉と考えられる溝に掘り込まれていることと出土土器から, 17世紀中葉と考えられる。



第259図 第77号井戸跡・出土遺物実測図



第260図 第77号井戸跡出土遺物実測図

第77号井戸跡出土遺物観察表 (第259・260図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|-------|-----------|-------|----|----------------------|------|-------------|
| 1676 | 土師質土器 | 小皿 | 7.0 | 1.9 | 4.1 | 長石・金雲母 | 橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ, 底部回転糸切り | 上層 | 100%, PL114 |
| 1677 | 土師質土器 | 小皿 | 7.3 | 1.9 | 4.5 | 長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 体部内・外面ロクロナデ, 底部回転糸切り | 上層 | 100%, PL114 |
| 1680 | 土師質土器 | 小皿 | [6.4] | 1.8 | [4.0] | 石英・長石・金雲母 | 橙 | 普通 | 底部外面スノコ状圧痕 | 上層 | 40% |
| 1510 | 土師質土器 | 内耳鍋 | — | (5.4) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 耳部破片, 耳は扁平 | 上層 | 5%, 外面煤附着 |
| 1509 | 瓦質土器 | 播鉢 | [32.2] | (7.9) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい褐 | 普通 | 9条1単位の播り目 | 上層 | 10%, PL116 |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-----|--------|------|-----|---------|----|--------------------------|------|-------|
| M118 | 椀状滓 | (13.4) | 15.3 | 4.8 | (784.0) | 鉄 | 断面椀形, 着磁性, 表面黒褐色, 底面炉壁附着 | 下層 | PL121 |

| 番号 | 種別 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|-----|-----|--------|-----|-----|---------|----|--------------------------------|------|----|
| W16 | 丸太材 | (22.6) | 3.2 | 2.8 | (118.0) | 木 | 全面に面取り痕あり, 井戸枠の一部カ | 下層 | |
| W17 | 杭 | (16.5) | 5.2 | 4.4 | (209.0) | 木 | 先端部に加工痕あり, スノコ状の付着物あり, 井戸枠の一部カ | 下層 | |
| W18 | 杭 | (13.0) | 4.4 | 4.0 | (78.3) | 木 | 先端部に加工痕あり, 井戸枠の一部カ | 下層 | |

第78号井戸跡（第261図）

位置 調査区中央部5区のE7i0区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.12m、短径1.10mの円形である。円筒状に掘り込まれているが、湧水のため深さ1.8mまでしか確認できなかった。

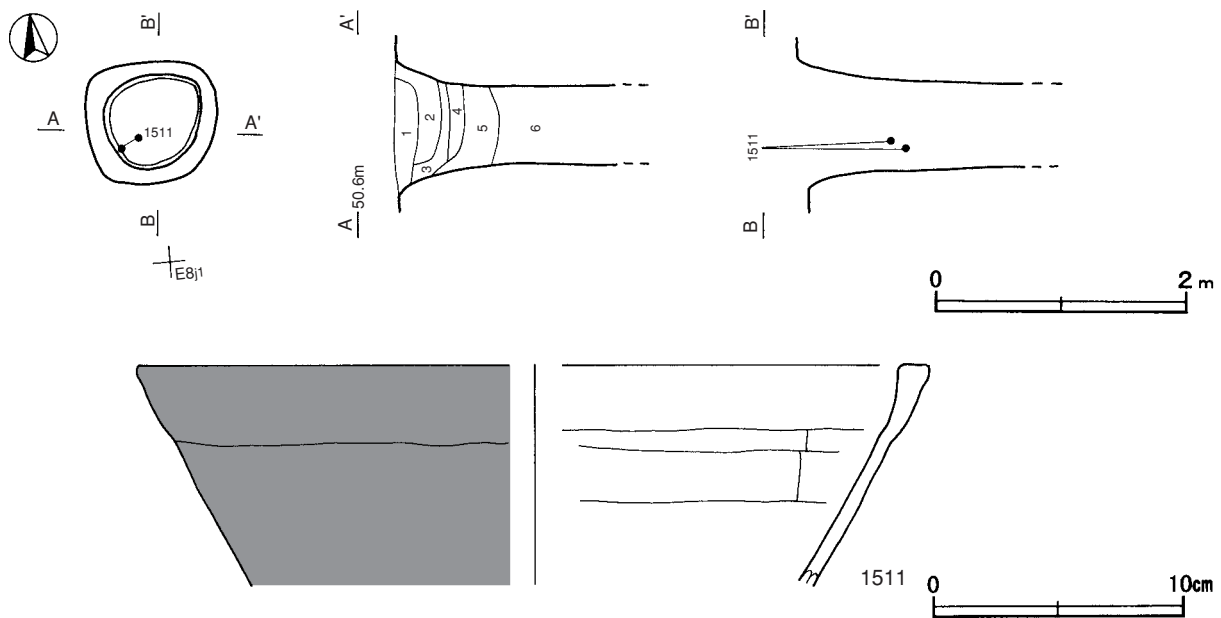
覆土 6層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミスブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量，鹿沼パミスブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 | 5 暗褐色 | 鹿沼パミス少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 | 6 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック少量，ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点（内耳鍋）が出土している。1511は南西部の覆土中層から出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 廃絶時期は、内耳鍋片が出土していることから中世後半もしくは近世と考えられる。15世紀後半と考えられる土坑墓と18世紀前葉に廃絶したと考えられる掘立柱建物跡や溝に近接しており、いずれかの施設に関わるものと考えられる。



第261図 第78号井戸跡・出土遺物実測図

第78号井戸跡出土遺物観察表（第261図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|-----|--------|-------|----|-----------|-------|----|---------------------|------|------------|
| 1511 | 土師質土器 | 内耳鍋 | [31.3] | (8.8) | — | 石英・長石・金雲母 | にぶい赤褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ，体部内面ヘラナデ | 中層 | 5%，体部外面煤附着 |

第80号井戸跡（第262図）

位置 調査区中央部5区のE8f4区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.84m、短径0.80mの円形である。円筒状に掘り込まれているが、湧水のため深さ1.2mまで

しか確認できなかった。

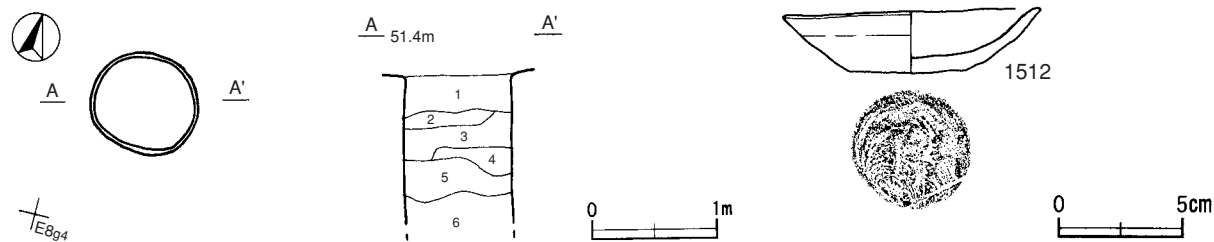
覆土 6層に分層される。ロームブロックや粘土ブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミスブロック中量, 炭化物・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 黒色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, 粘土ブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師質土器片11点（小皿9, 内耳鍋2）が出土している。1512は覆土中からの出土で残存率が高く、破断面が摩滅していないことから投棄されたものと考えられる。

所見 廃絶時期は、出土土器から17世紀前半と考えられる。



第262図 第80号井戸跡・出土遺物実測図

第80号井戸跡出土遺物観察表（第262図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|------|-----|-----|--------|------|----|-------------------------|------|------------|
| 1512 | 土師質土器 | 小皿 | 10.0 | 2.6 | 4.7 | 長石・金雲母 | にぶい橙 | 普通 | 底部内面指ナデ, 底部回転糸切り後, 板状圧痕 | 覆土中 | 60%, PL110 |

第87号井戸跡（第263図）

位置 調査区西部1区のC2c7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第150・162号住居跡, 第54号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.04mの円形である。円筒状に掘り込まれているが、湧水のため深さ1.2mまでしか確認できなかった。

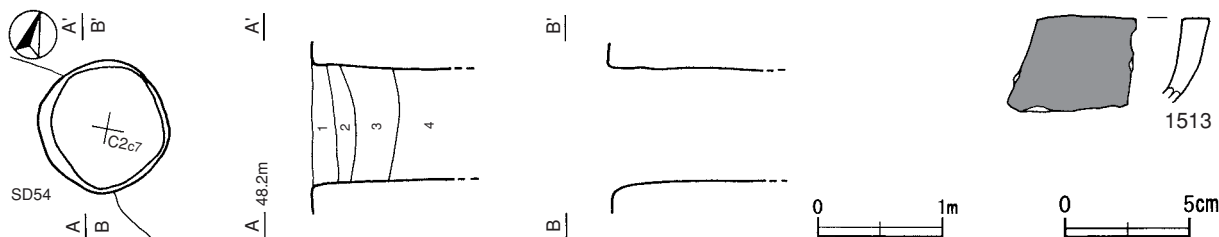
覆土 4層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 黒色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点（焙烙）が出土している。1513は覆土中から出土している。また、混入した弥生土器片・土師器片・須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は、16世紀前葉に廃絶したと考えられる溝跡を掘り込み、焙烙片が出土していることから、近



第263図 第87号井戸跡・出土遺物実測図

世と考えられる。

第87号井戸跡出土遺物観察表（第263図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 色調 | 焼成 | 手法の特徴 | 出土位置 | 備考 |
|------|-------|----|----|-------|----|--------|----|----|------------|------|--------------|
| 1513 | 土師質土器 | 焙烙 | — | (3.4) | — | 長石・白雲母 | 褐 | 普通 | 口縁部内・外面横ナデ | 覆土中 | 5%, 口縁部外面煤附着 |

第91号井戸跡（SK3558）（第264図）

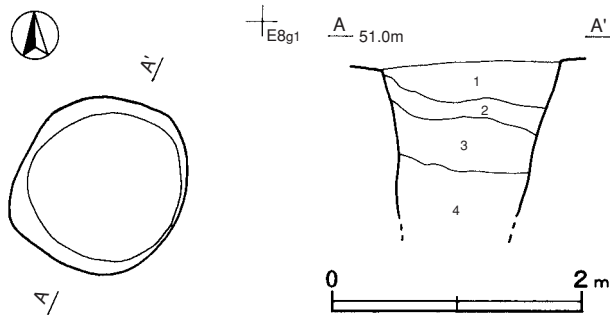
位置 調査区中央部5区のE7g0区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.50m, 短径1.35mの楕円形で、長径方向はN-60°-Eである。円筒状に掘り込まれているが、湧水のため深さ1.2mまでしか確認できなかった。

覆土 4層に分層される。ロームブロックや鹿沼パミスブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量, 鹿沼パミスブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック少量
- 3 明褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック多量, 鹿沼パミスブロック中量



遺物出土状況 土師質土器片1点（内耳鍋）が出土しているが、細片である。

所見 廃絶時期は、内耳鍋片が出土していることから中世後半もしくは近世と考えられる。15世紀後半と考えられる土壙墓と18世紀前葉に廃絶したと考えられる掘立柱建物跡や溝に近接しており、いずれかの施設に関わるものと考えられる。

第264図 第91号井戸跡実測図

表17 中・近世井戸跡一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 | | 断面形 | 覆土 | 出土遺物 | 備考(時期) |
|----|------|---------|------|----------------|--------|-----|----|---------------------|---------------|
| | | | | 長径(軸)×短径(軸)(m) | 深さ(cm) | | | | |
| 71 | E8g5 | N-0° | 不整円形 | 1.40 × 1.36 | (160) | 円筒状 | 人為 | 陶器細片, 瓦質土器 | 17世紀前半~18世紀中葉 |
| 72 | E8h9 | N-18°-W | 楕円形 | 2.30 × 1.86 | (90) | 漏斗状 | 人為 | 土師質土器 | 18世紀前半以前の中・近世 |
| 73 | E7g0 | N-0° | 円形 | 2.40 × 2.22 | (150) | 漏斗状 | 人為 | 土師質土器, 鉄滓 | 近世前半 |
| 74 | E8i5 | N-0° | 楕円形 | 1.04 × 0.88 | (135) | 円筒状 | 人為 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器 | 18世紀中葉 |
| 75 | E8i9 | N-0° | 円形 | 2.04 × 1.98 | (150) | 漏斗状 | 人為 | 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 砥石 | 18世紀中葉 |
| 76 | E8i8 | N-0° | [円形] | (1.46 × 1.46) | (140) | 漏斗状 | 人為 | 土師質土器 | 17世紀前半 |
| 77 | E8i6 | [N-0°] | [円形] | 4.30 × (3.86) | (200) | 漏斗状 | 人為 | 土師質土器, 椀状滓, 丸太材, 杭 | 17世紀中葉 |
| 78 | E7i0 | N-0° | 円形 | 1.12 × 1.10 | (180) | 円筒状 | 人為 | 土師質土器 | 中世後半~近世 |
| 80 | E8f4 | N-0° | 円形 | 0.84 × 0.80 | (120) | 円筒状 | 人為 | 土師質土器 | 17世紀前半 |
| 87 | C2C7 | N-0° | 円形 | 1.04 × 1.04 | (120) | 円筒状 | 人為 | 土師質土器 | 近世 |
| 91 | E7g0 | N-60°-E | 楕円形 | 1.50 × 1.35 | (120) | 円筒状 | 人為 | 土師質土器 | 中世後半~近世 |

茨城県教育財団文化財調査報告第248集

犬田神社前遺跡 2

(上 巻)

北関東自動車道(協和～友部)建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書X

平成17(2005)年3月22日 印刷
平成17(2005)年3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 エリート印刷
〒300-1211 牛久市柏田町3259
TEL 029-873-2231